ホントにやれんのか？ PRIDE再開問題の真相!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WR

enterbrain MOOK

2007
114
880yen

ミスターPRIDEがPRIDEへの思いを語る!!
ヴァンダレイ・シウバ

PRIDEの将軍様がUFCにおなぁ〜りぃ〜!!
マウリシオ・ショーグン

"PRIDE残留宣言"の真意とは!?
吉田秀彦

決断間近!? 日本マット界の命運を握る男!
山本KID徳郁

大好評"変態"シリーズ! オラ、読まねばダメだ!!
船木誠勝座談会

新生チーム・クロコップ
強力布陣で始動!
クロアチア独占潜入

日本の格闘暗黒時代を切り裂く
稲妻よ、走れ!!

復讐するは我にあり!!
9.8 UFC復帰戦迫る!
ミルコ・クロコップ

すべての道はカール・ゴッチに通じる——追悼"神様"!!
アントニオ猪木
ジョシュ・バーネット
ビル・ロビンソン

噂の二人のLOVEトーク!!
武藤敬司×インリン・オブ・ジョイトイ

んあ〜!? K-1ツータイムス王者がミルコと衝撃合体!!
レミー・ボンヤスキー

ガッデ〜ム!! "あの企画"で10年ぶりの本誌登場!
蝶野正洋

ゴー・フォー・ブロック! 男が憧れる男の生き様!
マサ斎藤

kamipro 114 稲妻よ、走れ!!

〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

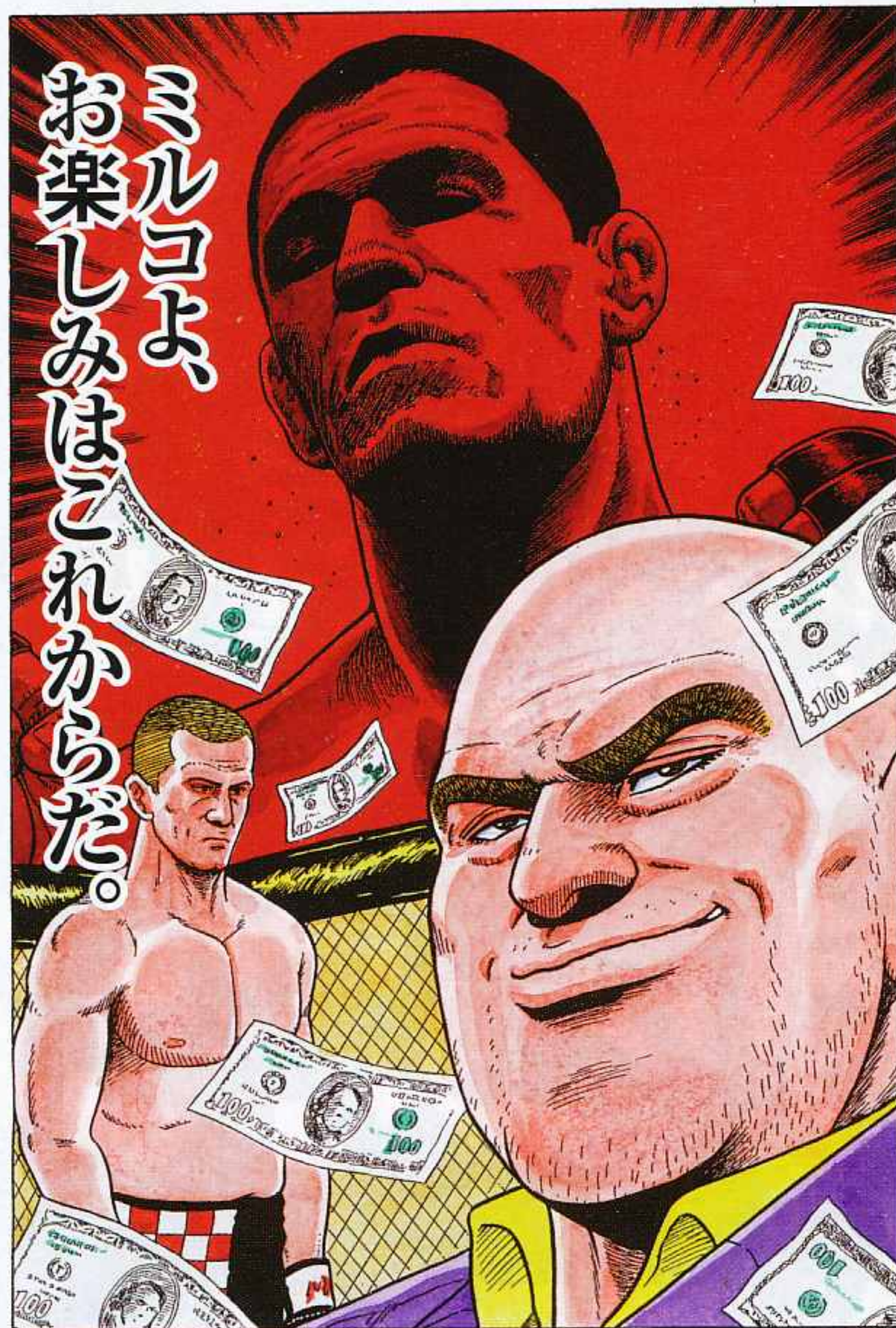
うわ〜ん、うわ〜ん、ダナ・ホワイトの魔の手がまたミルコに襲いかかるよ〜。次号、衝撃の新展開!?

こんなときだからこそ……

イナズマッ!!

（いつかの木村健悟調）

ミルコよ、
お楽しみはこれからだ。

うわ〜ん、うわ〜ん、ダナ・ホワイトの魔の手がまたミルコに襲いかかるよ〜。次号、衝撃の新展開!?

©みのもけんじ

2007 No.114 CONTENTS

kamipro

表紙写真／Josh Hedges（UFC）

MMA

GOD

PRO-WRESTLING

Columns

ゲイラ、今秋再戦!?
sリデルも決戦間近!!
ドが続々実現も……

っ観られない
MAウォーズ

UFCがとんでもないことになっている！ランペイジvsダンヘンなんかは序の口で、ミルコvsノゲイラという世紀の再戦に加えて、ヴァンダレイvsチャック・リデルの因縁清算マッチも実現濃厚！　うわ～ん！　スーパーカードを次々とマッチアップするUFCが見逃せないよ～っ!!　……と、みのもけんじ先生よろしくな原稿を当初は書くつもりだったが、よくよく考えてみると、日本ではまともな視聴方法がないから見逃せないどころか、観られないんだよ！　うわ～ん!!　あんまりだよ～!!

本当に困った。テレビもねえ！　PPVもねえ！　まあ、車はわりと走っているが、1～2年前まで日本が世界の最先端を行く〝格闘技先進国〟だったとはとても思えねえ。吉幾三じゃなくても「おら、こんな国イヤだぁ～！」の世界だ。新生『PRIDE』の不気味な沈黙も手伝って、日本マット界はいつ明けるかもわからない暗闇に覆われている。ミルコvsノゲイラの再戦を思い入れたっぷりに楽しむことができるのは、日本のファンの特権だったはずなのに！　うわ～ん!!　YouTubeなんかじゃガマンできないよ～！

その〝テレビじゃ観られないMMA〟の筆頭格であるUFCは、いまやMMA史上最強のプロモーションへと進化した。なに

ミルコvsノゲイラ、
ヴァンダレイvsデ
スーパーカードが続

テレビじゃ観
世界MMA

しろあの『PRIDE男祭り』の収益を軽く超えるイベントを、ほぼ毎月にわたって開催。これは決しておおげさじゃなく、UFCは毎月が〝大晦日・ふんどし太鼓状態〟なのである。

そうした〝MMAビッグバン〟の流れに乗るべく、UFCに続けと、闇の勢力ボードッグは内部分裂を回避（?）して堅実路線へとシフトチェンジ。手堅くなった大金持ちは厄介だ。一方では、K―1とのつながりも強いストライク・フォースと、元〝PRIDEのアメリカの父〟エド・フィッシュマン翁との接触が話題をさらう。

そして、格闘帝国ロシアでは、ポロニウムな噂がチラホラと――。はたまたアラブの国の王子の微笑みもなんとも不気味だ。いったい世界では何が起こっているのか。〝テレビじゃ観られないMMA〟が日本の現状をぶち破る可能性もある。そんな状況に稲妻を放つのはどこだ?

我々が望んでいる稲妻とは、それをシンボルマークに持つ『PRIDE』待望の再開や、〝PRIDE化〟を図ろうとする『HERO'S』の戦略だけを示しているわけではない。稲妻の暗喩。それは日本マット界の暗闇を切り裂く希望の象徴なのだ。まあ、とにかくなんでもいいからこの飢餓感をなんとかしてくれ！ イナズマッ!!

COP TEAM

新生チーム・クロコップ結成!
ミルコがK-1王者レミーと合体!!

クロアチア現地独占潜入16ページ大特集

ミルコ率いるチーム・クロコップがメンバーを一新!　コーチにイワン・ヒポリット、ディーン・リスター、スパーリングパートナーにはギルバート・アイブル、さらにはK-1ツータイムス王者レミー・ボンヤスキーも加えた、超豪華な布陣に生まれ変わった。この新チームとともにUFCへの逆襲へ動き出したミルコを、本誌はクロアチアで独占取材。全16ページでミルコの"新章"スタートを徹底的にお届けしよう!

CRO
DREAM

ガブリエル・“ナパオン”・ゴンザガ戦の悪夢から4カ月――
ミルコがUFC制覇に本気になった!

復讐準備完了

Ready for the REVENGE to UFC

「新生チーム・クロコップのメンバーはパーフェクト。あとは俺が結果を出すだけだ!」

4.21『UFC70』でガブリエル・ゴンザガにまさかの失神KO負けを喫したミルコが、“リベンジ”とUFC制覇に向けて、ついに本気になった！ クロアチアの自宅ジムにオクタゴンケージを導入、チームのメンバーも一新し、すべての環境を“UFCバージョン”に変え、生まれ変わろうというのだ。9.8『UFC75』でのチーク・コンゴ戦を前にしたミルコをクロアチアの自宅で直撃した！

聞き手&撮影／堀江ガンツ　撮影／Mario Kokotovic

Mirko CRO COP

――試合まで5週間ですけど、体調はどうですか?

ミルコ いいよ。数カ月前に想像していたこの時点の状態より全然いい。モチベーションがそうさせるのか、精神的な部分に肉体的な部分がついてきてるね。

――では、4・21のゴンザガ戦で負傷した右足首の具合もかなりいいわけですか?

ミルコ 足首については、もう一番硬いサンドバッグを蹴っても大丈夫なぐらい回復してるよ。左で蹴るときの軸足としても、まったく問題ない。

――それは安心しました。ゴンザガ戦でグニャリと曲がった足首を見たときは、かなり心配したんですよ。もしかしたら、長期欠場になるんじゃないかって。

ミルコ 確かにみんなにそれは言われる。ネバダのアスレチック・コミッションからも、本当に大丈夫なのかと、いろんな質問をされたよ。でも、このあいだUFCのクルーが撮っていった俺の練習風景の映像を観れば、なんの問題もないってわかるんじゃないか? ケガをしている人間の蹴りには見えないはずさ。

――逆にケガをする前より、足の筋が太くなったようにも感じます。

ミルコ 自分でもそう思うよ。もともと俺の筋肉とか靭帯っていうのは、普通の人間よりも柔軟性があって、ゴムのような弾力性があるとは主治医のドクター・ブーチャンからも言われていたんだ。そのドクター・ブーチャンが想像していたよりも、はるかに治りは早かったんだ。

――主治医も驚く回復力でしたか。

ミルコ そして今回、リハビリについてくれたドクターが、クロアチアのサッカーナショナルチームのコンディショニング専門ドクターでもあるんだけど、彼が作ってくれたメニューで、岩山を毎日駆け上がるという練習があったんだ。岩の上を走ると、どうしても足首をいろんな方向にストレッチすることになる。そのおかげで、心肺機能だけでなく、足首の強化も同時にできたのが大きかったね。

――では、ジムにオクタゴンケージも届いたことですし、あとは試合に向けた実戦練習をしていくだけですね。

ミルコ そうだね。自分のジムにやっと金網が来てくれて、感無量だね。子どもの頃の、ほしかったオモチャがようやく手に入ったときと同じような気分だよ（笑）。

――では、次のチーク・コンゴ戦を前に、あらためて前回のゴンザガ戦について聞いておきたいのですが、あの試合の敗因はどう自己分析されていますか?

ミルコ 前の試合についての質問はもう聞き飽きた。でも、最後に一応言っておくと、相手が強かったんじゃない。相手とUFCでの闘いを甘く見ていた自分が悪かっただけだ。やっぱり心のどこかでUFCヘビー級の連中を見下していたんだ。『PRIDE』でしのぎを削ってきた俺たちからしたら、ルールの違いなんか、たいした問題じゃないと。

レミーが来てくれたことは嬉しいし、彼の応援に会場へ行きたいぐらいだ

――UFCに行って何試合かやれば、自分は自然にチャンピオンになれるもんだ、ぐらいな感じで。

ミルコ そう思ってたね。人生、どこに落とし穴があるかわからないけど、俺の場合はケビン（・ランデルマン）のときもそうだけど、自分で墓穴を掘って、そこに落ちたんだ。ホントにそういう感じだよ。でも、ああいうポカがあったからこそ、逆にUFCのトップに立ちたいって気持ちが強くなった。本気になって、死にもの狂いでUFCの闘いに取り組んでやろうってね。

――その表われが、今回、オクタゴンケージをジムに導入するということであったわけですか?

ミルコ そうだね。ケージの導入は前からマネージャーのケン（今井賢一氏）に言われていたんだけど、俺はべつに自分のジムに持ち込んでまで練習する必要なんてないと思ってたんだ。普段の練習で充分だろうってね。でも、実際UFCに上がってみて、対戦相手にではなく、ケージに囲まれた状況自体にナーバスになる自分がいた。これを克服するためには、毎日ケージの中で自分たちが汗を流しながらぶつかったり、身体を擦りつけたりしながら、免疫をつけていくしかないんじゃないかと思ったんだ。

――ケージに慣れて、ケージを日常にしないと、ゲージに慣れた選手と闘うときは、〃ハンディキャップマッチ〃のようになっちゃいますもんね。

ミルコ そう。いつまで経っても、〃アウェー〃の闘いを強いられるんだ。

――ゴンザガ戦っていうのは、まさにそういう感じだったんじゃないですか?

ミルコ それもあったし、俺が相手をナメていたということもある。彼のこれまでの試合のテープを観たとき、なんの問題もないってハッキリと思っていたからね。

――そのゴンザガが、8月25日の『UFC74』でランディ・クートゥアーの持つUFCヘビー級のタイトルに挑戦しますけど、この試合はどうなると思いますか?

ミルコ ランディに勝ってほしいし、ランディが勝つと思う。確かにゴンザガのほうが身体が大きいし、勢いもあるだろう。でも、たった8戦や9戦しか闘ったことないヤツが、たまたま俺に勝ったからって、ランディに勝てるとは思わない。ランディ・クートゥアーっていうのは、そういう男だと思っているからね。

――でも、ランディはこれまでけっこうグラップラーに一本負けしてるんですよね。

ミルコの自宅リビングには、内戦で戦死した父の肖像画とともに、一番目立つ場所にPRIDE無差別級GPのチャンピオンベルトが誇らしげに飾られていた。ミルコにとってこのベルトはいまも“誇り”なのだろう。

Ready for the REVENGE to UFC Mirko CRO COP

ゴンザガは柔術の世界王者、寝技に持ち込まれたらヤバいんじゃないですか？

ミルコ　確かにランディは何試合か一本負けしているけど、（ランディがかつて敗れた）ジョシュ（・バーネット）やリコ（・ロドリゲス）はゴンザガより身体が大きいし、ゴンザガより経験もあった。なんだか今度の試合は「ゴンザガ有利」っていう人が多いみたいだけど、たまたま俺に勝ったからって、彼は過大評価されてるんじゃないか？

——では、ゴンザガと再戦が実現したら、今後は勝つ自信がある、と。

ミルコ　もちろん。そのためにジムにオクタゴンケージも導入したし、チームのメンバーだって一新したんだからね。

——今回、新たに編成した新生チーム・クロコップについてはいかがですか？

ミルコ　パーフェクト。申し分のないメンバーだよ。ケンも、よくこれだけのメンバーを集めてくれた。彼の格闘技界でのコネクションの広さがよく表われている。俺もここまでお膳立てしてもらったら、あとは自分で結果を出すしかないよ。

——レミー・ボンヤスキーと会うのはひさしぶりだったんじゃないですか？

ミルコ　そうだね。レミーが来てくれたのは嬉しいよ。彼のお母さんが亡くなったって聞いていたから、それはホントに気の毒だし、彼が落ち込んでいるんじゃないかと心配していたんだ。ここ最近は、K—1でもあまりいい結果が残せていないようだしね。

——レミーという選手をミルコさんはどのように評価していますか？

ミルコ　俺が結局獲れなかった、K—1の一日3試合勝たねばならないトーナメントを二度も制しているんだから、その事実についてはリスペクト以外の何ものでもないよ。俺は……02年だったかな、まだルーキーだったレミーとK—1のリングで闘ったことがあって、そのときは俺のTKO勝ちだったけど、彼の身体能力とキックのセンスを体感してみて、「こいつは強くなるだろうな」とは思っていたからね。そのレミーがクロアチアまで来て、俺のキャンプに参加してくれるんだから、光栄だし、ありがたいよ。

——でも、相手がK—1チャンピオンといえども、立ち技のスパーリングで負ける気はしないんじゃないですか？

ミルコ　もちろん。俺だってやられるつもりはないよ。ただ、たとえ打ち負かされるかもしれなくても、それは恐れていない。俺にとっては、ここまでレベルの高い立ち技のスパーリングパートナーが来てくれたのはひさしぶりだから、逆に俺をとことん苦しめてほしいとすら思っているよ。

——そうですよね。そうじゃなかったら、スパーリングパートナーとして来てもらう意味もないというか。

ミルコ　そう。ギルバート（・アイブル）にしても、チーク・コンゴをKOしている男だからね。ヤツの荒々しい打撃は嫌いじゃない。レミーとギルバートだったら、練習相手として申し分ないよ。あと、とくにレミーはK—1 WORLD GP開幕戦を控えた大事な時期に来てくれたわけだから、レミーはレミーでチーム・クロコップのキャンプに参加したことを、K—1のリングで絶対に活かしてほしい。今年のGPは、彼にとっても復活しなきゃいけない大事な大会だろうしね。チャンスがあったら、俺も彼の応援に駆けつけたいくらいだよ。

——打撃コーチに、イワン・ヒポリット

がついたことについてはどうですか？

ミルコ　レミーやギルバートを連れてきてくれたのがイワンなんだ。

――二人はイワンの門下生なんですよね？

ミルコ　そう。そして彼がどれぐらいコーチとして優れているかといえば、あのアーネスト・ホーストを育てた男だというだけで充分、理解してもらえると思う。そして、キックボクサーとしても、どれだけ凄い男かということは、ヨーロッパのキックボクシングを知っている人間なら誰でも知っていることだ。

――90年代前半には、中量級世界最強の名をほしいままにした名選手ですもんね。

ミルコ　俺だって昔、ブランコ（・シカティック）に連れられて、チャクリキに合宿に行ったとき、オランダでイワン・ヒポリットというキックボクサーがどれだけ凄い男なのか、肌で感じているからね。普通なら、イワンに打撃を習いたかったら、オランダまで足を運ぶのがあたりまえなのに、オクタゴンで練習しなければならない俺のために、逆にイワンのほうがクロアチアまで来てくれるのだから、こんなにありがたいことはないよ。

――ヒポリットからは、どのような点を一番学びたいですか？

ミルコ　俺の打撃のすべてをチェックしてほしいと思っている。キックボクシング（K―1）のリングから何年も離れている俺の打撃を、もう一度磨き直して、ワンランク上にもっていきたい。それにUFCではヒジが許されているのだから、立ち技のヒジを学ぶには、イワンはうってつけだとも言えるしね。

――オランダのキックボクシングはヒジありのムエタイルールですし、イワンは現役時代、本場タイでも活躍してるぐらいですもんね。

ミルコ　ムエタイには俺でも知らない細かい技術がまだまだたくさんあると思う。イワンがせっかく来てくれたんだから、それを一つでも多く自分のものにしたい。俺にとって、本当の意味で自分を追い込んでくれるコーチがつくのは、本当にひさしぶりだからね（笑）。

――いままでのコーチはそうではなかったわけですか？

ミルコ　基本的には、コーチといってもイワンのような圧倒的な実績に裏づけられたコーチはクロアチアにはいないし、たとえばファブリシオにしてもコーチというよりはスパーリングパートナーを兼ねたチームメートだ。グラウンドでは教えてもらうけど、実際には試合に向けて俺のほうが伝授することは多いわけだからね。イワンは純粋にトレーナーであり、ある意味、試合の戦略面から技術まで指導してもらう師匠でもある。俺には誰一人、そういう人がいないまま、今日までやってきたからね。人間的にも素晴らしい男だから、これからずっとレミーだけではなく俺の面倒も見てもらいたいと心から思っている。

――ミルコさんがそこまで信頼を置く人物が、イワン・ヒポリットなわけですね。そしてもう一人、グラウンドのコーチ兼スパーリングパートナー、ディーン・リスターについてはいかがですか？

ミルコ　素晴らしい技術だけではなく、非常に理論的でインストラクターとしても申し分ないよ。ファブリシオ・ヴェウドゥムに習っていた頃は、言葉が通じないから皮膚感覚だけで、貪欲に吸収してきたけど、ここからはやはり、言葉でも理論的に、物理的になぜこういう角度が正しいのかなんてことも教えていってもらいたいね。

Ready for the REVENGE to UFC Mirko CRO COP

イワン・ヒポリットは俺がひさしぶりに“師匠”と呼べるほどの男なんだ

――ファブリシオとは、言葉が通じない中、一緒に練習していたんですか。

ミルコ　ファブリシオは英語があまりしゃべれないからね。その点、ディーンはもちろん言葉は問題ないし、グランドのヒジも非常にうまいし、人間的にもしっかりしている男だ。時間が許すかぎりクロアチアにいてもらいたいね。

――では、9・8『UFC75』ロンドン大会でのミルコ選手の復帰戦の相手が、チーク・コンゴに決まりましたけど、この選手についてはどう評価していますか？

ミルコ　俺より身体が大きいし、もともとキックボクサーだから、おそらく打撃勝負になるんじゃないか？　あえて打ち合ってもいいし、俺の打撃から、流れてグラウンドにいくのであれば、俺が身につけたものを存分に見せるよ。

――チーク・コンゴはいま、ミルコさんとも仲がいい、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンのところで練習しているらしいですね？

ミルコ　俺もそれは聞いている。ランペイジがチャック・リデルと闘う前の、打撃のスパーリングパートナーをコンゴが務めたんだろう。でもランペイジたちと練習したからって、俺に勝てると思ったら甘いんじゃないかな。まぁ、9月8日にしっかりと答えを出すよ。

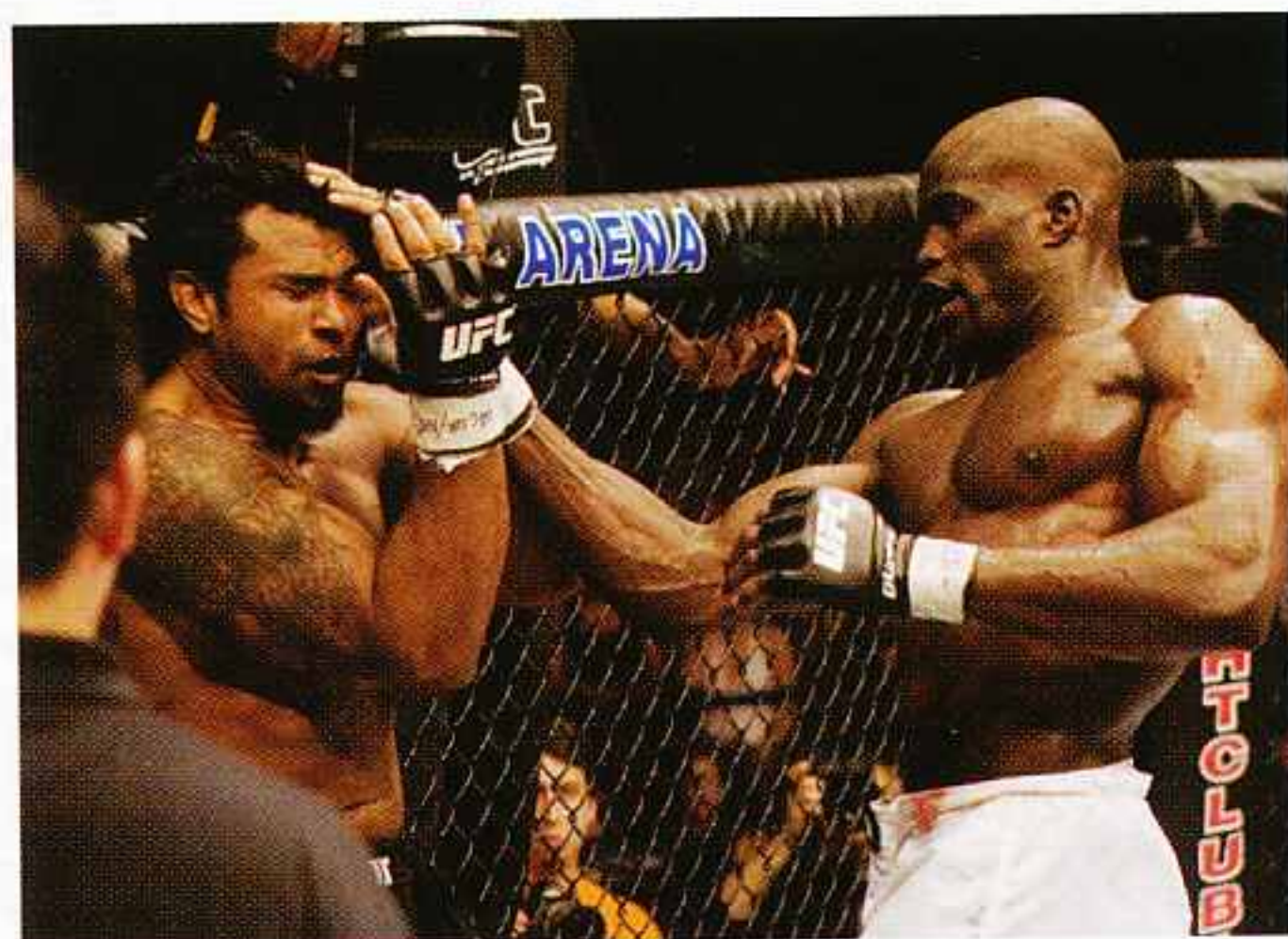
――この一戦に勝利したら、次はあのノゲイラと闘わせたいとダナ（・ホワイト＝UFC代表）は言っていますけど。

ミルコ　ケンが「9月の試合に勝ったら、次はゴンザガかノゲイラとリベンジマッチをやりたい」ってダナに言ったらしいね。でも、俺は試合前にその次のことを考えるのはやめているから、チーク・コンゴ戦以外については考えていない。

――ノゲイラのUFCデビュー戦の映像は、ご覧になりましたか？

ミルコ　結果やだいたいの内容は聞いているけど、まだ観てないんだ。ようやくDVDが届いたんで、じっくり観てみようと思う。感想はそれからだな。

――ノゲイラがUFC来たことについては、どう感じていますか？

ミルコ　彼が俺と同じ戦場に来てくれたことは嬉しいよ。とにかくノゲイラというのは、俺にとって最初で最後のタップアウト負けを喫した相手だからね。彼がUFCに来たことによって、その借りを返

右が9.8『UFC75』でミルコと闘うチーク・コンゴ。手足の長さと鍛え抜かれた肉体が特徴のストライカーだ。4月の『UFC70』ではアスエリオ・シウバも下している実力者だけに、侮れない相手と言える。

これが新生チーム・クロコップのメンバー。K-1王者レミー、K-3王者ヒポリット、アブダビ王者リスター、リングス王者アイブルが揃ったまさにドリームチーム。ミルコの向かって左後ろにいるのは、ミルコの愛弟子イゴール・ボクラヤッツだ。

せる機会ができるのなら嬉しい。
――あらゆる機会で、ミルコさんが腕十字を極められるシーンが繰り返し流されてるわけですからね。
ミルコ　あの試合は最後にグラウンドに持ち込まれるまで、ほとんど俺のワンサイドゲームだったんだ。それをひっくり返されたことで、柔術の奥深さやグラウンドの恐ろしさをあらためて知った。あそこから俺は本格的にグラウンドのトレーニングに取り組むことになったわけだから、俺にとって必要な経験だったんだと、いまは思っている。ただ、負けたままで平然としていられるほど、俺はお人好しじゃないよ（ニヤリ）。
――ぜひ、チーク・コンゴに完勝して、ノゲイラとの再戦が実現することを期待しています！　そういったノゲイラ戦をはじめとした、数々の激闘を展開してきた『PRIDE』が、いま開催不能な状況になっています。ミルコさんはいまの『PRIDE』の現状をどう思っていますか？
ミルコ　俺はいま『PRIDE』がどうなっているのか、人づてに聞くだけだけど、選手がどんどん離れていて、大会も開かれていないというのは、やはり寂しいよね。だからといって俺の部屋に飾ってある（PRIDE無差別級GPの）ベルトが色あせるわけでもないから。あのベルトは間違いなく、あの時点での世界最強の称号だったわけだからね。ただやはり、3年半ものあいだ俺が命を削って闘っていたあの場所、とくにオープニングの音楽が鳴ってから始まるあの『PRIDE』のすべてを思い出すと、とても寂しい。
――ミルコさんが無差別級GPで優勝してから、まだ1年も経っていないのに、これだけ状況が変わってしまったわけですからね。
ミルコ　それだけUFCが急激に巨大化したってことなんだろうな。
――UFCヘビー級戦線もいつのまにか、かつてのPRIDEヘビー級戦線並みの選手層の厚さになってますしね。
ミルコ　そうだね。ただ、〝あの男〟がいないんだから、まだかつてのPRIDEヘビー級戦線ほどじゃないんじゃないか？
――エメリヤーエンコ・ヒョードルがいないうちは、〝世界最高峰〟とはまだ言えない、と。
ミルコ　言っておくけど、俺が本当に完敗を喫したと思っている相手はヒョードルだけだから。あとの試合は、言い訳するわけじゃないが、実力で自分が劣っていたとは思っていない。その彼が俺やノゲイラがいる戦場にいないというのは……不思議な感じがするね。まぁ、彼には彼の考えがあるんだろう。でも、いつかきっとまた、どこかで相対する日が来るんじゃないかとは思っているよ。

MIRKO CRO COP■1974年9月10日、クロアチア出身。96年にK-1に初来日。01年に総合デビュー。03年からは主戦場を『PRIDE』に移し、ヒョードル、ノゲイラとともに「ヘビー級三強」の名をほしいままにする。06年にPRIDE無差別級GPに優勝。同年12月30日、UFCに電撃参戦を発表した。188cm、100.4kg。

Ready for the REVENGE to UFC Mirko CRO COP

俺が命を削って闘っていた『PRIDE』の現状を聞くととにかく寂しいよ

――もう一度、ヒョードルと闘うまでは、グローブを置けませんよね。
ミルコ　でも、いまは先のことを考えているときじゃない。次のロンドンで、俺はチーク・コンゴに勝つ。それも圧倒的に勝つ。いまの俺に必要なのはそれだけだ。
――そのミルコさんの復帰戦が、いま日本ではテレビですら観られない状況なんですよ。
ミルコ　そうらしいね。K―1時代からずっと俺を支えてくれた日本のファンが、俺の闘いを観られないなんて、そんな馬鹿げた状況は誰かが早急に改善しなきゃいけないことだよ。でも、いまそんなことを言っても始まらないから、キミは雑誌を通じて、いまのミルコ・クロコップというものをしっかり伝えてほしい。
――それはもちろん、ガッチリと伝えさせてもらいます！
ミルコ　次のチーク・コンゴ戦は、初めて〝UFC用〟のトレーニングを積んだ、〝UFCバージョン〟のミルコ・クロコップが見られるんだ。これが本当の意味で、俺のUFCデビュー戦なんじゃないかな。これにしっかり勝って、ひさしぶりに東京へ遊びに行きたいね。
――そんな計画があるんですか？
ミルコ　うん。ケンがいろいろ考えているようだし、日本に行った時期にK―1のイベントがあるなら、レミーを送ってくれたお礼に、会場に顔を出すのもいいだろう。日本のファンと再会できたらいいな、と思っているよ。
――わかりました。では、9・8『UFC75』でのコンゴ戦、期待してます！

【07年8月8日／クロアチア・ミルコの自宅にて収録】

ミルコの取材に行く途中 RTTパコージン総監督と遭遇！

今回のクロアチア取材に行く途中、トランジットでドイツ・フランクフルトの空港に立ち寄った際、どこかで見た顔がいると思ったら、なんとロシアン・トップチームのパコージン総監督と遭遇！ なんでもパコージンさんは、サンボの大会でカラカス（ベネズエラ）を訪れ、これからモスクワに帰る途中だという。せっかくなのでRTTの現状について聞いてみると、「PRIDEは〝まだ死んでない〟と聞いているんで、いまは待っているところ。ハリトーノフはいまボクシングとレスリングの練習に力を入れているし、アターエフもモスクワに引っ越して練習している。『HERO'S』？ どうなるかわからないね」との答えが返ってきた。ハリトーノフの流出もささやかれる中、RTTはどうなるのか？ 次号ではさらなるロシア情報をお届けする予定だ。

“元祖ミスター・パーフェクト”が語る“ストライカー”ミルコの現状と課題

イワン・ヒポリット

「ミルコが失なった打撃能力を私の力でよみがえらせるよ」

今回の新生チーム・クロコップで“核”となっている存在が、打撃コーチのヒポリットだ。アーネスト・ホーストの師匠として知られ、“元祖ミスター・パーフェクト”と呼ばれる男は、ミルコの現状と課題をどう分析し、どう変えていくのか？　今回のプロジェクトの鍵を握るのは、ズバリこの男だ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／Mario Kokotovic

Ivan Hippolyte

――今回、ミルコ陣営からコーチの要請があったときどう感じましたか？

イワン　驚いたよ。だってミルコとのコンタクト自体、ひさしぶりのことだったし、なんたってK―1と『PRIDE』はこれまで敵対していたからね。そんなことちょっと昔なら考えられなかっただろう。でも、『PRIDE』がこういうことになってしまっていて、ミルコ陣営がミルコのためのスパーリングパートナーを探しているというのは聞いていたから、もしかすると声がかかるかもと思っていた。そういう意味では、驚かなかったね。

――クロアチアに来て、ミルコの練習を見て、どう思いましたか？

イワン　ミルコはグレートファイターだよ。強い精神力を持っている。だけどストライキングの能力について言えば、正直、K―1時代の頃より、キックボクシングの精度が落ちている。MMAでは、近づいてきた相手とは組み合うし、テイクダウンを防いだり、倒したりしないといけないのだから、それはあたりまえだけどね。

――こと純粋に打撃だけに関して言えば、ミルコのストライキングは4年間で錆びついていた、と？

イワン　そうだね。それはミルコ本人も気づいていることだよ。ミルコと話したらそういう話をしていた。「ずっとストライキング能力がもっと必要だと試合を通じて感じていた」とね。実際、K―1の頃と比べると、打撃の能力は50パーセント、いや20パーセントぐらいしかないかもしれない。ただ、私が言っているのは、それはキックボクシングの打撃のことであって、MMAでのミルコの打撃は素晴らしいよ。打撃を打って、組みついてという一連の動作はね。ただMMAをやっていると、キックボクシングの細かい技術を忘れてしまうんだ。それをもう一度、身につけさせないとね。

――ミルコは9月の試合まであと4週間ですが、どんなトレーニングを課していますか？

イワン　実際、あと練習できる期間は3週間しかない。その短い時間でミルコを変えることはできないんだ。

――変わりませんか？

イワン　根本から変えようとすると時間がかかるし、いまの彼のスタイルを変えて作り直すのは、いいことではないよ。だからまずやらないといけないことは、第一にスタンドでの闘いのレベルを上げさせること。それと、心肺機能を上げてコンディショニングを万全にすることだね。

――具体的に言うと？

イワン　スタンドについては、とにかくトップファイターと繰り返し、スパーリングをして、パンチを交換することだ。だから今回、レミー・ボンヤスキーやギルバート・アイブルを連れてきた。彼らと激しい練習を積ませないとね。そして、コンディショニングについて言えば、ミルコはこれまでトレーナーをつけずに自分で練習してきたんだ。だからこれまで、コーチに追い込まれて練習したことがない。「走れ、あれやれ、これやれ、こいつとスパーしろ！」ってね。

――逆に言うと、ミルコは自分で自分を追い込むだけで、あそこまでの実力を身につけたってことですよね？

イワン　そう。それがミルコの凄いところだ。しかし、さらに上のレベルを目指すなら、自分の眠っている能力をもっと呼び起こすなら、第三者のコーチによるさらなる追い込みが必要になる。そうやって、追い詰めて、追い詰めて、ミルコを追い込んでいかないと、彼のスタミナとコンディションは上がらないからね。そして、どんなに打撃の強い選手でも、スタミナが続かない選手は最後にKOされることになる。どんなに素晴らしいストライキング能力を身につけていても、エネルギーが切れてしまうと、意味がないだろう。

――『PRIDE』でのヒョードル戦では、最終ラウンドで、体力を消耗して、動きが別人のようになっていましたよね。

イワン　だから、ミルコを変えるのではなく、スタンド、タックルを切ること、グラウンドへの移行、すべてにおいて磨きをかけて、かつスタミナを上げてようとしているんだ。とにかく、これまではコーチのプレッシャーの下でトレーニングをすることに慣れさせるための練習をさせてきた。今週からは、もっと打撃スパーの頻度を増やしていくよ。

――UFCではどんな打撃が有効だと思いますか？

イワン　みんなエルボーが大事で、スタンドでもグラウンドでもその使い方について話しているけど、さっきも言ったように、コンディショニングのほうが大事なんだ。それを打つため、打たれないために動く体力がね。その体力があってはじめて、身につけてきた技術を出すことができる。

――次のチーク・コンゴを倒すためのどんな作戦を与えるつもりですか？

イワン　まずコンゴについて言えば、非常に強い選手だ。でかいし、リーチも長い。そしてキックボクシングの能力も高い。

――簡単な相手ではない、と。

イワン　そうだね。ミルコには、距離を詰めて中に入って打撃を打つようにさせるよ。

――インファイトでいくわけですね。

イワン　そして中に入れば、テイクダウンしてもいい。テイクダウンの練習はたくさん積んでいるし、いまの彼のレベルだと、グラウンドでも勝てると思うからね。

――ミルコがテイクダウンにいきますか！

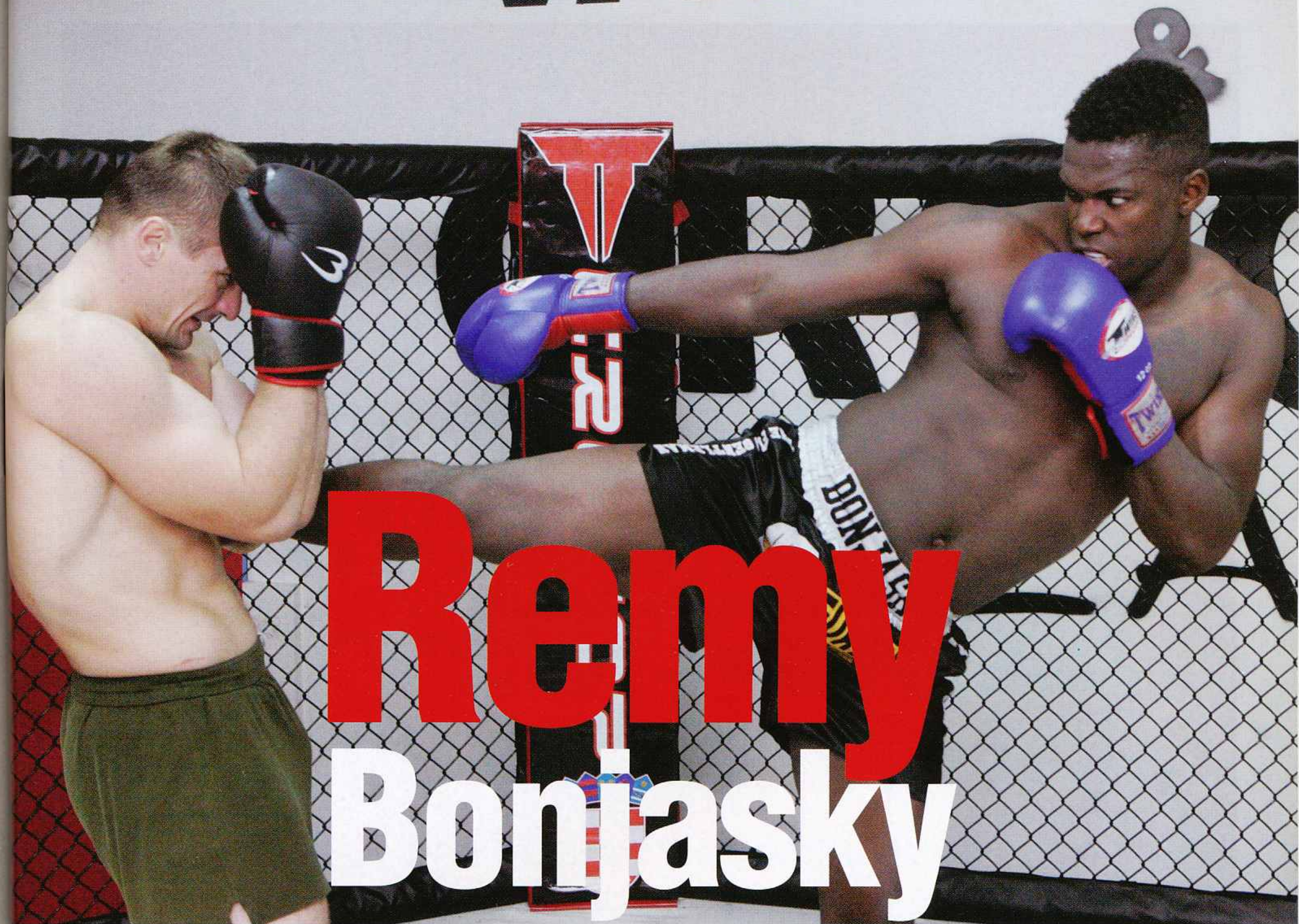
イワン　ああ、彼の寝技は強いよ。コンゴだったらパウンドでKOすることも、サブミッションで一本勝ちすることもできるんじゃないか。

――ロンドンではセコンドにつきますか？

イワン　もちろん！　彼の試合をサポートできることを楽しみにしているよ。

【07年8月9日／クロアチア・ザグレブ市内ホテルにて収録】

IVAN HIPPOLYTE■1964年オランダ出身。ラモン・デッカー、ライアン・シムソンらと並ぶ、オランダ中量級史上に残る名キックボクサー。90年代前半は中量級世界最強の名をほしいままにし、本場タイでも活躍。日本では94年『K―3グランプリ』で金泰泳を破り優勝。コーチとしてもアーネスト・ホーストを育てた手腕は高く評価されている。178センチ、73キロ（現役時代）。

Remy Bonjasky

K-1ツータイムス王者が見たミルコ・クロコップ

レミー・ボンヤスキー

「PRIDE GP王者とK-1 GP王者の合体は双方にとって大きな力になるよ」

今回の新生チーム・クロコップのプロジェクトにおいて、サプライズといえば、K-1ツータイムス王者、レミー・ボンヤスキーの参加だろう。少し前なら考えられなかったPRIDE GP王者とK-1 GP王者による夢の合体。レミーはどんな思いでこのキャンプに参加し、ミルコをどう評価しているのか？　キャンプ参加4日目のレミーを直撃した。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／Mario Kokotovic

――今回、ミルコのキャンプに参加することになったいきさつを教えてください。

レミー　イワン（・ヒポリット）からミルコのトレーニングパートナーにならないかと打診されたんだ。ミルコとトレーニングできるのは刺激になるし、おもしろそうだった。それにもともと昔からMMAには興味があったから、もちろん二つ返事で了解したよ。

――実際にクロアチアで練習してみて、どう感じました？

レミー　ミルコが相変わらず強いファイターだってことを実感したよ。彼とは以前闘ったこともあったけど、本当にナイスガイだった。

――今回が初めてのミルコとのトレーニングなんですよね？

レミー　そうだよ。彼とトレーニングするのも初めてだし、クロアチアに来たのも初めてさ。

――ミルコとはどんな話をしましたか？

レミー　なんでもさ。たとえば、お互いの試合のこととか、家族のことかね。話してみて、いいヤツだということがわかったよ。彼のことは尊敬しているんだ。K－1を離れてから『PRIDE』で素晴らしい試合をして、GPチャンピオンにもなった。そしていま、UFCで大きなチャレンジをしようとしている。彼は新章を迎えようとしているんだ。そんな男との会話はすべて意義深いものだったよ。

――その中でもとくにどの話が印象に残っていますか？

レミー　う～ん、印象に残っているというわけではないけど、俺との関連で言えば、02年だったかな、彼が俺と

ミルコのことは尊敬している。K—1からPRIDE王者になった彼の挑戦はずっと心の中で応援していたんだ

闘ったとき、クロアチアにいた奥さんから「妊娠が発覚した」って連絡を受けたって言ってたね。

—つまり、それで試合に集中できてなかった、と？

レミー　いいや、そんなことはないよ。彼は試合に集中していたよ。だって俺に勝ったんだから（笑）。

—それもそうですね（笑）。ミルコは現在MMAファイターですけど、ミルコとのスパーリングはK—1のトレーニングにも役に立ちますか？

レミー　もちろん。彼はMMAファイターだけど、なんでもできる選手。ストライキング能力は高いし、パワーもあって、スタミナもある。こっちにとっても豪華なスパーリング相手だよ。

—ミルコのここ3〜4年の活躍をどう感じていましたか？

レミー　さっきも言ったけど、彼の活躍は素晴らしかった。試合は観ていたし、彼の挑戦を心の中でサポートしてきたつもりだよ。

—先ほど、MMAに興味があったということでしたけど、K—1では、ジェロム・レ・バンナ、ピーター・アーツ、レイ・セフォーなどトップファイターがMMAを経験していますが、レミーさんにはオファーはなかったんでしたか？

レミー　いや、俺にはなかったよ。俺はK—1の王者でもあったし、そのためのトレーニングに集中していたからね。一時期、MMAの練習をしたことはあるから、試合に出られるぐらいレベルアップすれば闘いたいけど、まだまだ納得はしてないね。

—もし今後、MMAに出るとしたら、出たい団体とか、もしくはどの国で闘いといった希望はありますか？

レミー　フフフ。そういう質問は困るなぁ（笑）。いま、俺にはK—1との契約が残ってるからね。今年のGPを制するのが当面の目標だよ。でも何が起こるかわからないのがこのビジネスだからね。

—レミー選手はここ数年、本来の実力が発揮できていないように感じましたけど、それは何が原因だったと自己分析していますか？

レミー　それはパーソナルなことなんだけど、妻と離婚したことやトレーナーと別れてしまったことが大きいと感じているんだ。

—精神的なものだと。

レミー　そう。まったくもってね。妻とは正式には06年に離婚したんだけど、05年にはもううまくいかなくなっていて、別れよう、なんて話していたんだ。そんな状況だったから、トレーニングにも打ち込めなかった……。俺が試合やトレーニングで世界中をバタバタと飛び回っていたことで、彼女とすれ違うようになってしまったことが原因なんだ。

—ファイターの世界ではよく聞く話ですよね。

レミー　（ため息をつきながら）なんだか、そうらしいね。

—トレーナーとはどうして離れることになったんですか？

レミー　彼はいいトレーナーだった。でも、俺はこれまでやってきたこと以上のものを求めたんだ。俺はもっとボクシングの練習をやりたいと思ったりね。そこで、彼のトレーニング方針と意見が合わなくなって、衝突するようになった。あとは、お金のことも絡んでくる話なんだけど……。

—なるほど。

レミー　でも、いまの俺は違うよ。トレーニングに集中できているし、コンディションもいいからね。

—3度目のK—1制覇のためにどんな部分を強くしていきたいですか？

レミー　それはさっきも言ったように、パンチだね。ヒザとキックに関しては自信がある。でもK—1で勝つためにはパンチをもっと強くしないといけない。そのためにイワンとトレーニングを積んできたんだ。

—K—1で優勝するための最大のライバルは、やはりセーム・シュルトになりますか？

レミー　そうだね。彼は本当にでかくて、誰にとっても闘いにくいファイター。あのリーチはそれだけで脅威だからね。

—得意のハイキックもなかなか届かない高さですよね。

レミー　届かないよ。俺は2メートル4センチまではハイキックが届くんだけど、彼は2メートル10センチあるからね。俺のために傾いてくれたら当たるけどさ（笑）。

—そんなシュルトを倒すにはどうすればいいと思いますか？

レミー　とにかくプレシャーをかけて距離を潰すことかな。それしかないね。そしてフルラウンド動けるように体力をつけておくこと。

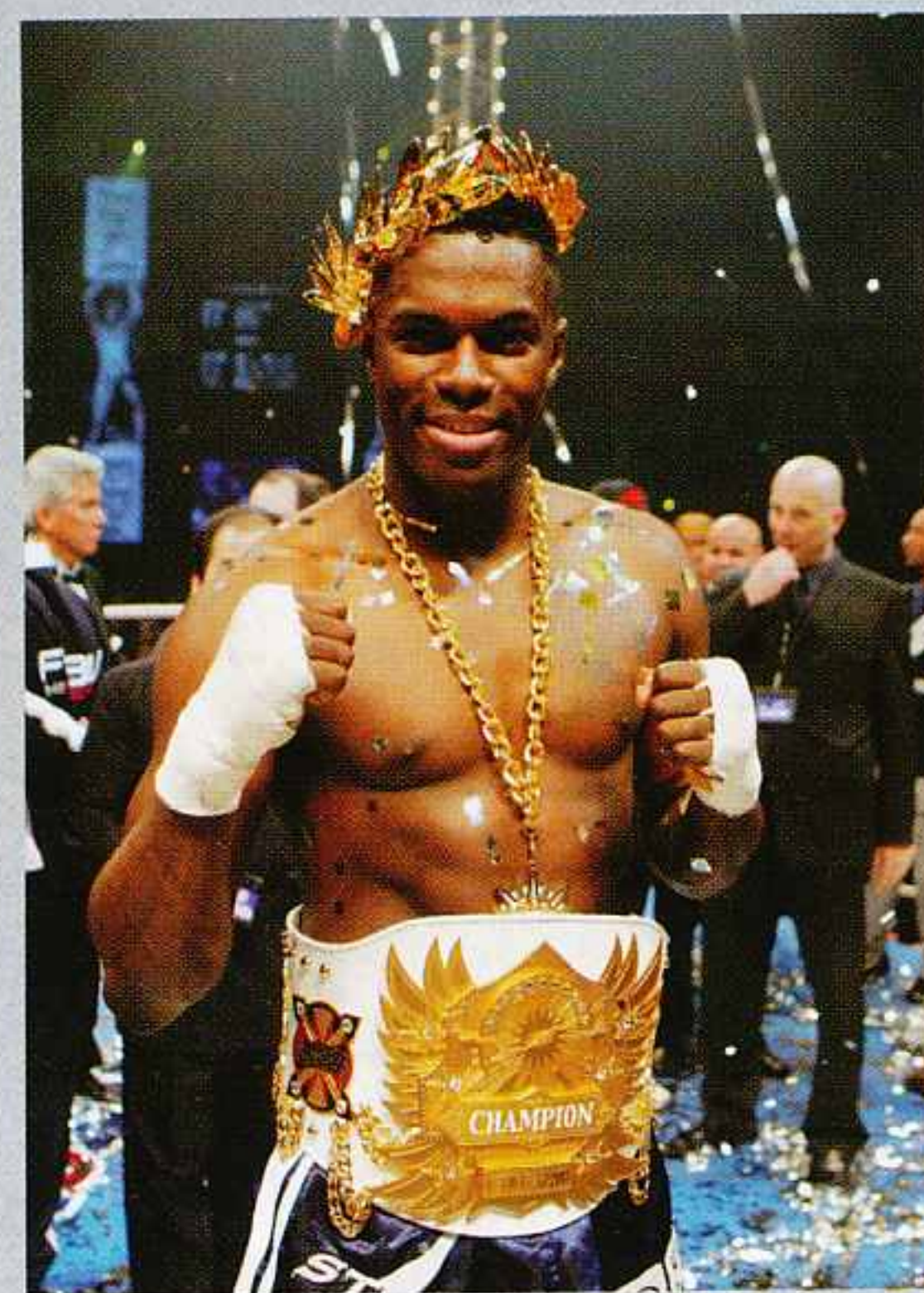
—ところで、ジェロムに勝った日本の澤屋敷（純一）選手をどう評価していますか？　日本では武蔵の次のエースとして期待されているんですけど。

レミー　サワヤシキ？　彼のことはよく知らないからなんとも言えないけど、ジェロムに勝ったからといって、俺に勝てるということは意味しないよね。第一、俺とジェロムはファイトスタイルが違うからね。

—比べてくれるな、と？

レミー　そうだね。まだまだ俺のライバルにはなれないし、眼中にないね。とにかく今年は、セーム・シュルトを倒して、3度目のK—1 WORLD GPを制覇するよ！

【07年8月9日／クロアチア・ザグレブ市内のホテルにて収録】

02年7月14日、K-1福岡大会で一度対戦しているミルコとレミー。このときはミルコの2ラウンドTKO勝ちだったが、レミーも蹴り技を中心に善戦し、注目された。

02年、03年とK-1 WORLD GPを連覇したが、05年のGP準決勝でセーム・シュルトに敗れてから、本来の力を発揮できていない。今年は復活なるか!?

REMY BONJASKY■1976年1月10日、オランダ出身。元銀行員という異色の経歴を持つキックボクサー。高い身体能力を活かした飛びヒザ蹴りなどを武器に、K—1 WORLD GPを03年、04年と連覇。今年、3年ぶりの優勝が期待される。192センチ、103キロ。

ミルコ全権代理人・今井賢一氏が語る

新生チーム・クロコップ結成秘話

「ミルコにとって“故郷”であるK-1への“恩返し”も考えています」

PRIDE GP王者とK-1 GP王者の合体はいかにして実現したか——?

今回のチーム・クロコップ再編プロジェクトの“仕掛人”として、ジムへのオクタゴンケージ導入、新メンバーの招集などで、実際に動いたのがおなじみ、ミルコの全権代理人・今井賢一氏だ。はたしてどんないきさつで今回のプロジェクトは動いたのか、そしてPRIDE GP王者とK-1 GP王者の合体はどうやって実現したのか、新チーム結成秘話を聞いてみた。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／Mario Kokotovic

——今日はチーム・クロコップの再編と、ジムへのオクタゴンケージ導入のいきさつについてうかがっていきたいと思います。この二つの新たなプロジェクトは、同時進行だったわけですか？

今井　そうですね。とにかくマンチエスターでの残酷な結果（4・21『UFC70』でミルコがガブリエル・ゴンザガにKO負け）を踏まえて再出発するには、まずミルコのジムにオクタゴンケージを導入すること。そして、トレーニングパートナーをUFCルール、さらには次の対戦相手（チーク・コンゴ）対策を想定したメンバーに一新すること。それが最優先課題でしたね。

——練習環境のすべてを〝UFC用〟に変えることが急務だ、と。

今井　はい。ただ、リングならヨーロッパでもすぐに買えるんですけど、オクタゴンはアメリカでしか買えないんですよ。だから、まずはどこで購入して、どうやってクロアチアのミルコの自宅まで運ぶかを考えましたよね。それから、どうせオクタゴンを購入するなら、ケージもマットもUFCと同じ材質のものにしたかったんです。金網やマットに叩きつけられたときのインパクトが同じじゃないと、意味がないと思ったんで。それでUFCにも聞いてみると「THROWDOWN」というメーカーがランディ（・クートゥアー）、ランペイジ（ジャクソン）、チャック（・リデル）のジムにケージを供給しているということがわかったので、連絡をしてみると、逆に「ミルコの再出発に際して、THROWDOWNとしてはぜひカスタムメイドのオクタゴンをプレゼントしたい」というオファーになったということです。

——メーカーから逆オファーですか。

今井　MMAの発展のためにも、ミルコの復活は絶対に必要だと先方から言われて嬉しかったですね。もちろん運搬費用や、クロアチアまで来るケージビルダーたちの渡航費用など、すべての経費はこちらで持ちますけどね。そこからミルコのジムのどこに設置するか、その場所の寸法取り、高床式か床にじか置きかなど、クロアチアと工場があるサンディエゴの両方と国際電話とメールでの徹夜作業が続きましたね。先方から「チーム・クロコップをモチーフにしたデザインで作りたい」という提案があったので、クロアチアンフラッグのデザインを送ったり。最終的に6月の頭にだいたいスペックは決まったんですけど、そこからがまた大変だったんですよ。

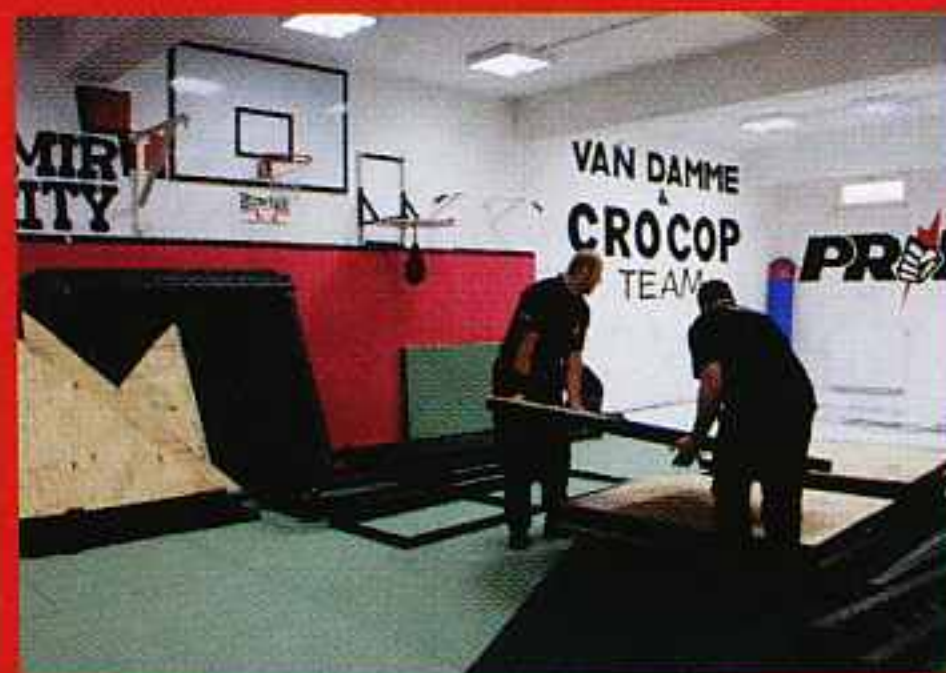
——どういった面で大変でした？

今井　カスタムメイドで作って、それをクロアチアまで送らないといけないんですけど、総重量が4・6トンもあるんですよ。それをサンディエゴ港からメキシコ湾、パナマ運河を通ってクロアチアのリエカ港までコンテナ輸送する。そこからさらにトラックに積み替えて、250キロ離れたミルコの家まで運ぶ。その輸送のロジスティックスがうまく組めない。さらに肝心のケージの製作が遅れに遅れて、結局、船便だと8月30日ぐらいにならないと到着しないってことになっちゃったんです。

——それじゃ、9月8日の試合の練習には、間に合いませんね（笑）。

今井　それで急遽エアカーゴで輸送ということになって、これが200万円以上かかるので、結局購入する値段とほぼ変わらないという結果になったんです。それでもなんとか8月1日に到着したんですよ。

——そして、オクタゴン導入と同時進行で、新メンバー召集の交渉ですか。

トラックでミルコの自宅に運ばれてきたオクタゴン。これを完璧に組み立てるために、わざわざアメリカから専門の〝ケージビルダー〟も呼び寄せたのだ。

今井　はい。今回のスパーリングパートナーたちは、絶対に落とすことが許されない対コンゴ戦略を完璧にするためというテーマでのパートナー召集ですから、そこだけに焦点を絞りました。コンゴというキックボクサーを叩きのめすために、ミルコ本来の持ち味である打撃をもう一度磨き直す必要があるということです。以前にも話しましたが、ミルコは苦労して、MMA型の打撃っていうものを作り上げたんですけど、それがいつの間にかワンパターンに陥っていた。それで、ミルコの打撃をもう一度、ピカピカに磨き上げてくれるコーチとして、イワン・ヒポリットに頼むことにしたんです。

——アーネスト・ホーストの師匠でもある名コーチですよね。

今井　はい。ヨハン・ボスの一番弟子で、ミルコvsヒョードルのときに、実際にヒョードルのミット持ちはヒポがやってましたからね。ボクはミルコの再生のためには、経歴だけではなく、人間性の面からもどうしてもヒポの力が必要だと思った。だから、すぐにヒポのケータイに電話をして、「忙しいとは思うけど助けてくれ。どうしてもクロアチアにしばらく滞在してほしい。俺の頼みだと思ってくれ……」と。しかし、ヒポも毎日のボスジムでの指導があるし、K−1WORLD GP開幕戦を控えたレミー（・ボンヤスキー）にとっても大切な時期である……と、なかなか首を縦に振ってくれない。そこで、さらに、ヒョードルの敏腕マネージャーであるアピ（・エクテルド）にまで電話をして、ヒポを説得してもらったりと……。ヒョードル陣営にとってもミルコには完全に復活してもらわないと困るということで、みんなでヒポを説得したんですよ。それでやっとこの大仕事を引き受けてくれたんです。

——凄い話ですね、それは。ヒョードル陣営まで手助けしてくれたんですか？

今井　最大のライバルの復活を願ってくれているんですよね。05年の夏の大一番前にはもの凄い駆け引きを繰り広げた彼らも、いまはUFCという新天地で苦労しているミルコを応援してくれているわけです。

——そうだったんですか。

今井　まあ、ヒポの話に戻りますが、彼は90年代に〝中量級世界最強〟の名をほしいままにした男ですが、とくにムエタイのヒジ打ちは絶品ですよね。しかも、UFCはヒジ打ちが許されてるわけだから、スタンドでも使っていいなら使わない手はない。トレーナーとしての資質だけではなく、ミルコが必要としている技術に関しても、自らが最高の使い手なわけですからなおさらです。

——なるほど。それにしてもおもしろい話を聞けました。では、レミー・ボンヤスキーやギルバート・アイブルの参加の理由も、イワン・ヒポリッ

ミルコの再生には、どうしてもイワン・ヒポリットの力が必要だと思ったんです

じつは武蔵と秋山成勲が今回のチームに参加するという話があったんですよ

トとの関係で来てくれたわけですか?

今井　レミーとアイブルは現在ヒポの門下なんですよ。ボクとしては、最初からヒポを説得して、レミーとギルバートも連れてクロアチアに来てもらうことが目的ですからね。レミーの身長、体重はコンゴとほぼ同じ、しかしストライカーとしてのレベルを比べれば、レミーは二度もK—1WORLD GPを制した男ですから、比較しなくとも答は出ている。コンゴにKO勝ちしている選手ですから、スパーリングをしながら得る情報はとてつもなく価値がある。だからこのメンバーが揃うならいくら経費がかかってもかまわないと思っていたんです。コンゴ対策で言えば、ホントにベストメンバーが揃ったと思いますよ。

——ミルコのキャンプにレミーが参加するというのは、画的にもいいですよね。なんといっても、PRIDE無差別級GP王者とK—1WORLD GP王者の合体ですから。

今井　そうですね。だからボクもK—1からレミーを借りるわけだから、仁義を通すためにも谷川（貞治＝FEG代表）さんにも連絡しました。やっぱりK—1にとってもレミーは復活してほしい大切なメンバーであり、その復活ストーリーとしてミルコと合同練習するというのは、K—1にとってもいいことでしょうからね。それで谷川さんも快く了解してくれて実現したんですよ。

——〝夢の懸け橋〟がかかったわけですね。

今井　あと、K—1といえば、意外な選手がミルコのキャンプに参加する話が持ち上がっていたんですよ。

——意外な選手って、誰ですか?

今井　武蔵と秋山成勲がクロアチアに来る話があったんです。

——えぇ〜〜っ!　なんでその二人がミルコのところへ!?

今井　じつは今年の春、ミルコがゴンザガに不覚をとったあとだったかな、館長（石井和義氏）と食事をする機会があったんですよ。そのとき、いろんな話をしたんですけど、やっぱり館長は武蔵と秋山くんのことを凄く心配してて、「ミルコのところでしばらくトレーニングできないかな」みたいな話が持ち上がったんですよ。

——今井さんと館長のあいだでそんな話が持ち上がっていましたか!

今井　ちょうどミルコもゴンザガに負けて、地獄に叩き落とされたあとだったし、それぞれ境遇は違えど、「どん底から這い上がる」という意味では、同じテーマを持った者同志だったので、ボク自身はそれも「あり」なのかなと思ったんですが、やはりいろいろなタイミングの問題もあって、この話は館長とボクのあいだだけの話として具体化はしなかったんですけどね。

——そうだったんですか。でも、これが実現していたら、もの凄いインパクトがあったでしょうね。ちょっと話はそれましたが、チーム再編にあたって、寝技のスパーリングパートナーとして、当初はリコ・ロドリゲスが来るはずだったんですよね?

今井　はい。課題の寝技でのヒジを習得するために。かつてUFCでTK（髙阪剛）と闘った際、一発でTKの下の歯が下唇の皮膚を突き抜けたっていう逸話があるリコに来てもらおうと思ったんです。それで、彼のマネージャーと金銭的な話も全部ついていたんですけど、飛行機に乗る直前になって、ドタキャンされたんです。

——いったい何があったんですか?

今井　何かテレビの出演オファーがあったらしいですけど、突然、連絡が取れなくなったんです。そういえば、ボクはミルコと昔から仲のいいランペイジと電話で話をしていたとき、チーム再編の話になって、ランペイジが「リコは選手としては規律に欠けるヤツだから、そのことが心配だ。しょっちゅう練習時間に遅れてくるし、ミルコがイライラするんじゃないか?」ってわざわざ知らせてくれてたんですよね。それでフタを開けてみたら、案の定、そうなってしまって……。慌てましたね。

——このままじゃ、打撃だけの練習で、コンゴ戦を迎えなくちゃならなくなるわけですからね。

今井　だからボクは急いで、これまで親交があったコールマンやランペイジにも電話したし、それこそジョシュ（・バーネット）に来てもらおうと本当に思いましたよ。でも、そんな中でディーン・リスターが急遽、一カ月もクロアチアに来てくれることになったんですよ。

——リスターといえば、05年の『アブダビ』無差別級で優勝した世界でもトップのグラップラーですよね。

今井　それもただ寝技ができるだけじゃなく、ディーンはティト・オーティズとずっと練習していて、金網際でのヒジの落とし方なんてティトとディーンが一緒に形にしたようなものですからね。とくに相手の手首をつかみながら、逆に手首をつかまれながらヒジを落とすのが凄くうまい。それと英語がしゃべれないファブリシオ・ヴェウドゥムと違って、ミルコに言葉と動きで理論的に寝技を伝達できるという意味では、ディーンも非常に大切なチームメートになってくれるでしょう。

——じゃあ、ホントにミルコの寝技コーチとしてはうってつけですね。

今井　だからドタバタはあったけれど、太っていてスタミナに難のあるリコよりも、人間的に真面目なディーンが来てくれて、結果的には良かったと思いますけどね。ミルコもケガさえしなければ、いい仕上がりになるはずです。

——今回、ミルコとレミーという、『PRIDE』とK—1のGPチャンピオンが揃って、チームとしてもK—1との距離が近づいたと思うんですけど、今後K—1とは、違ったかたちの交流とかもあり得たりするんですか?

今井　そうですねぇ……。やっぱりミルコにとってもボクにとってもK—1はある意味、故郷じゃないですか。過去に仲違いもして、ボロクソに言ってきましたけど（笑）。時間が経てばいろんな意味で水に流せることもあるし、『PRIDE』がこういうかたちになってしまった以上、日本の格闘技の火を消さないためにも、応援したいという気持ちがあるのは事実ですよね。

新生チーム・クロコップ結成秘話

スタンド、グラウンドでのヒジ打ちや、金網際での攻防などの指導を受けるミルコ。これまで『PRIDE』では必要なかった、こうした動きを、いま徹底的に叩き込まれている。

ゴンザガ戦の敗北が、〝ストライカー〟ミルコの復活につながる思います

──現時点では、『PRIDE』の興行再開のメドが立ってないわけですからね。

今井　今回、ミルコにとっても、K－1が自分に協力してくれたっていうのは、感情の面でホッとする部分もあるみたいだし。それは、2003年に自分がK－1を離脱したことで、『PRIDE』とK－1の仁義なき抗争の引き金を引いたように言われてきましたからね。

──確かに、ミルコによってあの〝戦争〟は開戦しましたよね。

今井　そういった責任は、ボクもミルコも少なからず感じているんですけど。ただ、『PRIDE』とK－1の二大巨頭がしのぎを削っていた、あの3年間が日本の格闘技界がもっとも活気がある時期でもあったと思いますけどね。そして今回、そういった時期を経て、谷川さんが快くミルコの復活に協力してくれたので、チーム・クロコップとしても、何か〝恩返し〟みたいなことができたらな、と思ってますけどね。

──4・8『PRIDE・34』では、桜庭選手が登場しましたけど、その逆のパターンで、ミルコがK－1のリングにゲストで登場するようなことがあったら、日本格闘技界にもひさびさの明るい話題になりますよ。

今井　そういったこともできたらいいですよね。そもそもミルコは日本のファンに何も言わずにUFCに行ってしまったことを気にしていて、「日本のファンに会って、自分の言葉でメッセージを発したい」というのは、前から言ってましたからね。チーク・コンゴに勝ったあと、日本に行って、ファンとの交流ができたらとは思っているんですけど。

──それは楽しみですね。ぜひ実現してほしいですよ。そのためにも、まずはしっかり調整して、コンゴに勝つ必要がありますよね。

今井　もちろん。ボクはとりあえずマネージャーとしての仕事である、オクタゴンケージという練習環境とスパーリングパートナーを用意しましたから、あとは本人が自分をどれだけ追い込めるかですね。

──4月のゴンザガ戦は、ミルコ自身の集中力の欠如と相手を見くびるという最大の欠点を露呈して、いろんな計画が崩れたわけですからね。

今井　ホントにね、みんなに迷惑をかけましたよ。まずランディ（・クートゥアー）に迷惑をかけて、UFCに迷惑かけてミルコ自身の自尊心はズタズタになり……。何か、ミルコは3年ごとに大きなポカをしでかすような気がするんですよね。

──そんな3年周期説がありますか。

今井　まあ、そのおかげで現在にたどり着いているような気もしますけど。01年6月にオーストラリアでマイケル・マクドナルドにKO負けしたからこそ、MMAへの道が開けたわけだし。2004年にケビン・ランデルマン相手にまたポカをやったからこそ、ミルコのファイターとして眠っている部分が開花して、PRIDE無差別級GPの王者にもなれた。だから、今回は本質的にUFCがミルコに求めている「恐るべきストライカー」が復活するきっかけになってくれるんじゃないかと期待してるんです。一発もパンチを出さずに終わったマンチェスターの結果が、今回のチーム編成、そしてヒポというトレーナーとの出会いにつながったわけです。ここまで来るあいだ、ミルコには寝技のパートナーとしてファブリシオが来た以外には、誰も師匠がいなかった。ヒポもミルコがしっかりとしたトレーナーがいない環境で、自分でこのレベルのファイターにまで自分を作り上げてきた事実には、とても驚いていました。これからは自分をもう一押し、きついトレーニングに追い込みながら、もう一段高いレベルに導いてくれるトレーナーとしての役割をヒポに託したいと思っているでしょうね。ミルコにとっては、すべては「敗北」から始まるんですよ。ゴンザガにたとえ勝っていたとしても、あのままウダウダやっていたら、ランディの術中にハマっていた可能性もある。だから、ミルコにとっては誰にも言い訳できないような負け方をして、ズタズタになった自尊心を取り戻そうとすることで高いモチベーションをキープしていければいい。これを乗り越えたら、またミルコはしばらく勝ち続けると思いますよ。

──わかりました。では、新生ミルコの活躍を期待しております！

【07年8月6日／クロアチア・ザグレブ市内のホテルにて収録】

Randy Couture
1963年6月22日、米国ワシントン州出身。97年UFCデビューし、ライトヘビー級とヘビー級の二階級を制覇した唯一の選手となった。昨年4月のチャック・リデル戦後に引退を表明。今年3月、一年ぶりとなる現役復帰戦でヘビー級王座に返り咲いた。188cm、100kg。

ミルコ、ノゲイラが目標とする UFCの頂点に立つ男

UFC HEAVY WEIGHT CHAMPION

Randy Couture
ランディ・クートゥアー

©Josh Hedges (UFC)

「PRIDEファイターはみんな強敵だ。でも、闘ってみたら私の実力を知ることになるよ」

ミルコやノゲイラというPRIDEトップファイターの加入、ガブリエル・ゴンザガらの台頭などにより、空前の激戦区となっているUFCヘビー級戦線。その頂点に立つ男、ランディ・クートゥアーが8.25『UFC74』でゴンザガの挑戦を受けることとなった。
大一番を前にクートゥアーは、このヘビー級大戦争をどう考えているのか、王者を直撃した。

聞き手&撮影／堀江ガンツ

確かにランペイジのほうが身体は大きいが それを苦にしないのがダン・ヘンダーソンさ

——いよいよ、ガブリエル・"ナパオン"・ゴンザガとの、UFCヘビー級王座の防衛戦（8・25『UFC74』）が迫ってきましたが、調整のほうはいかがですか?

ランディ 順調だよ。試合に向けた本格的なトレーニングを始めたのは、一週間前だけど、4月（21日）の大会でゴンザガがミルコにKO勝ちした瞬間から、8月のゴンザガ戦を想定した生活になっていたからね。彼のファイトスタイルも研究したし、それに沿った練習も進めている。

——ランディさんは、ゴンザガという選手をどう評価していますか?

ランディ 言うまでもなく、彼はいいファイターだ。君もゴンザガがミルコをKOした試合を観ただろう? あの一試合だけで、並のファイターじゃないことはわかるはずさ。彼はアグレッシブで、強いパンチを持っていて、グラウンドもできる。身体も私より大きいし、正直言って、闘いたくない相手だよね。ミルコ戦では戦略も素晴らしかったので、試合の組み立てについても注意が必要だ。

——ゴンザガ戦に向けて、どんなトレーニングを積んでいますか?

ランディ 練習内容はこれまでと変わらないよ。フィジカル、テクニック両面でトレーニングを積んで、試合当日に最高のパフォーマンスができるようにする。それができたら、自然といい結果が転がり込んでくるはずさ。

——ゴンザガは柔術黒帯の強豪ですが、柔術家との試合に備えて特別な練習パートナーを用意したりはしていませんか?

ランディ 何人か柔術のバックグラウンドを持つファイターにパートナーになってもらって練習しているよ。

——ランディさんの戦績を見てみると、"取りこぼし"のような敗戦がいくつかあり、そのほとんどがサブミッションでの敗退です。寝技が強い選手に対して苦手意識があるのでは、という声もありますが。

ランディ 確かに以前、私は何試合かサブミッションで試合を落としている。しかし、それらの敗戦を糧にさらにトレーニングを積んで、成長しているからね。ゴンザガとの試合でも、彼の寝技を警戒するのではなく、自分からテイクダウンを奪ってパウンドを落とすだけだよ。

——かつてランディさんを破ったグラップラーの一人、ジョシュ・バーネットは「ランディにはいつでも勝てる」という発言をしていますが、その発言についてどう思いますか?

ランディ 彼はいいファイターだよ。私が彼に負けてから5年経った。その間に彼も『PRIDE』で強豪と闘ってきて、成長しているだろうから、次に闘う機会があれば楽しみだね。でも、私もUFCでトップを張っているから、もちろん自信はあるよ。

——やはり、5年前のUFCといまのUFCでは、レベルが違うという意識はありますか?

ランディ もちろんそうさ。だから、彼は私と再び闘ったときに、いまの私の実力を知ることになるよ。

——いよいよUFCヘビー級戦線に加わってきた、ノゲイラについてはどうですか?

ランディ 彼の素晴らしさについては、私なんかより日本の人たちのほうがよっぽどよく知ってるんじゃないか?（笑）。近い将来、彼がUFCのタイトル戦線に絡んでくることは間違いないよ。ただ、UFCにはいろんな強いファイターがいるからね。これからティム・シルビアやアンドレイ・アルロフスキーとも闘わないといけないだろう。だから、すぐにタイトルマッチというわけにはいかないだろうが、来年の早いうちにタイトル挑戦は実現するんじゃないか?

——かなりノゲイラの評価は高いんですね。こうして『PRIDE』のトップファイターが、UFCに続々と参戦してくる状況を、チャンピオンとしてどう感じていますか?

ランディ いいことだよ。ロレンゾ（・フェティータ）が『PRIDE』のオーナーになってから、これまで団体の壁があるためにできなかった対戦ができるようになった。私自身、『PRIDE』のトップファイターとはずっと闘いたいと思っていたんだ。もちろん、彼らは簡単に勝てる相手じゃないけど、強敵だからこそ、自分のモチベーションも高めることができる。

——9月のロンドン大会（『UFC75』）でクイントン・"ランペイジ"・ジャクソンvsダン・ヘンダーソンの試合が決定しましたが、この一戦はどのようにご覧になりますか?

ランディ ダンとは近い関係なんだ。彼は間違いなくトップファイターだよ。そしてジャクソンもね。これは凄い試合になるだろうね。試合展開としては、ダンはレスリングマッチにしたいだろうし、ジャクソンはボクシングマッチにしたいだろうけど、お互いに簡単にはいかないだろうね。

——ダンはライトヘビー級（『PRIDE』ではミドル級）としては、若干小さいですが、身体のサイズは影響しますか?

ランディ 確かにダンは小さいね。逆にランペイジは、普段は私と同じくらい体重がある。普通に考えたら、ダンはサイズの違いに苦しむだろう。しかし、その体格差を苦にしないのがダン・ヘンダーソンという男なんだよ。事実、ダンは大きな相手を何人も倒している。だから問題ないと思うよ。それにまぁ、ダンはもし負けてもミドル級（『PRIDE』ではウェルター級）に行けば、さらに強い王者になれるだろうしね。

——なるほど。では、答えにくいかもしれませんが、ランペイジとダン、勝つのはどちらだと思いますか?

ランディ う～ん、難しいね。さっきも言ったけど、どんなスタイルで試合が展開するかだね。いまの段階で勝敗を予想するのは極めて困難だよ。

——ダン・ヘンダーソンは、長いこと『PRIDE』のリングで闘ってきましたけど、ひさしぶりのオクタゴンということは、ハンデにはなりませんか?

ランディ リングとケージの違いは、問題ないと思うね。ダンはこれまでにもケージでの闘いは経験しているから、少し練習して慣れればいいだけのことだよ。

——わかりました。お忙しいところ、ありがとうございました!

［07年7月7日／米国カリフォルニア州サクラメント、ARCOアリーナにて収録］

Photo／Fumio Kuroda

かつてレスリング時代からの盟友同士として、MMA転向後も同じチーム・クエストで練習していたダンヘンとクートゥアー。この二人が、UFCとヘビー級、ライトヘビー級の頂点に立つことになるのか?

グラップラーに弱い? クートゥアーの戦績を分析

いまでこそUFCの象徴とも言える大ベテランのランディだが、かつては日本マットを中心にグラップラー相手に、取りこぼしのようは一本負けを喫していたのだ。しかし、それも5年も前の話。柔術家ゴンザガとの試合では、寝技を克服することができるか?

[vsグラップラー主な敗戦リスト]

1998.10.25 Vale Tudo Japan 98
×vsエンセン井上 （1R1分39秒、腕ひしぎ十字固め）

1999.3.20 RINGS Rise 1st
×vsイリューヒン・ミーシャ（7分43秒、アームロック）

2001.2.24 RINGS King of kings FINAL
×vsヴァレンタイン・オーフレイム（0分56秒、フロントチョーク）

2002.3.22 UFC36
×vsジョシュ・バーネット（2R4分35秒、TKO）

タゴンで
Eが実現!?

3kg頂上決戦がついに開戦!!

PRIDEミドル級&ウェルター級王者

ダン・ヘンダーソン

Dan Henderson

ドン大会のメインイベントに決定!

パワー 4
スタミナ 5
レスリング 5
グラウンド打撃 4
スタンド打撃 4
サブミッション 4

UFCのオクタゴンで〝PRIDE〟が開催される!?

来たる9月8日、PRIDEミドル級&ウェルター級王者ダン・ヘンダーソンとUFCライトヘビー級王者クイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンが激突!! これまで、ミルコやノゲイラなど、『PRIDE』から移籍したトップファイターは数いれど、ここまで『PRIDE』の匂いが漂う対戦は今回が初めて。……え? ノゲイラvsヒーリングがあったって!? あれは〝リメイク〟ですよ、リ・メ・イ・ク!! 今回は現在進行形の頂上対決なのです。

しかも、この決戦の舞台となるのは、いまUFCが莫大な資金を投入し、〝新地開拓〟に勤しんでいるイギリスはロンドン。同大会はUFCのヨーロッパ戦略においても、非常に重要なのである。そのメインイベントに大抜擢されたのが、なんと〝UFC的知名度に欠ける〟二人が闘うこのカードなのだが、『PRIDE』でも幾多の名

［その

同対戦相手結果

ムリーロ・ニンジャ	○	3R 判定2-1
ヒカルド・アローナ	×	3R 判定2-1
ムリーロ・ブスタマンチ	○	1R 53秒 KO (03.11.09 PRIDE GP 決勝戦)
	○	2R 判定2-1 KO (05.12.31 PRIDE男祭り)
ヴァンダレイ・シウバ	×	2R 判定6-0 (00.12.23 PRIDE.12)
	○	3R 2分08秒 TKO (07.02.25 PRIDE.33)

KO、一本勝率	50%
KO、一本負け率	40%
UFC戦	2戦2勝

［所属］チーム・クエスト
［生年月日］1970年8月24日
［身長・体重］180cm・90.5kg
［バックボーン］レスリング
［タイトル］UFCライトヘビー級王者（1998年）
リングスKOKトーナメント初代王者
PRIDE GP 2005 ウェルター級トーナメント 優勝
初代PRIDEウェルター級王者
第2代PRIDEミドル級王者

戦績（MMA全試合戦績 **27**戦**22**勝**5**敗）

○ vs CREZIO DE SOUZA（97.06.15 Brazil Open）1R 5分25秒 TKO
○ vs エリック・スミス（97.06.15 Brazil Open）1R 30秒 フロントチョーク
○ vs アラン・ゴエス（98.05.15 UFC17）1R 判定 3-0
○ vs カーロス・ニュートン（98.05.15 UFC17）1R 判定2-1
○ vs ゴキテゼ・バクーリ（98.10.28 リングス）1R 2分17秒 KO
○ vs 金原弘光（98.10.28 リングス）2R 判定1-0
○ vs ギルバート・アイブル（00.02.26 リングス）2R 判定3-0
○ vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ（00.02.26 リングス）3R 判定2-1
○ vs レナート・ババル（00.02.26 リングス）2R 判定1-0
× vs ヴァンダレイ・シウバ（00.12.23 PRIDE.12）2R 判定6-0
○ vs ヘンゾ・グレイシー（01.03.25 PRIDE.13）1R 1分40秒 KO
○ vs 小路晃（01.05.27 PRIDE.14 ）3R 3分18秒 TKO
○ vs ムリーロ・ニンジャ（01.11.03 PRIDE.17）3R 判定2-1
× vs ヒカルド・アローナ（02.04.28 PRIDE.20）3R 判定2-1
× vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ（02..12.23 PRIDE.24）3R 1分49秒 腕ひしぎ十字固め
○ vs 大山峻護（03.03.06 PRIDE.25）1R 3分27秒 KO
○ vs ムリーロ・ブスタマンチ（03.11.09 PRIDE GP 決勝戦）1R 53秒 KO
○ vs 中村和裕（04.10.31 PRIDE.28）1R 1分15秒 TKO
○ vs 近藤有己（04..12.31 PRIDE男祭り）3R 判定2-1
× vs アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ（05.04.23 PRIDE GP 開幕戦）1R 8分05秒 腕ひしぎ十字固め
○ vs 長南亮（05.09.25 PRIDE武士道-其の九-）1R 22秒 KO
○ vs 郷野聡寛（05.09.25 PRIDE武士道-其の九-）1R 7分58秒 KO
○ vs ムリーロ・ブスタマンチ（05.12.31 PRIDE男祭り）2R 判定2-1
○ vs 三崎和雄（06.04.02 PRIDE武士道-其の拾-）2R 判定3-0
× vs 三崎和雄（06.08.26 PRIDE武士道-其の十二-）2R 判定3-0
○ vs ビクトー・ベウフォート（06..10.21 PRIDE.32）3R 判定3-0
○ vs ヴァンダレイ・シウバ（07.02.25 PRIDE.33）3R 2分08秒 TKO

オクタゴ
“PRIDE”だ

UFC×PRIDE 93k級頂上

UFCライトヘビー級王者

クイントン・R・ジャクソン(ランペイジ)

Quinton Rampage Jackson

9.8 UFC75 in ロンド 堂々

パワー 5
スタミナ 5
レスリング 4
グラウンド打撃 5
スタンド打撃 5
サブミッション 3

[所属]ゴッズ・ストリート・ソルジャー
[生年月日]1978年6月20日
[身長・体重]185cm・92.8kg
[バックボーン]レスリング、柔術
[タイトル]PRIDE GP2003ミドル級トーナメント 準優勝
第7代UFCライトヘビー級王者

戦績(MMA全試合戦績**33**戦**27**勝**6**敗)

○ vs Mike Pyle(99.11.13 ISCF)判定
○ vs Marco Bermudaz(00.05.13 HBUP)2R 裸絞め
× vs マービン・イーストマン(00.06.24 KOTC4)2R 判定
○ vs Ron Rumpf(00.07.19 CFA 2)1R 1分18秒 TKO
○ vs Warren Owsley(00.10.28 Dangerzone)1R 6分04秒 腕ひしぎ十字固め
○ vs Rob Smith(00.11.29 KOTC 6)3R 判定
○ vs Charlie West(00.12.09 GC 1)3R 判定
○ vs Dave Taylor(01.02.18 GC 2)1R終了時 TKO
○ vs Rocko Henderson(01.04.07 GC 3)2R 1分15秒 チキンウイングアームロック
○ vs Bryson Howvreck(01.04.29 KOTC 8)1R 1分48秒 KO
○ vs Kenneth Williams(01.06.17 GC 4)1R 4分40秒 裸絞め
× vs 桜庭和志(01.07.29 PRIDE.15)1R 5分41秒 チョークスリーパー
○ vs アレクサンダー大塚(01.10.14 バトラーツ)2R終了時 TKO
○ vs 石川雄規(01.11.03 PRIDE.17)1R 1分52秒 KO
× vs 松井大二郎(01.12.23 PRIDE.18)1R 14秒 反則
○ vs 佐竹雅昭(02.04.28 PRIDE.20)1R 7分07秒 TKO
○ vs Sean Gray(02.05.17 KOTC 13)3R 37秒 TKO
○ vs イゴール・ボブチャンチン(02.09.29 PRIDE.22)1R 7分17秒 TKO
○ vs ケビン・ランデルマン(03.03.16 PRIDE.25)1R 7分 KO
○ vs イリューヒン・ミーシャ(03.06.08 PRIDE.26)1R 6分26秒 TKO
○ vs ムリーロ・ブスタマンチ(03.08.10 PRIDE GP 開幕戦)3R 判定2-1
○ vs チャック・リデル(03.11.09 PRIDE GP 決勝戦 準決勝)2R 3分10秒 TKO
× vs ヴァンダレイ・シウバ(03.11.09 PRIDE GP 決勝戦)1R 6分28秒 TKO
○ vs 美濃輪育久(03.12.31 PRIDE男祭り)2R 1分05秒 TKO
○ vs ヒカルド・アローナ(04.06.20 PRIDE GP 2nd)1R 7分32秒 KO
× vs ヴァンダレイ・シウバ(04..10.31 PRIDE.28)2R 3分26秒 KO
○ vs ムリーロ・ニンジャ(05.02.20 PRIDE.29)3R 判定2-1
× vs マウリシオ・ショーグン(05.04.23 PRIDE GP 開幕戦)1R 4分47秒 KO
○ vs 横井宏考(05.10.23 PRIDE.30)1R 4分05秒 KO
○ vs ユン・ドンシク(06.02.26 PRIDE.31)3R 判定3-0
○ vs マット・リンドランド(06.07.22 WFA)3R 判定2-1
○ vs マービン・イーストマン(07.02.03 UFC67)2R 3分49秒 KO
○ vs チャック・リデル(07.05.26 UFC71)1R 1分53秒 TKO

C的知名度に欠ける〟二人が闘うこのカードなのだが、『PRIDE』でも幾多の名勝負を繰り広げてきた両者。格闘技そのものが持つ魅力を体現してくれるはずだという自信がダナ・ホワイトの決断を誘ったに違いない。たぶん。

そんな注目すべき両者の闘いはいったいどうなるのか!? これまでのデータをもとに徹底比較してみた。過去の戦績から分析すると、勝率はお互い約80パーセントと高い数字で拮抗。また、同対戦相手の試合結果を見ても、ニンジャ戦、ブスタマンチ戦はほぼ同じ内容で勝利している。しかし、寝技師のアローナ戦、ストライカーのヴァンダレイ戦においては勝敗が見事に分かれている両者。このあたりに勝敗のヒントが隠されているのか……!?

いずれにしても、やってみなきゃわからない(あたりまえ!)世紀の大決戦。9月8日、どんな〝PRIDE〟がオクタゴンで繰り広げられるのか。しかと見届けるべし! ……って、どうやって!?

[データ]

同対戦相試合結果

3R 判定2-1	○	ムリーニンジャ
1R 7分32秒KO	○	ヒカルアローナ
3R 判定2-1	○	ムリーロスタマンチ
1R 6分28秒TKO (03.11.09 PRIDE GP 決勝戦)	×	ヴァンダレイ・シウバ
2R 3分26秒KO (04.10.31 PRIDE.28)	×	

KO、一本での勝率
74%

KO、一本での負け率
67%

UFCの戦績
2戦2勝

Wanderlei Silva

ヴァンダレイ・シウバ

ミスターPRIDE、アメリカ移住とUFC参戦の真意を語る!!

UFCヤルゥ！　シュートボクセ、そしてブラジル格闘技シーンのシンボル、ヴァンダレイ・シウバが先月、自身のホームページでアメリカ移住を電撃表明！MMAブームの爆心地で、そのキャリア再形成を目指すことになった。『PRIDE』の活動休止とともに、日本から主戦場を移すことになった“ミスターPRIDE”の心境はいかに？妻と息子、そしてトレーナーを連れてアメリカに向けて旅立とうとするシウバを出発5日前に直撃！

聞き手&撮影／アンドレイ・カレンズバーグ　構成／上杉再現V

――シウバさん！　いよいよアメリカに本格進出するそうですね。

シウバ　ああ、そう決めたんだ。生まれ育ったクリチバは好きだし、ブラジルを愛しているよ。でも、いまのアメリカには大きな可能性が広がっているからね。

――それはUFC参戦を見据えての移住ということなんですか？

シウバ　そういうことだね。まだ、細かいことは何も決まっていないけど、アメリカで俺自身、ヴァンダレイ・シウバというブランドを確立したいと思っている。それと同時に、自分のチームを持つことは長年の夢だった。いまのMMAブームに沸くアメリカはそれを可能にしてくれる。このチャンスをモノにしたいんだ。最初は、仲間たちもいない中で難しい挑戦になるかもしれない。でも、俺自身がさらに成長するためのいい経験になると思って決心したんだよ。

――アメリカのどこに移住することになりそうですか？

シウバ　それはまだ決めていない。マイアミかラスベガスを考えているんだけど、その地域のジム事情を見て決めたいね。というのは、まず向こうで俺のジムを開こうと思っているからね。

――それにしてもホームページでの発表は急だったので、本当に驚きましたね。

シウバ　じつを言うと……、今回の件は妻のティアが決めたんだ。

――あ、奥さんの判断だったんですか？

シウバ　俺はアメリカに行くべきかどうか悩んでいたんだ。試合だけじゃなくて、『WAND』という俺のアパレルブランドに対するいいオファーがあったんだけど、俺自身、ファイターとしてのキャリアが終わりに近づいていることは事実。それを考慮しないといけなかった。だからもう少し時間

UFCヤルゥ!

決断

「俺たちはPRIDEの孤児になったんだよ」

を取って慎重に考えようと思っていたんだ。でも彼女は非常に賢くて、そのオファーをまとめあげた。そして、ある日突然、「家族全員で移住するわよ！」って俺に告げたんだ。

――突然!!（笑）。

シウバ　だから、今回のアメリカへの移住のことで最初に驚いたのは俺だったんだよ（笑）。

――それは驚きますよね（笑）。

シウバ　それで慌てて、フジマール会長に相談したんだ。彼は本当に素晴らしい人物で、この突然の申し出を受け入れてくれたよ。勝手な相談にもかかわらず、彼は俺をサポートしてくれることまで約束してくれた。本当に感謝したいね……（しみじみと）。

――今後のシュートボクセとの関係はどうなるんですか？

シウバ　まだ決めてない。でもフジマール会長をはじめ、ラファエルやクリスチャーノらシュートボクセのコーチたちはベストトレーナーだから、彼ら全員と一緒にトレーニングを続けたい。でも、それは難しい。だからラファエルだけ一緒に来てもらうことにしたんだ。

――リングに上がるときは、やはりシュートボクセを代表して闘うと？

シウバ　もちろんだよ！　シュートボクセは俺の"学校"だし、この旗を掲げて闘うことに誇りを持っている。だから、俺がブラジルから出ることは、息子が家を出て、結婚して新しい家族を作るようなものさ。俺は新しい先生として、シュートボクセで教わったテクニックや選手としての振る舞いを、これからのファイターに教えていきたいんだ。それで"第二のヴァンダレイ"を作ることができれば幸せだよ。

――ある意味で"シュートボクセの伝道者"を目指すんですね。アメリカにはいつ頃行かれるんですか？

シウバ　8月3日さ。本当は2週間前に行くはずだったけど、『ストームサムライGP』（ブラジルのMMAイベント）があったから日程を延期したんだ。シュートボクセのファイターが出場するから、ぜひ観ておかなきゃいけないって。

――そんなドタバタな状況なのにもかかわらず、UFCの公式サイトは「9月22日の大会でシウバvsチャック・リデル戦を予定していたのにシウバが逃げた」と報じていましたが、もともと試合の予定はあったんですか？

（写真上）格闘技の全キャリアを過ごしたチームを離れることになるシウバ。ちなみに左から3人目にいるのはミルコ戦に備えてシュートボクセでトレーニングしていたゴンザガ。（写真下）まだ幼い息子と妻のティアまで連れていくほど、シウバは今回のアメリカン・ドリーム実現に懸けているのだ。

Wanderlei Silva

シウバ　俺はいままでも、そしてこれからも逃げるなんてことは絶対にしないよ。確かに交渉をしていたのは事実だ。でも、正式に対戦は決まってなかった。彼らは9月に試合を組みたかったみたいだけど、チャック・リデルのような大物と闘うのならしっかりと準備したいし、急いで闘う必要はない。それに俺にとって、いまは人生の転換期だからムリして試合を組みたくないんだ。UFCがまたリデルとの試合を組むのなら闘うし、同じレベルの選手を出してくるのなら、そいつと闘ってもいいよ。

――しばらく試合がなくて、焦っているわけではない、と。

シウバ　ああ、神に感謝するけど、いまの俺は金のために闘う必要がないってことなんだ（笑）。

――UFCサイドとの交渉は順調だったんですか？

シウバ　正直に言って、UFCは素晴らしいオファーをしてくれたよ。じつはファイトマネーについての交渉は成立していたんだ。あとは、いつ闘うかの問題だったのさ。でも、俺には時間が必要だったからね。それに、これまでは俺自身のためにも、ファンのためにも、主催者のためにも、組まれた試合を断らずに一所懸命闘ってきたけど、選手生命もそう長くはない俺は試合を選ぶ時期に入ったと思うんだ。

――シウバさんにそれだけの実績があることについては、誰にも異論はありませんよ。

シウバ　だから、これからの試合は、金のために闘うとかじゃなくて、リングにセンセーションを起こすためなんだ。ただその気持ちをキープするのは簡単なことじゃない。そうなると、必然的に試合数は減らすことになるだろうね。ただ闘う気持ちがあるかぎり、俺はリングに上がり続けるよ。

――ひさしぶりのオクタゴンでの試合ということになりますが、UFCルールに適応する自信はありますか？

シウバ　ああ、自信はあるよ。フットストンプが使えないのはヘンな感じだけど、すでにUFCルールでのトレーニングは始めているし、この新しい現実に適応できる自信はある。それに『PRIDE』ではヒジは禁止だったけど、ヒジはじつは得意なんだ。いまでは、いろんなバリエーションでの攻撃を練習しているしね。

――オクタゴンでも危険なヴァンダレイが観られるということですね。ミルコ・クロコップの敗戦以降、日本のファンはPRIDEファイターのオクタゴン進出を心配してるんですが……。

シウバ　あの試合について言えば、ミルコが負けたのはルールのせいじゃない。（ガブリエル・）ゴンザガが完璧なゲームプランを立てて、スタンドでもグラウンドでも試合を支配したからなんだ。シュートボクセは彼にミルコ対策を授けたのさ。そして彼にはその作戦を実行する力があった。

――あと『PRIDE』からUFCに移籍したノゲイラも、初戦で危ないシーンがありましたね。

シウバ　その試合は観てないけど、話は聞

いてるよ。ノゲイラがハイキックをもらってダウンしたってね。ただ彼が凄いのはどんなに打撃をもらってもあきらめないことさ。『PRIDE』でも不屈の精神を見せていたようにね。その点では、彼を非常に尊敬しているよ。彼がヘビー級のチャンピオンになる可能性は高いんじゃないかな。

──シウバさんが参戦することになるライトヘビー級戦線では、クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンがリデルを破って王者になりましたが。

シウバ　あのタイトル戦は、03年の『PRIDEミドル級GP』のときと同様に、ランペイジがまた勝つと思っていたよ。ただ、あんなに早く勝つとは思わなかったけどね。9月のダン・ヘンダーソンvsランペイジの試合も、体格で勝るランペイジが勝つね。ヘンダーソンをKOするのは難しいけど、おそらくグラウンド・アンド・パウンドの試合運びでランペイジが勝つだろう。ただし！　ショーグンが参戦すれば、もうパーティは終了さ。彼がライトヘビー級を支配するよ。なんたってショーグンはたった2分でランペイジのアバラを叩き折って勝ったんだからね。

──一昨年の『PRIDEミドル級GP』のことですね。

シウバ　それにショーグンとは何度かオクタゴンでトレーニングしたけど、彼はリングよりオクタゴンのほうが力を発揮するタイプだな。このまま集中してトレーニングを積めば、UFCでヒョードルのような存在になるよ。

──『PRIDE』でヒョードルが頂点に君臨したように。ところでシウバさんと『PRIDE』の契約は、いまどうなっているんですか？

シウバ　簡単に言うと、俺は現在どの団体とも契約をしていないんだ。嬉しいことにオファーはたくさんあったよ。たとえば、アラブの国の王子様から「新しくMMAのイベントをやるから出てくれ」って言われたりね。

──え！　まさかあのアブダビの王子様が新団体を⁉

シウバ　とてつもない大金だったよ（笑）。そして、K−1やボードッグなどからもオファーはあった。だけどUFCを選ぶことにしたんだ。UFCが一番盛り上がっているし、そこで地位と名声を築きたいと思ったからね。

──いまのUFCは、かつての『PRIDE』以上の勢いがありますからね。一方で"ミスターPRIDE"としては、現在の『PRIDE』の状況をどう見ていますか？

シウバ　（一転して暗い表情で）この一連の騒動（ロレンゾ・フェティータの買収）は、まるで首を絞められるような思いだったよ。そして、あれ以来俺は1試合も闘っていないんだ。

──いまだ再開の見通しが立ってなさそうですね。

シウバ　『PRIDE』は俺の人生だった。俺が常に闘ってきた舞台だったからね。そして、この数ヵ月のあいだに日本で起きたことは本当に奇妙なことに思えたね。そして『PRIDE』は、俺を含めて多くの"孤児"を残したんだ。正直に言うと、『PRIDE』がなくなってから、いまだにまだ自分を見失なってしまった感覚が残っている……。俺は自分のファイティングキャリアを通して、『PRIDE』のことだけを考えて生きてきたからね。それが突然、すべて変わってしまったんだ……。

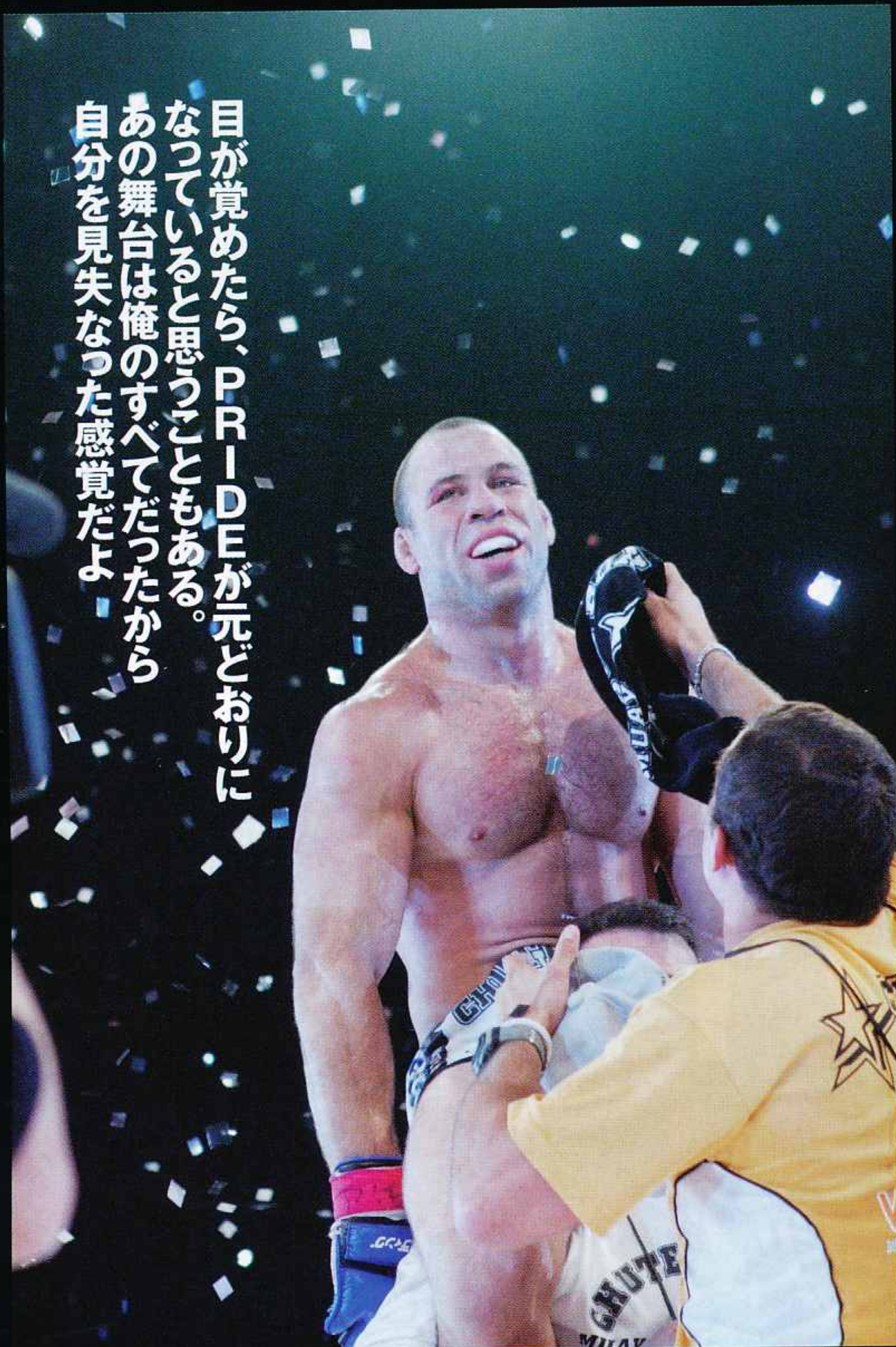
──やはり、また日本で闘いたいという気持ちはありますか。

シウバ　もちろんさ！　じつは、アメリカ移住が決まる前のことだけど、「ほかのシュートボクセの選手が日本で闘うことになったら一緒に行こう」ってフジマール会長と話していたんだ。日本は俺のファンが一番多いところだし、日本のファンに会うと、俺も力がみなぎるからね。

──日本のファンも会いたがっていますよ！

シウバ　これまで、2ヵ月ごとに会っていたファンに会えなくなるのは本当につらいことなんだ。ときどき、ふと思うんだよ、『PRIDE』は大丈夫だ。目が覚めたら、すべてが元どおりになっているんじゃないか……」ってね。その日が来ないことはもうわかっている。でも、ファンはいつも俺のハートの中にいるのさ。だから、『PRIDE』や俺を愛してくれたファンには、これからの俺の闘いを観続けてほしいんだ。

【07年7月29日／ブラジル・パラナ州クリチバにて収録】

目が覚めたら、PRIDEが元どおりになっていると思うこともある。あの舞台は俺のすべてだったから自分を見失なった感覚だよ

WANDARLEI SILVA■1976年7月3日、ブラジル・パラナ州クリチバ出身。99年に『PRIDE』デビューをはたすや、快進撃を続け、02年に初代PRIDEミドル級王者を獲得。03年には『ミドル級GP』を制するなど、『PRIDE』の象徴的存在となる。『PRIDE』での最後の試合となった今年2月のラスベガス大会で約5年間保持したミドル級王座をダン・ヘンダーソンに明け渡した。182cm、92.9kg。

©Josh Hedges（UFC）

新章

「ミルコと違って、俺はオクタゴンで生き残れる」

Mauricio Shogun

マウリシオ・ショーグン

いざUFCへ！ 踏みつけ大将軍 進軍ラッパを吹き鳴らす!!

シュートボクセ旋風、発生必至!! 9月25日の『UFC76』アナハイム大会で マウリシオ・ショーグンのUFCデビューが正式決定！ 05年の『PRIDEミドル級GP』を制覇し、以後同階級で無敗をキープ。同門ヴァンダレイ・シウバと並んで PRIDEミドル級のトップの座に君臨したショーグン。故郷『PRIDE』を想いつつ、新天地に向けてトレーニングを積む若きエースの心境とは？

聞き手&撮影／アンドレイ・カレンズバーグ　試合写真／乾晋也　構成／上杉再現V

——いよいよUFCデビューが決まりましたね。

ショーグン　ああ、いよいよだよ。待ちきれないね。UFCでの闘いは、俺にとっての〝第二章〟開幕だと思っている。2月のPRIDEラスベガス大会で声援を送ってくれたファンにもう一度、この姿を見せてあげたいんだ。

——いつからUFCでの闘いを意識していましたか？

ショーグン　じつはUFCのことは当初はそんなに意識していなかった。でもここ数年、UFCは凄い勢いで成長して、ついにこのMMAシーンのトッププロモーションにのし上がった。それと時を同じくして、『PRIDE』がなくなるというウワサも流れ出して……、その頃かな、UFCでの闘いに関心を持ち始めたのは。だって、俺はプロフェッショナルだからね。プロのファイターならベストイベントに出ることを心がけるのは当然だろ。だから、そのあと『PRIDE』がUFCのオーナーであるロレンゾ・フェティータに買収されたとき、俺は「UFCに出るチャンスだな」って思ったんだ。

——『PRIDE』がきっかけになったわけですね。

ショーグン　もちろん、そのときは『PRIDE』がなくなってしまうとは思ってなかったよ。「『PRIDE』で闘いながらUFCにも出られるな」って思ったぐらいだったんだ。だから、『PRIDE』のリスタートには期待していたんだけど……。いまのところはUFCと4試合契約を結んでいる状態だね。

——新生『PRIDE』からは、何かオファーはありませんでしたか？

ショーグン　正直に言うと、何も連絡はないんだ。『PRIDE』が活動していないと

いう事実は悲しいかぎりだ。だって俺を世界的なファイターにしてくれたのは『PRIDE』だからね。でも『PRIDE』がまた復活すると信じている。ダナ・ホワイトも会見で「『PRIDE』とUFCの〝スーパーボウルマッチ〟を実現させる」って言っていたし。それに、日本には熱狂的なMMAのファンがたくさんいる。だから、また再開されると思うし、ただ時間の問題じゃないかなって考えているよ。

――05年の『ミドル級GP』の覇者である以上、UFCには『PRIDE』の顔として参戦することになりますが、そういった重圧は感じますか?

ショーグン　プレッシャーはまったくないよ。ただ、『PRIDE GP』のチャンピオンとしての責任は自覚している。〝ナンバーワン〟の肩書きを背負う以上、それを肝に銘じてハードトレーニングを積んでいるよ。

――いい意味での緊張感ですね。

ショーグン　俺は決して慢心しないんだ。常にベストを尽くさないと、どんな相手にも勝てない。それがMMAで、決して甘いスポーツじゃない。

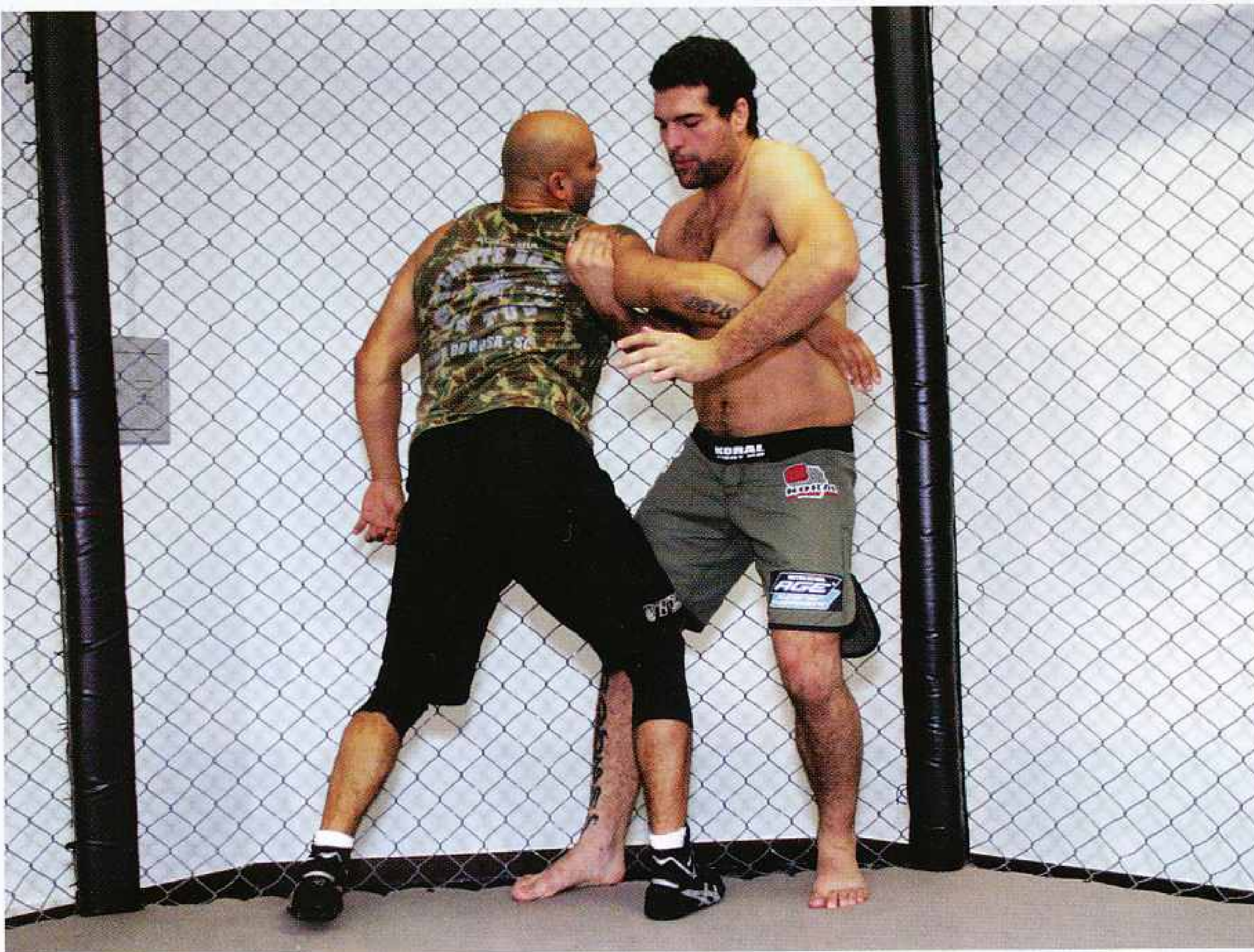
――とくにUFCデビュー戦の相手は、UFCの新鋭、フォレスト・グリフィンですからね。

ショーグン　彼の試合を実際に観たことはないけど、タフなストライカーだということは知っている。アメリカでは有名なファイターだからね。

――グリフィンはなんといっても大ヒットリアリティショー『TUF』の第1回優勝者ですもんね。

ショーグン　ダナ・ホワイトには感謝しているよ。彼みたいな〝エース候補〟と闘えるなんてね。これで俺も一気に注目を浴びることになる(笑)。

――ミルコやノゲイラのUFCデビュー戦のときでさえも、彼らのカードは第一弾に発表する〝メインカード〟扱いではなかったのに、ショーグンvsグリフィンはチャック・リデルの復帰戦と並んで大会の目玉として大々的に発表されてます。

ショーグン　ああ、いきなりの大チャンスだ。この闘いを制して、アメリカのファンの大歓声を浴びる姿をイメージしながら、集中してトレーニングを積んでいるよ。

――ネットのウワサレベルだと、当初、LYOTOとの対戦になるのでは、と見られていましたよね。

ショーグン　そんな話もあったね(笑)。あちこちのメディアから電話がかかってきて、「本当か?」って聞かれたけど、そんな話は俺自身も聞いてなかったし、ビックリしたよ。だいたいUFCと契約を結ぶ前だったからね。

――ダナじゃないけど「ネットはウソばかり書いてあるから見るな!」と。

ショーグン　そういうこと!(笑)。LYOTOはシュートボクセにトレーニングに来たこともあったし、個人的には好きなファイターだよ。闘い甲斐のある強い選手だしね。でも俺にとっては、やっぱりグリフィンだね。彼ぐらいよく知られている選手のほうが俺にとってはいいよ。勝てば、即タイトル戦ってムードにもなるだろう。

――現在のUFCライトヘビー級王者は、『PRIDE』で一度勝っているクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンですからね。

ショーグン　彼は優れたファイターだよ。『PRIDE』ではみんなを叩きのめしている。ただ、俺とヴァンダレイ(・シウバ)を除いてはね(笑)。

――UFCで行なわれた、チャック・リデルとのタイトルマッチは観ましたか?

ショーグン　ああ、観たよ。ランペイジが勝ったのは予想どおりだった。でも、あんなに簡単に勝つとまでは思わなかったね。でも、あの結果が『PRIDE』とUFCのレベルの差を表わしているよ。

――ランペイジは『PRIDE』を離れてから、ジョシュ・バーネットと一緒にトレーニングをしたり、ボクシングスキルも上がっているようですが。

ショーグン　そうとは思わないな。彼はもともと強い。『PRIDE』でリデルやヒカルド・アローナ、イゴール・ボブチャンチンをKOしたときからね。でも俺が見るかぎり、彼が成長した形跡は見当たらない。つまり、俺ともう一度闘うことになっても結果は同じってこと。

――9月8日のロンドン大会では、ヴァンダレイからベルトを奪ったダン・ヘンダーソンがランペイジと闘いますが。

ショーグン　いい試合になると思うけど、これもランペイジが勝つだろうな。これで俺がグリフィンに勝ったら、俺に一度負けているランペイジは俺の挑戦を受けてくれないとね。もしヘンダーソンが勝つことになっても、ヴァンダレイのリベンジをはたしてから、タイトルに挑戦させてほしいけど。

――ほかにUFCライトヘビー級で気になる選手はいますか?

ショーグン　(即答して)ティト・オーティズ!

――えらい勢いですね。またなんで、あのバッドボーイを?

ショーグン　アイツは以前、「ブラジルみた

Mauricio Shogun

©Josh Hedges (UFC)

日本での知名度こそ低いものの、第1回『TUF』優勝者で、アメリカでの人気はリデルやティトをも凌ぐグリフィン。『UFC72』でヘクター・ラミレスを危なげなく下して、再びタイトル戦線に名乗りを挙げている強豪だけに、ショーグンへの期待度も相当なものと言える。

俺を世界的なファイターにしてくれたのは『PRIDE』。グランプリチャンピオンとしての責任を背負って闘うよ

いな発展途上国から来たファイターには負けない」と発言しやがったんだ。だからUFCとの契約を結ぶためにダナ・ホワイトに会ったとき、「ティトとやらせてくれ！」ってお願いしたんだ。

――いきなり直訴しましたか！（笑）。

ショーグン　でも「ティトは（7月の『UFC73』で）試合をしたばかりだからムリだよ」と断られてしまったんだ。彼がどんな悪態をつこうが、個人的には気にしないけど、俺の愛するブラジルの悪口だけは許さない。あの減らず口を封じてやりたいね。

――相当、怒っているようですね。ところで、ひさしぶりのオクタゴンでの闘いになりますが（03年9月、IFCデンバー大会に出場。ワンナイト・トーナメントで初戦を突破するも、準決勝でレナート・ババルに一本負け）、UFCルールに対して不安はないですか？　たとえばミルコはルールに適応しないまま2戦目で敗れてしまったわけですが。

ショーグン　まったく問題ないね。新しいルールでのトレーニングは積んでいる。それにサッカーボールキックやストンピングが使えないのは残念だけど、ヒジはもともと得意なんだ。シュートボクセはムエタイが原点だし、俺はそこで15歳のときからムエタイの指導を受けているからね。そしてミルコについて言えば、UFCルールでは厳しいだろう。なぜなら彼は柔術ができない。打撃とレスリングスキルしかないファイターは、『PRIDE』と違って、「ストップ・ドント・ムーブ」のないオクタゴンの中じゃ生き残れないのさ。とくにUFCではグラウンドでのエルボーが有効だから、下のポジションになってしまったときは、オープンガードから技を仕掛けて脱出しないといけない。

――寝技はお兄さんのムリーロ・ニンジャと一緒に練習しているそうですね。

ショーグン　そうさ。アニキはシュートボクセの中でもMMAのグラップリングでは抜群に強いんだ。それにアニキはケージ・レージに定期的に参戦していて、金網でのグラウンドをよくわかっている。彼とのトレーニングはホントにタメになるよ。

――そういえば、ニンジャはトランス・ミュージックにハマっているみたいですけど。

ショーグン　そうなんだ。まぁ、そのタイプの音楽はブラジル全土で流行っている。俺はあんまり好きじゃないのに、アニキだけじゃなくて、さらに弟のショーリンまでハマっていて困ってるんだ（笑）。ショーリンが俺の入場曲を選んでいた頃は、やたらアゲアゲでさ。

――イメージに合ってましたけど、じつは嫌いだったんですか（笑）。

ショーグン　だから、いまはローカルのバンドが俺のために作ってくれた曲を使うようにしたんだ。

――あとショーグンさんは近々、ご結婚されるとか。

ショーグン　そうなんだ。付き合ってまだ1年しか経っていない彼女なんだけど、9月1日に結婚式を挙げることになったんだ。

――おめでとうございます！　しかし、試合直前に結婚式なんか挙げて、トレーニングは大丈夫なんですか？

ショーグン　問題ないね。ウエイトトレーニングや水泳、そして柔術とムエタイの練習をこなして、キッチリとコンディションは作っているよ。俺を応援してくれている彼女のためにも頑張らないとね。

――家族とともに移住することになったシウバのように、いつかは彼女と一緒にアメリカに行くこともありますか。

ショーグン　それはいまのところ考えてない。シュートボクセの本部はここだし、ここにいることが一番強くなる方法だから。ヴァンダレイが去ってしまうのは、彼を慕っている多くの仲間たちにとって悲しいことだけど、俺は彼の決断をリスペクトしているし、彼ならアメリカでシュートボクセ・イズムを広めてくれると信じているよ。俺も彼に負けないように、試合でシュートボクセの凄さを見せつけてやるさ。

――では、新天地でのご活躍を期待してます！

【07年8月1日／ブラジル・パラナ州クリチバにて収録】

MAURICIO SHOGUN■1981年11月25日、ブラジル・パラナ州クリチバ出身。無尽蔵のスタミナとストンピングを武器に、03年10月に『PRIDE』参戦以降、怒濤の8連勝で05年の『ミドル級GP』を制覇。そのアグレッシブなスタイルは『PRIDE』の二度にわたるアメリカ大会でも人気を博した。来月結婚するヘナータさんとの出会いは、犬の散歩中でのナンパ。182cm、92.9kg。

シュートボクセはどこへ行く!?

ブラジル最強軍団トップが、UFC参戦からシウバの“卒業”、BTT離脱騒動までを激白!!

「シウバについて私が言えることは何もないよ」

フジマール・フェデリゴ

［シュートボクセ・アカデミー会長］

ヴァンダレイ・シウバ、マウリシオ・ショーグンという二大ミドル級王者を擁し、最強軍団として『PRIDE』を支え続けてきたシュートボクセに変化のときが訪れている。ショーグンはUFCのトップ戦線に殴り込み、ヴァンダレイは新たなるチャレンジを求めてアメリカ移住を表明。もう一つの名門ブラジリアン・トップチームが離脱騒動に見舞われる中、同じく『PRIDE』というホームリングを失ったシュートボクセはどこへ向かうのか？　揺れるフジマール会長の胸の内を読み解け!!

聞き手／アンドレイ・カレンズバーグ　撮影／乾晋也　構成／上杉再現V

――ヴァンダレイ・シウバとマウリシオ・ショーグンがUFCで闘うことになったわけですが、シュートボクセと『PRIDE』の関係について教えていただけますか？

フジマール　『PRIDE』とは常によい関係を築いてきた。彼らがまた大会を開催するというのなら、シュートボクセは彼らに全面協力するつもりだよ。

――ショーグンのUFC参戦はいつから交渉していたんですか？

フジマール　数ヵ月前ぐらい前からかな。じつを言うと、すべての交渉は『PRIDE』にお膳立てしてもらっていたんだ。3月にミスター・サカキバラ（榊原信行）がブラジルに来て、『PRIDE』だけではなくUFCでも闘える契約を結んだ。そのあと先週になって、ショーグンとラスベガスに行って、UFCと新しい契約にサインしたのさ。

――ショーグンは9月大会出場が確定したわけですが、アメリカ移住に伴ないシュートボクセから独立したかたちになるヴァンダレイはいつUFCに上がることになりそうですか？

フジマール　それは私にはわからない。彼がいつ試合をするのかハッキリと言わなかったからね。そして、それは彼自身が決めること。彼のこれからのキャリアのことも含めてね。私が彼について言えることは何もないんだ。

――ヴァンダレイが向かうアメリカではMMAが大ブレイクしていますが、いまのブラジルのMMAシーンもこれまでにない勢いで成長しているように見えます。

フジマール　シーンは確かに大きくなっているよ。アメリカにはかなわないけどね（笑）。MTLという新しいチーム別対抗戦も始まったし。

――“ブラジル版IFL”と呼ばれる、リーグ戦形式の団体ですね。ヴァンダレイやムリーロ・ブスタマンチ、ペドロ・ヒーゾ、アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラといったビッグネームが、それぞれのチーム監督に就任していますが。

フジマール　このイベントはブラジルに新しい流れをもたらしてくれると期待しているよ。若いファイターたちにとっても、試合の機会が増えるのはいいことだと思うしね。ただ、そのチームの監督だったヴァンダレイがいなくなってしまう。たぶん、ショーグンが跡を継いで監督に就くことになるが、まだどうなるかはわからない。

――ヴァンダレイがアメリカへ行くことについては実際、どう思っているんですか？

フジマール　普通に考えれば、当然のことだと思うよ。チームとしては何も変わらないさ。（シュートボクセ）アカデミーの目標はこれからも変わらないよ。

――ブラジルのもう一つの名門、ブラジリアン・トップチーム（BTT）の有力選手が何人かチームを離れたことについてはどう思いますか？

フジマール　とても残念だよ。私はチームをずっと守ってきた人間だから、ファイターがチームを離れることについては同意しがたい。こっちでトレーナーをつけて、また別の場所でもトレーナーをつけてという考え方にはね。チームで哲学を共有するのはとても大事なことなんだ。BTTは最も大きなチームだったが、これからも強いチームであり続けてほしいよ。BTTが消滅したら、“シュートボクセvsBTT”というMMAクラシックができなくなる。ファンはこの2チームの対戦を楽しみにしていたんだからね。

――『PRIDE』が休止している日本のマーケットについてはどう見ていますか？

フジマール　日本のマーケットは素晴らしいよ。『PRIDE』が活動を休止しても、日本人たちは立派なMMAイベントをやり続けている。『PRIDE』が復活して、また日本が世界でもナンバーワンを争う強い市場になることを期待しているよ。

【07年7月29日／ブラジル・パラナ州クリチバにて収録】

いまだに続く不気味な沈黙

「PRIDE、もう終わっちゃったのかな?」

「まだ始まってもいねぇよ!」

PRIDEリターン座談会

『PRIDE』はいったいどうなってしまうんだ〜ぁ!?(セレブ小川へのヤジ調)。いまだ再開の足音が聞こえてこない『PRIDE』。そのためマット界の裏側ではさまざまな情報が錯綜、トンデモ検証までもが行なわれている。なにしろ「『武士道』が名古屋でやっていた意味がわからない」などと口にするマスコミがいるから磁場は狂っているのである。そんなのDSEの本拠地だったからだろ。というわけで、今後の展開を探ってみました!

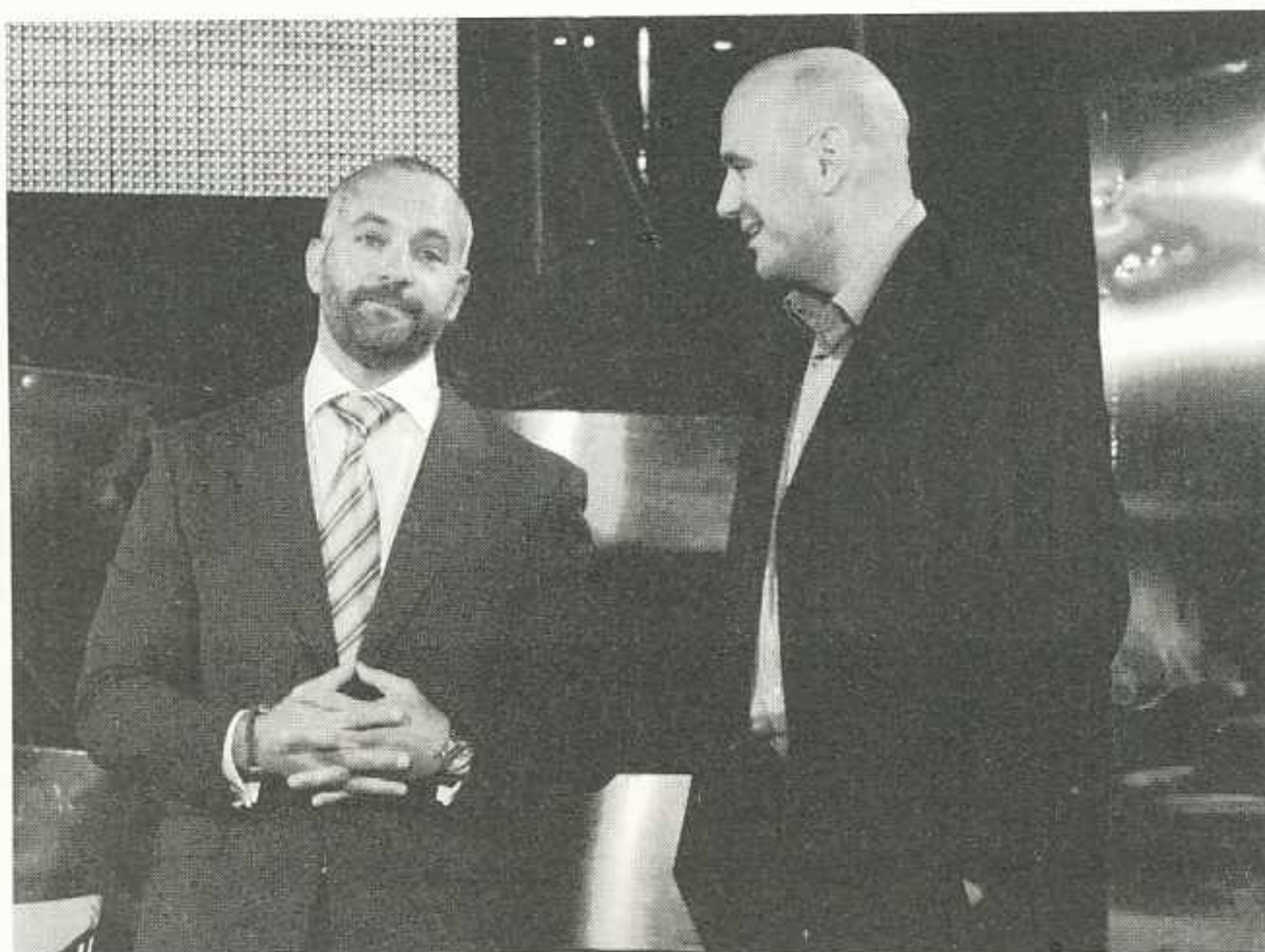
ジャン斉藤（以下、ジャン） どうする！ どうなる⁉『PRIDE』！ 今回はマット界の裏側で何が起きているのかを語ろうと、超事情通の方をお招きしましたよ。
堀江ガンツ（以下、ガンツ） えっ⁉ 超事情通って、もしかしてバウレビの井田（英登）さんの〝盟友〟矢作祐輔さん⁉
ジャン 違いますよ！ だいたい、そんな人、本当に実在するんですか⁉
ガンツ さぁ？（笑）。
超事情通Z（以下、Z） ちなみに俺は実在するよ（笑）。
ジャン あ、ご紹介が遅れました。今回、いろいろしゃべっていただく「超事情通Z」さんです。とある事情でこの業界の裏側に精通されているんですね。
Z 一応（笑）。なんか、最近はいろいろ情報が飛び交っていて、井田氏も混乱するのはわからないでもないけど。『kamipro』みたいな〝変態〟の趣味が高じて作っている雑誌はともかくさ、その井田氏の記事が掲載されている『All about』って上場企業なんだから、しっかりしないと。
ジャン はあ。まあ、井田さんの記事にかぎらず、とにかく『PRIDE』の今後について、いろんな噂が流れているんですよ。
Z たとえば、どんな噂が流れてるの？
ジャン たとえば？ ……急に言われて困るなあ。こちとら、そんなことに振り回されているほどヒマじゃないんですよ。
Z もう帰っていい？（笑）。
ジャン 冗談です！ ええと、読者が一番気になっていることは、『PRIDE』は本当に再開するのかってことですね。
Z たぶん、やると思う。
ジャン た、たぶん？
Z やるんじゃないかなあ。ま、ちょっとは覚悟しておけ（笑）。

PRIDE再開の壁はテレビ問題ではない とんでもない“妨害”が入ったため

ガンツ さだまさしじゃないんだから！ この人、ホントに事情通なの？（笑）。
Z 冗談、冗談。いや、再開するために動いているみたいだよ、マジメな話。
ジャン でも本来ならば、5月にライト級GPが開催される予定でしたよね。
ガンツ 本当ならば、もう2回戦が終わってる頃ですね（笑）。
Z 実際問題さ、3月末の六本木会見のときには、ライト級GP開催を前提に権利譲渡の話は進んでいたんだよ。でも、その翌週にとんでもない〝妨害〟が入った。
ジャン え？ 〝妨害〟って？
Z あのね、これは匿名だろうと、ここでは明かせない。絶賛進行中の話だから、へんな波紋を起こしたくないんだよ。
ジャン ホント役に立たないなあ。原稿にしないから教えてちょ‼
Z ……ホントに言うなよ。アレがこーしてああなってこうなった‼ ……どうだ‼
ガンツ ……な、なるほど（笑）。
ジャン 確かに明かしたら面倒くさい……だけども！ ♪そんなの関係ねえ‼ そんなの関係ねえ‼（小島よしお調）。
Z 関係オオアリだろ！ おまえ、ホントに書くなよ！（笑）。
ジャン しかし、そこまで『PRIDE』に復活してもらいたくない人って誰だろう？
Z 知らないよ、誰だか。それこそその〝妨害〟のために、再開までもの凄く時間がかかっているのは確かだよ。
ガンツ そんな〝妨害〟があるならロレンゾからすると、焦って『PRIDE』をやるんなら……って感じですよね。
ジャン でも、ちょっと待ってください。UFCのダナ・ホワイト代表はテレビがつかないと『PRIDE』は再開できないと言ってますけど、いまの話だと再開の壁はテレビじゃないみたいですね。
Z テレビもある程度は関係あるよ。
ジャン 関係はあるけども、もともと『PRIDEライト級GP』はノーテレビでやる予定だったということですよね。
Z おそらくね。彼らはすぐに地上波がつくと思ってたんじゃないの。会社がリニューアルしてまっさらに生まれ変わったら大丈夫だろう、と。彼らからしたら、日本でUFCも『PRIDE』も放送したいんだよ。アメリカと同じようにPPVに加えて地上波でお金を稼ぐ構造が理想的だから。
ジャン それなのに、日本でPPVですらUFCを放映できていないのは、どういう問題があるんですかね。
Z 要は、どんなかたちになろうが『PRIDE』とセットで売りたいんだよ。
ガンツ まあ、UFCのPPVだけを始めても、大きな利益にならないんでしょうね。
ジャン じゃあ、『PRIDE』が再開されないかぎり、UFCも観られないという、寂しい現状は続くのかあ。ところで地上波獲得の進捗状況というのは？
Z さあ。これも状況はよく見えないけど、劇的には進んでないことは確かでしょう。進んでいたら、俺のところにも情報が入るはずだから。
ジャン しかし、どんなに話が進んだところで、いきなりゴールデン枠でやるのはけっこう厳しいだろうなあ……。
Z だろうね。テレビ局とすれば、新規の外資企業との取引になるわけだから。とりあえず深夜枠で実績と信頼を積むようなところから始めなきゃいけないかもしれないし。それにさ、ここ最近のK―1や『HERO'S』はかつてと比べると視聴率が伸び悩んでいるからね。そういうデータも参考資料になっちゃうんだ。
ジャン 格闘技はこれしか数字が獲れないんだって判断されかねないってことですね。
Z だから、『PRIDE』地上波再開の鍵は、『HERO'S』の頑張りにもかかっていると言えるんだよ。

ダナ・ホワイトと『PRIDE』

ガンツ 『PRIDE』ファイターたちの現状はどうなんですか？ 移籍話はいろいろ出てますけど。
Z 再契約したいという選手もいれば、リリースしたいっていう選手も当然いる。
ガンツ じゃあ、『PRIDE』と再契約しちゃった選手は……、『PRIDE』が再開されるまで試合ができないという状況？ なんて放置プレイだ（笑）。
Z 基本的にはそうだけど、まあ、中村カズみたいに『PRIDE』が橋渡しをして、UFCに上げたりはできるんだろうね。
ジャン 問題なのは、『PRIDE』から何も見解が発表されないことですよ。
Z それは〝妨害〟のためにまだ運営組織そのものができあがってないんだから、見解を発表しようにもできないんだろうね。
ジャン 『PRIDE』はまだスタートラインにすらついてない、と。
ガンツ 「『PRIDE』、終わっちゃったのかな……？」「まだ始まってもいねえよ‼」っていう（笑）。
ジャン ま、映画はそのシーンでオシマイなんですよ（笑）。ただ、聞くところによると、榊原代表がロレンゾと話をする中で、絶対に譲らなかったことが二つあるって聞いてるんですよ。一つは、社員の再契約。もう一つは『PRIDE』を止めないこと。
Z だから再開しなきゃならない。新社長も内定はしているけど、新組織のお披露目の前には発表はできないみたい。

ジャン 『GONKAKU』に名前が出ていたジェイミー・ポラック氏ですよね。彼はどういう人なんですか？
Z どこだか忘れたけど、3大ネットワークのテレビ局に勤めていて、弁護士の資格も持っているみたいだね。ただ、格闘技はそんなに詳しくないみたい。
ジャン そういった経歴だから、海外にいる関係者からすれば、「ジェイミーを頭に据えるということは、『PRIDE』を再開するつもりはないんじゃないか？」って話になってるんですよ。
Z 確かに。そういうふうに受けとめるのは不思議じゃないよ。
ジャン いまはスポークスマン的な立場の人間もいないわけじゃないですか。代わりにダナ・ホワイトがいろいろと語っている現状があって。
ガンツ ダナはUFCの会見のたびに記者から同じことを聞かれてるよ。「『PRIDE』はいつ再開するんだ？」って（笑）。このへんは憶測ですけど、ダナは『PRIDE』に関わってるんじゃなくて、関わりたいんですよね？
Z やりたいんだろうねえ。彼のインタビューを読むたびに「触らせろ！」という思いがビンビン伝わってくる（笑）。
ガンツ ただ、ダナは『PRIDE』の株も持ってないし、経営参加するようなことは契約にも入ってないのは確かなんですよね。
Z うん。そこは本当に関係がないらしいんだよ、ダナは。榊原代表からすれば、『PRIDE』の世界観を守ることを考えると、ズッファに売れば『PRIDE』はUFCの傘下になる。ただ、そうはさせたくなかったからロレンゾに売ったんだろうけど……。
ジャン でも、結果的にはズッファに売ったほうが……。
Z 皮肉な話。ズッファ主導でアメリカ市場がメインになったろうけど、再開は早かっただろうね。
ジャン プロエリートやボードッグ、エド・フィッシュマンに売っていたら？
Z 知るかよ!!（笑）。ただ、プロエリートやボードッグも興行のノウハウがしっかりしてないからなあ。エドにしてもどーやってやるの？ って感じでしょ。日本で開催することは永久になかった可能性はおおいにあったよね。
ジャン いまのダナの立場からすると、できることは『PRIDE』に上がれない選手をUFCに参戦させることしかできない？
Z それしかない。だから、それは榊原代表からすれば「約束が違うじゃん！」みたいな感情は当然あると思うよ。でもさ、ダナからすれば、UFCの利益を優先しているだけの話だから。放っておいてボードッグに取られたらどうするの？ って感じだろうし。
ジャン ちなみに『PRIDE』のマッチメイカー候補はすでに挙がっているんですか？
Z ダナは全部自分でやりたいんでしょ。ジョー・シルバにマッチメイクをさせて。
ジャン シルバはUFCのマッチメイカーですよね。それって完全なるズッファ体制ってことですか？
Z そうそう。自分たちでマッチメイクをすることによって、UFCに見返りがあったりするわけじゃん。世界の格闘技を完全にコントロールしたいっていうことだよね。ただ、ダナもシルバも格闘技にはホントに詳しいけども……。
ジャン 日本向けのマッチメイクができるかといえばクエスチョン？
Z そうだねえ。だってさ、ノゲイラvsヒースの3回目を組むんだよ。いくらアメリカのファンは観てないとはいえさ（笑）。
ジャン アジアの大ヒット映画をリメイクしてるようなもんですよ、あれ（笑）。
ガンツ じゃあ、来年あたりは3回目のヴァンダレイvsランペイジかな。どっかで観たことある試合が次から次へと（笑）。
Z まあ、『PRIDE』に関して言えば、"妨害工作"をなんとかして新組織のかたちは決まれば動けるわけだから。
ジャン だいたい、どのくらいの時期に再開すると思われますか？
Z 早くても年末じゃないの。大晦日。
ジャン となると、遅くとも10月にはすべてを発表しないとマズいですよ。

ロレンゾへの影響力はあるものの、『PRIDE』への直接的な経営はできないらしいダナ・ホワイトUFC代表。たしかに役員なりで経営に参画していたら、もう少しブランド性の保持に目を向けるはずだが、現状の「PRIDEのものは俺のもの!!」なジャイアンイズムは炸裂し続けるだろう。

ダナのインタビューからは「『PRIDE』に触らせろ！」という思いがビンビン伝わってくる

Z そう。大晦日を見据えると、内部を固めるタイムリミットは9月末頃でしょう。
ジャン 10月11日に再開会見があったりすると、けっこうドラマチックだけどなあ。
ガンツ ねえ。そういう感覚って我々は共有できてるじゃないですか。でもアメリカ人からすると、「なんで？」ってなるわけですよ。先月号でダナにインタビューしたときに「10月11日で『PRIDE』は10周年なんです」って言ったら、「そうなのか。それは興味深いな」とか言いだして（笑）。
Z そういう思い入れをかたちにするのが醍醐味だったりするんだけど、そういう感覚があんまりないんだろうね。

加藤専務の去就

ジャン ところで、ウェブで話題になった『PRIDE』の加藤（浩之）専務の去就なんですけど。
Z 辞めてないでしょ。
ジャン そうですか。いや、ボクが「辞めてない」って携帯サイトで書いたらいろいろ反響があったんで。
Z でも、井田氏がウェブで書いた記事には「加藤専務が辞めた」とは書いてないだろ。「離れた」だろ。
ジャン えぇ〜〜〜!? そんな『とんち番長』みたいな話なの？ じゃあ、井田さんへの謝罪の意を込めて頭を丸めますよ！
Z おまえ、もともと坊主だろ！ まあでも、そんなの『PRIDE』の新会社に電話して「加藤さん、いますか？」って尋ねれば、5秒で済む話でしょ。
ジャン 井田さんは加藤専務が離れて、新しいプロモーションを立ち上げるんじゃないかっていうニュアンスで書いてますね。近所の『PRIDE』フリークの小学生も「加藤専務がキーマンだね」って得意げに言っ

てますよ（笑）。

Z つーかさ、「新しいプロモーション」を立ち上げるって、そんな簡単なことじゃないでしょ。さっきも言ったけど、新会社に電話をする程度のこともしない上で成り立っている推論なんじゃないの。ありえないと思うけどなあ。

ジャン では、加藤氏はどうするんですか？

Z 変わらず『PRIDE』をやっていくんじゃないの。そもそも彼なしで大会は成り立たないでしょ。それこそ、あの規模の大会を末端まで含めると2000人からの人数を束ねてやってたわけだから。

ガンツ 要は映画監督と一緒ですよね。監督が変わったら、同じ脚本でも内容が変わっちゃう。

Z だから、加藤氏は『PRIDE』の組織が変わろうが、絶対に必要な人の一人だと思うけど。

ジャン では、GM（笹原圭一氏）は？

Z ああ、笹原氏。いつ首を切られるのかって、戦々恐々としてるんじゃないの（笑）。

ジャン そうか。じゃあ、今後の付き合いを変えたほうがいいかもしれない（笑）。

『HERO'S』と『PRIDE』

ジャン そういえば、〝煽りVアーティスト〟佐藤大輔さんがテレビ朝日でバラエティの総合演出をやるみたいですね。

Z 髙田本部長も出るし、ケイ・グラントやレニー・ハートも出るし。もろ『PRIDE』の世界観が展開されるらしいね（笑）。

ガンツ 要は設定はすべて『PRIDE』なんだけど、闘う〝競技〟がMMAじゃなくて、お笑いってことですね（笑）。

ジャン もう、その番組を『PRIDE』として楽しむしかないのかなあ……。話は変わりますけど、『HERO'S』のビッグサプライズって、噂どおり『PRIDE』関連だったんですか？

Z おそらく五味（隆典）選手のことでしょ。でも、いろいろと難しかったなんじゃないの？ あとはソクジュとか。

『PRIDE』の停滞によって、多くのファイターがさまよい、または新天地を求めて旅立っている。この10年間にわたって時代とマット界を牽引し続けた奇跡の団体に、再びファイターを集結させることはできるのか？ いや、首根っこをつかんででも、ファンとファイターを振り向かせるのが〝義務〟だ!!

ジャン ロシアン・トップチームのパコージン総監督が来るんじゃないかっていう噂もありましたけど。

Z まあ、五味選手はともかくとして、ハリトーノフとソクジュなんて、『HERO'S』の客は誰も知らないだろうけど（笑）。

ジャン ソクジュならアッカで充分ですよね。日本語もしゃべれるし（笑）。

PRIDEの再開は早くとも今年の大晦日 そこがズレたら一発目はアメリカの可能性も

ガンツ だから俺が思うに『HERO'S』の〝リニューアル〟を狙ってるんだと思う。『HERO'S』の『PRIDE』化というかさ。もしかしたら、来年から名前も変わったりするんじゃない？

ジャン でも、『HERO'S』が〝PRIDE価格〟のギャラを払えるかといったら……。

ガンツ そこは不思議だよね。五味にソクジュにハリトーノフ、参戦が発表されたミノワマンでしょ。ワンマッチ100万ドルのヒョードルも『HERO'S』は狙っているという話だけど。

ジャン だって『PRIDE』にはたまアリがフルハウスになるゲート収入があって、なおかつPPV収益と地上波の放映権料があったわけですよ。

ガンツ それでもファイトマネーが高くてギリギリの経営だったわけだから。

ジャン だから、『HERO'S』の『PRIDE』化は、テレビ局やスポンサーへのアピールも含まれているのかもしれないですね。これから『PRIDE』の選手がたくさん来ますから！ という。

Z それはあるだろうね。格闘技番組ってホントお金がかかるから、テレビ局やスポンサーからすればそれなりの材料はほしいでしょ。だって、テレビ局の効率的には、安上がりで数字が獲れるバラエティ番組のほうがいいってなっちゃうよ。

ガンツ つまり、テレビ朝日の〝PRIDEバラエティ〟は間違いじゃない（笑）。

ジャン まあ、『HERO'S』にしても9月大会は大きなポイントではありますよね。で、『PRIDE』は大晦日開催がズレたら……どうなると思います？

Z 大晦日じゃなきゃ、一発目はアメリカでやるっていう選択肢もあるだろうね。

ジャン もしそうなったら、ファンの観戦ツアーは大変な人数になりますよ！ ホントの〝密航〟だし（笑）。

ガンツ しかし、わずか1年前までは格闘先進国だったはずなのにねえ……。

ジャン ですよねえ。12月27日にUFCでリデルvsヴァンダレイをやるみたいですけど、それも観られないという。我々が一番、楽しむ権利があるのに。

Z ホント、そうだよな（笑）。

ジャン ノゲイラvsミルコの再戦だって、俺たちが一番、楽しめるんだよって（笑）。

ガンツ でも、いつの間にか現実はYouTubeで映像を観るという。しかも削除される前に慌ててね（笑）。

ジャン ああ、なんとか大晦日に復活してほしいなあ。『PRIDE』が大晦日にやらなかったら、たまアリは『Dynamite!!』がやりますかね？

Z いや、オタクの知り合いが狙ってるんじゃないの？

ジャン 知り合い？ 誰？

Z 『ハッスル』!!（笑）。

ジャン ああ、『ハッスル』社長の山口日昇さん（笑）。

ガンツ いやあ、実現したら、ガラガラだった『ハッスル1』以来の恐怖のスタジアムバージョンですよ（笑）。

ジャン まあ、何があっても本部長は太鼓を叩いてほしいなあ。

Z つーか、『ハッスル』がMMAイベントを立ち上げればいいじゃん。あの人なら『PRIDE』の世界観もよく理解しているし。

ジャン ……そ、それだッ!!

Z いや、そこまで力を込めて納得する話じゃないだろ（笑）。

ジャン それくらい『PRIDE』に餓えてるんですよっ!!

【07年8月某日／六本木ヒルズのカフェにて収録】

締め切り直前!!
超緊急ニュース!

9.17『HERO'S』にミノワマン参戦!!
大物PRIDEファイターも続々登場!?
HERO'Sが"PRIDE"に!?

『PRIDE』沈黙!! ♪でも、そんなの関係ねえ!!……と、海パン姿の谷川さんのシャウトが聞こえてくる!? あの『HERO'S』が、"PRIDE"化を図ろうとする動きが見えるのだ。

ご存知のとおり、今年4月以来、まったく動きを見せない『PRIDE』であるが、そんな中、PRIDE系ファイターはUFCをはじめとする他団体に戦場を移すという状況が続いている。その一端として、地上波放送の枠を持つ大規模MMAイベント『HERO'S』への参戦を示唆&噂されるファイターも数名ほど……!!

そうこうしているうちに、8月14日の会見ではなんと! あの『PRIDE』を盛り上げまくってきたミノワマンの『HERO'S』参戦が電撃発表!! 谷川FEG代表によると「『PRIDE』さんともお話しさせていただきましたし、揉めることなく決まりました」ということで、難なく話がまとまった様子。ミノワマン自身も「我々ファイターは、いい環境、いい対戦相手と闘いたいだけなんで」とコメントし、この日発表されたハレック・グレイシー戦については「俺はプロレスラーだ! ……それだけです」と、いつもの"ミノワマン節"を炸裂させたのだった。さっそく"マイワールド"全開!!

しかし、どうやらPRIDE系ファイターの『HERO'S』参戦はミノワマンだけではないようなのだ。それは、谷川代表の意味深な発言からもうかがえる。

「PRIDE系の選手の売り込みは日本人が10人以上、外国人も10人以上来てますからねえ。選手は試合をしてナンボ。やる気がある人がいたら遠慮しないで、もお、どーんどん名乗りを挙げてくださいねえ〜」と参戦を呼びかけ、「今度は『PRIDE』っぽいカードを組む」と『HERO'S』の"PRIDE化"を明言!

ただ、谷川代表といえば、過去のインタビューで「今回はさあ、『PRIDE』みたいなカードを組もうと思ってるんだよね〜。たとえばさあ、ニンジャvsボビーとか!!」と言ってるように、ミステリアスなカードを大プッシュしたりするような"PRIDE"観を持っているだけに、今後の『HERO'S』がいったいどんなリングになるのか、フタを開けてみなければわからない……?

でも、そんなの関係ねえ!! そうこうしているうちに、なんと誰もがたまげる"超ビッグネーム"の参戦 or 対戦カードが発表されるという情報も!! 締め切りの都合上、残念ながらここでお伝えすることはできないが、きっと本誌が発売されている頃には、とんでもない"『PRIDE』っぽいカード"が実現していることだろう! どーですか? お客さん!!

『HERO'S』
ミドル級世界王者決定トーナメント決勝戦
神奈川・横浜アリーナ
日時／9月17日(月・祝) 試合開始／16:00(開場15:00)

[対戦カード]
【スーパーファイト】
ミノワマンvsハレック・グレイシー

【ミドル級最強王者決定トーナメント準決勝】
J.Z.カルバンvsビトー"シャオリン"ヒベイロ
宇野薫vsブラックマンバ

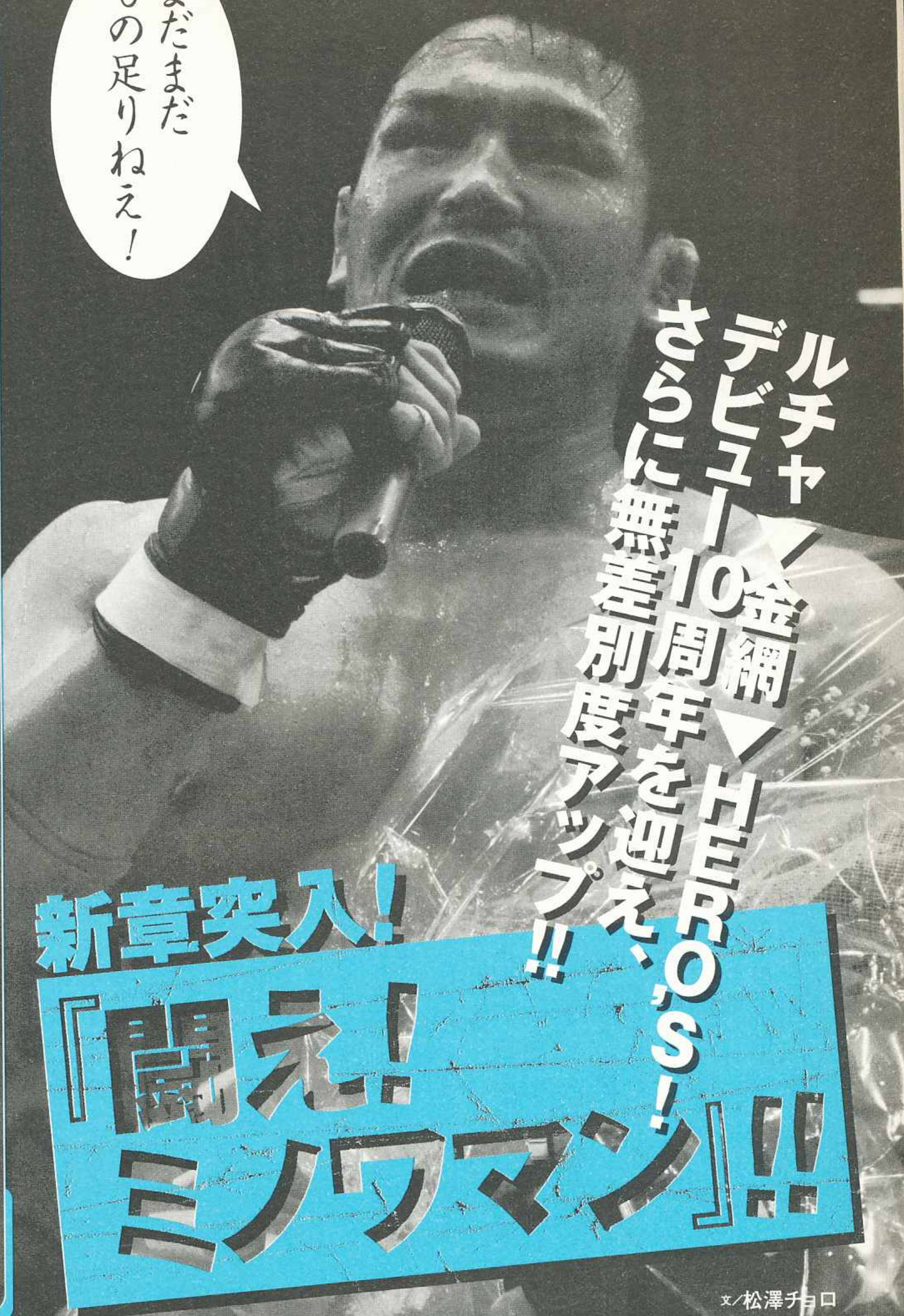
[チケット料金]
※全席指定・税込
SRS席 25,000円／S席 15,000円／A席 6,000円

[問い合わせ]
『HERO'S』実行委員会／TEL.03-5775-5064

まだまだ
もの足りねぇ！

デビュー10周年記念興行のメインは当然、ミノワマン。南側客席から、おなじみのテーマ曲に乗って姿を現わすと場内は大騒ぎ！ ゴング直前のムーブだけで、もうヘブン寸前だ！

ひさびさの試合だけに「もう待ちきれねえ！」とばかりにゴングと同時に対戦相手のホ・ミンソクに突進したミノワマン。壮絶な打ち合いの末、タオル投入のTKO勝ちでヘブン！

日韓対抗戦12vs12として行なわれた今大会。大将のミノワマンの勝利で対抗戦は7勝5敗と日本の勝利！ 試合後は、こちらもひさびさとなる"S・R・F8回"で場内は大熱狂！

ルチャ▼金網▼HERO'S！
デビュー10周年を迎え、
さらに無差別度アップ!!

新章突入！
『闘え！ミノワマン』!!

文／松澤チョロ

ミノワマンの入場に興奮し、その激闘に酔いしれ、試合後は恒例の「オイ！（×8）」で場内は完全に一体化、言葉の意味はよくわからんが、ミノワマンのフェイバリット言語〝ヘブン〟の最上級〝ウルトラヘブン〟を体感した観客は大満足で会場をあとにした7・23『美濃輪育久デビュー10周年記念興行』。

昨年大晦日の『男祭り』で〝超人〟を目指し、美濃輪育久からミノワマンに改名し、4年ぶりの田村潔司戦に臨むも秒殺負け。その後、5月末にはメキシコでボクシングとルチャリブレ特訓を敢行していたというミノワマンが約7カ月ぶりにリングに帰ってきたぜ〜！

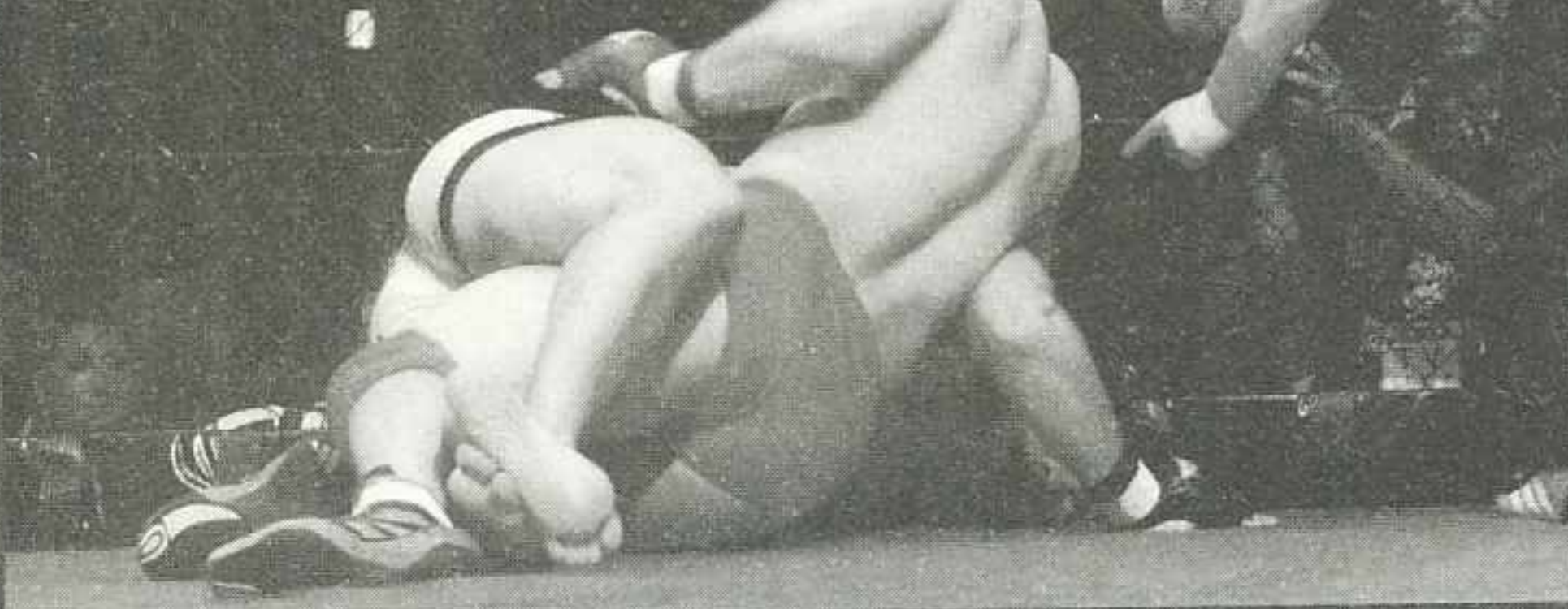
現在も沈黙を続ける『PRIDE』同様、熱狂的なファンが多いミノワマンだけに、超満員とはならなかったものの、ひさびさの試合、しかもデビュー10周年記念試合ということで場内は「うわ〜ん、うわ〜ん、待ってたよ〜！（泣）」とばかりにセミが終わった時点から、すでに異様な盛り上がりに。

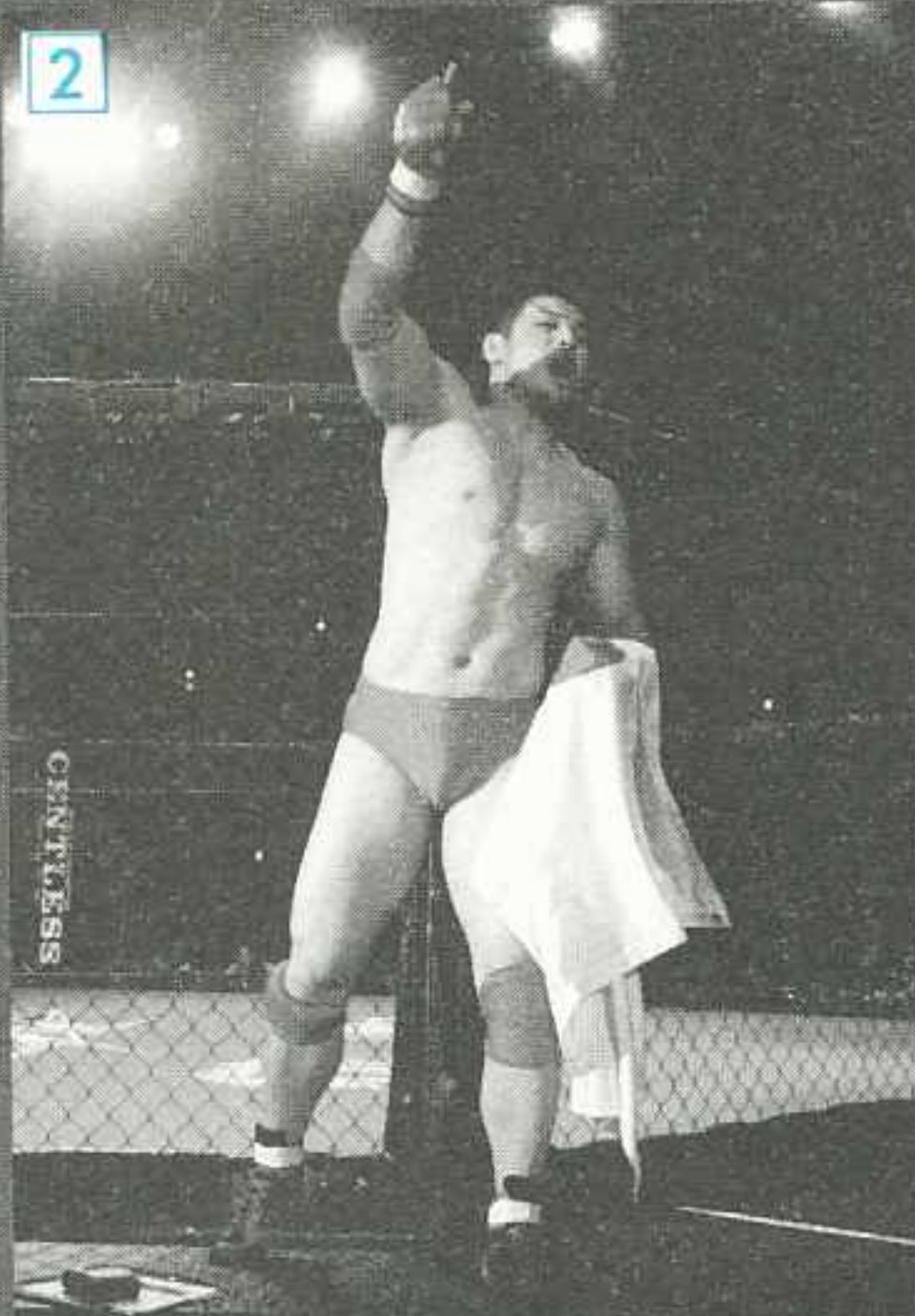
対戦相手のホ・ミンソクに続き、おなじみのテーマ曲とともにミノワマンは南側客席から登場。ファンに揉みくちゃにされながらエプロンまでたどり着いたミノワマンはメキシコ修行の成果というスペース・ローンウルフ時代の武藤敬司ばりにトップロープをつかみ一回転してリングイン。もう、そのムーブだけで会場は割れんばかりの大歓声！

試合でもミノワマンは本領発揮とも言える〝危なっかしい〟真っ向勝負を繰り広げ、場内を興奮の坩堝へと誘う。あわやのシーンにはセコンドについた盟友、滑川康仁から「オマエ、超人だろ!!」とのゲキを受け、見事に復活！ 最後は得意の足関節からパンチの連打で

8.11『HEAT4』愛知県体育館

1

これが"スーパーアームロック"だ!!

ミノワマン、ひさびさの金網で激勝！ 総合デビューのYASSHIは完敗!!

3 2

①名古屋初の金網オクタゴン大会『HEAT』のメインを務めるのは名古屋からも近い岐阜県出身のミノワマン。ブザーと同時にスンヒョンに突進したミノワマンはパンチのラッシュからテイクダウンに成功すると、実戦で極まったのは初というスーパーアームロックで秒殺勝ち！　写真ではわかりづらいが右腕一本で極めるアームロックなのだ。②試合後は「まだまだ今年、いっぱい試合しますんで」と挨拶したミノワマン。試合後は金網のエプロンサイドでの"S・R・F8回"で場内は爆発！　③この日、総合デビューとなった"brother" YASSHIは久米鷹介のチョークで完敗。試合後は「今日はこれぐらいで勘弁しといたろ！」と、らしいコメントを残したYASSHI。次はあんのか〜？

7.23「CMAフェスティバル2 美濃輪育久デビュー10周年記念大会」後楽園ホール

休憩明けにはミノワマンのかつての師匠・船木誠勝が柴田勝頼とともに来場。現役復帰を宣言したばかりの船木は「最近また再会する機会があって、一緒に練習させてもらったりしてます」とコメント。初の師弟対決の可能性はあるか？

かつての師匠 船木誠勝も来場！

セミに登場したのは負けたら引退も考えていたというミノワマンの同期・窪田幸生。判定で韓国のドゥウォンを下した窪田は「まだやれる」と現役続行宣言。翌日のミノワマンのパーティではグラップリングルールでの同期対決が実現！

ミノワマンの同期 窪田は引退撤回！

今大会のリングアナは、DEEP代表の佐伯さん。「ハム・ソヒ」や「ホ・ユン」など発音しづらい韓国人のコールに苦労しながらも、全試合リングアナを担当。本人はやる気満々で「いい仕事しますんで、声かけてください」とのこと。

なんとリングアナは DEEP代表佐伯さん！

戦闘不能に追い込み"ミノワマン"としての初勝利を挙げると、昨年11月のマイク・バートン戦以来、約8カ月半ぶりの"S・R・F8回"（※ちなみに"スタンディング・リアル・フィスト8回"の意）を観客とともに敢行！　場内はもちろん大爆発だって！

試合後の10周年記念セレモニーでは、かつての師匠・船木誠勝から花束を受け取ったミノワマンは「まだまだ、もの足りなくて、やりたいことがいっぱいあります。自分の夢を一個一個かなえていこうと思いますので、熱い熱い応援、よろしくお願いいたします！　まだまだもの足りないです。だからもっともっと15年、20年、何年になるかわからないですけど、自分の理想のプロレスラーを求めて走り続けたいと思います！　……まだまだ、もの足りないです」と息を切らしながら挨拶。とにかく、いまのミノワマンは、いろんな意味で"もの足りなさ"を感じまくっているようだ。

大会前、沈黙を続ける『PRIDE』について聞かれると「待つしかないです。お金とかじゃなく、自分は極端な話、試合をしないと生きていけないんで。試合がないと自分をどこに置いたらいいかわからないんで、闘いを一個一個クリアしてこうと思います」と、その心境を明かしていたミノワマン。

遅ればせながら今年の初試合を最高のかたちで終えたミノワマンは、試合後バックステージでひさびさの金網オクタゴンでの試合となる8・11『HEAT』名古屋大会への参戦を表明！　この大会でもミノワマンは、らしさ全開のファイトで地元からほど近い名古屋のファンを熱狂の渦に巻き込んだのだった。

それだけでは、まだまだもの足りないのか、「ミノワマン、9・8IGF名古屋大会参戦か!?」なんて記事まで一部では報道されていた。ホ、ホントかよ!?

表立って報道されてはいないが、ミノワマンのもとにはIGF旗揚げ戦への出場オファーがあったものの、「先日からのメキシコ武者修行で、本場のルチャリブレの凄さを初めて体験しました。これほどのものとは思っていませんでした。いまになって私はプロレスの奥深さと難しさをあらためて理解したのです。いまの私は猪木さんの旗揚げ大会に参戦できるレベルではありません」と出場辞退のコメントを自身のホームページ上で発表しているのだ。

そんなIGFからミノワマンへ、先の「デビュー10周年記念興行」と『HEAT』名古屋大会でアントニオ猪木名義の大きな祝い花が届いていた。どうやら、IGFではミノワマンの故郷岐阜から近い9・8名古屋大会へ再度オファーをかけている模様。キン肉マンとともに"リアルプロレスラー"としてミノワマンが尊敬してやまないアントン総帥から、あらためてラブコールを受けたかたちのミノワマン。一寸先はハプニングでおなじみのIGFだけに、この先何が起こるのかは、まったく予想もつかないが、はたしてミノワマンの決断やいかに!?　……なんて、書いていたら、ミノワマンの9・17『HERO'S』横浜大会でのハレック・グレイシー戦が決定しちゃったよ！

IGFはともかく、ルチャ→金網→『HERO'S』と今年のミノワマンはデビュー10周年を迎え、さらに無差別度アップ！　新章突入の『闘え！　ミノワマン』。こうなったら、いくとこまでいっちまえ〜！　天空〜〜ッ!!

『kamiブログ』は、他サイトに載らない ㊙スクープが満載!!

kamipro編集部が毎日更新!

7.25 7·16『HERO'S』田村潔司vs金泰泳戦を金原弘光が斬る!!

堀江ガンツ

"PRIDEを背負って"（TBSのテロップより）、7.16『HERO'S』に初参戦しながら、"K-1代表"金泰泳に判定負けを喫してしまった田村潔司。秋山成勲戦が噂される中、ひと足先に"すべって"しまったわけだが、この一戦を、田村と同じく秋山戦が期待される"もう一人の金ちゃん"こと、金原弘光に語ってもらった。

「『HERO'S』はテレビで観たんだけどさ、田村さんと金選手の試合は、テレビでは大幅カットされてたんで、これはなんとも言えないよね（笑）。だから、あくまでもテレビで観た感想でしかないんだけど、田村さんはかなりスタミナ消耗してたように見えたね。田村さんって、スタミナはあるほうなんだけど、タックルでテイクダウンするのって、もの凄くエネルギー使うんだよ。だから、田村さんは何度もテイクダウン奪ったけど、そのたびにブレイクで立たされてたでしょ？　それで、かなり体力消耗して、延長ラウンドはもう本来の力を出せなかったんだと思うよ。この試合を観てさ、俺はリングスKOKの頃、田村さんとギルバート・アイブルがやった試合を思い出したんだよ（2000年4月、リングス無差別級タイトルマッチで田村のKO負け）。あのとき……。

［7月25日掲載文から抜粋］

7.24 みんながみんなバラ色じゃない!? あるUFCファイターの現実とは？

上杉

ホイス・グレイシー、クリス・ベノワとステロイド問題に揺れるアメリカマット界だが、またしてもステロイド絡みの事件が勃発！　今回の事件の舞台はノゲイラのオクタゴンデビューが話題になった、7月7日の『UFC73』サクラメント大会。同大会では復活したUFCライト級タイトルマッチ"ショーン・シャークvsエルメス・フランカ"の一戦も組まれた！　王者シャークが執拗なテイクダウンで熱戦を制したのだが、大会終了後、アスレチック・コミッションのメディカルチェックにより、なんと試合をした両者ともに、ステロイドの陽性反応が検出されるという事態に！　王者・シャークは、「一度もステロイドに手を出したことはない」と、キッパリ反論したリリースを発表。しかし一方のエルメス・フランカは米メディアの取材に対して「5ヵ月ぶりの試合のチャンスを流したくない一心で使った」と、ステロイドの使用を認める発言をしている。報道によると、フランカは練習中に足を負傷してしまい、試合に出たいがために、そのケガの回復を促進するためにステロイドを使ったという。もちろん、使用禁止薬品であることを知っていながらのことであり、ルール違反であることは間違いない。でも、ここでバッサリ断罪するのをためらうほど、フランカの以下のコメントは切実なのだ。

「私のレベルのファイターでも……。

［7月24日掲載文から抜粋］

7.27 秋山成勲復帰アンケートの"有志"の真実

ジャン斉藤

このコーナーでたびたび触れられてきた、秋山成勲復帰アンケートで活躍されていた"有志"の皆さん。アンケート用紙を片手に声を張り上げてるもんだから、おそらく多くのユーザーが「これじゃ復帰署名運動だろ！」という違和感を持ったり、「テレビ局やFEGが仕込んだに違いない!!」などと勘ぐっていたでしょうが、関係者によるとなんだか本当に純粋な動機を持った"有志"が集合していた模様。

だとしたら、本当に空気が読めてないし、明らかに逆効果だよ！

……というわけで、いずれにせよ、ますます、さまよえる秋山問題なのである。

［7月27日掲載文より］

青木真也のブログ「やる気！〇起!? 青木日記」につづき
マッスル坂井の毎日更新ブログ

「ゴー・フォー・ブログ！日刊マッスル坂井」堂々スタート!!

kamipro Hand

各種コラム、試合速報、会見情報も随時アップ！

携帯サイト「kamipro Hand」への簡単アクセス方法

1 QRコードでクイック・アクセス!!

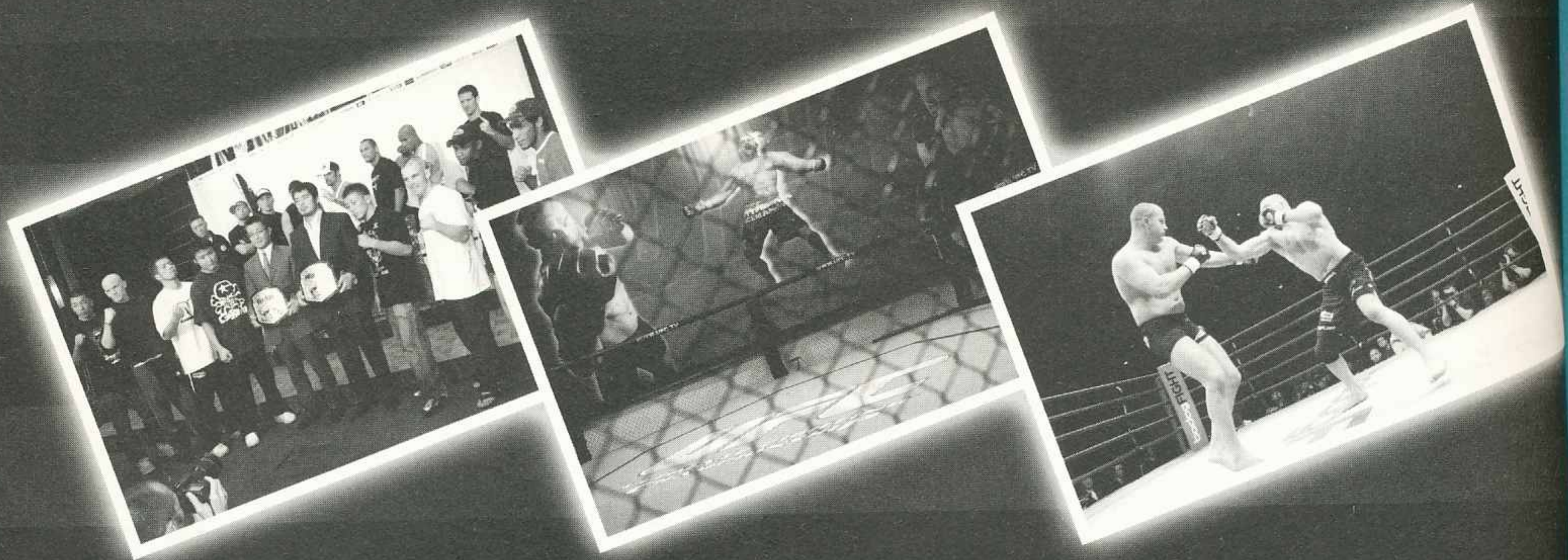
2 http://kamipro.dsn.ne.jp/hand/ を入力して直接アクセス

3 hand@kamipro.com へ空メールを送信

アクセス方法

- DoCoMo　iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技／大相撲 ▶
  ※もしくは「kamipro」で一発検索!!
- au/TU-KA　トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- Soft bank　メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶
- WILLCOM　趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶ ／ エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

［QRコード］

ボードッグの“謎の黒幕”が激白!

アメリカMMAシーン 等身大の最深事情

日本のファイターはもっと“アメリカ”に売り込むべきです!

～さまよえる日本人ファイターの“活きる道”とは?～

アメリカ在住ライター&スポーツ・マネージャー

シュウ・ヒラタ

ボードッグの“謎の黒幕”が『kamipro』初登場! その人物こそ、アメリカ在住でMMAファイターを中心にスポーツ・マネージメントを行なっているシュウ・ヒラタ氏だ。ボードッグのみならず、UFCなどのアメリカのMMAイベント、日本の格闘技興行にも精通するヒラタ氏は、本インタビューでアメリカの“等身大”の現状について明かしてくれた。その世界で日本人ファイターが活きる道をも語ってくれたのだが……!!

聞き手/高崎計三　写真/Josh Hedges(UFC)　構成/松下ミワ

しゅう・ひらた■米国ニューヨーク在住のライター兼スポーツ・マネージャー。格闘技専門のWEBサイト『Bout Review』英語版のなどで格闘技事情を発信するかたわら、スポーツ・マネージャーとしても活躍。MFCと関わった関係で、MFCの提携先であるボードッグと深い関わりを持つようになる。なお、ヒラタ氏とボードッグとのコンサルタント契約は現在終了している。

――『kamipro』がボードッグを追いかけてる過程で、どうも気になったのが会見や興行のときに必ずいらっしゃる〝謎の黒幕〟ヒラタさんの存在だったんですが。

ヒラタ　黒幕というか、仲介人というか（笑）。

――仲介人というと、いわゆるブッカーなんでしょうか？

ヒラタ　日本だと「ブッカー」って言いますけど、アメリカにはブッカーという言葉はないんですよ。エージェントかマネージメントということで。ブッカーというのはプロレスからきた言葉ですからね。スポンサーを探してきてあげたりとか、人生設計をどう考えているのかとか、そういうところまでトータル・マネージメントするのがスポーツ・マネージメントの仕事なんです。

――そこまでケアしますか。

ヒラタ　仲介単にブッキングするだけでは口利き屋ですから、それでパーセンテージを取るのはおかしい。そうなると、エージェントとしては各団体と公平に付き合って団体の利益にもなることをやらなければいけない。私の場合は付き合いのあったMFCから「日本での提携先を探してほしい」という依頼があって、そこからボードッグにつながっているわけです。

――そもそもヒラタさんは、最初からマネージメントのお仕事をされていたわけじゃないですよね？

ヒラタ　はい。最初はジャーナリストとしてMMAと関わっていまして、アメリカのいろんな媒体に書いていました。もともとは制作プロダクションから独立して、アーティストのマネージメントをする会社を立ち上げたんです。それをやりながら、MMAの記事を書いたりして、『Bout Review』の英語版のスタートをやらせていただいたり、『ADCC News』のエディターなんかもやっていましたね。でも狙っていたのがMMAファイターのマネージメントだった。アーティストの仕事のほうが落ち着いたので、それをパートナーに任せて好きなスポーツ・マネージメントを始めたのが5年前のことです。

――それから、いろんな活動をしている、と。

ヒラタ　ニュージャージーの小さな大会から始まって、MFCとかAFCとかあとは小さなローカル団体からUFCに至るまで、いろんなプロモーションと付き合っていくというスタンスをなるべく保とうとしているんですけどね、いまは（笑）。

――なるべく（笑）。でもいまは関係者から「ボードッグの人」と思われていそうですが。

ヒラタ　とくに日本の方から見たらそうなんでしょうが、2週間前にはFFFというロスの小さな女子の大会が開催されて、私がマッチメイクをやってるんです。ほかにもいろんな団体と普通に付き合ってますよ。

2月のコスタリカ大会では、総制作費10億円をかけて行なったというボードッグだが、7月のバンクーバー大会あたりから、ようやく経費面での"締めつけ"が行なわれるようになってきたという。はっきり言って、遅いよ！

――こちらの感覚でいうと、ボードッグともUFCとも仕事ができるというのが不思議に思えるんですよ。

ヒラタ　そうですよね。ただボードッグでは正社員でもなんでもないですし、テレビの解説もやってますが「アナリスト」という肩書きですからね。基本的にはコンサルティング契約というかたちで、内部の人間ではないんですよ。

――あくまでも外部スタッフだ、と。

ヒラタ　そうです。プロジェクトに雇われた外部スタッフということですから、たとえばボードッグはこれからオンラインカジノが合法化されているヨーロッパの4つの国に進出するんですが、そのマーケティングには関わっていませんし。

――なるほど。あくまで外部スタッフのヒラタさんにお聞きしたいんですが（笑）、業界内ではいま、ボードッグの内部で派閥争いが起こって、分裂騒ぎになるのではないかという噂が飛んでいます。

ヒラタ　マッチメイカーのミゲル・イトゥラーテがボードッグをクビになって、独立するという話ですね（笑）。言える範囲でお答えすると、ボードッグの選手契約というのは、じつはボードッグ本体ではなく、ウラジミール・ラブリノヴィッチとミゲルが主宰するMFC（会社名はSix Row Production）が行なっているんです。要は、「ボードッグ・ファイト」という事業を任されているのがMFCであって、そこから来ているマッチメイカーがミゲルなので、当面はその体制は変わらないと考える人は多いんじゃないですか。

実際に、選手の契約を握っているのはボードッグじゃなくてMFCなんです

――しかし、ゴタゴタがあるのは事実なんですか？

ヒラタ　いま、ボードッグのトップにいるピーター・キャロルという人物は元ボードッグ・ミュージックの社長で、そこからボードッグ・エンターテインメントの社長になった人なんです。だけど自分が舵取りをしていたミュージック部門の業績がそんなによくないのもあり、現在のボードッグ・エンターテインメントのトップとしてはファイト部門もコントロールしたい。そういった思惑があるのでそういう噂になっているんだと思うんです。

――なんだか複雑ですねえ。

ヒラタ　MFCが選手の契約を握っているので、これからもうまいこと協調路線を見出して運営パートナーとしてやっていくか、それともドラスティックにMFCを切って合理的に契約を買い取るか。なんでもありだと思っています、とくに欧米では。（笑）

――選手の契約は握っている。しかし、MFCなしではボードッグ・ファイトは成り立たないというわけでもないんですね。凄いな、なんでも買えるみたいな欧米人のビジネスに対する感覚は！

ヒラタ　それから、ボードッグは向こう4大会、ケージ・レージのスポンサーになります。その映像をIONテレビジョンで流すという動きもあるみたいですが、私はそのあたりの動きは何も知りません。「こういうことになったよ」と決まったことを教えられるだけなので。逆にアジア市場に関しては、日本を足がかりとして進出していくために提携先探しからコンサルタントとして関わってくれということなのです。

――その日本市場のとっかかりがパンクラスとの提携だと思うんですが、現時点では想像以上に慎重な進み方だなという印象を受けます。

ヒラタ　ボードッグはこの業界ではまだ新人なので、試行錯誤を繰り返して学びながら進んでいるという状態です。それで、思ったよりも慎重に見えるんでしょうね。しかし、ヨーロッパなどと同じようにアジア市場は重視していますので、それに向かって動いてはいるんですが、遅いのは確かですね。

――ほかではわりと強引ですけどね、ボードッグは。

ヒラタ　そうですよね。ただ、全体としてもヒョードルを1回上げて、それで一息しちゃったという感じはありますね。先日のニュージャージー大会も決して成功と言える結果ではなかったので、なんとかしてそれを修正していかないと、という段階だと

思います。

――ボードッグもMMAに参入してほぼ1年が経ちました。ヒラタさんの目から見た成果は？

ヒラタ　いいところから言うと、少なくともヒョードルをリングに上げたことで注目度が上がったことが一つ。それから、北米市場に比べて日本でのボードッグの認知度がかなり高いという点で、日本市場でのマーケティングは成功していると思います。北米ではいまは5番手ぐらいになった感が否めないんですが、日本では2番手ぐらいに思われていますよね。悪い面を挙げれば、ボードッグは自分たちの組織にテレビスタッフも抱えていてテレビありきでやっていますから、収録した試合を2ヵ月も3ヵ月もオンエアできないとか、大きな問題はあると思います。ただ、そのへんは私が説明しても聞いてもらえないところなんです。

――そういうところは、スタッフがまだMMAを理解していないことが原因なんでしょうか。

ヒラタ　構造の問題ですね。まず、バンクーバーにあるのはリップタウンという、ボードッグ・エンターテインメント全体の広告代理店なんです。ミュージックから何からひっくるめての。彼らが考えるのは、「番組の中で、どれだけ『ボードッグ』という名前を露出させられるか」ということだったりするんです。だから試合のオンエアが何ヵ月先になってもいいやというスタンスだったんですが、1年やってみて、やっぱりそれでは儲けにならない、と。

――う～ん、儲けは出ませんか、やっぱり（笑）。

ヒラタ　でも、彼らの思惑はある程度成功しているんですよ。なぜかというと、まだ1年しか経っていないのに、ボードッグのサイトに流れてくる人の3分の1以上がファイトから入ってきているんです。ファイトの注目度が高いのは確かなんですが、ファイトの事業は黒字になっていないので、経理のトップがもっと商売にしないといけないと言っているんですね。

――いままでのやり方だと、儲けを出すのは……。

ヒラタ　無理ですよ（キッパリ）。

――でも、ここまで経費をかけたのは、初期投資だったわけですよね。

ヒラタ　じつは、最初はファイト自体は2009年ぐらいに黒字になればいいという考えだったんです。でも、予想以上にお金がかかっているので、もうちょっと考えないといけないんじゃないか、と。こんなにシークレットマッチをやっていていいのかということにもなってくる。一日で40試合やるなら4日間お客さんを入れて、小さいところでもいいから確実にゲート収入を稼いでいったほうがいいのかとか、そういった検討はしているみたいですけどね。

――それが普通の考え方ですよね（笑）。しかし、当面儲けが出なくてもいいという資金力がグループ全体にあるということですよね？

ヒラタ　そうですね。基本的には、宣伝費という名目ですよね。だから代理店にお金が落ちて、ボードッグという名前を売るためのプロジェクトですから。

――宣伝にしてはデカイ（笑）。

ヒラタ　それを経理の方がわかり始めたんじゃないですか。

――ということは、これからは経理の締めつけが厳しくなると？

ヒラタ　というより、どうしても北米市場を見てしまうんですよね。UFCのブームがあって、わかりやすいじゃないですか。だからUFCのPPV実績がいい選手を出せとか、そういう話になる。つまり、ノゲイラやヒョードルを出そうとしても、北米での実績がないからそのへんは厳しくなるんじゃないですか。逆に、これはあくまで一例ですが、ジョシュ・バーネットやギルバート・メレンデスとか、北米でスターになれる選手に関してはそんなに締めつけはないと思います。そのへんでおもいきった買い物はするかもしれませんね。

UFCのドンといえば、もちろんダナ（写真上）であるが、ボードッグの場合は、"象徴"であるカルビン様（写真右）、そして、マッチメイカーのミゲル氏（写真左）の二人がおり、構造が複雑である。

ダナはビジネスマンである一方でやっぱりMMAのファンなんですよ

――北米での実績がないのに、UFCがミルコやノゲイラを獲得したのはなぜだと思いますか？

ヒラタ　あくまで私の意見では、ミルコはヨーロッパ進出を睨んでのものだと思います。ヴァンダレイをノックアウトしているし、北米では名前が知られていますから。ノゲイラに関しては、彼が最初に来場して挨拶したとき、全然反応がなかったですよね。それなのになぜ獲得したかというと、ダナ・ホワイトはビジネスマンである一方で、やっぱり格闘技のファンなんですよね。そのへんが偉いなと思うんですけど。正直、そこがボードッグに欠けているところだと思いますね。

――いまのボードッグにはそんな余裕はないですか？

ヒラタ　いま、宙ぶらりんになっている選手を獲得してうまくマーケティングしてやればおもしろくなると思うんですが、ファイト部門とテレビスタッフがうまく連携できていない。だからもともとUFCに出ていた選手が中心になる。要するに、意見が統一できていないんです。

――組織が大きすぎる？

ヒラタ　大きすぎるのもあるし、部門ごとに分かれているせいもありますね。

――規模としては、UFCとどっちが大きいんですか？

ヒラタ　人数だけなら、間違いなくボードッグですね。バンクーバーに400人、コスタリカにも300人ぐらい社員がいるらしいです。UFCと違って、ボードッグはいろんな部門がありますから。ただ、ファイト部門だけだとどれだけいるのかわからないですけどね。それに、代理店の人間はファイト専任じゃないですから。専任のスタッフが少ないことも問題だと思いますけどね。

――専任のミゲル・イトゥラーテは、ダナ・ホワイトにはなれないんですかね？

ヒラタ　ボードッグ・ファイトの目的は、ボードッグの名前を売ることと、カルビン・エアーの名前を売ることなんですよ。だから必然的に、ダナ・ホワイトに匹敵するのはカルビン・エアーになると思いますね。ただ、カルビンは実務は一切しないですけど、ダナはやるじゃないですか。その大きな違いはあると思いますけど、マーケティングは、カルビンを露

UFCがメジャースポーツと肩を並べたって言いますけど、そんなのはウソ！

ヒラタ氏は「『PRIDE』はイリュージョンだったと思ったほうがいい」とキッパリ。ヒョードルをはじめ、ミルコ、ノゲイラ、ジョシュ、ヴァンダレイetc.……。この錚々たるメンバーが同じリングに上がっていたのだから、やっぱりそう思わざるを得ないのか!?

出させなくてはならない。

――でも、髙田さんや前田さんもそれぞれ顔役ですが、実務には深く関わってないですよね。

ヒラタ　ただ、カルビンはファイターだったわけでもないんですよね。

――あれだけのお金持ちだったら、そんなこと関係ないですよ！（笑）。ところで、UFCのブームというのは一過性のものだと思われますか？　それともビジネスとして定着するでしょうか。

ヒラタ　難しい局面ですよね。ただ、UFCはブランド戦略には凄く長けてますよね。チャック・リデルとかランディ・クートゥアーとか一握りの選手以外は、みんなワン・オブ・ゼム。だからUFCのPPVを買う人は、「UFCだから」買うわけですよ。

――なるほど。

ヒラタ　ただ、みんなUFCがメジャースポーツと肩を並べたと言ってますけど、そんなのはウソです。ギャラにしてもなんにしても。私たちエージェントは10～20パーセントを手数料としてもらうわけですが、タイガー・ウッズにしてもマイケル・ジョーダンにしても、エージェントは5パーセント以上は絶対に取らないんです。

――それで充分なわけですね。

ヒラタ　そう！　5パーセントでエージェントを養えるぐらいでないと、メジャースポーツとは言えないんです。

――それでも、UFCの勢いは凄いですよね。

ヒラタ　だからこそ一時的なもので終わってほしくはないですけどね。アメリカではローラーボールやインドア・サッカー、Xスポーツのように、大流行しながらガツンと終わってしまった例も少なくないですから。

――一方、アジア市場の現状はどう分析していますか？

ヒラタ　『PRIDE』が昨年から今年にかけてあんなことになって、ファンは禁断症状を起こしているんではないか、と。だから、日本に進出したいと思っているプロモーションは多いですよね。ただ、ロレンゾが買い取ってすぐに再開されると思っていた『PRIDE』がまだ動いていない。それは日本市場は特殊だから、乗り込んでも成功はできないだろうという認識があるのも事実なんですよ。ロレンゾほどの財力でもできないんだから、オレたちが行ってもハナから無理だろう、と。そういうイメージができてるんですね。

――ボードッグはいま、そこに探りを入れているんですか？

ヒラタ　もちろんです。やっぱりアジア市場はおいしいんですよ。韓国にしても、中国とかにしても。そしてその入り口になるのはやはり日本ですから。ただ、アジア進出にはヨーロッパの倍以上の準備と努力が必要なんです（笑）。私はUFCともビジネスをしていますが、UFCとのやりとりは本当に楽ですよ。メールだけですぐ決まってしまうんです。ああいうやり方は日本では絶対に無理ですね。しかも、3行ぐらいのメールですよ。

――へえ～！　日本はなぜそんなに面倒くさいんですかね。

ヒラタ　私もそう思います。三島☆ド根性ノ助選手をUFCにブッキングしたときでも、マッチメイカーのジョー・シルバにこちらの要求だけを並べたメールを投げて、それから4回ぐらい往復したらもう決まっちゃいましたからね。もちろん三島という選手に対しての彼らの評価が非常に高かったというのが一番の理由なんですが。でも、あんまり簡単だったから、逆に航空券とかちゃんと届くのか、不安になるぐらいで。そんな感じで、交渉にしてもバックステージにしても、UFCはムダな作業を一切省いていて、凄いと思いますね。

――そんなUFCでも、日本進出は大変なんですね。

ヒラタ　まあ、ケージの大会が日本のゴールデンタイムにどれだけ受け入れられるかというのも未知数だと思うんです。そんな話を、チラッとUFCにしても、彼らはわからないんですね。アメリカで流行ったものは世界で流行るという、ある意味で傲慢な態度がありますから。『PRIDE』だって深夜中継から始まったわけじゃないですか。それを順序立てて説明してくれる人がいないんじゃないですかね。ちょっと勘違いしているのは、すでにUFCはMLBやNBAと同じレベルだと思っていることですね。

――『PRIDE』再開の問題も、そこに関わってるわけですよね。

ヒラタ　……まあ、買われたときに、地上波がつかなければ再開はないだろうなあとは思ってましたね。アメリカでも最近、業界人がみんな口を揃えて言うのは、「ああ、『PRIDE』が懐かしいね」ってことなんです。『PRIDE』が一番おもしろかったんですよ。これは間違いのないことです。

――その『PRIDE』の大物ファイターをボードックが獲得する可能性はあるんですか？

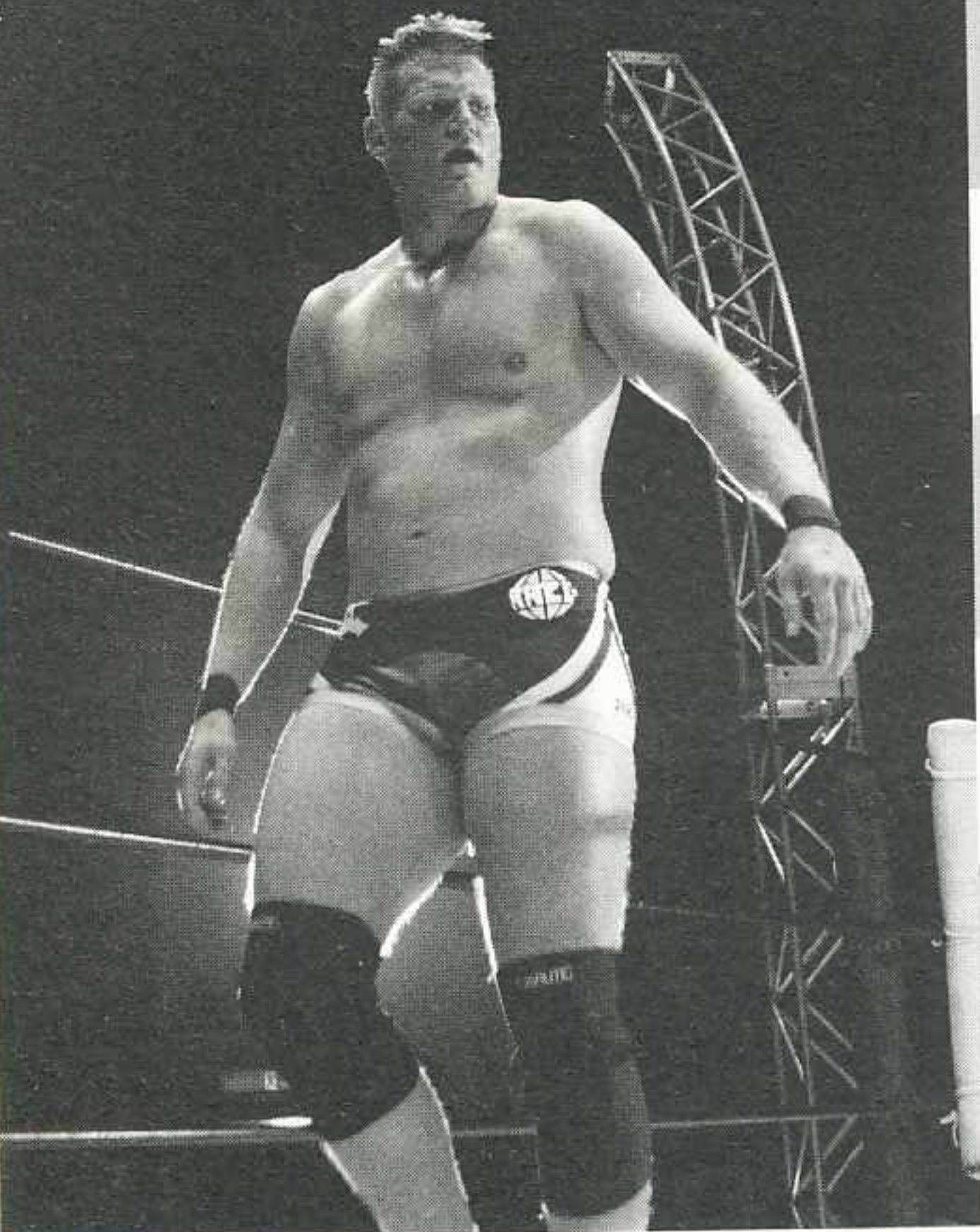
ヒラタ　ジョシュの名前がたびたび出てくるのは、ヘビー級でアメリカ人で、ヒョードルに勝てる可能性がまだあるからだと思うんです。彼はたぶん、UFCに戻りたくないと思ってるでしょうしね。それからメレンデスは、スパニッシュ、メキシカン・マーケットに訴えることができるんですね。だから、PRIDEファイターだから、という部分では魅力を感じるということはないでしょうね。また、どこのプロモーションでも言っているのは、『PRIDE』が出していたお金というのは"イリュージョン"として認識してもらわないといけない、と。

――イ、イリュージョン！

ヒラタ　だってそうじゃないですか。『PRIDE』はテレビ中継を失っても、これまでどおりのギャラを出したことで、身売りせざるを得ない事態になったわけですから。だから、それを選手たちにわからせる段階に入っているんです。それはボードッグ、エリートXCに限らず、どこも言っていると思いますよ。

――つまり、『PRIDE』はギャラ

蜜月の仲だったレッドデビルとボードッグだが、ここにきて崩壊!?　ミルコ、ノゲイラらかつて同じリングで闘ったライバルたちは一足先にUFCへと戦場を移しているが、皇帝の視線もUFCへ向いているのか？　それとも……!!

UFC、ボードッグなど、さまざまな選択肢がある中で、あえてIGFにこだわり続けるジョシュ。今後の進路はいったいどーなるの？

の平均金額が高かったということですね、トップだけズバ抜けているUFCと違って。しかし、財力があるボードッグやエリートXCですら、そんな現状なんですね。じつは選手たちからは「いまのUFCに上がるより、日本のもっと小規模の団体に上がったほうがギャラはマシ」という声も聞こえるようです。

ヒラタ　UFCは、源泉税（外国人税30パーセント）を取られるんです。ライセンス料もメディカルチェック料も、全部引かれる。さらに拘束されてほかの団体に出られない。

——それじゃあ大変ですよね。ちなみにボードッグとヒョードルの契約はどうなんですか？

ヒラタ　じつは最近、レッドデビルのワジム代表がボードッグのことをこき下ろしているんです。だから、決裂したんじゃないですかね。私は外部スタッフなので、ロシアとの関係はちょっと……。ただ、日本ではヒョードルは価値があると説明はしてますけどね。ヒョードルが一番いいですよ。彼は『PRIDE』と1試合200万ドルという契約をして、自分にその価値があると思ってしまった。だから、その額が基準になってしまっているんです。

——ほかの選手もヒョードルの基準を求めますよね。ジョシュがUFCとの交渉が難航したのはその理由もあるんじゃないか、と。

ヒラタ　ジョシュは難しいでしょうね……。先にも述べたように北米市場への起爆剤としての可能性はありますが、彼には北米PPVでの実績がないんですよ。だからマーケティングの人間からすると、「いきなり高い額は払えない」となってしまう。でもそれがボードッグのいけない部分でもあるんです。ジョシュぐらいの選手ならうまく料理すればスターにできる。そう考えられるだけMMAを知っていてMMAが大好きなテレビ部門のプロデューサーがいないということでもあるんです。まあボードッグは、今後も次世代のスター選手発掘に主眼を置いてやっていくみたいですけどね。ぶっちゃけて言えば、1試合1万ドル以下のファイターを集めて、

——長期的なプランをもって運営していく、と。

ヒラタ　ボードッグはテレビの枠を持っていますから、それをうまく活用していけばやり方はあると思いますよ。私も本業はマネージメントなので、業界がメジャーになってそれで暮らせるようにならないと（笑）。

——5パーセントだけで。

ヒラタ　そうそう（笑）。でも最近、選手のスポンサーはつけやすくなりましたね。私はブッキングしてあげるだけじゃなく、スポンサーをガンガン集めてあげるのが好きなんですよね。スポンサーがつけば、そのお金で専門トレーナーやアドバイザーもつけられる。それはもう、日本とアメリカではまったく環境は変わってますよ。

——いま、日本のトップクラスの選手には大きく二つの選択肢しか残されていません。アメリカに行くか、『HERO'S』に出るか。ヒラタさんは、どうしたらいいと思いますか？

ヒラタ　私は、アメリカにガンガン売り込むべきだと思いますね。UFCとWEC以外は拘束契約がないですから。私が誰かのマネージャーだったら、いきなりいまのUFCには行かせません。どこかの団体でしっかり勝たせて名前を売らせて、実績を作ってから行かせる。ただ行っても、ワン・オブ・ゼムになるだけですから。

——負ければ終わってしまう、と。

ヒラタ　そうです。だから、最初はギャラが安くても、そういうところで3試合やらせます。それから、ダナに電話すればいいんです。

私が選手のマネージャーだったら、いまはUFCには行かせません！

——それは夢がありますね！

ヒラタ　プロアスリートには限られた時間しかないですから、一番稼げるUFCに照準を絞る。そのために、北米市場でまず名前を売ること、そして環境に慣れることが大切だと思います。アメリカにはUFC以外にも全米PPV放送、またはケーブルで無料放送している団体がたくさんあるんで、そういったところでまず数試合するべきだと思います。

——そこで名前を売る、と。

ヒラタ　そうすれば選手も違った環境で試合することに慣れますし、マネージメントの視点からすれば、テレビでオンエアされる大会に出れば交渉の席で使えるデータが揃うんですよ。この選手はアメリカの何万世帯の人たちが観た選手、つまり視聴者の認知度も高いといったことです。選手を売るために必要なデータというのがあるんです。環境に慣れるのと同時に営業に必要なデータを揃える。さらには拘束がなければ、間隔が空いたら日本で試合することもできますし、アメリカで試合をしていけばスポンサーもつきます。

——非常にいい条件が揃ってますねぇ。

ヒラタ　それに、いまアメリカに行けば成功する選手はたくさんいると思いますよ。そして日本人が活躍すれば、その映像はいつか日本のブラウン管でも流れるようになる、と私は信じています。MMAや野球やサッカーやゴルフといったスポーツだけでなく音楽でもダンスでもあとはミス・ユニバースとかホットドッグ早食いとかでも同じだと思うんです。だから英語のわかる人がちょっとメールを打って、アメリカの団体にコンタクトを取ればいいんですよ。なんなら、本人でもいいですよ。ブロークン・イングリッシュでも、彼らは必ず返事をくれますから。

——しかし、そんな簡単にいくもんですか？（笑）。

ヒラタ　大丈夫ですよ！「I'm a Japanese MMA fighter. I want to fight!」でも、返事はくれるはずです。

——そこからアメリカン・ドリームが開けるかもしれない（笑）。

ヒラタ　道はいくらでもあるわけですから、もったいないですよ。それにアメリカのいいところは「適当にいい加減」なところですから（笑）。絶対にやってみて損はないと思います。

——日本人格闘家はレッツ・トライですね！　今日はタメになる話の数々、ありがとうございました！

【07年7月28日／都内・パンクラス事務所にて収録】

なお、ヒラタ氏とボードッグ・ファイトとの契約は2007年7月31日をもって終了。今後は〝5パーセント〟のマネージメント料で暮らせるよう、まだまだMMA界発展のために世界中を飛び回る！　……のか!?

『MMA WEEKLY』スコット・ピーターソンが
クールなUSAニュースをお届け!!

USA cool 宅急便

Vol.17

元"アメリカのPRIDEの父"エド・フィッシュマンが皇帝ヒョードルを強奪!? ロシア激変の真相とは?

ロシア激変！　"10億ドル長者"カルビン・エアー代表率いるボードッグと、"最強皇帝"ヒョードルを擁するレッドデビルがなんと決裂！　その陰には、かつて"アメリカのPRIDEの父"と呼ばれたエド・フィッシュマンの姿も……？　こんがらがる糸の先には何があるのか？

聞き手／デューク東郷　助手／上杉再現V

PROFILE

Scott Petersen【すこっと・ぴーたーそん】格闘技情報WEBサイト『MMA WEEKLY』(http://www.mmaweekly.com/)を主宰。ビッグマッチのたびに来日。八王子某所に居をかまえ、日米格闘技事情に精通している。最近覚えた日本語は「私としては記者会見をしてから通院なり入院をしようと言ったが、説得に失敗しました」。

スコット　ん〜！　なんだかキナ臭い。

——お、スコット！　深刻な顔をして、どうしたの？　先月は連載もさぼって、どこかほっつき歩いていたみたいだし。

スコット　『PRIDE』がイベントを開催しないから、日本に来なかっただけだよ！　日本のMMAシーンはの〜んびりしているけど、世界では大きな動きが起こってるんだ。（逆ギレして）こんなインタビューに付き合わされるほど、こちとらヒマじゃないんだよ！

——開き直るねぇ。で、何が起こっているのさ。

スコット　ボードッグとヒョードル擁するレッドデビルに亀裂が生じたんだ。

——ヒョードルが4月のボードッグ・ロシア大会に参戦したり、リアリティショーにゲスト出演したりと蜜月関係にあった両陣営だったのに、ずいぶん急な展開だね。おそロシア！

スコット　レッドデビル・オーナーのワジム会長によると、ロシア大会を実質運営していたのは彼らだったのに、ボードッグのスタッフが来場したプーチン大統領やジャン＝クロード・ヴァンダムらVIP勢に対して、ボードッグが大会を仕切っているような行動をとったらしく、それが不快だったらしい。

——え！　そんなことなの？（笑）。

スコット　あと、ボードッグのロゴは目立つところに配置されていたのに（レッドデビルの大会ブランドである）M—1のロゴはことごとく隅に追いやられてまったく見えなかったことにもワジム会長は怒っているんだ。それに対してカルビン・エアーはわざわざ声明文を出して、「あの大会はボードッグが100パーセント出資して行なったイベントで、ブランドロゴの露出についても、当初の取り決めどおりだった」とコメントしている。

——つくづく、スケールの小さい争いだけど……。

スコット　ま、いまのはどうでもいい話かもしれないけど、ワジム会長の不満は、ボードッグが独自にロシアでビジネスをしようとしていることらしい。

——ん〜？　レッドデビル抜きではビジネスにならないと思うけどなぁ。

スコット　いやいや、そうでもない。ロシアではカジノが合法で、オンラインカジノの規制も緩いんだ。

——なるほど!!　あくまで本業のカジノへの足がかりってわけか。

スコット　ヒョードルらトップファイター抜きでどこまで注目を集められるかは疑問だけど、ボードッグはすでにロシア国内でテレビコマーシャルも開始している。それに対してワジム会長は「彼らはロシアに進出するために私たちを使ったんだ」と怒りをあらわにして、「あんな不誠実な連中と二度と組むことはない!!」とまで断言しているんだ。

——そーなんだ。って最初から、その理由を言えよ！　誌面がもったいないだろう!!

スコット　しかし、カルビン・エアーは「大会を終えたときはみんな満足していたのに、いまさらなんでそんなことを言うのかわからない」と困惑した様子で、「折り合えるのなら、またレッドデビルと組まない理由はない」と未練も残してもいるみたい。

——じゃ、レッドデビルが一方的にビジネス関係を解消したということ？

スコット　どうやら真相としては、予算削減もささやかれているボードッグが、ヒョードルへの高額なファイトマネーを払えな

STRIKEFORCE
PLAYBOY MANSION
SATURDAY, SEPT 29 2007
STRIKEFORCE HITS THE MANSION

男子憧れのプレイメイトたちとの写真撮影や、ワインパーティなどセレブな行事が目白押しの9.22ストライク・フォース"プレイボーイ・マンション"大会。昨年の『HERO'S』で桜庭に負けたユーリー・"プレイボーイ"・キセリオも出場！　するわけはない。

ロシア激変！逆襲のエド
USA Cool宅急便

くなってきている現実があるのかもしれない。そして！　レッドデビルにはワジム会長をこうして強気にさせる、ボードッグに代わる新しいスポンサーがつくようなんだ。

――"ビリオネア"カルビン・エアー率いるボードッグ以上のスポンサーが!?

スコット　その人物こそ、エド・フィッシュマンじゃないかと言われているんだ！

――ギョ！　カジノ界の大物フィクサーにして、かつて"アメリカのPRIDEの父"と呼ばれたフィッシュマン!!

スコット　『PRIDE』を買収しようと企んで失敗したフィッシュマンだけど、カジノへ客を誘致する有力コンテンツとして、MMAビジネスにはまだまだ興味シンシン。虎視眈々とシーンへの進出を狙っている。そしてロシアのカジノ業界との太いパイプを持つフィッシュマンにとって、ヒョードルを抱えるレッドデビルはビジネスパートナーとしても最適と言えるんだ。

――そういえば、フィッシュマンは『PRIDE』と裁判を起こしていたよね。

スコット　彼は『PRIDE』と結んでいた5年間のコンサルティング契約の不履行について、1000万ドルの賠償請求を起こしていたけど、裁判は今月、両者のあいだで和解が成立。詳細については、表に出てないけど、フィッシュマンは「和解内容については満足している」と話していた。そして、彼は『PRIDE』の第1回アメリカ大会でヒョードルをメインに起用するように主張していた"皇帝ファン"でもあり、「9月にロシアへ行く」と話していることから、フィッシュマン主導によるM―1の大会が開催される可能性もある。

昨年8月に行なわれたラスベガス大会発表イベントで榊原代表とガッチリと握手を交わしていたフィッシュマン。今年に入ると『PRIDE』買収を表明し、買い取れなかった場合は新イベント立ち上げの意思をも表明していたが、ついに動き出した！

「PRIDEとの和解内容には満足しています」

――しぶといな〜、フィッシュマンは。

スコット　フィッシュマンの活動場所はロシアだけじゃない。9月29日にロサンゼルスの超高級住宅街、ビバリーヒルズでストライク・フォースの大会が開かれるんだけど、その会場は聞いて驚くなよ。なんと！　米男性誌『PLAYBOY』創始者、ヒュー・ヘフナーの有名な"プレイボーイ・マンション"！

――ずいぶんセレブな匂いがするね〜。

スコット　そして、ストライク・フォースと『PLAYBOY』を結びつけた人物こそが、そのフィッシュマンなんだ！　実際、フィッシュマンはすでにストライク・フォースに資本参加しているらしい。

――着々とMMAシーンでの地盤を固めつつあるわけだ。ところで、そのセレブな"プレイボーイ・マンション"大会は『kamipro』も取材に行けるのかな？　誰が闘うのかも知らないけど。

スコット　大会には、昨年末の『PRIDE男祭り』でカワジリ（川尻達也）との激戦を制したギルバート・メレンデスやジョシュ・トムソンらトップファイターが出場。全10試合のカードが組まれる予定。もっとも大会は200人ぐらいの一般客を除いては、VIPだけを呼ぶプライベート・パーティのようなイベントになるから、『kamipro』はどうかな（笑）。ボクはフィッシュマンに招待されたから行くけどね（得意げに）。

――（冷たく）ああ、そうですか。しかし、プライベート大会にしては、とんでもないイベントだね。もしかしてヒョードルも来るとか？

スコット　それはわからないな。まだレッドデビルとフィッシュマンが完全にくっつくかどうかはわからない。実際、ワジム会長はUFCとも交渉していることを認めている。

――ダナ・ホワイトも「来年1月にはUFCに参戦させる」とヒョードル獲得に自信を示していたしね。

スコット　ワジム会長は「UFCのオファーがフレキシブルではないから、なかなか交渉がまとまらない」と話していた。ヒョードルは『PRIDE』に出ていた頃から、ロシア代表としてコマンドサンボの試合に出場していたんだけど、UFC側は完全独占契約にこだわっている。それに「ヒョードルにしか興味がないUFCより、レッドデビルのほかの選手にも試合の機会を与えてくれFEGのほうが魅力的だ」とも話しているんだ。

――要するに、ヒョードルを買うと、もれなくヒョードル弟とかアマール・スロエフとかローマン・ゼンツォフとかがついてくる。『ドラクエ』を買うには、一緒に『いっき』を買わないといけないみたいなもんね。

スコット　なんのことだかわからないよ！　とにかくレッドデビル首脳陣は、ダナが「クレイジー・ロシアン」と呼ぶほどのタフ・ネゴシエーター。ヒョードルのファイトマネーが再び一致すれば、ボードッグへの出場もあるのかもしれないし、K―1、UFC、フィッシュマンと選択肢は多いから、団体側にとって簡単には交渉が進まないと思うよ（笑）。

――ヒョードル周辺はますます騒がしくなりそうだね。皇帝獲得競争の行方に注目!!

【07年8月7日／ダブルクロスにて収録】

世紀の蛮行
〝クリーム塗布事件〟から8ヵ月

柔道最高!?

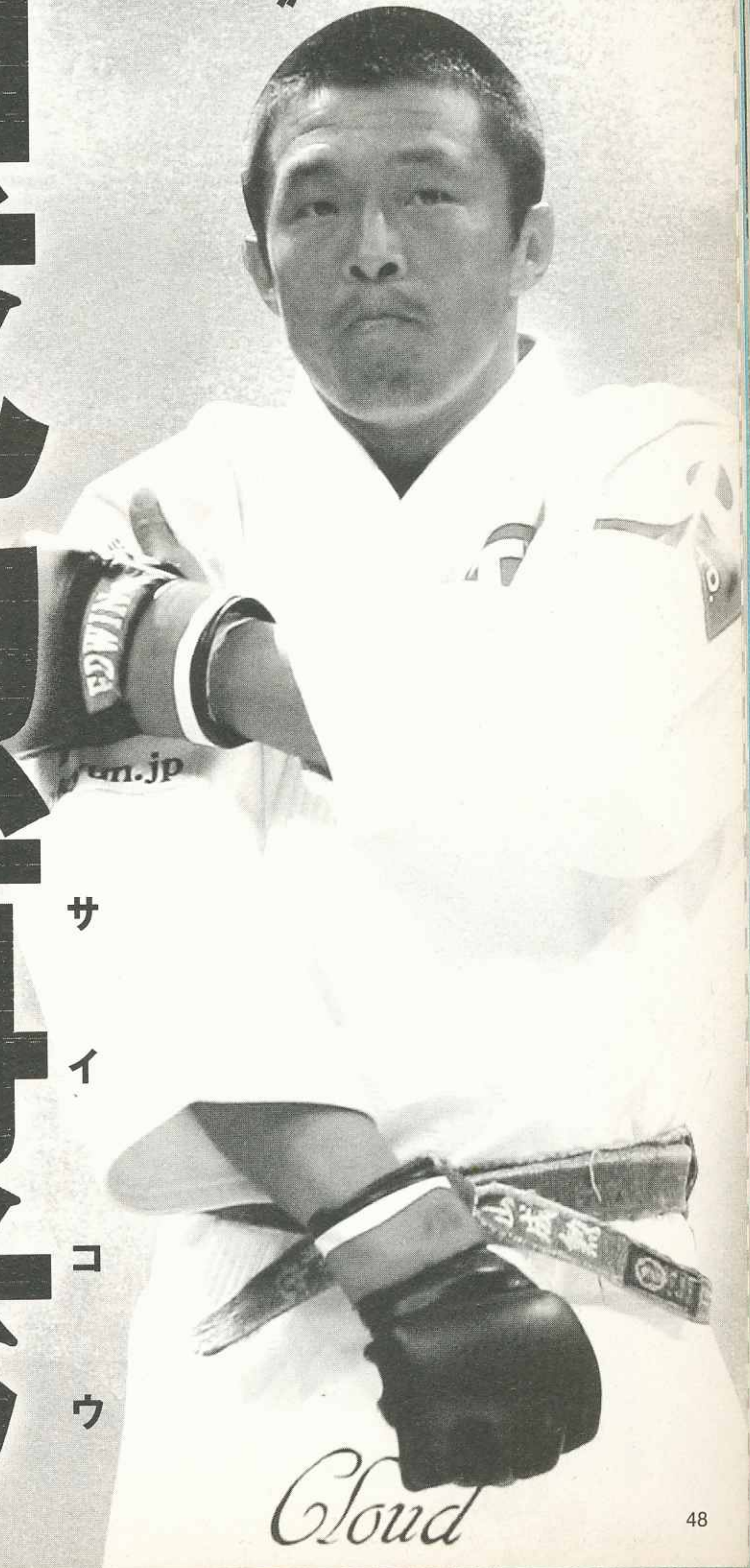
秋山成勲再考（サイコウ）

格闘技マスコミがメス!

さまよえる秋山問題座談会

構成／松下ミワ

秋山復帰の是非を問う目安箱の設置、田村潔司の敗戦、前田日明の〝ウンナン発言〟など、秋山成勲周辺が騒がしい昨今。『kamipro』誌上でもこの〝秋山問題〟はしつこいくらいに特集してきたが、いまなおこの事件はさまざまな問題を抱えている。そこで、今回は『kamipro』外部の格闘技マスコミを招き、〝秋山問題〟をあらためて考えてもらった。そこで出された結論とは……!?

Cloud

ジャン斉藤（以下、ジャン）　今日は、『kamipro』外部のマスコミの方々をお招きしまして、"さまよえる秋山問題"についていろいろとお話をうかがいたいと思います。

一同　よろしくお願いします。

ジャン　いまや秋山成勲は復帰目前というムードになってますが、だからこそこの問題自体を捉え直そうということで、格闘技マスコミの超大御所である熊久保さん、この問題に触れたブログが大騒ぎになったという高崎さん、桜庭和志自伝『ぼく』シリーズに関わっている佐瀬さん、そして韓国在住のフリーライター、大川さんに出席していただいたんですが、まずは大川さんにお聞きします。海の向こうの韓国ではこの秋山問題というのはどういう見方をされてるんでしょうか？

大川"隊長"義之（以下、大川）　ええと、秋山は被害者扱いですよ!!（キッパリ）。

ジャン　あ、被害者！　いやあ、じつに気持ちがいい意見ですね（笑）。

大川　だって、FEGが故意じゃないと判断した以上、韓国的にはそういう考えになっていますよね。だから、韓国では処罰自体が過剰であるということが盛んに言われてます。

高崎計三（以下、高崎）　つまり、無期限出場停止という処分は重すぎるんじゃないか、と。

大川　はい。最近でいえば、メルヴィン・マヌーフが足裏に松ヤニを塗ってたりとか、ほかの選手が反則してもそれほど重い罰は受けなかったわけじゃないですか。なのに、秋山に厳しくするのはなぜかというと、二つ理由が挙げられて、一つは秋山が在日韓国人だからということ。もう一つは反則を犯した相手が日本の格闘技界、もっというとMMAの歴史そのものである桜庭和志だったということですよね。だから、韓国の格闘技ファンとしては、日本人が強すぎる韓国人をやっかんでるんだという見方が大半なんですよ。

熊久保　いやあ、しょっぱなから根深いですね。日韓問題にまで及ぶとは（笑）。

大川　あと韓国側の意見としてはクリームがあってもなくてもどうせ秋山は勝っていただろう、と。

ジャン　ああっ、言ったな。コンノヤロォ～!!（髙田総統調）。

大川　もう一回試合したとしても勝つに決まってるから、そんなに大きな問題ではない。武士道を重んじる日本人の感覚が無視されてるんですよね。

ジャン　まあ、ある意味で感情的になっている側面もある。日本のファンはどうなんですかね。感情的になってますかね？

熊久保　そこはかなり感情的なんじゃないですか？

佐瀬順一（以下、佐瀬）　何しろメリケンサックの疑惑もあったじゃないですか。

熊久保　グローブに銀色の異物を仕込んでいたんじゃないかという。あれ、まだ信じているファンはいるんですよ。

ジャン　ボクがこの秋山問題で、一番ビックリしたのはその疑惑なんですよ！　そんなもん仕込んで殴ったら顔面骨折じゃ済まないし、桜庭は「すべるよ！」の前に「硬いよ！」って主張するはずですよね。でも、そこまで疑うということは、それくらい秋山がブラックだと思われているんだなって。10年後にはフリーメーソンの陰謀説が語られてもおかしくないくらいの（笑）。

熊久保　まあ、ウェブの反応を見てるとおもしろ半分のファンもいますけどね。だって、格闘技ファンだけでこれほどまでに大騒ぎになるはずないんじゃないかなって思いますし。

ジャン　ウェブでいうと、事件直後は高崎さんのブログのコメント欄が大変な騒ぎになったそうですね。いったい何があったんですか？

高崎　あの一、ボクは単に『感情的にならずに落ち着いて考えましょうよ』ってことをずっと書いてたんですよ。でも、そうしたら書き込みで「ジャーナリストのくせに、そんなことを言うのか！」って怒っちゃう人が出てきて。

熊久保　確かに、ジャーナリストじゃないですよ、この人は（笑）。

高崎　まあ、名乗ったことは一度もないですからね（笑）。そうこうしているうちに、コメント欄でファン同士のケンカが始まったんですよ。最近も「いろいろ思うことがあるんだったら、公開されているFEGの連絡先に電話なりできるじゃん」って書いたら、今度は「マスコミは何もしないくせに、『勝手に言え』ってほざいてる！」と。本当にお祭り状態でしたよね。

ジャン　あの当時を振り返ると、いろんな格闘技のサイトで秋山問題記事が削除されたとかで、ファンからは「FEGから圧力がかかったんじゃないか」という疑惑も上がりましたよね。

熊久保　GBRでもありましたよ！　秋山問題についての記事を一旦、削除したんですよ。それは理由もちゃんと載せたんですけど、ネットのファンからは「圧力がかかったに違いない!!」って書き込みが凄くて。でも、ここで裏話をすると、圧力どころかですね、FEG関係者から「なんで削除したんですか！」って文句を言われたくらいですから!!

ジャン　「逆に疑われるじゃないか!?」と（笑）。

熊久保　そのときは本当にK-1MAXの記事を優先する指示がGBR内であったんで、それで一旦秋山の記事を下げたという経緯だったんですけどね。

佐瀬　やっぱり、当時あそこまで騒ぎが大きくなったのは、大川さんも言われましたけど、相手が"桜庭和志"だったというのが大きかったと思うんですよ。桜庭が『HERO'S』に移籍した最初の大晦日、しかもメインイベントという注目度の高い試合でもありました。だから、初めはいろんな要素が重なって問題が大きくなったのも

座談会出席者

熊久保英幸

元『ゴング格闘技』編集長で、現在は格闘技WEBマガジン『GBR』(http://gbring.com) の編集長を務める。94年～01年には『リングス』中継の解説者としても活躍し、秋山問題以前にも数々の"ヌルヌル事件"を目撃している（？）。

高崎計三

格闘技専門誌＆WEBなどへの執筆・編集を行なう（有）ソリタリオの代表。『kamipro』では主にボードッグの記事を手がけ、カルピン様とともに世界中を駆け巡る。また"ヌルヌル事件"直後はブログ上のコメント欄がなぜか炎上！　その理由は……!?

佐瀬順一

プロレス＆格闘技専門書籍などを手がける「SECOND WORKS」の代表。"ヌルヌル事件"の裏話などが克明に記されている桜庭和志のエッセイ本『ぼく…。』（東邦出版刊）の出版にも携わり、本座談会では桜庭サイドから秋山問題を斬る！

大川"隊長"義之

韓国在住ライター。韓国で日本語講師を務めるかたわら、格闘技に関するコラムなどを執筆。『kamipro』では、韓国の格闘技事情を伝える連載企画「インサイドコリア」を手がけ、本座談会でも韓国サイドから見た秋山問題の"衝撃の真実"を熱弁！

ジャン斉藤

本誌・編集長。雀鬼・桜井章一の内弟子を経て、ダブルクロス入り。永久電機などアントニオ猪木が手がける各種事業の調査・解明をライフワークとする31歳。今回は"さまよえる"秋山問題の着地点を模索すべく、本座談会を開催、司会を務める。

韓国の専門誌で〝ヌルヌル実験〟をやったら、驚くべき結果が！（大川）

あると思うんですけど、こうして時間が経ったことでファンも落ち着いて考え始めてるんじゃないですか。いまでも心の底から許せないってファンは当然いると思うし。

大川 もし秋山本人が公の場に出たら、ファンから罵倒されるんですかね？

高崎 試合会場で二度、秋山の姿を見てますけど、とくになんの騒ぎにもなってないですよ。

佐瀬 確かになかなか格闘家を前にして「テメエ！」とか凄めないですよねえ。

ジャン まあ、プエルトリコみたいにナイフで本気で刺しにくるファンがいたら、それはそれでイヤですけどね（笑）。

高崎 昔なんて、ラッシャー木村の飼い犬が、ファンの嫌がらせでノイローゼになってますけど（笑）。

ジャン で、いまだにファンが一番食いついてるのは「過失か、故意か」ということだと思うんですよ。……実際、どっちなんですかね？

熊久保 そこにいきますか⁉（苦笑）。

ジャン まあ、どっちというより、どう見るのかってことなんですけど。

大川 あの～、やっぱりボクは日本と韓国のスポーツに対する姿勢に大きな違いがあると思うんですね。オリンピックでもグレーなゾーンがたくさんありますけど、韓国の場合も勝利に対する貪欲さは日本よりも強いですよ。とくにメダルが懸かっている試合や相手が日本人だったときは、負けるにしても「指一本くらいは……」というような気持ちはありますし。

熊久保 指一本！ 凄いですねえ……。

大川 それに加えて、ああいうダーティな技って韓国では誰でも知ってる、と。だけど、韓国の選手はそれをマスコミの前ではしゃべらないんですよ。でも、秋山の場合は「勝利のためならあたりまえの行為なんだ」という感じで隠さなかったんじゃないかと推測されてるんですよね。

熊久保 う～ん、それが現実だったら秋山は相当のワルだなあ……。

大川 それは国家間の価値観の違いというか。絶対に結果を残さないといけないし、それくらいハングリー精神がある国なんで。

ジャン 熊久保さんはリングスをずっと取材されてましたけど、選手がああいう塗布物を身体に……。

熊久保 （さえぎって）普通にありましたよ‼ リングス・オランダ勢はもちろんですけど、日本人でも某選手が、どうしても負けられない試合のときにあらゆる反則を仕掛けていたこともありましたしね。

ジャン じゃあ、大川さんが言うところの勝利至上主義の風潮の中で、秋山は確信犯で塗ってしまった可能性ってあると思います？

熊久保 そんなの、秋山の本心に聞かないとわからないよ！（苦笑）。でも、そこにこだわってるファンは、秋山が「わざと塗りました」と認めないかぎりはずっとその議論は続きますよね。

ジャン 仮に認めたとしても「ほらみろ！ やっぱりそうだった‼」ってなりますし。

熊久保 だからTBSのビデオの中に確信犯で塗っている映像があればまた違うでしょうけど、具体的な証拠がないかぎり、そこを論点にしても堂堂巡りですよ。

高崎 そうですね。本人が認めなきゃどうしようもないってことをわかっているファンもいて、そういうファンは「いや、でも試合直後は『やってない』って言ってたじゃねえか。『乾燥肌で多汗症』って言ってたじゃねえか」っていう話になるわけですよね。

ジャン 要するに秋山には信頼性がない。結局は人間性への興味になりますね。

佐瀬 でも、桜庭選手自身は秋山がクリームを塗ってた映像を見てるんですよね。

大川 あ、そうなんですか⁉

佐瀬 で、桜庭選手も「本当にコソコソしてなかった」と言ってるんですよ。すでに報道されているとおり、実際に塗っているのは格闘技関係者ではなく、普通の知人だったみたいで。そういう人たちが、本当に肌が真っ白になるくらい塗りたくってる。で、TBSのカメラマンもちょっと不審に思ったらしくて、「それはなんですか？」って質問したらしいんですよ。そしたら秋山は笑顔で「ええ匂いするでしょ」って。で、そのカメラマンは最後にそのクリームの容器をアップで撮影していたらしいです（笑）。

ジャン その時点でおかしいと思っていたんだ（笑）。

大川 そのクリームの件で韓国でもおもしろい報道があるんです。『マーシャルアーツタイムス』という格闘技雑誌が、本当に秋山が使ったクリームはすべるのか？ という企画をやったんです。輸入してクリームを買って、記者たちが試合の何分前に塗って、それで身体もちょっと動かしてから、すべるか、すべらないかっていう。これはFEGでも実際にやってヌルヌルしたっていう話があるじゃないですか。ところがですよ！ 韓国側では驚くべき結果が出てですね、それほどすべらない、と（笑）。

ジャン 韓国ではすべらない！ いやあ、じつに気持ちがいいですね（笑）。

大川 でも、周りの人間やレスリングを長年やってる人たちは「そんなはずはない。すべらないはずがない」って口を揃えていたんですけど。とにかく、そういう記事のせいで、〝秋山被害者論〟が加速している感じですね。

高崎 でも、問題はすべったかどうかじゃないですよね。塗ったこと自体がいいか、悪いかであって。

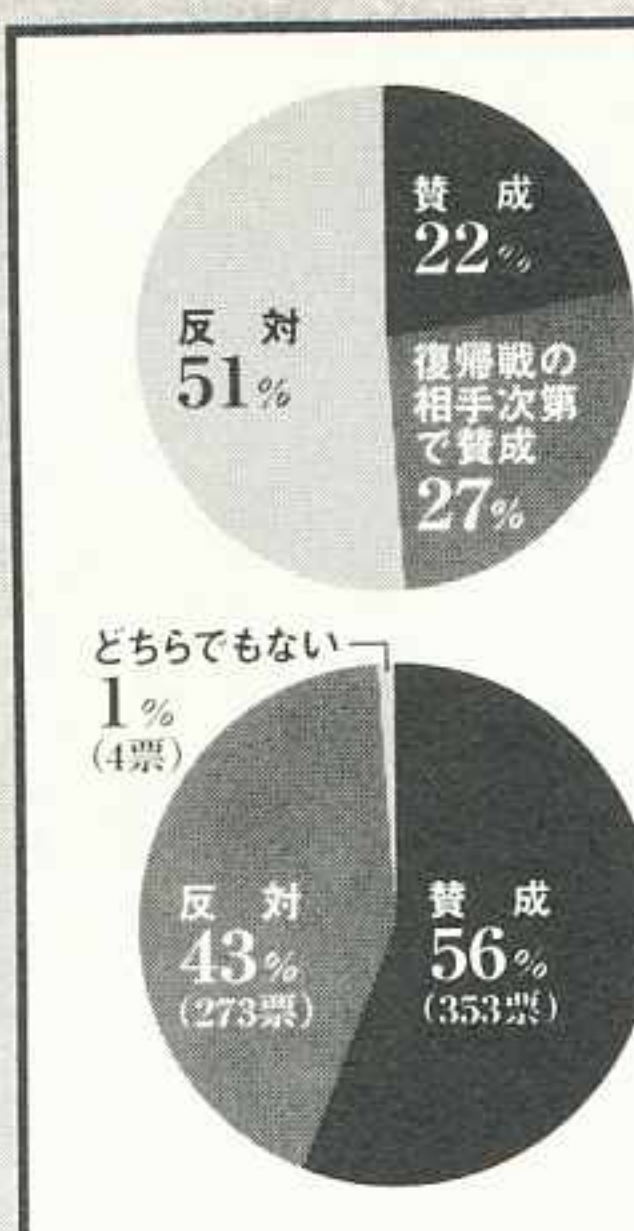
ジャン ですよね。まあ、「故意か、過失か」のポイントは堂堂巡りになるし、そこは永久にFEGとファンのあいだには大きな溝がある。結局、映像を見せても「編集したんじゃないか」っていう話になったりする。

1月11日の会見以来、公の場へは極力姿を現わさないようにしているという秋山だが、韓国では……、え⁉ ファッション雑誌の表紙だって⁉ う～ん、何がなんだか……。

7・16『HERO'S』の会場で集めたアンケートを集計する谷川氏。結果は左のグラフを参考にしていただきたいのだが、田村潔司が金泰泳に敗れたいまもなお「秋山vs田村はあきらめていない」と一言。……ますます〝さまよえる〟秋山問題なのである。

★あなたは秋山成勲の復帰に賛成ですか？ 反対ですか？

（kamipro Hand集計）
賛成 22%
復帰戦の相手次第で賛成 27%
反対 51%

（FEGアンケート集計）
賛成 56%（353票）
反対 43%（273票）
どちらでもない 1%（4票）

じゃあ、その不信感を前提として、FEGがどううまく転がしていくのかが求められるわけですけど……。

熊久保　現実的なことを言うと、秋山は1年間の出場停止がいいと思うんですよ。そして、来年の1月1日から復帰ということでいい。だって、大晦日に試合できるとしたらおいしすぎるもん！

高崎　ボクは半年くらいでいいと思うんですよ。というのは、これもなかなか大きな声で言えない状況にあるんだけど、反則としては軽いと思うんですよね、秋山のやったことって。サミングみたいに相手の身体に直接、危害を加える反則とは違いますから。

熊久保　でも、あれだけの騒ぎになりましたよ。

高崎　でも、騒ぎと処罰の重さって別じゃないですか。

大川　あのー、これは言っていいのかわからないですけど。秋山は日本では謹慎中ですよね。でも、韓国ではそうでもなくて。

ジャン　ああ、なんだか聞きたくないなあ。聞いたら載せたくなってしまう（笑）。

大川　男の肉体美を扱うファッション雑誌の一つで『メンズヘルス』っていう雑誌があるんですけど、秋山が表紙にバーンと出てるんですよ（笑）。まあ、あの事件のあとに撮影されたものかどうかはわからないんですけど。

ジャン　いやあ、じつに気持ちがいい表紙ですね（笑）。……しかしなあ。いまの話を聞いてますます疑問に思うのは、谷川さんって本当に秋山を復帰させる気持ちがあるんですかね？

熊久保　それはあるでしょ。

ジャン　いや、ボクはどうも、復帰させたくないんじゃないかって勘ぐりたくなるくらいズンドコですよね。前田日明のウンナン発言や、会見後のこの件に関するとても掲載できない独演会といい、会場アンケートの〝有志〟といい、秋山を応援してるつもりなんでしょうけど、あきらかに復帰を妨げてますよ！　彼らは（笑）。

熊久保　それか、秋山成勲という名前を徐々に刷り込ませているのかもしれない。

高崎　いまはその作業に入ってると思いますけどね。アンケートをやる時点で。

大川　ボクはですね、まず韓国で試合をさせればいいと思うんですよ。9月のK―1ソウル大会とかで。このあいだの『Dynamite!! USA』で大活躍だったユン・ドンシクと試合をするとなったら、これは韓国は大爆発ですよ。あの二人って、柔道のアマチュア時代から一人の選手にオリンピック出場を阻まれているんです。その選手はもう引退してるんですけど、彼が引退したあとでも国を背負って頑張ってる秋山とユンが闘ったら、韓国人にはウルトラスーパーカードになるでしょう。

ジャン　たとえ日本で追放されても、韓国で秋山成勲という存在を消費できる、と。

大川　韓国では秋山というのは商品価値がもの凄く高いんですよ。一番有名な格闘家はチェ・ホンマンなんですけど、その次が秋山。しかも一般の層に対する影響力もかなり強い。それはなぜかというと、KBSっていう韓国のテレビ局が『HERO'S』韓国大会のあとに『チュ・ソンフン、あるいは秋山物語』っていう1時間程度の番組を放送したんですけど、それが非常に大人気だったんですよね。日本に国籍を変えたけど、それでも韓国も愛してくれてる秋山は、韓国人にとっては〝日本で頑張ってる韓国のスター〟である、と。そういう認識ですよね。

佐瀬　だから、いずれ復帰できると思ってしまうところにファンがモヤモヤしているんでしょうね。

熊久保　う～ん。でも、いくらファンとマスコミが騒いでもですね、出そうと思えば主催者はあっという間に出せるんですよ！

ジャン　むなしいなあ。仮にそうだとしても、もっとうまく騙してほしい（笑）。

熊久保　だって、復帰に反対の人も秋山が出たら絶対にテレビは観るし、ヘタしたら会場に観に行っちゃいますよ。「俺は認めないから絶対に観ない、結果も見ない！」っていう人はいないと思いますね。

ジャン　確かに谷川さんに言われるまでもなく、遺恨やトラブルを転がしていく作業には賛成なんですよ。で、もっと大賛成で

いまなお止まらない秋山への抗議を“いじめ”と言い放ち、日明兄さんは「ウッチャンナンチャンだけはあんなことしない！」などとあらぬ方向へ問題を巨大化！　いったい秋山問題をどこへ向かわせるつもりなんダー!!

日本MMA界のここ数年を支えられるのはぶっちゃけ秋山なんですよ!(熊久保)

も、バレなければOKっていう〝暗黙の了解〟があるんですよね。

高崎 タイのムエタイなんて、キンタマをガンガン蹴り合ってますよね。

熊久保 ムエタイでは蹴られたほうが悪いという認識なんです。で、『kamipro』が大事にしたいのは、そういった〝ものの見方〟はあってしかるべきだっていうことなんですよね。そういう意見が封殺されてしまうのが一番怖い。まだ秋山が罪を認める前に(夢枕)獏さんにインタビューしたんですが、あの時点にしてはもの凄く勇気のある発言をしてるんですよね。なんて言ったかっていうと、秋山を〝推定有罪〟とした上で「だけど、俺はああいう勝利への執着心を見ると心が揺れるんだよぉ‼」と。その直後に秋山が罪を認めたけど、獏さんは原稿チェックでは何も削ってこなかった。普通の人間だったら世論を考慮して削りますよ、あきらかに誤解されますから(笑)。でも、それは秋山を認める、認めないじゃなくて、この〝ものの見方〟は譲れないということだと思うんですよ。

大川 ボクも獏さんと同じような気持ちがありますね。やっぱり秋山にはもの凄い上昇志向が強くて、柔道時代も〝灰色〟だったし、ボクから見ると、「汚い男だな」と思うんですよ。でも、まだ結論が出ていない〝疑惑〟の時点では、ボクは秋山を評価したい気持ちはあったんですよ。というのは、日本人って武士道とかなんとか言いますけど、宮本武蔵なんてよく考えたら汚いじゃないですか！ だって、平常心じゃないように相手をじらして精神的に有利な状況に持っていくってことをやってるわけでしょ？

熊久保 う〜ん……確かにね、格闘技において、反則ってバレなければ高等テクニックなんですよね。ボクシングだって、足を踏んだり、ヒジ打ちをかましたりとかしてでマジメなことを言うのもなんなんですけど(笑)、秋山問題って総合格闘技にやっぱり一石を投じた問題だと思うんですよね。そういう〝暗黙の了解〟を食い止めるという意味では、へんな言い方ですけど、秋山問題には凄く意味があった。何か大事故につながる前に食い止められたんじゃないかなって。これから先、総合格闘技ってもっといろいろな問題が出てくると思うんですけど、一つ進化させた問題ではあったのかなって思いますね。だって、パンクラスなんかクリームを塗ってないかどうか、水を身体につけて確かめるようになったでしょ。

佐瀬 ああ、桜庭選手本人もそれは驚いてました。「他団体でもそういうふうになりましたよ」って言ったら、「へぇ〜」って。

高崎 その点では『HERO'S』は審判団もあるわけですから進んでると思いますよ。磯野元氏に論理的に説明されると、やっぱり「そうだよなあ」って納得できるじゃないですか。

佐瀬 で、現実的な話をすると、秋山って今年の大晦日には……。

熊久保 出そうですよね。

高崎 9月はないんですかね？ だって、大晦日の復帰だったらそれこそおいしいトコ取りでファンの気持ちを〝逆なで〟しますよ。

大川 でも、視聴率は獲れますから、TBSとしても望んでるんじゃないですか？ FEGも完全にヒールに仕立てたりして。

ジャン うーん、どうですかねえ。田村潔司が負ける前まではヒール論のムードはあったと思いますけど、『kamipro』内部に関して言えば、けっこう興味が失なわれつつあるんですよね、ズバリ言って。

一同 ハハハハ！

熊久保 じゃあ、なんでこの座談会やってるんですか！

ジャン だ、か、ら！ 皆さんに参加していただいてるんです(笑)。一つには、復帰が先か、相手が先かという問題があるんですよね。いまは「復帰させます」というムードだけが先行している。観る側の真理とすれば、田村潔司なら、もしくは金原弘光と闘う復帰であれば、闘いのロマンはあるんですよ。だって、復帰するだけでワクワクします？

高崎 一部のファンはあいかわらず騒ぎ続けるだろうけど、実際に秋山って強いんで、「アイツにも勝てるかもしれない」っていうように、だんだん意識が移行していく感じになると思うんですよ。転がすのをあきらめるんだったら、それがFEGとしては一番理想的ですよ。

熊久保 相手に関していえば、私は、さっき大川さんが言ってたユン・ドンシク戦はおもしろそうだなって思いますけどね。

高崎 それは純粋に試合としておもしろそうってことですよね？

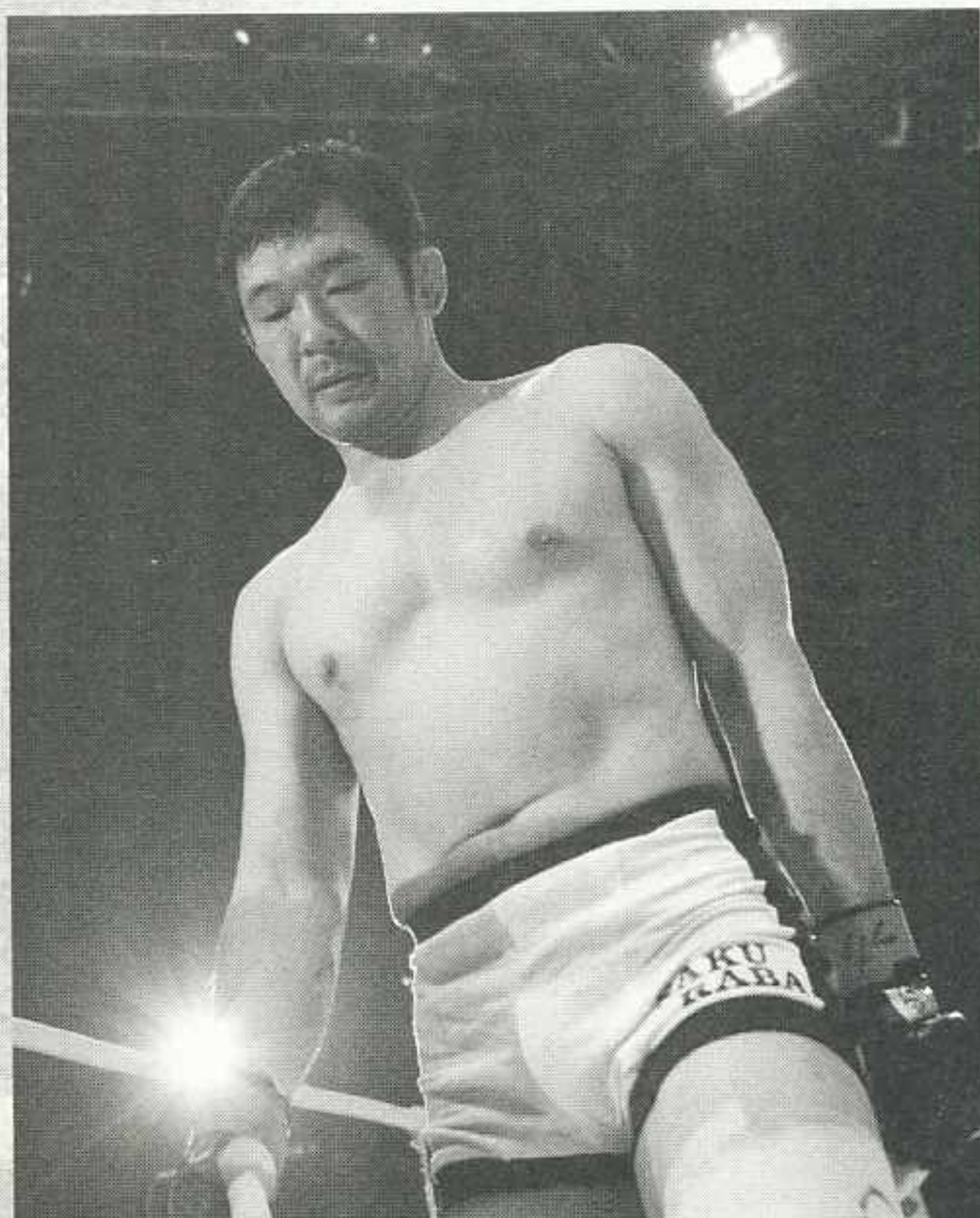
熊久保 だって、どっちにしたって入場してきたら大ブーイングを浴びて生タマゴぶつけられる可能性もあるわけでしょう。それは秋山を憎んでるファンは楽しむと思うんですよね。だから、誰が相手でも変わらないと思うんですよ。

佐瀬 ボクはやっぱりプロレスも格闘技も好きなんで、桜庭選手が一番燃えた時期ってグレイシー戦じゃないですか。だから、桜庭vsグレイシーじゃないけど、〝U vs 秋山〟っていう図式ができればおもしろいんじゃないかなって。それこそ金原もいるし、田村、船木も見えてきますし。

高崎 あとミノワマンもいいんじゃないですかね。

熊久保 ああ、ミノワマンはありえそうだなあ〜。

佐瀬 いずれにしても桜庭選手が絡むことはまずないと思いますね。『ぼく…。』の中でも「もう交わることは決してないだろう」と書いてますし。でも、やっぱりいま騒いでるファンを納得させるために田村だったり柴田(勝頼)だったりUWFの匂いのするプロレスラーを当てるっていうのは、安

直な発想かもしれないですけど、アリだと思うんですよね。そうなったらユン・ドンシクが元髙田道場の一員として出て行ってもいいですし！
ジャン　……そうですか。じゃあ、ユン・ドンシクの「ユ」はUWFの「ユ」だという感じでムリヤリ納得しますよ（無表情で）。
一同　ガハハハハハ！
大川　斉藤さんは誰とやれば興奮するんですか？
ジャン　そりゃあ、田村が一歩退いた以上、桜庭との再戦に決まってますよ！　あえて前置きなしで秋山の復帰戦で。ヒリヒリしますよね、これは!!
佐瀬　でも、桜庭選手が本の中で書いていたのは「ボクはいろんなものを懸けてこの一戦を闘った」と。『HERO'S』に移籍してメインはイヤなのにメインにされて。でも、彼は何も懸けてこなかった、と。その裏切られた感じじゃないですけど、そもそも姿勢が違ったことに対してそういう気持ちがあったんでしょうね。
ジャン　なるほど。でも、腹に据えかねる感情があるからこそ、観る側はおもしろいんですけどねえ。
佐瀬　たぶん再戦したらスッキリするとは思うんですよ。でも、桜庭選手はたとえ再戦をオファーされても受けないでしょ。実際問題もう絡むことはないと言い切っているわけだし。だから、桜庭選手と絡まないってことがわかってるんで、桜庭ファンとしては逆に秋山が復帰してきても安心というか。桜庭選手の今後の流れとは関係のないところで、秋山は田村とやったり柴田とやったりとかすればいいのかなあって。
熊久保　だって、桜庭が負けたらまたヒートしませんか？
ジャン　そこは勝負事ですから。それに桜庭が勝ったらメチャクチャ気持ちいいと思いますよ！　もう一つ確実に言えるのは、どっちに転んでも秋山はますます嫌われる（笑）。FEGは秋山をヒールとして売り出したいなら、そこまで徹底的にやってほしいですね！
大川　でも、あの事件の前までそんなにヒールでもなかったんですよね。
ジャン　いや、潜在的に嫌っていたと思いますよ。やっぱりファンって、前座から駆け上がらないと認めないみたいな空気があったりするじゃないですか。かつての武藤敬司に始まって、吉田秀彦とか小川直也とかにも。
熊久保　でも、ぶっちゃけですね、日本の総合格闘技のここ数年を支えていけるのは秋山だと思うんですよ。だって実力からいったらダントツですよ。世界にも通用するレベルですよ。だからヌルヌルにしなくたって勝てるんです。だって、マヌーフをあんなに圧倒したんですよ！　心を入れ替えて真面目にやっていけば、そのうち認められますよ。格闘技は実力の世界ですから。

秋山とは絶対に絡まないと断言しているという桜庭。"因縁の再戦"というのは永久に行なわれないのだろうか……？

実際問題、桜庭は今後、秋山と絡むことはないと言い切ってます（佐瀬）

佐瀬　ミルコとかヴァンダレイもどっちかっていったら嫌われ者だったじゃないですか。ヴァンダレイだって、桜庭に3回勝って、やっと認められたっていう。だから、秋山も実力のある相手とやったら、ヒーローになる可能性はありますね。
ジャン　秋山が強いのはよくわかるんですけど、ミルコやヴァンダレイには"ダーティヒーロー"の魅力があったんですよ。でも、秋山はいまのところ単にダーティなヤツなんです。だって、子どもたちをたくさん引き連れて、みんなで正座して礼をして、それで柔道着を脱いだらクリームを塗ってるんですよ！（笑）。
大川　そう考えると、とんでもないヤツですね（笑）。
ジャン　そのうえ最初は「俺はやっていない」と否定する（笑）。これをギルバート・アイブルがやったんならわかるんですけどね。で、極端なことを言うと、ボクは秋山はもう永久追放でもいいんですよ。
熊久保　えっ!!　ますます座談会の意味がなくなるじゃないですか！（笑）。
ジャン　いやいや、それは復帰させるんなら、中途半端なことはやってほしくないってことなんです。へんに転がると、"心を揺り動かした"ものの見方自体が安っぽくなるように気がして。
熊久保　ただ、秋山が復帰戦でもの凄い名勝負っていうか大激闘を繰り広げたら風向きはガラッと変わると思うんですけどね。
佐瀬　それこそバーンと秋山を復帰させて、血だるまになって「すみませんでした！」ってリング上で泣きながら謝るか、もしくは歴史的な大勝利でみんなが応援するような状況になるのか。
高崎　それだと、もうヌルヌル問題は関係なくなりますしね。
ジャン　ボクは桜庭と再戦しないかぎり、な～んかスッキリしないんですけどねえ。おそらく秋山成勲の人間性にはストレートに興味を抱けるけど、秋山復帰問題は一筋縄ではいかない感情があるってことなんでしょうけど。
佐瀬　まあ、秋山戦は、もしかしたら桜庭選手が引退するときに「忘れ物が一つありました」って言うかもしれない（笑）。
熊久保　それだと、秋山云々というより桜庭の単独ストーリーになりますね。
ジャン　それだったら秋山より髙田延彦が出てきてほしいなあ……って、ここまでくると世迷い言だけど。
熊久保　でも……、私は桜庭の今後よりもですね、気になるのは『HERO'S』の今後ですよ！　だってですよ、桜庭、田村、船木、金泰泳って、40歳前の選手がですよ、第一戦で活躍する『HERO'S』って、いったいどうなっちゃうの？　って思うじゃないですか！
ジャン　……あ！　だから髙田延彦の出番なんですよ!!

【07年7月30日／都内・某所にて収録】

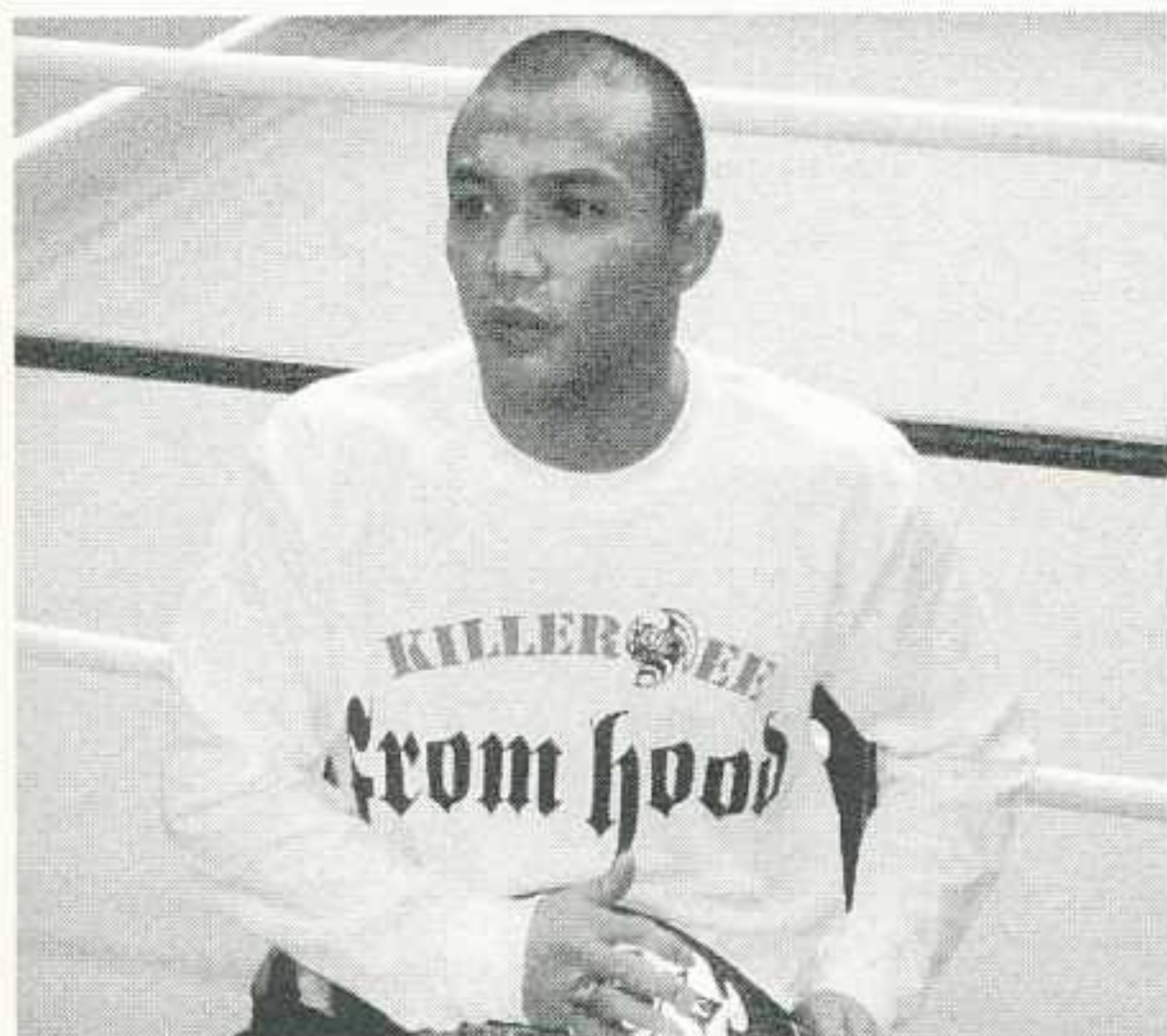
“秋山問題”以前にもこんなにあった!

プロレスラー＆格闘家にとっての“謝罪”ってなんだ!?

「ローション塗布は故意か否か?」。その真偽のほどは、いまだ藪の中だが、今年1月の記者会見で秋山成勲は謝罪した。目安箱の設置や、田村、金原などが対戦を熱望するなど、秋山復帰の気運が徐々に高まりを見せる中、これを機に本誌編集部は過去のマット界でどんな“謝罪”があったのかを調査。プロレスラーや格闘家は、謝罪の言葉はもちろん「土下座する」「坊主になる」「引退する」などの表現方法、また場所やタイミングなど、さまざまなパターンを披露しているのだ。ここでは、その代表的な謝罪例をいくつか紹介しよう。

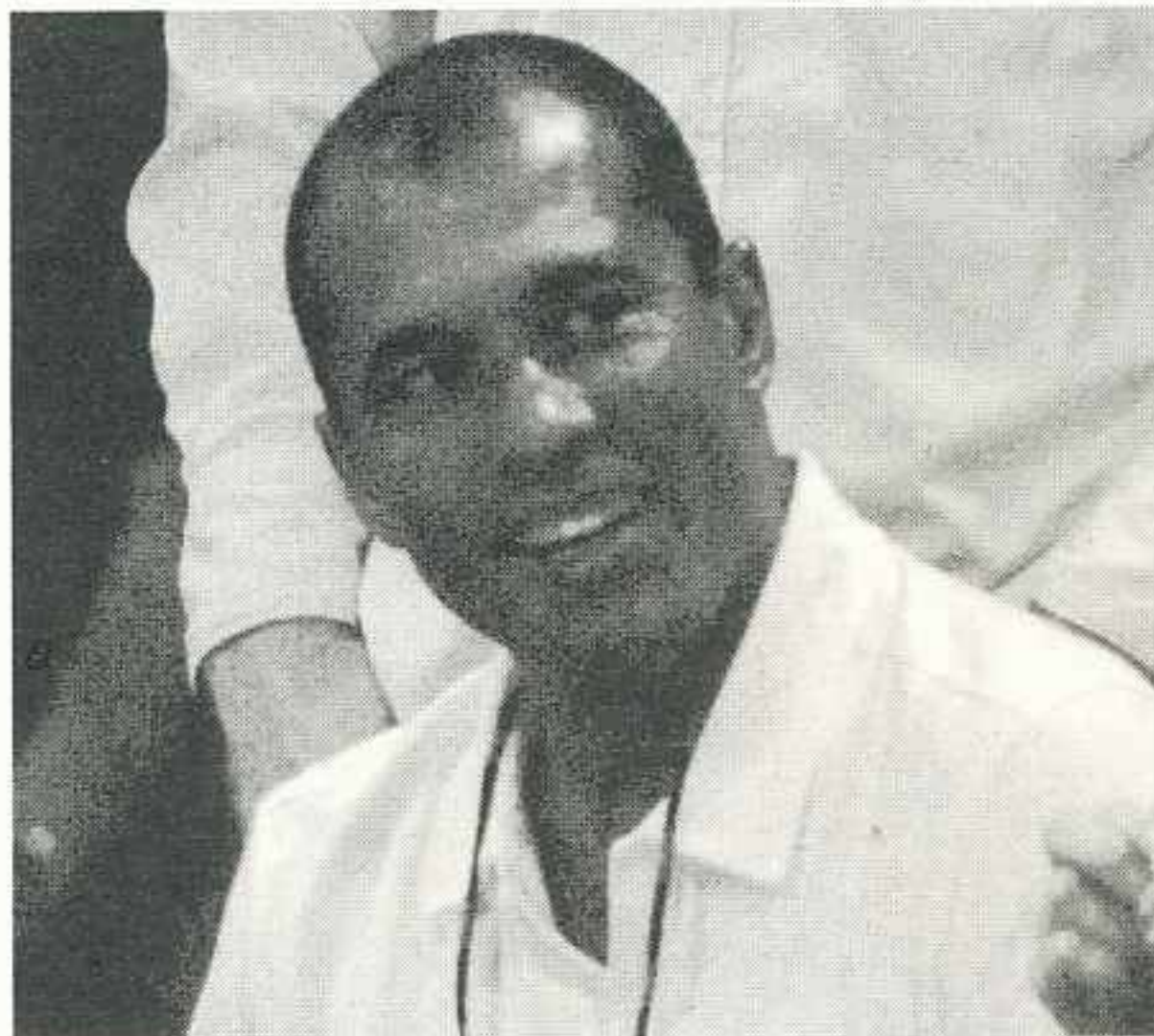
文／山本宗忠（THE PEHLWANS）　構成／松澤チョロ

やんちゃなKIDも、いまは良きパパに!

山本“KID”徳郁

“神の子”がリングドクターに暴言を吐き、謝罪

2006年2月の修斗代々木大会において、青木真也 vs 菊地昭の裁定に不満を持った山本“KID”徳郁が、試合後、菊地への治療を施していた中山健児リングドクターに対して暴言を吐き、足先で臀部を小突く等の行為。「お尻を軽く蹴られ、痛くも痒くもなかったが心が痛かった」と語った中山ドクターだったが、事態を重く見た修斗コミッションはKIDに対して、選手として修斗公式戦に出場すること、チーフ・セコンドとして選手に付き添うことを禁ずるなどの厳重処罰を下した。事件数日後にKIDは中山ドクターに謝罪して和解が成立していたが、あらためて記者会見を行ない謝罪。「後輩のことになると熱くなりすぎて、抗議も度が過ぎたと思ってます」と反省しきりのKIDに中山ドクターも「本当に殴られていたなら被害届を出してます。こんな騒ぎを起こし、僕にも責任があります。申し訳ありません」と謝罪で切り返した。大人だ!

グレイシー一族だって謝るときは謝る!?

ホイス・グレイシー

格闘技界のお騒がせ一族、唯一の謝罪!?

2004年12月、DSEは、『Dynamite!! 2004』に出場するホイス・グレイシーに対し、2003年に結んだ契約に違反するとして米国ロサンゼルスの連邦地裁に提訴。当初は「違反してない!」と息巻いていたホイスだったが、翌年12月に不履行を認め、DSEと和解するとともに「混乱を招き、DSE、フジテレビおよびファンの皆さまに深くお詫び申し上げます」と謝罪した。だが、これはホイスにとってはレアなケース。今年6月の『Dynamite!! USA』での桜庭戦後にステロイド陽性反応が出て、カリフォルニア州アスレチック・コミッションから罰金30万円＆出場停止1年間のペナルティを科されると、ホイスはその処分をあっさりと受け入れた。しかし、その理由は「無実だが、無実を証明するとなると弁護代だけで120万円かかるし、どっちみち1年に1回くらいしか試合しないから」。これぞ、グレイシー。素直に非は認めない。

ズバリ言って、謝罪なんてしねえんです!

アントニオ猪木

アントン、女性スキャンダルで丸坊主に

言葉でなく行動で謝罪?　写真週刊誌『FOCUS』(現在休刊中)で女性同伴の写真を掲載されたアントニオ猪木は、「男のケジメで坊主にしました」として、1986年5月21日の新日本、茨城・日立市池の川中央体育館大会に坊主頭で登場し、謝罪の意を表明(?)。マスコミ＆ファンをあっと驚かせた。猪木は後年、「俺が、いまでも悔しいと思うのは、そのとき、なぜピースサインができなかったのか?」というとんでもない後悔の念を口にしている。さすがアントン!　ちなみに、坊主頭になってからの猪木は好調を続け、翌月17日の愛知大会ではアンドレ・ザ・ジャイアントから(モンスター・ロシモフからの改名後)世界初のギブアップ勝ち。19日の両国大会ではディック・マードックを破り、第4回IWGP王座決定リーグ戦に優勝。三連覇を達成している。マイナスをプラスに転換する猪木らしい行動だ。この人はただでは謝らない。

根っからのヒールも素顔はみんな知っている

天山広吉

人のよさ全開!? 脱水症状を素直に謝罪

2005年２月20日の新日本プロレス両国大会のIWGPヘビー級＆三冠のダブル王座決定戦で事件は起こった。小島聡と死闘を展開した天山だったが、60分フルタイムまであとわずかのところでなんと脱水症状に。そのまま起きあがることができず、小島がIWGPのベルトを奪った。とんだ醜態を晒してしまった天山は、翌月３日に行なわれた記者会見で「自分だけの問題じゃなくて、会長や選手みんなに迷惑をかけてしまった。申し訳ない……。すみません……」と、神妙この上ない表情で謝罪。そんな天山に「力尽きて倒れたっていうことは、レスラーとして一番恥ずかしいこと！」と、かつて「しょっぱい試合してすみません！」とファンに向けて謝罪した平田淳嗣も辛らつな一言。ベルト奪回を誓う復帰会見のはずが、さながら謝罪会見に。基本・謝らないプロレスラーにあって、天山だけは別？ へこみまくっていた姿が印象的だった。

いまや健介ファミリーとして大ブレイク!

佐々木健介

これ以上ないストレートな謝罪の言葉“正直、スマン”

「正直、スマンかった！」。日本マット史上に残る（？）シンプルかつストレートな謝罪の言葉。2001年３月20日、新日本プロレス代々木第２体育館大会での出来事。名言の主・佐々木健介は翌４月の大阪ドーム大会で藤田和之とIWGPヘビー級選手権を行なうはずだったが、代々木大会から３日前のスコット・ノートン戦でベルトを奪われてしまう。約束を守れなかった健介は、藤田に対し「藤田！ 正直、タイトルを守れず、スマンかった！ でも、いまの俺に失なうものはない。リングに上がるなら、とことんやろう！」とマイク。性格の出た馬鹿正直な発言が受け、ネット上で大喝采を浴びた。ちなみに健介は04年のG1でも、同シリーズ中に脳梗塞で途中欠場した高山に優勝を誓っていたが準々決勝で敗れてしまい、「G1では負けたけど、俺の暑い夏は終わらない。それから高山。正直、スマンかった！」と発言している。

新日LOVEの体現者も、いまはもう卒業……

田中秀和リングアナ

両国暴動にケロちゃん、涙の土下座

1987年12月、新日本プロレス両国大会。TPG（たけしプロレス軍団）を率いるビートたけしが、刺客として連れてきたビッグバン・ベイダー、マサ斎藤とともにリングに上がり、アントニオ猪木に対戦を要求。これに対して猪木は、予定されていた長州との対戦を中止することを一方的に宣言すると、リング上で「どうですか、お客さん！」と呼びかけ、反対意見が浴びせかけられているのにベイダーと対戦（しかも3分あまりで猪木の負け）。“やりたい放題”の猪木に会場のファンの怒りも沸点に達し、物を投げ、椅子を壊すなどの大暴動に発展した。ここで暴徒化したファンを鎮めようと登場したのが、田中リングアナ。リングに上がるや四方に土下座し、「皆さんの気持ちはよくわかります！」と泣き崩れた。当時の『週刊プロレス』のコピーは、「泣くなケロ！ 悪いのは君じゃない!!」。そのとおりだが、やっぱりアントンは最高だ！

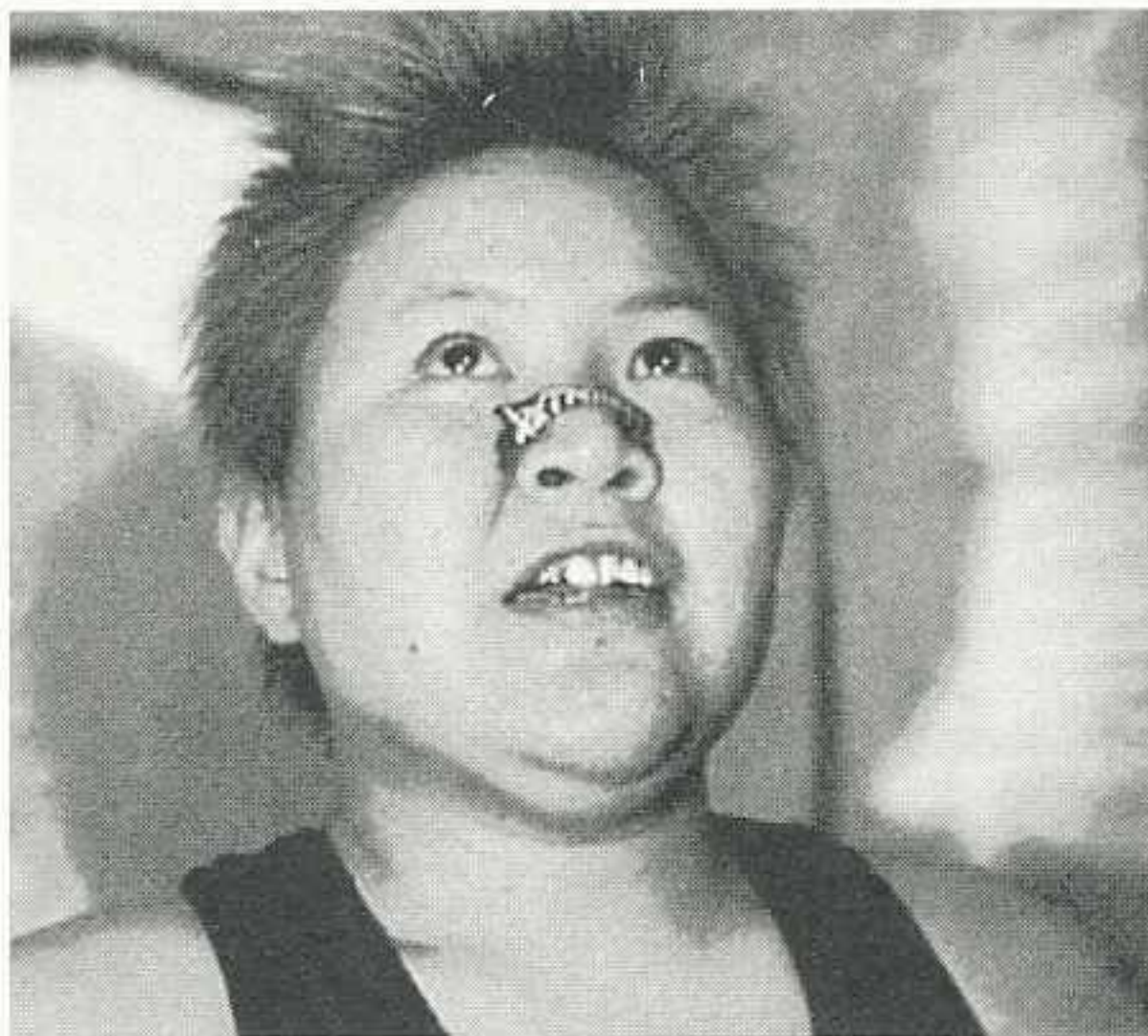
キング・オブ・トラブルメーカー

ボブ・サップ

謝罪しても、トラブルメーカーぶりは変わらず

2006年５月のK-1オランダ大会で起こったドタキャン騒動以来、何度もFEGと論争を繰り広げてきたボブ・サップ。DSEの弁護士も務めたマイケル・コネット氏を帯同したボブが「2006年６月吉日」と書かれたFAXテロを敢行すれば、遺憾の意を示した谷川さんもFAXで反論。すると今度はコネット氏からの反論FAXが届き、「なんでも受け入れられる」と豪語する谷川さんも「シュルトとぶつけてやろっかなぁ」とこぼすなど、関係は修復不能……に思われたが、今年6月、FEGと電撃和解。ボブは復帰会見で「迷惑をかけたファン・関係者にお詫びしたい」と謝罪した。しかし、復帰戦はアーツのヒザ蹴り一発で秒殺KO負け。試合後またもボブは逃亡し、谷川さんは「あれでは和解できる気持ちにはなれない。あとは弁護士と相談します」と即和解撤回。もっと早く謝罪すれば結果は違った……のかもしれない。

大騒動のAV出演後、ひっそりと引退……

ドレイク森松

AV出演について涙の謝罪「プロレスやりたいんスよ」

今回紹介する中でも、きちんと謝罪会見と銘打ち謝罪を行なったのは、嵐とKIDとこのドレイクだけ。経緯はこう。2005年8月、元JDスターの東城えみが「負けたら即AVデビュー ランバージャックデスマッチ!!」に挑戦。相手はドレイクが務め、当然、東城が敗れたわけだが、試合終了直後、リング上で“本番”行為したもんだから、さあ大変。ファン・関係者が揃って「神聖なリングを汚された」と激怒。大騒動に発展した。「あれはガチだったから、私が勝っていたら……」と驚愕のコメントを残しAV女優に転身した東城は余裕だが、困ったのはドレイクだ。「もうホント、プロレスやりたいんスよ……」。業界から干されたドレイクは事件の2ヵ月後、謝罪会見を行ない、号泣し、何度も頭を下げた。しかし、この会見の半年後、2006年４月に引退。片棒を担いだとも言われたが、彼女が一番の被害者だったのかも……？

ドラゴンストップをクリアし、無我で復活!

嵐こと高木功

大麻問題を謝罪するも、ドラゴンは二転三転

最近の“謝罪”といったら、この選手を思い浮かべる人も多いだろう。2006年７月、嵐（高木功）が大麻不法所持で逮捕され、当時主戦場としていた全日本プロレスから永久追放を宣告された。業界からも追放かと思われたが、今年４月、嵐は藤波社長に無我参戦を直訴すると、５月に謝罪会見。しかし、「（全日本への謝罪は）考えていない」などといった嵐の態度を伝え聞いた藤波は「誠意が見られない」として無我参戦にドラゴンストップ。状況を見かねた西村が嵐の後見人となり藤波を説得し、嵐は６.21後楽園大会に登場。試合後、四方へ向かって土下座し「嵐を封印して高木功として練習生のつもりで頑張ります」と謝罪した。しかし藤波は「リングよりもまずは世間に認めてもらうこと」と厳しい意見。基本・謝らないプロレスラーが世間に認められるは難しい。そのことをドラゴンはよく知っているのだ（たぶん）。

結論

格闘家はともかく、プロレスラーはよほどのことがないかぎり謝らない

秋山成勲や、夏巡業をすっぽかしてモンゴルでサッカーをしていた横綱・朝青龍など、格闘家が不祥事を起こした場合には、謝罪のあとに厳罰が待っている。状況と反省の度合いによっては情状酌量の可能性もあるため、誠意を見せる謝罪はとても重要だ。しかし、プロレスラーは基本・謝らない。なぜか？ プロレスラーには、アングル云々で起こったケースもそうだが、社会に影響を与えかねない大騒動を除き、ガチな騒動に対しても、それをうまくリング上で転がす能力が求められるからだ。アントンのように、それが謝罪なのか否かを観る側に考えさせる離れ業（？）を演じてこそ一流のプロレスラーと言えるだろう。うまく転がすことができれば、たいていはそれが謝罪となるのだ。非常識、万歳！

<RADICAL特選劇場>
ゴッチイズムよ永遠に! プロレスの"根源"はここにある!

no.3 カール・ゴッチ 神様降臨 神様降臨インタビュー SOLD OUT!!

no.66 "神様"は変わらず カール・ゴッチ 神様再降臨インタビュー

●（家のガレージにあるコシティなどを指さして）「これっぽっちの器具でも人を殺せる練習はできるんだ！」という衝撃発言で、"神様"カール・ゴッチが本誌に降臨したのはNo.3（残念ながら、完売）。フロリダのゴッチ邸で、プロレスの原点に触れたインタビューで"エアガイツ"（ドイツ語における大和魂）が爆発！

●No.66では、当時、79歳だったゴッチに2日間にわたってインタビューを敢行！　当時、プロレス界の仇敵だった、グレイシー一族に「尻だけで闘ってやる」と噛みつき、「イノキはビジネスマン」とバッサリ切り捨てるなど、血気盛んな頑固親父ぶりを披露！　これが本誌のラストインタビューとなった。最後の神様の言葉をいまこそ確かめろ！

ゴッチイズムあふれる本誌・ラストインタビューはRADICALで読める!!

注 NO.92以降の「Kamipro」はこちらでは取扱いがありません。http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

バックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797
販売元 (株)ダブルクロス　平日 13:00～19:00

"神様"の後に、"神様"なし！
ゴッチの前に、ゴッチなし

元祖! 紙のプロレス BACK NUMBERはすべて50%OFF

特集 神秘とは何か?
no.14 780yen⇒390yen
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／遠藤幸吉インタビュー

特集 インディペンデントの逆襲
no.15 780yen⇒390yen
あんた誰?　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／K－1とは何か？石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

特集 実況パワフル北朝鮮
no.17 780yen⇒390yen
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松維親・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」
各1260yen⇒630yen
97年当時のパンクラシストが勢揃い!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレスRADICAL no.16～87

格闘ノストラダムス!
no.16　780yen　'99.03
［表紙：エンセン井上］アントニオ猪木、環境問題を『紙プロ』で語る!／引退後初! 前田日明インタビュー／石川孝司

"新"プロレスとは何か?
no.32　840yen　'00.10
［表紙：小川直也］田村潔司に快勝！ A・ホドリゴ・ノゲイラ／ドラゴンの大爆笑10 藤波語録／ラッシャー木村

『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
no.34　840yen　'01.01
［表紙：小川直也］田村潔司に快勝！ ノゲイラインタビュー／ドラゴンの大爆笑10　藤波語録／ボブ＆オバチャンチン

純プロレスを徹底検証!
no.35　840yen　'01.02
［表紙：サクマシン（イラスト）］ZERO-ONE本格始動 橋本真也／プロレススーパースター列伝 ジョー樋口／杉浦貴

燃えよ、闘魂の火種!!
no.36　840yen　'01.02
［表紙：橋本真也（イラスト）］ノアから独立！　高山善廣を確認せよ!!／ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

小川直也は是か非か?
no.38　840yen　'01.05
［表紙：髙田延彦（イラスト）］忘れ物の正体は。髙田延彦／ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

前田日明は是か非か?
no.39　840yen　'01.06
［表紙：前田日明］前田道場新エース・金原弘光／怪物か!? それとも…… 藤田和之座談会／壮絶なる格闘人生・藤原敏男

地上最強のプロレスとは?
no.40　880yen　'01.07
［表紙：アントニオ猪木］蘇れ！ Uインター＆キングダム伝説！ 高山善廣×金原弘光／熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎

"最後の黒船"WWF来襲!!
no.41　880yen　'01.08
［表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア］リングス10周年！ ヴォルク・ハンが振り返る／真樹日佐夫×三池崇史

アントンパワー大爆発!!
no.42　880yen　'01.09
［表紙：アントニオ猪木］ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談／"ヒャッホーの真実" 辻よしなり／高山×宮戸×金原

聖戦『PRIDE.17』迫る!!
no.43　880yen　'01.10
［表紙：桜庭和志］ブラジリアン・トップチーム 3大柱インタビュー／金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

サク連敗と『PRIDE』の未来
no.44　880yen　'01.11
［表紙：桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ］その修羅場の数々！ シーザー武志／怪物伝承対談！ 高山善廣＆杉浦貴

一寸先はハプニング!!
no.45　880yen　'01.12
［表紙：アントニオ猪木（ホームレス姿）］悪魔の書、現る！ ミスター高橋／ジェラルド・ゴルドー人生相談

田村潔司、『PRIDE』討ち入り!
no.46　880yen　'02.01
［表紙：田村潔司］さらばリングス！　金原×和田、浅草キッド／ならず者DEEPで勝利！エル・カネック／キラー・カーン

WWE日本侵攻、5秒前!
no.47　880yen　'02.02
［表紙：ビンス・マクマホン・ジュニア］"天才" 武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場！／噂の馳浩がミスター高橋本を語る！

桜庭、満開の日は近い!
no.48　880yen　'02.03
［表紙：桜庭和志］奇跡のメガトン対談！ 小川直也 vs ノゲイラ＆スペーヒー／和田最強伝説が遂に現実に！ 金原弘光

究極の格闘技大戦争勃発!
no.49　880yen　'02.04
［表紙：ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭］和田さん快勝記念鼎談！ 高山＆金原＆和田／菊田早苗とは何者か!?

50号記念企画てんこ盛り号
no.50　880yen　'02.05
［表紙：桜庭和志］「地方発世界」開始！ 小川＆橋本／リングスロシア軍団の軌跡／パンクラス取材解禁！

揺るぎなきプロレスの確立
no.51　880yen　'02.06
［表紙：橋本真也］両国国技館だよ、全員集合！ 橋本真也／『PRIDE』の魅力をマン開！ 小池栄子／ 武藤敬司人生相談

戦慄の『LEGEND』前夜!!
no.52　880yen　'02.07
［表紙：橋本真也、小川直也］全身プロレスラー・高山善廣／USAの渡世人ドン・フライ／ロシアン・トップチーム

『Dynamite』ド直前号!
no.53　880yen　'02.08
［表紙：桜庭和志］ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×美濃輪育久／独占肉弾スクープ！ マット・ガファリ

『Dynamite!』を大総括!
no.54　880yen　'02.08
［表紙：アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ］"首の皮一枚" ホイス＆エリオグレイシー／ジョシュ・バーネット

髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
no.55　880yen　'02.10
［表紙：髙田延彦］「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白！／金原が『PRIDE』参戦！／メガトン級の男、ボブ・サップ！

驚ガクの6周年記念号
no.57　840yen　'02.11
［表紙：高山善廣］サップとタイマン勝負!! 高山善廣／新たなる "U" が始動!! 田村／ミスター高橋×大槻ケンヂ

夢の対談、大連発号!
no.58　880yen　'03.01
［表紙：武藤敬司＆船木誠勝］夢幻のファンタジー対談 武藤×船木／Uスタイル対談 田村×高阪／宮戸×安生×鈴木健

最後の皇帝、『PRIDE』上陸
no.59　880yen　'03.02
［表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル］いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル／アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

『PRIDE』は変貌&再生する!
no.60　880yen　'03.03
［表紙：エメリヤーエンコ・ヒョードル］ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル／驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

ゼロワンvs新日5.2戦争!
no.61　880yen　'03.04
［表紙：橋本真也&小川直也］裏番組をブッ飛ばせ！ 橋本真也×小川直也／1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

ミルコの首をカッ斬ってみろ!
no.62　880yen　'03.05
［表紙：ミルコ・クロコップ］ヴァーと登場！ 佐々木健介／現役復帰？　船木誠勝／ヒョードルが藤田を一刀両断！

マット界、超絶リボーン!!
no.63　880yen　'03.06
［表紙：橋本真也&小川直也（イラスト）］「お前は男だ」劇場炸裂！ 髙田延彦／『PRIDE』REBORNを大総括!!

PRIDEミドル級GP直前!!
no.64　900yen　'03.07
［表紙：桜庭和志］"異次元格闘技戦戦" 田村潔司×吉田秀彦を大展望!!／『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
no.65　880yen　'03.08
［表紙：ミルコ・クロコップ］最後の皇帝大炎上！ ヒョードル／ミルコついに皇帝戦へ／闘魂ストーカー、イズマイウ

ミルコ『武士道』電撃出陣!
no.66　880yen　'03.09
［表紙：ミルコ・クロコップ］ミルコ緊急インタビュー／マッハを破った男、長南亮登場！／『東スポとは何か？』

ミルコvsノゲイラ、迫る!!
no.67　880yen　'03.10
［表紙：ヴァンダレイ・シウバ］ノゲイラ戦緊急インタビュー！ ミルコ／『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

大晦日・格闘技大戦決定!!
no.68　880yen　'03.11
［表紙：髙田延彦PRIDE統括本部長］大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！ 髙田延彦／曙とは何者か!?／桜庭和志

『ハッスル1』開催ド直前!
no.69　900yen　'03.12
［表紙：橋本&小川］出てこい！　泣き虫！　橋本＆小川／『泣き虫』著者、金子達仁登場！／田村潔司／美濃輪育久

04年末の格闘戦争を大総括!
no.70　880yen　'04.01
［表紙：ミルコ・クロコップ］シウバに近藤有己が宣戦布告！／健介＆北斗WJの真実を語る！／紙プロ大賞＆語録発表

『ハッスル2』で大フィーバー!
no.71　880yen　'04.02
［表紙：ハッスルイラスト］『PRIDE GP』優勝宣言！ ミルコ＆ノゲイラ／川田利明初登場！／猪木vsアミン戦の真実

『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
no.72　840yen　'04.03
［表紙：ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ］GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル／山本KID徳郁

最も過酷な道を行く男!!
no.73　880yen　'04.04
［表紙：小川直也］GP出場決定、緊急インタビュー！ 小川直也／PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

感じろ、ハッスル魂!!
no.74　880yen　'04.05
［表紙：小川直也］PRIDE・GPでハッスル成功！ 小川直也／リベンジロード発進!! 桜庭和志／ミック・フォーリー

英雄誕生の気運高まる!!
no.75　880yen　'04.06
［表紙：小川直也、桜庭和志、吉田秀彦］シルバ戦直前に大ハッスル宣言！ 小川直也／奇蹟の独占インタビュー！ 髙田総統

プロレス爆発へ最後の挑戦!
no.76　880yen　'04.07
［表紙：桜庭和志］小川の "盟友" と "宿敵" が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ／厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志

小川vsヒョードル決定!!
no.77　880yen　'04.08
［表紙：小川直也］「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也／狙うは皇帝の首ひとつ！ ミルコ

PRIDE GP徹底総括号
no.78　840yen　'04.09
［表紙：小川直也］衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！ 小川直也／小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦／谷川貞治

髙田総統がビターンと降臨
no.79　840yen　'04.09
［表紙：髙田総統］キャプテンに休息無し！ 小川直也／特別付録・髙田総統ポスター／谷川さんも推薦『曙は是か否か？』

守護神ミルコが外敵狩り!
no.80　880yen　'04.10
［表紙：ミルコ・クロコップ］ミルコ独占インタビュー／ハッスルお家騒動、小川直也／「袋とじ企画」グリズリー岩本

究極のSADAME、迫る!!
no.81　880yen　'04.10
［表紙：桜庭和志］ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ＆ノゲイラママ／新日本でハッスル成功！ 小川直也／ 草野仁

男たちの祭りは激化する!!
no.82　890yen　'04.12
［表紙：桜庭和志］"道場破り" の全てを激白! 安生洋二／WJの秘密を大暴露！ 永島勝司×ターザン山本！×吉田豪

ミルコ激白! 打倒皇帝!
no.83　880yen　'05.01
［表紙：ミルコ・クロコップ］04年『PRIDE男祭り』を大総括／05年ハッスル大進撃発表！ 小川直也／橋本×船木対談

RTTが皇帝に宣戦布告!!
no.84　880yen　'05.02
［表紙：セルゲイ・ハリトーノフ］"殺人落下傘" が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ／田村潔司がPRIDE GPを語る

『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
no.85　860yen　'05.04
［表紙：前田日明＆髙田総統］PRIDE GP2005特集　桜庭、田村、高田／パンクラス2大王者対談 高坂剛×近藤有己

PRIDE GP直前大解剖号
no.86　860yen　'05.04
［表紙：ヴァンダレイ・シウバ］大物再会！ 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司／ダンプ松本が全女解散を語る!!

PRIDE GP開幕&大総括!
no.87　860yen　'05.05
［表紙：吉田秀彦］敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦／船木誠勝×宇野薫／金原弘光×池田大輔

通販方法 ▼No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。
①『kamipro Hand』で注文 ②電話注文 03-5368-1797 ③メール注文 kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。 ※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。 ※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

12.31『Dynamite!!』で現役復帰決定記念! オラ、読まねばダメだ!!

なぜか好評!

UWF“変態”シリーズ第二弾

船木誠勝とは何者か?

狂気(マッドネス)の座談会

15歳でプロレスデビューからヒクソン戦まで“21世紀の星”のすべてを語ろう!

本誌No.111で掲載し、変態的プロレスファンから熱い支持を受けた『UWF“変態”座談会』。今回、好評にお応えしてお送りする第二弾のお題は、我らがマッドネス、船木誠勝だ! 15歳で新日本でデビュー後、常にマット界に波紋を投じてきた船木とはいったい何者なのか? 現役復帰を前に、船木をよく知らない人のために、今月も“変態”たちが語りまくります!

構成/堀江ガンツ

<RADICAL特選劇場>
ゴッチイズムよ永遠に! プロレスの"根源"はここにある!

●（家のガレージにあるコシティなどを指さして）「これっぽっちの器

ゴッチイズムあふれる
本誌・ラストインタビューは

ジャッキー戦の花束嬢を中山美穂がやるはずだったらしいんです（ガンツ）

タコ　今日は現役復帰が決定した船木誠勝さんについておおいに語り合っていただこうと、UWF系に変態的こだわりを持つ皆さんに再びお集まりいただきました!
ガンツ　前回の「UWF変態座談会」に引き続き、30歳を過ぎたいい大人が、花の金曜日の夜、船木の話をしまくるという、素晴らしい企画ですね（笑）。
井上　うぅ……。俺さぁ前回に引き続き、また今日も大カゼひいちゃってんだよ。なんか、この座談会が決まると、体調崩しちゃうんだよね（笑）。
椎名　俺も前回に引き続き、前の仕事で「これから船木誠勝について語り合わなきゃならないから、ケツがある」って言ったら笑われました（笑）。
タコ　俺もホンマは今日、某格闘家とキャバクラ行くはずやったんやけどな〜。というわけで、船木誠勝さんとともに歩んできた変態的プロレスファンの皆さんと、ヤケクソ気味にいろいろと語っていこうと思うんですけど。その前に、みんなが船木誠勝という選手に、いったいどういう思い入れを持っているのかということを聞いていきましょうよ。まず、ガンツはどうやったん?
ガンツ　ボクはですね、大学時代、船木のマネをして髪を伸ばし、あまつさえたまにバンダナまで巻いておりました（笑）。
椎名　ダハハハ!　最低だね（笑）。
井上　ここでも有名な椎名理論が立証されましたね。「バンダナを巻いてる男にロクなヤツはいない」っていう（笑）。
タコ　でも、ガンツは前田ファン、リングスファンやったのに、パンクラスも好きやったん?
ガンツ　パンクラスは好きじゃなかったんですけど、船木だけは新生UWFの頃から大ファンだったんですよ。ちなみに、ルッテン戦で負けた船木がリング上から引退を表明しようとしたところ、リングサイドのファンが「船木やめるな!」って叫んでたのを聞いて、引退を思いとどまったっていう有名な話があるじゃないですか?
タコ　あったねぇ。「明日また生きるぞ!」ってやつやろ。
ガンツ　あのとき「船木やめるな!」って叫んだのは、じつはボクです（笑）。
タコ　えぇ〜〜っ!?　おまえの一声で思いとどまったわけ?
ガンツ　その証拠に、あの試合のGAORAでの中継のエンディングは、リング下でボクと船木が泣きながら抱き合ってるシーンなんですよ（笑）。
井上　そうだ!　ガンツ君が花道で抱きついてる映像は俺も観たよ!
椎名　それ、YouTubeとかで上がってたら観たいなぁ（笑）。
ガンツ　恥の多い人生を送っております（笑）。
タコ　ほんならヒクソン戦もガンツの一声がなかったら、実現しなかったのか。
井上　じゃあガンツくんが叫ばなければ、桜庭vsヒクソン戦が実現してたかもしれないの?（笑）。
ガンツ　余計なことしてすみませんでした（笑）。
タコ　いや、でも素晴らしい船木ファンぶりですよ。では、椎名さんはどうですか?
椎名　俺は船木が現役のときって、ヤングライオン時代に「15歳でデビューしたドロップキックがうまいヤツがいるぞ」っていうのが気になったくらいで、UWF以降は、リングスファンだったから対立概念でしたね。パンクラスってファンとか、推してる記者が気持ち悪かったじゃないですか。それでなじめないなと思ってたんだけど、引退後におもしろいエピソードがいっぱい出てきて、そこから興味が湧いてきたんですよ。
タコ　じゃあ、引退後に追体験として、興味が出てきたわけですか。
椎名　そうですね。とにかく変わってるし、ネタがたくさんあるんで、『kamipro』とかで原稿書くときに、見とくと便利なレスラーだし。それで好きになったというか（笑）。俺、間違ってたなっていうね。
井上　俺も椎名さんと一緒ですよ。若手時代から第二次UWFの頃くらいまでは熱視線を送ってたんですけど、正直パンクラス時代は色眼鏡

これがジャイ子が追っかけをしていた、デビュー当時、初々しい15歳の船木優治だ。"21世紀の星"と呼ばれていたが、結局、21世紀到来を待たずして、2000年に引退してしまったのだった。

船木誠勝狂気の座談会に集った
筋金入りの"変態"プロフィール

椎名基樹
本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター。放送作家。構成作家。UWF、真剣勝負にあくなきこだわりを持つ。

【私の船木誠勝 名勝負ベスト3】
●船木優治 vs 高田延彦
（90年8月13日、横浜アリーナ）
●船木誠勝 vs ヒクソン・グレイシー
（00年5月26日、東京ドーム）
●船木誠勝 vs 鈴木みのる
（『格闘Xパンクラス』内ドッキリ&釣り対決）

井上崇宏
携帯サイト『スカパー!　バトルLIFE!!』制作に携わっていたペールワンズの総帥。高田延彦にあくなきこだわりを持ち、船木とはメル友。

【私の船木誠勝 名勝負ベスト3】
●船木誠勝 vs バス・ルッテン
（96年9月7日、東京ベイN.K.ホール）
●船木誠勝 vs 佐野直喜
（91年3月30日、東京ドーム）
●船木誠勝 vs 夕張で理髪店を営むおばさん
（『田舎に泊まろう!』で泊めてくれたおばさんを船木がお礼にと得意の全身マッサージでメロメロにしてた）

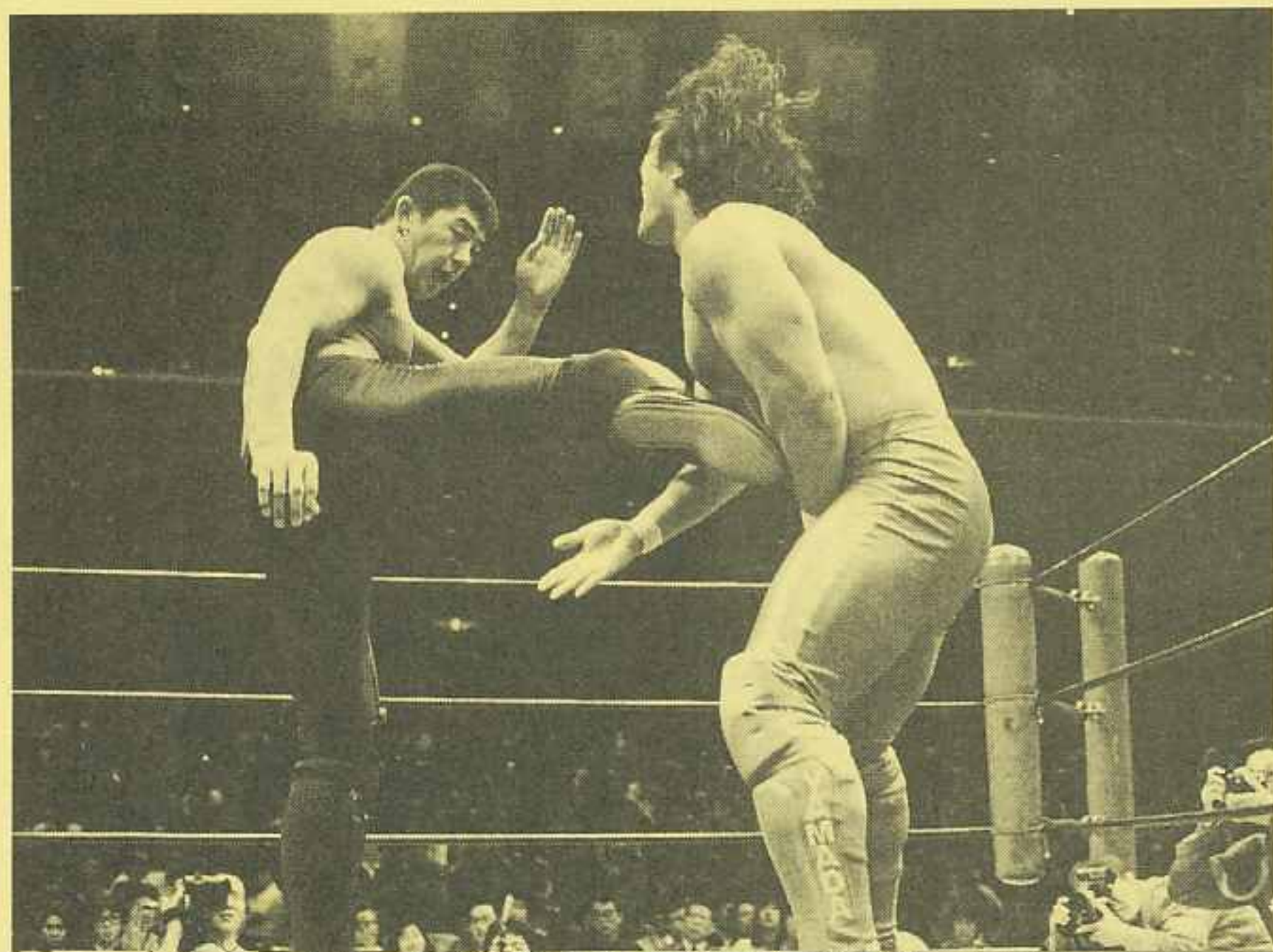
堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から変態的プロレスファン&UWF信者として鳴らし、『kamipro』編集部に入ってからもUWF研究家を自称する。

【私の船木誠勝 名勝負ベスト3】
●船木誠勝 vs モーリス・スミス
（93年11月27日、東京ベイN.K.ホール）
●船木誠勝 vs バス・ルッテン
（96年9月7日、東京ベイN.K.ホール）
●船木誠勝 vs ロベルト・デュラン
（92年4月19日、東京体育館）

原タコヤキ君
元・本誌編集部。現・カリスマ司会者。ジャイ子へのセクハラで憂さを晴らす37歳。

【私の船木誠勝 名勝負ベスト3】
●船木優治 vs 藤原喜明
（89年5月4日、大阪球場）
●船木優治 vs 高田延彦
（90年8月13日、横浜アリーナ）
●船木優治&山田恵一 vs アントニオ猪木
（88年4月10日、大阪府立体育会館）

ジャイ子
元・本誌編集部。元・船木の追っかけの巨女。「テープ起こしとフェ○なら誰にも負けない!」と豪語する。

【私の船木誠勝 名勝負ベスト3】
●船木優治 vs 小林邦昭
（87年8月19日、両国国技館）
●船木優治&野上彰 vs 中野龍雄&安生洋二
（87年頃の一連の試合）
●船木誠勝 vs ヒクソン・グレイシー
（00年5月26日、東京ドーム）

トッ
挑

らしい。パ
に5戦無敗
ンドサンビ
がトップ
なぜかこ
に手をかけ
子世にはば

で見てた部分があって。だから船木に関しては後追いでちょっと残念な思いがあるんですよ。ただ、じつはいま船木とはメル友なんですけどね。
タコ　えぇぇぇ～っ、凄い！
井上　って、とある仕事のやりとりを携帯メールでしてるだけなんですけど（笑）。しかし船木って文章も凄くうまいし、絵文字の使い方も完璧なんですよ。
タコ　内容がマッドネスな感じではないんですか？
井上　いや、全然。いつもニッコリマークつきで。
ガンツ　船木にかかると、そのニッコリマークにすら狂気性を感じてしまいそうですけどね（笑）。
タコ　あと、今日は座談会のテープ起こし担当としてジャイ子にも来てもらってるわけやけど、ちょっとおまえもしゃべりーや。
ジャイ　え～、しゃべんのぉ？
ガンツ　この中で、リアルに一番船木ファンだったのは、ジャイ子ですからね（笑）。
椎名　さっき聞いたんだけど、ジャイ子は中学時代に船木の追っかけだったんでしょ？
ジャイ　船木〝優治〟のファンなんですけど……。
ガンツ　〝優治〟時代限定（笑）。
ジャイ　私はもともとクラッシュギャルズが大好きで、当時愛読してた『デラプロ（デラックスプロレス）』で（船木が）凄い推されてたんです。それでファンになって後楽園ホールで出待ちしたりとか、道場に行ったりとか。
椎名　で、船木にプレゼント渡したんでしょ？
ジャイ　19歳の誕生日に道場にプレゼント渡しに行ったらいなかったから、外でプラプラしてたドン荒川さんに「渡しといてください」って預けたの。
井上　そこで荒川さんに預けるのがいいセンスしてるよね。ドン荒川といえば、船木の〝筆おろし〟を世話した、人生の師匠ですから。
ガンツ　まぁ、船木だけじゃなく、あの世代はみんな荒川さんが人生の師匠なんですけどね（笑）。
井上　まだ15歳の船木をソープランドに連れていって、「どんな女が好みなんだ？」って聞いたら、船木が「年下が好きです」って答えたという（笑）。
椎名　ダハハハ！　15歳より年下のソープ嬢がいたら問題だよ！
ガンツ　いい話ですねぇ（笑）。
タコ　そんな船木好きが集まったということで、新日本、第二次ＵＷＦ、藤原組、パンクラスと順を追って話していこうと思いますが。
椎名　やっぱり船木って、15歳で史上最年少デビューという時点で、若手のときから特別ではあったよね。
タコ　資料によると15歳11ヵ月でデビューしてますね。ちなみに現在の最年少記録は中嶋勝彦くんです。
井上　なにぃ!?　俺の船木の記録が破られてんのか！
ガンツ　「俺の船木」になってるんですか。「俺の髙田」はどこ行ったんですか（笑）。
椎名　新日本は何年ぐらいいたの？
ガンツ　3～4年ですね。20歳になったところでＵＷＦに移籍ですね。
タコ　若いなあ、20歳やったんや。凄いなあ！　じゃあ、山田恵一と〝骨法コンビ〟を組んでたのって、18歳ぐらいか。
井上　当時は、武藤（敬司）が被らなくなったスペースローンウルフのメットを被って、原チャリで野毛から東中野の骨法道場まで通ってたらしいですね（笑）。
椎名　なんで骨法に習うようになったの？
ガンツ　当時、骨法の堀辺（正史）師範が猪木さんのブレーンの一人だったんですよ。だからライガーとか、ビッグバン・ベイダー、海賊男なんかを生み出したのは、猪木、堀辺、永井豪らのアイデアなんです。
椎名　へぇ～、そうだったんだ。
ガンツ　その関係で、骨法道場に整体に行ってたレスラーが何人かいて、そこから整体ついでに骨法を習うようになったんです。
井上　そういえばプロレスラーが骨法を習ったのって、ザ・コブラが最初じゃなかったっけ？
ガンツ　そうです。「ＵＷＦの髙田に対抗するため」って、ザ・コブラが習い始めたのが最初ですよね。あまり知られてないですけど、武藤も骨法に出入りしてた時期があって、スペースローンウルフ時代のロングタイツって、あれ骨法のタイツなんですよ。
井上　ああ、あの紺色の！　そうだそうだ！
ガンツ　言われてみれば同じだって気づきますよね。
タコ　ガンツはいいネタ持ってるなあ。
井上　当初はカゼで欠席しようと思ってたけど、来てよかったな（笑）。

（写真・上）80年代末、兄貴分・山田恵一とともに骨法の道場に通い、“骨法コンビ”と呼ばれていた時代の船木と山田。87年12月27日の両国で実現した“骨法対決”は、ゴールデンタイムの特番でも放映。骨法流の蹴りとトペなどの空中殺法が融合した好勝負となり、この一戦から、船木が大きく注目されるようになった。（写真・下）ヨーロッパ遠征後、UWF移籍を希望した船木に対し、新日本はアントニオ猪木が直々に出馬し、船木を残留させるべく説得。結局、船木の決意は固く移籍となったが、猪木が直々に引き留めようと思うほど船木は将来を嘱望されていたのだ。

船木ビギナーに贈る
船木誠勝 ショート年表

年	出来事
1984年	新日本プロレス入門。
1987年	翌年3月に当時の史上最年少記録15歳でデビュー。
1988年	山田恵一との“骨法コンビ”として注目を集める。
1989年	欧州遠征に出発。ドイツ、オーストリアなどで活躍。
1990年	欧州から帰国後、UWFに移籍。 12月の松本大会を最後にUWFは解散。
1991年	船木はウェイン・シャムロックを相手に 最終大会のメインイベントを努める。
1992年	プロフェッショナル・レスリング藤原組に参加。 ロベルト・デュラン、モーリス・スミスらと、 異種格闘技戦を行なう。 そして、この年末に藤原組退団。
1993年	パンクラス旗揚げ。
2000年	ヒクソン・グレイシーに敗れ現役引退を表明。
2001年	俳優に転向。パンクラスの顧問にもなる。
2007年	総合格闘家として現役復帰を宣言。

タコ　船木はそんな骨法コンビのあと、ヨーロッパ武者修行を経て、UWFに移籍したわけですけど。その際、19歳のなんのバックボーンもない若手をあの前田と猪木が取り合ったっていうのが凄いですよね。

井上　帰国後、直接猪木さんに長時間にわたって残留の説得をされたんですよね。「東京ドームでジャッキー・チェンと闘わせてやる」とか言われて（笑）。

ガンツ　そのあたりの船木移籍秘話を、今日は自称UWF研究家としてちょっと用意してきたんですよ。

タコ　お！　聞かせてもらいましょうか。

ガンツ　この前田−猪木による船木争奪戦ですけど、UWF側は用意周到にヨーロッパ遠征中の船木に手紙を書いたりして、ずいぶん前から熱心に口説いてたんですけど、猪木さんのほうはじつは、最初は船木にあまり興味はなかったんですよ。

タコ　え!?　そうなん？

ガンツ　猪木さんって、ホントに期待してる選手って、若手の頃から突然、自分のパートナーに抜擢したりするじゃないですか。武藤敬司しかり、高田伸彦（当時）しかり、高野俊二（現・拳磁）しかり。

井上　山田もそうだったよね。

ガンツ　でも、船木はそうでもなかったんです。じゃあ、なぜ自分が直接出馬までして船木を引き留めようとしたかというと、じつはジャイアント馬場が船木を獲得しようとしてたんですよ。

タコ　ホンマ!?　なんで馬場さんが船木のことなんか知っとるの？

ガンツ　当時、ターザン山本−ジャイアント馬場というホットラインがあったじゃないですか。

井上　あっ、そういうことか！　山本ね。

ガンツ　それと同時にターザン−堀辺ラインというのもあって、当時の堀辺さんは船木の親代わりみたいな感じだったから、その二人のあいだでは「これからは船木だ！」っていう共通認識があったみたいなんですね。それでターザンが馬場さん

89年5月よりUWFに参戦した船木は、第1戦で藤原喜明（大阪球場）、第2戦ではボブ・バックランドと対戦したが、いずれも反則絡みの不透明決着。これは“完全決着”を売り物としていた第二次UWFにおいて、極めて異例だった。前田日明と対戦した際は、試合後、前田が船木に長時間耳打ちするシーンも。

トッ
挑
らしい。パ
に5戦無敗
ンドサンボ
がトップ
なぜかこ
に手をか
子世にはば

PANC
WRESTLING

に食事をごっつぁんになるたびに、「これからは船木がスターなんですよぉぉぉ！」って言ってたら、馬場さんも船木のことなんか知らなかったのに「そんなに凄いヤツなのか。じゃあ、その船木ってヤツをウチで取る」って動いたんです。

タコ　はぁ〜、またターザンがいらんこと言うてそうなったわけか。

ガンツ　そして、それを猪木さんが知って、「馬場がわざわざウチから取ろうとするなんて、船木って、そんなすげぇヤツなのかい？」ってことで、猪木さんも本気になったらしいですね。

タコ　いやぁ〜、今日はキャバクラ行かんでよかったよ、いい話が聞けて。キャバ嬢はこんなこと教えてくれへんもん。

ガンツ　さらに堀辺さんは、猪木さんのブレーンでもあったわけじゃないですか。それで猪木さんが堀辺さんに「船木を引き留めたい」って相談を持ちかけて、会議を開いたらしいんです。当時の猪木さんのブレーンが集まって。そこで持ち上がった船木引き留め案が、例の船木vsジャッキー・チェン戦だったんですよ（笑）。

椎名　なんでそこでジャッキー・チェンが出てくるの？　その発想が凄いよね（笑）。

ガンツ　なんでも「船木が好きなものは何か？」っていうところから始まって、船木ってブルース・リーを敬愛してるじゃないですか。でも、ブルース・リーはもう死んでるわけで……。

船木は「UWFはガチじゃない」ってアピールしたかったんやろな（タコ）

井上　その代わりがジャッキー・チェン（笑）。

ガンツ　そういうことです！　そしてさらに「あと船木が好きなものってなんだ？」ってなって、「どうやら中山美穂のファンらしい」ということで、中山美穂が船木vsジャッキー戦の花束嬢をやるって話が持ち上がったらしくて（笑）。

タコ　ミポリンが花束嬢！（笑）。凄いな〜。でも、そんなん実現するわけないやん。

ガンツ　いや、それが会議で決まったあと、川村（龍夫）さんが「よし、わかった。ジャッキーと美穂は俺が用意する」ってことで、ホントに実現するはずだったらしいです（笑）。

一同　ガハハハハ！

タコ　さすが川村さんやなぁ。

井上　じゃあ、そこで船木が「やっと会えたね……」って言えば……。

ガンツ　船木が辻仁成になってた可能性もあったわけですよ！

タコ　んなアホな（笑）。

ガンツ　でもまぁ、そんな素晴らしいジャッキー&ミポリン案も、結果的には逆効果だったんですけどね。

井上　船木にしてみれば「ナメんな」と（笑）。

タコ　そうやなぁ。いまだったら『ハッスル』なんかでもそうやけど、芸能人と試合をするのなんてあたりまえやけど、あの頃は「何言ってんだ」って感じやったんやろうな。

ガンツ　船木自身はちょっと心が動いたらしいですけど、山田に「映画俳優なんかとやったら、おまえの一生終わっちゃうぞ」って言われて、「そうだ、やっぱりUWFだ」ってなったらしいですね。

椎名　俺、船木が新日辞めるときのエピソードで、一番印象に残ってるのが、猪木が船木に対して『道』のポエムを読んだってことで。猪木って、そんな昔からあの詩を読んでたんだって（笑）。

ガンツ　引き留めてるはずなのに、「迷わず行けよ、行けばわかるさ」って言って、船木が「迷わず行かせていただきます」ってなっちゃったんですよね（笑）。

タコ　アホや（笑）。

ガンツ　しかも、猪木−前田会談が実現したとき、前田が船木の話をしないで、ひたすら「なんで猪木さんは第一次UWFに来なかったんですか」とか「アンドレがセメント仕掛けてきたのは、誰の指示なんですか」とか言ってくるから、猪木さんが面倒くさくなって「前田、船木を頼むぞ」って言っちゃったらしいですからね（笑）。

タコ　猪木さんと前田は、いちいちおもろいよなぁ。

椎名　結局さ、船木がUに行った理由はハッキリしてないの？

井上　最近知ったんですけど、船木がUに行こうと決めた最初のきっかけは、前田vsニールセンなんですよ。あの試合をリングサイドで観てて、セコンドにゴッチさんはついているわ、いつにない殺伐とした現場の雰囲気にやられちゃって「自分もUWFの選手になりたい」って決めたんですよね。

ガンツ　だからやっぱり、真剣勝負をやるってことに憧れたのもあったんでしょうね。

井上　さらにのちにヨーロッパに遠征してるあいだ、日本から『週プロ』とかを送ってもらって、誌面を見る限りどう考えてもUWFはマジだと。記事の書き方も、UWFだけはほかとは違うみたいな論調で書いてるんで、船木もファンと同様にうまく幻想にハマっちゃったんですよね。

ガンツ　それで、帰国して実際にUWFを観て「あれっ？」ってなっちゃったという。

タコ　船木は入ってからすぐに、「UWFってガチンコじゃないよ」ってメッセージを発したよね。だってUWFでの1戦目が藤原組長のヘッドバットで反則決着のあと、延長再試合。次のボブ・バックランド戦がトップロープからのドロップキックっていう、最初っからUWFのフォルムを崩してるわけやんか。

井上　そういうことなんでしょうね。

椎名　それって、あからさまな内部告発だよね（笑）。

ガンツ　しかも、最初の藤原戦で反則決着のあと、勝手に延長戦やったことで、試合後に前田に凄い怒られたらしいですね。「おまえのせいでスポンサーが降りた」って。要はUWFって表向きは「真剣勝負の完全なるスポーツです」って言ってたものが、決着がついたのに、闘った選手同士で「延長戦だ！」とか言って、それが認められちゃうのを観て、「こんなのはスポーツじゃないんで遠慮させていただきます」って大きいスポンサーが外れちゃったらしいんですよ。

椎名　スポンサーも若いよね（笑）。

タコ　そう考えると、UWFって巨大なトリックやなぁ。ワシかて、かなり真剣勝負かそれに近い感じで観てたからね。しかも「これまでのプロレスはダメだけど、自分たちだけは真剣勝負」みたいな売り方してたわけやん。まぁ、ええけど。

ガンツ　そういう時代だった、ということにしましょう（笑）。

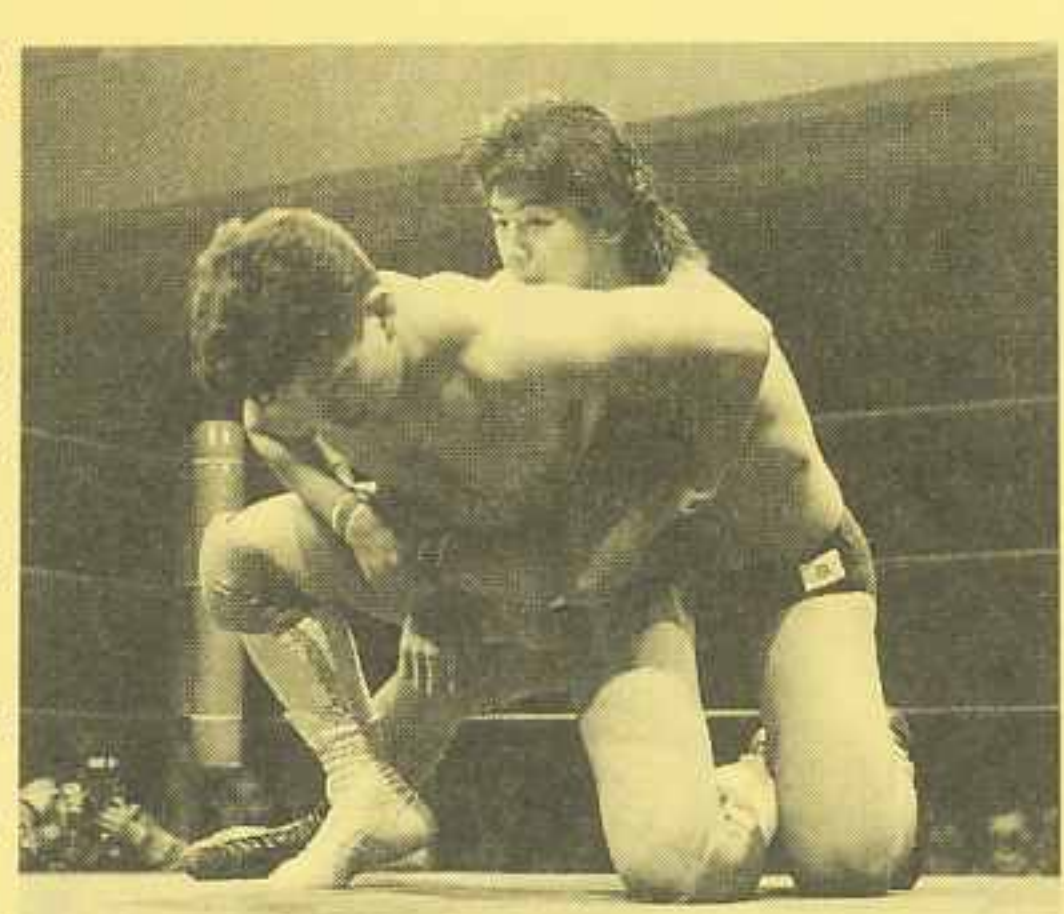
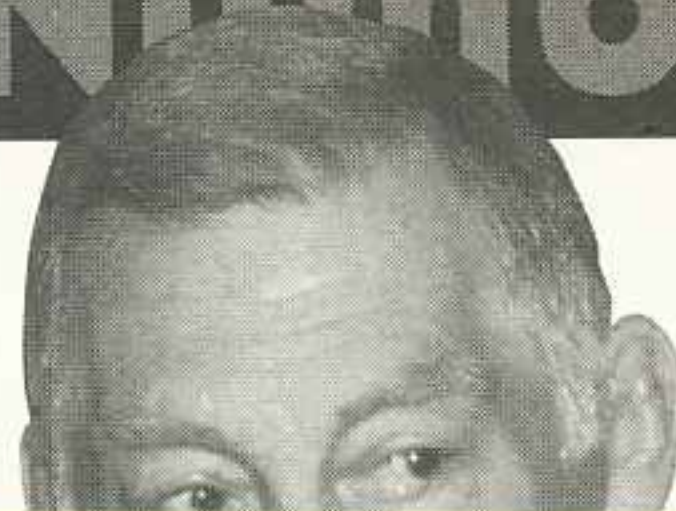
タコ　で、船木は最初にUWFのフォルムを崩した試合を何試合かやって、途中から達観したのか、凄くUスタイルになじんでいって、逆にどんどんスター街道を歩んでるみたいに見えたよね。あれはなんかきっかけあったんかな？

ガンツ　船木がUWFの主流になっていったのは、堀辺さんと離れたのがきっかけでしょうね。

井上　そこでもまた骨法が絡んでるんだ（笑）。

ガンツ　船木は半ば、骨法を破門みたいになったんですよ。

タコ　え、なんでなんで？

ガンツ　これも話すと長いんですけ

90年4月、腕の骨折から復帰した船木は第1戦で鈴木みのると対戦。両者キックを封印し、グラウンドだけで闘う実験的な試合内容となった。この試合がじつは、新生UWF初のシュートファイトだったという。

ど、船木って要はＵＷＦが苦労して獲得したスター候補選手なのに、いざ参戦したら藤原戦やバックランド戦みたいなことばっかりやってたわけじゃないですか。それで前田が怒ったんですよ。「船木にあんなことをやらせてるのは、あのヒゲの親父か」と。

井上　「あの常在戦場か！」と（笑）。

ガンツ　そして、その溝が決定的になったのが、例の高田戦ですよね。

タコ　試合開始早々の掌打で、"幻のＫＯ"となった試合。堀辺さんがあれをけしかけたってことか。

ガンツ　「"ＵＷＦは真剣勝負だ"って言ってるんだから、真剣勝負をやりなさい」「顔面攻撃をやらないのは格闘技と言えないから、これまで練習してきた掌打を実戦で使いなさい」ってことでやったみたいですね。当時のＵＷＦって顔面パンチはもちろん、顔面への打撃ってせいぜい張り手、ビンタぐらいしかなかったわけですよ。そこへ、不意打ちのように掌打が飛んできて、高田がダウンしちゃったという。

椎名　だからあの試合は、とにかく真剣勝負に見えた。

タコ　まぁ、フィニッシュは高田がよりによってラクダ固めで勝つんやけどね（笑）。

ガンツ　あの試合後、船木はさらに立場が悪くなって、「おまえ、ＵＷＦを取るのか、骨法を取るのか」ってなったみたいなんですよ。それで「そんなの選べません」って船木が悩んでたとき、堀辺さんが親心みたいな感じで、「もうウチに来るな」と突き放したという。

タコ　なるほどなぁ。

椎名　でも、船木がＵＷＦを取るか、どちらか選べないぐらい骨法に心酔してたってことが凄い不思議だけどね。

ガンツ　骨法云々というより、堀辺さんに心酔してたというか、文字どおり親代わりだったみたいですけどね。

タコ　船木は母子家庭でお父さんが生活破綻者やったっていう話やもんな。だから自分が子どものときに味わえなかった父性みたいなものをあの人は探してるっていうとこなんやろうね。

ガンツ　だからこそ、堀辺さんに「もうウチに来るな」って突き放されたとき、「また"親父"に裏切られた」感じになっちゃったみたいですけどね。結局、ＵＷＦが3派に分裂したとき、藤原についていったっていうのも、堀辺さんの次の"親父"が組長だったってことだと思うんですよ。

椎名　リングス、ＵＷＦインター、藤原組とある中で、"組"に行くか？って当時は思ったけど、前田、高田、藤原の中で"親父"っていったら、藤原だもんね。

ガンツ　ルックス的に間違いなく親父っていう（笑）。

タコ　でも、その藤原組長とも次第に仲違いして、パンクラスを作ってしまうんやもんな。

ガンツ　それは、藤原＝親父説でいうと、船木が反抗期を迎えちゃったってことだと思うんですけど（笑）。

椎名　パンクラスは反抗期だったんだ（笑）。

ガンツ　真面目な話、ホントにそうなんじゃないかと思うんですよ。なんか船木の行動って、この理想があるから、そのためにこれをやらなくちゃいけないっていうことじゃないような気がするんですよね。

タコ　ああ、それはそうかもしれんなぁ。

ガンツ　この人が嫌いだとか、誰かに対する反発とか、そういうのがずっと続いているような気がして。だって藤原組の後期だって、赤字続きの中、組長がなんとか盛り上げようとしてるのに、船木は高橋（和生）相手に勝手に真剣勝負やったりとか。どこにも届かないことやってたわけですからね。

タコ　いろんな人が「ホントに手がつけられへんかった」って言うてるもんな。

井上　当時はいちいち青いんだよね。真剣勝負だっていっても、プロレス業界内だけの話なわけで。「この界隈じゃ俺たちが一番強いんじゃねえの？」っていうね。その青さをいまは船木も否定してるみたいだけど。

ガンツ　だから、さっきの反抗期の話じゃないですけど、当時の船木一派って中学生マインドなんですよ。真剣勝負をするっていうのも「俺、タバコ吸ったぜ」とか、「俺、もう初体験すませたぜ」みたいな感じじゃないかなって。

一同　ガハハハ！

井上　きっとそういう仲間内の些細なつば迫り合いだよね。永遠の放課後っていうか、「火遊びみたいに抱き合って、死ねるならいいね」っていう感じ……はちょっと違うか（笑）。

ガンツ　だから真剣勝負と言いながら、"勝負"じゃないんですよね。あくまでみんなの中で「ガチでやりましょう」って世界で。だから格闘技の興奮が味わえないというか。あれだったら、初期のリングスのオランダ勢の試合とか、正道会館とやってた試合のほうがよっぽど緊張感あっておもしろかったですからね。

タコ　パンクラスは"ケンカ"的なおもしろさがなかったもんなぁ。

井上　正直パンクラスはリングスと揉めたときが一番おもしろかったですよね。近所の高校の番長・前田が中学校を一校潰しにかかったみたいで（笑）。パンクラス勢が体育館裏で「どうするよ？　なんかめんどくさいことになってるよ？」って話し合ってる絵が浮かぶもん（笑）。

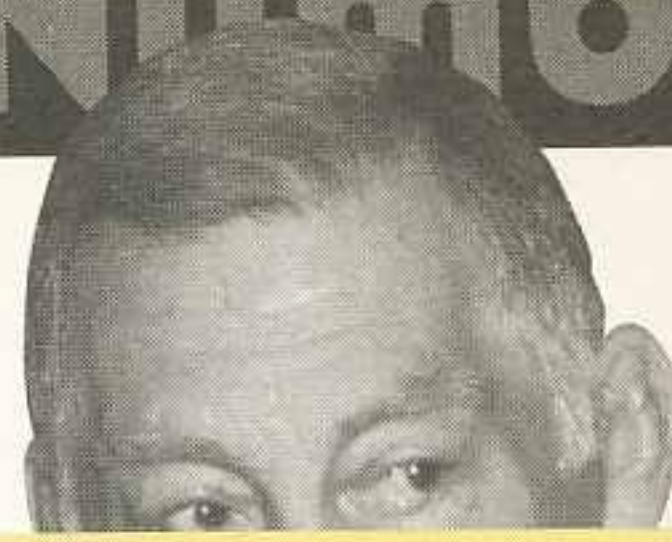
ガンツ　話は脱線しますけど、前田とＵインターが揉めたときもおもしろかったですよね。高田が「前田さん、トーナメント1回戦で待ってます！」って言ったかと思えば、前田

ルッテンに敗れたあと、96年12月にジェイソン・デルーシアとの王座決定戦に勝利し、ついにキング・オブ・パンクラシストとなった船木。これでパンクラスルールでの頂点に立ったが、それには満足せず、"なんでもあり"のパンクラチオンルールへと突き進んでいく。

は「12対12でやってやりますよ！」って返して。しかもそのメンバーは、Uインター側は全員日本人なのに、リングスのほうはオランダとかロシアとかグルジアとかで（笑）。
井上　大東文化大のラグビー部かよ！（笑）。
ガンツ　みんな傭兵じゃないか！っていう（笑）。
タコ　おもしろいなあ、結局みんなプロレスラーやなあ。ちょっと話を戻すと、ボクもパンクラスはすぐに興味が失せてんけど、最初は凄くインパクトがあったじゃないですか。みんな〝ハイブリッドボディ〟や言うて身体絞ったり、秒殺っていうコンセプトもおもしろかったし、あとバッテンマークもカッコいいなって。そのへんはどうですか？
椎名　パンクラスはなんといってもゴッチがつけた「パンクラス」っていう団体名。あれは最高だと思う。だってね、総合格闘技って結局MMAって言われたり、バーリ・トゥードって言われたり、名前がいまだに決まらないってこともあるんだけど、パンクラスとかパンクラチオンって言うしかないなって思うのね。一発でバーンと言い表わしてて、すっごいい名前だって思ったな。
タコ　いまとなってはそういう凄い企画ものっぽくないですか？　いきなり団体旗揚げして身体も変えましょう、バッテンマークで名前もしっかり決めて。なんか代理店チックですらあって。そういう意味ではものの凄く目新しかったのは確か。あんなに一新する新団体ってちょっとないよね。
椎名　だから旗揚げ戦は、思わず観に行ったもん。それで、招待客だと思うんだけど、隣にプロレスファンのお父さんと小学生の子どもがいて、ずっと首傾げて「おかしいな？　何も起こらない。おかしいな？」って言ってて、俺は「違うんだよ、プロレスじゃないんだよ」って言いたかったんだけど、3試合目ぐらいで帰ってって。あれかわいそうだったなあ。凄い印象に残ってる、それ。
タコ　そんな、旗揚げ当時は夢中になったパンクラスに、ボクらがどんどん興味を失なっていったのは、なんなんやろ？
井上　ズバリ、船木やパンクラスを伝える側にへんな人が多かったってことじゃないですか？
タコ　それや！　ヤスカク（安田拡了）、シッシー（宍倉清則）、そしてShow大谷やもんなあ（笑）。
ガンツ　確かにパンクラス時代の船木のイメージって、すべてヤスカクやシッシーのフィルターを通して観ていた気がしますよね。恐ろしいことに（笑）。

98年末より現在のMMAに近いパンクラチオンルールにうって出た船木だったが、ジョン・レンケン、トニー・ペテーラといった二線級には勝利したものの、ブラジルのブラガには、押され気味の引き分け。ヒクソンには一本負けと、「強さを発揮した」とは言えない内容だった。

ゴッチがつけた「パンクラス」って団体名は「最高！」って思った（椎名）

椎名　そうだね、それで嫌いになったもん。ファンもだんだんそういう感じになってきたよね。俺、UFCで高阪vsルッテンやったとき、アメリカまで観に行ったんだよ。そしたら、そこにパンクラスファンのバッテンマークのTシャツ着たヤツらがいてさ、高阪が負けたあと、そいつらが寄ってきて「一応これでリングスとパンクラス、どっちが上かっていうことがハッキリしたってことで」とか言われたの。「えぇ〜っ、高阪vsルッテンをそんなふうに観てたの!?」っていうか、おまえんとこ外人じゃん！」みたいな（笑）。
一同　ガハハハハ！
椎名　「そういう概念で俺は高阪を応援してたわけじゃないし、ルッテン＝パンクラスとも見てなかったんだけど」みたいな。でも、そういうファンを船木が作ってたっていうか、そういうのを船木のパーソナリティが寄せつけていたよね。
タコ　ちょっとおかしな感じでしたよね、電波系な感じがしたもんな、後期は。で、ザッと飛ばしてヒクソン戦なんですけど、ルッテン戦で船木の引退を思いとどまらせたガンツとしては、ヒクソン戦はどうだったん？
ガンツ　反動があったのか、この頃は逆に船木が嫌いになってましたね（笑）。
タコ　なんや薄情やな。ヒクソンに絞め落とされた船木に、もう一回「やめるな！」って叫ばんと。
ジャイ　私、あの試合、堀江（ガンツ）くんと一緒に観てたけど、応援するどころか、着流しで入場する船木を見て「何あれ？『雨の西麻布』じゃん」って大爆笑してたよ。
ガンツ　そんな失礼なこと言ってましたか（笑）。船木さん、すみませんでした！
タコ　井上くんはヒクソン戦は？
井上　いや、完璧に世は「いざ、桜庭vsヒクソン！」っていう風潮だったのと、当時はまだまだ俺自身がフジテレビの煽りがないとテンション上がらないポンコツ体質だったから（笑）、残念なことに前のめりにはなってなかったですよね。
タコ　乗れないって感じやったね。
井上　いまなら、俺の〝脳内佐藤大輔〟がめっちゃ盛り上げる自信はあるんですけど（笑）。
タコ　あの頃は田村vsヘンゾ戦もあったしね。vsグレイシーの真っただ中やもんなぁ（遠い目で）。
ガンツ　それがもう7年も前ですからね。皆さん、いま振り返ると、船木って現在の総合格闘技を語る上で、大きな影響を与えたと思います？
椎名　とりあえずパンクラスを作ったっていうところの影響はデカいと思うよね。ああいう団体があるっていうことが。あとは宇野薫とか見てると、やっぱ憧れはデカいと思うけど、技術的なことは正直ないよね。
ガンツ　パンクラス時代、さまざまな実験をして、それがある意味で礎にはなってるんでしょうけどね。
椎名　それに船木ってさ、現役時代ですらバーリ・トゥードでは、苦戦してた印象があるじゃん。
ガンツ　通常のパンクラスルールではチャンピオンになりましたけど、現在のMMAに近いパンクラチオンルールでは、最初のジョン・レンケンには勝ったものの、（エベンゼール・）ブラガには……。
タコ　ボコられたよね。
ガンツ　テレビ解説の安田拡了氏は、「船木はブラガのマウントパンチを全部、見切ってます」って言ってましたけどね（笑）。
タコ　「全部読んでます」って、顔ボコボコやないかって（笑）。
ガンツ　あのへんもそうですけど、パンクラスは旗揚げ以来ずっと「真剣勝負だ！　最先端だ！」って言ってたのに、90年代末になってMMAの時代になったら、明らかにUWFインター出身選手のほうが強かったのが驚きましたね。
タコ　そうそう。その前に高橋がUFCでイズマイウを倒して、一矢報いたみたいなのがあったけど、総合的には元Uインター勢のほうが全然、バーリ・トゥードに通用しとったもんな。
ガンツ　あの高橋vsイズマイウ戦にしても、当時は興奮しましたけど、よくよく考えると、金網つかんだり、ファールカップつかんだりしてテイクダウンを逃れるって、いまでは全部反則ですからね（笑）。ヒクソン戦でロープつかんでたヤマヨシと変わらないんですよ。

今回の復帰は船木主演・監督作品『フナキ・ザ・ファイナル』ですよ！（井上）

タコ　言われてみれば、そうやなぁ。

ガンツ　そういったことをいろいろ考えれば考えるほど、いま船木が総合に復帰するって、大変だなって思いますよね。

タコ　だからボクはあえて、純粋にプロレスラーとして復帰したほうが、よかったんちゃうかなって思うけど。

椎名　いまの鈴木みのるの活躍を見ると、そう思うよね。

タコ　船木には、いまの鈴木と闘ってほしいなぁ。鈴木って心底、船木のことが怖いと思うんよ。だからあえて三冠のベルトをビャーッて水浸しにして傍若無人に振る舞ってるところで、素の船木が現われて「何やってんの？　そんなことしてておもしろい？」ってボソッと言うたりしたらおもいしろいなぁって。そこで鈴木があのキャラを守り通せるかっていうのは、見ものやんか。いまの鈴木のキャラクターとか、地位とかイメージを、虫を殺すがごとく、平気でクシュって潰せるのが船木やと思うんですよ。リアル"世界一性格が悪い男"として（笑）。

ガンツ　そしてタイガー・ジェット・シンを超える、リアル狂気ですからね。

タコ　それを観たいねん。

椎名　船木ってさ、自分のブログのタイトルを「マッドネス（狂気）」にしてるけど、自分の狂気について自覚はあるのかな？

ガンツ　船木が自己申告で「狂気」って、ホントに怖いですよね（笑）。

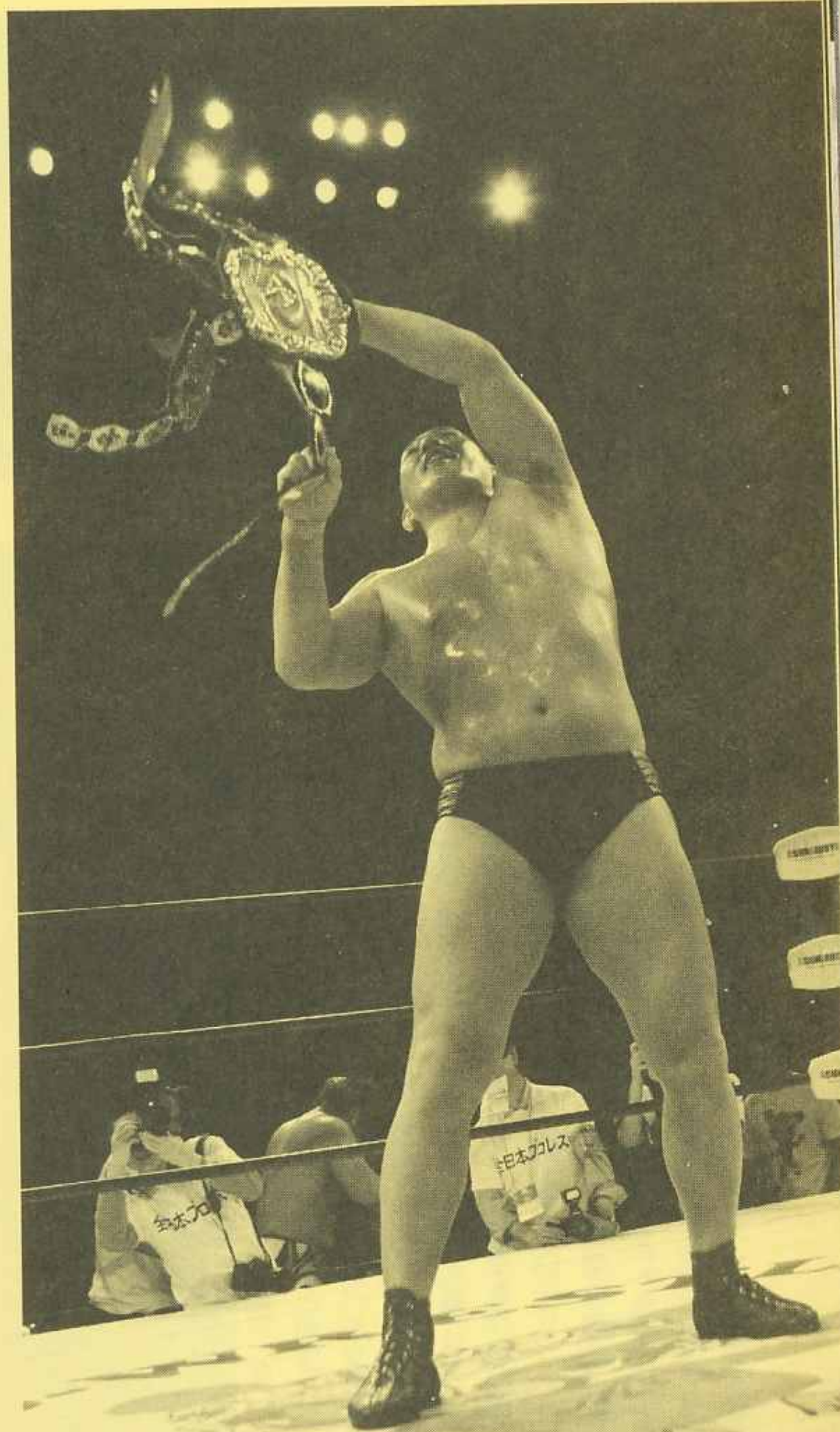
椎名　昔、『格闘Xパンクラス』って番組のドッキリで、船木がキレてADをおもいっきりビンタしたのも、やらせなのに何回も観ちゃうよね。

井上　あと極楽とんぼの山本相手にキレたときも凄かったですよね。

ガンツ　あの狂気は、『HERO'S』の世界観には、とても収まりきりませんよ！

タコ　そうなるとやっぱり、鈴木の持つ三冠のベルトに船木が挑戦するっていうのはいいよねえ。

ガンツ　三冠史上初のガチンコとかやったら凄いですよね（笑）。

タコ　それは観てみたいなあ。まぁ、『HERO'S』のほうの試合もなんだかんだ言って観てしまうんやけどね。船木って人間的にまだまだ底知れへん部分があるから、そういう意味では興味は尽きませんよ。パンクラス時代からどう変わったのかが観たいし、マッドネスなところも観たいし。

傍若無人な振る舞いで、現在プロレス界を我が物顔でのし歩く鈴木みのる。しかし、若手の頃からよく知る船木を相手にしてもこれができるか!?　いまだからこそ船木vs鈴木戦が観たい！

井上くんやったら、何が観たい？

井上　俺はね、ようやく船木の見方っていうのがわかった気になってるんですけど、今回の船木の復帰を映画を観るようなモードで観てみたいんですよ。船木って大の映画好きだし、実際俳優業もやったりしてたけど、おそらく船木の中では格闘技の舞台もすべて映画感覚だと思うんですよね。"主演・監督・脚本、船木誠勝"みたいな感じで。わかりやすいところでは、体質的にまずはビジュアルを完璧に作っちゃうでしょ？

ガンツ　あの身体鍛えたり、肌を焼いたりするのは役作りですか（笑）。

井上　そうそう、これは馬鹿にしてるわけじゃなくて発想はまさにそうだと思うんだよね（笑）。で、今回の復帰の決意すら映画に関係してるんじゃねえかって思ったのが、6月の頭くらいに船木と会ったときに、「『ロッキー・ザ・ファイナル』観ました？　観たほうがいいですよ、おもしろいです」って言われたんですよ。「あれ？　もしかしてこの人、『ロッキー・ザ・ファイナル』を観て復帰を決めたのかなあ……？」って。

ガンツ　なるほど！　ロッキーに自分を投影しちゃったわけですか。

椎名　映画観ながら、自分の中でテーマ曲が鳴り始めちゃったんだ（笑）。

井上　だから、あのヒクソンを相手にしても本人は無意識で試合中にも関わらず名シーンをいっぱい撮ろうとしていたふうに見えるんだよね（笑）。入場から試合後花道での引退宣言までを一つの作品としてとらえて作ってるっていうか。だから今回も船木のそういう映画監督気質に注目して、何をこちらに伝えたいのかとかを感じてみたいんですよねえ。

タコ　ほんなら、大晦日の復帰戦は、船木誠勝主演映画ちゅうわけか。そうやって観ると、いまから楽しみやなぁ。

井上　船木主演・監督作品『フナキ・ザ・ファイナル』ですよ（笑）。シルベスター・スタローンも「人間の肉体のピークは45歳を過ぎてから」って言ってましたからね。エンドロールはまだまだ先ですよ！

ガンツ　スタローンは還暦越えてるわけですから（笑）。

タコ　ちゅうわけで、長々と語ってまいりましたけど、どんな『フナキ・ザ・ファイナル』を見せてくれるのか、楽しみにして、"公開日"を待つことにしましょう！　ほな、さいなら〜。

【07年7月27日／新宿区・ダイニングバーにて収録】

ふなき・まさかつ■本名・船木優治（まさはる）。1969年3月13日、青森県出身。84年に新日本プロレス入門。第二次UWF〜藤原組を経て、93年パンクラスを旗揚げ。第4、6代「キング・オブ・パンクラシスト」に輝く。2000年5月、ヒクソン・グレイシーに"惜しくも"敗れ、現役を引退。俳優として活躍していたが、今年7月の『HERO'S』で現役復帰宣言をした。182cm、85kg

吉田道場勢

中村カズ、小見川ともに『UFC76』参戦決定!!
されどドンは動かざること山のごとし！

柔道王はなぜ VIVA! PRIDEなのか

ミルコ、ノゲイラ、ショーグンら、『PRIDE』からUFCへと戦場を移す選手が数ある中、柔道王・吉田秀彦はいまなお『PRIDE』残留を固く宣言！ 現段階で最後の興行となっている『PRIDE.34』開催から約4ヵ月。同じ吉田道場勢の中村和裕らまでもがUFCへと向かう環境で、吉田は一人何を思うのか。"VIVA! PRIDE"でい続ける理由を探れ！

聞き手／ジャン斉藤　構成／梅木麗子

――吉田道場の中村（和裕）選手と小見川（道大）選手のＵＦＣ参戦が発表されましたね（71ページ参照）。

吉田 （目を丸くして）……え？ それもう発表されたのっ!?

――ええと、吉田さんは格闘技界の動きは詳しくないんですか？ というか、ご自身の道場の所属選手のことなんですけど（笑）。

吉田 いや、カズがＵＦＣに出るという話は聞いていたけど、発表されてるなんて知らなかったなあ……。

――そうですか（笑）。

吉田 僕、あまり格闘技に詳しくないんですよ。ネットも見ないし、雑誌も送られてきますけど、全然読まない。カズなんかはオタクみたいに詳しいけど（笑）。

――じゃあ、格闘技界のことは小耳に挟む程度くらいで？

吉田 ほとんどわからないです。ま、面倒だしね。

――最近でいうと、「え!? そんなことになってんの？」と驚いたニュースってあります？

吉田 う～ん、なんだろ……あ！ カズのＵＦＣ参戦が発表されていたことかな（笑）。

――そうですか（笑）。一方の吉田さんは試合の予定がない。にも関わらず、練習は欠かさずされてますよね。こうやって前向きな精神状態を保つのはけっこう大変じゃないですか？

吉田 やっぱり本当なら目標を持ってやったほうがいいんですけどね。でも、いつどうなるかわからないのがこの世界なんで、僕も気を抜かずに練習しているって感じなんですけど。まあ、『ＰＲＩＤＥ』も早く開催してくれればいいかなって（苦笑）。

――やっぱりそういう気持ちはありますか。

吉田 当然ですよ。ただ、やっぱり若いヤツはどんどん向こう（ＵＦＣ）に出ていけばいいですよ。まだまだ時間がありますからね。でも、僕とかが行ってもしょうがないですもん。

――しょうがないといいますと？

吉田 だって、またイチからじゃないですか。イチからやるのがイヤだというわけじゃなくて、やっぱりね、ＵＦＣにしてもなんにしても、選手はかなりの心構えで上がると思うんですよ。でも、僕にはそれだけ情熱を注ぎ込む時間がないしね……（淡々と）。それだったらね、日本でしっかりと頑張っていきたいなって。

――そうはいっても、『ＰＲＩＤＥ』の再開はなかなか見えてこない状況ではありますよね。

吉田 でも、あんまり自分自身では焦ってないですよ。うん。だいたいいつも年に2試合とかしかリングに上がってなかったですし。アッハッハッハ！

――あまり気にならない、と（笑）。

吉田 でも、逆に『ＰＲＩＤＥ』がこういう状態だと、いまから総合でどんどん上を目指そうとしている若い選手はちょっとかわいそうだなって……。

――吉田さんは他団体への興味はないんですか？

吉田 あんまりねえなって感じですね。だって、もうオファーも来ないでしょ。

――いやいや（笑）、吉田さんの知名度をもってしたら、地上波中継されている『ＨＥＲＯ'Ｓ』なんかは普通に興味を抱くと思いますけど。

吉田 でも、そういう話はオファーが来てから考えることですからね。自分から売り込みには行かないっていうか、売り込みしてまでやろうとは思わないです。僕って、あんまり自分からガンガン行くタイプじゃ

吉田秀彦

なんと！あの秋山問題にも言及!!

サクちゃんにしても、いいヤツなんだけど うまく抱えきれてなかったのかなって

ないですから。

――総合格闘技の世界に踏み込んだときもそうなんですか？

吉田 そうですね。この世界に入ったのもやっぱり自分から望んだわけじゃないし、そういう話があって初めてじっくり考えたっていう感じでしたからね。それに、僕の場合は始めた年齢が遅かったですから、自分自身が長く続けるというよりは、いかにしてこれを次につなげるかっていうことを考えてましたよ。

――要は、次世代のために道を切り開くということですよね。

吉田 そうですね。ウチも若い選手が道場に入ってきますけど、彼らのためにどうやっていけばいいのかっていうことを考えますよ。そういう意味では、〝安売り〟はしたくないですね（キッパリ）。

――安売りはしない！

吉田 だから試合がないからって焦る必要はないですよね。それはデビューしてから変わってませんよ。

――吉田さんが総合を始めたのは確か33歳でしたよね。だいたい何歳くらいまでやろうと思ってました？

吉田 いやあ、やっぱり40歳まで。5年はできればいいかなと思ってたんで、33歳から考えると、……あ！　もう5年だ!!　マズイなあ（笑）。

――もう終わりじゃないですか！（笑）。ちなみにいまの状況はイメージできていましたか？

吉田 いやあ、最初はもう勢いでやってましたからね。打撃も知らないし、柔道とは違った技術を覚えたりしないといけないですから、自分を追い込める気持ちがありましたけど、もうね、柔道時代にめいっぱいキツい思いをしてるから、「……もういいや！」ってなりかねないんですよ。アッハッハッハッ！

3月27日のPRIDE会見でマイクを握った吉田は「ロレンゾと榊原社長によって、世界最高峰の舞台が整いました」と堂々コメント。しかし、その後、あわてた吉田はなんと背後に迫る郷野にマイクをバトンタッチしてしまったのだった！

――なるほど（笑）。

吉田 でも、試合は練習してきたことが確実に出るから、一生懸命やらなきゃいけないんですよ。

――そうやって吉田さんがこの世界に没頭する中で、主戦場の『ＰＲＩＤＥ』がいま事実上の活動停止に追い込まれています。あらためておうかがいしますが、吉田さんは一連の事件をどうご覧になっていたんですか？

吉田 う〜ん……、『ＰＲＩＤＥ』自体がなくなるという感じじゃなくて、ＵＦＣと一緒にやっていくという前提のもとで話が進んでたわけじゃないですか。それがいまの時期になってもまだ『ＰＲＩＤＥ』が開催もされていないので、こういうことってあるのかなっていう感じですかね……。だから、ビックリするというよりは、「早くやろうよ！」って（笑）。

Hidehiko Yoshida

――4・8『ＰＲＩＤＥ・34』がいまのところ『ＰＲＩＤＥ』の最後の興行になりますけど、吉田さんは会場には……。

吉田 （さえぎって）いましたよ。僕、上の部屋にいました。

――あの日は最後のセレモニーの際にもリングに上がってなかったですよね。

吉田 だって、〝最後〟といっても、ＤＳＥの興行が最後なだけで、僕はとくに〝終わる〟と思ってなかったんでね。……っていうか、いまでも終わったと思ってないですし。

06年『男祭り』で“ゴング＆ラッシュ”でおなじみのジェームス・トンプソンと闘った吉田。トンプソンの猛打を前に死闘を繰り広げる吉田だったが、その頃、同じ柔道出身の秋山が桜庭を相手に“ヌルヌル事件”を起こしていたとは知るよしもなかった……。

――あのイベントで桜庭さんと田村さんの顔合わせが実現しましたが、吉田さんはどうようにとらえたんでしょうか？

吉田 べつに何も。まあ、実現しない試合だったから、ファンにとって一番観たい試合をああいうふうに最後に持ってきたのかなって。あとは……あの二人とボクは同い年だなあって（笑）。

――ちなみに桜庭さんが『ＰＲＩＤＥ』から離れたときは率直にどう思われましたか？

吉田 う〜ん。サクちゃんにしても電話でしゃべったりしますし、みんないいヤツなんですけど。いいヤツなんですけど、やっぱりこう、なんていうのかなあ……。うまく抱えきれてなかったのかなって思う部分もありますよねえ。逆に、お互いにもうちょっと割りきって話さないといけなかったっていうのもあるだろうし。そのへんは難しいですよね。

――先ほど、「次につなげるために闘っている」というふうにおっしゃってましたけど、テレビ中継を失なった『ＰＲＩＤＥ』を「なんとかしなきゃならない」という気持ちは当然あったんですよね。

吉田 やっぱりね、興行が絡んでくると、いろんなところで無理しないといけないじゃないですか。興行を成功させないといけないという主催者側の意志もあるし、テレビを復活させるためにも話題がなきゃいけないし。そういった中で僕らもできるだけ協力してやっていかないと、いいものって作れないと思うんですよね。だから、それは僕だって無理してやるしかないですよ。

――じゃあ、大晦日のジェームス・トンプソン戦はけっこう無理して出た、と。

吉田 （一際大きな声で）無理しすぎだよっ!!（笑）。

――ハハハハハ！

吉田 無理しすぎて身体を壊してしまいましたよ。直前まで相手が決まらないから、

このまま出ることはないだろうと思っていたし。もう、全然闘える状態じゃなかったのに試合したから、おかげで正月がなくなっちゃったんでね。

――まあ、年末年始って普通は休む時期ですもんね。

吉田　だから僕も休みモードだったんですよ！　でも、当時はもうフジテレビに契約を切られてましたけど、その後、初の大晦日だったでしょ？　だから、ファンのためにも自分のためにも頑張らないといけないなって。……ただ、勝てると思ったんですけどねえ。

――吉田さんをそうして突き動かしたのは『PRIDE』への思い入れなんですかね。

吉田　まあ、『PRIDE』への思い入れみたいなものは誰かとは比べられないものだし、はっきり言って、闘ってナンボの世界じゃないですか。闘う場所がなかったらプロってメシ食えないですからね。そこはプロとしてですよ。

――じゃあ、五味さんにしろ『PRIDE』に動きがないので、外部に活路を求めるのは自然の動きだ、と。

吉田　それが普通だと思うんですよ。僕はたまたまほかに仕事をして食っていける状態にあるんですけど、そういう場を求めていくのは自分で選ぶことですから。

――吉田さんが『PRIDE』残留宣言をしたのは、試合以外に食べていける環境があるという理由だけなんですか？

吉田　いや、やっぱりいままで一緒にやってきたDSEの方々を安易に裏切れないという気持ちはありますよ。お互いが、ただの主催者と一選手だったら僕も別の場所に行っちゃったかもしれないですけど、一緒にやってきたっていう思いは強かったですから。それは裏切れない。そういう仲間意識は強いっていうか、あのー、榊原（信行）さんって、地元が名古屋で一緒だし、僕と同じ駅で降りますからね。しかも、名古屋駅じゃないですよ！　そっからローカル線に乗り換えて、同じ駅で降りるんです。

――それはけっこうな偶然ですよね（笑）。ただ、新生『PRIDE』が誕生したときに、オーナーはアメリカ人になるわけですけど、いままでのような信頼関係を築いていけるのかなという不安はないですか？

吉田　それはまだ、どういう運営になるかもわからないし、なってみないとわからないですよ。……まあでも、僕はね、この先は若い選手の“踏み台”になるだけだから。

――“踏み台”って、永田（裕志）さんじゃないんですから（笑）。

吉田　（無視して）やっぱり、柔道やってきた人間が「総合格闘技やりたい!!」って言って吉田道場に入ってくるわけじゃないですか。そういうヤツらはまだ先あるわけだから、何か作ってあげないといけないなって。

秋山ねえ……。だから本当は僕らと一緒にやっていけたらよかったんですけどねぇ

――柔道からの転身でいうと、秋山（成勲）選手の事件がありましたけど。

吉田　（急に顔をしかめて）アイツ、あんなことをしなくても強いのにねえ……。

――最初に事件の全容を聞いたとき、吉田さん自身はどういうふうに思われましたか？

吉田　う～ん、まあ、柔道時代にも一回そういう疑惑があったからなあ。柔道やってる人から見ると、「またかよ！」っていう目で見られるのはありますよね。あと秋山自身が会見に出て「塗りました」って認めちゃってますから。それに、谷川さんも一緒に記者会見をやって認めちゃってるでしょう。僕がプロモーターだったら、あんなふ

プロは闘わないとメシが食えない だから割りきって闘うしかないですよ

うに選手を潰すようなことはしたくないなあって思いますけどねえ……。う〜ん、アッキーねえ……。（しばらく考えて）……ま、もったいないですよ。

――吉田さん自身は秋山さんの行為に関しては、率直にどう思いますか？

吉田　やっぱりね、正々堂々とやるのがスポーツですから。そこはルールに則ってやらなきゃいけない。それはあたりまえなんだけど、でも、だからって僕は秋山が嫌いなわけじゃないんですよ。やっぱりね、あいつはいろいろとキツい思いをしてやってきたのを知ってますから、そういった意味では応援はしてます。まあ、だから本当は一緒にやれればよかったんですけどね。秋山もそうだけど、柔道関係が全員、僕らと一つになれば大きい力になったと思うんですよね。だから、あのクリームの問題にしても、僕らが一緒だったら、絶対に違う結果になってたと思うし。

――まあ、塗ってたら止めますもんね、普通に（笑）。

吉田　だからね、そういう意味ではこれから『PRIDE』がどうなるかわからないですけど、結束力っていうのは日本人同士もっと持たなきゃいけないと思いますよ。

――もう一つ『HERO'S』の話題なんですけど、先日、田村（潔司）さんが『HERO'S』に出る際、「『PRIDE』を背負ってリングに上がる」みたいな発言をされてたんですけど、それに対して、吉田さんもコメントされてましたよね。

吉田　……え？　僕、コメントしたっけ？

――してますよ！（笑）。「『PRIDE』を背負うんだったら負けてほしくなかった」っていう。

吉田　ああ、その気持ちはやっぱりありますよ。僕はもう楽勝で勝つと思ってたからね。結局、試合も観てないけど、「負けた」って聞いたときは、単純に「ウソだろ？」って思いましたよ。……だからねえ、油断っていうのもあったかもしれないし。そういうのは選手側からすると、なんとなくわかりますからね。

――田村さんはそう見えました？

吉田　……まあ、しょうがない。でも、ああいう発言っていうのは、べつに悪いことじゃないと思うし、田村選手が「『PRIDE』を背負って」みたいな気持ちで『HERO'S』に出たのは、凄く嬉しいと思うのはありますよ。だって、それだけ『PRIDE』の看板が大きいということでしょ？　だからこそ、僕の心境からいえば、負けてほしくなかったっていう感じです。

――今後も似たようなシチュエーションの試合が増えてきそうですよね。

吉田　やっぱりプロは闘わないとメシが食えないですから。それも仕事だと思って割りきってやるしかないですよ。

――周りの選手が次々と動いていく中で、お話を聞くかぎり、吉田さんはかなりどっしり構えている印象がありますね。

吉田　いや、構えてるわけじゃないんですよ。こういう性格なんです。あんまり気にしないし、ノー天気だから。だから、もう待ってるだけですね、僕は。でも、その中でやっぱりほかの選手は試合があるし、練習はしなきゃねっていうね。あとは、闘わなくても食っていけるようにしなきゃっていうのが頭にありますから。

――いまはそっちのほうに気持ちが向いている、と。

吉田　ぶっちゃけ、試合より道場やジムのことの今後のほうがメインになっちゃってますよね。

――今度も品川のほうにも念願の総合格闘技専門のジムがオープンするっていう話ですしね。

吉田　まあ、その話でいうと、いまはだいたい梅丘道場が総合の練習をやる場所みたいになってるんですけど、やっぱり柔道の道場と格闘技道場が一緒になってるのって、よくないかなって思ってましたから。

――よくないといいますと？

吉田　いや、だって、総合用のグローブとかサンドバックとか、いろいろぶら下がってるじゃないですか。柔道だけを習いに来ている子どもたちのためにも、きっちり分けたほうがいいかなって。

――ああ、ちょっと混同するおそれはありますね。今後も各地に総合格闘技のジムを作っていく予定はあるんですか？

Hidehiko Yoshida

今年で4年目を迎えた吉田道場の夏の恒例行事『VIVA！ JUDO夏合宿』。この日、報道陣の取材に応じた吉田道場の面々は、他団体の参戦を示唆。のちに中村カズ、小見川がUFCへ、村田もスピリットMCへの参戦が発表されることに。一方、吉田の次戦は本当に『PRIDE』で実現するのか!?

よしだ・ひでひこ■1969年9月3日、愛知県出身。バルセロナ五輪柔道78kg級金メダリスト。02年『Dynamite!!』ホイス・グレイシー戦でMMAデビュー。『PRIDE』では現在13戦を闘っており、強豪が揃って参戦した06年『PRIDE無差別級GP』にも出場。また、関東圏に7つの道場を持ち、9月には総合格闘技専門のジムをオープンする。180cm、104kg。

吉田 まあ、なんでもね、一個目がうまくいかないとダメですから。柔道のほうも、最初そんなに増やそうなんて思ってなかったけど、ある程度根づいてきてるんで、こんな状態になってますけど。ここ（梅丘道場）だって、最初は一人で始めて、何人来るかわからない状況だったけど、カズとか瀧本とか、まあ小見川も村田も来て、やっていくうちにどんどん増えていってしまいましたね。まあ、総合格闘技のほうは一般の方が中心になるでしょうね。女性をターゲットにしてフィットネスとか入れてるんで。……女性ウケするところに男性は集まりますから（笑）。

――なるほど（笑）。

吉田 そういった意味では女性が来やすいようなジムにしていきたいな、と。だから、清潔感とか、そのへんをちゃんと考えないとねえ……。

――そういう話を聞くと、吉田さんって選手というより経営者みたいな感じですね。

吉田 いや、経営者じゃないし、なりたくはないんですけどね、本当は。だから、僕一人ならどうにかなるんだろうけど、そうやって仕事をしていかないとキツいですから。ウチって、給料制なんですけど、選手の試合がないと、その負担は全部、僕に来るんですよ！（苦笑）。

――そういうこともあって、吉田さんの場合は個人的なことよりも、吉田道場自体をどうにかしないといけないっていうことですよね。

吉田 そう。それで、みんなが好きなことをやって、好きに稼いでくれて、その少しを僕にくれればいいなあ、と。そういう考えです！（笑）。

――じゃあ、ぜひ中村選手なんかにも頑張ってもらわないといけないって感じですね。UFCなんかは、とくにチャンピオンになったりすると一気に億万長者になったりする世界なんで。

吉田 そうそうそう！ アイツにワンミリオン稼いでもらって、半分くらいもらおう！報酬次第でUFCのセコンドもつくかどうか決めよう！（笑）。

――ハハハハハ！ 世の中、やっぱりお金ですか（笑）。

吉田 僕はね、そこも〝安売り〟はしませんから。アッハッハッハッ！

【07年8月6日／都内・吉田道場（梅丘道場）にて収録】

9.22『UFC76』アナハイム大会で中村カズvsLYOTO戦決定！

吉田道場勢からついにUFC参戦者登場～ッ！ 来たる9月22日『UFC76』アナハイム大会にて、中村和裕、小見川道大の二人がUFCデビューをはたす。しかも、中村カズの相手は、なんと！ あの“アントンの最後の愛弟子”として『猪木ボンバイエ』や『ジャングル・ファイト』などに参戦し、現在MMA戦績10戦全勝を誇るLYOTOダー!! LYOTOはUFCでも、すでにライトヘビー級（93kg）で2戦を闘っており、この階級の延長線上には、あのクイントン・“ランペイジ”・ジャクソンの姿も！ ということは、中村カズら吉田道場勢がUFCのトップをゲッツできるチャンスもあり!? とにかく（テレビでは観られないが）『UFC76』に注目すべし！

kamipro books

ハッシモト! ハッシモト!!
またまた時は来た!

橋本真也三回忌追善本
笑えて泣けるトンパチエピソード満載の
破壊王本第二弾!!

紙の
破壊王
ぼくらが愛した橋本真也
爆勝証言集

破壊王弁当級の
ボリュームで
全国書店にて
大絶賛発売中!!
B6変型判 304ページ
予価=1,890円
(本体1,800円+税)

第一弾も発売中や!

"愛すべき馬鹿"のすべて!!
『紙の破壊王
ぼくらが愛した橋本真也』
全国書店にて絶賛発売中!!
B6変型判 304ページ
定価=1,680円(本体1,600円+税)

語ろう! 破壊王
笑えて泣ける
トンパチエピソード
満載!!

★橋本大地★藤波辰爾★天山広吉★西村修★馳 浩
★スティーブ・コリノ★ケビン・ランデルマン★田中秀和
★田山正雄★ライガー夫人★折り鶴兄弟★AYAMI
★紅蘭のマスター★佐藤正行★金沢克彦 ほか

時は来たあ～～～ッ!!!

うわ～～ん!
みのもけんじ先生が
書き下ろしマンガを
書いてくれたよ――ッ!
『紙のプロレス・
スターウォーズ』
新・破壊王伝説!! 編
堂々掲載!!

激変するUFC

最新ガイドブック2007

UFCは観るものじゃない。

総合格闘技の未来はここにある!!

16ページ ブチぬき大特集

HEY、『PRIDE』がなかなか再開しないからといってしょぼくれた目をして肩をガックリ落としてるキッズども! 気持ちはわかるが、いま追いかけるべきは噂レベルのヨタ話じゃないぜ。いいか? UFCを観るんだ! えっ? テレビ中継もないのに観られないって? UFCは観るものじゃない。感じるんだ! 耳をすませば聞こえてくるはずだ。海の向こうから「U! S! A!」というチャントが。これさえ読めば、たとえ英語が読めなくてもUFCの"感じ方"がわかるはずだ! Lst's get it on!!

試合写真／Josh Hedges（UFC）

感じるんだ!!

『TUF』大ブレイク、
ロレンゾの『PRIDE』買収でUFCは
“闘いのアメリカンドラマ”になった

すべての闘いはドラマの中に溶けてゆく

～点から線、やがて大河ドラマへ～

『TUF』シーズン1のオールスターキャスト。日本では無名な若手ファイターばかりだが、この中からイベントの中核を成す選手が何人も出てきているのだ。

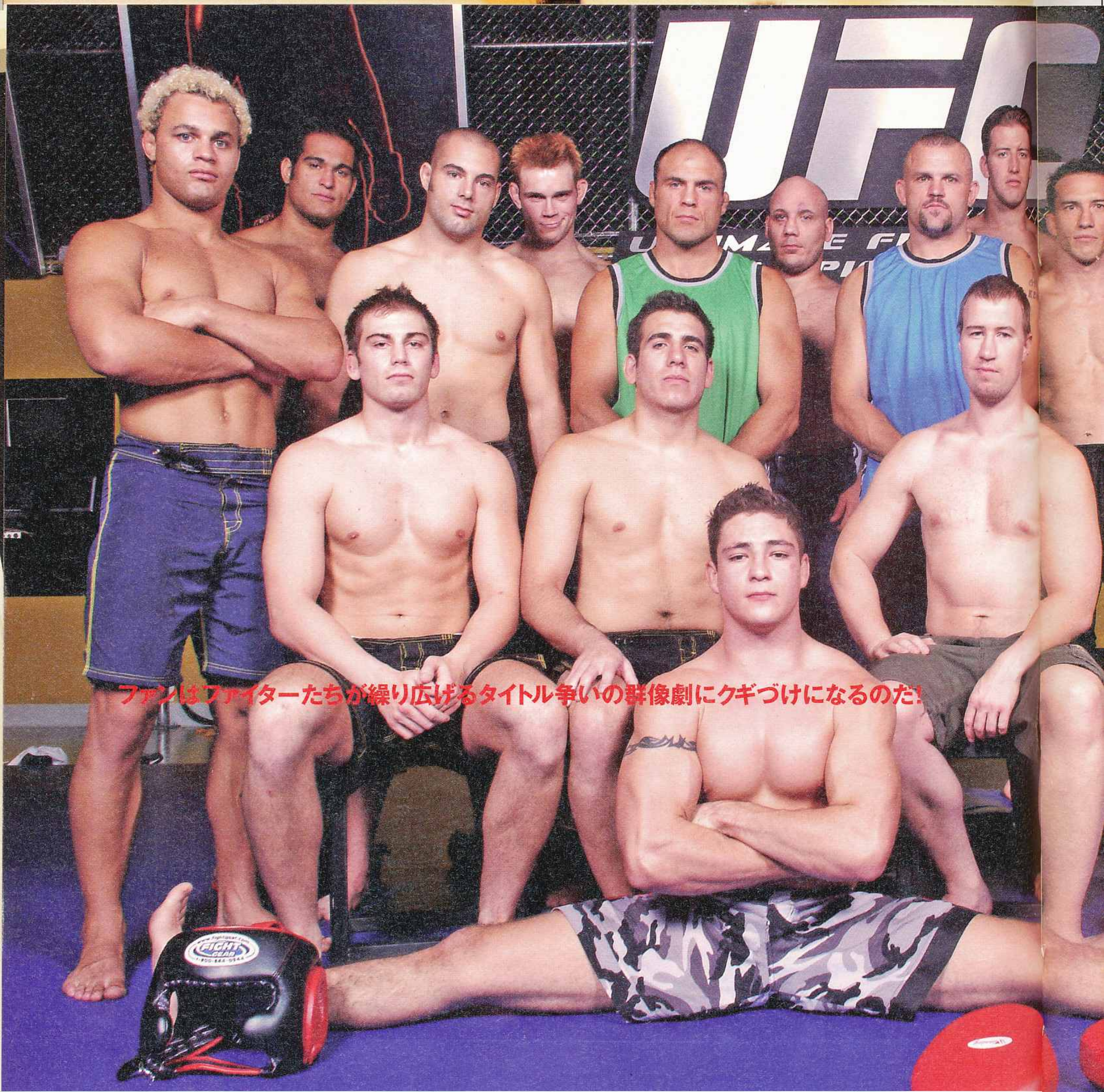
ＵＦＣはおもしろいよ！　ということを声を大にして言いたいのだが、日本の格闘技関係者に多いのは「ＵＦＣって、闘いが〝点〟なんだよね。〝線〟になってない」「知らない選手が唐突にタイトルマッチに出てきたりするから、ドラマを感じにくいんですよね」という意見……、越中調に言わせてもらえば「ふざけんなって！」である。あるいは、蝶野調に言わせてもらえば「ガッデム！　ＵＦＣだけ観てりゃいいんだ、オラッ！　エーッ！」となる。ＵＦＣには脈々とつながるストーリーがあるのだ。それを見逃して、上っ面だけで判断してしまうのはもったいない。

前述のようなことを言いたがる人の気持ちもわからないわけではない。ホイス・グレイシーというレジェンド・ファイターに圧勝したことでマット・ヒューズの名前がインプットされても、いつの間にかジョルジュ・サンピエールとかいう知らない選手に負けてしまう。そのサンピエールも、初防衛戦でマット・セラとやらに完敗。そこにはただ〝勝ち負け〟があるだけで、感情を揺さぶられるものがない、というわけだ。でも、そこまで追ってるんだったら、もう一歩踏み込もうぜ！　ルー大柴調に言うなら「ドゥギャザーしようぜ！」である。

サンピエールは初タイトル戦でヒューズに一本負けを喫している。そこから這い上がり、ＢＪペンさえも下して再挑戦のチャンスを手に入れたのだ。その復活の道のりに、アメリカのファンはドラマを感じていたはずである。状況を知らない日本人にとっては唐突な〝点〟でも、ＵＦＣを観続けている者にはドラマチックな〝線〟だったのだ。

そもそも、ＵＦＣがブレイクをはたした要因が〝ドラマ化〟だった。選手育成リアリティショー『THE ULTIMATE FIGHTER（ＴＵＦ）』である。ローカル大会でくすぶっていた若手選手や一度はトップ戦線から脱落した選手がＵＦＣ出場権を懸けて生き残りバトルを展開するこの番組は、格闘技を〝ドラマ化〟する装置だった。全米数千万人の視聴者は彼らに感情移入し、晴れ舞台で闘う姿に声援を送り、栄光と挫折に一喜一憂する。

現ＵＦＣウェルター級王者マット・セラの戴冠も、彼が『ＴＵＦ』シーズン４で勝ち抜いて挑戦権を得たというドラマ抜きに考えることはできない。こんな素敵なシンンデレラ・ストーリーをアメリカ人だけに独占させておくのはもったいない！　しつこいようだが、ＵＦＣにも間違いなくドラマは存在することがおわかりいただけただろうか。

ＵＦＣは、つまるところアメリカンドラマのようなものだ。何度となく窮地に立たされる『24』のジャック・バウアーを見るようにフォレスト・グリフィンを観る。背

ファンはファイターたちが繰り広げるタイトル争いの群像劇にクギづけになるのだ!

中のタトゥーに謎を秘めた『プリズン・ブレイク』の主人公マイケルの行く末を見守るようにディエゴ・サンチェズを追う。ひとたび見始めたら最終回までやめられない連続ドラマのように、ファンはアルティメット・ファイターたちが繰り広げるタイトル争いの群像劇にクギづけになるのだ。

そして今年、UFCのオーナーであるロレンゾ・フェティータは『PRIDE』を買収。UFCには『PRIDE』ファイターが続々と参入している。『PRIDE』とは、いうまでもなくドラマの宝庫だ。いち早くUFC参戦を果たしたミルコ・クロコップは、『PRIDE』でも見せたような〝破滅と再生のドラマ〟のただ中にいる。

UFCの主人公だったチャック・リデルをあっという間にKOしてしまったクイントン〝ランペイジ〟・ジャクソンとヴァンダレイ・シウバをKOしたダン・ヘンダーソンの王者対決は、それだけでドラマチックだし、初参戦でいきなりフォレスト・グリフィンと対戦するマウリシオ・ショーグンは、とてつもなく魅力的な〝ライバルキャラ〟あるいは〝転校生〟ということか。

UFCという闘いのアメリカンドラマは、『PRIDE』ファイターの参入によってさらに厚みを増し、〝線〟はおろか大河ドラマを形成しつつある。水野晴郎調に言わせてもらえば「いやぁ〜、UFCって本当にいいもんですねぇ!」という状態なのだ。

いまこそ、UFCを観よ!

こいつらから目を離すな!!

POWER PEOPLE

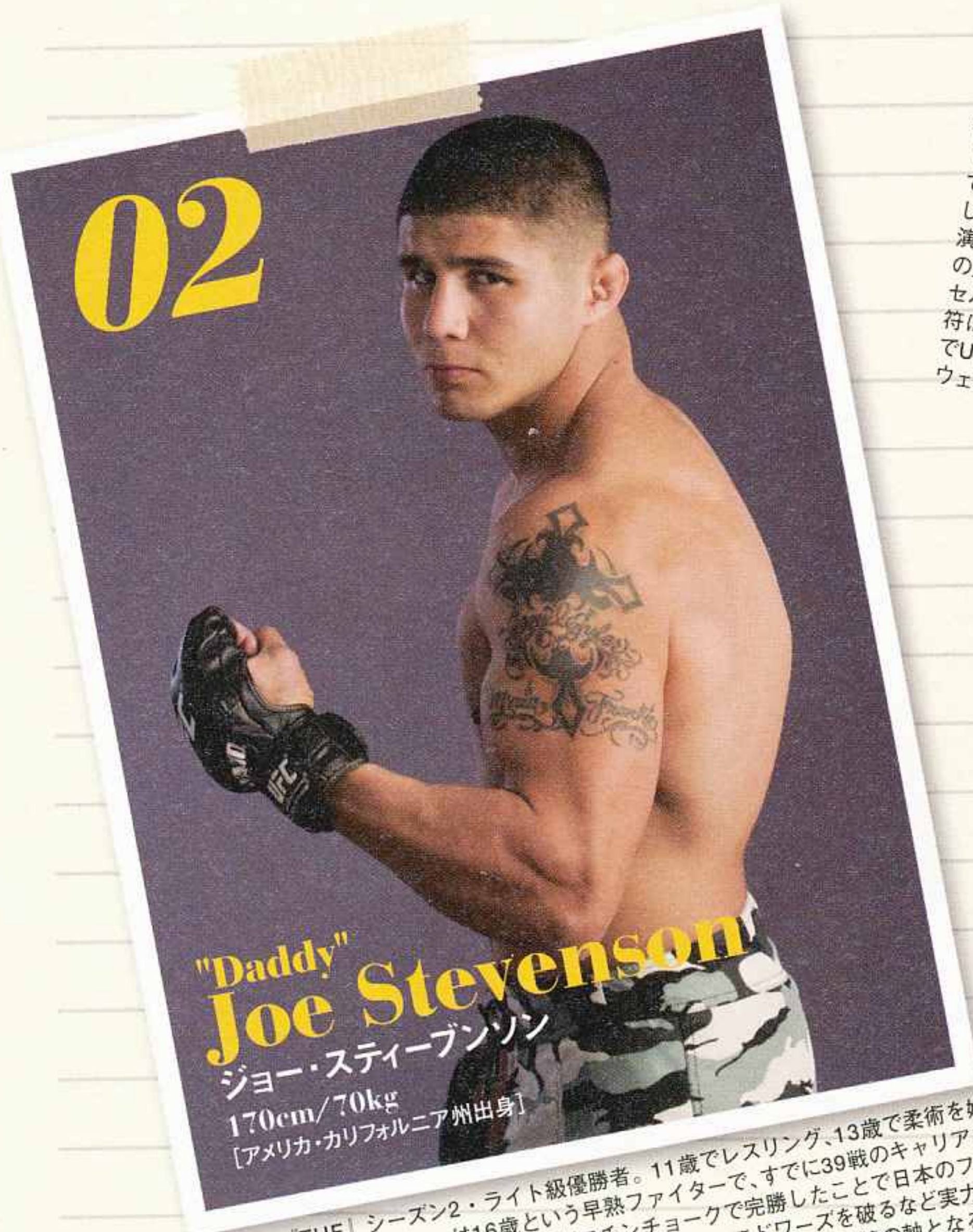
『TUF』以降のUFCを牽引する16名

01

Jon Fitch
ジョン・フィッチ
183cm/77kg
［アメリカ・インディアナ州出身］

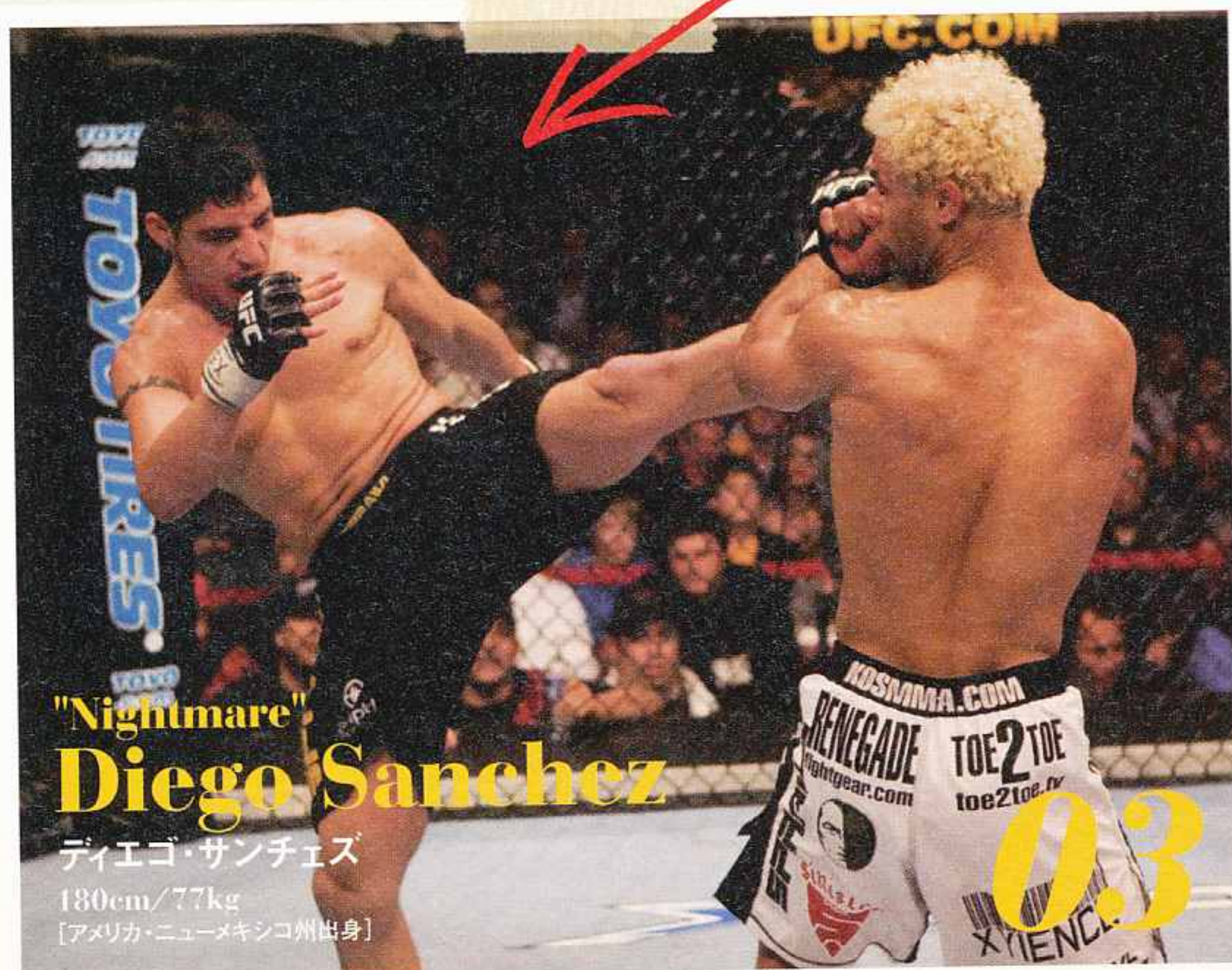
胸に「犠牲」のタトゥーが入ったAKA所属のアマチュアレスリング出身ファイター。ベッドも買えず床で寝ていたというほどの極貧生活から50万ドルのマンションを（ローンで）買うまでにのし上がった。じつは『TUF』シーズン1に出演する予定だったが、サンノゼの空港まで来て出演がキャンセルに……。スター街道の切符はつかみ損ねたが、現在までUFCで6連勝中。激戦区のウェルター級で頂点を目指す。

02

"Daddy" Joe Stevenson
ジョー・スティーブンソン
170cm/70kg
［アメリカ・カリフォルニア州出身］

『TUF』シーズン2・ライト級優勝者。11歳でレスリング、13歳で柔術を始め、プロデビューは16歳という早熟ファイターで、すでに39戦のキャリアを持つ。三島☆ド根性ノ助にギロチンチョークで完勝したことで日本のファンを驚かせたが、その前の試合でもイーブス・エドワーズを破るなど実力は折り紙つきだ。今後さらなる充実が見込まれるライト級戦線の軸となるはず。ニックネームは"Daddy"で、25歳にして3児の父。こちらも早熟（?）。

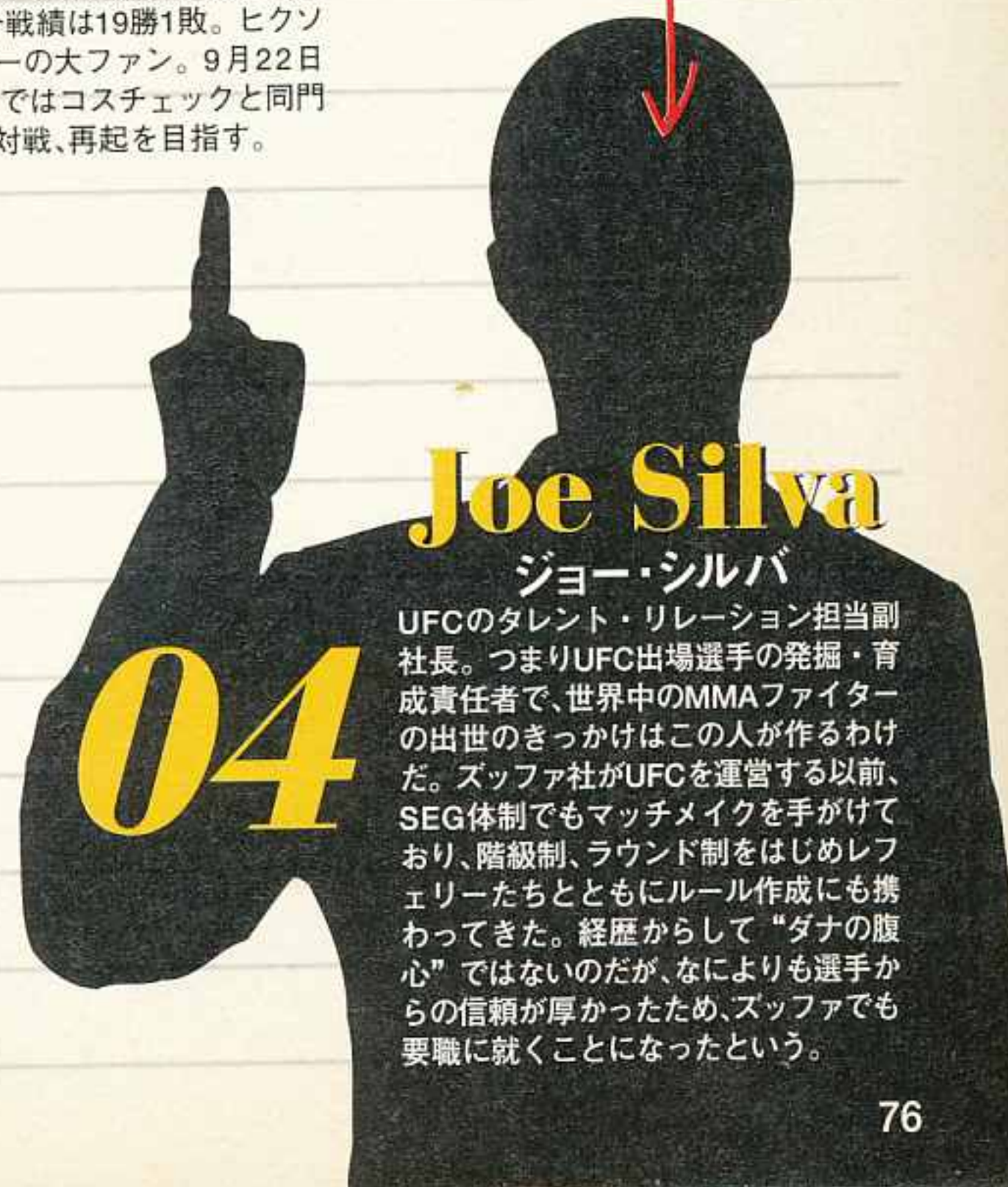
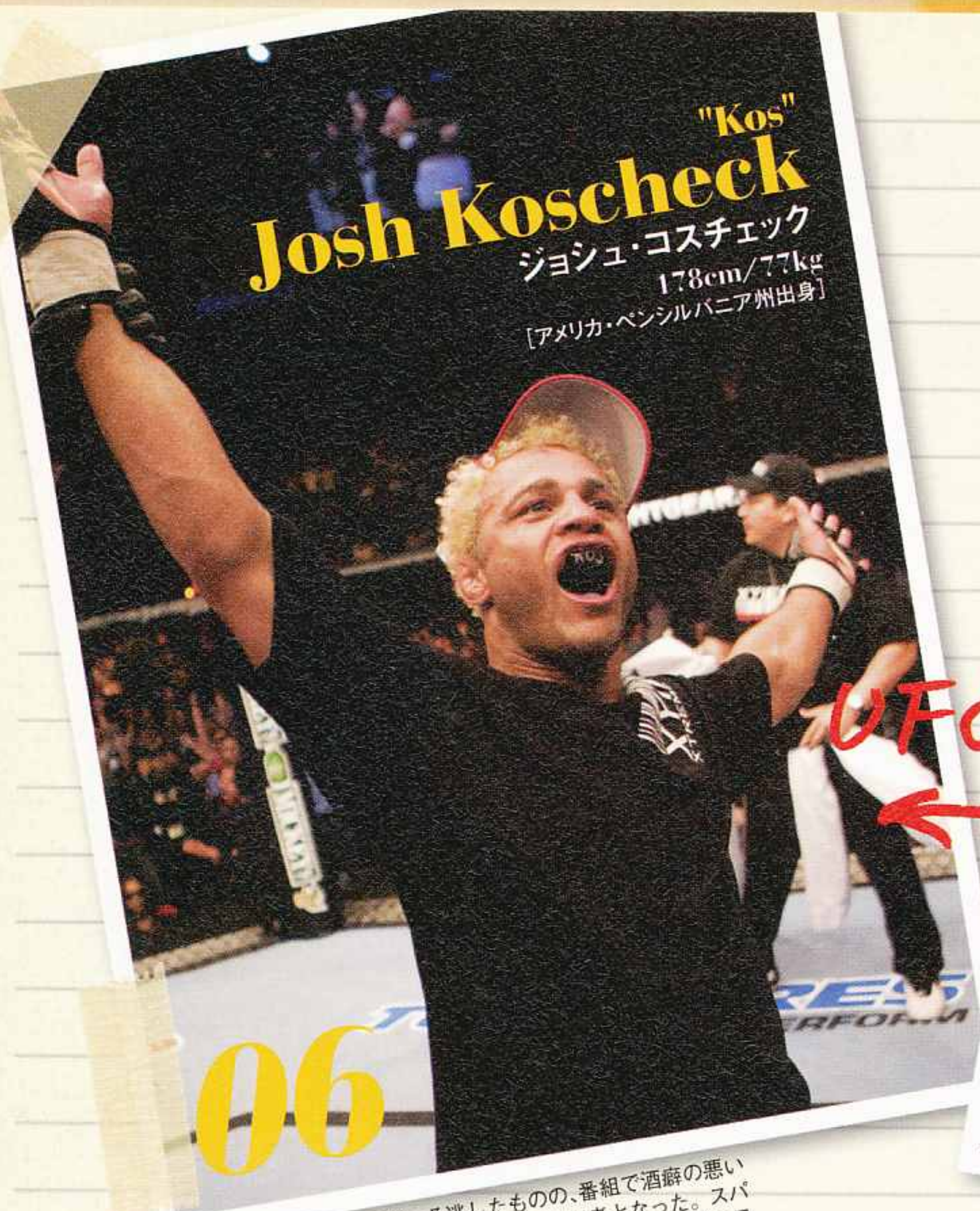
UFC76

03

"Nightmare" Diego Sanchez
ディエゴ・サンチェズ
180cm/77kg
［アメリカ・ニューメキシコ州出身］

『TUF』シーズン1・ミドル級優勝者。アメリカの超ド田舎であるニューメキシコ州アルバカーキ出身。『TUF』でも得意げにヨガを披露したり、アスパラガスのジュースを飲んだりと健康オタクなキャラを全開にしていた。コスチェックとの因縁マッチに敗れはしたものの、いまだ総合戦績は19勝1敗。ヒクソン・グレイシーの大ファン。9月22日の『UFC76』ではコスチェックと同門のフィッチと対戦、再起を目指す。

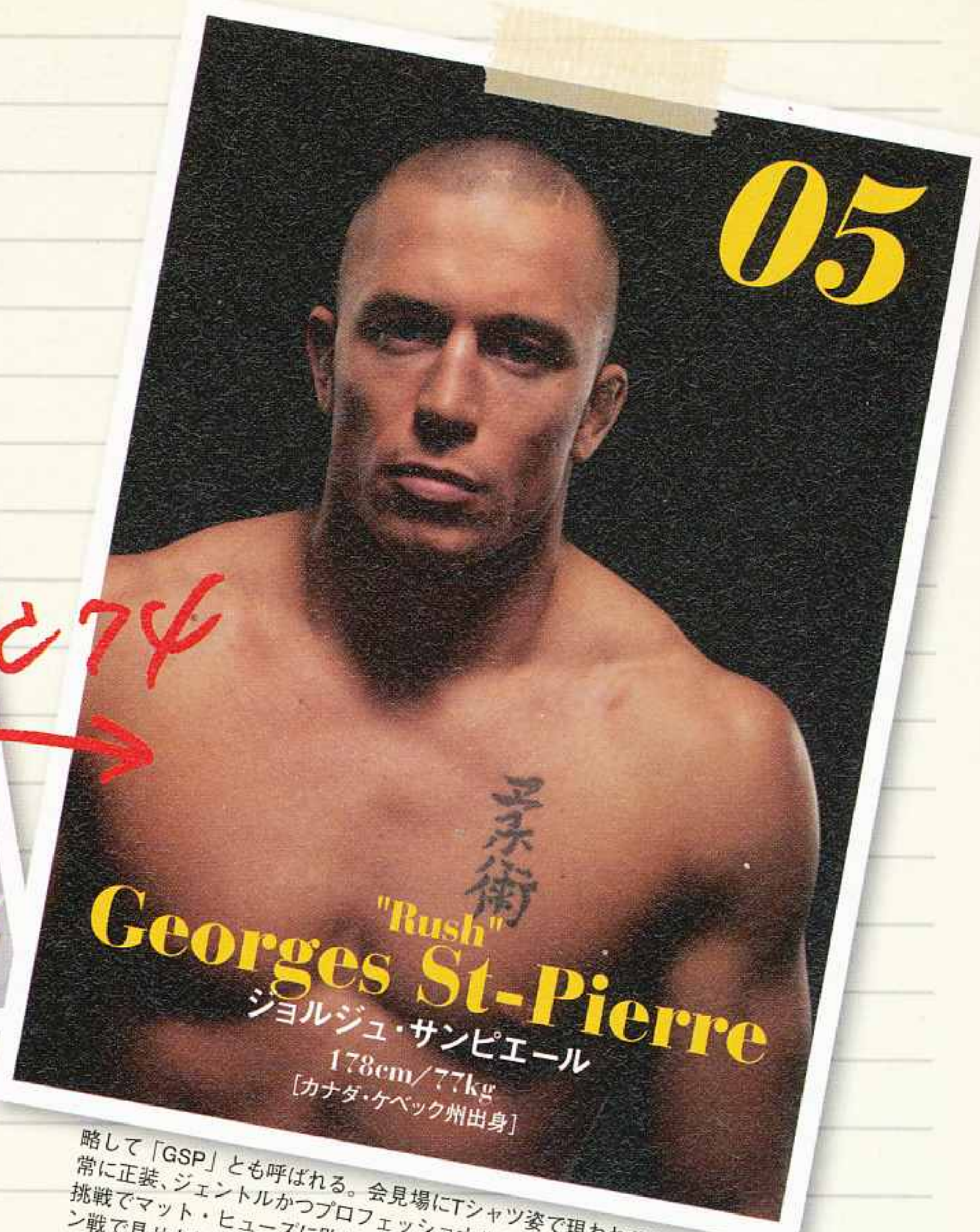
CHECK

04

Joe Silva
ジョー・シルバ

UFCのタレント・リレーション担当副社長。つまりUFC出場選手の発掘・育成責任者で、世界中のMMAファイターの出世のきっかけはこの人が作るわけだ。ズッファ社がUFCを運営する以前、SEG体制でもマッチメイクを手がけており、階級制、ラウンド制をはじめレフェリーたちとともにルール作成にも携わってきた。経歴からして"ダナの腹心"ではないのだが、なによりも選手からの信頼が厚かったため、ズッファでも要職に就くことになったという。

06 "Kos" Josh Koscheck

ジョシュ・コスチェック
178cm/77kg
［アメリカ・ペンシルバニア州出身］

『TUF』シーズン1では優勝こそ逃したものの、番組で酒癖の悪いクリス・リーベンとの大ゲンカをして一躍人気者となった。スパイクTVで無料放送されている前座マッチ番組『UFN』で勝ち星を重ね、『UFC69』では『TUF』シーズン1で敗れた因縁のディエゴ・サンチェズに判定勝ち。ついに8月25日の『UFC74』ではウェルター級前王者GSPと激突! 携帯電話に詳しいらしい。

UFC74

05 "Rush" Georges St-Pierre

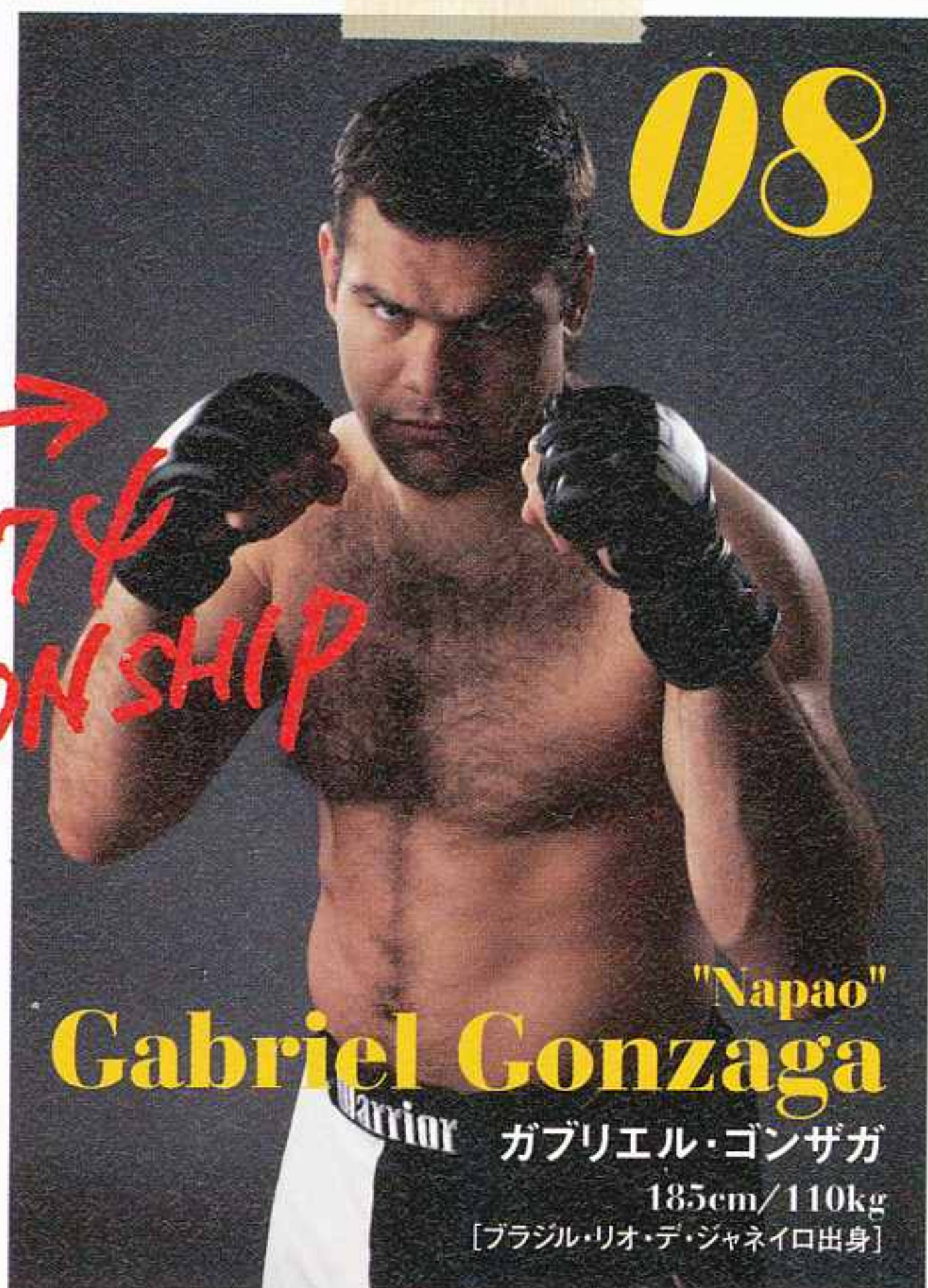
ジョルジュ・サンピエール
178cm/77kg
［カナダ・ケベック州出身］

略して「GSP」とも呼ばれる。会見場にTシャツ姿で現われる選手も多い中で常に正装、ジェントルかつプロフェッショナルな振る舞いを心得た男。王座初挑戦でマット・ヒューズに敗れたあと、破竹の5連勝。カナダ人ながらB.J.ペン戦で見せた折れない心でアメリカのファンからも喝采を浴び、続くヒューズとの再戦でついにタイトル獲得! 「僕は北米代表として闘ってるつもり」と、ここでも心得たコメントを残した。初防衛戦では敗れたが、巻き返しは必至!

07 "The Natural" Randy Couture

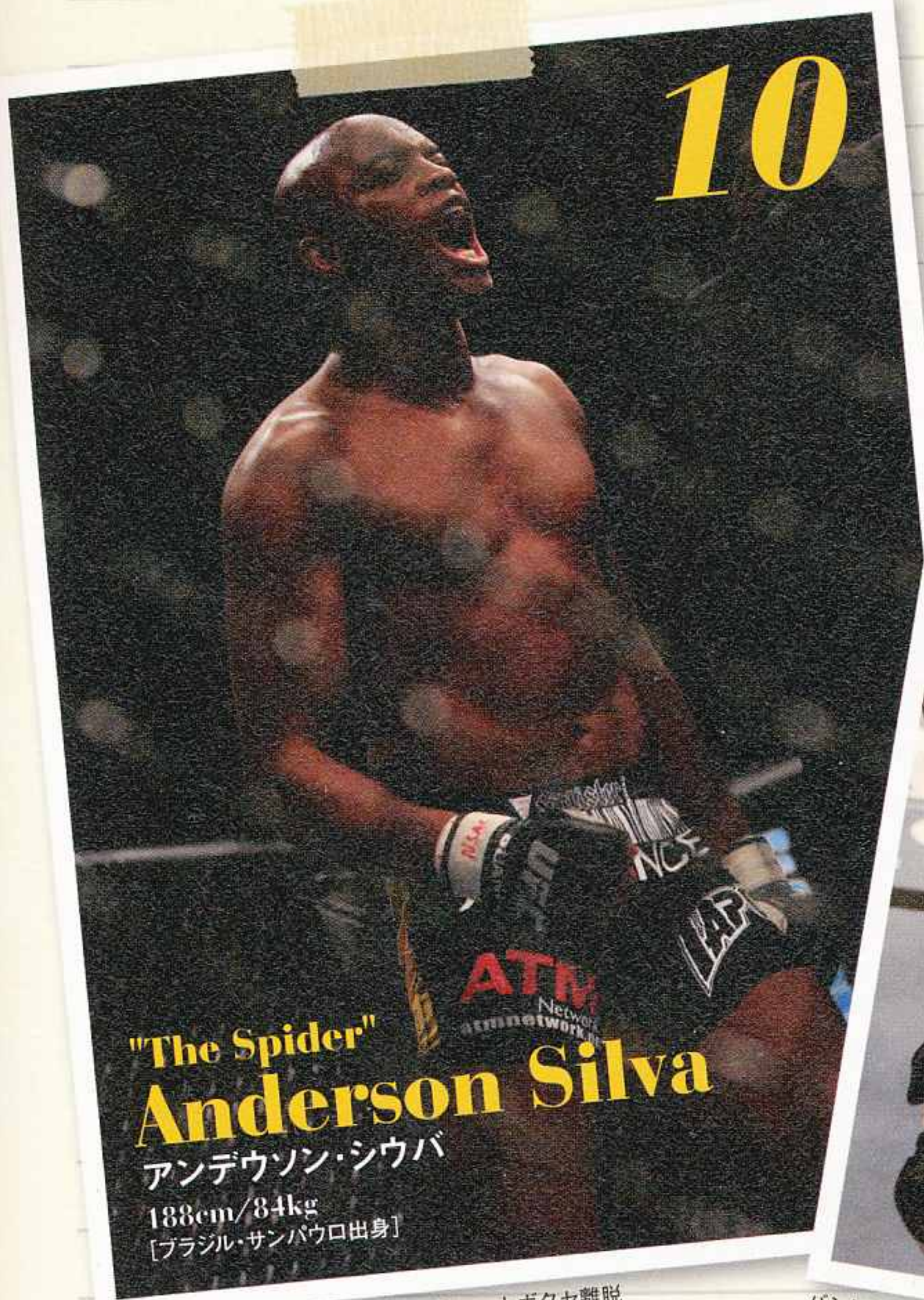
ランディ・クートゥアー
188cm/100kg
［アメリカ・ワシントン州出身］

引退を表明したこともありながら、ヘビー級→ライトヘビー級、そして44歳にして再びヘビー級と3度の王座獲得を果たした現役選手にして伝説的存在。家庭的でクレバーで、なおかつ身体の大きな力持ち。つまり誰もが憧れる“理想のアメリカ人像”を体現していることから、MMAと一般層をつなぐ大使としてのポジションを担っている偉い人。大会ではオクタゴンサイドでのコメンテーターも務めている。

UFC74
CHAMPIONSHIP

08 "Napao" Gabriel Gonzaga

ガブリエル・ゴンザガ
185cm/110kg
［ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ出身］

アブダビ・コンバット準優勝（ブラジル予選優勝）、2006年柔術世界王者、国内大会優勝4回という実績を持ちながら、その知名度ゆえミルコ・クロコップ戦では圧倒的に不利と予想されていた。ところがフタを開けてみれば、まさかまさかのハイキックKO勝利である。じつは、ゴンザガがMMAで一度だけ敗北を喫したのが『ジャングル・ファイト』でのファブリシオ・ヴェウドゥム戦。ミルコ戦のアップセットには、そんな因縁もあったのだ。

10

"The Spider"

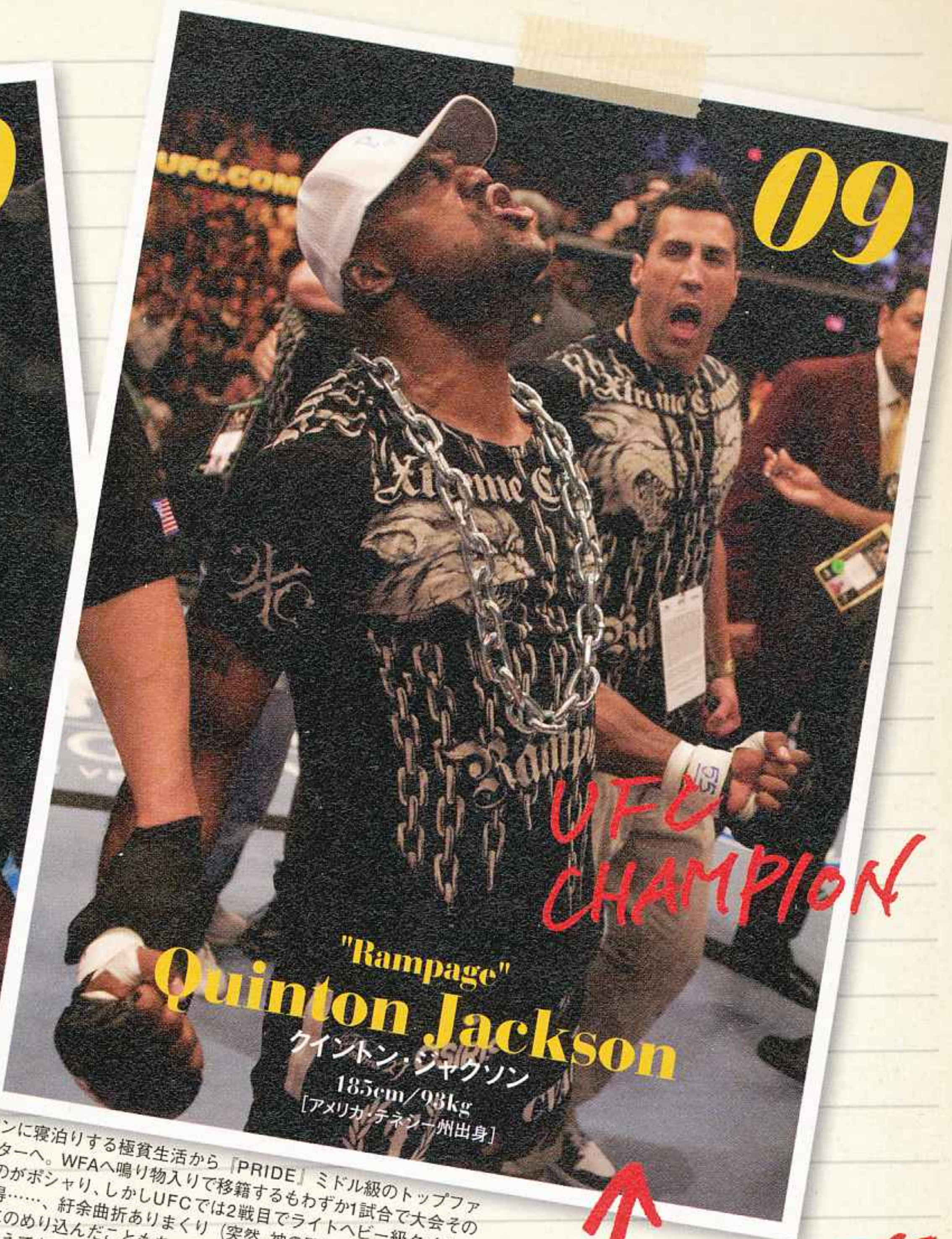
Anderson Silva

アンデウソン・シウバ

188cm/84kg

［ブラジル・サンパウロ出身］

日本では修斗、『PRIDE』で活躍、シュートボクセ離脱後は一時メジャーシーンから遠ざかっていたが、昨年からUFCに参戦。2戦目でミドル級タイトルを獲得し、その後も2連勝を飾っている（しかもオールKO&一本）。最大の売りはアグレッシブな打撃だが、普段はメガネをかけているため、アメリカ人にはナード＝オタクっぽく見えたりもするらしい。英語を話すことはできないものの、常に対戦相手をたたえる謙虚な姿勢で好感度が高い。

09

"Rampage"

Quinton Jackson

クイントン・ジャクソン

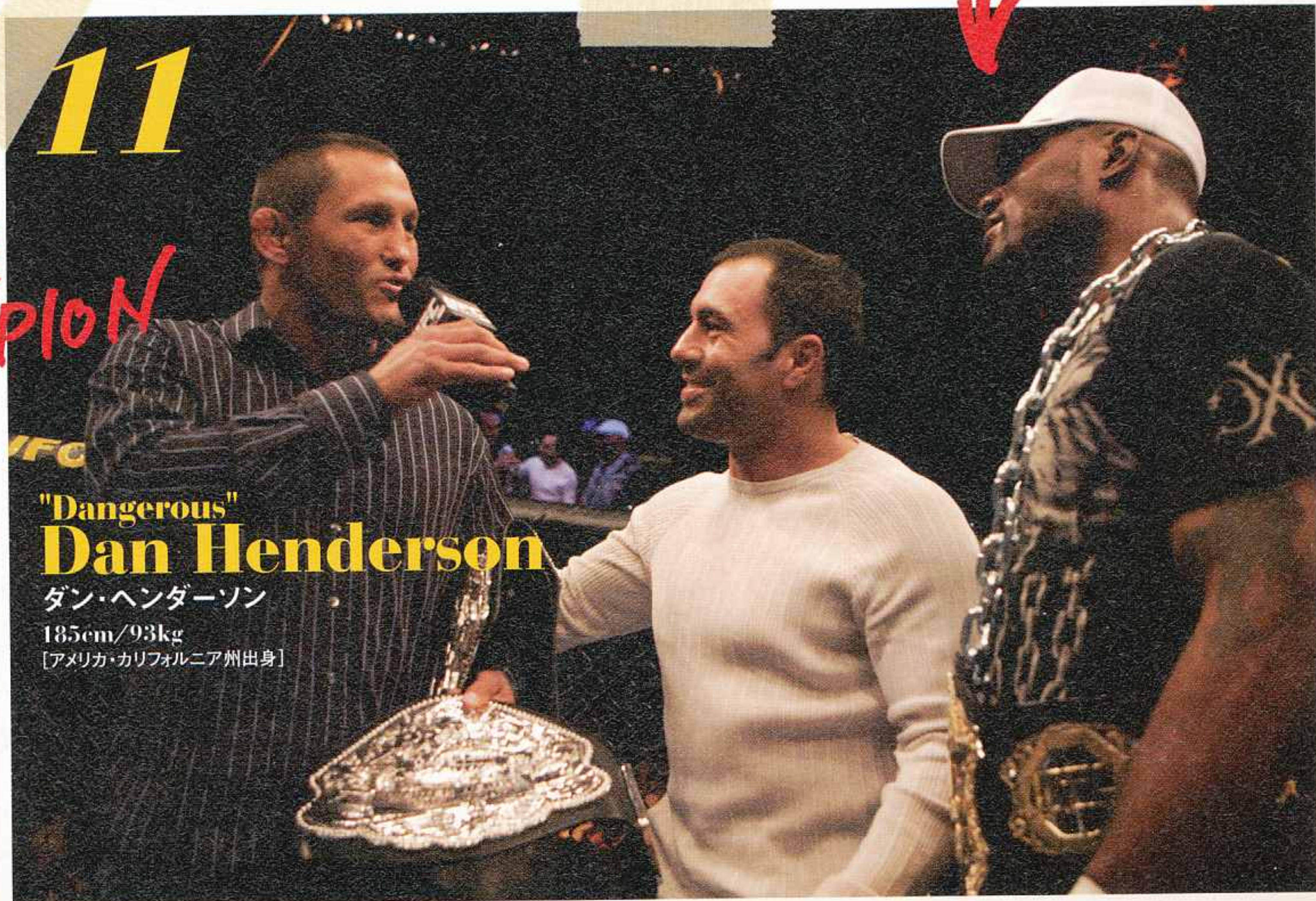
185cm/93kg

［アメリカ・テネシー州出身］

UFC CHAMPION

バンに寝泊りする極貧生活から『PRIDE』ミドル級のトップファイターへ。WFAへ鳴り物入りで移籍するもわずか1試合で大会そのものがポシャり、しかしUFCでは2戦目でライトヘビー級タイトル獲得……、紆余曲折ありまくり（突然、神の啓示を受けてキリスト教にのめり込んだこともあった）の格闘人生を、腕っぷし一本で乗り越えてきた男。UFC最大のスターであるチャック・リデルを秒殺KOしたインパクトは絶大で、黒人ファン層拡大の期待も大きい。

UFC75

11

PRIDE CHAMPION

"Dangerous"

Dan Henderson

ダン・ヘンダーソン

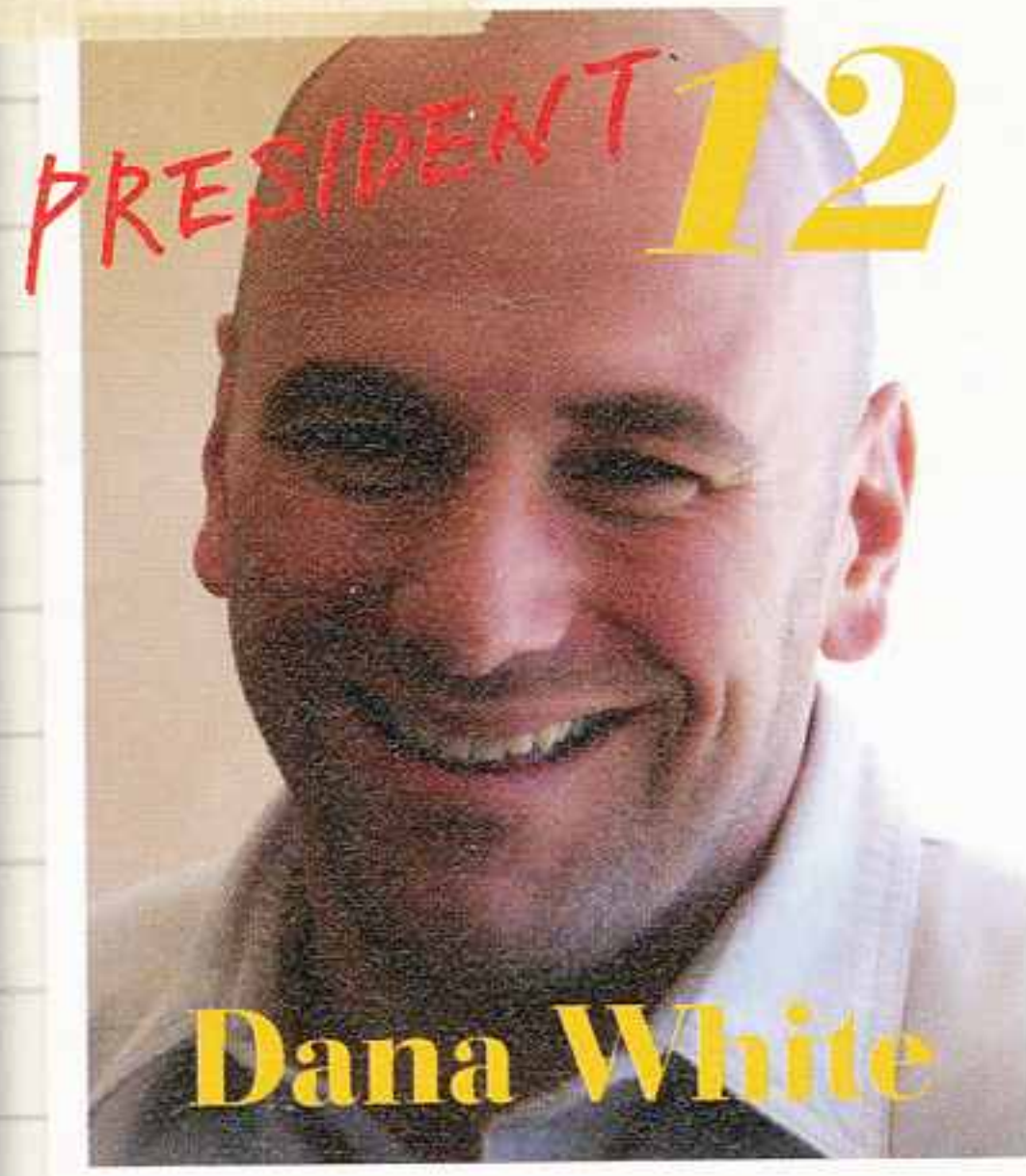
185cm/93kg

［アメリカ・カリフォルニア州出身］

ジャクソンとのUFC vs『PRIDE』王者対決が話題になっているが、98年の『UFC17』トーナメントで優勝しており、今回はいわば"牙をむいたカムバックサーモン"（古!）だ。2度の五輪出場、リングスKoK初代王者、PRIDE2階級王座獲得とキャリアには一点の曇りもない。それゆえスポーツエリートと思われがちだが、MMAを始めた理由はレスリングの活動資金を得るため（アマ生活では電気代も払えなかったとか）。案外、苦労人なのである。

13 OWNER Lorenzo Fertitta

ロレンゾ・フェティータ

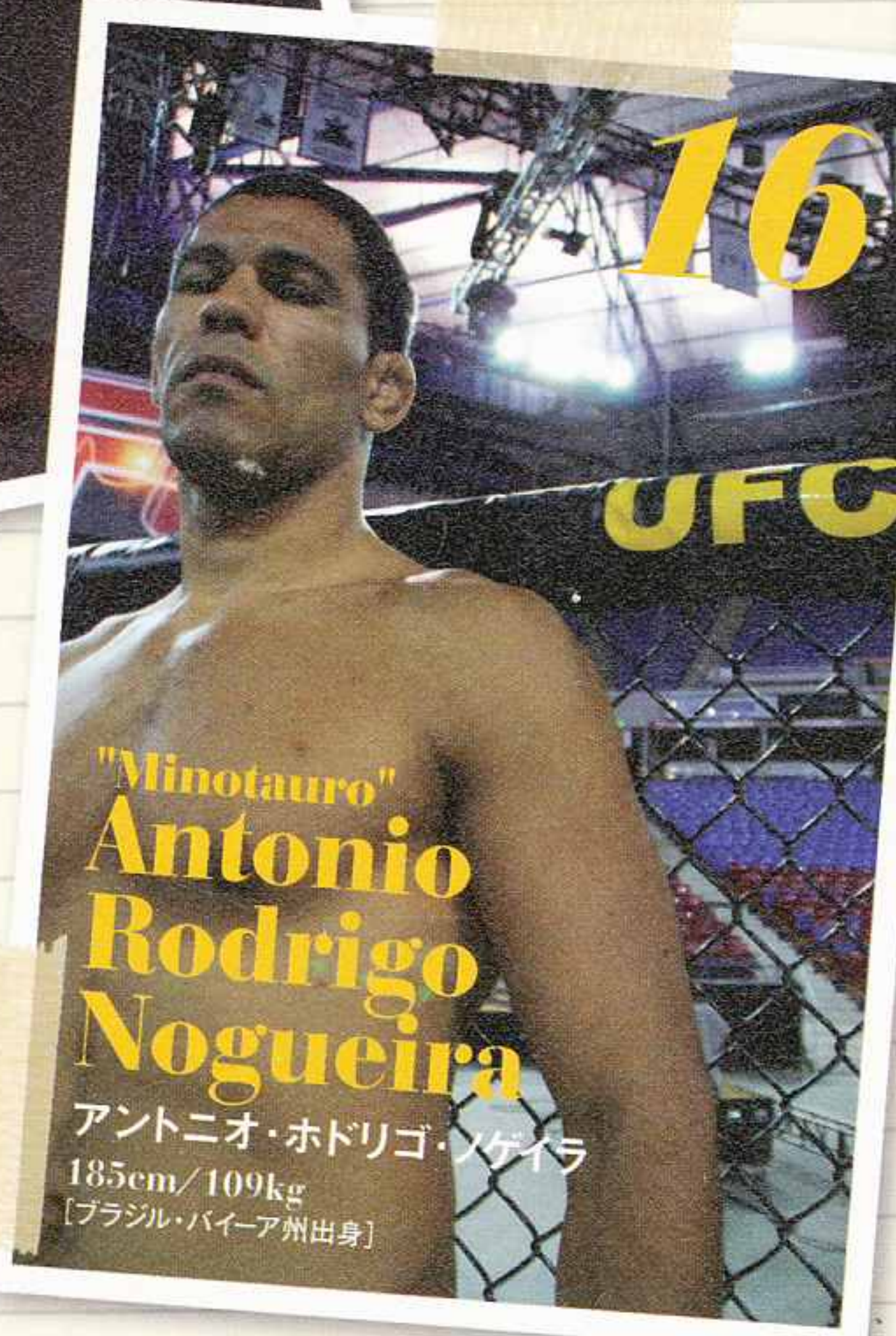
言わずと知れたUFC&『PRIDE』オーナー。ラスベガスでカジノを経営する富豪で、かつては来日のため航空券を手配しようとするスタッフに「自分の飛行機で行くから大丈夫」と答えたとか。UFCオーナー就任のきっかけは一本のプロモーション用テープを観たことで、ラスベガスにあるジムをリサーチのため訪れた際、そのまま練習を始めてしまったほどの熱の入れよう。ダナしかり、UFC首脳陣にとってMMAは単なる金儲けではないのだ。

12 PRESIDENT Dana White

ダナ・ホワイト

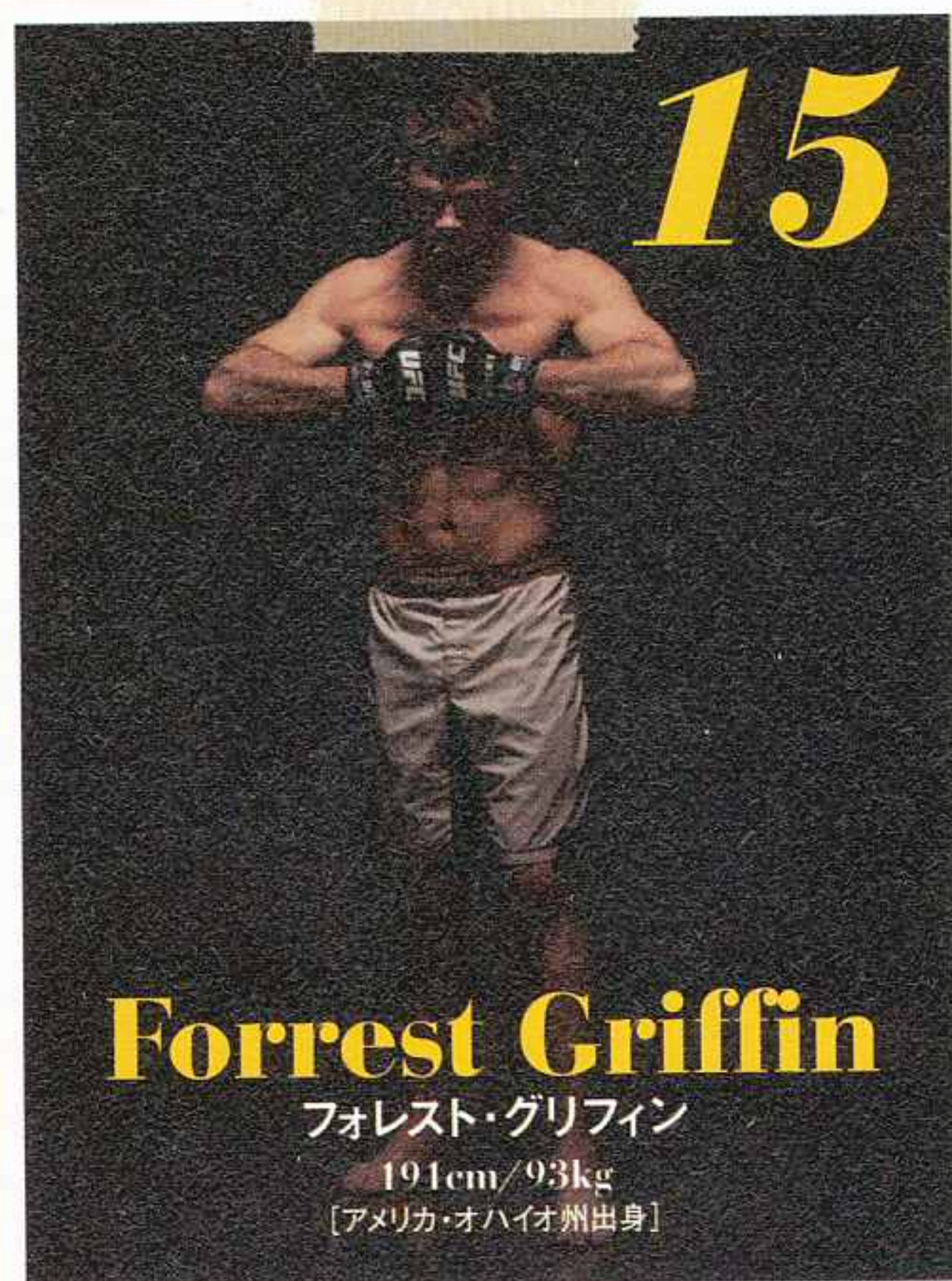
UFCを運営するズッファ社の社長。会場でのアナウンス（発表ごと）や会見の司会、マスコミ対応に他団体（他ジャンル）との舌戦など表舞台にも出ずっぱりのハイパーな活躍ぶりでも知られる。インタビューからは冷酷なビジネスマン的側面も垣間見えるが、この人、もともとはティト・オーティズ、チャック・リデルなどのマネージメントを手がけてきた“現場上がり”で根っからの総合マニア。社長就任前には桜庭Tシャツをネット通販で購入していた（4枚）。

14 "El Matador" Roger Huerta

ロジャー・フエルタ
175cm/70kg
［アメリカ・カリフォルニア州出身］

両親の離婚、虐待、学校にも行けず路上で物を売って生活するなど、過酷な人生を歩んできた少年がレスリングで才能開花。MMA戦績は18勝1敗1無効試合。その将来性とルックスから、アメリカで最も有名なスポーツ雑誌『スポーツ・イラストレイテッド』の表紙を飾る快挙も成し遂げた。カリフォルニア出身のヒスパニック系で、スペイン語圏（および人種）に対するMMAの理解とアピールという面でも大きな役割を持つ。

16 "Minotauro" Antonio Rodrigo Nogueira

アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
185cm/109kg
［ブラジル・バイーア州出身］

いまさら説明するだけヤボなビッグネーム。UFCキャリアはまだ1戦だが、試合前の"煽り"として『PRIDE』時代のハイライトシーンがガンガン流され、その芸術的グラウンド・テクニックはアメリカのファンにもかなり浸透している模様。とにかく打撃がウケるアメリカで"極め"の魅力を体現するノゲイラが活躍すれば、MMAの見られ方自体が変わるかもしれない。そういう面でも、彼のUFC参戦は大いなる挑戦だと言えそうだ。

15 Forrest Griffin

フォレスト・グリフィン
191cm/93kg
［アメリカ・オハイオ州出身］

栄えある『TUF』シーズン1のライトヘビー級優勝者。ファイトマネー500ドルのローカル・ファイターが一念発起、本職の警察官を辞めてまで『TUF』に臨んだ。2ヵ月間の収録（合宿生活）中は外部との連絡が一切禁止。気づけば恋人に逃げられていたが、シャバに戻ったら大スター！『TUF』効果による現在のUFCブームを象徴する選手だが“作られたスター”ではない。フルラウンドをアグレッシブに攻めまくる豊富なスタミナと闘争心こそが、真の人気の源だ。

UFC TITLE HOLDERS

各階級に一本しかないベルトをめぐる闘いのリアル群像劇、その主人公が彼らである。

LIGHT

ショーン・シャーク
-155lbs -70kg

7月の『UFC73』で組まれたタイトルマッチで、エルメス・フランカと対戦したが両者とも薬物検査で陽性反応。前代未聞！

WELTER

マット・セラ
-170lbs -77kg

超激戦区のこの階級でサンピエールから王座を奪取。挑戦者もハイレベルな強敵揃い。安定政権を樹立できるか？

MIDDLE

アンデウソン・シウバ
-185lbs -83kg

リッチ・フランクリンに勝ってタイトルを奪取。ちなみに、過去にはムリーロ・ブスタマンチが保持していたベルトだ。

LIGHT HEAVY

クイントン・ジャクソン
-205lbs -93kg

国民的な人気を誇るリデルをKOした暴れん坊。『PRIDE』参戦時からおなじみのチェーンはいまも持っている。

HEAVY

ランディ・クートゥアー
-265lbs -120kg

日本で〝鉄人〟といえば衣笠祥雄のことだが、アメリカの〝鉄人〟はこの男。44歳での戴冠は国民栄誉賞級の偉業だ。

金網の帝国は一日にして成らず!

UFC HISTORY 1993-2007

現在の総合格闘技の隆盛を築いた“総本山”の歴史をひも解け!

古い格闘技ファンならば93年に旗揚げしたUFCの衝撃は生涯忘れられないだろう。こんなに野蛮でアグレッシブな格闘技が存在するのか!? ファン、関係者、選手が一様に大きな衝撃を受けたのだった。日本の格闘技界もそこから発展を遂げていくことになった。すべてはここから始まったのだ!

文/橋本宗洋 撮影/Josh Hedges(UFC)

93年11月12日、米国コロラド州デンバーで開催された『UFC1』は、おおげさでなく格闘技界を一変させた。

ホリオン・グレイシーがプロモーターのアート・デイビーと手を組み、SEG(セマフォア・エンターテインメント・グループ)を運営母体として開催したこの大会によって、バーリ・トゥード(なんでもあり)という試合形式が世界中に広まっていったのだ。時間無制限の過激な闘いを楽々と勝ち進んでいくホイス・グレイシーの存在とグレイシー柔術のテクニックに、誰もが目を見張った。

ただし、グレイシー以上に際立ったのはその残酷性だった。金網の中、相手に馬乗りになって素手で顔面を殴りつけるという光景は、多くの人間にとってスポーツの範疇を超えたものだったのだ。ファンが熱狂するのと同時にバッシングも起き、アスレチック・コミッションの認可も受けられない。そんな流れを変えようと、SEGはルール整備に着手するが、それに反発したグレイシー一派が離脱。興行の軸を失ない、残酷ショーのレッテルをはがすこともできなかったUFCはケーブルテレビでの放送からも撤退を余儀なくされ、徐々に弱体化していく。

そんなUFCを01年に買収したのが、ロレンゾ・フェティータをオーナーとするズッファ社(ダナ・ホワイト社長)だった。フェティータはネバダ州のアスレチック・コミッションで役員を務めた経験も

日本からの目線で観たUFC年表

93年11月12日 コロラド州で『UFC1』開催。ホイス・グレイシーがトーナメント優勝。MMAの幕が開く。

94年3月11日 コロラド州で『UFC2』開催。市原海樹が参戦。ホイスに一本負け。

95年4月7日 ノースカロライナ州で『UFC5』開催。ホイスはケン・シャムロックと引き分け。この大会を最後にグレイシーがUFCから撤退。

95年12月16日 コロラド州で『ULTIMATE ULTIMATE95』開催。オレッグ・タクタロフ、マルコ・ファス、タンク・アボットなどが出場。ダン・スバーンが優勝。

96年5月17日 ミシガン州で『UFC9』開催。元横綱・北尾光司が参戦するもマーク・ホールに47秒で秒殺される。

96年7月12日 アラバマ州で『UFC10』開催。トーナメントでマーク・コールマンが優勝。ブライアン・ジョンストンも初出場。

97年2月12日 アラバマ州で『UFC12』開催。パンクラスの髙橋義生(当時)がヴァリッジ・イズマイウに判定勝利。

97年5月30日 ジョージア州で『UFC13』開催。初参戦のランディ・クートゥアーがトーナメントで優勝。エンセン井上が出場、ロイス・アルジャーに一本勝ち。

97年7月27日 アラバマ州で『UFC14』開催。この大会よりオープンフィンガー・グローブの着用が義務づけられた。

97年12月21日 横浜アリーナで『Ultimate Japan 1』開催。桜庭和志がマーカス・“コナン”・シルヴェイラに勝利。「プロレスラーはホントは強いんです」という歴史的な名言が飛び出した。

98年3月13日 ルイジアナ州で『UFC16』開催。髙阪剛が初参戦してキモに勝利。

98年5月15日 アラバマ州で『UFC17』開催。チャック・リデルが初参戦、判定勝利。同大会でダン・ヘンダーソンがトーナメントに出場、アラン・ゴエスとカーロス・ニュートンに勝利して優勝。

99年5月7日 アラバマ州で『UFC20』開催。ヴァンダレイ・シウバが初参戦。

99年11月19日 東京ベイNKホールで『Ultimate Japan 2』開催。バックステージで安生洋二による前田日明殴打事件発生。

00年4月14日 代々木体育館で『Ultimate Japan 3』開催。メインでティト・オーティズとヴァンダレイ・シウバが激突、ティトが勝利。美濃輪育久(当時)、菊田早苗、安生洋二らが参戦。

06年5月の『UFC60』バリバリの現役ウェルター級王者（当時）のマット・ヒューズと、レジェンド中のレジェンドであるホイス・グレイシーが激突。カリフォルニア州のステープル・センターで行なわれた試合はヒューズがテイクダウンを奪い、バックマウントからパンチを連打して圧勝した。時代の移り変わりは残酷だ。

05年4月、『TUF』のライトヘビー級の決勝戦でステファン・ボナーとフォレスト・グリフィンが激突。ともに譲らぬ白熱した好勝負となった。判定でグリフィンの勝利となったが、ボナーにも大声援。そしてボナーにも「6桁の契約」が贈られ、『TUF』シーズン1はハッピーエンドとなった。

07年4月、『UFC70』でミルコは〝伏兵〟のガブリエル・ゴンザガにKO負けを喫した。この試合に勝てばランディ・クートゥアーのベルトに挑戦か!? というところでの痛すぎる敗戦。『PRIDE』からUFCに戦場を移しても、ドラマは続く！

あり、コミッション認可のもとでスポーツ・イベントとしてのUFCを開催していく。

スポーツとして認められることは、エンターテインメント・ショーとしての発展も意味した。ラスベガスなど大都市での開催が可能になったのだ。MGMグランド、マンダレイベイ。ズッファ体制のUFCはボクシングの世界戦も行なわれる大会場でのイベントを連発し、その中でティト・オーティズやチャック・リデルといったスター選手が育っていった。そして05年、『TUF』放送によって飛躍的に認知度を高め、MMAの大ブームを巻き起こしたUFCは、フェティータの『PRIDE』買収によって、さらにその勢力を拡大しようとしている。

だが、ズッファ体制のUFCが必ずしも順風満帆だったというわけではない。そのスタート時は、世界最大にして最高の総合格闘技イベントとして『PRIDE』が君臨していた。UFCはアメリカ人を中心とした限られた選手層の中、粘り強くブレイクの時を待ったのだ（03年にはキモvsタンク・アボットという、ほとんどマスターズリーグのような試合をセミにすえた大会もあった）。

ダナ・ホワイトがボードッグを「ジョーク」扱いするのは、決して資本家の近親憎悪ではない。「オレたちが何年かけてMMAを根づかせてきたと思ってるんだ！」というプライドが、その毒舌につながっているのだ。

イズとヴァンダレイ・シウバが激突、ティトが勝利。美濃輪育久（当時）、菊田早苗、安生洋二らが参戦。

00年9月22日 ルイジアナ州で『UFC27』開催。近藤有己が参戦。アレッシャンドリ・〝カフェ〟・ダンテスに勝利。

00年12月16日 ディファ有明で『UFC29』開催。近藤有己がティト・オーティズの持つミドル級王座に挑戦するも一本負け。

01年1月 ズッファがSEGからUFCの権利を買収。UFC新時代の幕開けとなる。

01年2月23日 ニュージャージー州で『UFC30』開催。宇野薫とジェンス・パルヴァーが初代ライト級王座をかけて対戦、パルヴァーが判定勝利。

02年3月22日 ネバダ州ラスベガスで『UFC36』開催。ジョシュ・バーネットがランディ・クートゥアーを破ってヘビー級王座奪取。マット・ヒューズが桜井〝マッハ〟速人にTKO勝利でウェルター級王座を防衛。

02年7月13日 UK初開催となる『UFC38』開催。会場は由緒正しきロイヤルアルバート・ホール。須藤元気が参戦。

03年2月28日 ニュージャージー州で『UFC41』開催。宇野薫はBJペンと引き分け。

05年4月9日 ネバダ州で『TUF』シーズン1フィナーレ開催。スパイクTV『TUF』のファイターたちが多数出場。ライトヘビー級でフォレスト・グリフィン、ミドル級でディエゴ・サンチェズが優勝。

05年8月6日 ネバダ州で『UFC Fight Night 1』開催。『TUF』シーズン1の卒業生を中心とした新ブランドが発進。

06年2月4日 ネバダ州で『UFC57』開催。クートゥアーとリデルの対戦でPPV契約が40万件を突破。ニック・ディアスがこの大会の試合後、敗れた相手と病院で乱闘。

06年5月27日 カリフォルニア州で『UFC60』開催。ホイスがマット・ヒューズにTKO負け。PPV契約は60万件を突破。

06年7月8日 ネバダ州で『UFC61』開催。オクタゴン内にヴァンダレイ・シウバが登場。チャック・リデルと舌戦を繰り広げた。

06年8月26日 ネバダ州で『UFC62』開催。岡見勇信が初参戦。

06年12月30日 ネバダ州で『UFC66』開催。リデルとティトの対戦でPPV契約件数が70万件を突破。

07年2月3日 ネバダ州で『UFC67』開催。ミルコ・クロコップが初参戦。TKO勝利でオクタゴンの初陣を飾る。

07年3月3日 オハイオ州で『UFC68』開催。引退していたクートゥアーが復帰戦でいきなりティム・シルビアから王座を奪取。

07年3月27日 ロレンゾ・フェティータが『PRIDE』買収を発表。

これであなたもUFC博士!?

UFC トリビア

格闘技という一つのジャンルの枠を飛び越え、メジャースポーツの仲間入りをはたそうかという勢いのUFC。その知られざる側面にもスポットライトを当ててみよう。なぜ、映像で観るUFCの世界はここまでカッコいいのか?　それは細部にこだわっているからだ!

撮影／Josh Hedges（UFC）

UFC Trivia 01

Oh,my God!!

なんと八角形の金網オクタゴンの発案は映画『地獄の黙示録』の脚本家だった!?

UFCのスタートが大きな衝撃だった要因は、バーリ・トゥードという試合形式のみならず金網を張った八角形（オクタゴン）の試合場という斬新な舞台設定にもあった。″金網の檻の中に二人の男が入って決闘を行ない、出てくるのは一人だけ″というコンセプトは、ほとんど映画の世界だよなぁ……、と思ったら、まさに映画人が考えたものなのだった。

クリエイティブ・ディレクターとしてUFCの立ち上げに深く関わったというその男の名はジョン・ミリアス。監督作に『ビッグ・ウエンズデー』、『コナン・ザ・グレート』などがあり、『ダーティハリー』、『地獄の黙示録』の脚本を手がけてもいる。″タカ派″とも称されるが、要は男くさい闘いの世界をこよなく愛する人（全米ライフル協会の要職にも就いている）。ミリアスはホリオンのグレイシー柔術アカデミーに通う生徒で、そのことからUFCにも関わったそうだ。ちなみにアクション俳優のチャック・ノリスも生徒だそうで、いかにもといえばいかにもである。

それにしても、オクタゴンを最初に観たときは「格闘技映画に出てきそうなことをホントにやるとは」と驚いたものだが、いまとなってはこれがMMAの試合場としてスタンダードになっているんだからさらに驚く。

ロスの隣町トーランスにアカデミーを構えていることもあってか、ホリオンと映画界の結びつきはほかにもある。メル・ギブソン主演の『リーサル・ウェポン』第一作で、ホリオンはコレオグラファー＆ブラジリアン柔術スペシャル・テクニカル・アドバイザーを担当しているのだ。つまり格闘シーンの振りつけである。その結果、同作はハリウッド大作ながらクライマックス・バトルの決め技がガードポジションから腕十字→三角絞めという、格闘技的には鮮やかでも映画的にはおそろしく地味なものになったのだった。

それでも映画は大ヒットを収め、シリーズ化されるのだが、2作目以降の格闘シーンはバックスピンキックが連発されるカンフー系のものになっていく。一作目がダークな味わいも合わせ持った個性的な作品だったのに対し、『2』からはひたすらド派手なばっかりの映画になってしまったのも、柔術技の不在と関係があるような気がしてならない。ま、たぶんそれだとシリーズが続かなかったような気もするが……。

（橋本宗洋）

八角形の金網「オクタゴン（The Octagon）」はUFCの象徴であると同時に商標でもある。

UFC Trivia 02

リスペクトの気持ちを大事にするUFCには"殿堂"が存在する！

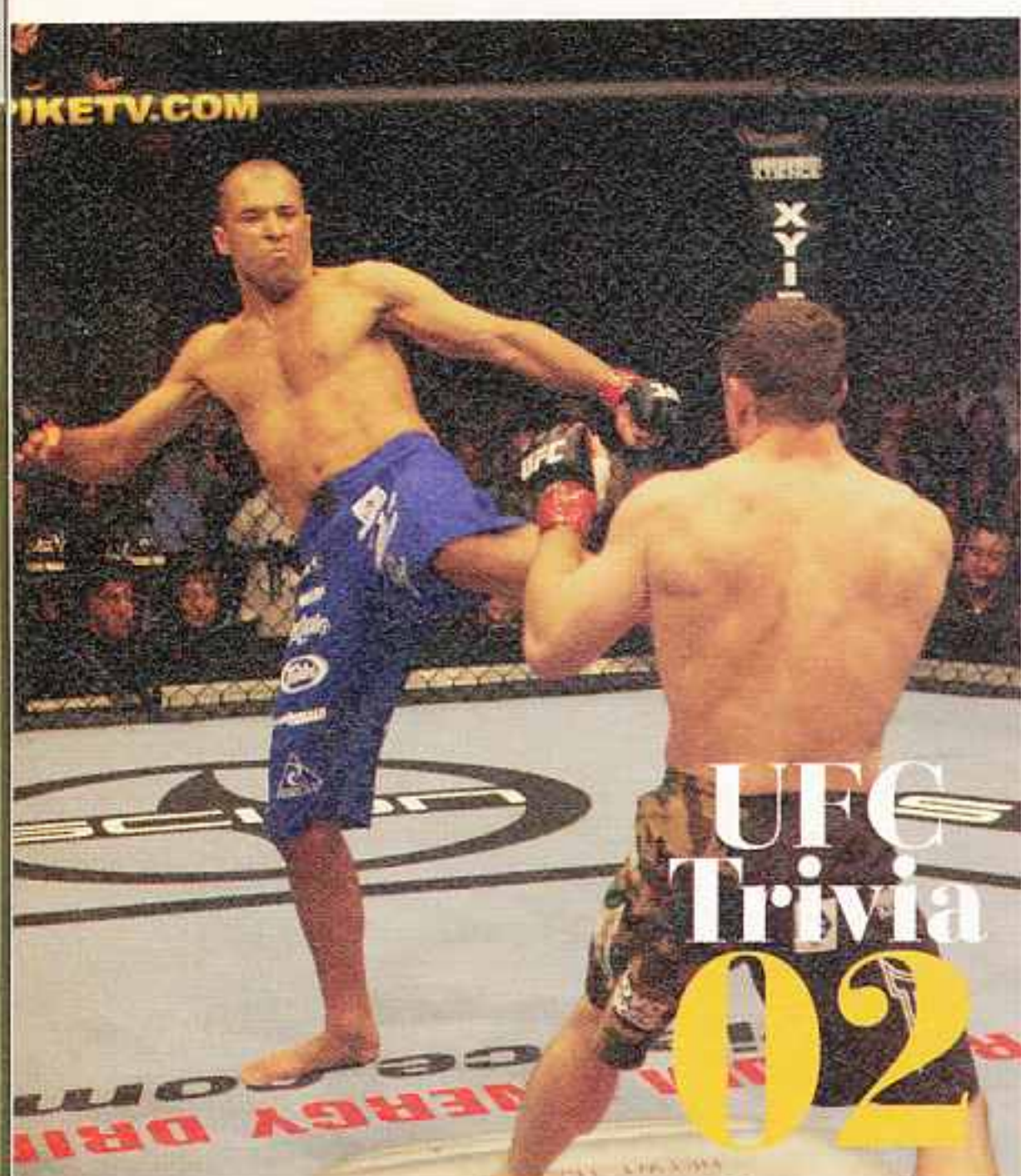
アメリカは建国から230年と歴史の浅い国である。が、それだけに歴史を尊ぶ傾向が強い。バリー・ボンズが通算ホームラン記録を塗り替えた際、球場で前記録保持者ハンク・アーロンからのビデオメッセージが流されたことを記憶している人も多いはず。

MMAも、若いジャンルながら歴史を大事にする。野球と同様、UFCにも殿堂（Hall of Fame）が存在するのだ。03年の10周年記念大会『UFC45』で表彰式が行なわれ、ホイス・グレイシーとケン・シャムロック（『UFC1』の決勝進出者）が受賞している。その後はダン・スバーン、ランディ・クートゥアーも殿堂入りを果たした。

また、『UFC45』ではもう一つ"歴史"を感じさせる発表があった。ファン投票による歴代人気ファイターベスト10だ。そのメンバーは以下のようなもの。

1位／ランディ・クートゥアー　2位／ケン・シャムロック　3位／ホイス・グレイシー　4位／タンク・アボット　5位／ドン・フライ　6位／マーク・コールマン　7位／ダン・スバーン　8位／マルコ・ファス　9位／パット・ミレティッチ　10位／オレッグ・タクタロフ

オールタイムランキングとはいえ、いま投票が行なわれれば、おそらく顔ぶれは大きく変わるはず（チャック・リデルやマット・ヒューズが入るのは確実）。それだけ、ここ数年のUFCが急激に発展してきたということでもあるだろう。

（橋本宗洋）

80kgそこそこのホイス・グレイシーが次々とヘビー級の猛者を倒していく姿は全世界に衝撃を与えた。この人がいたからUFCが生まれたのだ。

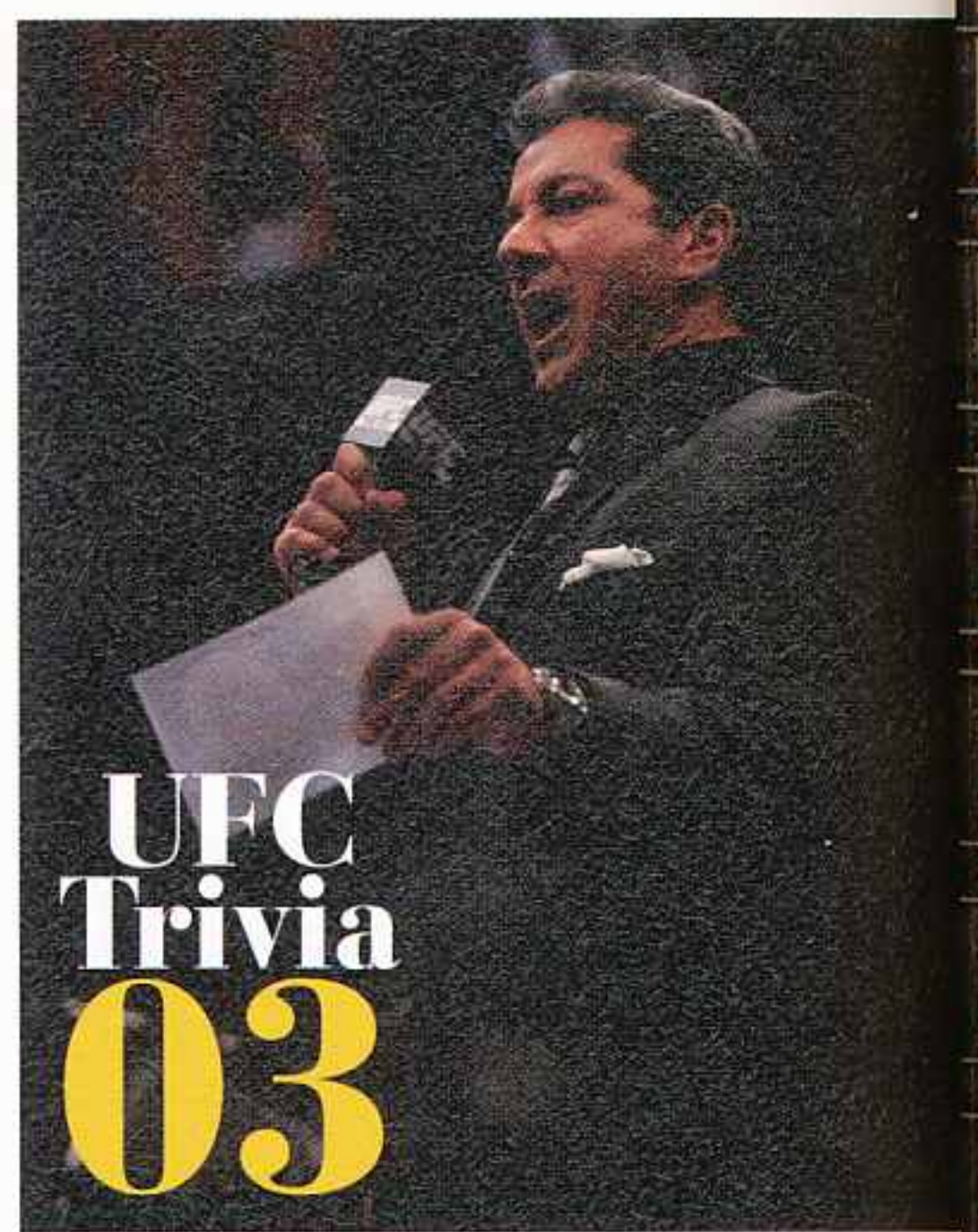
UFC Trivia 03

"ボイス・オブ・オクタゴン"は世界的なリングアナの弟だった！

観客を盛り上げるため選手、レフェリーに次いで重要な役割を果たすのはリングアナだろう。リングアナが"ハマるか、ハマらないか"で大会の印象は大きく変わる。そして格闘技界で最も"ハマってる"のはUFCのリングアナ、"ボイス・オブ・オクタゴン"ことブルース・バッファーだろう。伸びのある豊かな声量と"It's time…to begin…"という大会開始のコールはファンなら誰でも知ってる定番。UFC以外にもアブダビ・コンバット、K-1ラスベガス大会などでもコールを担当しているだけに"ミスター格闘技リングアナ"と言ってもいい。

最初のアナウンスは96年の『UFC8』プエルトリコ大会。スコット・フェローゾという選手のマネージャーとして現地入りしたところ、急に前座のアナウンスを頼まれたそうだ。その後『UFC10』で3日前に代役を頼まれ、さらに『UFC13』でもコールして定着。現在の夢はUFC vs『PRIDE』の"格闘技スーパーボウル"でコールすることだそうだ。

バッファーといえば、ボクシングの世界戦やK-1 GPファイナルでコールするマイケル・バッファーが世界的に有名。二人は異母兄弟なのだが、離れ離れに育ったため、ブルースが32歳になるまでお互いの存在を知らなかったそうだ。もちろん、現在は兄弟リングアナとしてともに活動。ブルースは兄マイケルの会社『バッファー・エンタープライズ』のCEOを務めている。本人いわく、もっともコールしにくいのはマイク・スウィック（伸ばす音がないから盛り上げにくい）だとか。

（橋本宗洋）

ロマンスグレーな外見と、艶やかで伸びのある美声は「さすがショービジネスの本場」と思わせるだけの説得力がある。夢のリングアナ対決も観たい！

UFC Trivia 04

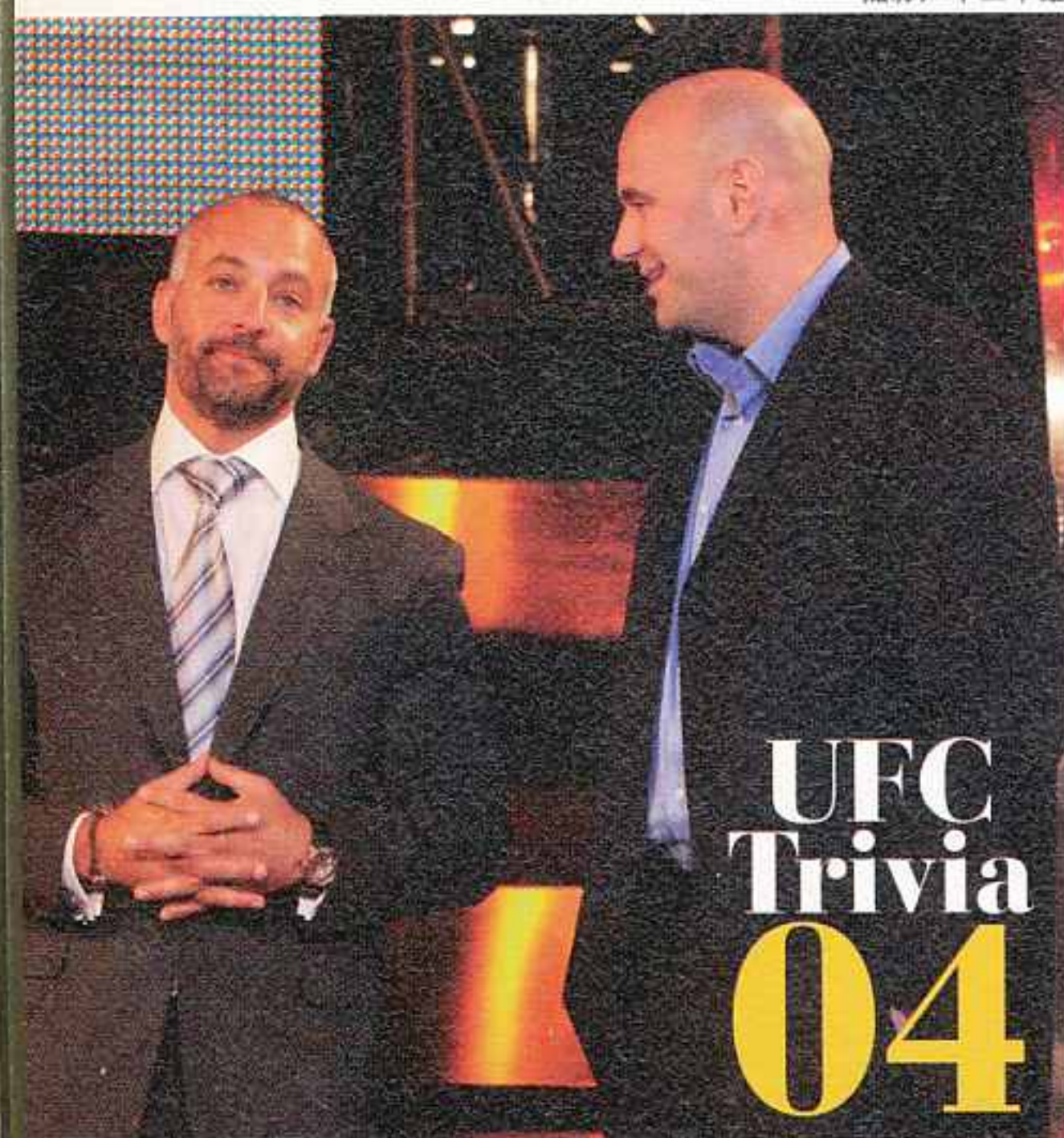
UFCは高校時代の夢の結晶!! ZUFFA,LLCとはどんな会社？

ズッファとはダナ・ホワイト社長のもとUFCを運営する会社である。アメリカでの正式な表記は「ZUFFA,LLC」。この「ZUFFA」とはイタリア語で「闘い」を意味する単語である。では、そのうしろの「LLC」とは？　これは「limited liability company」の略で、アメリカの会社法にのっとった企業形態の一つ、ということになる。日本でも会社法が改正になり新たな会社の形態が誕生したが、「LLC」は日本でいうところの合同会社のような形態にあたる。オーナーはロレンゾ・フェティータだ。

そのロレンゾは兄のフランク・フェティータ三世とともに『ステーションカジノ』を経営している。この会社は8つの大きな複合レジャー（カジノやホテルを含む）施設と5つのカジノを経営している。05年には11億ドルの売り上げがあり、従業員は約1万4000人。しかも米国『Fortune』誌では3年連続で「働いてみたい企業ベスト100」に選ばれているのだ。ロレンゾはほかにもビール企業なども経営しており、文字どおりの大富豪と言えるだろう。これ以上ないほどに頼もしい経営者なのである。

そんなロレンゾは、もともとダナ・ホワイトと高校の同級生で「いつか一緒にビジネスをやろう」と夢を語り合った仲だというから、まさにドリームズ・カム・トゥルー！　たった二人の夢の結晶が、現在の世界的な規模で経営されているUFCということになる。

（坂井ノブ）

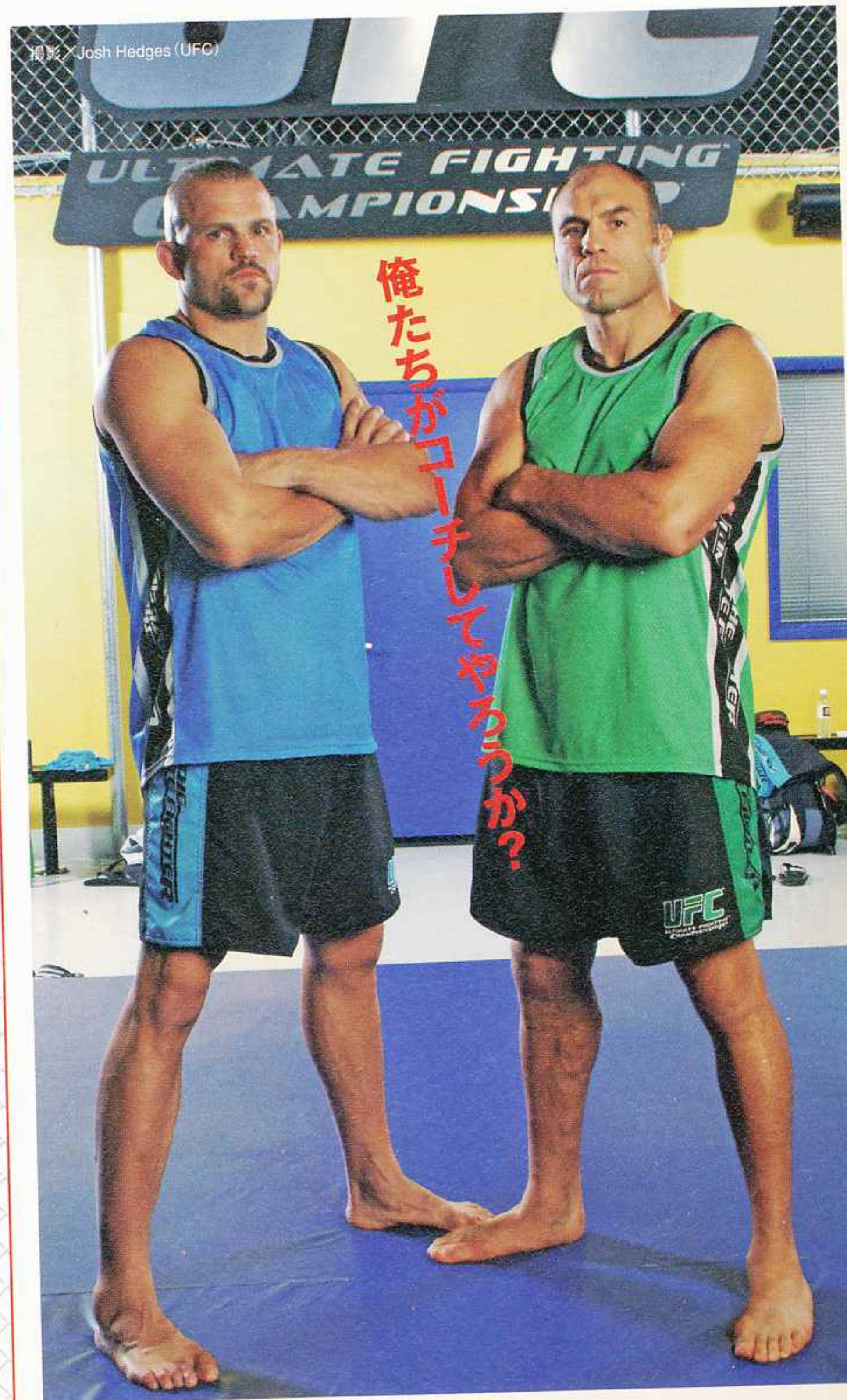
撮影／平工幸雄

ロレンゾが出資するPRIDE FC WORLD WIDEによって、今後は『PRIDE』が運営されていくことになるが、ダナとの関係は変わらないだろう。

日本でUFCを楽しむための7つの方法

いま、UFCが盛り上がっているのは周知の事実。世界中にMMAが広がりつつある中で、なぜ日本では視聴環境が整備されないのか!?　そんな状況から脱出するためには自分で動くしかない。ここではUFCを楽しむためのいくつかの方法を紹介しよう。Are you ready?

文／坂井ノブ

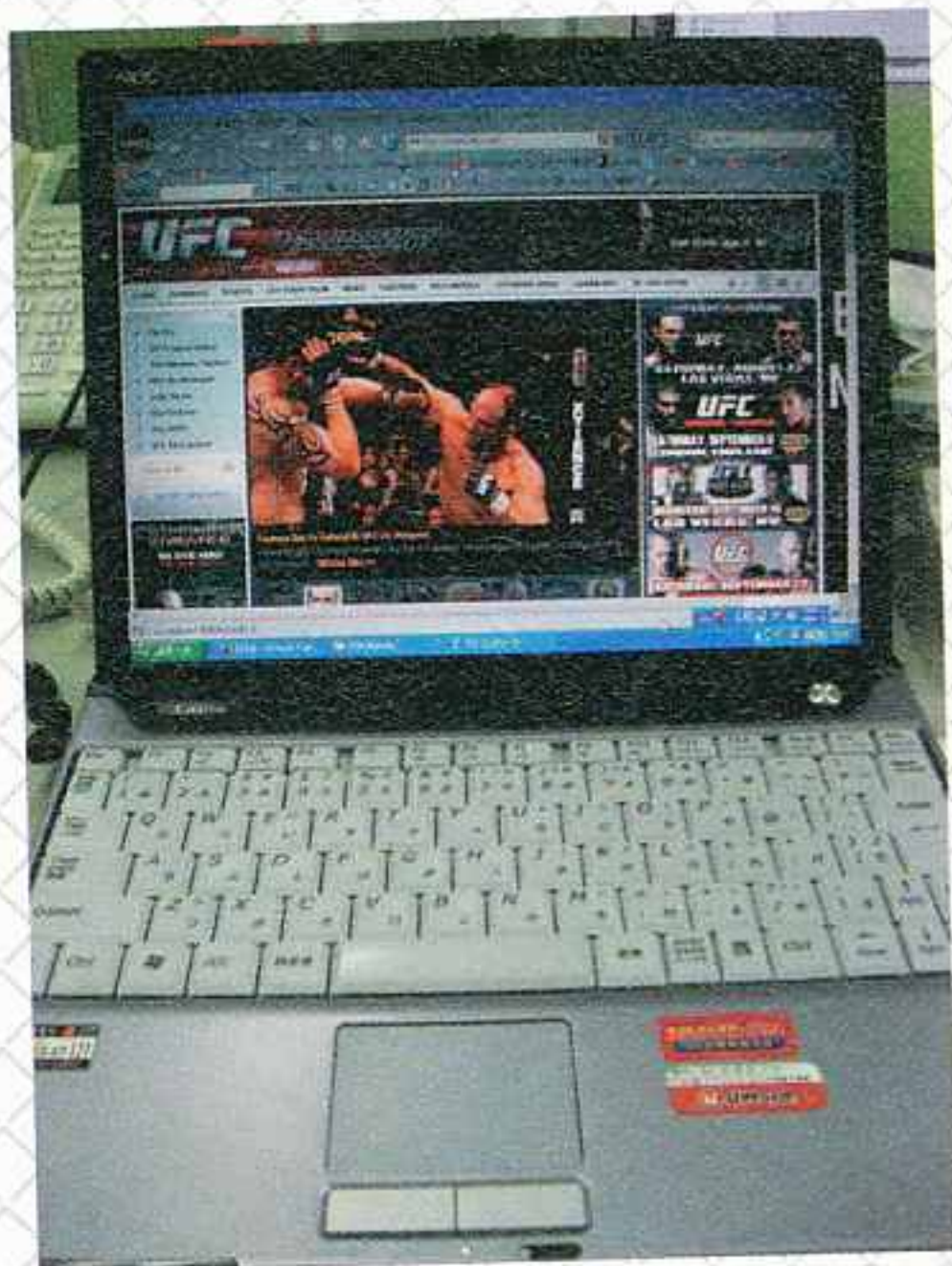
撮影／Josh Hedges（UFC）

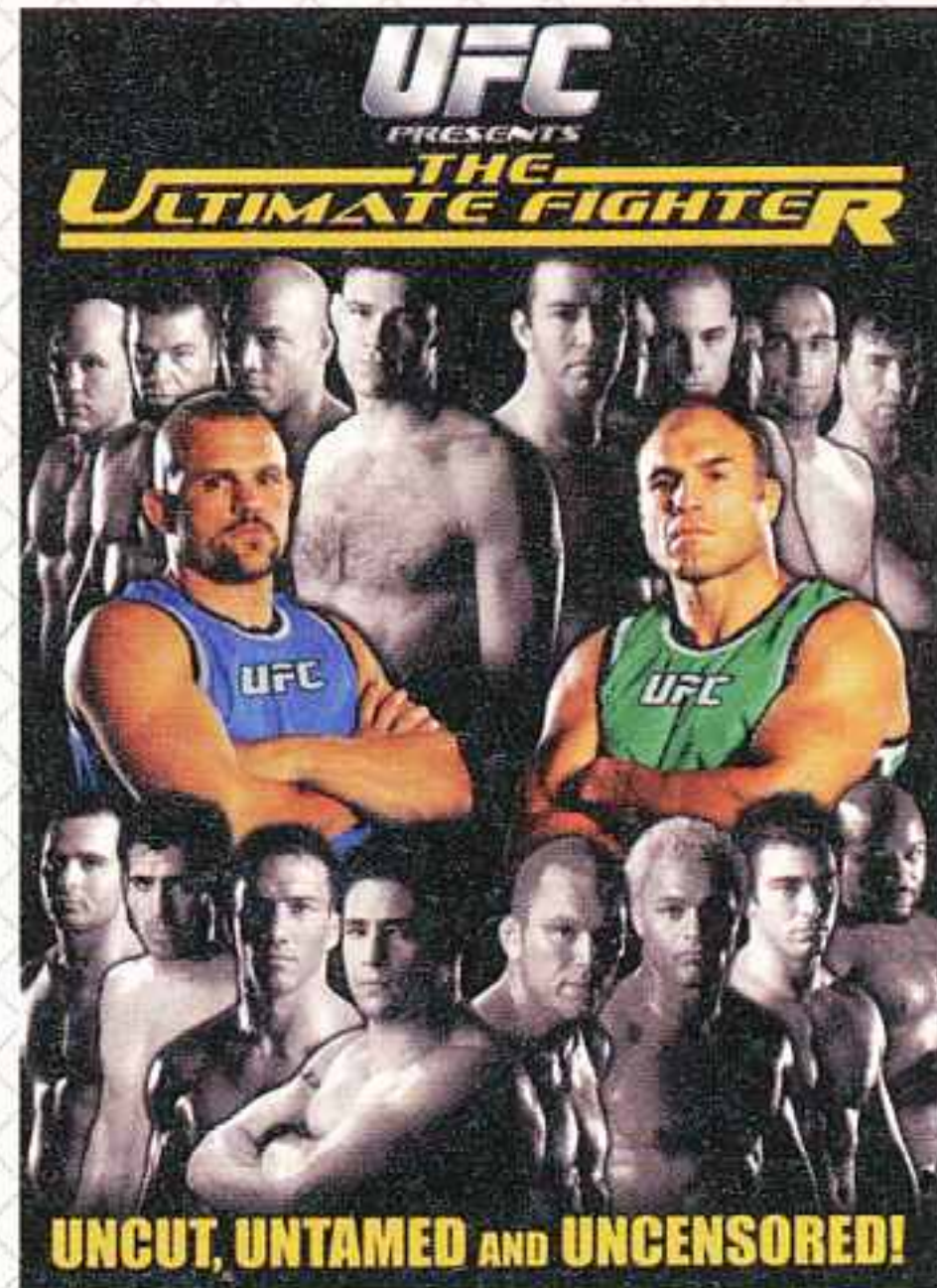
俺たちがコーチしてやろうか？

01 動画投稿サイト!?

UFC動画

検索

Web2.0時代を象徴するような動画投稿サイト「YouTube」などではアメリカでテレビ中継されている試合映像がアップされるものの、あっという間に視聴できなくなってしまう。なぜなら、これは著作権侵害にあたり、著作権者からの削除要請があった場合はすぐにアップロードされた映像を「YouTube」側が削除しているから。著作権的にはアウトでもそこにアップされていたら観てしまうのが格闘技ファンの悲しい性だ。しかし、以前は野放しぎみだった映像も、最近はすっかり削除されている模様。UFCなどはオフィシャルサイトで動画のダウンロードサービス（有料）も行なっている。試合映像はオフィシャルサイトで！　それが今後の流れになる。

02 UFCオフィシャルサイト

本誌前号でダナ・ホワイト社長も言ってたように試合の動画はここで観ろ！　というわけで、UFCオフィシャルサイトでは一試合1ドル99セントでのバラ売りから、PPV大会のオンデマンド放送まで幅広く扱っている（有料）。また試合前後の記者会見の映像、選手の個別インタビューなどは無料でも楽しめる。選手のデータベースや過去の試合結果なども充実しており、UFCのことはあらかたここで知ることができる。日本語のページはないので当然、英語力を鍛えるべし。対戦カードもここでいきなり発表されることが多いので、マメにチェックすることをオススメしたい。試合の煽り映像もバンバン流れているので眺めているだけで気分が高揚するぞ！

03 『TUF』を観よう!!

現在のUFCブームの基盤を作った『TUF』（THE ULTIMATE FIGHTER）のDVDボックスセットはamazonなどで購入が可能。リアリティショーとしてのおもしろさは当然あるとしても、現在UFCで大活躍しているジョシュ・コスチェック、ディエゴ・サンチェズ、マイク・スウィック、ステファン・ボナーがなぜ大人気なのか？　これを観れば一発で理解できるはずだ。シーズン1と2（9月発売）がDVD化されている。トレーニング仲間同士で友情が芽生えたり、かと思えば流血のケンカはあるし、仲間のモノを盗む泥棒野郎はいるし、泥酔して大騒ぎしたりと、まるで青春モノの群像劇のようなドラマが繰り広げられ、それらの因縁は試合によって消化されるのだ。

04 現地へ行こう!!

やはり格闘技観戦の醍醐味はLIVEにあり！　というわけで、日本の格闘技ファンにはUWF時代から脈々と受け継がれる“密航”をオススメしたい。とにかくアメリカ人の熱狂ぶりと、彼らが盛り上がる“ツボ”は現地で体験してみないことにはわかりづらいだろう。とにかく百聞は一見にしかずという言葉もあるように、何事も体験が大事！　ただ、後楽園ホール感覚でフラッと行くには無理がある。当日券を目当てで行くよりも、UFC.comからチケットマスター（アメリカの「チケットぴあ」みたいなもの）のサイトに飛べるのでそこからチケットを注文すべし！　また最近頻繁にUFCが開催されているイギリスもおおいに盛り上がっているようなので、こちらも注目だ！

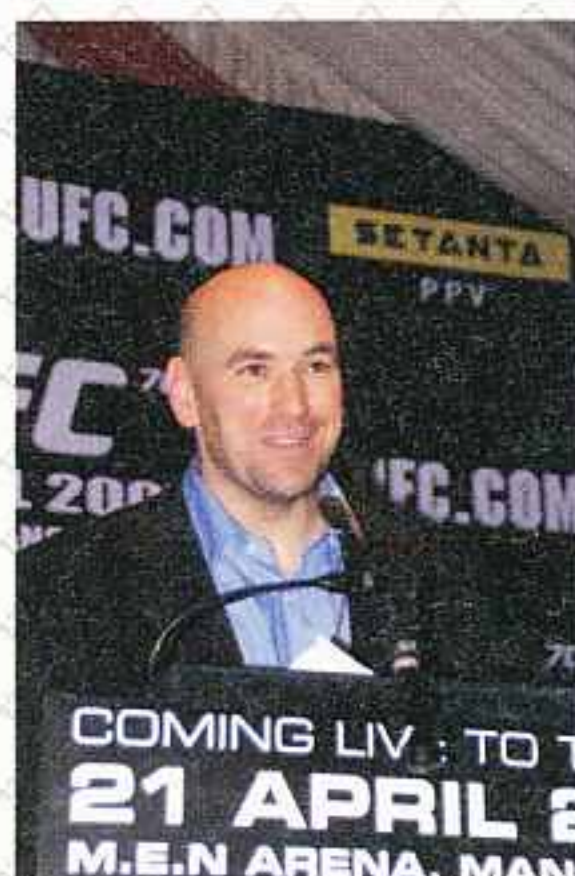
05 海外の雑誌をチェック!!

MMAのブームが世界的に広がりつつある中で、格闘技マスコミも各国で発達している。フランスとアメリカで発行している『FightSport』はUFCなどを中心に、凝った写真と充実した読み物で急速に成長している雑誌だ。ちなみに本誌と提携しておりインターナショナルな関係を築いている。編集部員には『PRIDE武士道』で羅王に勝利したベルトラン・アモーゾ氏もいる。ブラジルでは老舗の『TATAME』（タタミ）や『GRACIE MAGAZINE』などが充実しており、アメリカでは本誌でもおなじみのスコット・ピーターソンの『MMA WEEKLY』や『Sherdog』などネットメディアが発達しているようだ。格闘技ショップや洋書を扱ってる書店で探してみよう！

06 グッズを買おう!!

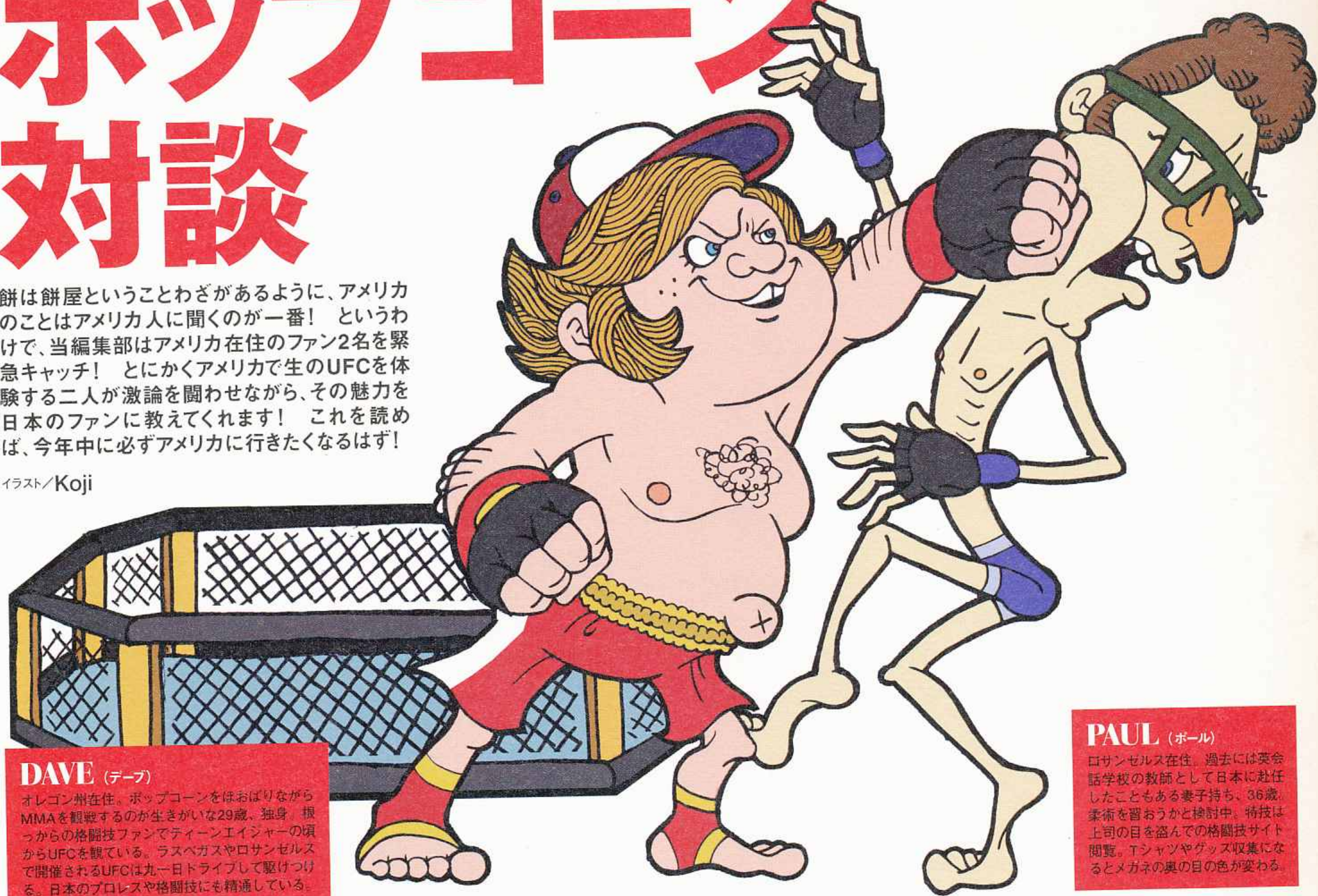
UFC.comはネット通販も実施している。Tシャツ、パーカー、キャップなどのアパレル関係はもちろん、DVDは大会の映像から『TUF』まで販売中。オープンフィンガー・グローブや過去大会のポスターも販売していて、これが非常にイカス！　さらにはサプリメントの販売もあるから、この充実ぶりはたいしたものだ！買いすぎに注意しよう。

07 手紙を書こう!!

というわけで、ここまでいろんな楽しみ方を書いてきたが「どれも無理！」「お金がないと楽しめないのか!?」とお嘆きの下々の諸君、手紙を書きたまえ！（高田総統調）。本誌前号でダナ・ホワイト社長が言っていたように、UFCと『PRIDE』が日本で放送されるようになるためには、日本のテレビ局に手紙を書くしかない！

アメリカ在住 デブとノッポのふたりが UFC生観戦の魅力をレクチャー

ポップコーン対談

餅は餅屋ということわざがあるように、アメリカのことはアメリカ人に聞くのが一番！ というわけで、当編集部はアメリカ在住のファン2名を緊急キャッチ！ とにかくアメリカで生のUFCを体験する二人が激論を闘わせながら、その魅力を日本のファンに教えてくれます！ これを読めば、今年中に必ずアメリカに行きたくなるはず！

イラスト／Koji

DAVE（デーブ）
オレゴン州在住。ポップコーンをほおばりながらMMAを観戦するのが生きがいな29歳、独身。根っからの格闘技ファンでティーンエイジャーの頃からUFCを観ている。ラスベガスやロサンゼルスで開催されるUFCは丸一日ドライブして駆けつける。日本のプロレスや格闘技にも精通している。

PAUL（ポール）
ロサンゼルス在住。過去には英会話学校の教師として日本に赴任したこともある妻子持ち、36歳。柔術を習おうかと検討中。特技は上司の目を盗んでの格闘技サイト閲覧。Tシャツやグッズ収集になるとメガネの奥の目の色が変わる。

観戦の作法 PART 1

とにかく目の前で起こっていることを楽しんで即リアクションすべし！

デーブ　おい、ポール！　今日は日本のファンどもに、ＵＦＣ観戦の魅力を解説しないといけないんだよ（ポップコーンをほおばりながら）。

ポール　なんでまた俺たちなの？

デーブ　聞いて驚くな。日本の格闘技文化も理解しているところが大きなポイントになったらしいぞ。とくに俺様が!!

ポール　はあ？　もの凄く中途半端な知識だろ、デーブの場合。なんだが心配だなあ……。

デーブ　とりあえず話を進めるけど、オイラは『ＵＦＣ２』（94年）を生観戦したのが自慢なんだ。

ポール　日本のカラテカが出た大会だな。

デーブ　そのカラテカはデンジャー・マツナガで、試合後にセコンドのコジカ社長と仲間割れの乱闘をしたんだっけ？

ポール　ホントに観戦したのかよ！　そのカラテカはミノキ・イチハラ（市原海樹）のこと。しかし、あの頃のＵＦＣは本当にヤバかったんだよ。出てくる選手は完全にテンパっているし、ルールは本当になんでもあり!!

デーブ　おまけに観客はビールをガバガバ飲んで酔っぱらっている。

ポール　うん！　街のケンカをみんなで楽しもうと会場はドンチャン騒ぎさ!!

デーブ　そんな感じならドラッグも簡単に手に入る？

ポール　入らないよ。

デーブ　ああ、昔は手に入らなかった？

ポール　いまも昔も！

デーブ　だって、ニック・ディアスはキメながら闘っていたじゃん。それをかぎつけた〝芸能界最強の男〟がオクタゴンにコンタクトを図ったという未確認情報を聞いたよ。

ポール　ディアスは『ＰＲＩＤＥ』ラスベガス大会のときだろ。しかも数日前にマリファナを吸って陽性反応が出たんだよ。とにかく、ＵＦＣの会場はパーティ感覚なんだ。だからお客さんは目の前で起こっていることを楽しめばいいんだよ。グッドガイは応援して、バッドガイにはブーイング！

デーブ　そしてちょっとでも試合が膠着すると、ＤＪが「こんな試合はブーだぁ～！」と煽る、煽る。

ポール　それは『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!! ＵＳＡ』のＤＪだよ！　さすがのＵＦＣもそこまでは煽らない。おもしろい試合には拍手を惜しまないけどね。こないだＵＦＣに初参戦したアントニオ・ホドリゴ・ノゲイラだっていい試合をしたことで知名度は上がった。

デーブ　いや、寝技は凄いのかもしれないけど、まだまだキャラが浸透したとは言い難いなあ。

ポール　確かにね。『ＴＵＦ』のコーチでもやってくれりゃいいんだけどな。チャック・リデルやマット・ヒューズを見ろ！　個性が何一つ

観戦の作法 PART 2
会場に着いたら、まず大急ぎで売店へ かっこいいTシャツはすぐに売り切れるぞ！

なかったヤツらが、『TUF』のコーチ役として露出することで一躍、人気者になった。

デーブ そうだ、そうだ！ 要するに、もっとキャラをプロモートして、弟のホジェリオと区別をつけるべきだって！

ポール そんな次元かよ！ でも、ロレンゾ・フェティータが『PRIDE』を買収したことで、同一資本のUFCで『PRIDE』の試合映像が使えるようになった。だから、ノゲイラの芸術的なムーブや、ランペイジのバイオレンスなアクションがバンバン流れているんだよ。そのかいもあって、比較的ライトなMMAファンのあいだで「このクールなプロモーションは何？」って話題になっている。

デーブ それを聞いた某テレビ局の関係者が「ウチのPRIDE vs K−1がまったく盛り上がらなかったのは『PRIDE』の映像がなかったせい」と、反省しきりとの噂だよ。

ポール それ以前の問題だろ！

デーブ そして、『PRIDE』側は不二家問題にならって、放送倫理・番組向上機構の放送倫理検証委員会に「あの『PRIDE』はねつ造！」と問題提起したとの怪情報も。

ポール さっきから何をわけのわからんことを言ってるんだよ！ いまはアメリカの話をしているの!!

デーブ いや、いまやUFCはアメリカだけのものじゃないよ。イギリスでもUFCは人気爆発中。ロンドンにオフィスも構えたし、カードもマネーも大胆な先行投資をしている。

ポール 今度のUFCロンドン大会も、ミルコ・クロコップの復帰戦にダンヘンvsランペイジ。本来ならば『PRIDE』系の日本人選手が数人、参戦予定だったという話だね。

デーブ それを耳にしたミスター・サカキバラ（榊原信行）が「『PRIDE』ロンドン大会みたいなもん！」と、いつかのアキラ・マエダ（前田日明）調で憎まれ口を叩いたとか、叩かないとか。

ポール うるさいよ（笑）。ロンドン大会は比較的新顔が集まっていて、いまいちアメリカのファンにはなじみが薄い。でも、今後の展開を考えると決して見逃せない。しかし、このままイギリスにMMAが浸透したら、UFCにフーリガンとか出てくるかもしれないよ。

デーブ それは怖いなあ〜！ そうなったら、モチの奪い合いでケンカになって救急車が出動したりさ。

ポール それは『猪木祭り』で起こったトラブルだろ！ でも、まだまだイギリスのファンには負けられないぜ。UFCは俺たちみてえな労働者階級が、週末にラスベガスでおもいっきりストレス発散するためのスポーツなんだぜ！

デーブ 同感だ！ 俺たち労働者階級が応援するからこそ、カツジ・ウエダ（上田勝司）も頑張れる。殺しのヒジが炸裂だって！

ポール 選手が肉体労働者なわけがないだろ！ UFC開催となると、デーブみたいなヤツがラスベガスにいっぱい出現するもんな。最近は会場にレディも来るようになってるけど。一時期のプロレスやボクシングの会場にいたようなアリーナ・ラットちゃんが増えてきたんじゃないかな。

デーブ ああ、世界バレーのイメージガールのセイコ・マツダ（松田聖子）みたいなもんか。

ポール セイコはアリーナ・ラットじゃない!! でも、そんなアリーナ・ラットちゃんよりも、会場に着いたらまず売店に直行だ。急がないと大会記念Tシャツが売り切れちまうだろ。意外とプレミアがつくからな、Tシャツは。

デーブ その意見には納得。新発売したとたんに、フェードアウトしたニューリン様のTシャツみたいな件もあるし。

ポール それは『kami-pro』がマヌケなだけだよ!! そもそもプレミアはついてないだろ（笑）。まあ、ほとんどの客は試合が始まってからダラダラ集まってくるけどね。おかげで俺がいいTシャツをゲットできるんだけどな！

観戦の作法 PART 3
PPVはなるべく大勢で割り勘して パーティ気分で好き勝手に楽しめ！

デーブ 会場に行けないときは通販でゲット！ 試合はPPV観戦!!

ポール 日本のファンに言わせると、アメリカのPPVってけっこう高いみたいだな。日本だと相場は3000円ぐらい。アメリカはだいたい40〜50ドルかな。

デーブ でも、PPVがある日はみんなでビールとかピザとかを持ち寄って10人ぐらいで集まって、ホームパーティにしちまうんだよ。

ポール そうすれば安上がり!! 大人数なら盛り上がり方もいろいろあるし。集まった仲間同士でちょっとしたギャンブルに興じてみる手もある。

デーブ それを聞いたどこかのスーパーバイザーが「あのね、Uはスポーツ賭博をやってるんだよね」とか言いだして……。

デーブ いい加減にしろ!!

【07年8月某日／Skypeの会議通話で収録】

今後のUFC大会スケジュール

8月25日
『UFC74 RESPECT』
米国ネバダ州ラスベガス／マンダレイベイ・イベントセンター
【ヘビー級選手権試合】
（王者）ランディ・クートゥアーvsガブリエル・ゴンザガ（挑戦者）
【ウェルター級】
ジョルジュ・サンピエールvsジョシュ・コスチェック

★

9月8日
『UFC75 CHAMPION vs CHAMPION』
英国ロンドン／O2アリーナ
【ライトヘビー級選手権試合】
（王者）クイントン・"ランペイジ"・ジャクソンvsダン・ヘンダーソン（挑戦者）

★

9月19日
『UFC Fight Night』
米国ネバダ州ラスベガス／ザ・パール
ケニー・フローリアンvsディン・トーマス

★

9月22日
『UFC76 KNOCKOUT』
米国カリフォルニア州アナハイム／ホンダセンター
チャック・リデルvsキース・ジャーディン
マウリシオ・"ショーグン"・ルアvsフォレスト・グリフィン
中村和裕vsLYOTO
ジョン・フィッチvsディエゴ・サンチェズ
小見川道大vsマット・ウィマン

詳細はwww.ufc.com/へアクセス！

American Bushido!?

UFCだけじゃない!!　ズッファ傘下のこの団体も要チェック!!

UFCと『PRIDE』の異母兄弟 WECは中軽量級の世界標準だ!

World Extreme Cagefighting

聞き手／堀江ガンツ　撮影／Josh Hedges（UFC）

真っ青なマットとケージポストがじつにクールなこのMMA団体は、日本の総合格闘技ファンにはなじみが薄いと思われるが、いまアメリカで急成長を遂げているWECというプロモーションだ。

そもそもWECは01年に旗揚げしているのだが、昨年12月にUFCを運営するズッファが買収。WFAなど過去にはほかにもズッファに買収された団体はあったが、UFCに吸収されるかたちで団体は崩壊している。しかし、WECは違う。買収後もUFCから独立した形態で運営されているのだ。全米7200万世帯で視聴可能なヴァーサスTVと契約しており（つまりUFCとは別の放送局）、WECの広報担当者は「UFCとは対等な関係ですが、我々は世界一を目指しているブランドなんです!」と鼻息も荒く、対抗意識も強い。

UFCの最も軽い階級はライト級（65～70キロ）だが、最も人気があるのはヘビー級であるという事実は動かしがたい。だが、WECで最も人気があるのは軽量級、とくにフェザー級（61～65キロ）で無敵の9連勝を続ける王者ユライア・フェイバーは絶大な人気を誇っている。ちなみにアメリカのナンバーワン・ラジオDJであるハワード・スターンの番組に出演したことも。この番組には過去にストーンコールドなども出演しており、つまりユライアの知名度はWWEスーパースター並みということか!?

そんな彼にまずWECのことを説明してもらった。

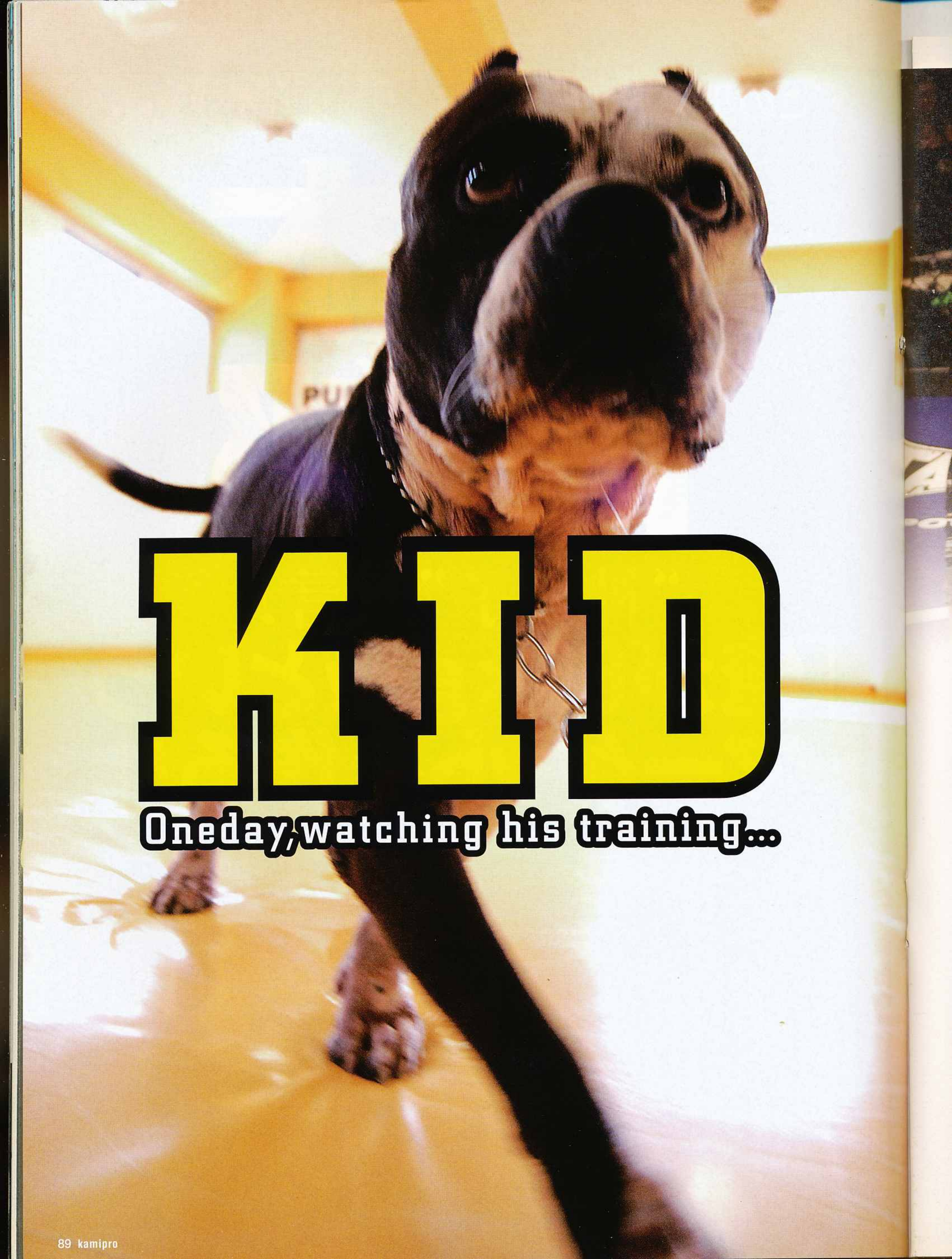
アメリカの〝KID〟、ユライア・フェイバーに聞く WECがUFCを凌駕しているいくつかのこと

「WECには145ポンド（約65キロ）から205ポンド(約93キロ)まで階級があるけど、中軽量級にスポットライトが当てられているんだよ。たとえば、83キロ級で世界で実力ナンバーワンと言われているパウロ・フィリオも参戦しているんだぜ。ジエンス・パルヴァーもフェザー級に落としてくるらしいね。つまり世界最高レベルの軽量級選手がまた一人、WECに参戦してくるってことさ。ただ軽いだけじゃなくて、強いブランドになるつつあるってこと。実際、WECの放映は注目を浴びているし、観衆の反応もいいよ」

UFCや『PRIDE武士道』ライト級にも参戦していたパルヴァーは、本来であればもう一つ下の階級でこそ実力を発揮する選手だった。WECは彼にとっては最適の戦場になるだろう。しかし、軽いからといってナメられる状況にユライアは我慢ならないようだ。

「ボクは決して〝UFCの下にある団体のチャンピオン〟じゃないんだ。このスポーツをさらに高めていく、本当のナンバーワン・ファイターで、そして、この階級を背負っていこうと考えているんだ。つまり、WECの145ポンドの王者になることは、世界一になるということなんだよ」

ここまで言うだけあって、軽量級の選手層が厚い日本も視野に入っている。

「日本人で闘いたいと思ったのは、ヒオキ（日沖発）、ゲンキ・スドー（須藤元気）、ルミナ・サトー（佐藤ルミナ）だね」

なんというか、非常にコアなチョイスだなという印象をほとんどの読者の方が持っただろう。だが、ユライアの本命はもう一人いる。

「なんといってもKIDヤマモト（山本KID徳郁）とはホントに闘ってみたいね。KIDはこの世界でナンバーワンだと思うから。彼と闘ったらいい試合になると思うんだ」

ユライア自身も「カリフォルニアキッド」というニックネームを持っており、軽量級世界一の座とKIDの名を懸けた闘いが実現したらおもしろそうだ。

「とにかく、ボクを倒さない限りこの階級での世界一はないよ。世界一になりたければ、ボクを倒しにWECに来いってことだ（笑）」

残念ながら現在、日本ではWECはテレビでも観ることができないが、この男とWECの動向には注目しておいて損はないだろう。

URIJAH FABER■1979年5月14日、米国カリフォルニア州出身。アマチュアレスリングでは全米大学選手権で準優勝するほどの実力を誇り、23歳からMMAに取り組む。KOTCなどの大会に出場していたが、06年3月からWECに参戦。現在WECフェザー級王者として君臨している。168cm、66kg。

KID

Oneday,watching his training...

約2年ぶりの本誌登場！
この男の動向が、マット界の流れを決める！

山本"KID"徳郁

"神の子"断言！
「俺が65kg級という マーケットを作る！」

あの"神の子"が帰ってきた！ 06年にプロ活動を休止、北京オリンピックを目指していたKIDがついにMMAシーンに帰還する！ そこで本誌では約2年ぶりにインタビュー敢行！ その目が見据えるのはアメリカか、日本か？ マット界屈指のキーパーソンであり、格闘マーケットを開拓してきた男が考える"次の仕事"とは？

聞き手／堀江ガンツ　撮影／菊池茂夫

KID　『kami-pro』って、ひさしぶりだよね？

――はい。じつは約2年ぶりのご登場なんですよ。前回はホイラー（・グレイシー）に勝ったとき（05年9月7日の『HERO'S 2005 ミドル級世界最強王者決定トーナメント準決勝』）以来ですから。

KID　あ、そんなに？ ほっとかないで、もうちょっと取材頼みますよ（笑）。

――いやいや、ボクらはずっと出てほしいと思ってたんですけど、なかなかタイミングが合わなくて（笑）。しかし最近の露出ぶりは取材ラッシュ！ って感じですね。

KID　そうですね。なんだか知んないけど、いきなり（増えてますね）。

――総合復帰に向けて、動き始めてます？

KID　まだ、なんも決めてないですよ（笑）。いまはケガをした右腕と身体を元に戻してる段階。まだ70パーセントだから、100パーセントにしたいなって。

――70パーセントでも、かなりガンガン練習しているらしいですね。

KID　全然、やってる！ 自分の中で状態が納得いってないだけだから。いまの右腕でも（パンチが）当たれば倒せるし。

――じゃあ100パーセントになったら、誰が来ても問題ない、という自信がある？

KID　そうですね。でも100パーセントまで戻るかはわかんないね。あんなふうに腕をやられちゃって（1月28日、東京・駒沢体育館の天皇杯全日本レスリング選手権大会。アテネ五輪銅メダリストの井上謙二の"一本背負い"で右腕が危険な角度で曲がり、右ヒジを後方亜脱臼の負傷）。廃車みたいになっちゃって（笑）。

――プレス機でグニャっとされるみたいに（笑）。でも、あれは"プロの負け方"って

もしアメリカに行ったら
……ヤバイことになる

KID

Oneday, watching his training…

いうか、"銭が取れる負け方"ですよ。

KID　負けるんでも派手に負けないと（笑）。まぁ、いい経験になったから。

——ところで、今号ではKIDさんの後輩（KILLER BEE）の福田力さんにも取材させてもらってるんです。

KID　あ〜、アイツは……、ヤバイ。アイツはバケますよ！　絶対に。

——なんといっても山本KIDと長州力を師匠に持つ男ですからね。

KID　あ、そうですね（笑）。

——その福田選手が佐藤光留選手と闘った7月27日のパンクラス後楽園大会では、聞くところによると、試合前に「殺してこい！」と指令を下したとか（笑）。

KID　そう。「半殺しにしてこい！」って（笑）。相手がナメてたんで。

——相手はメイド服で入場ですから（笑）。

KID　ねぇ？　あれ見たら「ナメてんのか？」って。だから「トドメ刺せ！」って。あんなの相手にリスペクトがないもん！

——もしも、KIDさんの相手があんな感じだったら……。

KID　もっとエライことになってる。マジメにやれって身体でわからせないと。プロレスじゃないし、ショーじゃないんだから。一生懸命、気合いを入れてきたのにあんなカッコしてさぁ（とあきれて）。

——格闘技の世界のエンターテインメントって、"闘い自体がエンターテインメントに昇華する"ってことですもんね。

KID　そう。そのほうがいいですよ。ああいう選手には、「お仕置きよ！」と（笑）。

——最近は、「試合以外で目立とう」って選手も増えてますね。

KID　目立って試合に出ようなんて甘いですよ。闘いそのもので魅了しないと。

——最近は、UFCや『HERO'S』などの会場にも足を運んでるみたいですけど、他人の試合を観ると、そろそろ闘いたいって欲求が出てきてるんじゃないですか？

KID　いつでもやりますよ。ただやる以上、納得した身体でやりたいっていうだけ。

——プロの華やかな舞台からは昨年の大晦日以降、しばらく遠ざかってますけども。

KID　ま、べつにいいんじゃない？　今年はレスリングの舞台にも上がれたし。それで大ケガもしちゃったけど（笑）。これもいい経験ですよ。

——アマの世界の緊張感や練習も糧になっている、と。でもKIDさんがいないプロの世界はたまったもんじゃないというか（笑）。大きな損失だったと思うんです。

KID　そう言ってもらえるとありがたいですね。

——『HERO'S』なんて、ホンットに困ってると思いますよ（笑）。7月からミドル級トーナメントも始まって、いいメンバーは揃ってるけど「誰が主役なんだろう？」っていう本質的な部分で何かもの足りない感じもある。魔娑斗選手のいないK-1 MAXを観ているみたいというか。

KID　ああ、それはあまり観る気がしないね（笑）。じゃあ早く試合出なきゃダメかな。俺がやられるところを観たいヤツも、俺が勝つところを観たいヤツもいるだろうけど、いい意味でも悪い意味でも、俺の試合はみんな観たいと思ってくれてると信じてるから。

——プロは波風立ててナンボですもんね。大相撲の横綱・朝青龍なんかも、存在が飛び抜けてるからこそ、ファンもアンチもたくさんいるし。

KID　でも、いまの朝青龍の状況はかわいそうだよね。

——二場所出場停止処分中ですよね。

KID　ちょっとぐらい休ませてやれよって。ず〜っと勝ってて、優勝も何回もして、相撲を支えてた凄い人じゃないですか。

——ちょっとサッカーやったくらいで（笑）。

KID　ま、ケガしてるって言ってたのに、やっちゃったのはマズいけど（笑）。

——KIDさんもアマチュア時代から競技の世界で生きてきた人ですから、朝青龍みたいに何年間もトップで居続けるツラさってわかるんじゃないですか？

KID　そうですね。ただ俺なんか個人だから、「出たかったら出る。出たくなかったら出ない」ってある程度は自由でしょ。俺、朝青龍以外は、相撲のことなんか知らないもん。ニュースで相撲やってても朝青龍の相撲しか観ない。だから、ちょっとぐらい優しくしてあげてもいいかな、と。あの人はへこたれないだろうけど。いいですよ、あのくらいブスッとしたデカイ態度だって。つえぇんだから。

——ただ、相撲は毎場所あるわけですから大変ですよね。KIDさんも「毎年、トーナメントに出てください」って言われたらイヤだったりしないですか？

KID　っていうかトーナメント自体が俺はイヤなんで（笑）。試合はやっぱり一発勝負でしょ？　一日一回でいいよ。ボクシングなんかそんなのないでしょ？　総合やキックボクシングでトーナメントの試合をやってるヤツはすげぇハードだし身体張ってる。

——トーナメントに出る選手はリスペクトしてる、と。そういう面では、いまアメリカは空前のMMAブームで、ファイトマネーもガンガン上がってますけど。

KID　そう。あっちは夢が大きそう。

——日本には夢がない？

KID　だって格闘家のイメージって、"頑張っている選手＝ストイック"って感じでしょ。「ちょっと貧乏だったり、つつましい姿勢がいい」っていう古いオッサン的な考え方があるじゃないですか。

——「お金なんか関係ない、練習にだけ打ち込んでます」という美徳的な価値観ですね。

KID　そんなんじゃダメですよ！　頑張ったぶんだけお金は上げてやんないと。周りの若いヤツもちゃんと見返りがあるのを見たら、「すげぇ！」ってなるし、興行にもプラスになるのに。それが俺たちプロの"評価"なんだからしょうがないよ。

——確かにそうですね。

KID　「スポーツマンのくせに金、金なんて言うな！」なんて言うヤツもいるし、前にそういうことを言ってた政治家もいたけど、バカじゃねえのって？

——ダハハハ！　何がわかるんだと。

KID　おまえなんか親にも殴られたことねぇだろ？　って。偉そうなこと言ってるのを聞いて俺はムカつきましたね。こっち

アメリカは夢が大きそう。日本もそうならないと

KID

Oneday, watching his training...

KID

Oneday, watching his training…

見てみぃ！ このヒザ蹴り！ 06年5月3日『HERO'S 2006』（国立代々木競技場第一体育館）で宮田和幸をわずか4秒KO！ 半年以上にわたるKID不在の日本格闘技界の損失ぶりが一瞬で浮かび上がる強烈すぎる一枚だ。

は身体張ってるし、みんなの夢をね、背負ってるんだから。

——日本の格闘技界は、『PRIDE』が活動休止になり、さらに夢がなくなりかけてますが、こういう状況はどう見てます？

KID やっぱり、主催者や興行をやってる人たちが自分のことしか考えてないんじゃないか？ とは思いますね。頭がよくて、なおかつ痛みを知った人間が上に立ってもらわないと。選手たちはずーっと格闘技だけで生きてきた人間だから、政治的なことや難しいことはわからないじゃない？

——契約問題やマネージメントだったり。

KID 選手は、状況によっていいように扱われちゃったりすることもあるから。

——闘える環境が整わないと、選手としてはやりようがないってことですよね。

KID 未来がない。ただ、俺は日本にいい環境になってほしいけど。

——こういう状況下で、五味（隆典）選手は「いまこそ日本格闘技界を盛り上げなくちゃいけない」と言ってます。もう一つの選択肢として、一番盛り上がってるアメリカに行って盛り上げるという考えもあります。KIDさんはどういう考えですか？

KID 俺は、二つやっちゃえばいい！ って思う。

——ダハハハ！ 欲張りですねぇ。

KID こっちでも試合をやって、日本代表っていうプライドを持って、あっちでつえぇヤツやっつけて戻ってくる。でも実際は難しいよね……。契約があるから。

——サッカーだと、ヨーロッパなんかでプロとして活躍中の選手も国際大会があるときは、日本代表として戻ってこられますね。

KID それは凄いいいシステムだよね。

——野球なら、いまのイチローが日本に帰ってきたらメチャクチャ盛り上がりますよね。

KID 大変なことになるでしょ。俺も野球はあんまり知らないけど、イチローが帰ってきたら観に行くと思うし（笑）。

——やはり飛び抜けた個性と技術とハートを持っている存在に惹かれますか？

KID そこは一緒！ スポーツだろうが音楽だろうが。雑誌を作ってる人でもそうだし。おもろい雑誌を見たって凄い惹かれるじゃないですか？ しかも雑誌って同じジャンルの中に何冊もあるから、個性を出すには雑誌もイチかバチかで勝負しないと。俺もずっとそうだったしね。

——KIDさんもK―1のデビュー戦の闘い方から、賛否両論でしたよね。

KID そんくらいがいいんですよ（笑）。そういうほうが「愛されてるな」って。

——もしアメリカに行っても、そういう"渦"を起こす自信はあります？

KID 全然ありますよ。全然ある！ アメリカ人もちょっと感覚が違うだけで、心やシビレる部分は一緒でしょ？ 俺らもマイク・タイソンを好きだったわけだから。

——アメリカでMMAはもの凄く盛り上がってますが、ヘビー級に比べると、軽量級はまだマイナーな部分もありますね。

KID そうですね。でも、これから目が肥えてきて、盛り上がってくるんじゃないですか。やっぱり、いまは日本人のほうが格闘技に関しては目が肥えてるでしょ？ だから、日本では技もスピードも速い軽量級が盛り上がってる。アメリカ人も目が肥えてきたら、いいものがほしくなる。だから、俺がもしアメリカに行ったらたぶん……、ヤバいことになる。

——ヤバいことになりますか（笑）。KIDさんの存在がアメリカの軽量級のビッグバ

俺が稼ぐことで、レートをどんどん引き上げたい！

ン！　になるかもしれない、と。

KID　あっちの軽量級のヤツらのためにも俺が行ったらおもしろいと思うね。

——凄いなぁ。ＫＩＤさんって、Ｋ—１ＭＡＸに出る前の修斗時代から「自分がああいう大会に出たら、大変なことになる」って豪語されてましたね

KID　あ、それは思ってた。初期の『ＰＲＩＤＥ』なんかわけわかんないようなヤツが多かったし（笑）。

——ダハハハ！

KID　それ観て俺は「絶対に俺はコイツらよりイケてる」って思ってたもん。「なんも練習やってねーだろ！」っていうようなヤツも出てたし。死にもの狂いで練習やってるヤツが出れないで、わけわかんないようなヤツらが出て、あんなたくさんの客に観られてたから、「ふざけんな！」って気持ちもあったよね。

——山本ＫＩＤをスカウトしなかったのは『ＰＲＩＤＥ』の落ち度でしたねぇ……。

KID　そうだね（笑）。やっぱ真剣勝負の世界は、モノホンだけが生き残るから。

——じゃあ、いまはどのリングだろうが、自分の革命が起こせるような舞台を用意してくれるところに上がって、格闘技界を盛り上げていきたいって気持ちですか？

KID　そうですね。やっぱり一生懸命生きているヤツらがキチンと潤わないと。

——ＫＩＤさん自身も「自分はもっと稼げる存在になれる」と思ってます？

KID　それはもちろん！　俺は金の部分では困ってないけど、周りのヤツや自分の下についてきてるヤツとか、ほかの団体で頑張ってる選手に還元したいし、俺が稼ぐことでレートをドンドン引き上げたい！　殴ったり蹴ったりしてるけど、憎しみ合いじゃない。〝いい暴力〟なんだから。

——総合格闘技はいい暴力！

KID　ケンカや殺し合いや事件じゃない。試合を観れば気分がスカッ！　とするし、泣くヤツだっている。ニュースの殺人事件を見て、感動して泣くヤツいないっしょ？

——ええ、まずいないですね（笑）。

KID　試合を観て鳥肌立ってるヤツもいるだろうし。「明日頑張ろう」って気持ちになるヤツもいるだろうし。そういう声も聞いてるしね。そしたら俺も「頑張ろう」ってなるじゃない。

——いや〜、ＫＩＤさんは相当にヤル気になってますね。

KID　ヤル気っていうか、冷静に物事を見始めた。もう30歳だし。30歳のパパだし（笑）。俺のガキはまだ小さいけど。そいつらが大きくなって、こっち（格闘技）しかできなくて、上がれる舞台がなかったらダメだし。そういうためにも環境を整えたい。っていうか俺のガキが試合をやりだしたら……俺の数倍、ヤバイ。

——ＫＩＤさんの数倍！　格闘技の英才教育が始まってるんですか？

KID　いや、俺はなんも教えてないけど、ずーっと俺のビデオ観てるから勝手にやってる（笑）。とくに2番目の2歳の子のロシアンフックはすーごいよ！

——2歳ですでにロシアンフック！（笑）。

KID（身振り手振りを入れながら）ドバーン！　と俺に的確に当ててくる（笑）。

——将来が楽しみですねぇ。あと谷川（貞治、ＦＥＧ代表）さんから『ＨＥＲＯ'Ｓ』へのオファーもあるんじゃないですか？

KID　そうですね。話は来ているみたいだけど、一応俺はいつでも出れる状態に身体をキープして。2週間くらい前にさえオファーしてくれれば大丈夫だから。

——こいつと闘いたい、という相手は？

KID　べつにない。でも、階級は自分に合った階級がいいですね。だって70キロ級は俺が充分盛り上げたじゃないですか。頑張って身体張って！

——ダハハハ！　ホントにそうですよね。

KID　だから今度は自分の適正体重に合った階級を盛り上げたいし、下の階級も稼げるようにしてあげたいね。70キロ級はテレビにも出てるじゃない？　俺としては「あとは、頑張って」って感じ？

——次に行かないといけない（笑）。

KID「次は……65キロ級だな？」って。

——となると、復帰は大晦日あたり？。

KID　そうですね。大晦日あたりに出れたらいいですね。

——でもＫＩＤさんに見合う相手は、それなりの選手じゃないといけないから難しいですね。Ｋ—１のことだから、「ブアカーオ（ポー・プラムック）とＫ—１ルールでやってくれ！」とか言いそうですけど（笑）。

KID　いやデカすぎるから（笑）。俺は普段、62キロくらいしかないですもん。

——あのへんの人は、普段から80キロくらいありますから（笑）。

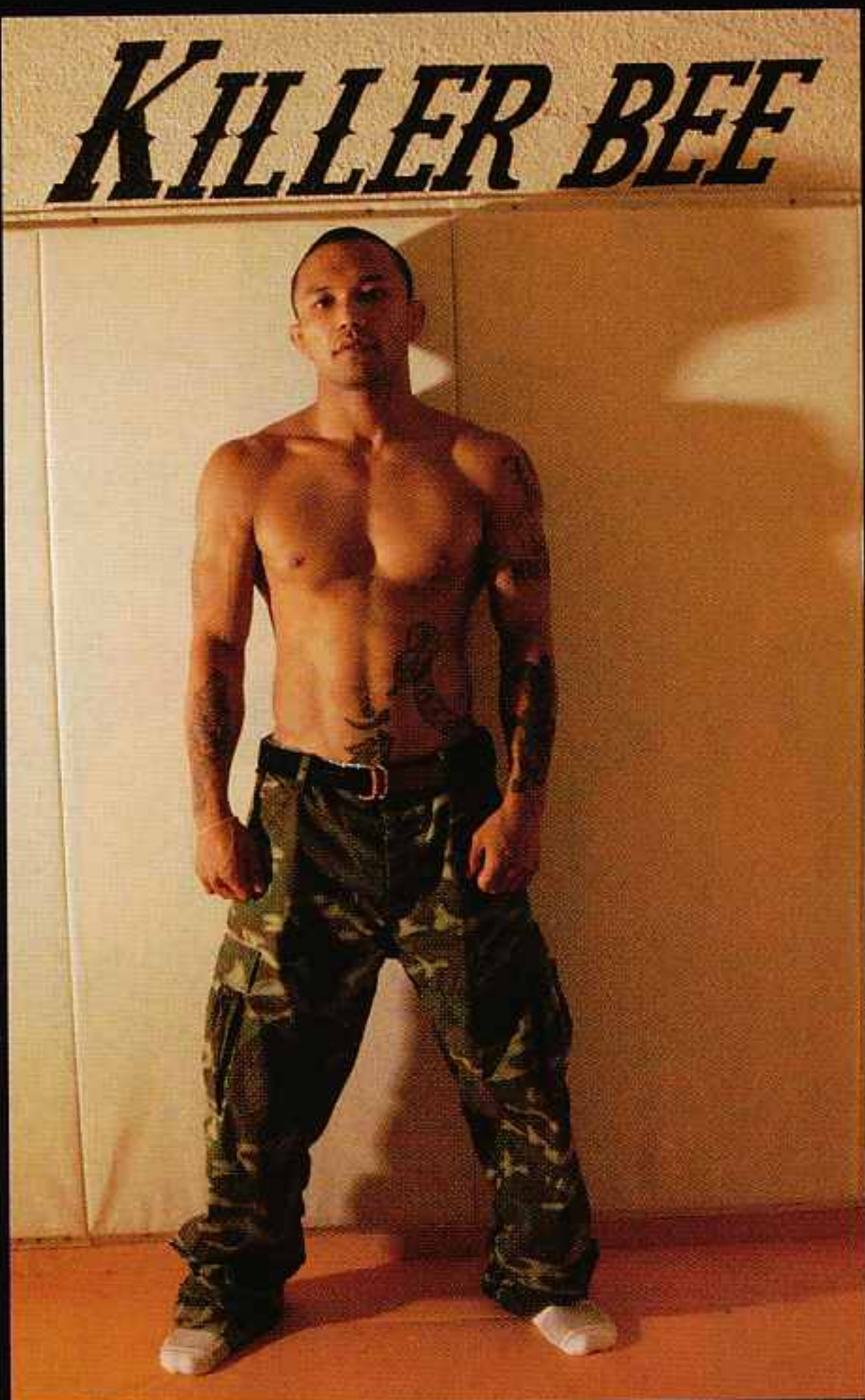
KID　それを考えると「いままでの試合はムチャやったなぁ〜」って思いますよ。

——じゃあ、今後は適正体重で新しい階級を盛り上げていく、と。ＫＩＤさんはまさにジャンルを創っていく男、マーケットを創っていく男っていう感じですね。

KID　そうですね。これからも身体を張って、俺は新しいマーケットを創りますよ。……そういうほうが雑誌的にもいいんじゃない？　新しい話題ができて（笑）。

——いやぁ、ホントにそうですよ（笑）。

KID　俺は雑誌とかももっと売れるように頑張りますよ。この世界にいる人間で頑張ってるヤツ、みんなが稼げるようにね！

【07年8月9日／都内・『ＫＩＬＬＥＲ ＢＥＥ』ジムにて収録】

やまもと・きっど・のりふみ■1977年3月15日、神奈川県川崎市出身。KILLER BEE所属。父はミュンヘンオリンピック・レスリング代表の山本郁榮。アマレスで活躍後、修斗で総合デビュー。04年のK-1 MAX出場でスターダムへ。05年にはHERO'Sミドル級王者に就く。06年より、北京オリンピックを目指すも天皇杯2回戦で井上謙二に敗戦、右ヒジ後方亜脱臼の負傷を負う。163cm、65kg

kamipro SHOPPING

マサ斎藤Tシャツいよいよ発売開始!!
いますぐゴー・フォー・ショッピング!!

冷たいカルピスと熱い解説に酔いしれたあの夏を思い出せ!

マサ斎藤Tシャツ
[M・L・XL ブラック] ¥3,150(税込)
※デザインは変更になる可能性があります

『kamipro』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。

★全国どこでも送料一律500円です。(何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せください)

★代引き手数料は315円です。(代引き金額によって異なります)

『kamipro Hand』でご注文の場合

詳しくは『kamipro Hand』の通販コーナーをご覧ください。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧ください。

電話でご注文の場合

平日13:00〜19:00
(株)ダブルクロス
TEL.03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送りください。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承ください)。
販売元/(株)ダブルクロス

[kamiproオリジナルTシャツ サイズ表]

袖丈
身丈
身巾

(単位はcmです)

サイズ	S	M	L	XL
身丈	66	70	74	78
身巾	49	52	55	58
袖丈	19	20	22	24

残暑はkamiproTシャツで乗り切れ!

青木LOCK STAR Tシャツ
[S・M・L・XL イエロー/ネイビー] ¥4,200(税込)

ハリトーノフFACE Tシャツ[★]
[S・L・XL カーキ] ¥3,990(税込)

ハリトーノフ"死神"Tシャツ[★]
[S・M・L ホワイト] ¥4,200(税込)

ハリトーノフSTAR Tシャツ
[S・M・L・XL レッド] ¥3,990(税込)

Lady's

ニューリン様"BERO"Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)
(身丈57cm、身巾38cm,袖丈13cm)

ニューリン様"BERO"Tシャツ
[M・L・XL ブラック] ¥3,990(税込)

Lady's

ニューリン様"SIGN"Tシャツ
[Lady's M ブラック] ¥3,990(税込)

ニューリン様"SIGN"Tシャツ
[M・L・XL ブラック] ¥3,990(税込)

ニューリン様"SIGN"スウェットトートバッグ
[ブラック(プリント:シルバー)] ¥2,100(税込)
※バックサイズ:24×11×35cm(持ち手のぞく)

ハリトーノフ スポーツタオル
¥3,150(税込)

KamiproマスクTシャツ
[S・M・L・XL ホワイト×レッド] ¥3,990(税込)

I編集長"殺し"Tシャツ
[M・L・XL ブルー] ¥3,990(税込)

ケータイサイトはもちろん24時間受付OK!
非会員でもショッピング可能!!

アクセス方法

DoCoMo iMenu ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技/大相撲 ▶
※もしくは「kamipro」で一発検索!!

au/TU-KA トップメニュー ▶ カテゴリで探す ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

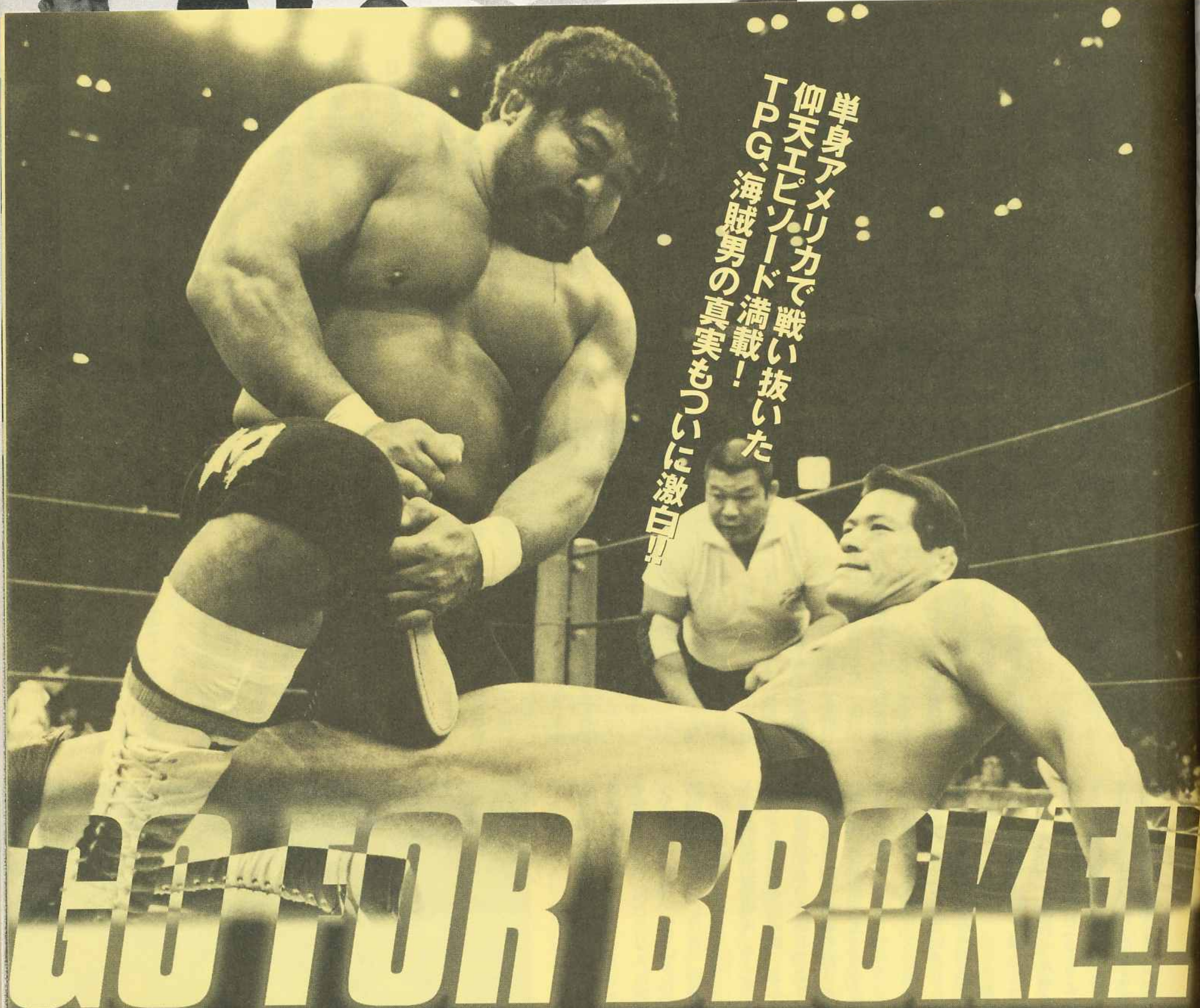
SoftBank メインメニュー ▶ メニューリスト ▶ スポーツ ▶ 格闘技 ▶

WILLCOM 趣味&スポーツ ▶ スポーツ ▶ 総合 ▶
エンターティメント ▶ TV・メディア・本 ▶ 本 ▶

kamipro Hand

[QRコード]

※価格はすべて税込みです [★]の商品は在庫終了次第、販売終了となります

KICKBOXING

単身アメリカで戦い抜いた
仰天エピソード満載！
TPG、海賊男の真実もついに激白!!

GO FOR BROKE!!

～男が憧れる男の生き様～

前編だ!!

マサ斎藤

前号の『すてきな奥さん』特集で掲載し、大反響だったマサ斎藤夫人インタビュー。好評にお応えし、今号はついに、我らがマサさん本人が登場だ！　座右の銘である「ゴー・フォー・ブロック（当たって砕けろ）」の精神を胸に、レスリングで東京オリンピック出場の実績を引っさげてプロレス入り後、単身アメリカに渡り、一匹狼として腕一本で20年以上も本場のマットでトップレスラーとして生き抜いてきたマサさん。まさに“男の憧れ”といえるその生き様を2時間以上にわたり語ってもらった今回のロングインタビュー。前編後編に分けて、たっぷりとお届けします！

聞き手・撮影／堀江ガンツ

kamipro SHOPPING

橋本のライフルの腕には、ハンティング好きのレイガンズもびっくりしてたよ（笑）

——マサさん、今日も真夏で暑いですけど、最近カルピスは飲んでないらしいですね？（笑）。

マサ　うん。暑い日は氷入りのカルピスがうまいんだけどさ、やっぱり血糖値が上がっちゃうから（笑）。なるべく飲まないようにしてるんだよ。

——でも、暑くなると飲みたくなるんじゃないですか？

マサ　ビールが飲めるから大丈夫（笑）。

——そうですか。でも、ビールのほうが身体に悪いような……（笑）。そういえば今日、8月6日ですけど、明日はマサさんの誕生日なんですよね？

マサ　うん。65歳になるよ。

——もう65歳ですか。でも、その年齢でこんなにゴツい身体の人はいないですよね（笑）。

マサ　そう？（照れながら）。

——マサさんが、プロレスに入られたのは何歳ぐらいなんですか？

マサ　大学卒業したあとだから、22歳だな。

——じゃあ、プロレス入りしてもう丸43年ですか。

マサ　だな。アマもその前に7年やってるけど。

——では今日は、そんな43年に及ぶプロレス生活のお話をいろいろとうかがっていこうと思いますが、その前にマサさんが引退後、ブッカーとして新日本に呼んでいたガイジン選手たちが、最近続けざまに亡くなられてますよね？

マサ　うん。クリス（・ベノワ）も最近、亡くなったでしょ？　ショックだったね。ホーク（・ウォリアー）にしろカート（・ヘニング）にしろエディ（・ゲレロ）にしろ、みんな逝っちゃったしな……。人間、どこで何があるかわかんないね。

——とくにクリスなんて、マサさんからしたら、ホントに“ヤングボーイ”のイメージなんじゃないですか？

マサ　そうだね。まだ40（歳）でしょ？　早すぎるよなぁ。まさかと思ったよ。あいつは一本気で真面目なヤツだったから。人間が堅いっていうか、とにかくストイックだから。ほかの連中みたいにバカなこともやらないし。俺からしたら「何が楽しみで生きてるんだろう？」って思うぐらいだったよ。

——ホントに真面目な人だったんですね。

マサ　食事にしたって、あんなまずいものばっかりよく食うなと思ったよ（笑）。味も何もしない脂身のない鶏肉とかさぁ。食事は筋肉をつけるためだけに摂ってるんだよな。酒だって一切飲まないしね。クリスが酒飲んでるところなんで、ビールをコップ一杯、乾杯のときに飲んでるのを見ただけだよ。

——クリスは、マサさんが見られてきた多くのプロレスラーの中でも、異質な存在でしたか？

マサ　レスラーはみんな異質よ（笑）。

——あ、レスラーは全員異質（笑）。

マサ　レスラーはみんな変わりもんだから。でも、クリスは真面目なほうに異質だったね。

——マサさんもよく「変わり者」って言われますか？（笑）。

マサ　上井（文彦）に言われたよ。「一番変わってる」って。俺はクリスと逆で真面目じゃないほうに変わりもんだけどな（笑）。

——マサさんがクリスと初めて会われたのは、WCWの頃ですか？

マサ　いや、新日本。まだクリスが新日本の練習生の頃。ちょうど俺が新日本に入った頃、クリスが道場にいたんだよ。

——そういえば、マサさんが新日本に定着した80年代後半ぐらいに、クリスは日本に来たんでしたね。

マサ　だから俺とクリスは同期だよ（笑）。クリスは、いるかいないかわからないぐらい静かなヤツだったけど、練習は一生懸命やってたなぁ。

——あの頃の道場は、ライガーとか橋本（真也）さん、船木（誠勝）さんなんかがいて、凄く活気があった頃ですよね。

マサ　そういや橋本も逝っちゃったんだよね。あいつが逝っちゃうなんて、全然、考えもしなかった。

——橋本さんもクリスと同じく、40歳の若さで亡くなってしまいましたからね。橋本さんって、マサさんから見て、どんな方でしたか？

マサ　あいつは夢を追っていたね。トップに立つんだって気持ちが凄く強かったよ。ただ、あいつも変わってるよな。

——かなり変わってますよね（笑）。

マサ　橋本はベンツの600を買ってさ、いっつも道場の前に停めてたんだけど、道場に入っても橋本がいねぇんだよ。あのバカどこ行ったかと思ったら、ベンツの窓がちょっと開いてて、その隙間から銃口が出てるんだよ（笑）。

——ダハハハ！　車内にスナイパーが隠れてましたか（笑）。

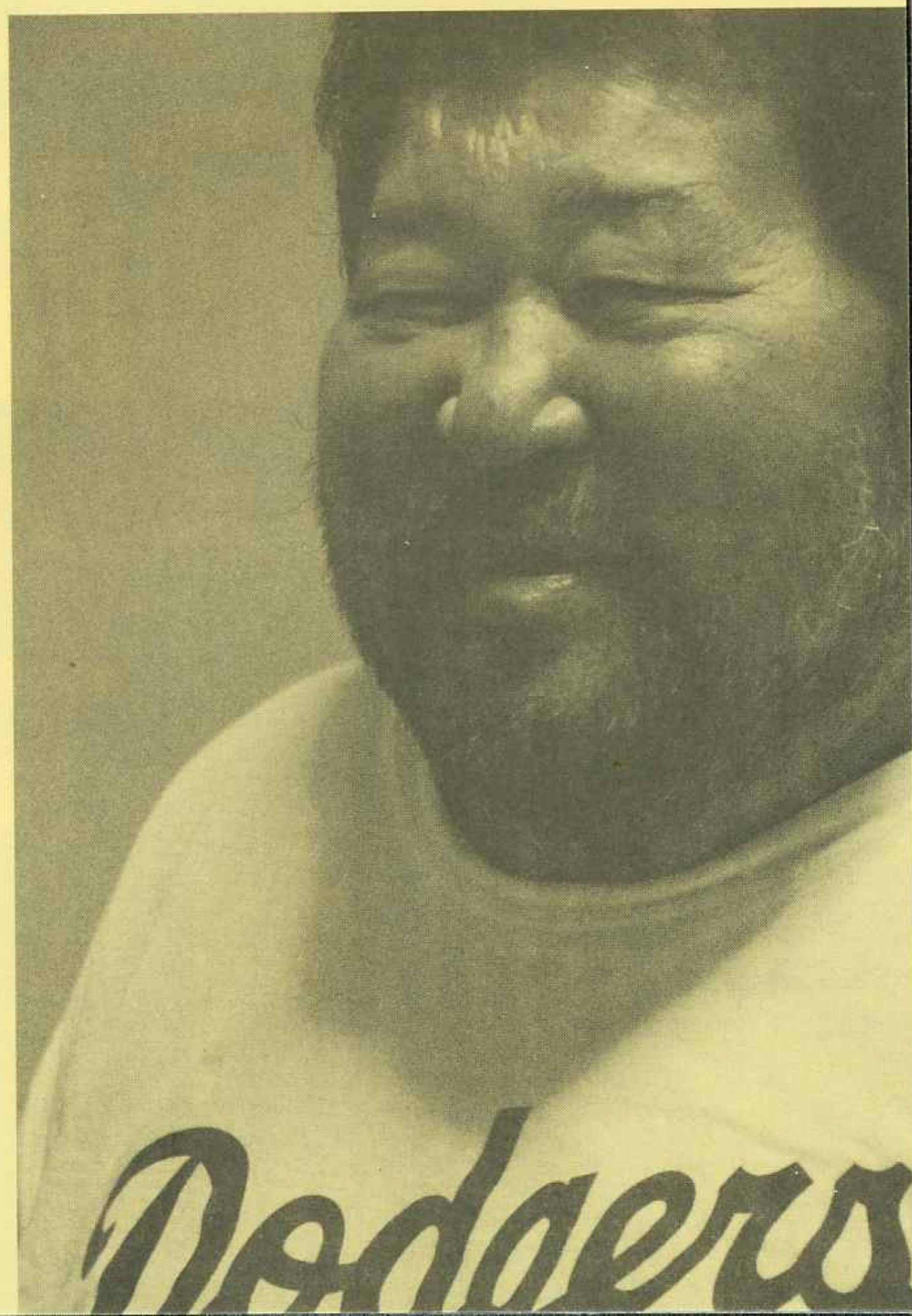
マサ　車ん中で寝そべって、オモチャのライフル構えてんの。何考えんだって。

——車に隠れて、いろんなものを撃ってたんでしょうね（笑）。

マサ　だからあの頃、道場の周りから鳥が全然いなくなっちゃったんだよ。橋本がみんな撃っちゃったから。

——そんなに撃ちまくってましたか（笑）。

マサ　ホントに鳥がいなくなっちゃったんだから。あいつ腕がいいんだよな。ミネソタにあるブラッド（・レイガンズ）の道場に行ったときも、敷地内にある沼から這い上がろうとしていた亀を空気銃で撃ってるんだよ。ハンティング好きのブラッドが、橋本のライフルの腕にはビックリしてたよ（笑）。

——ハンターも驚かせる腕前でしたか（笑）。

マサ　あとはセミを捕ったりとかさ、子どもがやることが大好きなんだよな。そういや橋本とは一緒にグルジアにも行ったなぁ。

――80年代末に新日本プロレスがソ連（当時）の選手を呼んだときですか？

マサ　そう。最初、猪木さんたちみんなとモスクワに行って、そのあと俺と橋本がソ連のレスラー20人にプロレス教えることになって、グルジアのゴリって町に行ったんだよ。スターリンの生まれたところだよ。山賊の町みたいなところ。

――山賊の町ってどんなところですか（笑）。

マサ　自分の女房に鍵かけて、他人の女房取るような町（笑）。

――そんな町があるんですか（笑）。

マサ　そこのヒーローが（ショータ・）チョチョシビリ。

――ああ、そういえばチョチョシビリってグルジア人だったんですよね。

マサ　あれにはまいったよ。ウォッカを飲まされて。

――旧ソ連圏って、ウォッカで歓迎パーティみたいなものを開いてくれるんですよね。

マサ　歓迎会というより宴会だな。こぉ～～んなデッカい樽にグルジアワインが入ってて、洗面器みたいなもんですくって飲むんだもん。しかも全部、一気飲みしなきゃいけないんだよ。橋本がぶっ倒れたからね。

――マサさんは倒れなかったんですか？

マサ　俺は責任があるから。橋本に飲ませた。

――代わりに飲ませましたか（笑）。でも、グルジア人とかにプロレスを教えるっていうのは、大変だったんじゃないですか？

マサ　いや、（ビデオ）テープがあったから、それ見せながら説明したら理解してたよ。

――でも、プロレスというものがない共産圏のソ連で、勝敗よりもお客を沸かせることが大事なプロレスを教えるって大変そうですけどね。

マサ　そりゃ向こうの連中だってさ、ドルを稼ぐためにやってんだから、みんな一生懸命やってたよ。

――なるほど。猪木さんは、ソ連の選手にプロレスを説明するとき、「感性と表現力が必要」って説明したらしいですけど、マサさんはどうやって教えたんですか？

マサ　俺は実践で。ロックアップからヘッドロックからみんなやってみせて教えたよ。言葉で説明しようにも言葉が通じないから。一応コガってヤツが通訳でついてたんだけど、こいつが飲んべえでさ。宴会のときに飲みすぎて、翌日の練習のときに来ねぇんだよ。

――とんでもない通訳ですね（笑）。

マサ　しょうがないから、あの頃はまだ俺も英語がまあまあしゃべれたんで、英語がしゃべれる（ウラジミール・）ベルコビッチに英語で説明しながら教えたんだよ。

――橋本さんはどんな感じでしたか？

マサ　橋本はグルジアで泣いてたね。

――なんで泣いたんですか？

マサ　早く帰りたいって。あの頃、彼女がいたからさ。日本に帰って女に会いたいって（笑）。

――あ、そういう理由（笑）。でも、橋本さんはソ連の女性を口説くために、ロシア語で「アイ・ラブ・ユー」だけは、覚えていったって話ですけど（笑）。

マサ　それは知らないなぁ。ババアばっかりで、口説きたいような女はいなかったよ。

――それは残念でしたね（笑）。ソ連勢では誰が一番才能ありましたか？

90年代初頭、破壊王との強力タッグでIWGPタッグ王座に就いていたマサさん。武藤＆蝶野、馳＆健介と並び歴代王者チームの中でも屈指の名コンビだった。

マサ　飲み込みが早かったのは、あいつよ。ずんぐりムックリで強かったヤツ。

――サルマン・ハシミコフですか？

マサ　そう、ハシミコフ！　あいつは最初っからプロレスができちゃったんだよ。ニューヨーク（WWE）のビデオかなんか、観てたんじゃない？　ほかの連中とはこ～～んなに差があったよ。あとは（ビクトル・）ザンギエフってヤツも良かったな。

――チョチョシビリはどうだったんですか？

マサ　あいつもうまかったね。人を沸かせるってことがわかってるというか。さすが金メダリストだけあって、大衆のことがわかってるんだよ。ソ連で俺とブラッドが組んで、アントニオ猪木＆チョチョシビリ組と試合をやったことあるんだけど、知ってる？

――ああ、いつだかの大晦日にモスクワでプロレスをやったんですよね。

マサ　そう。あんときは、とにかくお客が沸いたよ。

――チョチョシビリの裏投げとか、ハシミコフの水車落としって、プロでも見栄えのする技だったじゃないですか。あのへんのアイデアは本人たちのものなんですか？

マサ　本人よ。こういう技ができるって。

――へぇ～。

マサ　こっちは受け身取るの大変よ。ソ連の連中の投げで頭打って、俺はこうなっちゃったんだから（笑）。

――ダハハハ！　裏投げのダメージでしたか（笑）。いま、かつてのレッドブル軍団の人たちは、ビジネスで成功してる人が多いみたいですね。

マサ　ソ連が解体したあとだよね。あいつらの商売は凄いよ。グループがあんのね。

――グループですか？

マサ　マフィアみたいなグループ。

――マフィアですか（笑）。まぁ、ロシアの大きなビジネスってそういった世界と強く結びついてるっていいますもんね。

マサ　スポーツで名を挙げた連中は、そっち方面にも顔が利くんだよな。

――ハシミコフはいまモスクワとアメリカをビジネスで行き来する生活らしいですね。

マサ　らしいね。バンバン・ビガロが言ってたよ。ビガロはニューヨークの近く、ニュージャージー州のアスベリーパークってところに住んでたんだけど、自分ちの近くでハシミコフとバッタリ会ったんだって。

――ビガロとハシミコフがアメリカで偶然再会ですか！

マサ　ビガロが「おまえ、ハシミコフじゃねぇか。何やってるんだ？」って聞いたら、ビガロの家のすぐ近くにハシミコフも住んでたんだって。お互い全然知らなくて、驚いたらしいよ。

――へぇ、ビガロとハシミコフがご近所同士だったんですか。それは運命的だなぁ。ハシミコフのデビュー戦である、ビガロとの試合（89年4月24日、東京ドーム）は素晴らしかったですよね？

マサ　ねえ！　ビガロもハシミコフもどっちも良かった。ビガロは器用だったんだよな。あんな顔して。

――顔は関係ないと思いますけど（笑）。ビガロといえば、ビッグバン・ベイダーはマサさんが新日本に呼んだんですよね？

マサ　そう。ベイダーもプロレスはうまかったけど、あいつは扱いづらかったな。しょっちゅう、態度がコロコロ変わるから。やきもち焼きだし、まいったよ。

――ガイジン勢のボスになろうとして、選手間でもギクシャクしてたって話ですよね？

マサ　あったあった！

――ビガロとは性格的には正反対ですか？

マサ　ビガロは自分本位でみんなとは別行動だったから。ビガロは巡業で田舎のほうに行ったとき、真夜中にバンバン花火上げてたことがあったな。

――何をやってるんですか（笑）。

マサ　ホントの田舎だよ。ど田舎。もうみんな寝静まった頃に、でっかい打ち上げ花

87年12月27日、両国国技館。たけしプロレス軍団（TPG）へのファンの拒否反応、そして猪木vs長州から、猪木vsベイダーへのカード変更への怒りから、大暴動となったことで、あまりにも有名なこの大会。マサさんは、このときＴＰＧの参謀として、"たけしの刺客"ビッグバン・ベイダーを連れてきたという設定だったが、見事にとばっちりを受けるかっこうになってしまった。

火をひゅ~ん、ドーン！って上げてんだよ。「何やってんだ！」って言ったら、「独立記念日だから」とか言ってさ。

——ガハハハ！　真夜中にアメリカの独立記念日を祝ってましたか（笑）。

マサ　近所迷惑だって！

——話を元に戻すと、逆に扱いやすかったのは誰ですか？

マサ　扱いやすかったのは、やっぱりメキシカンよ。とくにエディ（・ゲレロ）は良かったね。あとはクリス、ジェフ（ｎＷｏスティング）、マイク・ロトンド。あいつらは頭いいんだよ。そういうヤツは扱いやすかったね。試合もうまいし。もっと日本でオーバーする（人気が出る）かと思ったんだけど、そうでもなかったんだよな。

——日本では、ちょっと道を外れたようなレスラーのほうが売れるんですかね。

マサ　そうね。ベイダーとかタイガー・ジェット・シンとかね。

——ベイダーは、そのあとＵＷＦインターにダブルクロスしたりしてましたもんね。

マサ　でも、新日本も元は取ったからいいんじゃない？

——元は取りましたか（笑）。まぁ、日本では全然無名だったレスラーが、あれだけのメインイベンターになったわけですからね。最初にベイダーを連れてきた「たけしプロレス軍団（ＴＰＧ）」のときは大変だったんじゃないですか？

マサ　大変よ。暴動起きちゃって。なんか俺のせいみたいになってさ。冗談じゃないよ（笑）。

——マサさんのせいにされましたか（笑）。あれは誰のせいですか？　やっぱり猪木さんですか？

マサ（小声でニヤリと）そうよ。

——やっぱり（笑）。

マサ　猪木さんはどんどん自分でいろんなもん作っていっちゃうんだもん。海賊（男）とかさ。あの頃、おもしろかったよね（笑）。

——ホント、次から次へとギミックが飛び出して（笑）。

マサ　あのとき、みんなああいうの嫌がったけどね、うまく利用してたらいいビジネスになってたんだよ。

——時代がちょっと合わなかったのかもしれないですね。ちょうどＵＷＦブームが起こる直前で、ファンがみんな生真面目だったじゃないですか。

マサ　そうよ。でも、ビートたけしが、でかくて強いヤツを連れてきちゃうんだから。いまＫ−１で同じことやってたら、沸いたんじゃない？

——ダハハハ！　確かに大晦日の『Ｄｙｎａｍｉｔｅ!!』に、たけしさんがＴＰＧを引き連れて登場したら、メチャクチャ盛り上がるでしょうね（笑）。

マサ　ホントに時代が早すぎたよな。あの頃の猪木さんって、ニューヨークやＷＣＷみたいなものを、世界に先駆けてやりたかったんだろうな。

——そしてアメリカで生きてきたマサさんとしては、その猪木さんのアイデアも「いいな」と思って引き受けたら、反発くらっちゃった、と（笑）。

マサ　そう。俺も猪木さんに乗せられて（笑）。

——乗せられちゃいましたか（笑）。

マサ　両国と大阪城ホールで暴動が起きたとき、どっちも俺が絡んでるからさ、ひどい目に遭ったよ。モノ投げられてさ、俺が考えたわけじゃないのに（笑）。

——マサさんは、きっちり仕事をまっとうしただけですからね（笑）。

マサ　大阪城ホールで猪木さんと試合してるとき、海賊が入ってきて、俺に手錠かけて試合をメチャクチャしたら、お客が怒った。会場に火ィつけられてさ。

——しかも、あのとき海賊男は、間違えてマサさんに手錠かけちゃったんじゃないですか？

マサ　よく知ってんじゃない！（笑）。

87年3月27日、大阪城ホール。『INOKI闘魂LIVE Part3』のメインイベントで組まれた猪木vsマサ斎藤戦は、試合中に謎の海賊男が突如乱入。なぜか自分とマサさんを手錠でつなぐという意味不明な行動で、試合をブチ壊し、怒った観客が大暴動を起こすこととなってしまった。これはつまり、「アメリカの刑務所に入っていたマサ斎藤の命を受けた謎の海賊が、猪木に手錠をかける」というアングルを海賊自身が間違えて、思わず自分とマサさんに手錠をかけるという大失態を冒してしまったということなのだろう。あきらかに焦っているマサさんの表情に注目!

海賊男が間違えて俺に手錠かけたときは「違うよ」とも言えねぇし、泡食ったよ（笑）

―やっぱりそうでしたか（笑）。

マサ　俺もまさか海賊と手錠でつながれると思ってないからさ、泡食ったよ。試合中だから俺も「違うよ」って言えねぇしさぁ（笑）。

―確かに、マサ斎藤が、乱入してきた海賊男に「違うよ」って言うわけにはいかないですよね（笑）。とんでもない男ですね、海賊男ってヤツは。

マサ　ホントよ。

―ちなみに、そのとんでもない海賊男の正体は誰だったんですか？

マサ　あれはネコ。

―あの海賊はブラック・キャットさんでしたか！（笑）。

マサ　あいつ緊張して、たぶん間違ったんだよな。

―〝大役〟を任されて緊張しちゃいましたか（笑）。あの大阪城の試合はメチャクチャでしたけど、そのあとマサさんと猪木さんが両国でやった〝手錠マッチ〟の再戦（87年4月27日）は素晴らしかったですよね。

マサ　ああ、ホント。ああいうプロレスができるヤツいなくなっちゃったよな。

―そうですね。ああいうギミックを使いながら、名勝負を展開するって。

マサ　ねぇ！　あの頃はアクロバットみたいなことはやらないし、プロレスらしいプロレスをやってたからね。

―猪木さんとは名勝負が多かったですけど、あれは手が合ったんですか？

マサ　手が合うも何も、こっちはどんな試合でもやれる自信があったから。たとえばサウス（南部）に行けば、その土地に合った試合をしなきゃいけないし、ニューヨークに行けばニューヨークのスタイル、ミネアポリスではミネアポリスのスタイル。その土地その土地に合ったスタイルでやってきたから、どこでもトップを取れる自信はあったよ。できないのはル～チャだけよ（笑）。

―さすがにル～チャだけは、できませんか（笑）。

マサ　でも、俺はロサンジェルスで、レイ・メンドーサとやったよ。ボクシングマッチよ。

―なんでボクシングマッチなんですか？

マサ　俺がル～チャできないから、じゃあ、殴り合いで沸かせようってんで、二人でボコボコ殴り合いよ（笑）。

―マサさんはプロレスラーだけじゃなくて、クマとも闘ったことがあるんですよね？（笑）。

マサ　あるよ。でも、クマはイヤだよ。臭くて！　ホント臭い！

―でも、その臭いクマと2回も試合してるんですよね？（笑）。

マサ　そう。プロモーターがやれって言うから。なんか契約書を渡されたから、ロクに読みもせずにサインしたら、それがクマと闘う契約書だったんだよ（笑）。

―ダハハハ！　そんな契約を交わしちゃいましたか。

マサ　ハメられたよ（笑）。でも、レスリングベアっていったって、両足で立てるし、ロックアップからフライングメイヤー（首投げ）とかやるからね。

―フライングメイヤーまでできますか！

マサ　ちゃんと、プロレスの〝型〟を仕込んであるんだよ。

―プロレスの基礎ができてるクマなんですね（笑）。

マサ　でも、凄い力だよ。もちろんツメは切ってあって、噛まれないようにクマの口にマスクをさせてるんだけど、たまにマスクがズレるんだよ。そのときは焦るよな。一

回、ケツを噛まれてるからさ（笑）。

――それは焦りますね（笑）。人間vsクマのプロレスっていうのは、盛り上がるんですか？

マサ　盛り上がる。

――その場合、観客は人間とクマ、どっちを応援してるんですか？

マサ　クマ。

――ダハハハ！　同じ人間を応援しないで、クマを応援してますか(笑)。それはヒールの日本人をやっちまえ！　ってことですか？

マサ　そうそう。俺がフォール負けして、一件落着よ。

――クマ以外にも、素人の観客相手にシュートマッチもやられていたらしいですね？

マサ　ジョージア、オーランド、アトランタなんかでやったね。

――それはプロモーターが、腕自慢を募るんですか？

マサ　そう。エディ・グラハムっていただろ？　マイク・グラハムのお父さんよ。あいつがオーランドのプロモーターで、腕に覚えがあるケンカ屋とか空手マンが来ると、「おい、マサ！　やっつけろ！」って言うんだよ。

――やっつけろですか（笑）。マサさんは、よくそんな試合を受けますね。

マサ　エディには世話になってたからさ。当時、オーランドでは高千穂（明久＝ザ・グレート・カブキ）と組んでやってたんだけど、凄いヒート買ってね。試合後に客席の気の強いチンピラ連中によく殴りかかられたのよ。それで一度、俺が客をぶん殴りすぎて裁判になっちゃってね。そのときエディがいい弁護士を用意してくれて、金も払ってくれて。裁判当日、タンパで試合があるからオーランドの裁判所に行ったあと、エディが用意してくれたチャーター機でタンパに向かったりしたからね。

――腕自慢相手にシュートをやらせたりする反面、そういったケアがしっかりしていたわけですね。

マサ　俺が知るかぎり、エディが一番いいプロモーターだったね。ビンス・マクマホン（・シニア）やバーン・ガニアより、全然エディのほうが良かったよ。その代わり試合は毎日休みなくやらされたけどね。

――それでヒートを買いまくって、客に襲われても、自分の身体は自分で守らなきゃならないわけですね。

マサ　そうよ。あの頃、マネージャーをやらせてたヤツがタイガー服部。あれを何回助けに行ってやったと思う？　客はさ、俺や高千穂じゃなくて、やっぱりちっちゃいくせに生意気そうな顔してる服部を襲うのよ。それをいつも俺が助けに行ってたから。あいつすぐつかまっちゃうんだよ。ハナ垂らして「助けて〜」なんて、いつも泣いてたよ(笑)。

――服部さんはハナ垂らしながら泣いてましたか(笑)。それをマサさんが蹴散らす、と。

マサ　そうそう。

――でも、アメリカだったら、素人とはいえガタイがよくてケンカが強い連中もたくさんいるんじゃないですか？

マサ　いるよ。でも、こっちは試合終わったあとで興奮状態だから、そのままの勢いで客をぶん殴ってたよ（笑）。

――試合後に第2ラウンドがありましたか（笑）。その頃はプロレスラーとしての自信だけでなく、腕っ節にも自信があったわけですか？

マサ　あったね。プロレス以外にもタフマン

現在は健介オフィスの選手アドバイザーとして、若手選手のコーチを努めるマサさん。本場アメリカマットで長年、一匹狼で生き抜いた経験という財産を持ち、現役時代はプロレス界きっての練習量を誇ったマサさんは、まさに指導者にはうってつけ。この“マサの穴”からはきっと、名選手が生まれるに違いない。ちなみに、マサさんの向かって右が、9.1ディファ有明大会でデビューする山口竜志だ。

マサを知るための注釈

■ショータ・チョチョシビリ
72年にミュンヘン五輪の柔道で金メダルを獲得。89年4月24日には新日本プロレス初の東京ドーム大会のメインでアントニオ猪木と異種格闘技戦で対戦、猪木を裏投げでKO。同年5月25日の大阪城ホールの再戦では猪木が裏十字固めで雪辱した。03年には猪木はグルジアの大統領補佐官を務めていたチョチョシビリの仲介で、グルジアの大統領とも面会をはたしている。

■大晦日にモスクワでプロレス
89年12月31日、ソ連（当時）・モスクワに新日本プロレスが遠征。ソ連初となったプロレス興行は、レーニン運動公園内ルージニキ室内競技場に1万2000人の大観衆を集めて大盛況となる。マサ斎藤はブラッド・レイガンズと組んでメインに出場し、アントニオ猪木＆チョチョシビリ組と対戦した。

■たけしプロレス軍団
ラジオ『ビートたけしのオールナイトニッポン』の企画から派生したプロレス団体。略称はTPG。ビートたけしを首領にたけし軍団が中心となって結成。当時、猪木と抗争中だったマサ斎藤は参謀役に就任。入門テストも実施され、練習生としてはのちの邪道＆外道やスペル・デルフィンも在籍したが、87年12月27日の新日本プロレス両国大会で、暴動騒ぎが起きて以降は自然消滅した。

■両国と大阪城ホールで暴動
87年12月27日の新日本プロレス両国大会に、前述のたけしプロレス軍団とビートたけしが、刺客のビッグバン・ベイダーとマサ斎藤とともに猪木に挑戦表明。猪木は長州との対戦を変更し、ベイダーと闘うもいいところなく敗れる失態。この展開に怒った観客が暴動を起こし、新日本は相撲協会から国技館の貸し出しを無期限禁止という厳罰を受けた。また、さかのぼること同年の3月27日には大阪城ホール大会のアントニオ猪木vsマサ斎藤戦の試合中に謎の海賊男が乱入、斎藤を手錠で固定するなど不可解な展開でリング上は大混乱。試合は斎藤の反則負けとなるも、不透明決着に怒った観客が暴動を起こす騒ぎとなった。

■レイ・メンドーサ
“メキシコの鉄人”と呼ばれ、NWA世界ライトヘビー級王座を保持していたメキシコジュニアの強豪。日本には71年に日本プロレスの第13回ワールドリーグに参加。藤波のWWWFジュニア選手権に挑戦したことも。マスクマン兄弟として知られるロス・ビジャノス（ビジャノ1〜5号）の父親でもある。

■クマとも闘った
1970年当時、フロリダのテリトリーにいたマサ斎藤は、プロモーターのエディ・グラハムの部下から渡された契約書をよく読まずにサイン。エキシビションマッチ用に教育されたクマ、レスリングベアと対戦するハメに。さんざんな目に遭ったが、「頼まれたら断れない」性格の斎藤は、このあともう一度クマと対戦しているからさすがである。

■タフマンコンテスト
アメリカで行なわれていた素人の腕自慢たちをノールールかつ、トーナメント形式で競わせるイベント。現在は非公式のボクシングの試合となっているが、当時は初期UFCを思わせるノールールの荒っぽいスタイルで、酒場の用心棒のような男たちが出場していた。85年の「レッスルマニア」でハルク・ホーガンとタッグを組んだミスターTもこのコンテストの出身。バタービーンが優勝したことでも有名。

コンテストなんかもあったしね。南部はそういう腕自慢みたいなヤツが多いんだよ。そういうヤツも相手にして。でも、そういう試合をやってるレスラーは、南部では俺以外にもいっぱいいたよ。

――じゃあ、当時のプロレスラーは、みんなシュートができるというか、腕っぷしに自信がある選手がゴロゴロしてたわけですか。

マサ　そう。ストリートファイトに自信がなかったら、バーで酒も飲めないんだから。いま考えたら、よくあんなところに行ったもんだよ。いま考えたらゾッとするよ。アル中、ヤク中がゴロゴロいて、ケンカでナイフやピストルが出ることだって、珍しくないんだから。

――凄いですねぇ……。強くなきゃバーで飲むことすらできないんですね。それは心身ともにタフになりますね。

マサ　なるね。

――日本の格闘技ファンはよく、ガチンコだ、シュートだ、プロレスだなんて軽々しく言いますけど、そんなの超越してますよね。

マサ　違う違う。ストリートでの強さを持ったヤツが多かったよ。それがあるからリング上でもサバイブできるんだよ。

――なんでも、そういうシュートファイトで相手の目をくり抜いたこともあるらしいですね？

マサ　うふふふ。あるね（笑）。

――ありますか（笑）。

マサ　俺も右目がおかしいでしょ？

――それは……、逆にサミングされたんですか？

マサ　目を殴られた。いまは全然見えないんだよ。

――えっ!?　右目は失明してるってことですか？

マサ　そう。アメリカにいる頃、まだ70年代だったかな。俺も毎日試合が続いてたし、ケンカやシュートファイトもよくあったから、いつやったかわからないんだよ。気がついたら、片目が見えなかった。

――いつ見えなくなったのかもわからないんですか？

マサ　そう。

――病院には行かれたんですか？

マサ　見えなくなったのに気づいてから行ったら、「手術したら見えるようになりますよ」って言われたのよ。でも、毎日試合が入ってて、ダブルヘッダーの日もあったりして手術してるヒマがないから、そのままにしてた。

Masa Saitoh

まさ・さいとう■本名・斎藤昌典。1942年東京都出身。高校時代にレスリングを始め、64年東京オリンピック代表にも選ばれる。大学卒業後、日本プロレスに入団。68年に渡米し「ミスター・サイトー」のリングネームで全米を股にかけて、トップレスラーとして大活躍した。87年から新日本プロレスに定着し、アントニオ猪木らと名勝負を展開。とくに87年の「巌流島の決闘」はプロレス史上に残る死闘となる。90年にはラリー・スビスコを破りAWA世界ヘビー級王座を奪取。99年に現役を引退。第一線を退いてからは、『ワールドプロレスリング』の解説者としても人気を博した。現在は健介オフィスの選手アドバイザーとして後進の指導にあたる。180cm、120kg（現役時代）。

目が見えなくなっても試合で忙しくて手術しなかったら失明しちゃったんだよ

――そのままにしちゃダメですよ！

マサ　それから十何年経って、日本に定着したあと病院に行って、「昔、手術したら治るって言われたんで、手術しに来ました」って言ったら、「もう手遅れです」って言われてさぁ。

――「手術したら治る」って言われてたのは十何年前で、そのあいだ、ずっと治療はほったらかしだったんですよね？

マサ　そう。

――それじゃ、さすがに治りませんよ（笑）。

マサ　でも、「手術したら治る」って聞いてたから、治るもんだと思ってた（笑）。

――じゃあ、片目が見えないまま、20年近く現役続けていたわけですか……。

マサ　とにかく毎日試合があったからさ。病院なんか行ってるヒマはないのよ。だから虫歯になってもさ、いちいち歯医者に通ってるヒマなんかない。だから一回で済むように、虫歯になったら「抜いてください」って言って、抜いてもらってたよ。

――単なる虫歯で抜歯！　それじゃ歯が何本あっても足りませんよ！（笑）。

マサ　だって虫歯になったら痛いから（かわいらしく）。

――歯が痛いから抜く（笑）。

マサ　でも、いま考えれば抜くほうも抜くほうだよな。

――そりゃ、抜いてくれって言ったら抜きますよ（笑）。

マサ　俺は麻酔打って、パッと抜くだけだから、早くていいなって思ってたんだけど。

――確かに早くていいですよね。その代わり二度と生えてきませんけど（笑）。

【07年8月10日／埼玉県・健介オフィスにて収録】

というわけで、今回はここまで。ど～ですか、この男らしいにもほどがあるエピソードの数々！　次号掲載の後編では、さらなるマサさんの男っぷりエピソードを大放出。アメリカ時代の"セックス、ドラッグ、シュートファイティング"や、1年半にわたった刑務所暮らしの秘話、そしてアントニオ猪木との"巌流島の決闘"の真実まで、マサさんがたっぷりと語りつくします。来月の発売日まで、冷たいカルピスを飲みながら待て！

6月下旬、山本“KID”徳郁がAKAを訪れたときの集合写真。向かって右から2番目が福田力、左端が河野真幸だ。真ん中に座っているのは、ジムの会長ハビア・メンデス。KIDの後ろには、7.14『ボードッグ』ニュージャージー大会で近藤有己を破ったトレバー・プラングレーの顔も見える。

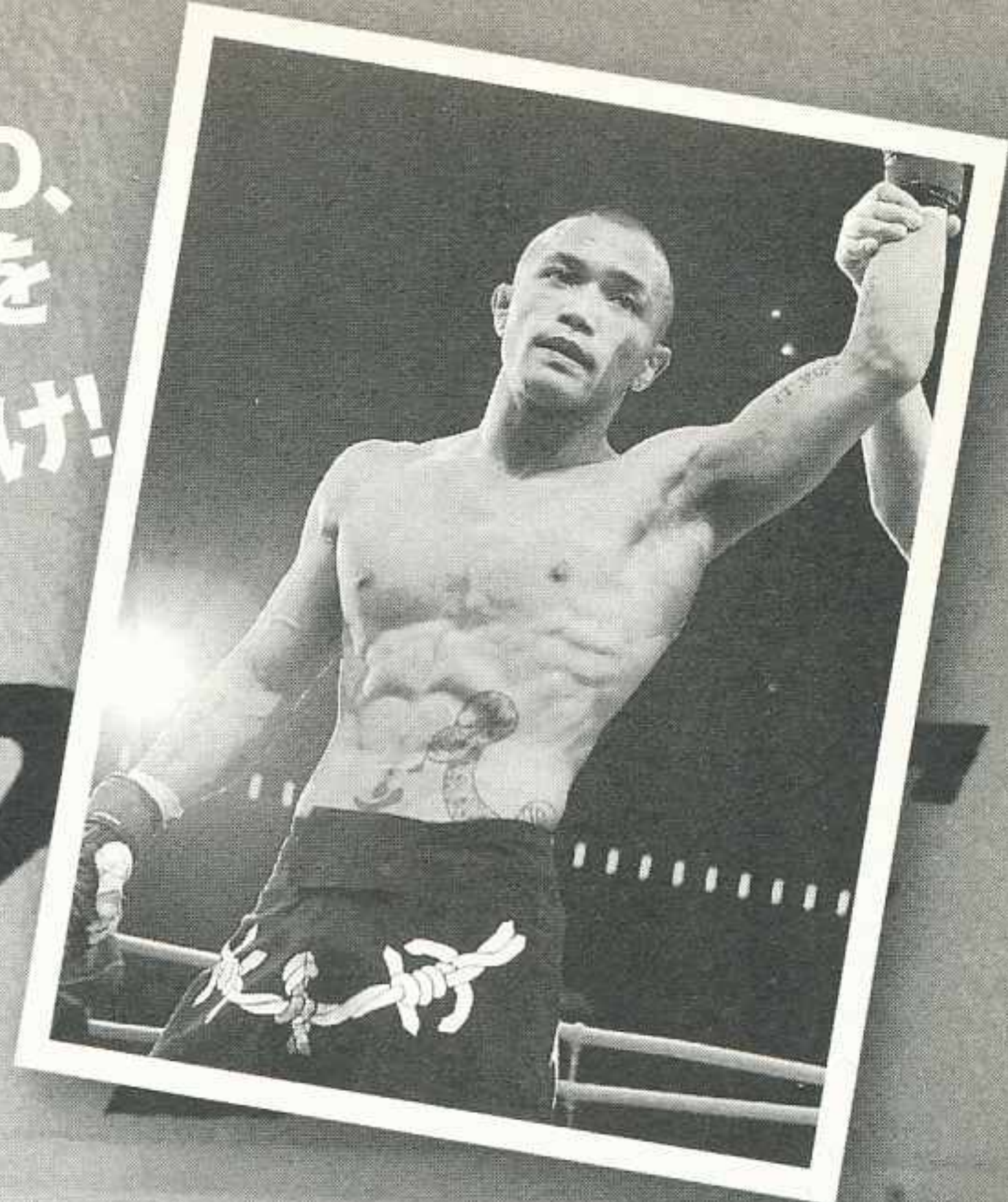
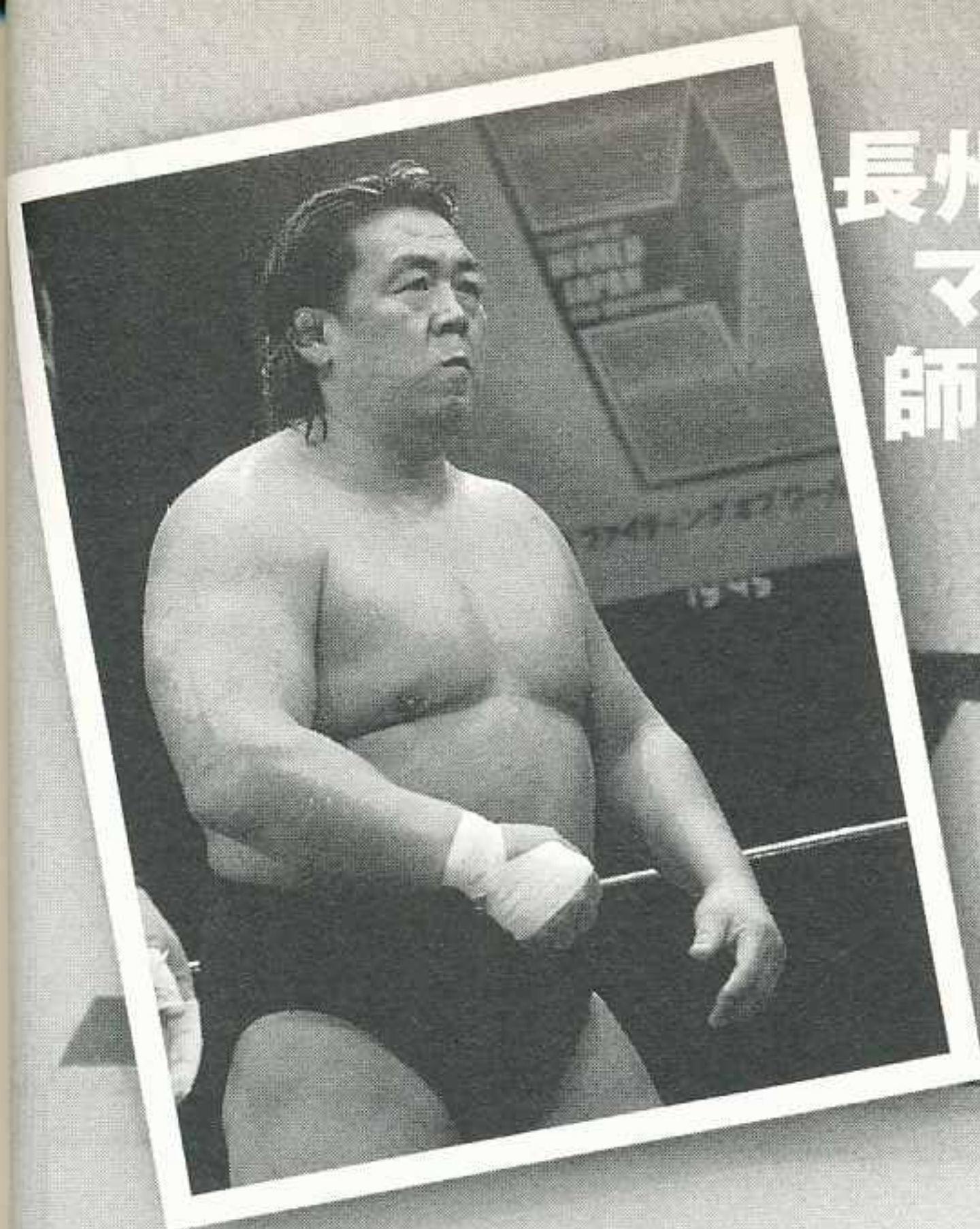
海外格闘武者修行に旅立った男たち

元プロレス団体の新弟子が世界の格闘技を目指す!

米国カリフォルニア州サンノゼ　アメリカン・キックボクシング・アカデミー

福田力　河野真幸

かつて“海外武者修行”といえば、“プロレスの本場”アメリカへ単身遠征し、心身ともにタフになることが目的だった。しかし、時代は変わった。いまは“格闘技の本場”アメリカへ単身渡り、MMAのジムで集中特訓を受けてる選手が増えているのだ。ここではかつてプロレスの新弟子を経験しながら、現在はアメリカでMMA特訓を積む二人にスポットを当てよう。

長州力、そして山本KID、
マット界の大物二人を
師匠に持つのは、
この男だけ!

「総合で、もっと実績を残して長州さんに試合を観に来てもらいたいです」

かつて"WJの申し子"と言われた男の現在

福田力

KILLER BEE

7.27パンクラス後楽園大会で佐藤光留を秒殺し、約1年ぶりの日本での試合で勝利を飾ったのが福田力。この名前にピンときた人もいるだろう。そう!　福田は、あの伝説のプロレス団体WJに所属していた過去を持つのだ。WJの社長とエース・長州の名前を併わせ持つ福田力は"WJの申し子"と呼ばれたが、デビュー直前に退団。現在は山本KID率いるKILLER BEE所属。その福田力の現在・過去・未来を直撃したぞ、コラッ!

聞き手&撮影／松澤チョロ

コールマンやフィルの紹介でアメリカに練習しに行ってました

—先日のパンクラスでの佐藤光留戦は見事なKO勝ちでしたけど、振り返ってみていかがですか？

福田　試合前に、ちょっとヒザを痛めちゃったんですけど、パンチでテイクダウンしてパウンドに行くっていう作戦どおりにできたのはよかったですね。

—パンクラスへはひさびさの参戦でしたけど、対戦相手はパンクラスの中でもメイド服で入場したりする異色のファイターでしたが、そのへんはあまり気になりませんでした？

福田　そうですね。そこは趣味の問題だと思うんで。

—まあ、確かにそうですね（笑）。

福田　映画が好きとかレゲエが好きとか、そういうのと同じくくりでメイドが好きっていうだけだと思うんで。プロとしては、全然そういうやり方もありだと思います。

—試合自体は非常に短かったわけですけど、満足できる勝ち方でした？

福田　そうですね。自分のいままでやった選手の中では一番キャリアがある選手だったんで。

—パンクラスにはキャリアも試合数も多い選手が多いですからね。

福田　ですよね。まあ、そういう選手に勝てたっていうのは凄い自信になりました。

—福田選手は、これまでパンクラス以外にも修斗やDOGだったり、海外でもスーパーブロウルやエリートXCなど、さまざまなリングに上がってますが、現時点での具体的な目標って何かあります？

福田　とりあえず、アメリカのエリートXCと3試合の契約を結んでて、次はハワイで9月15日って言われてるんですけど、その契約をまず消化しないといけないんで。

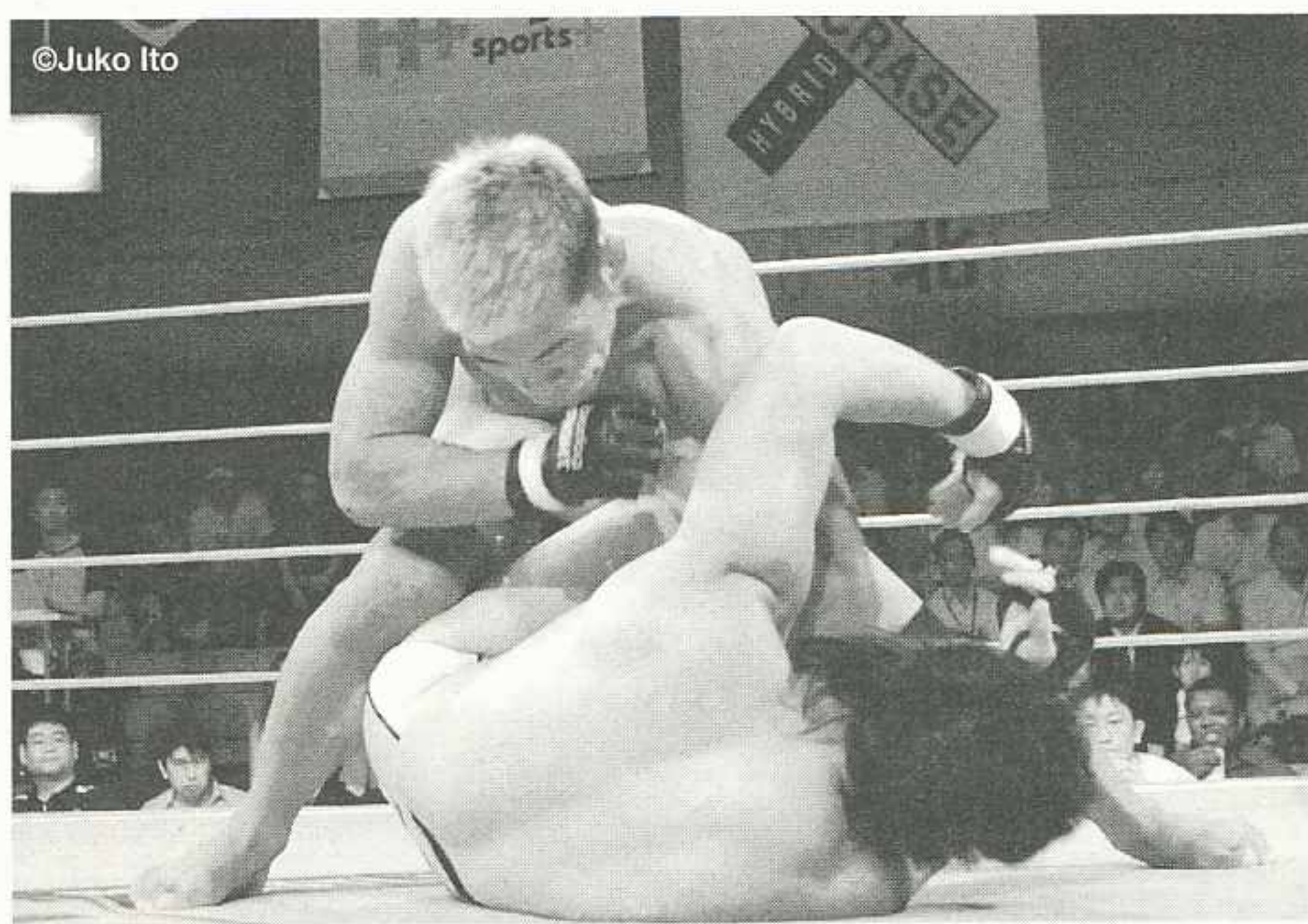
—今回パンクラスに出場したわけですけど、契約中はほかの大会に出ちゃいけないっていうのはないんですか？

福田　最初はそうだったんですけど、日本の大会に関しては話を通して、OKが出たら問題ないっていう契約になってて。最初は2月に試合をして、次が6月にやるって話だったんですけど、なんかズレてズレて9月になって。そんなときにパンクラスさんに話をしてもらって、試合を組んでもらえることになったんです。

—約1年ぶりの日本での試合はいかがでした？

©Juko Ito

約1年ぶりにパンクラスに登場した福田。対戦相手は、メイド服でおなじみのパンクラスの異色ファイター・佐藤光留。会場で師匠の山本KIDが見守る中、ゴングと同時にパンチで圧力をかけた福田はダウン気味に倒れた光留をパウンドでボコボコにし、秒殺勝ち。光留は担架で運ばれた。

福田　やっぱり、知り合いの人とかも観てくれるし、みんな言葉も通じるし（笑）、日本で試合できるっていいなと思いましたね。

—それはあるでしょうね。今回の試合前にAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）やアメリカにトレーニングに行ってたのは、日本では同じぐらいの階級の練習相手が少ないっていうのもあったみたいですね。

福田　そうですね。やっぱり、日本には自分より大きい選手は少ないんで、なかなか、いいスパーリングができないっていうのもあって。

—AKAには山本KID選手も行ってたみたいですけど、何かKILLER BEEでルートがあったんですか？

福田　いや、最初はAKAじゃなくて、（マーク・）コールマンとフィル（・バローニ）とかと話して練習しに行くことになったんです。

—きっかけは筋肉兄弟！　その二人とはどういうつながりで？

福田　一番最初、ハワイで試合したときに会って、それからフィルが『PRIDE武士道』とかで日本に来るたびに、いろいろ教えてくれてたんですよ。それで、1回アメリカにも練習に行こうと思って相談したんですけど、実際に行ったら凄くいい練習になるんで、もうちょっといようと思って、AKAとかランディ（・クートゥアー）のジムとかでも練習してきたんです。

—向こうでは元全日本プロレスで、いまは新日本のNEW JAPAN FACTORY所属の河野（真幸）選手も一緒だったみたいですね。

福田　そうですね。自分がランディのとこのジムで練習してたときに河野さんが来て、ラストの1～2週間はずっと一緒でしたね。

—アメリカでの練習は具体的に、どのへんがよかったですか？

福田　やっぱり、AKAとかはジョン・フィッチやジョシュ・コスチェック、マイク・スウィック、トレバー・ブラングレーとか、UFCでバリバリに活躍してる選手が多いし、ホントにいろいろなタイプの選手と練習できることが一番よかったと思います。

—まだエリートXCとの契約が残っているというのもあるでしょうし、今後も機会があれば海外でトレーニングをしたいっていうのはあります？

福田　いまはGRABAKAさんとか、パワー・オブ・ドリームっていうキックのジムにも行ってて、そこは重量級の選手がいっぱいいるんで、日本でもいい練習ができてるんですよ。

—パワー・オブ・ドリームって、昔、ヤマケン（山本喧一）がやってたジムではないんですよね？

福田　違います。西新井にあるキックのジムですね。

—ちなみにGRABAKAにはどういった流れで？

福田　同じジムの朴（光哲）さんが石川（英司）さんと仲がよくて。それで朴さんに話してもらって、練習に行かせてもらうようになったんです。

—じゃあ普通に石川さんだけじゃなくて、菊田（早苗）さんであったり、三崎（和雄）さんとかとも練習をしてるわけですか？

福田　はい。石川さんを通じて紹介してもらって。

—じゃあ、アメリカまで行かなくても、充実した練習ができていると？

福田　そうですね。やっぱりAKAと

海外格闘武者修行に旅立った男たち

福田力MMA全戦績（07.7.27現在）

- × vs ジョー・ドークセン 判定3-0（04.4.16『スーパーブロウル35』ハワイ）
- ★ 全日本アマ修斗優勝（04.9.20千葉・柿ノ木台公園体育館）
- ○ vs 井上正也 判定3-0（05.1.19 修斗 後楽園ホール）
- ○ vs バザエフ・オレグ 1R 0分28秒 KO（05.6.11 DOG ディファ有明）
- ○ vs ブランドン・ウルフ 2R 2分49秒 TKO（05.7.29 K-1 ハワイ）
- ○ vs 中村勇太 1R 0分57秒 KO（05.11.04 パンクラス 後楽園ホール）
- × vs 瓜田幸造 1R 0分40秒 KO（06.1.26 パンクラス 後楽園ホール）
- ○ vs 圭太郎 1R 4分40秒 TKO（06.4.01 DOG ディファ有明）
- ○ vs 桜木裕司 判定3-0（06.7.28 パンクラス 後楽園ホール）
- ○ vs クリス・ゲイツ 1R 1分18秒 TKO（07.2.10『エリートXC』ミシシッピ）
- ○ vs 佐藤光留 1R 1分09秒 KO（07.07.27 パンクラス 後楽園ホール）

かは行くにしても片道12時間とかかかるし、お金もかかるんで（笑）。

——そうですよね（笑）。で、福田力選手といえば、やはりプロレスファンには、ある意味、伝説となっているＷＪ出身というのが気になるポイントだと思うんですが、どういうきっかけで入団したんですか？

見てみぃ、ド真ん中戦士たちの素敵な笑顔！　長州、健介、越中、健想、福田社長とともに右端に写り込んでいるのが福田だ。こちらは2003年４月のＷＪ道場開き記念餅つき大会での一枚。現在はリキプロ道場となっている、この場所で福田は３カ月間練習を積んでいたのだ。

総合とプロレスは両立できるほど甘くないってわかったのでやめたんです

福田　自分は山梨学院大学でレスリングをやってたんですけど、そこの高田（裕司・レスリング部監督にして日本レスリング協会専務理事）先生がレスリングつながりで長州さんと仲良くて、谷津嘉章さんとは同郷なんです。

——長州さんや谷津さん、あとマサ斎藤さんもそうですし、ＷＪはレスリング出身者が多かったですからね。

福田　はい。それで自分は卒業してもあてがなかったんで……。

——じゃあ、鶴田さんじゃないですけど、ＷＪに「就職します」っていうような感じだったんですか？

福田　就職活動とかもとくにしてなくて、ホント、レスリングしかしてなかったんで。で、総合はずっとやりたかったんですけど、「プロレスやりながらやってみたらいいんじゃないの？」って長州さんとかにも言ってもらえて。ただ、最初はそう言ってもらったんですけど、プロレスはプロレスでホントに厳しい世界なので、両方、中途半端にやるよりかは、どっちかをしっかりやろうと思って、デビュー前にやめちゃったんです。

——一昔前だったら、レスリング出身の選手がプロレス界にっていうのはよくありましたけど、いまはレスリング出身の選手とかも総合へチャレンジする選手が多いですからね。

福田　自分も学生時代は総合が好きで、よく観に行ったりしてたんで。

——結局、プロレスを選んだっていうのは、何か決め手があったんですか？

福田　やっぱり、全然わかんない世界だったんで、興味もあったし……。まあ、ＷＪでの何ヵ月かは、いろんな意味で勉強になりましたね（苦笑）。

——はたから見ててもＷＪは、いろんな意味で勉強になったと思います（笑）。ちなみに福田選手はプロレスファンだった時期もあるんですか？

福田　昔はよく観てましたよ。ただ、格闘技っぽいプロレスは嫌いなんですよ。プロレスやるんだったら、ちゃんとロープに跳ね返らないと。

——あ〜、格闘プロレスのようなものは好きではなかったと？

福田　そうですね。でも、いまは山梨学院の後輩が2〜3人、プロレスやってるんで、雑誌とか見てて載ってたら嬉しいし、やっぱり気になりますね。

——え、後輩がプロレス入りしてるんですか？

福田　ノアの太田一平、あとは全日本プロレスのブルート一生とか大学の後輩です。

——へぇ〜、それは知りませんでした。ＷＪの話に戻りますが、最初に福田選手の入団が発表されたとき驚いたのはその名前なんですよ。当時の社長が福田さんで、名前が長州さんと同じ〝力〟ってことで、さすがにリングネームかなとも思ったんですけど、本名なんですよね？

福田　よく言われたんですけど、本名です（笑）。

——永島（勝司）さんも福田選手のことを「ＷＪの申し子だ」みたいなことを言ってて凄く期待してましたけど、結果的にはデビュー前にやめてしまったわけですが。

福田　やっぱり総合とプロレスを両立できるほど甘くはないなってわかったんで。それで中途半端になっちゃうんだったら、キッチリしたいなと思ってやめました。

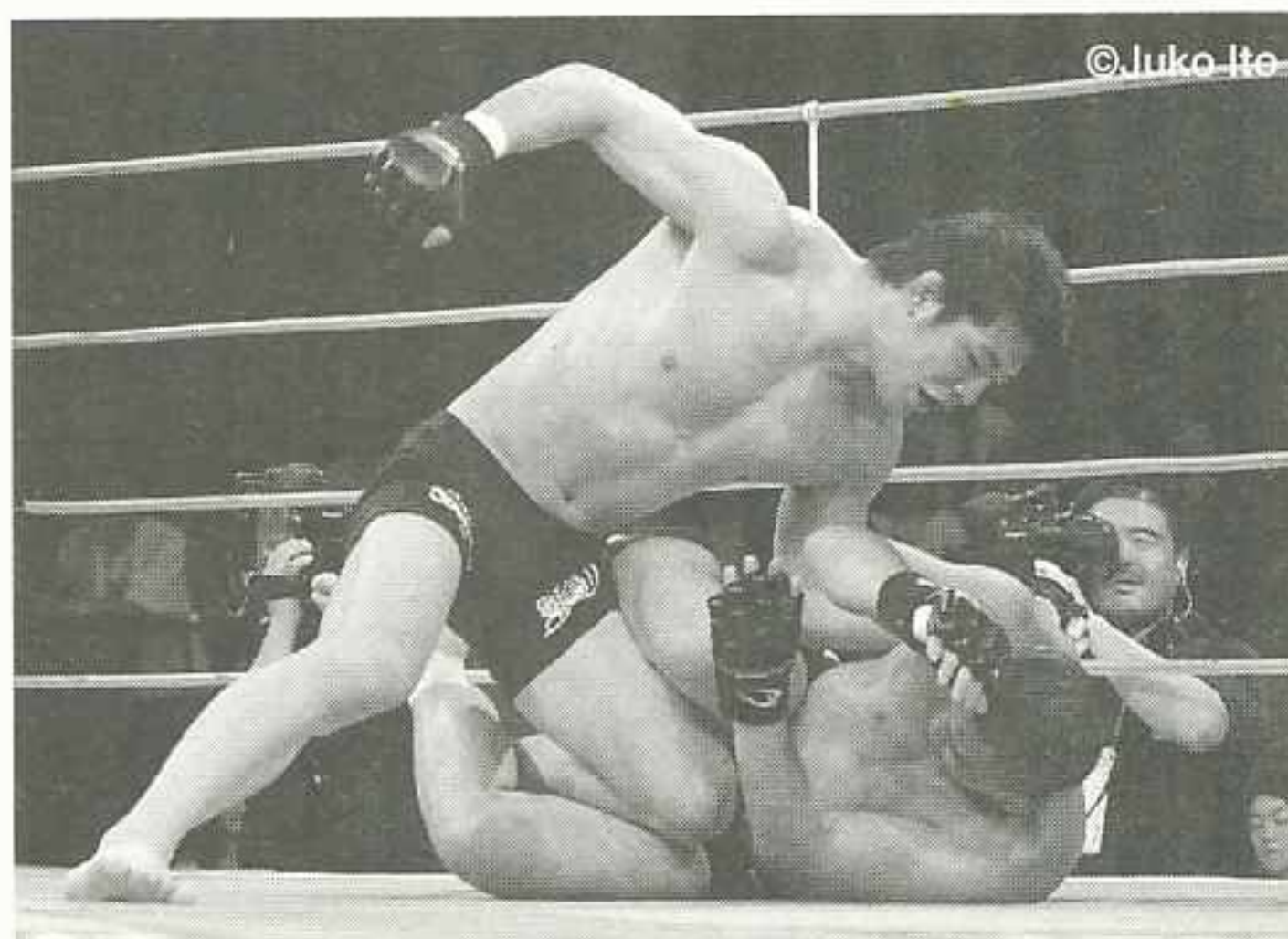
——ＷＪの練習が厳しいっていうのは有名ですけど、一応、両方の練習を自分なりにやってたわけですか？

福田　そうでもなかったです。やっぱり総合をできる人がいなかったので。なのでウェイトやって走って、受け身を取ってみたいな感じでしたね。

——プロレスの練習についていくだけでも大変でしょうしね。

福田　そうですね。食事とかも「とりあえず食え！」って感じで、あの頃は100キロを超えて、人生で一番体重がありました（苦笑）。

——いまより15キロぐらい重かったと（笑）。

©Juko Ito

06年1月のパンクラス後楽園大会で佐山サトルの弟子の瓜田幸造に左フックで、日本人相手に初の黒星を喫した福田。翌年7月、同じくパンクラスで瓜田と同門の桜木裕司と対戦した福田は得意のタックルでテイクダウンを連発し、完勝。マスコミでは長州の元弟子が佐山の弟子にリベンジ成功と報じられた。

福田　そうですね。あの頃はヘビー級でしたね（笑）。

——「とりあえず食え！」っていうのは総合の世界ではあまりないですからね（笑）。確か福田選手は和田（城功）さんと同期なんですよね？

福田　一緒です。あと中嶋（勝彦）クンともちょっと練習してましたね。和田さんにはちゃんこ料理の作り方を1から教わったんですけど。……なんか懐かしいなぁ（笑）。

——一緒に練習してた石井（智宏）選手や宇和野（貴史）選手は、いまは新日本でもバリバリ活躍してますからね。福田選手は実際、ＷＪにはどれぐらいの期間いたんですか？

福田　自分は3カ月ぐらいですね。

——あれ、『Ｘ—１』とかの前にやめてるんでしたっけ？

福田　その前にやめてますね。

——もしかしたら『Ｘ—１』でデビューするのかなと思ってたんですが、気がついたらいなくなっていて（笑）。

福田　そうですね（笑）。

——プロレス界で、よくある脱走とかじゃないんですよね？

福田　脱走はしてないです（笑）。自分がデビューをする前に、そうやって悩んでたのを長州さんは気づいてくれたみたいで……。

——長州さんには総合もやっていきたいっていうことは入団するときから伝えてあったんですよね？

福田　そうですね。デビュー前に「おまえのいまの気持ちを正直に教えてほしい」っていう感じで聞かれて、「自分はやっぱり総合格闘技に挑戦してみたい」って言ったら「おまえにそういう夢があるんだったら、それをやったほうがいい」って言ってくれて。そこからとくに挨拶とかも行けてないんですけど、総合でもっと活躍できたら一回試合を観に来てほしいなと思ってます。

——いまはまだ早いですかね？

福田　まだ実績も何もないし早いでしょうね。でも、自分の中では総合で活躍することが中途半端になってしまったプロレス界や長州さんたちに対する恩返しになると思ってるんで、いまは総合で頑張るしかないと思ってます。

大学時代のノリさん（ＫＩＤ）は、もう神様みたいな感じでした（笑）

ふくだ・りき■1981年1月6日、岐阜県岐阜市出身。大学時代は名門・山梨学院大学でレスリングに明け暮れ、00年・全日本学生選手権グレコ85kg級3位、01年・東日本学生秋季新人戦グレコ85kg級準優勝、同大会フリー85kg級3位、02年・全日本学生選手権フリー96kg級準優勝などの実績を残し、卒業後、ＷＪに入団。デビュー戦直前に退団すると、その後は山本KID率いるKILLER BEEに所属し、総合格闘家として活躍中。182cm、85kg。

——で、ＷＪをやめてから福田選手はＫＩＬＬＥＲ ＢＥＥ所属となるわけですけど、それはどういう経緯で？

福田　ノリさん（山本"ＫＩＤ"徳郁）は自分の大学の先輩なんで。

——ＫＩＤさんは、いくつ上の先輩になるんですか？

福田　自分が1年のときの4年生ですね。

——じゃあ、体育会系のレスリング部としては絶対服従の関係ですよね？

福田　そうですね。もう、神様みたいな感じでした（笑）。

——"神の子"ならぬ"神様"（笑）。

福田　そんな感じで。当時、ボクはノリさんの洗濯担当だったんですよ。

——ＫＩＤさんの洗濯担当（笑）。

福田　それで、なぜかノリさんの靴下とかだけなくなるんですよね。

——それは何か理由でもあるんですか？

福田　いや、なくしちゃうんですよ。ほかの先輩のがなくなるんだったらまだいいんですけど、なぜかＫＩＤさんの靴下とか片方だけなくなって、「すいません」って、よく謝ってましたね（苦笑）。

——普通に会話とかはできたんですか？

福田　いや～、ノリさんは先輩の中でも当時から特別凄いオーラがあったんで、言われたことに答えるのが精一杯で（苦笑）。いまは少ししゃべれるようになったんですけど。

——そんな雲の上のような存在のＫＩＤさんに相談したわけですよね？

福田　そうです。ＷＪをやめたあとに「練習がしたいんですけど」って相談したら「おまえが本気でやるんだったら」って言ってくれて。

——そこから総合の練習を始めて、デビューは２００４年4月のハワイの大会でしたけど、ぶっちゃけ、自信はありました？

福田　総合の練習をして10カ月ぐらいで、自分としてはイケるかと思ったんですけど、実際にやってみたら全然ダメでしたね（苦笑）。

——観客の評判もよかったっていう話ですけど、本人的には満足できるデビュー戦じゃなかった？

福田　ほとんど覚えてないです、殴られすぎて（笑）。でも「おまえはハートがある」ってみんな言ってくれたんですよ。「技術はあとからついてくるけど、ハートは生まれ持ったものだから。おまえはそれがある」って凄い言ってくれて。そのときに総合を選んで間違いじゃなかったな、絶対にこれでやっていこうって思いましたね。

——デビュー戦で負けたのが結果的にはよかった、と。

福田　ホント、凄い勉強になりました。最初に弱い相手とやって簡単に勝っちゃったら、調子に乗ってたかもしれないですけど、最初が厳しかったのがよかったかな、と。プロレスもそうですけど、総合も真剣にやらないと死んでもおかしくない世界なんで、それがデビュー戦で理解できたと思います。

——福田選手の試合は、勝つときは打撃での豪快なＫＯが多いですよね。

福田　いや、たまたまです。寝技の練習もちゃんとしてるんで、一本とか取りたいんですけどね。理想は寝技も立ち技も全部できるようになりたいんで。

——次の試合は9月とのことなんですが、相手は決まってないんですよね？

福田　候補は出てるんですけど、まだ本決まりじゃないんで。それにハワイの大会なので「観に来てください！」って言えないんですけど、ネットか何かでチェックしてください（笑）。

——わかりました。今後の活躍を期待してます！

【07年8月1日／都内「ＫＩＬＬＥＲ ＢＥＥ」にて収録】

“ミルコに挑戦”をブチ上げた男が
K-1トライアウト合格!
そして『AKA』で住み込み修行中!!

河野をマンツーマンでしごく
AKAのキックボクシングコーチ
ジェロムさん

「総合、K-1への挑戦は“理想のプロレスラー”になるための修行です」

うっかりK-1トライアウトに受かっちゃったプロレスラー

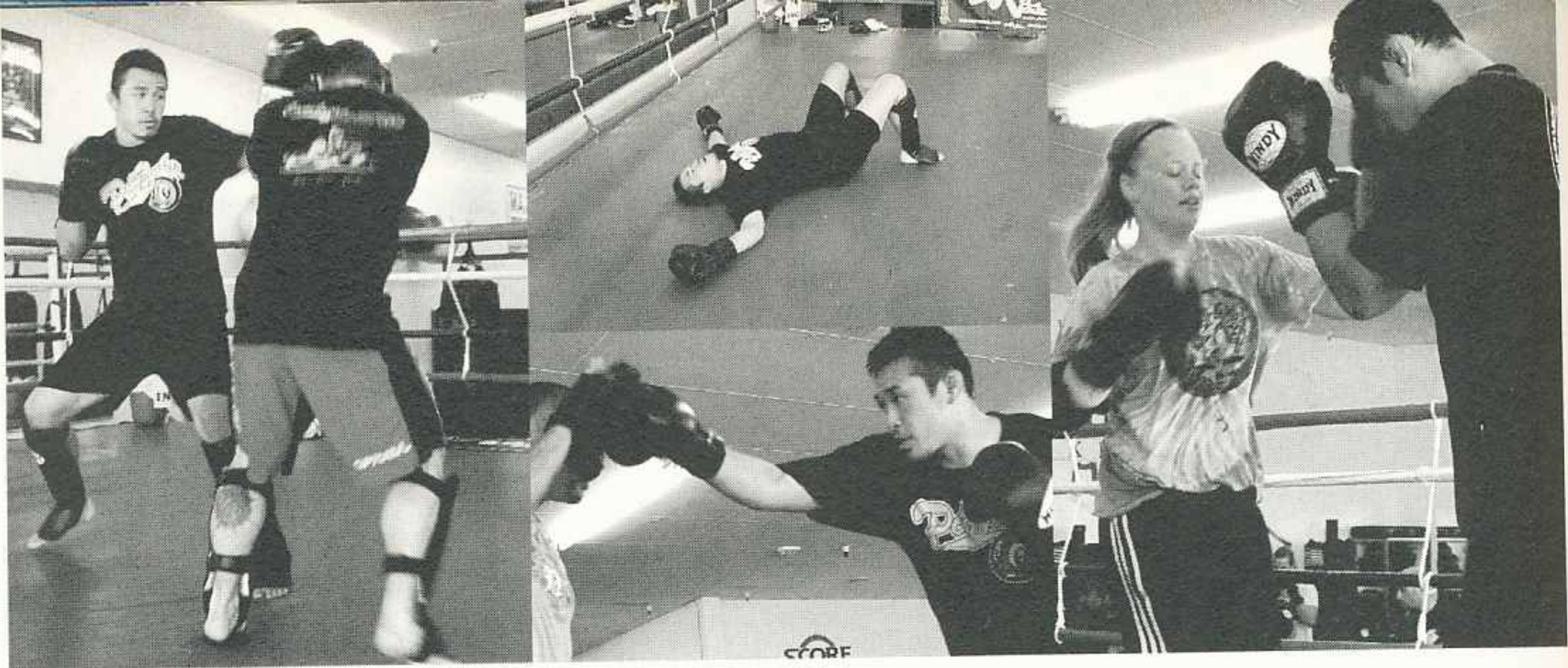
河野真幸

NEW JAPAN FACTORY

03年10月、『PRIDE武士道』が初めて開催される際、公募されていたミルコの対戦相手に立候補した、全日本プロレスの若手レスラーを覚えているだろうか？　それが河野真幸だ。そのミルコ戦は時期尚早として見送られたものの、河野はその後、MMAをやるために全日本を退団。現在は新日本プロレス総合格闘技部門『NJP』に所属し、今年2月には、K-1トライアウトに補欠合格した。そんな河野が今年6月から7月、初のK-1ルール出陣に向け、パンクラスで総合5試合を経験、『NJP』の提携ジムである米国サンノゼの名門『AKA』で住み込み特訓をしているところを本誌が独占取材。格闘技指向のプロレスラー、いまどきの“海外武者修行”の実態に迫ってみた。

聞き手＆撮影／堀江ガンツ

ジムの2階の元事務所に住み込み“ハイジ”みたいな生活ですよ（笑）

ジェロムコーチの指導は、ビリー隊長ばりのスパルタ教育。取材日には、極真の百人組手のように、次から次へとパートナーを変えてスパーリングが果てしなく続くという、ハードトレを行なっていた。対戦相手には女性の姿も。

河野　いやぁ、ボクなんかのために、遠いところまで来てもらっちゃってすいません。なんでわざわざ取材に来てくれたんですか？

——いや、べつに河野選手のためというか、ズバリ言ってしまうと、UFCサクラメント大会（7・8『UFC73』）に来たついでに、サンノゼまで足を延ばしてみただけです（笑）。

河野　やっぱりそうですか！　でも、取材していただけるだけありがたいですよ。ここAKA（アメリカン・キックボクシング・アカデミー）には、『GONKAKU』さんとか、高島学さんも来ましたけど、ボクにはまったく興味がない感じでしたから（笑）。

——まぁ、そうでしょうね（笑）。では、自動的に本誌独占インタビューということで、よろしくお願いします！　こちらに来て1カ月らしいですけど、もう慣れましたか？

河野　慣れるわけないですよ～。身体はキツくなる一方です！　でも、だいぶジムのみんなの名前がわかるようになったし、ボクの名前も覚えてもらって、からかってもらえるようにはなりましたね。

——AKAに来たばかりの頃は、精神的にも肉体的にもキツかったんじゃないですか？

河野　そうですね。ホントに誰一人、日本語をしゃべる人がいないんですよ。去年、ロス道場（イノキ・ドージョー）に行かせてもらったときは、まだ日本語が通じたんですけどね。練習はなんとか大丈夫なんですけど、私生活が……。

——具体的にどんな部分ですか？

河野　基本的に何を言ってるのかわからないんで、買い物に行っても「イエス」か「ノー」しか答えないわけですよ。それがハンバーガーを買おうと思ったとき、こっちのハンバーガー屋って、焼き方を聞いてくるんですよね。

——ステーキとかと同じで、レアとかミディアムとか指定できるんですよね。

河野　でも、何言ってるかわからないんで、「イエス」ばっかり言ってたんですよ（笑）。

——「焼き方どうしますか？」「イエス！」みたいな（笑）。

河野　それで「こいつダメだ」みたいな顔されて（笑）。なんであきれられてるのかずいぶん経ってから気づいたんですけどね。

——ハンバーガー一つ買うのに苦労してるわけですね。こちらでのお住まいは、大変素晴らしい環境らしいですね？（笑）。

河野　はい。ジムの2階です（苦笑）。

——練習するには最高の環境で（笑）。

河野　練習するには最高なんですけど、生活するには最低ですね。徒歩10秒というか、階段10段ぐらい降りたら、もう練習場ですから。

——最低ですか（笑）。

河野　だって最初にジムにきて、「おまえが住むところ、ここだから」って、2階に連れてこられたときは、元・事務所、現・物置みたいなところでしたからね。誰かが着てた道衣とか荷物が、乱雑に置いてあるだけで。屋根裏に住み始めたハイジみたいなもんですよ（笑）。

——自分で干し草のベッドを作って、みたいな（笑）。

河野　まさにそうですよ。なんとか寝るスペースを作らなきゃいけないんで、自分で片づけて掃除して。あとはエアベッドを買ってきて、毎日それをふくらませて寝てるんですよ。

——毎日が“仮眠”みたいな感じですね（笑）。

河野　ホントそうですよ。エアコンは壊れてたから、扇風機買って。冷蔵庫もなかったんで、「冷たい水すら飲めないのはキツいな」と思って、小型の冷蔵庫を買ってきたりね。ようやく少し、人間らしい生活ができるようになってきましたけどね。

——いやぁ、“武者修行”らしくていいですねぇ（笑）。

河野　ボクと永田（克彦）さんの違いは、まずそこですからね（笑）。

——同じ『ニュージャパン・ファクトリー』の所属選手でも、永田さんはホテル住まいで、河野さんはジムの屋根裏でハイジ生活、と（笑）。

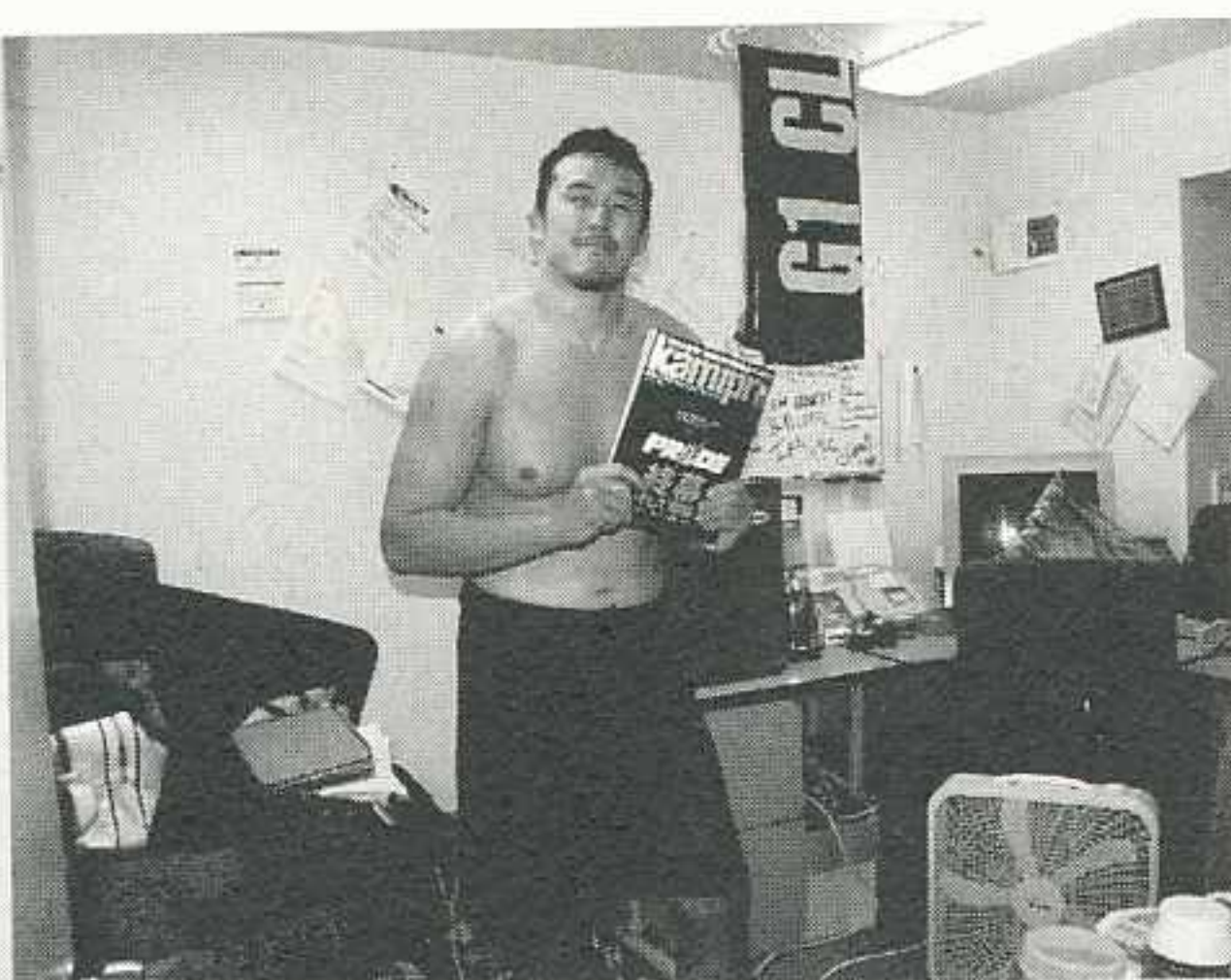
河野　エリートと雑草の違いを海外に来ても痛感してますよ。

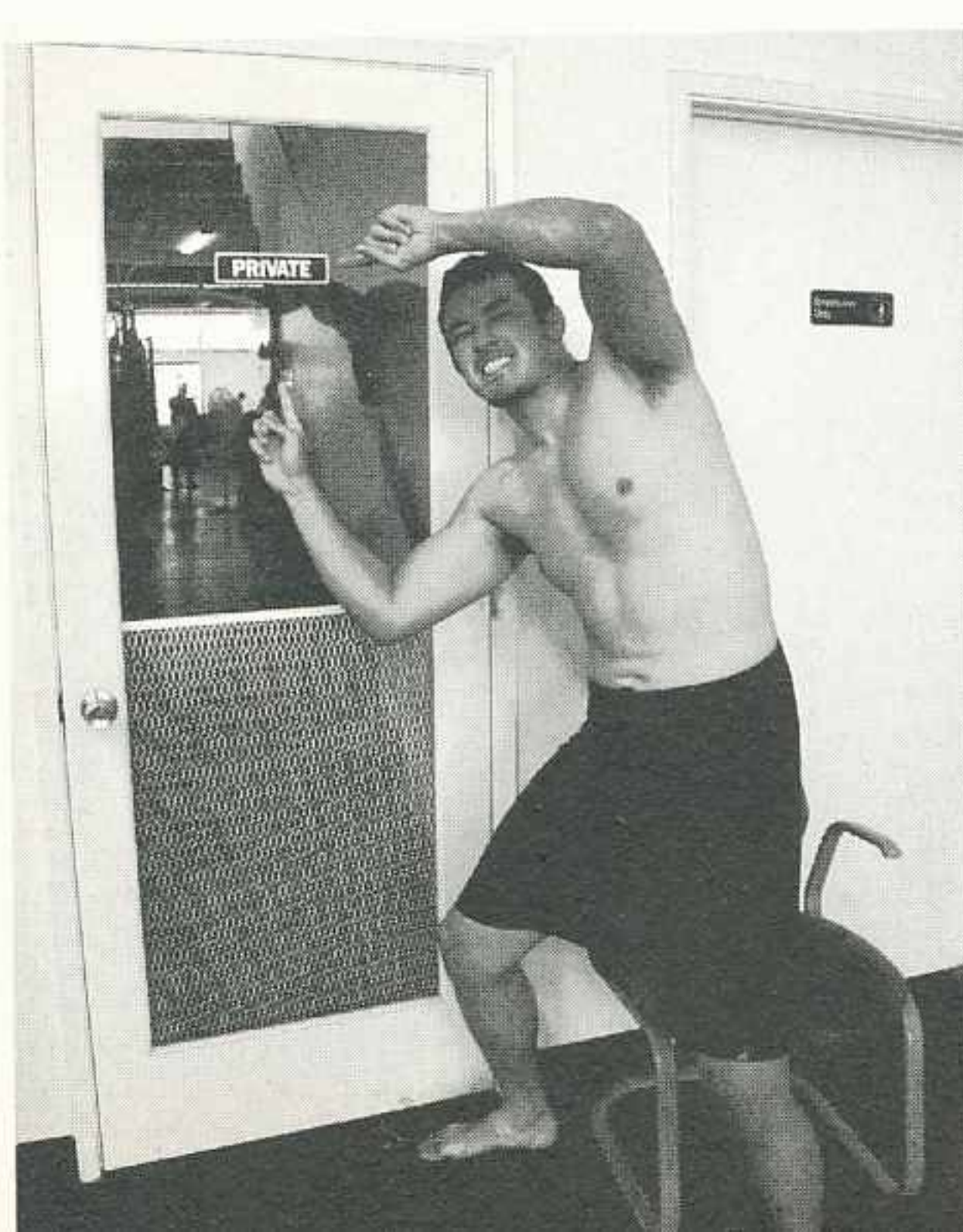
——でも、練習環境は“エリート”と一緒だから、いい練習にはなるんじゃないですか？

河野　いい練習すぎますね。ここは、みんなUFCに出てたり、ストライクフォースの上のほうでやってる選手ばっかりですからね。正直言って誰一人、ボクが勝てる選手っていませんから。ケチョンケチョンにやられて、少しずつ身体で覚えていく感じですよ。

——こっちのシステムとしていいところはなんですか？

河野　いいところっていうか、こっち

海外格闘武者修行に旅立った男たち

AKAのジムの奥、「PRIVATE」と書かれたドアを開け、階段を登ると、そこが河野の住みか。一見、パソコンなどがあり、設備が整っているように見えるが、これは元が事務所だったというだけ。物置状態だった部屋に無理矢理住んでいるのだった。

今年2月、"K-1版『ジ・アルティメット・ファイター』"K-1トライアウトに挑戦。あのUWFヘビー級王者・入江秀忠が落選するほどの激戦区をくぐり抜け、補欠合格となった河野は、続いて5月の合宿にも参加し、見事に合格。この号が出る頃には終わっているが、8.16『K-1TRYOUT2007』ディファ有明大会に出場した。はたしてどうなった？

のスパーリングはガチガチでやりますからね。

——あのメンバーとガチガチでやるって、実戦並みにキツいでしょうね（笑）。

河野　最初はK―1の試合に出るって言ってなかったんですけど、それが発覚してからは「おまえ、総合の練習してる場合じゃないだろ」ってことで、ひたすらキックの練習させられてます。

——なんでも会長のハビア・メンデスに「おまえ、それでホントにK―1出るの？」って言われたらしいですね（笑）。

河野　そうです。こっちに来て3日目ぐらいに、「K―1の試合が決まってる」って言ったら、コーチ陣が「リアリー？」「シリアス！」「プロブレム！」って眉をひそめて大騒ぎになりましたね（笑）。そしたら、ハビアが「打撃の練習だけやれ。このままじゃ、K―1の試合なんかできない」って言われて。確かに素人みたいなもんですからね。打撃の試合なんてやったことないし、これまで総合だって、なるべく立ち技の展開にならないように、ごまかして5試合こなしたようなところありましたからね。

——なぜ、それなのにK―1トライアウト受けたんですか？

河野　これはぶっちゃけ、横綱（曙）のマネージメントをやってるK―1の渡辺さんから電話がきて、「トライアウト受けてみない？」って言われたんですよ。それで、僕に話が来たのもなんかの縁だと思って、2月に受けたんですけど、打撃の素人が受かるわけもなく、見事に補欠で。

——まぁ、立ち技初めてですからね。

河野　周りを見れば、普通にキックのプロの選手もたくさんいましたからね。中には「日本人育成プロジェクト」のはずなのに、日本人じゃない人もいましたから（笑）。もう何がなんやら。でも、補欠ながら5月の合宿に参加させてもらったら、合格して「8月に試合に出てもらいます」ってことになったんで、「こりゃまずいな」と（笑）。

——こりゃ大変だ、と（笑）。

河野　でも、乗りかかった船だからしょうがないですからね。でも、なんで受けたのかな……。

——じゃあ、こちらでの練習もK―1の試合に出ることがバレてから、かなりキツくなったんじゃないですか？

河野　そうですよ。いままではお昼からの合同練習に出ればよかったんですけど、キックボクシングのコーチであるジェロムさんがついてくれることになって、合同練習前に、毎朝9時か10時からスパーリングですよ！　昨日だって日曜日なのに、ボクだけ練習ですよ。なぜかジェロムさんが土曜の夕方に「トゥモロー、10AM！」って言って帰りましたからね。

——いま一日のスケジュールはどんな感じなんですか？

河野　朝10時からジェロムさんのマンツーマン特訓をやって、スパーリングやって。11時から、今度はジェロムさんがやってる、キックボクシングのクラスに出て、さらに12時から休まず合同練習。それが2時ぐらいまで。アホみたいですよ！

——キックボクシングの練習を朝から4時間ぶっ続けって、死にますね（笑）。

河野　死にます（キッパリ）。もう、それだけでボロボロなんですけど、ジェロムさんのクラスは夜もあるんですよ。それにも出るんで、朝も夜も練習漬けですね。

——じゃあ、メシ食って昼寝したら、また夜の練習ですか。

河野　それが昼寝ができないんですよ～。ボクの住みかはご存知のとおり、ジムですから。常に周りがドタバタしてうるさいですから、寝れたもんじゃないです。無理矢理、寝ようとするんですけど、なかなか眠れないんで。しょうがないから、週に2回ぐらいは、昼間もゴールドジムに行って、ウエイトやったりしてますけどね。

——練習熱心ですね！

河野　悲しいかな、練習しかやることがないんですもん！

——じゃあ、こっちにいて何か楽しみはないんですか？

河野　楽しみは、休日におもちゃ屋に行くことぐらいですかねぇ。

——寂しいですねぇ（笑）。

河野　寂しいでしょ？　ホントに寂しいです。

——こっちで試合してみたい気持ちは

海外格闘武者修行に旅立った男たち

ガチンコをやったことないのがコンプレックスだったんですよ

ないですか？　総合でもキックボクシングでも。

河野　試合はやりたいですね。日本だとヘビー級の相手がなかなかいないんですけど、こっちならいくらでもいますからね。ローカルの小さい大会でもいいんで、出てみたいですね。たぶんジムに言ったら出してもらえると思うんで。

――いい経験になるんじゃないですかね。

河野　アメリカでケージファイトやったプロレスラーって、佐々木（健介）さんぐらいですもんね。

――そういえば、健介さんは伝説の『X―1』の前に、アメリカでもケージファイトやってるんですよね。

河野　あ！『X―1』といえば、このあいだAKAに（ブライアン・）ジョンストンさんが来ましたよ。石沢（常光）さんと一緒に。石沢さんが、ちょうどジョンストンさんのところで練習されてたみたいで。

――へぇ～、カシンさんもアメリカで練習してたんですか。河野選手は、もうプロレスはやる気ないんですか？

河野　いや、ボクはプロレスが一番好きなんですよ！　大好きですよ。ホントはプロレスがやりたいんです。

――じゃあ、なんで総合やったり、K―1やったりしてるんですか？

河野　最初は「ミルコとやりたい」って言ってしまった手前、総合やらなきゃ口だけになっちゃうってことですよね。こんな若造の戯言なんて、無視されるかと思ったんですけど、『kamipro』と『ファイト』が取り上げちゃったもんだから（笑）。

――あ、ウチのせいですか（笑）。

河野　そうですよ！　それで武藤さんに控室でビンタ張られて。「てめぇ、何がミルコだ！」って怒られて（笑）。ホント、『kamipro』のせいですよ。口だけで終わりたくなかったし、軽い気持ちで言ったわけでもなかったんで。それで武藤さんに相談したら「わかった。頑張れよ」ってことで、全日本を退団したんですよ。

――でも、そもそもなぜ、ミルコに挑戦したいと思ったり、総合やりたいなんて思ったりしたんですか？

河野　やっぱり、理想のプロレスラーに近づくためには、どうしても必要だなって思っちゃったんですよね。俺が小さい頃観ていたプロレスラーは、カッコよくて、強かったんですよ。でも、俺は強くないし、カッコよくないなって思って。

――強くなるために、総合をやるしかない、と。

河野　あと、周りのプロレスラーはみんな柔道やアマレスで、格闘競技の世界を知ってプロレスに入ってきてるのに、自分はバスケットボール出身ですからね。ガチンコをやったことがないっていうのがコンプレックスだったんですよ。それもありましたね。

――自分の心のバックボーンを作りたいという思いもあるわけですか。

河野　気持ちが強くなれれば、プロレスで何が起きても対応できるんじゃないかって。格闘技で培った技術をプロレスで使おうとは思いませんけどね。

――プロレスと格闘技は別物だけど、総合格闘技の経験がプロレスにきっと役に立つ、と。

河野　プロレスと格闘技では、全然違う難しさがありますからね。格闘技はゴールはわかるけど、たどり着くまでがもの凄く大変なんですよ。でも、プロレスはいっぱいゴールはあるし、どのゴールが正しいかわからない（笑）。プロレスはいろんなプロレスがあって、勝てばいいわけじゃないですから。

――その両方を学ぶっていうのは、大変ですよね。

河野　そうですね。だから、そのどっちも一人前じゃない自分が、プロレスと総合の両方やるのは、どっちにも失礼だと思ったんで、いまは格闘技一本で頑張ってるんですけどね。どこまでやれるかわからないですけど、頑張りますよ！

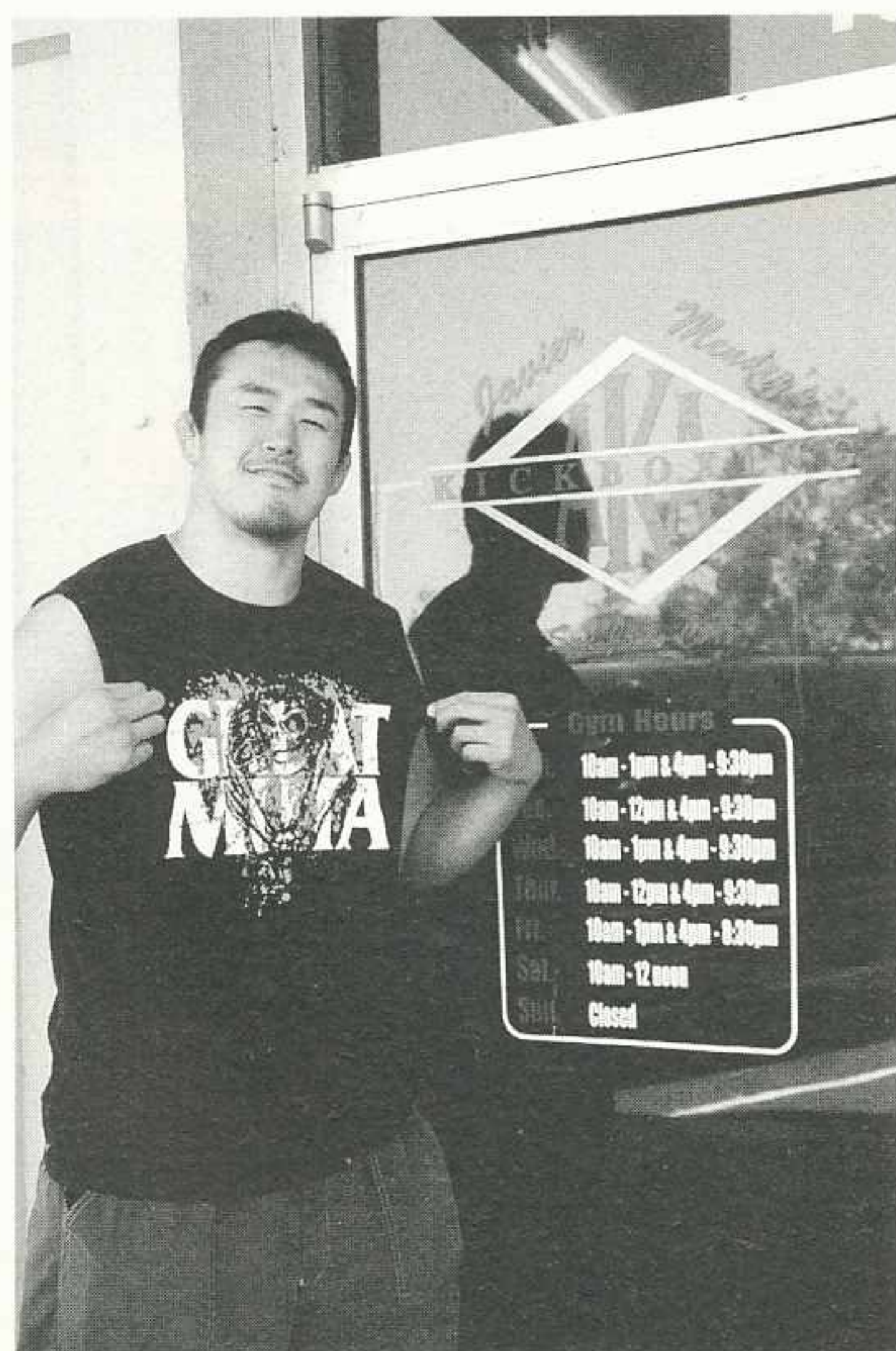
――わかりました。では、サンノゼでの〝ハイジ生活〟を堪能してください。ありがとうございました！

【07年7月10日／米国カリフォルニア州サンノゼ、AKAの隣にある寿司屋にて収録】

全日本プロレスを退団した河野は、パンクラスのリングで総合格闘家として再デビューし、3勝2敗の戦績を収めている。AKAではキックボクシングのトレーニングを受けていたが、総合格闘技を再開するのはいつか。

河野真幸MMA全戦績(07.7.27現在)

○vs玉海力　1R1分10秒　レフェリーストップ(05.07.10 横浜文化体育館)
×vsアスラン・デゼボエフ　1R4分9秒 TKO(05.10.02 横浜文化体育館)
○vsティモール・アリエフ　1R3分46秒 TKO(06.05.02 後楽園ホール)
○vsダニエル・リオンズ　1R3分46秒 TKO(06.09.16 ディファ有明)
×vsチェ・ムベ　2R1分36秒 TKO(06.12.02 ディファ有明)

こうの・まさゆき■1980年4月12日、北海道登別市出身。03年3月、全日本プロレスでデビュー。体格に恵まれ将来を嘱望されたが、04年10月、ミルコ・クロコップの対戦相手に名乗りを上げたのをきっかけに、総合格闘技挑戦を志し、全日本プロレスを退団。05年7月にパンクラスで総合格闘家として再デビューを飾り、現在MMA戦績5戦3勝2敗。今年2月にK-1トライアウトに応募し、補欠合格となった。『NEW JAPAN FACTORY』所属。192cm、108kg。

サムライ無念! やっぱり嵐は起きなかったって……

越中詩郎G1クライマックス反省会!!

ガタガタ言うなって!

初日は無敵伝説、初出場に弱い……“G1越中の法則”次々と的中!

構成/真下義之　撮影/平工幸雄　写真協力/新日本プロレス

結果

2勝3敗 4点

Bブロック(同率)4位

※勝ち○=2点、負け×=0点、引き分け△=1点

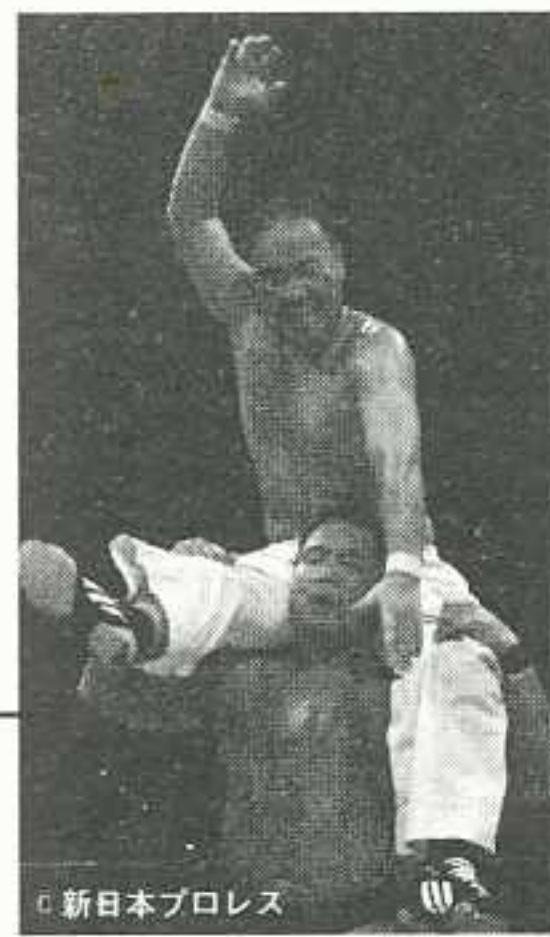
Bブロックリーグ戦	中西	棚橋	中邑	越中	矢野	ミラノ	得点
中西　学	＼	○	×	×	×	○	4
棚橋弘至	×	＼	△	○	△	○	6
中邑真輔	○	△	＼	×	○	○	7
越中詩郎	○	×	○	＼	×	×	4
矢野　通	○	△	×	○	＼	×	5
ミラノコレクションA.T.	×	×	×	○	○	＼	4

1日目　中西学に勝利 ○

初日はやっぱり“無敵”なんだって!!

やはり越中の“初日最強伝説”は今年も生きていたって！　初日に中西を撃破した越中は「このまま全勝で行ってやりますよ！ 間違いなく全勝で行ってやるって！」と勢いに乗って、やるって節も弁舌なめらかに絶好調！

本誌前号（No.113）の『越中詩郎G1全成績』では初日勝率が脅威の75パーセントをハジキ出していた越中が、またもやパーッ！ と真夏の花火を豪快にブチ上げた格好だ。

その反面、例年どおり初日は大物食いで盛り上げる“万年ダークホース”へと急降下する危険性もあるから、そう喜んでもいられないハズだが、「いま風がこっちへ来たって！ 熱い風がこっちへ来たって！」とひとまずは喜びを爆発させていた越中だった。

8月5日（日）大阪・大阪府立体育会館
○越中詩郎（1勝=2点）vs中西学（1敗=0点）×
［10分30秒　ジャーマンスープレックスホールド］

©新日本プロレス

2日目　ミラノコレクションA.T.に敗北 ×

またも“初出場”に白星献上だって!

だから、あれほど気をつけろと言ったんだって！ いまや越中フリークなら誰でも知っている越中詩郎の最大の弱点といえば、“G1初出場の選手に弱い”こと。

本誌前号（No.113）でも口を酸っぱくして言ってきたこの“取りこぼし”の傾向。ある意味、もっとも大切に闘わなければならなかったこの一戦だったのだが、越中はミラノの“透明犬”ミケーレを観客席へと投げ込むなど、序盤から無法ファイトを展開！

この姿勢が裏目に出たか、最後はモンキーフリップの体勢を上から押さえ込まれて屈辱の3カウント。試合後にはミラノに「相手はケツしかないってわかっていたから（中略）俺を甘く見すぎだよな」と断言される始末だって！

8月6日（月）静岡・ツインメッセ静岡
○ミラノコレクションA.T.（2勝=4点）vs越中詩郎（1勝1敗=2点）×
［10分29秒　エビ固め］

4日目　矢野通に敗北 ✕

同門相手にやっぱり"白星献上"だって！

「矢野を見ていると、なんか楽なほうへ楽なほうへ行っているよね。きっちりやっつけてやるよ！」と当初はGBH同門対決にも、自信満々の様子だった越中。

だが、この勝負どころで越中フリークが懸念していた維震軍特有の「どうぞどうぞ」精神が発揮されてしまった？

渾身のヒップアタックも矢野のイスで迎撃された越中は、ペースをつかめずに矢野に敗北。その上、試合後の矢野は感謝の意を述べるどころか、「いつまでも先輩づらしてんじゃねぇぞ、このクソ越中！　俺の下でカバン持ちから始めろ！」と暴言まで吐かれるのだからサムライの心がGBHから離れちゃった（8.11両国で蝶野の新軍団に加入）のも当然だって！

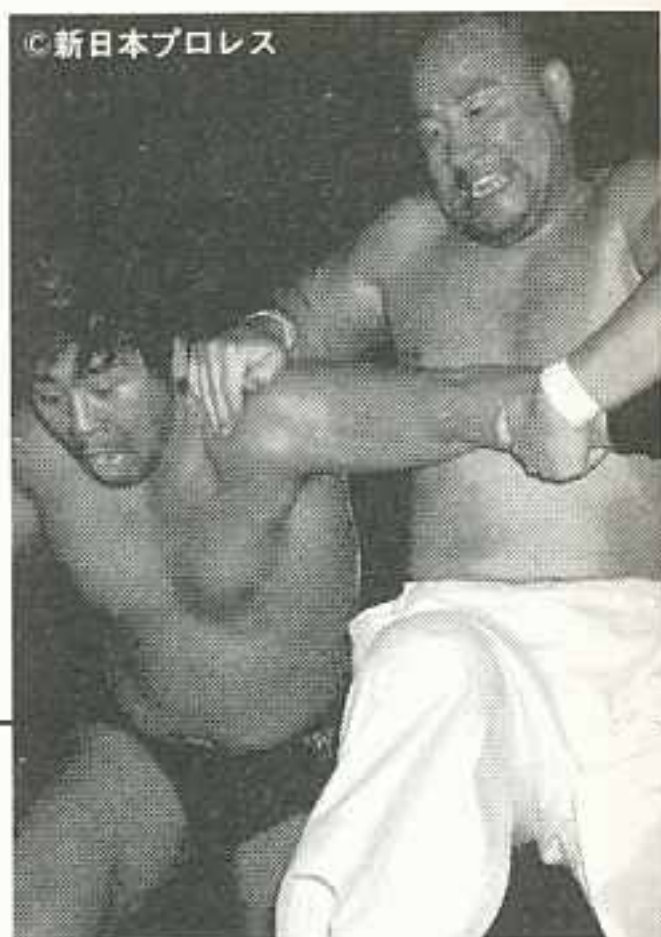
8月10日（金）愛知・愛知県体育館
○矢野通（2勝1敗1分=5点）vs越中詩郎（2勝2敗=4点）✕
［9分52秒　鬼殺し→片エビ固め］

3日目　中邑真輔に勝利 ◯

まさかの侍ドライバー'84で激勝だって!!

過去のデータでは、じつにG1公式戦の勝利の80パーセント以上を"パワーボムのみ"で飾っている越中。だが今年は初日にジャーマンで勝利！　また本誌前号（No.113）のケンドーコバヤシ＆せき詩郎の座談会では「最近、この技で勝ったのを見たことがない」とボヤかれていた幻の技・侍ドライバー'84で"優勝候補"の中邑から劇的勝利だって！

前述の座談会で熱望されていた新技"サムライ・ロック"は不発だったものの、パワーボム一本やりからの確実な進化を見せた越中は「いま熱い風が来てるから、名古屋と両国のファンは"うちわ"か"携帯扇風機"を持ってきたほうがいいって！」とまたもや上機嫌で、やるって節を炸裂させていた。

©新日本プロレス

8月8日（水）神奈川・横浜文化体育館
○越中詩郎（2勝1敗=4点）vs中邑真輔（1勝1敗1分=3点）✕
［10分34秒　侍ドライバー'84→片エビ固め］

6日目　長州と熟年タッグ結成

棚橋G1初優勝、これでいいのかって!?

伝統のG1決勝戦も、夢を失なった越中フリークにはもはや消化試合にすぎないって！　だがこの前日に突如として、蝶野が「いまこの指にとまるヤツらがいる」とアピールして結成した熟年新軍団にライガー、マシン、長州らと加入していた越中。この日はさっそく長州とタッグを組んで"黒袴"で暴れまくっていた。

またG1決勝戦は準決勝で真壁刀義を破った棚橋と、同じく中邑真輔を破った永田裕志が決勝で激突。試合を制したのは、終盤でドラゴンスクリュー5連発を爆発させながら足技にはいかずに、おなじみハイフライフローで試合を決めた棚橋。両国に棚橋の「皆さん、愛してま～す！」の声が鳴り響いた。

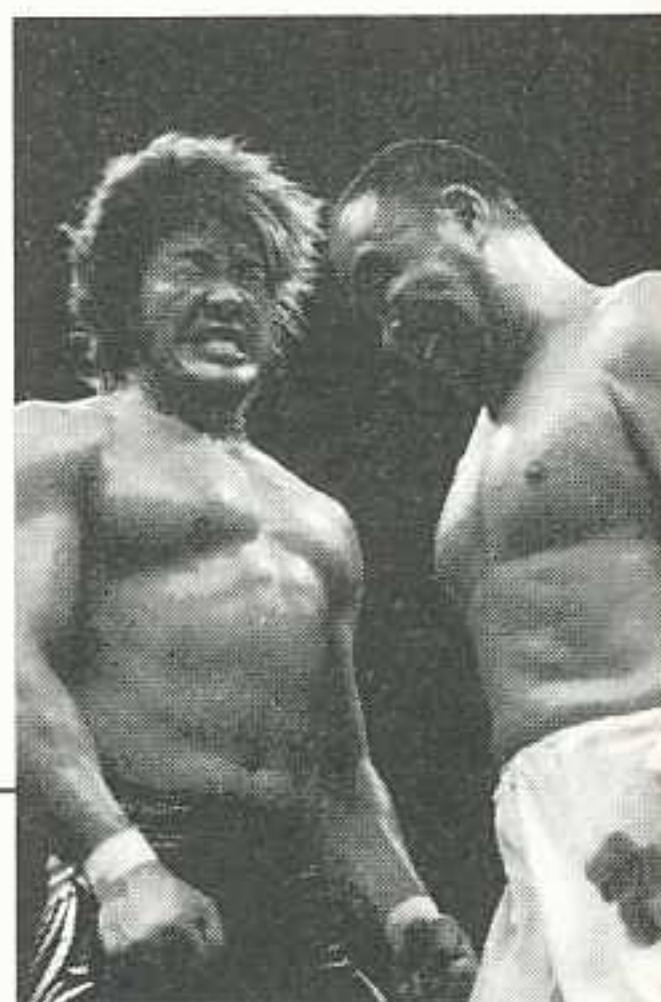
8月12日（日）東京・両国国技館
［G1 CLIMAX 決勝 時間無制限1本勝負］
○棚橋弘至vs永田裕志✕［19分2秒　ハイフライフロー→片エビ固め］

5日目　棚橋弘至に敗北 ✕

5日目はどうしても勝てないんだって！

ついに公式リーグ最終戦。ここで勝てば決勝トーナメント進出となる越中は、この試合限定でヒール宣言したブラック・タナ（黒コスチュームの棚橋）とメインで激突。だが過去データで、5日目は"勝率0パーセント"という超ネガティブ要素を持つ越中だけに不安が尽きることはない。

案の定、試合終盤でそんなことしてる場合じゃないのに、パワーボムで両腕を掲げた勝利ポーズも爆発！　最後は棚橋のハイフライフローで敗北し、またも勝率0パーセント伝説を更新した姿に会場の越中フリークも打ちひしがれた。

さらに棚橋は「越中詩郎を堪能しました、もう腹いっぱい」とやんわり再戦拒否。俺たちはまだ堪能してないって！

8月11日（土）東京・両国国技館
○棚橋弘至（2勝1敗2分=6点）vs越中詩郎（2勝3敗=4点）✕
［17分04秒　ハイフライフロー→片エビ固め］

衝撃！ 元『週刊ゴング』戦争が勃発!?

二派分裂で同時創刊！ おなじみGK隊長は新雑誌『Gリング』を発売！

夏の終わりに『ゴング』戦争が勃発だって！　なんと元『週刊ゴング』スタッフが二派に分裂！それぞれが9月5日、同日に"ゴング魂"あふれる新雑誌を創刊するというから驚きだ。

一つは"ドクトル・ルチャ"こと清水勉氏が編集長の『Gスピリッツ』（辰巳出版）。ノア、新日本プロレス、全日本プロレスらの協力で"週刊誌ではできない"超ロングインタビュー企画や、長州力やサスケのコラムも連載し、お宝映像DVDもついて1,050円（税込）で発売する。

ここに対抗するのが、本誌『GKスペシャル プロレス探検隊』の隊長こと、"GK"金沢克彦氏がプロデュースする『Gリング』（大都社、写真）。あの"ミスター・ゴング"竹内宏介氏を最高顧問に迎え、正統なゴング後継者をアピール。執筆陣も桜井康雄氏、そして菊池孝氏、門馬忠雄氏らを迎えて伝説の企画『三者三様』が復活！　また井上譲二氏に、本誌ではとんとごぶさたのターザン山本！氏も登場！　イメージガールとしてGKがゾッコンとウワサの夏目ナナも参戦！　こちらは定価880円（税込）で発売。いったいどちらが真の"ゴングの魂"継承者なのか？なぜか本誌が次号で白黒つけます!?

総括　48歳の初優勝ならず……

日本経済の損失だって!!

棚橋の優勝で、"48歳のG1初優勝"の夢もあえなく散った今年のG1。でも、これでいいのかって？

そこで、もし越中が優勝していたら……と妄想してみよう。「越中ブームの着火点である『アメトーーク！』では越中特集が組まれ、異例の高聴率を獲得！」。さらに「ケンドーコバヤシとの共著『やってやるって!』も緊急重版！　驚愕のベストセラーとなって、映画化決定!!」。そして「越中愛用の"必勝ハチマキ"が東急ハンズで爆発的なセールスを記録！」。ついでに「越中フリークのせき詩郎（せきしろ）さんの『去年ルノアールで』のDVDの売上げも急上昇！」。もちろん「『東京スポーツ』の一面も奪取！（棚橋優勝は裏一面）」……といいことづくめ！

空前の越中景気に日本中が沸き返り、その経済効果はざっと見積もっても700億円以上（!?）。これは越中が大ファンの阪神タイガースが優勝した際の経済波及効果のほぼ半分。突然DJをやったり、突然滝に打たれたりと方向性の定まらない棚橋とでは重みが違うんだって！

新 卓球少女(仮)松下ミワの ハガキ愛ランド

「汗をかけば治る!」……って、ブラック・ジャックもビックリの発言が飛び出すようなこの世の中。よくわからないけど、素敵です!! 人生の傷だって、汗をかけば治る! アイツの拳の痕も、汗をかけば治る! そんな感じで今日も楽しくいきましょ〜。それではハガキページ、スタート! 3、2、1、発汗、発汗、う〜、絶好調!!(無理)。

kamipro113号へのお便り紹介

ダナのインタビューが興味深かった。テレビ放送契約とスポンサー契約を結んで初めて『PRIDE』がスタートすることを知りました。そしてテレビ放送がうまくいかないことも。少しでも『PRIDE』の動きについてわかったのがよかったです。
【福島県・紺野春樹さん・会社員・27歳】

⬇『PRIDE』もないし、UFCも観られない日本の環境だと、MMAファンは飢死しちゃいますねえ〜。

ハントは『北斗の拳』でいうと雲のジュウザ。雲のごとく自由に移籍すると思っていたので、『PRIDE』のベルトにこれほど思い入れがあったとはビックリでした。雲のように自由だからこそ、狙った獲物は逃さないのかな?
【山口県・田平俊一さん・高校生・17歳】

⬇『PRIDE』再開を望む選手の声が各方面から挙がる昨今。ジョシュのように「あれはイリュージョンだった」とIGFに参戦する選手もいるようですが……。いったい全体、どうなるんだか〜?

USAcool宅急便の記事は興味深かった。でも、ソクジュの情報は残念。ホジェリオ、アローナ連破で実績は充分だと思うのだが……。ヒョードル、ショーグン、ヴァンダレイは確実にUFC参戦となってほしい。
【東京都・佐藤望さん・会社員・46歳】

⬇ショーグンは9月22日『UFC76』で、あのTUF出身の人気ファイター、フォレスト・グリフィンと対戦が決定しております。ヒョードル、ヴァンダレイの行く先は……? まだまだ選手の動向から目が離せませ〜ん!

榊原さんのトークショーの記事がよかった。『PRIDE』=榊原代表という印象をあらためて感じる日々です。いま『PRIDE』はどうなっているの? とファンは不安に思っているので榊原さんが表舞台に出て話すことに期待していたのですが……。さすがに未来につながるような発展はないようで残念です。代表の行動がどれだけ『PRIDE』を動かしていたのかを痛感します。
【鹿児島県・友井川真理さん・会社員・33歳】

⬇「『PRIDE』の今後を語ってほしかった」という意見が多数集まった榊原元PRIDE代表の記事。トークショー当日は『GONKAKU』の記者さんもお忍びでいらっしゃったようで、大盛況でした。皆さま、ありがとうございました!

帰ってきた「すてきな奥さん2007」がおもしろかったです。永田ちえこさんもキレイですねえ。煮え湯を飲まされ続ける永田さんをこれからも支えてほしいと思います。次は吉江選手の奥さんで。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・40歳】

⬇すてきな奥さん2007特集は『kamipro』No.113でもトップの人気ぶり! やっぱり、レスラーのプライベートは注目度が高い。

小佐野さんのインタビューが勉強になった。天龍が負けたり、ハードゲイの格好をしたりすることは、こんなに人を混乱させるんだなあと興味深かった。そう考えると、『ハッスル』も真面目に観ないといけないなとあらためて思った。
【静岡県・TAJIMAさん・専門学校生・20歳】

⬇ぜひ"真面目"に観てください。

ソクジュの記事がよかったんだけど……。こんなにおいしいネタ(ソクジュ)にしてはページが少なすぎ! 少しくらいハッタリでいいので、引っ張ってほしかったよ!!
【大阪府・山内義久さん・旅行野郎・38歳】

⬇さすがに「ハッタリ」だと、いくら『kamipro』でも大問題です!! しかし、ソクジュの行く先も二転三転!? いったいジャングル大帝はどこに行くんダー!

谷川氏のインタビューが今号もピカイチでした。クートゥアーvsリデル戦に興味が湧かない理由を「点の闘いには感情が湧き出る闘いがない」と斬り捨て、秋山選手の今後はいいプロレスになる、vs船木、vs桜庭の弟子にまでつなげていこうとし、ヨソのリングに出してでもプロモーターとして見せていかなければならないと使命感に燃えている姿は、自分は魂を動かされますよ!
【神奈川県・長瀬誠さん・会社員・40歳】

⬇今後の素晴らしい展開にぜひ期待したいですね。谷川さん、本当によろしくお願いします!!

船木はやはりおもしろい! 年末は絶対大阪に行く!!
【kamipro Hand投稿】

⬇とても37歳とは思えない素晴らしい肉体に、自分は感涙でございます。復帰戦はいったい誰と対戦するのでしょうか!?

クリス・ベノワ座談会がよかった。いつもオチャラケの『kamipro』だけど、リアルで悲しい座談会だった感じ。レスラーは強さの象徴であるから自殺はいけないというのが自分の考えだけど、座談会の話を読んで、凄く悲しくなってきた。自分の汚名と引き換えに家族と天国へ旅立ったベノワになんともいえない感情がでてきた。
【kamipro Hand投稿】

⬇"ビンスの爆死"の直後に起こったクリス・ベノワの自殺……。なんとも皮肉な展開ですが……、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

113号・おもしろかった記事ランキング

順位	記事
1位	すてきな奥さん2007
2位	ダナ・ホワイト
3位	越中詩郎を優勝させる会
4位	みのもけんじ
5位	さまよえる秋山問題

113号堂々の第1位はマサさん、ドラゴン、永田さんのそれぞれの夫人が語ってくれた「すてきな奥さん2007」。続いて、3位にはケンコバ×せき詩郎さんが真剣に対策を練ってくれた「越中詩郎を優勝させる会」がランクイン。また、いまだに迷子になっている秋山問題は5位という注目度。今号でも特集していますが、まだまださまよい続けてます〜。

みのもけんじさんの『プロレススターウォーズ』のインタビューがよかった! インタビュー後半の総合格闘技版の妄想は爆笑でした!!
【kamipro Hand投稿】

⬇今回、みのも先生には目次ページの漫画も描いていただきました! 打ちわ合せのときも「流氷に乗ってくるヒョードルがいいんじゃない!?」と、前のめりで話してくださいました〜。いつかヒョードルが試合するときに、ぜひ描いていただきたいと思います!!

おもしろかったのは秋山関連の記事。本当にさまよっているなあと思う。誰と闘ったらおもしろいんですかねえ、『kamipro』さん。自分も真剣に考えてるけど、田村が負けたいま、もうわからなくなってきた!
【kamipro Hand投稿】

⬇秋山問題は本当にどうなるんでしょうねえ。今号掲載の座談会を読んで、もう一回考えてみてくださ〜い。

ぶっちゃけ、松澤チョロのズンドコぶりが一番おもしろかった。海外出張の前日にカバンを拾える男はそういないと思う。チョロさん、辛いこともあるだろうけど、これからも頑張ってください!
【埼玉県・毒殺コアラさん・エンジニア・35歳】

⬇励ましのメッセージ、ありがとうございます。カバンを拾える幸運な男・松澤チョロ(35歳)もきっと喜んでいると思います!

埼玉県・棘蟹さん
⇨棘蟹さんは、なぜか今回22枚もイラストハガキを送ってくださいました!「1日1枚描いても22日かかる!!」と本誌・坂井ノブも感激〜。

東京都・サカモトカズヤさん
⇨新刊もDVDも売れまくり、マット界で"一人勝ち"している須藤元気さん。いいなあ、一人勝ち……。

埼玉県・棘蟹さん
⬇なぜか『kamipro』投稿者は森嶋のイラストを送ってくる傾向があるのですが……。どうしてなんでしょう⁉

埼玉県・棘蟹さん
⬇天山のお子さんが真似してしまうという永田さんの白目。凄い影響力!

本誌・ジャン斉藤に宛てた上杉のメール

先般お願いさせていただいた、乾杯のご挨拶の件について詳しく説明させていただきます。
（省略）
内容としては、
ほとんどないかもしれませんが、ボクの仕事ぶりの中や普段の態度で、いいところをムリヤリ探していただいて、ほめていただき、その後に二人に祝福の言葉をいただけますでしょうか。

ご参考までに、挨拶文例を書かせていただきます。

「ただいま、ご紹介に預かりました斉藤でございます。僭越ではございますが、ご指名により、乾杯の音頭をとらせて頂きます。

新郎は、上杉君がイジめたせいという噂もありますが、新人が次々と辞めていくハードコアな労働環境の中で、意外にもしぶとく生き残り、いつのまにか、その英語力を活かして、海外関連の担当を務めるなど『kamipro』にとっても欠かせない存在になっております。

お二人は、これから楽しい新婚生活を迎えられるわけですが、結婚生活にはいろいろなことがあるものでございます。でも、上杉君の、そのしぶとさがあれば、今後、大変なときがあるかもしれませんが、どうにか乗り越えられることできるでしょう。本日は、まことにおめでとうございます……（省略）」

祝・エスパー上杉結婚!

7.22 結婚パーティ潜入リポート

毎度、名前が変わる編集部員でおなじみ、"エスパー職"の上杉が、なんと結婚！ 6月の時点ですでに入籍したという話はあったのだが、去る7月22日に、あらためて挙式&結婚パーティが開催された。

パーティには『kamipro』編集部全員が出席し、そこでは本誌編集長・ジャン斉藤が乾杯の挨拶をすることになっていたのだが……。「挨拶をお願いします」と言ったっきり、なんの詳細も伝えない新婦・上杉。そのため「どんな人がどのくらい来るのかもわからんし、どんな挨拶をすればいいのか全然わからん！」とジャンに一喝されてしまう。このごもっともな意見に、その後、上杉もきちんと詳細をメールで送ってきたのだが……、何を思ったか、そのメールは「とにかく、乾杯の挨拶でボクをほめてください！」という前代未聞の内容に!!（左記参照）。こんなお願いの仕方、はっきり言って、真似できないよ!!

そのほか、真下&松下にパーティの受付をお願いするばかりか、新人のもとぞのくんにまで頼もうとする新婦・上杉がいたり（これが原因だったかは不明だが、結局もとぞのくんは結婚パーティ開催日前に編集部から逃亡）、パーティ中盤からは上杉夫妻自らが熱演する馴れ初めVTRが上映されるという緊急事態に陥ったり……。

とにかく、素晴らしき"上杉ワールド"が展開されたのだが……、何はともあれ無事に終わってなによりです。お二人ともお幸せに～。

スクープ! ザ・目撃!!

●7.16『HERO'S』の会場でバダ・ハリ選手に遭いました。声が渋く、カッコいい！ 普通に写真撮影に応じてもらいました。あと、アリスター・オーフレイムにも会いました!! 「I'm your big fan」というと、「For my biggest fan」と言ってサインをしてくれました。併わせて『PRIDE』のトレーディングカードにサインをしてもらおうと思ったら、「For me? I like this」と言われてしまったので、それはプレゼントしました（笑）。本当に夢のような一日でした～。
【神奈川県・大内和彦さん・会社員】

●6月のK-1 MAXの会場で、ユン・ドンシク選手を発見しました！ イメージしていたより精悍な感じがして凄くカッコよかったです!! 格闘技の会場に行ったのは初めてだったのですが、意外と選手と会えるもんなんだなあと嬉しくなりました。また、MAX観に行きます!!
【埼玉県・ユンユンさん・会社員】

おハガキ募集!!

どんどんおハガキください！
ケータイからでもOK!!

ご意見、ご感想、苦情、抗議、お悩み、ダメだし、ほめ殺しなど、どんなことでもけっこう！ お便り、お待ちしています！

こんな情報お待ちしています！
●ザ・目撃!!
●おもしろ写真投稿
●選手に対するご意見、試合の感想
●その他、世の中に訴えたいことがあればなんでも!!

以上、すべてのお便り・イラストの宛て先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
（株）ダブルクロス kamipro編集部
「上杉」係まで。
携帯サイト『kamipro Hand』からの投稿もできます。

ピーッ!!

さあ、明るい未来への列車に乗ろう！
上井駅長の人生相談

さあ、今回も、マット界に夢を運ぶ上井駅長に相談に乗っていただきたいと思います！ さて、第二弾の相談は……!? どうやら、プロレスラー好きの女の子のようですよ。では、今回も駅長にビシッとアドバイスをいただきましょう!! せーの、出発進行～ッ!

プロレスラーと仲良くなりたい

お悩み

■恋愛に関する問題
（福井県・園田さちこさん・19歳・♀）

駅長に相談があります。先日、田村潔司さんが結婚されたというニュースがマット界に走りましたが、私は凄くうらやましく感じました。なぜなら、私はプロレスラーみたいな、デッカくてマッチョで豪快な男性が大好きだからです。

そこで、マット界に長年いらっしゃる上井駅長に相談なのですが、一般のファンがレスラーにお近づきになるには、いったいどうしたらいいのでしょうか？ レスラーと仲良くなる方法を教えてください！ 駅長、お願いします!!

上井駅長

レスラーと仲良くなる方法？ そんなの簡単ですよお。まずは会場へ行・く・こ・と！ あのね、熱心なファンは選手の宿舎まで知ってるからね。そういう人は、きっと会場でスタッフとか売店の人から宿舎の場所とかを聞いてると思うよ。レスラーに直接会うのは敷居が高いだろうからね。それとか、スタッフの人たちに「○○選手に渡してください！」って言って、プレゼントを渡す女性もいますよ。ボクなんかも会場に行ったときに「柴田選手に渡してください！」って言われて袋ごともらったこともありましたから。え？ 私!? 私はそんな浮いた話はぜんぜんないですよお！ 私はね、なんだか怖いイメージがあるみたいでですね、新日本プロレス時代なんかもブラウン管を通して観てた人たちはそういうふうに言ったりするんだけど、巡業なんかに行くと「上井さん、こんな気さくな人なんですねえ」って面食らった顔した人もいましたよ。ハッハッハ！ ま、私の話はいいじゃない（笑）。だから、そんなに仲良くなりたいんだったら、手紙と一緒に写真を入れたりしてね、どんどん自分をアピールしなきゃ。"袖すり合うも他生の縁"って言うじゃない。人はどうしても容姿から入るから、それも一つの方法ですよ。努力しないと実は結ばない！ そこで成就するかしないかは縁とタイミングよ。だから、とにかくまずは会場に行くことですよお!!

園田さちこさん、おわかりになりましたでしょうか？ この方法で、ぜひ会場&宿舎に足を運んで、レスラーにアタックしてみてください！
※人生相談ドシドシ送ってください！ 宛先は左記参照でお願いします!!

マット界の日程、そして情報をツープラトンで一網打尽!!

kamipro よろず情報局

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

Calender & Information

8 Fight & Event August

25 SAT.

◆UFC／米国・ネバダ州ラスベガス、マンダレイベイ・イベントセンター
◆新日本／三重・松阪市総合体育館(18:00)
◆NOAH／東京・ディファ有明(18:00)
◆DRAGON GATE／北海道・恵庭市島松体育館(18:30)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(18:00)
◆K-DOJO／千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆NEO／愛知・日本ガイシスポーツホール(17:30)

26 SUN.

◆新日本／東京・後楽園ホール(18:30)
◆全日本／東京・両国国技館(16:00)
◆NOAH／静岡・アクトシティ浜松(17:00)
◆ZERO1・MAX／石川・石川県産業展示館(18:00)
◆DRAGON GATE／北海道・Zepp Sapporo(16:00)
◆DDT／東京・ディファ有明(17:00)
◆大阪プロ／大阪・デルフィンアリーナ(14:00)
◆ターザン後藤一派／東京・浅草インディーズアリーナ(17:00)
◆プロレスサミット／東京・ディファ有明(12:30)
◆R.I.S.E.／東京・新宿FACE(17:20)
◆JWP／東京・後楽園ホール(12:00)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(18:00)

27 MON.

◆DRAGON GATE／北海道・名寄市スポーツセンター(18:00)
◆グレートプロ／東京・新木場1stRING(19:30)

28 TUE.

◆NOAH／高知・高知県民体育館(18:30)
◆DRAGON GATE／鳥取・鳥取産業体育館(18:30)
◆SUN／愛知・名古屋市中区スポーツセンター(18:30)

29 WED.

◆NOAH／島根・くにびきメッセ(18:30)
◆DRAGON GATE／福井・ウェルサンピア敦賀(17:00)
◆SUN／東京・新木場1stRING(19:30)

30 THU.

◆みちのく／東京・後楽園ホール(18:30)

31 FRI.

◆NOAH／広島・広島グリーンアリーナ(18:30)
◆LLPW／東京・後楽園ホール(19:00)

9 Fight & Event September

1 SAT.

◆LOCK UP／千葉・幕張メッセ国際展示場(12:00)
◆無我ワールド／千葉・幕張メッセ国際展示場(17:00)
◆健介オフィス／東京・ディファ有明(15:00)
◆DRAGON GATE／福岡・トリアーダ宗像特設リング(18:00)
◆みちのく／宮城・Zepp Sendai(19:00)
◆K-DOJO／千葉・BlueField(17:30&19:00)
◆666／東京・新木場1stRING(19:00)

2 SUN.

◆新日本／千葉・幕張メッセ国際展示場(15:00)
◆NOAH／愛知・愛知県体育館(16:00)
◆ZERO1・MAX／北海道・札幌テイセンホール(17:00)
◆みちのく／岩手・岩手県営体育館(15:00)
◆修斗／北海道・Zepp Sapporo(15:10)
◆新日本キック／東京・ディファ有明(16:00)

3 MON.

◆NOAH&AAA／東京・ディファ有明(19:00)
◆ZERO1・MAX／北海道・苫小牧市川添公園体育館(18:30)
◆WAVE／東京・新木場1stRING(19:00)

4 TUE.

◆NOAH／茨城・神栖市民体育館(18:30)
◆K-DOJO／東京・後楽園ホール(18:30)

5 WED.

マッスル初の3連続興行開催!!
はたして、その内容とはいったい……!?

『マッスル15』
東京・北沢タウンホール(19:00)

チケット料金
スーパーシート=5,000円、自由席=4,000円
※当日は500円アップ
◎問=DDTテック 03-5360-6653

◆ZERO1・MAX／北海道・中標津体育館(18:30)
◆パンクラス／東京・後楽園ホール(18:30)

6 THU.

風香も参戦! 二大タイトル戦開催!!
女王・辻ちゃんはリベンジマッチへ!!

『スマックガール～女王たちの一番熱い夏～』
東京・後楽園ホール(18:30)

決定対戦カード
辻結花 vs アンナ・ミッシェル・タバレス
【スマックガールミドル級女王タイトルマッチ】
赤野仁美 vs 端貴代
【スマックガール無差別級タイトルマッチ】
高橋洋子 vs HIROKO　ほか
出場予定選手
風香　ほか
チケット料金
VIP=12,000円、SRS=10,000円、RS=7,000円、A=5,000円、B=3,000円
※当日は各500円アップ
◎問=スマックガール実行委員会 03-3331-7426

◆マッスル／東京・北沢タウンホール(19:00)

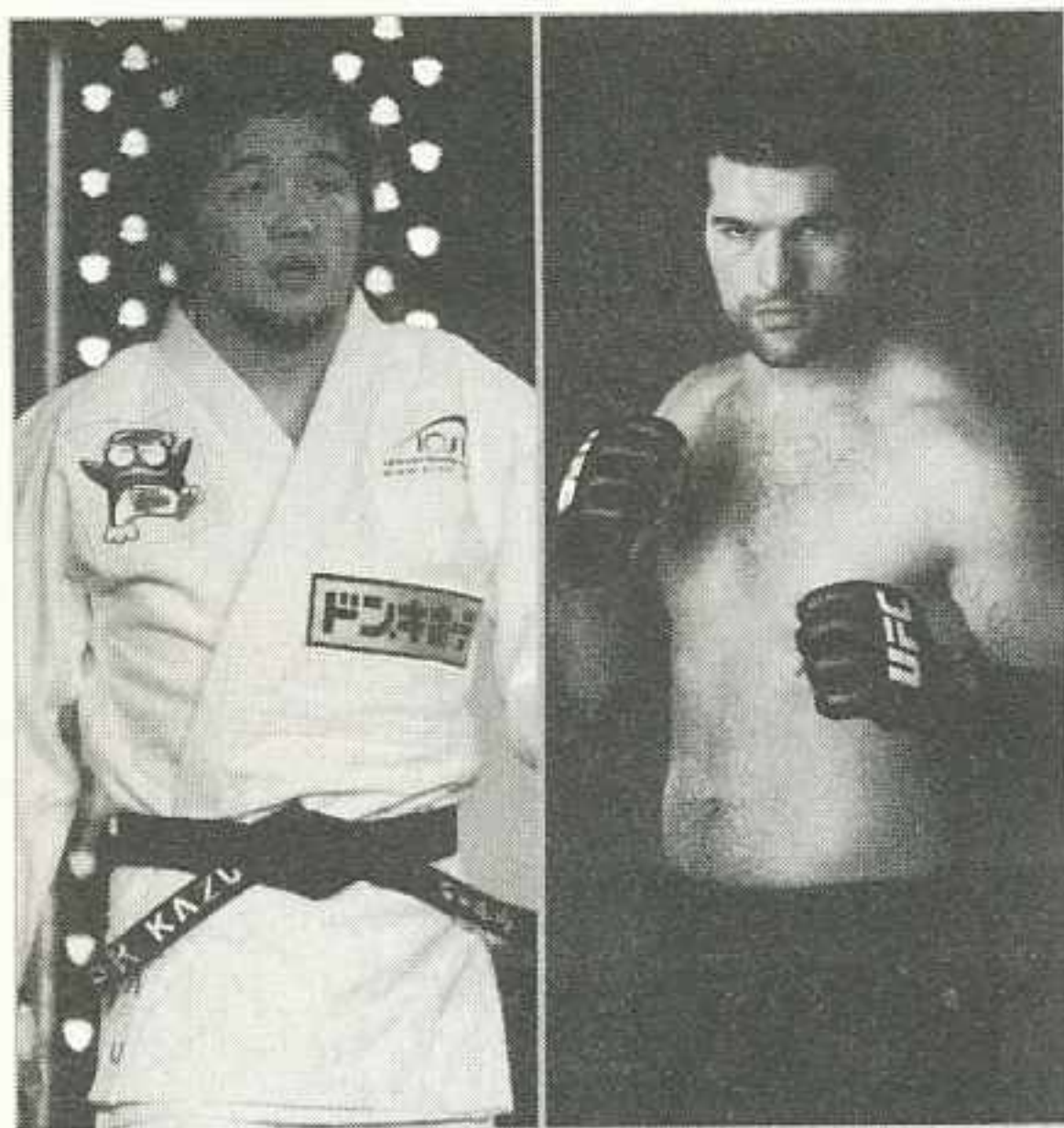
7 FRI.

◆新日本／東京・後楽園ホール(18:30)
◆マッスル／東京・北沢タウンホール(19:00)
◆El Dorado／東京・新宿FACE(19:00)
◆VFK／大阪・アゼリア大正(19:00)

8 SAT.

◆UFC／英国・ロンドン、O2アリーナ
◆IGF／愛知・日本ガイシスポーツホール(18:30)
◆DRAGON GATE／大阪・大阪府立体育会館第2競技場(18:30)
◆CAGE FORCE／東京・ディファ有明(17:00)
◆NEO／東京・北沢タウンホール(18:00)
◆仙台ガールズ／宮城・Zepp Sendai(19:00)

22 SAT.

中村カズら吉田道場勢もオクタゴンへ!
ミドル級GP覇者・ショーグンがUFCデビュー!!

『UFC76 KNOCK OUT』
米国・カリフォルニア州アナハイム、ホンダセンター

決定対戦カード
マウリシオ・ショーグン vs フォレスト・グリフィン
チャック・リデル vs キース・ジャーディン
中村和裕 vs LYOTO
小見川道大 vs マット・ウィーマン
ジョン・フィッチ vs ティエゴ・サンチェズ　ほか

◆ハッスル／大阪・大阪府立体育会館（17:00）
◆新日本／石川・石川県産業展示館（18:00）
◆DRAGON GATE／東京・大田区体育館（17:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆修斗／東京・後楽園ホール（17:30）
◆SUN／東京・新宿FACE（18:00）

23 SUN.

◆全日本／兵庫・豊岡市民体育館（16:00）
◆無我ワールド／大阪・大阪府立体育会館第2競技場（18:00）
◆IWAジャパン／東京・新宿FACE（18:30）
◆アパッチ／東京・後楽園ホール（18:30）
◆SUN／千葉・君津アクアマリンスタジオ（17:00）
◆息吹／東京・新木場1stRING（12:30）

24 MON.

◆新日本／広島・広島サンプラザ（16:00）
◆全日本／熊本・熊本市流通情報会館（15:00）
◆ZERO1・MAX／千葉・君津アクアマリンスタジオ（15:00）
◆大日本／東京・後楽園ホール（18:30）
◆押忍闘夢／東京・西調布アリーナ（12:00）
◆JWP／東京・板橋グリーンホール（13:00）
◆NEO／東京・板橋グリーンホール（17:00）
◆OZアカデミ／一長崎・西海楽園特設リング（15:00）
◆スマックガール／東京・北沢タウンホール（未定）

25 TUE.

◆全日本／大分・大分イベントホール（18:30）
◆ZERO1・MAX／静岡・キラメッセぬまづ（19:00）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

26 WED.

◆ユニオン／東京・新木場1stRING（19:30）

27 THU.

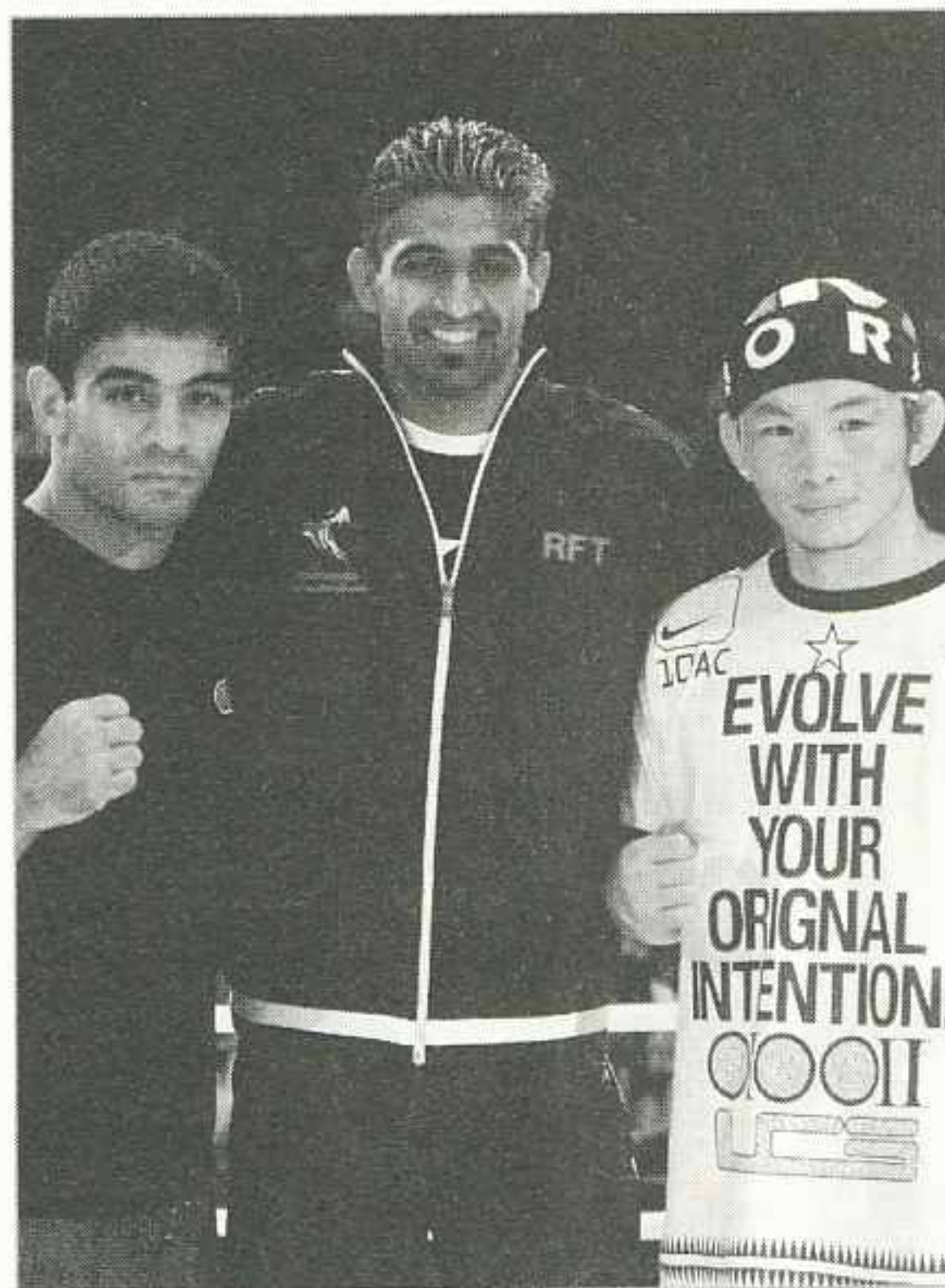
◆DRAGON GATE／神奈川・相模市総合体育館（18:30）

※主催者側の都合により、時間等変更する場合があります。あらかじめご了承ください。また、興行日程を一部割愛しております。詳細は各団体のホームページ等をご参照ください。

出場予定選手
エンセン井上、新田明臣、ジョー土屋　ほか
チケット
スペシャルアリーナ=65,000円、
アリーナVIP=50,000円、アリーナA=35,000円、
アリーナB=30,000円、特別席=30,000円、
一般A=15,000円、一般B=10,000円、一般C=5,500円
◎問=リアルプロダクション 03-3463-7770

◆全日本／東京・後楽園ホール（12:00）
◆DRAGON GATE／三重・メッセウイングみえ（18:00）
◆DDT／福島・国体記念体育館（19:00）
◆R.I.S.E.／東京・ゴールドジムサウス東京アネックス（未定）
◆JWP／東京・キネマ倶楽部（13:00）

17 MON.

前年度覇者・JZ.カルバンの参戦は?
宇野、シャオリン、マンバが決勝進出!!

『HERO'S～ミドル級王者決定トーナメント決勝戦～』
神奈川・横浜アリーナ（16:00）

出場予定選手
宇野薫、ビトー・"シャオリン"・ヒベイロ、
ブラックマンバ　ほか
チケット
SRS=25,000円、S=15,000円、A=6,000円
◎問=『HERO'S』実行委員会 03-5775-5065

◆新日本／神奈川・相模原市総合体育館（18:00）
◆全日本／茨城・水戸市民体育館（16:00）
◆DDT／栃木・栃木県総合文化センター（13:00）
◆U-FILE CAMP／東京・ディファ有明（14:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（14:00）
◆大阪／東京・新宿FACE（16:30）
◆NEO／東京・後楽園ホール（12:00）
◆OZアカデミー／東京・新宿FACE（13:00）

18 TUE.

◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

19 WED.

◆UFN／米国・ラスベガス、パームズ・ア・マルーフ
◆新日本／長野・千曲市戸倉体育館（18:30）
◆全日本／岐阜・高山マウントエース（18:30）

20 THU.

◆全日本／福井・福井市体育館（18:30）

21 FRI.

◆全日本／京都KBSホール（16:00）
◆リアルジャパン／東京・後楽園ホール（18:30）

9 SUN.

◆新日本／千葉・東金アリーナ（17:00）
◆NOAH／東京・日本武道館（17:00）
◆DRAGON GATE／福岡・博多スターレーン（17:00）
◆大日本／埼玉・桂スタジオ（15:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（13:30&15:00）

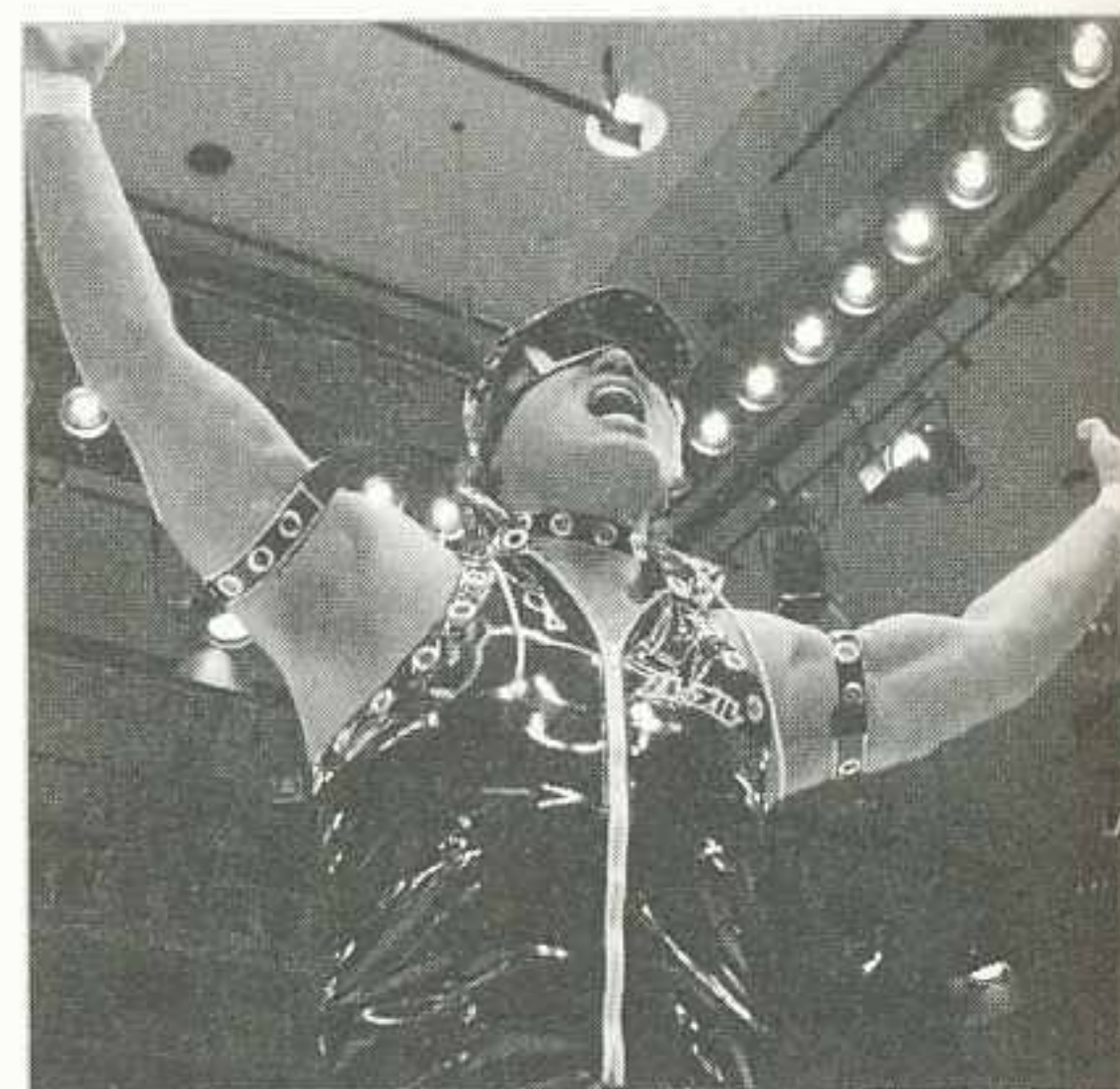
11 TUE.

◆DRAGON GATE／兵庫・SITE KOBE（19:00）
◆WAVE／東京・新木場1stRING（19:00）

12 WED.

◆DDT／東京・新木場1stRING（19:30）
◆ZST／東京・ゴールドジムサウス東京アネックス（16:00）

13 THU.

天龍はHGと"龍ゲイ砲"結成!?
ハッスル・マニアへカウントダウン!!

『ハッスル・ハウスvol.28』
東京・後楽園ホール（19:00）

チケット料金
ハッスルVIP=10,000円、スタンドS= 7,000円、
スタンドA=5,000円、スタンドB=3,000円
◎問=ハッスルエンターテインメント 03-5464-1731

◆新日本／埼玉・秩父市民体育館（18:30）
◆ソウルコネクション／東京・新宿FACE（19:00）

14 FRI.

◆新日本／群馬・グリーンドーム前橋（18:30）
◆DRAGON GATE／東京・後楽園ホール（18:30）

15 SAT.

◆新日本／埼玉・久喜市総合体育館（18:00）
◆ZERO1・MAX／群馬・赤城総合運動自然公園体育館（16:00）
◆DRAGON GATE／千葉・千葉ポートアリーナ（18:00）
◆K-DOJO／千葉・BlueField（17:30&19:00）
◆STYLE-E／東京・西調布アリーナ（19:00）

16 SUN.

なんと!　織田無道が格闘技イベントをプロデュース!!　エンセン、新田明臣も参戦!!

『無道SPIRIT』
東京・代々木第2体育館（14:00）

Campaign

武藤とムタがチキンのキャラに!? 全日本が『スリーエフ』と最強タッグを結成!

全日本プロレスがコンビニエンスストア『スリーエフ』と最強タッグを結成! これは武藤敬司とグレート・ムタを、『スリーエフ』のフライドチキンとチキンステーキのイメージキャラとして起用! チキン購入者に、チキン無料券や武藤のサイン入りグッズが当たるキャンペーンで、その名も『チャンピオン チキンカーニバル』! 期間中は『スリーエフ』全店に全日本のポスターも掲示されるなど、今後の連携も要注目!

★キャンペーン期間／開催中〜9月13日(木)まで

Event

パンクラスが"名付け親"を追悼! パンクラス9.5後楽園大会が"ゴッチ氏追悼大会"に!

パンクラスによる、"神様"の追悼興行が決定! 団体名である"パンクラス"の名付け親であり、7月28日（現地時間）に逝去したカール・ゴッチを偲んで、9月5日に行なわれる後楽園ホール大会を『カール・ゴッチ氏追悼興行』として開催。ゴッチの愛弟子の一人、鈴木みのるも所属しているだけに、心のこもった追悼大会が期待できそうだ。

★開催日／9月5日(日)18時30分開始 ★会場／東京・後楽園ホール
★問／パンクラス 03-5792-0815

Dvd

"事件"で振り返る新日本プロレス史 DVD『新日本事件簿』がいよいよ発売!

5ヵ月にわたってリリースされる新日本プロレスの創立35周年DVDシリーズ。その第一弾となる『新日本事件簿』が9月21日にいよいよ発売! 1983年の第1回IWGP決勝での猪木舌出し失神事件から、天山が脱水症状で戦闘不能となった05年の三冠＆IWGPのダブルタイトル戦まで! 新日本プロレス激動の事件史を、当時の映像と当事者の証言の二重奏で徹底的に検証する!

★『新日本プロレス35周年DVD 新日本事件簿』（エイベックス）
7,140円（税込） 9月21日発売

Book

鬼軍曹がマット界に喝! 山本小鉄が新日本の原点を語る文庫登場!

練習が厳しいなんて、あったりまえ! 往年の新日本プロレス道場の"鬼軍曹"こと、山本小鉄がマット界を一刀両断! 究極の御意見番として、現代のプロレスラーや格闘家に"喝"を入れた著書『プロレス金曜８時の黄金伝説』が文庫本になって発売中!!「レスラーがレスラーたるために」自らが実践してきた地獄の練習エピソードや、道場論のすべてを語り尽くした!

★『プロレス 金曜8時の黄金伝説』（講談社）780円（税込） 発売中

Dvd

HGvsエスペランサーから江頭まで! 『ハッスル注入DVD8、9』で『ハッスル』を満喫!

ドリフもびっくり! 衝撃の結末となった昨年11月『ハッスル・マニア2006』のHG vs ザ・エスペランサーなどを収録した『ハッスル注入DVD 8』。そして、あの江頭2:50がプロレスデビューで大ハッスル! 後楽園ホールを熱狂させた『ハッスル・ハウスXmas SP』などを収録した『ハッスル注入DVD 9』が絶賛発売中！ ファイティング・オペラの神髄をDVDで満喫しよう!

★『ハッスル注入DVD 8』、『ハッスル注入DVD 9』
（ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン）各3,990円（税込） 発売中

Comic

みのも先生の新作だよ〜! 『実録・前田光世決闘伝 グレイシーを創った男』!

うわ〜ん! うわ〜ん! みのもけんじ先生の新作マンガだよ〜! と、『プロレス・スターウォーズ』直撃世代は号泣必至!? 今回、みのも先生が描くのは"グレイシー一族に柔術を伝えた男"として知られる武道家・前田光世の実録伝! 明治時代に北米からヨーロッパ、そして南米までをも席巻した男、前田光世の知られざる人生と闘いの記録。原作に、はらやすし氏を迎えて完全マンガ化!

★『グレイシーを創った男 vol.1 アメリカ死闘編―実録・前田光世決闘伝』
みのもけんじ（絵）、はらやすし（著） （集英社）599円（税込） 発売中

Food

デスマッチ観戦のおともにいかが? なんと大日本プロレスが"缶入りパン"発売中!

アブドーラ小林による、乾燥麺『デスマッチラーメン』も発売してきた大日本プロレスが"缶入りパン"を発売! 関本大介らがイメージキャラの『マッファパン（ミルク味）』、アブドーラ小林の『引越しパン（レーズン＆フルーツピール味）』、そして"黒天使"沼澤邪鬼＆葛西純の『バナナクリームパン』（写真）も新登場! 大日本の公式ウェブショップ（http://shop.bjw.co.jp/）で絶賛発売中!

★大日パン 各種類とも1缶735円（税込）

Dvd

せきしろ氏による"無気力文学" 『去年ルノアールで』がドラマに続き、DVD化!

本誌で『サムライ・シロー三昧』を連載中のせき詩郎こと、せきしろ氏の"妄想文学"『去年ルノアールで』（マガジンハウス、写真）が今年、テレビ東京でドラマ化され好評放映中!（毎週日曜、午後2時33分〜）。インストバンド・SAKEROCKの星野源や西村雅彦ら、"無駄に豪華なキャスト"で送るこのドラマがDVDとして発売決定!

★『去年ルノアールで』（JVCエンタテインメント） 全2巻
価格未定 10月26日発売

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■アパッチプロレス軍
03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■上井オフィス
03-5766-0079
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-18-10 5F
http://blog.livedoor.jp/uwaistation/

■キングダム・エルガイツ
042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■拳圏真陰流 興義館
050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区岡野1-13-5横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■髙田道場
03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■日本修斗協会
03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/˜shooto/

■ハッスルエンターテインメント
03-5464-1731
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-7 カプリース青山3F
http://www.hustlehustle.com/

■バトラーツ
048-963-0005
〒343-0046 埼玉県越谷市弥生町9-8
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047 東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■プロレスリングSUN
ZERO1-MAXと同じ

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市若林区土樋236愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■無我ワールド・プロレスリング
03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区南青山4-2-4 シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
042-724-9242
〒194-0022 東京都町田市森野6-319マルイシコーポ202
http://union.ne07.jp

■DDT
03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/ feg/

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061 東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net

■IGF
03-5159-3380
〒104-0061 東京都中央区銀座1-15-2 銀座スイムビル3F
http://www.igf.jp/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JDスター 03-5524-2339
〒104-0061 東京都中央区銀座1-8-21 第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP
03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
03-5228-4331
〒112-0014 東京都文京区関口1-7-5メゾン文京関口204

■MARS
03-3368-3355
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-18-10 太陽堂ビル5F
http://www.mars-k.com

■NEO
044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■PRIDE FC WORLDWIDE
03-5464-1531
〒107-0061 東京都港区北青山3-12-9 花茂ビル3F
http://www.prideofficial.com/

■RIKIPRO
03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■SMACK GIRL実行委員会
03-3331-7426
〒167-0053 東京都杉並区西荻南3-7-7 西荻日伸ハイツ403
http://www.smackgirl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■U.K.R
044-833-4130
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン
03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■ZERO1-MAX
03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F（株）ファーストオン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区代々木2-23-1 ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

KAMIPRO COLUMN

イラスト／師岡とおる

第22回

本文では触れてないが、ゴッチ追悼

花くまゆうさく

リングの汁

たぶん

五味くーん ウチきなよ

ウチは、大みそ日 永ちゃん呼べるよ

いま五味は 揺れている

亀田家を持ち上げすぎで不快なTBSだけど、こないだの『亀田の夏祭り』の放送（とくに次男戦）は、不快を通り越して、「もしかして、おもしろいんじゃないかな？」と錯覚してしまいました。

実況アナと解説の鬼塚は、とにかく次男をほめまくる。いまの鬼塚の仕事は「亀田をほめること」なのだろうか？　あんまりにもほめすぎるので。「オニッ!!（©鶴太郎）それって、もうほめ殺しまでイッちゃってるよ」と思わず心配してしまうほどだ。しまいには、相手選手もほめだして、暗に「こんな強い選手と闘っている亀田次男はもっと強い」をアピール。鬼塚につられて、アナウンサーもノってきて、「将来、この二人が世界タイトルマッチやるかもしれませんね」と言いだした。ゴールデンタイムに、もはや放送の暴力!?　TBSは恐ろしい。

でもあの二人（実況アナ&鬼塚）、そのままM—1に出て同じことしゃべったら、ウケるんじゃないかな、とも思えてきた。もしくはいまのあの容姿で鬼塚がピンで、R—1や『エンタの神様』に出て、ひたすら亀田をほめる話芸をやれば……とか、どうでもいいことを考えているうちに、長男の試合は終わってしまいました。

最近、観た大会は、7月15日の修斗と翌日の『HERO'S』。

注目の上田将勝vs水垣偉弥戦は、やはり好試合。判定はドローでしたが、上田の判定勝ちでもいいかなと思った。ほかは赤木兄（康洋）のひたむきながんばり、アキレス極めた中蔵隆志などがよかったかな。総合でアキレス極まるとなんだかうれしい。

『HERO'S』放送、何回観ても山本宜久戦後の柴田の雄叫びVTRは、新鮮におもしろい。今回も新鮮に笑った。負けたけど、アッカの男らしい闘いぶりに少し感動。

中井さんが実況席にいるのにも驚いたが、小ノゲイラが無理矢理、体重増やしたような小太ノゲイラになっていたのも驚き。動きを見てもなんだか不安なので、小ノゲイラには、やっぱ適正階級でやってほしい。過去に何回も平気で階級違い同士の試合組んできた谷川プロデューサーには、言うだけではなく、そろそろホントに65キロ級を作ってほしい。所もいるんだし。

そんでついでにマルセロ・ガルシアのためにも70キロと85キロのあいだに新階級作ってください。今後、『PRIDE』から移ってくる選手もいるだろうし。

8月のたのしみは、いよいよ映画『グラインドハウス』（『デス・プルーフ』、『プラネット・テラー』どちらも最高！）、杉作さんの男の墓場プロによってスクリーンに蘇る『戦争の犬たち』（たこ八郎フォーエバー！）、『童貞。をプロデュース』（第2部が大傑作の青春映画！）と、いい映画が続々公開なとこです。

ゴッチ

Hanakuma Yusaku
◎村田卓実くん出演作含む、オムニバス映画『そんな無な！』も公開されますのでよろしく。

リング上からプライベートまで！
"なんでもあり"の質問コーナー

第7回
所英男の トコロ天国

本コーナーは、読者が抱くさまざまなお悩み、質問に、所選手がすべて答えてくれるという天国のようなコーナーです（こじつけ）。

——さあ、所さん、今月もよろしくお願いします。今回はですね、「クラブ活動」というテーマのもとにお悩み相談を集めてみました。

所 あっ、ク、クラブ……活動ですか!?

——もちろん、極めて純粋な意味での〝クラブ活動〟ってことですので、どうぞ皆さま、安心してお読みくださ〜い。

チームメイトに関する質問

東京都・モンゴルさん・17歳・高校生

僕はバスケ部に所属している高校生ですが、部活の仲間で一人困ったヤツがいます。「腰を疲労骨折した」と言って部活を休んでいたそいつは、なんと近所の公園でサッカーをしているところを同級生に目撃されてしまったのです！　監督も呆れかえって「追放だ!!」と怒りまくっているのですが、ヤツはバスケの腕前はピカイチで、僕としては辞められては困ります。そこで相談なんですが、僕はどうやってそいつと監督のあいだを収めればいいでしょうか？

"本業"に嫌けがさしたのか、コートを飛び出し、サッカーボールとともにフィールドを駆け巡ってしまったエース。いったいどうなる!?

——えー、非常にどこかで聞いたことがある話のような気がしてならない質問でしたが、いかがでしょう？

所 っていうか、本当にこんな質問が届いてるんですか!?　もう、ボクは『ｋａｍｉｐｒｏ』読者が怖いですよ……。

——ワハハハハ！　怖がってどうするんですか（笑）。

所 （困惑して）う〜ん、でも、真面目に答えると、この人もちょっと休みたかったんじゃないですかねえ。

——ん？　ということは、所さん的にはこの人は疲労骨折はしてなかったんだと思いますか？

所 疲労骨折……っていっても、腰じゃなくて、心の疲労骨折だったとか！

——なるほど（笑）。しかし、この件で監督はかなり怒り心頭みたいなんですよ。

所 そりゃ怒りますよ！　ボクが部活やってた頃のことを考えたら、やっぱり仲間だってイヤだと思いますし。

——しかも、エース的存在なんで、この人が抜けるとマズいみたいなんですよねえ。

所 横綱級ってことですよねっ！

——ええ、おそらく（笑）。所さんだったら、この事態はどう収めますか？

所 無理じゃないですかね！（キッパリ）。

——あきらめますか!!（笑）。ちなみに、怒ってる人をなだめる役っていうのは……？

所 ボクにはできません（真顔で）。

——ワハハハハ！

所 でもまあ、ボクだったら謝り倒しますよね。だから、この場合もとりあえず謝らせたほうがいいんじゃなですか？　そういう日本人的解決法が一番ですよ。

——わかりました。では、相談者の方も、この手法で大事なエースを土俵際から救ってあげてください！

協調性に関する質問

福井県・ロッキィさん・27歳・会社員

最近、僕の周りでは、ロックバンドのメンバーが同じTシャツを着てステージに上がるのが流行っています。それに影響を受けて、ウチのリーダーは「タカ アンド トシ」のTシャツを着ようと言い出しました。これが、不思議なことにほかのメンバーは大賛成で、もう人数分Tシャツを購入している始末。はっきり言って、僕はイヤでイヤでしょうがありません！　こんなのロックじゃない!!　所さんだったらこの状況をどう脱出しますか？

所 ボクは格闘技の入場のときは同じTシャツのほうが好きなんですけどね。なんか、一体感があるような感じがして。

——へえ〜。ただ、ロックバンドだと、そういうわけにもいかないんでしょうねえ。

所 でも、ライブとかだったら、ツアーTシャツとかあるじゃないですか！　……あ、でも、バンドの人たちは着てないか。う〜ん、ロックっていったいなんなんですかねえ……（思いっきり悩む）。

——難しいところですよねえ。しかし、何か代案を考えたいものですね。

所 それなら「トコちゃんTシャツ」（所クリーニング店のオリジナルTシャツ）でいいんじゃないですか？　それだと、新規で4、5枚買ってもらえるし!!

——営業じゃないんですから（笑）。

所 あとは、まあ「タカ アンド トシ」のTシャツを着る以外に選択肢がないんだったら、もう、こうやって両袖をクルクルまくったり、裁断したりしてちょっとワイルドさを出すっていう方向でいいんじゃないですかね（遠い目で）。

——ワハハハ！　確かにそれだと少しロックな雰囲気になりますね！

所 それとか、安全ピンをつけまくって若干ハードにするとか！

——そんな手もありましたか（笑）。

所 ちょっと一人だけアレンジしてみると、また一風変わりますよ！

——ということですので、ぜひこれで尖った感じを醸し出してみてくださ〜い！

恋に関する質問

新潟県・フラおばちゃんさん・65歳・無職

年甲斐もなく最近パソコンに挑戦しています。ミクシィというサイトを娘から教えてもらい、そこで友人もできたのですが……。そのうちの一人が、どうやらわたくしが通うフラダンス会の会長（男性）と思われる方なのです。あちらはわたくしの存在に気づいてないようで、なんと私に恋の相談を持ちかけたりします。そのお相手がフラダンスのメンバーだったりするため、わたくしとしては気まずくて……。こういう状況が続くのも心苦しいので、早めに存在をお伝えしたいのですが、いままで黙っていたため申し訳ない気もいたします。こんなわたくしは、どう対処したらよろしいでしょうか？

正体を明かすか、明かさないか。この場合、答えは二つに一つだが、そのとき所は……!!

所 65歳の女性が『ｋａｍｉｐｒｏ』を読んでるってあり得るんですか!?

——しかも、重大なお悩みを所さんに相談してるという（笑）。

所 ハハハハ！　ボクみたいな若造に（笑）。でも、ボクだったら黙っときますね！　知らないフリして経過を見るのもおもしろいと思いますし（ワルい顔で）。

——うわ〜、タチがワルいですねえ。

所 だって、いまさら言えないですよ、そんなもん。

——アッサリしすぎです（笑）。

所 でも、65歳でミクシィやってるなんて、凄い方ですよねえ。

——所さんはミクシィは……？

所 ボクはやってないです！　あのー、知り合いでミクシィ病だったヤツがいたんですよお。

——ミクシィ病!?　なんだかイヤな響きですねえ。

所 ボクのいる前とかでも、ずーっとパソコンをガシャガシャガチャガチャやってて。もう、ボクはそれがイヤでイヤでしょうがなくて、それ見て「絶対、ミクシィはやらない!!」って心に決めたんです！（と一気にまくしたてる）。

——よっぽどイヤだったみたいですね（笑）。でも、最近ではミクシィで出会って結婚するパターンもあるみたいですよ。そういうの、「ミク婚」っていうらしいです。

所 ミ、ミク婚!?　そんなのがあるんですか!!　……簡単ですねえ、出会いなんて（しょんぼりして）。

——急に弱火に（笑）。

所 でもまあ、ボクはファンの方に見ていただけるようにブログで頑張りますよ！

——おおっ!!　じゃあ、もう毎日アップする勢いでお願いしますよ！

所 （小さい声で）いやあ、毎日はちょっと……。

——ワハハハ！　最後もやっぱり弱火な所さんでした〜。

Hideo Tokoro◎ところ・ひでお【所英男オフィシャルブログ】http://blog.livedoor.jp/zst_tokoro/【ZSTのHP】http://www.zst.jp/

※所選手に解決してほしいお悩みや質問は〒151-0051　東京都渋谷区千駄ケ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F『kamipro編集部　トコロ天国』係まで

COLUMN!

Booker K◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

ブッカーKの ぶっかけ! 格闘裏情報

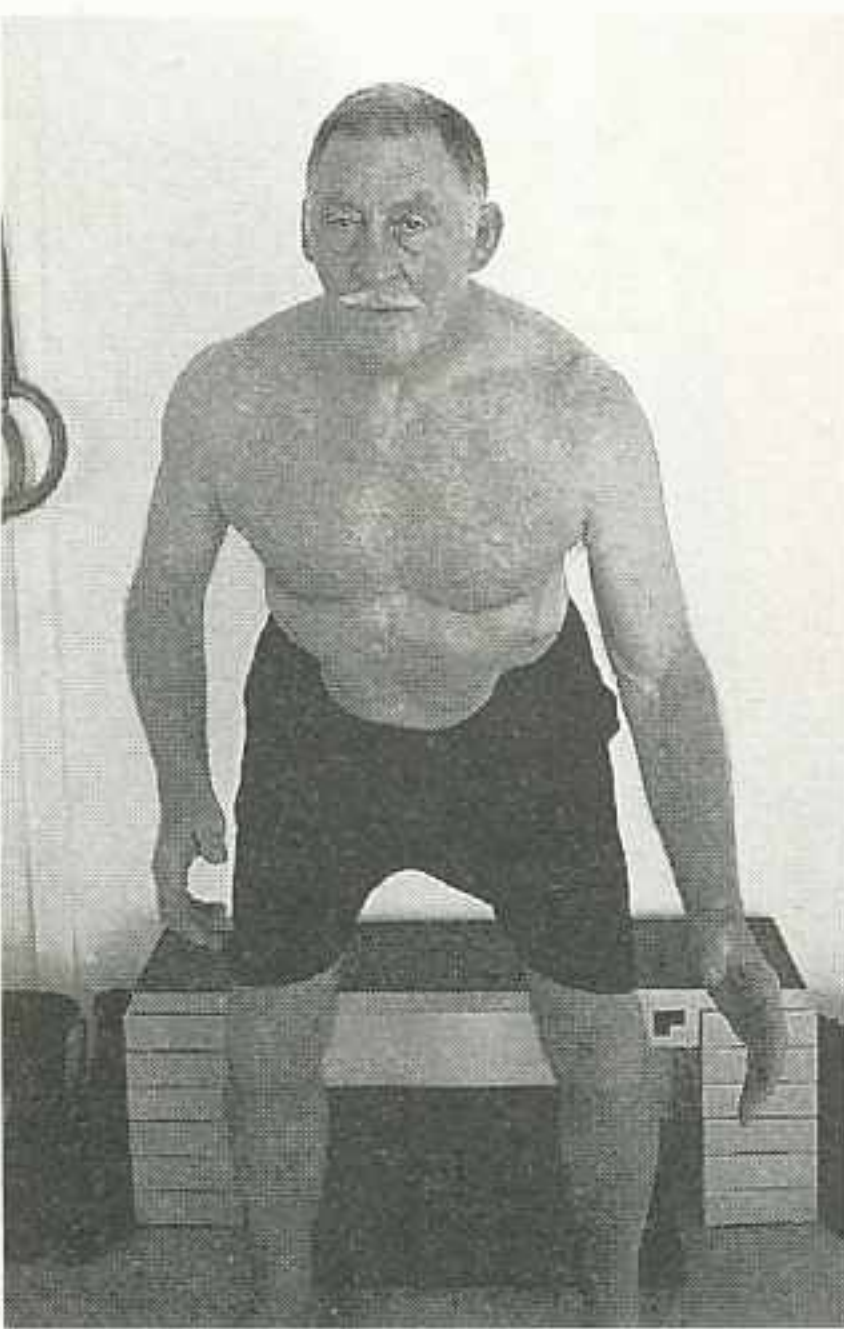
第17回

私だけが知っているカール・ゴッチと前田日明

"プロレスの神様"カール・ゴッチさんがお亡くなりになりました。私も"U系"の関係者として何度かゴッチさんにふれる機会を頂戴しました。今回はそのエピソードを皆さんの披露いたします。

ゴッチさんのご自宅を初訪問したのは、私がまだ藤原組の社員だった頃の話です。その藤原組のマイアミ大会が開催され、その機会に船木誠勝選手、鈴木みのる選手高橋和生選手らと一緒にタンパのゴッチ邸に出向いたのでした。

ゴッチさんは我々を歓迎すると同時に、さっそくトレーニングの指導がスタート。船木さんのゴッチさんへの心酔ぶりは凄まじく、ゴッチさんに命令されたすべての動きをマスターしているほど。そのときは腹筋を自由自在に動かすというトレーニングをレクチャーされていました。まるで生きもののようにうごめくゴッチさんの腹筋。ヒクソンのヨガどころではない。あの光景を忘れることはできません。

ところでゴッチさんは、私にはあまり関心がありませんでした。というより、背広組は信用しないのです（笑）。いろいろ騙されてきたエピソードがそうさせるのでしょうし、ゴッチさんはビジネスにまったく興味を示しません。でも、几帳面な性格。たとえば、練習道具の位置が1ミリでも狂うことは許されない。いや、本当の話なんです！　だって用具を置く位置もチョークでしっかりと線が引かれているほどですから。

貴重な思い出でいえば、前田日明さんと一緒にゴッチさんのもとを訪れたことも。前田日明デビュー15周年大会でゴッチさんのメッセージを流すため、前田さんと一緒に渡米。そのときに撮影したゴッチさんと前田さんのツーショットは、『週プロ』の表紙を飾りました。

タンパへ到着した翌日お昼の12時に我々がゴッチ邸へ到着すると――、

「……アキラ!!　なぜこんなに遅いんだ。ワシは朝6時からずっと待っていたんだぞ!!」

ガレージで、たった一人で汗だくになってトレーニングに励むプロレスの神様がいました。

その後、二人は6時間も休み無く話しに夢中でした。ゴッチさんはテクニックがあった。力もあった。しかし、人並み外れていたのは、あの熱心さなのかもしれません――。

カール・ゴッチさんのご冥福を心よりお祈りします。

『kamipro』読者の皆さん、残暑お見舞い申し上げます！

夏休みはいかがお過ごしでしょうか？　俺のほうは、このあいだカミさんに「夏休みどうしようか？」って話をしたら、「あなたはずっと夏休みでしょ！」って言われちゃいました（苦笑）。

確かに3月にパンクラスで川村（亮）くんと試合して以来、仕事してないもんな～。春休みが終わる前に夏休みに突入しちゃったよ（笑）。前田（日明）さんからも、「7月の『HERO'S』で試合組んでやるから、準備しといてくれ」って言われて以来、なんの音沙汰もないからねぇ。6月のIGF参戦も流れちゃったし……。それで、IGF参戦準備のために、昔のUWF vs新日本のビデオとか観たとき、「若い頃みたいに、もうちょっと身体を絞って、動きをシャープにしなきゃダメだな」って思ったんで、練習だけはこの暑いのにガッチリやってて調子はいいんだけど、肝心の試合が全然決まらないんだよな～。

だから今月は、とくにコラムに書くようなことは俺自身は何もないんだけどさ（笑）、UWFインター時代の先輩、田村（潔司）さんが、7月に結婚式を挙げたんだよね。俺は結婚式には行ってないんだけど、「田村さん、凄いな」と思ったのは、やっぱりタレントの桜井悠美子さんを射止めたってことだよね。

桜井さんって、『サムライTV』にずっと出演してたから、おそらく田村さんがゲスト出演したときに知り合ったんだと思うんだけど、どうやって電話番号を聞き出して、デートまで漕ぎ着け、そして結婚まで至ったのかと思ってさ。

だって、俺も『サムライTV』で桜井さんと共演したことあるけど、もちろんそばにはマネージャーさんがいるし、挨拶はするけど、個人的に電話番号を聞き出すチャンスなんかないはずなんだよね。だから、おそらくほんのわずかなチャンスを逃さずに、アタックをかけたんだろうから、田村さんやるな～と思ってね（笑）。

もう一人、やるな～って思ったのは、俺の某後輩だよね。彼の奥さんはレントゲン技師で、病院で知り合ったらしいんだけど、それこそレントゲン技師なんて「大きく息吸ってくださ～い」ぐらいしか話すことないじゃん。入院したりして話す機会がある看護婦さんとはわけが違うんだからさ。だから彼もどうやって電話番号を聞いて、病院外でデートするまで漕ぎ着けたのかと思って、感心したんだよ。

田村さんと某後輩に共通して言えることは、チャンスは待っているだけじゃ巡ってこない。自分からチャンスを奪いにいかなきゃダメってことだよね。世の独身男性諸君は彼らを見習ったほうがいいよ！

俺も彼らを見習って、仕事のオファーを待ってるだけじゃなくて、自分から営業かけようかな～（笑）。とにかく、田村さんにはこの場を借りてお祝いを述べさせていただきます。ご結婚おめでとうございます。末永くお幸せに！

7月28日に都内で結婚式を挙げた田村潔司と桜井悠美子さん。タムタムの幸せそうな顔を見よ！ 末永くお幸せに!!

金ちゃんのどこまでやるの？

第16回 おめでとう田村さんの巻

イラスト◎中川画伯

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中！
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

せき詩郎の

サムライ三昧

第17回

シロー

田山火山は噴火するのか否か

先月、日本武道館で行なわれたGHCヘビー級選手権試合。

王者三沢に対し、「首を痛めている、いまならオレでも勝てそうな気がする」と田上が名乗りをあげた。45歳と46歳の対戦という、字面だけ見れば遺産相続かなんかで叔父同士がもめているような感じの対戦が決定した。

この瞬間、我々の興味は「田上火山は噴火するのか否か」の一点に絞られた。ベルトの行方も気にはなるところだが、田上火山の動向ほどの関心はなかった。

選手権試合が行なわれるのは初夏だ。夏男というよりもどちらかといえば「秋男」のイメージが強い田上。季節的には噴火しないと思われた。だが今回の挑戦表明は「これが最後という気持ちでやる」と並々ならぬものを感じさせるものだった。悲壮感すら漂う田上の言葉。噴火しないわけがないとも思われた。

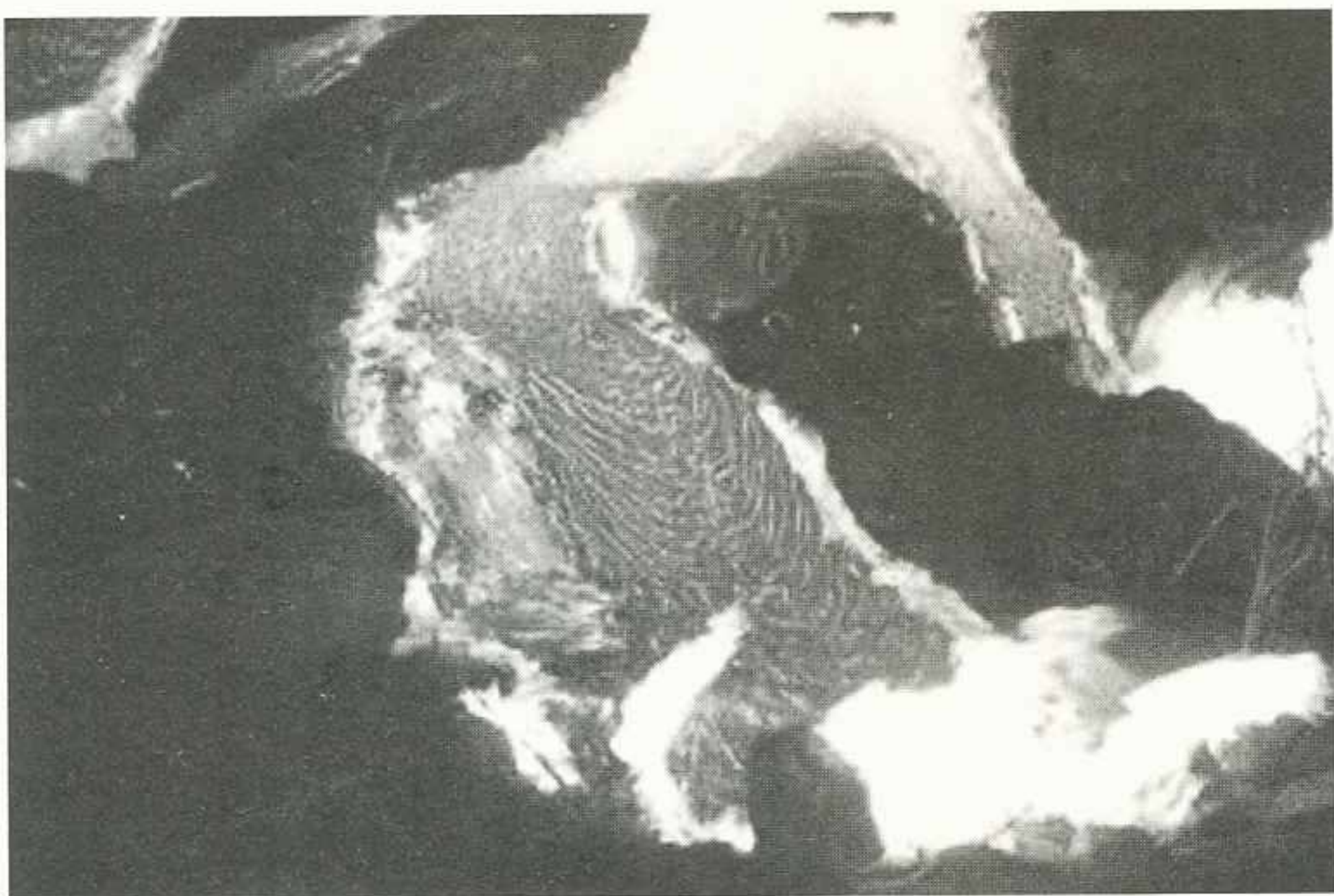
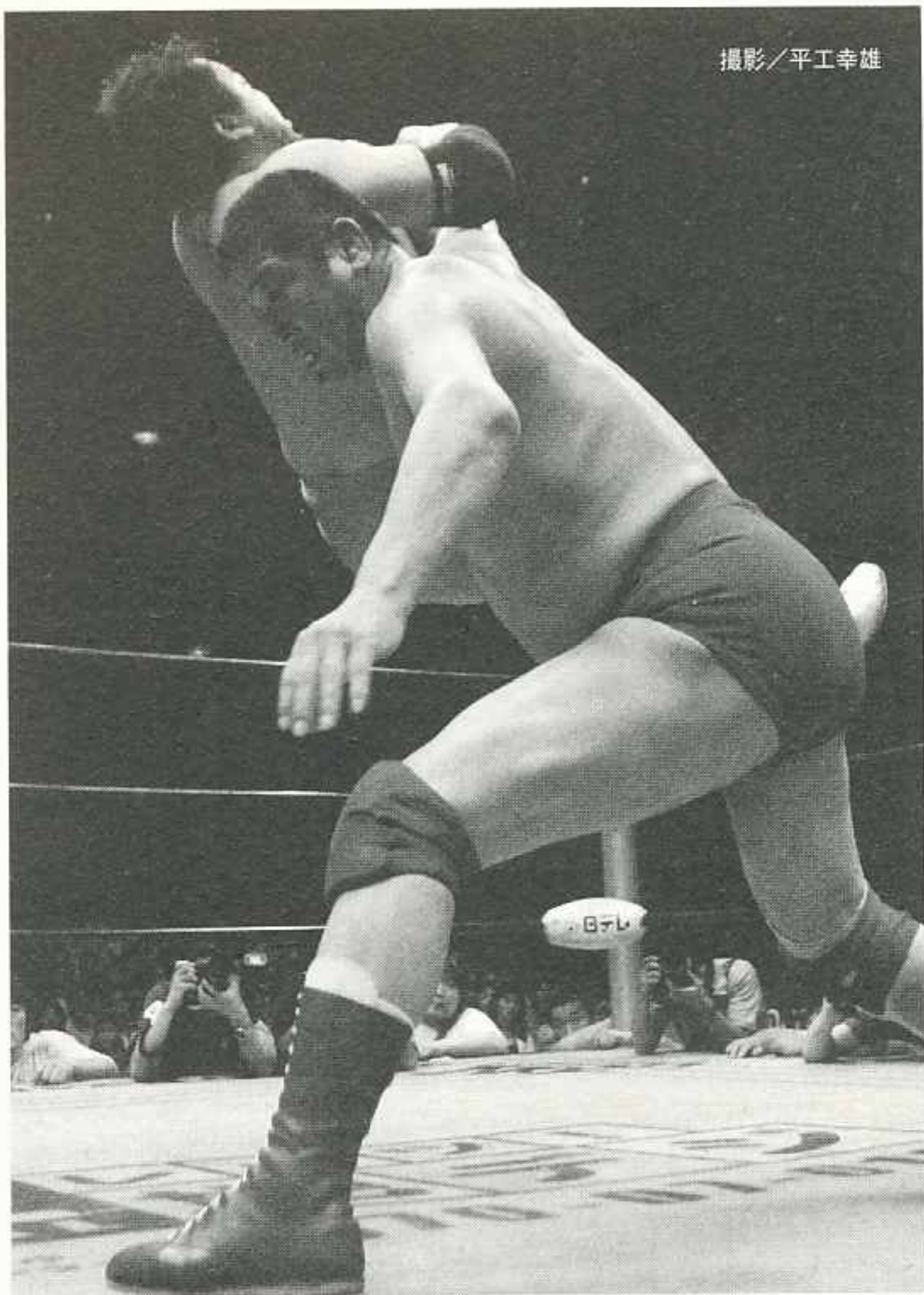
「噴火する」「噴火しない」で世論は真っ二つになった。いや、これらに加え「もしかしたら噴火するかも」という意見を入れたなら三分割だ。しかも、この「もしかしたら噴火するかも」が一番大きな割合を占めていたかもしれない。

「もしかしたら……」という意見を生むことからも、田上火山はいかに気まぐれだったかがわかる。噴火すると思わせておいて噴火せず、噴火しないと思わせての噴火、噴火するともしないとも思っていなかったのに突如噴火。様々なパターンで我々を惑わせた。田上火山は小悪魔のようだったのだ。

なぜ、田上火山には波が、悪く言えばムラがあるのだろうか。その理由を探るために、いまなお活発に噴火しているキラウエア火山と対比させてみた。表にまとめてみたので参照していただきたい。

キラウエア火山	氏名	田上 明
アメリカ合衆国ハワイ州	出身地	埼玉県秩父市
1247m	身長	192cm
不明	体重	120kg
大昔	生年月日	1961年5月8日
ハワイ火山国立公園	所属	プロレスリング・ノア
噴火	必殺技	秩父セメント、オレが田上、ダイナミックボム、ノド輪落とし等
1983年からずっと噴火中	噴火歴	2005年GHCヘビー級選手権試合、等
楯状火山	種類	相撲レスラー
なし	愛車	ハーレーダビッドソン

撮影／平工幸雄

「俺はいつでも噴火してるって！」

この表からわかることといえば、まず大きさだろう。キラウエア火山は田上よりも数十倍の大きさである。だが「必殺技」の項目を見てみると、断然田上のほうが多い。「俺がキラウエア」などという技はない。また「愛車」に関しては田上がハーレーであるのに対し、キラウエア火山は〝なし〟である。

キラウエア火山の愛車などと意味不明なことを書いていることからわかるように、この表はまったく役に立たないものであった。対比させたところで田上火山の謎はひとつも解明されなかった。

選手権試合。結果は田上の負けだった。だからといって負けイコール噴火なし、と決め付けてしまうのは早合点過ぎる。試合内容は「噴火した」と言っても問題はないものだった。

夏が過ぎて、田上の秋が来る。今年はあと何回噴火するだろうか。そして来年はどうだろうか。その次は……。

田上火山のことをあれこれ考えているうちに外が完全に明るくなった。通勤のサラリーマンが駅へと急ぐ足音もちらほら聞こえてきている。この原稿の締め切りは朝8時と言われている。もうすぐ7時になってしまう。結局、役に立たない表を作っただけで終わってしまいそうだ。

いま噴火しなければいけないのは自分のようだ。

だが今月は噴火せずにこのまま終わろう。

暑いから仕方ない。それが理由だ。

椎名基樹のサムライ三味

第17回

声に出して読みたい外国人選手

8月19日にディファ有明で開催されるミャンマー・ラウェイの興行を観に行こうと思っていた。久々に食指を動かされる、格闘技イベントだ。『kamipro』のネタもこれでOK、と思っていたが、なんでも発売が24日とか。

とすると、今号には間に合わず、次号には古すぎるという、じつにバッドなタイミング。「シャーないなっ」と、髙田本部長ばりに割り切っても、ラウェイ観戦は個人の楽しみだからいいとして、今回もまたネタらしいネタもなく困るのである。

今月見た格闘技のイベントを思い出す順に上げれば、まずは『亀田の夏祭り』。じっくりとは観ていないので、試合内容および大毅のお楽しみ歌コーナーについては書くことはないのだが、いや、いいよね『亀田の夏祭り』ってタイトルっつーか番組名。「亀田の夏祭りじゃ〜！」とか興毅が叫んじゃったりして、ゴールデンタイムに、これだけダサイ物って他に見あたらず、それだけで目を奪われる。おしゃれな方向（筆者のイメージでは『デトロイト・メタル・シティ』で根岸が本当に目指している方向）に向かっている様に見える世の中ですが、多種多様ですな。

『亀田の夏祭り』は6チャンネル。6チャンネルといえば、同じく無闇矢鱈な暑苦しさで異彩を放っていた番組『ガチンコ』の局。熱血ヤンキー物を好む社風なのか？　過激な夏祭りもいいが、秋になったら収穫を祝う、ほのぼのとした雰囲気の『亀田の秋祭り』にも期待したい（今年収穫した新米で亀田製菓が作ったお煎餅なども配られる予定）。

『HERO'S』はやっぱ、田村の敗戦。あらためて思い出すと結構ショックだった。判定で勝者の手を挙げるシーンは見られなかったからなあ。あれだけテイクダウンしてもブレイクが早すぎて、結局立ち技から。あれじゃあキツイ。筆者にとってはあのタイミングのブレイクはもはやバーリ・トゥード（以下・VT）とは別競技で、チャンピオンのカルバンは強いし、なかなかイイ顔ぶれの『HERO'S』70キロ戦線にすら、いまひとつ興味が湧かないのは、このローカルルール色が強いブレイクのタイミングにある。VTはまだ、それぞれの団体がローカルルールで闘っている状態であるが、『HERO'S』のそれは、より総合格闘技の常識のようなものから逸脱しているように感じる。

しかし、この田村vs金泰泳は数年前だったら大事件の顔合わせだと思うが、じつにあっさり行なわれて、あっさり田村の負けが決まってしまった印象だ。

その金泰泳は、田村戦からわずか1カ月あまりで、K−1香港大会のアジアGPに出場した。武蔵が今年のGP開幕戦出場の最後のチャンスとなる、このトーナメントに参加したことが話題の中心であったが、格闘技ファンが注目していたのは、金泰泳だったのではないか？　筆者はそうだった。あの強かった金泰泳が体重を増やして参戦。もしかしてこれまでヘビー級で頑張ってきた選手を尻目に、バッタバッタと倒してしまうんじゃないか？　そんな風に思って期待していた。

実際、1回戦の戦闘竜戦は、何が起こったのか一瞬わからないほど鮮やかな右上段で倒してみせ、期待が高まった。金泰泳はやはり素晴らしかった。

しかし、それ以上に戦闘竜は気になる存在でもあった。桜庭の「プロレスラーは本当は強いんです」という名言への明らかなオマージュだと思われる「お相撲さんは本当は強いんだよ！」という珍言以来、勝利を見てないような気がするが、頑張ってもらいたい。ボクシングの技術はまったく進歩してないように感じますが……。

話は逸れたが、戦闘竜に鮮やかに勝ち、さてこれから藤本、武蔵とJAPANヘビー級陣を血祭りに上げてくれると思いきや、眼窩底骨折の疑いで金選手棄権って……本当？　K−1ってどこまで信用すればいいのでしょーか！（↑桂三枝風）。

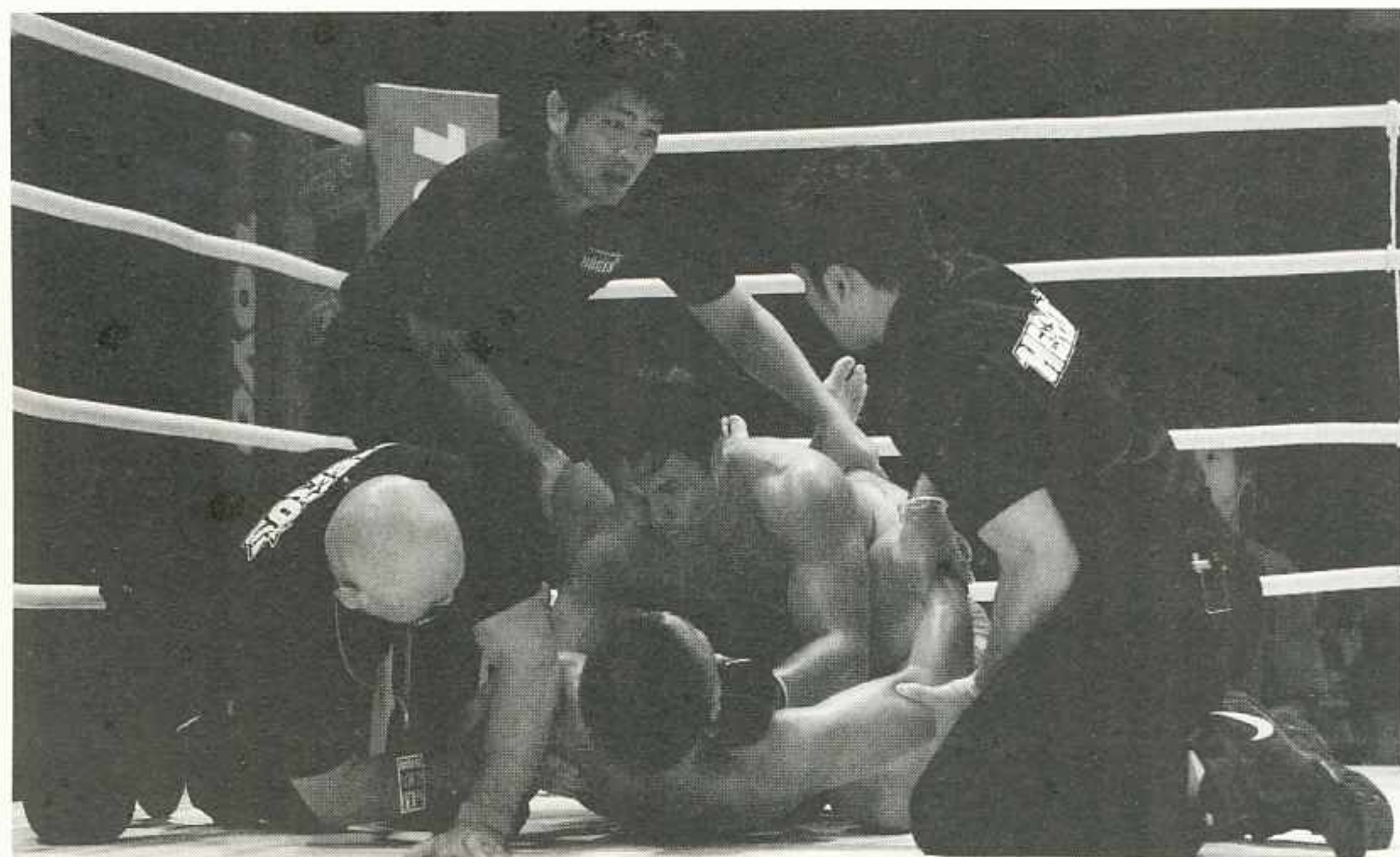
興味もないが「武蔵撃チン」についても触れますが、金的攻撃の後、タオルを投入したが、反則行為のあとだったのでタオルは無効って、なんだよ、それ。タオルって「棄権させてください」ってことだろ？　反則中も何も関係ないでしょ。選手の健康を考えて試合を降りるんだから。恥ずかしい。どうしても武蔵を守りたいなら、セコンドに「絶対タオルを投げるな」って言っておけばいいのに。

結局、決勝は棄権って無駄だよなあ。せっかくあれだけ人が入った初の香港興行でもったいないなあ。K−1ブランドの大会に興味が薄い最大の原因は、秋山のヌルヌル事件を筆頭に茶番劇の多さに他ならない。これは格闘技ファンはみんな同じだと思う。もう誰も真面目にK−1を見ていない。

今月最高の格闘技中継はWOWOWのボクシング。ビック・ダルチニャンvsノニト・ドネア。リッキー・ハットンvsホセ・ルイス・カスティージョ。に、しても、ビック・ダルチニャン。思わず口に出したくなる、いい名前である。イゴール・ボブチャンチンもそうであった。最近ではヘス・ナバス（サッカー選手）も口に出して言いたくなる名前。そーゆー外人の名前ってあるでしょ？　シャラポアもちょっとそう。

このダルチニャンは亀田兄弟、そして、坂田、内藤と日本人王者がひしめくフライ級のIBF王者で、浜田剛史氏いわくフライ級最強。フライ級離れした強打と、ケンカのような独特スタイルがものすごーく魅力的な選手なのだが、この日、ラスベガスのブックメーカーでは15対1という、解説のジョー小泉さんいわく天文学的数字という有利なオッズがついたのにもかかわらず、フィリピンの選手に負けて王座から陥落してしまった。残念。

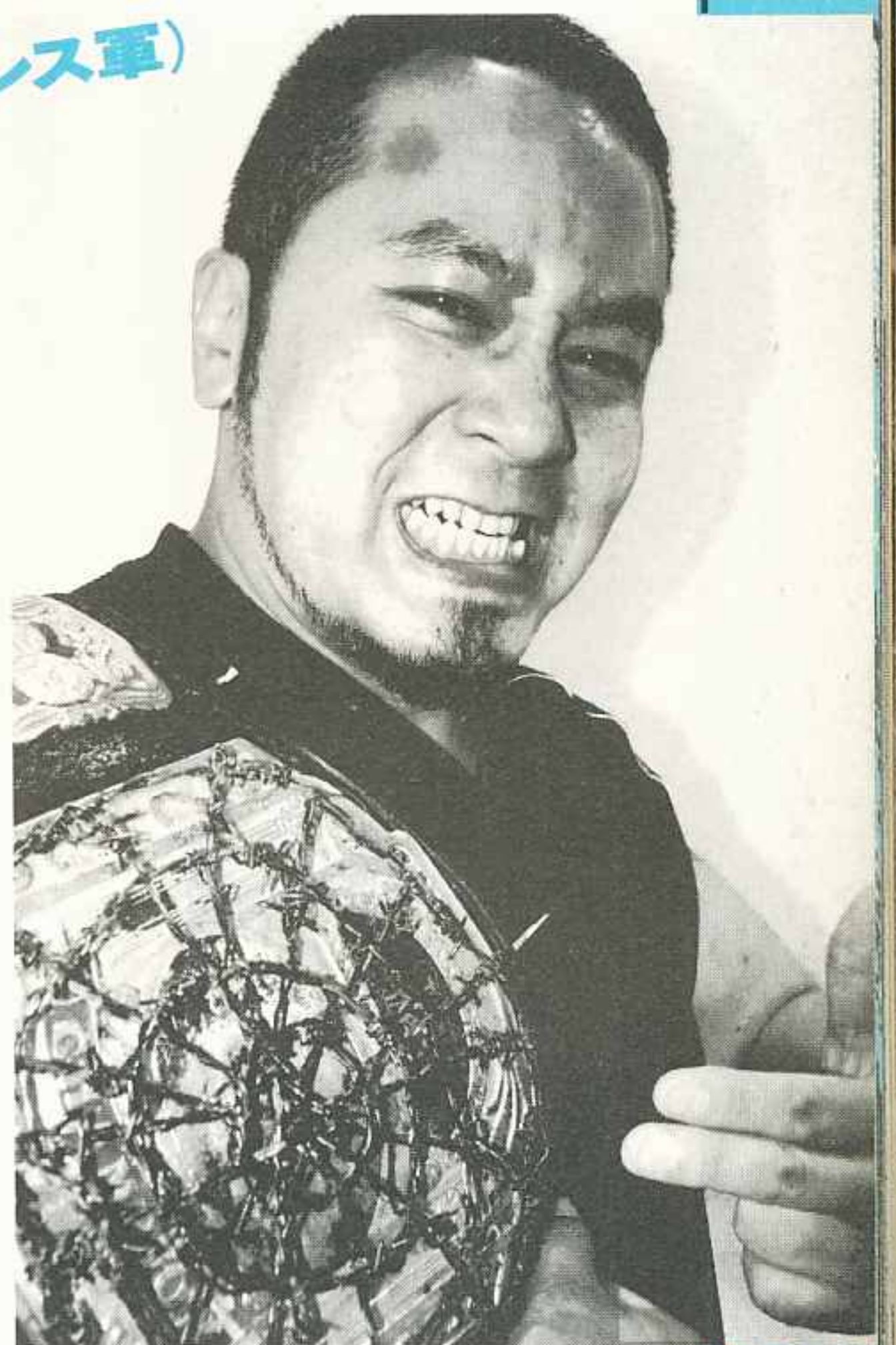
しかし、これを機に日本のボクシング界とは縁のないIBFタイトルを離れ、日本人たちと闘ったらいいなあ。

それからメインに登場したスーパーライト級王者、リッキー・ハットン。彼の試合用トランクスは青地のケツにユニオンジャック。まるでダイナマイト・キッド。これだけで好きになってしまう人も多いハズだ。筆者はそうだ。またコンプレックスの裏返しか、イギリス物って妙に惹かれる。このリッキー・ハットン、今年中になんとなんと、フロイド・メイウェザーとの対戦が内定とか！　すげえ！　それに比べると、夏祭り、K−1のなんとローカルなことだろ……。

撮影／乾 晋也

7.16『HERO'S』横浜大会のメインで田村相手に判定勝ちを収めた金は、その勢いのまま8.5K-1香港大会でのアジアGPに出場。金は一回戦で戦闘竜、準決勝で藤本相手に圧倒的な強さを見せ勝ち上がるも、決勝は眼下底骨折の疑いで棄権……。

イナズマKの ハードコアドーシター Special

頭に“剣山”刺して、病院へ見参!?

アマチュアリングス出身!? のデスマッチ王者!
佐々木貴（アパッチプロレス軍）

ささき・たかし■1975年1月16日、岩手県一関市出身。IWA格闘志塾に入門。96年9月、神奈川・大津スイミングクラブのトウカイブシドーX戦でデビュー。DDTを経て、アパッチプロレス軍に所属し、大日本プロレスにも参戦。06年3月に第18代デスマッチヘビー級王座を奪取。06年12月に沼澤邪鬼を破って第20代王座を再度獲得して以降は、デスマッチの“絶対王者”として君臨中。177cm、90kg。

7月8日に横浜文化体育館で行なわれた大日本プロレスの〝蛍光灯300本デスマッチ〟で、前王者・伊東竜二から、王座防衛！ まぎれもない〝デスマッチ絶対王者〟として君臨している男、佐々木貴を直撃！

ハードコア列伝1 原点は鶴見ジムとリングス!?

岩手県出身の佐々木貴は、小・中・高と学校では生徒会長を務めつつ、プロレスラーへの夢を持っていた。その夢に近づくべく、進学した横浜の大学ではアマチュアリングス（※注）に参加していた学内の格闘技サークルに入部!!

同時に「家から近かったから」という理由で入門したのが、鶴見五郎の鶴見ジム。

「鶴見さんは、じつはああ見えて頭がいい（笑）。レスリング技術を口で理論的に説明できる名コーチなんです。でも、練習のときと、マミーたちとしているような試合のギャップが凄かった（笑）」と、師匠の意外な（!?）名伯楽ぶりも語ってくれた。

さらに、大学対抗のアマチュアリングスの試合では、「鶴見ジムTシャツを着て、レガースをはめて、Uスタイルで闘ってました。しかも、入場曲は地元感を出して、みちのくプロレスのテーマでしたね（笑）」と、自分のバックボーンをミックスして試合に挑んでいたという。

そのあと、鶴見の団体であるIWA格闘私塾でプロレスデビュー。だが同じ頃、プレ旗揚げ戦を行なったDDTの手伝いをした際に、大きな衝撃を受ける。

「高木三四郎さんたちが、スーパー宇宙パワー（木村浩一郎）と仮面シューター・スーパーライダー（修斗初代ウェルター級チャンピオン、現・掣圏真陰流館長、渡部優一）といった、修斗系のメチャ強い人に、容赦なく蹴られて、関節極められてるのを見て、『オレがやりたいのはこれだ！』と思って」DDT所属選手となる。

だが、待っていたのは木村たちによる猛烈な練習の日々だった。「木村さんたちには、スパーリングでもまったく歯が立たない。『一生かかっても超えられない。いや、いつかこの人たちに殺されるかも』って思いながら、練習してました（笑）。でも、『やっぱレスラーの練習ってこうだよな』っていう充実感もあった」。

その甲斐あって、DDTでも頭角を現わしていくが、次第にエンタメ重視になっていったDDTの方向性とズレを感じて、アパッチプロレス軍へ。他団体にも参戦する中、「ここでのし上がりたい！」と思ったのが、大日本プロレスだった。

ハードコア列伝2 デスマッチ路線に〝差別〟も!?

「最初、デスマッチをやりたいとは、これっぽっちも思わなかった」という佐々木だが、「伊東（竜二）は、地方の100人くらいの会場だろうと、蛍光灯でバンバン殴り合って、シャワーもない場所でも、血だらけになってる姿を見て、素直に凄いなって」と正統派プロレスラーから、突如としてデスマッチに開眼した佐々木。

しかし、このデスマッチ新参者を大日本のファンはなかなか簡単には認めてくれなかった。

「中でも毎回、一番熱心にブーイングしてるヤツの顔をよく覚えてたんです（笑）。それが、初めて伊東と蛍光灯300本マッチをやったとき、会場から『貴』コールが起こった。そっちを見たら、コールを先導していたのが、そのブーイングしていたヤツだったんです。ちょっとは認められたのかなって、ウルッときましたね」。さらに、その伊東とのデスマッチを行なう直前にも、印象深いエピソードがある。

「その頃、ある団体の知り合いの選手に、『おまえも血だらけで大変だな。同情するよ』って軽い調子で言われたんです」と、デスマッチ差別ともとれる発言を受けていたことも告白。

「僕からすれば、ついに大日本でつかんだビッグチャンスの前なんですよ。『やらされてるわけじゃなくて、やりたくてやってるんだ！』って、心の中で叫びましたね」。

ハードコア列伝3 衝撃！ 頭の剣山が抜けない

そんな佐々木の試合の中でも衝撃だったのは、昨年3月、当時チャンピオンだったアブドーラ小林との『蛍光灯&剣山デスマッチ』。

この試合で、佐々木は見事にデスマッチのベルトを初奪取したが、その試合中、剣山が彼の後頭部に突き刺さり、試合後も抜けなくなってしまった。

「頭に剣山が刺さってるのに、小林がパイルドライバーやジャーマンとか、頭部へガンガン攻撃してくる（笑）。それで、剣山の針が曲がっちゃったみたいで、試合後に控室でみんながひっぱっても抜けない。これを抜けるのは、大日本で一番の〝豪腕〟関本大介しかいない、と意見が一致して、関本を呼んだら、『ボク、怖くて無理です〜』って。アイツは豪腕だけど、ハートは弱かった（笑）」と関本の小心者ぶりを語る。

「それで病院に行ったら、顔面血だらけで頭に剣山が刺さったヤツがいきなり現われたから、まず警備員さんに止められて、受付の人も『こんな患者は初めてだ！』って慌てちゃって（笑）。結局、医者には『頭蓋骨には針は刺さってないから大丈夫。力づくで抜くしかない！』と言われて、5人くらいに押さえられて、強引に抜いたんです。剣山が抜けたときにブチブチブチッ！ って音がしたので、肉ごと持っていかれたかな〜って思ったら、ハゲにはなってなくて、ホントによかった」と笑う佐々木。

こうした壮絶体験にもめげず、心身ともにタフになった佐々木は、いまや押しも押されもせぬ大日本の〝デスマッチ絶対王者〟となった。

デスマッチと正統派レスリングを融合した、佐々木貴のスタイルは、デスマッチに対して、ネガティブな世間の見方をいつか変えてしまう男、なのかもしれない。

見てみぃ！ この刺さり具合！ 大日本の“名医”李日韓レフェリーもたじろいた、06年3月のアブドーラ小林との『蛍光灯＆剣山デスマッチ』で剣山が後頭部へズブリと刺さった証拠写真。そんな佐々木は8月26日に『プロレスサミットinARIAKE』で“黒天使”沼澤邪鬼と王座戦！ なんと同日に古巣・DDTへも約3年ぶりに参戦する!

※注 アマチュアリングス＝94年より、リングスが主催していたアマ格闘技大会。当時は東京大学の総合格闘技サークル「リングス東大」を中心に、大学の総合格闘技サークルがリングス公認のCampas Fighting Network（CFN）としてアマチュアリングスに参加していた。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

第22回 ジェイミー・D（フリー）の巻

たくましい女性だいスッキ！　デカイ女を見ると異常興奮するアマゾネス愛好クラブ会員・掟ポルシェが、巨大SM嬢検索の手を休めて贈る『萌え萌え女々苑』。今回のゲストはプロレスリングSUNに突如現われて高橋奈苗からAWA女子王座を奪ったジェイミー・D！　つきまとう性別詐称疑惑の真相に迫る！　あの～、男でも女でもどっちでもいいから抱いてください！

掟　AWAシングル、新チャンピオンおめでとうございます！

ジェイミー・D（以下・ジェイ）　おう！　アリガトよ！

掟　お父さんみたいな大きな背中ですね……あの、ちょっと甘えてみていいですか？

ジェイ　あ？　なに言ってんだ、お前!?　ったく、しょうがねぇな～。ホラよ（掟に背中を向ける）。

掟　（ジェイミーのたくましい背中に寄り添って恍惚とした表情で）…………。

ジェイ　満足したか、坊主。

掟　ハイ！　尋常ではない安心感がありました。顔立ち、凄い整ってますよね？

ジェイ　おう！　アリガトよ！

掟　往年の名優で言うと、カーク・ダグラス激似でいらっしゃって。

ジェイ　んあ？　そいつはどんな映画に出てるムービースターだ？

掟　日本ではマキシムのCMに出てた男優として有名です！

ジェイ　ブチ殺すぞ！　男じゃねぇかよ。

掟　ヒィッ！　し、失礼しました！　あのですね、大変言いづらいんですが……あまりの強さに日本のプロレスマスコミの間では、ジェイミーさんは男じゃないかっていう声もあがってるんですよ。

ジェイ　女だっつってんだろ、てめぇブチ殺すぞ！　ま、俺ぁビッグハートだし、今日はベルトも獲って機嫌がいいから、おまえの目ん玉、くり抜かないでおいてやるよ。デャーッハッハ!!

掟　あ、ありがとうございます！　今後も引き続きお天道様拝ませていただきます！　まずプロレスを始めたきっかけは？

ジェイ　俺ぁずっとボディビルやってたんだけどよ、身内とか周りのヤツらに「おまえ、プロレスラーになったほうがいいんじゃネ？」とかよく言われててよォ～。そんで、観に行ったりして、ジムやスクールに行くようになって「俺のやるべき道はこれなんじゃネ？」って思ったんだよな！

掟　得意技はなんですか？

ジェイ　スピアー、シャープシューター、チョークスラムな！　俺にノド輪されたらジ・エンドだぜ！

掟　輪島のゴールデン・アームボンバーを超える破壊力におしっこチビりましたよ！

ジェイ　おう！　水牛ぐらい楽勝でブン投げちゃうよ！　あと、日本で教わったF5（バーディクト）とかラストライドも得意っちゅうかな。F5とかマジヤバイよ。F5ヤバすぎ。おまえ、受けてみっか？

掟　（両手で必死にバッテンを作って）イ、インポッシブルです！

ジェイ　いっぺん死ぬか？　デャーッハッハッハッハ!!

掟　日本では今後もSUNの高橋奈苗選手と抗争を続けていくんですか？

ジェイ　そうだ！　まだブッ殺し足んねぇ！　でもな、あいつ女にしちゃあ骨のあるヤツだ。アメリカとかカナダだと俺、男と闘うことが多かったからな、マジで。

掟　女に相手がいないんですね？　さすがです！

ジェイ　そういうこと！　向こうじゃ女子プロレスってものに対するリスペクトも認知度も低くてアッタマくんだよな。ま、ナナエとの試合みたいな超ハードなの毎回見せれば、そんな認識も変わんじゃャネ？

掟　その高橋選手から会見で「おまえ、男だろ!?」って言われてましたけど。

ジェイ　そうだ、あのアマ！　しつこく何回も男、男、言ってきたから俺もブチギレてよォ～、チョークスラムで2回叩きつけてやったぜ！　あれ、2～3日後死んでんじゃねぇか？　デャーッハッハ!!

掟　本国でも男よばわりされてんですか？

ジェイ　一番最初に試合をしたときにも「アイツは男じゃねえか？」ってヤジが飛んでてよ～、リング降りてって真っ先にそいつブチ殺そうかと思った。でも俺のストロングなところを見たらみんな態度変わってよ、「おまえは男でも女でもない。ジェイミーだ！」って言ってくれたよな。

掟　強さで認めさせたわけですね！

ジェイ　だな！　まあ、いつまでも「おまえ、男だろ!?」なんて、しつこく言ってくるクソボケはケツを蹴っ飛ばしてやるぜ！

掟　『kamipro』の読者全員、ケツ蹴っ飛ばされ好きですから、みんなケツを出して待っております！

ジェイ　おう！　ケツ洗って待ってろ！　……ってことは、おまえも俺のこと男だと思ってんのか？　やっぱブチ殺すぞ!!

掟　お、お慈悲！　でもちょっと殺されたいような……。では、どんなときに自分のことを女だなと思いますか？

ジェイ　そんなん、考えたこともねえ！

掟　素敵な男性を見たときとか、女であることを意識したりしません？

ジェイ　べつにねーよ、バカ！

掟　好きな男性のタイプは？

ジェイ　俺こう見えても、いまシングルなんだけどよ。でも、忙しくて恋に落ちる時間もねーんだよ。どうも面倒くせえよな、男ってヤツは。

掟　（恐る恐る）では、女性のタイプは？

ジェイ　てめ、マジブッ殺すぞ!!（掟の頭を片手で鷲掴みにして握り潰そうとする）

掟　ハプ！　ハプ！　ハプ！　こ、こめかみに穴が開く～！　いや、あの、あの、友人として、の女性のタイプです！

ジェイ　わけわかんねぇこと聞いてんじゃねぇぞ、このクソボケ！　ま、俺をリスペクトしてくれるんなら、日本人だろうが誰だろうが、肌の色とかは関係なく、俺もリスペクトを返す。でも今日闘ったナナエのガキだけはマジで許せねぇ！

掟　高橋選手はリスペクトが足りないと？

ジェイ　俺のことをいつまでも男だなんて言ってるし、あのガキ、リスペクトのかけらもねぇ！　ブチ殺す！

掟　あのですね、わが国の信頼できるナンバーワン・ニュースペーパー『東スポ』に、ジェイミーさんが立ちションしてる写真が、バッチリ掲載されましたが……。

ジェイ　あ？　んなもんおまえ、酔っぱらったらよくやんだろ！　武蔵小山あたり、俺のションベンかかった物件だらけだぞ！

掟　日本では立ちションは男しかしないんですが……やっぱり、男なんじゃ……。

ジェイ　てめ、ナナエと一緒にブチ殺す!!

じぇいみー・でぃー■カナダ・オンタリオ州出身。影響を受けたレスラー＆有名人はザ・ロック、ハルク・ホーガン、アーノルド・シュワルツェネッガー（ジェイミーいわく「彼も俺のファンなんだ」とのこと）、チャイナというジェイミー。初来日となった8.5SUN新宿大会で高橋奈苗を破りAWA世界女子王者に。175cm、100kg。秘蔵写真満載のHPアドレスは→ http://www.jaimed.net/

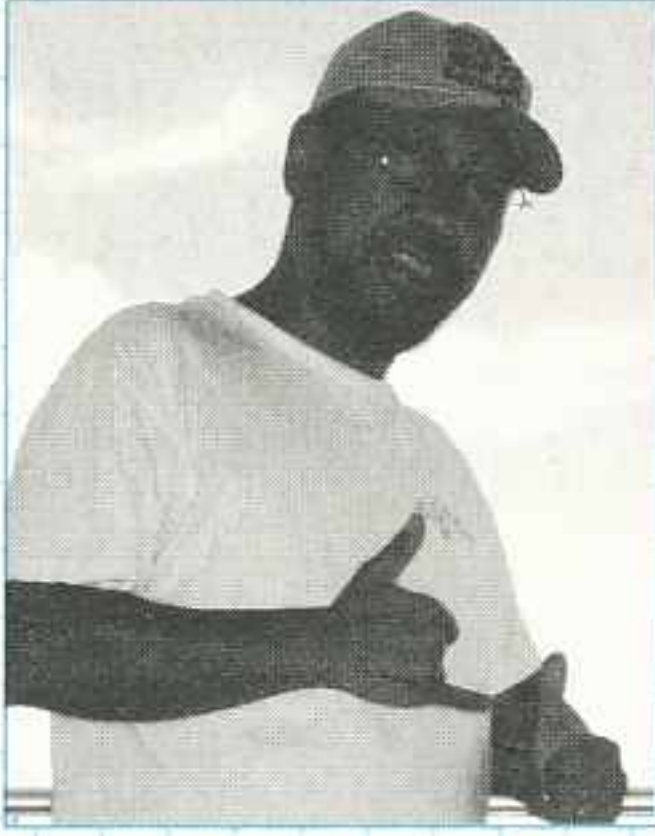
ヒザの負傷にもめげず、最後は豪快なチョークスラム2連発で奈苗に勝利したジェイミー。やっぱり男か!?

Okite Porsche◎掟ポルシェ（おきて・ぽるしぇ）■ロマンポルシェ。ライブ情報！　8/29（水）新宿ロフト（TEL.03-5272-0382）、9/22（土）代々木ザーザズー（TEL.03-5358-4491）。その他の出演情報は掟ポルシェブログを参照【http://blog.excite.co.jp/porsche】

ファイター関係者がこだわりの選出!

“俺だけの”なんでもランキング

小佐野景浩の 僕が愛するハワイ、ベスト5

アロハ～♪　俺だけの、俺だけによる、俺だけのためのランキング。ベスト5を選出！　第8回目は、元『週刊ゴング』編集長であり、熱狂的なハワイフリークとしても知られる小佐野景浩氏にプロレスファンにオススメするハワイ、ベスト5を直撃！

おさの・かげひろ■1961年9月5日、神奈川県横浜市出身。『週刊ゴング』の編集長も務めたプロレスマスコミの重鎮。現在はフリーライター。馬場さんから影響を受けた、大のハワイフリークとしても有名である。

1 『モアナ・サーフライダー ウェスティン リゾート』
2365 Kalakaua Avenue Honolulu, HI 96815

2 『チャックス・セラー』
150 Kaiulani Avenue Honolulu, HI 96815
（オハナ・イースト・ホテル内）

3 『カタマラン・クルーズ』
ワイキキビーチ

4 『NBCアリーナ』
777 Ward Avenue, Honolulu, Oahu, HI 96814

5 『マウンテン・ビュー』
写真はアクア・アイランド・コロニーというコンドミニアムの42階のベランダの景色

ハワイフリークの“原点”は馬場さん御用達の王道ホテル

僕がハワイ好きになったのは、1987年。3度目のハワイ体験のときです。

そもそも最初のハワイは、84年の旧UWF分裂騒動時に、ラッシャー木村さんや剛竜馬さんを取材したとき。2回目は86年、輪島（大士）さんのデビュー戦直前ハワイ特訓。両方とも取材でドタバタしてて、楽しむ余裕なんてなかった。

そして運命の3回目。89年7月に、全日本プロレスで『あすなろ杯』という若手のリーグ戦が開催され、小橋健太（現・建太）と菊地毅が出場することになって、二人はリーグ戦に備えてマレンコ兄弟とハワイで特訓をすることになったんだけど、馬場さんから「特訓の取材に来ないか？」とお誘いを受けたんです。

だけど、当時の小橋たちは単なる若手。「企画として弱いので、取材費用が出ない」と伝えたら、なんと馬場さんがホテル代を払ってくれることになったんです。

それが、モアナ・サーフライダーホテル（現・モアナ サーフライダー ウェスティン リゾート）という由緒あるハワイ初のリゾートホテル。ここが今回の第1位ですね。

このホテルは、歴史的建造物だし、エントランスから僕が思い浮かべてたハワイの海がバッチリ見えて、もの凄く感激しました。ただし、当時の『週刊プロレス』編集長のターザン山本さんと相部屋。新婚さんが泊まるような部屋に二人きりで泊まったのは残念でしたね（笑）。

このホテルのビーチバーに、樹齢100年以上のバニアン・ツリーという木があるんです。ハワイは湿気がなくて、木の下は涼しいから、馬場さんはそこでピニャコラーダのアルコール抜きを飲んでくつろいでる。いつも忙しい馬場さんがホントにリラックスしてるのを見て、こっちも幸せな気分になったんです。

ハワイは遊びに来ている人の「楽しみたい」というハッピー・オーラが満ちあふれている土地。僕も「こんなに海をのんびり見たことはなかったなぁ……」「この甘い匂いはなんだろう……」なんてこのときはリラックスできた。ああ、いい思い出がたくさんあるんだよなぁ……。

“あのメンバー”で馬場さんを偲んだステーキハウスとは？

週刊誌の仕事って忙しいでしょう。仕事を終えてプライベートでハワイを訪れると、日本のことが遮断されて、時間から解放される。普段は徹夜仕事だから、太陽光線を浴びてリフレッシュもできる。

それから、仕事では6回だけど、プライベートでは18回行ってます。ハワイの雑誌も買ったり、ハワイアンミュージックに興味を持って、ハワイの歴史まで調べるハワイフリークになって、97年にはハワイで結婚式まで挙げています（笑）。

それで第2位は、ステーキハウスの『チャックス・セラー』。これはカイウラニ通りのオハナ・イーストっていうホテルの地下にある、オシャレだけどカジュアルなお店。91年のSWSのハワイ合宿のときに石川（敬士）さんに連れて行ってもらったんだけど、石川さんも馬場さんから教えてもらったという全日本プロレス御用達のお店です。

この店の目玉が“チャックス・カット”というプライム・リブ。ローストビーフみたいなものでドーン！　と448グラムもある。ポテトかライスがついて、サラダバーがあって、いまも26ドル（約3000円）くらい。ジューシーで、西洋ワサビのホースラディッシュをつけて食べるとガンガン食べられる。

じつは、02年6月のWWEハワイ大会の取材のとき、6月16日がハワイの父の日だったから、馬場さんを偲んで、ハワイに滞在していた（馬場）元子さんと、小島聡との三冠戦を控えてハワイ合宿をしていた天龍さん夫妻と、和田京平さんとこの店でごはんを食べた。天龍さんが全日本からSWSに移籍した経緯を考えると、「このメンバーでハワイで食事をするなんて……」と感慨深かったですね。

3位は、ワイキキビーチのカタマラン・クルーズ。沖を回る観光用ボートで、海ガメやイルカが見えたり、波が高くなければ、泳ぐこともできて、一人20ドル。しかも、運転してる人があのロッキー・イヤウケア（元レスラー）なんです。

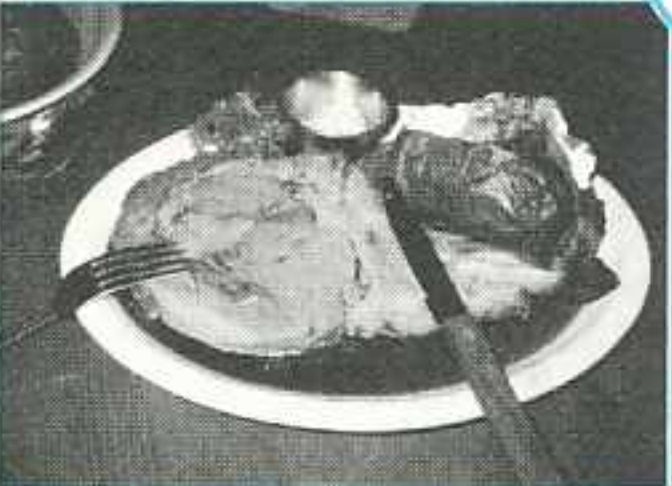
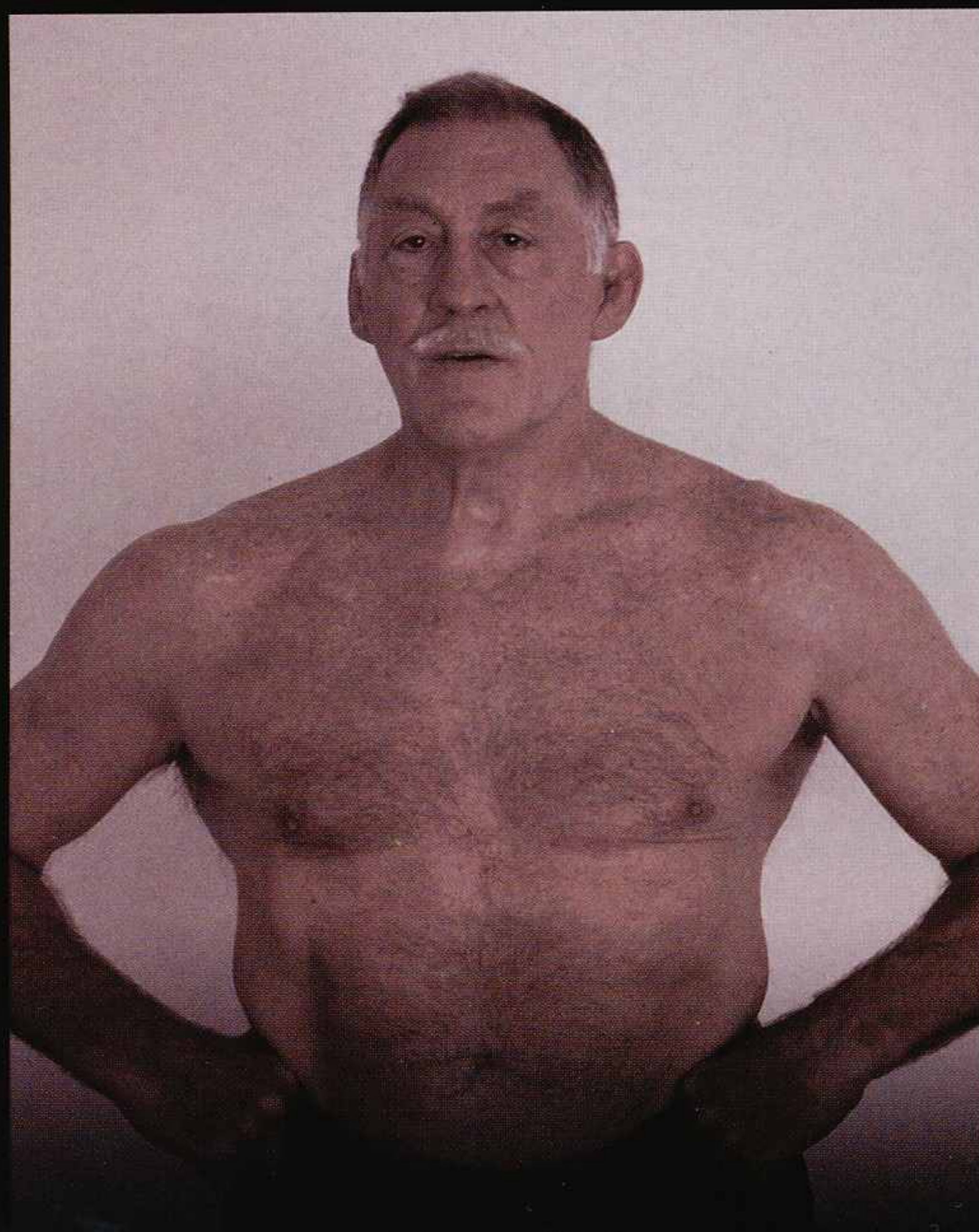
さらに、ロッキーの奥さんが、80年代に日本で活躍した元アイドルで、シブがき隊や小泉今日子さんと同期の佐々木よしえさん。よしえさんがデューク・カハナモク像の前のビーチで呼び込みをしている。小さい船だけにスリル満点ですよ。

ただ、ロッキーさんは午後は勝手に船に乗って帰っちゃったりもするから、午前中を狙ったほうがいい（笑）。

4位はNBCアリーナ。昔はよくプロレスの試合をやっていた会場で、HICという名前で呼ばれていた時代には馬場さんとアンドレ・ザ・ジャイアントがバトルロイヤルで試合したり。WWEのハウスショーもしてる。02年のWWEの取材のときは、ザ・ロックと天龍さんのツーショットを手配して『ゴング』の表紙を飾りました。プロレスファンなら、一度見ておくといいでしょう。

ハワイの“常識”を覆す提言 ホテルの部屋は、海より山側

5位は、プロレスとは関係ないけど、ハワイのホテルって、みんな海の見える部屋にしたがるでしょ？　それもいいけど、そういう部屋は高い！　僕のオススメは山が見える部屋（マウンテン・ビュー）！　海が見える部屋は夜は真っ暗だけど、山側にすると夜景が見える。あえて山の見える部屋を選べば、ベランダでお酒を楽しみながら夜景も楽しめる。一時はそういう部屋ばかり、泊まってましたね。

あと、編集者として、いつかはこういう「ハワイとプロレスの本」を作ってみたい気持ちもあるんです。一度、企画を持ち込んだこともあるけど実現してないから、「エンターブレインさん、どうですか？」と聞いておいてください（笑）。

プロレスの神様、天国へ——

追悼
カール・ゴッチ

Karl Gotch

God Bless Him.

猪木イズム、UWF、総合格闘技……

すべての源流はカール・ゴッチだった

「そんなもんアンタ、一位も二位もゴッチですよ！（ドンッ）」

昨年12月に亡くなった〝I編集長〟こと井上義啓氏に数年前、新日本プロレス史上もっとも貢献度が高い外国人レスラーは誰か、と尋ねたとき、そんな答えが返ってきた。質問を新日本プロレスに限定せず、日本マット界に変えても、きっと同じ答えが返ってきただろう。

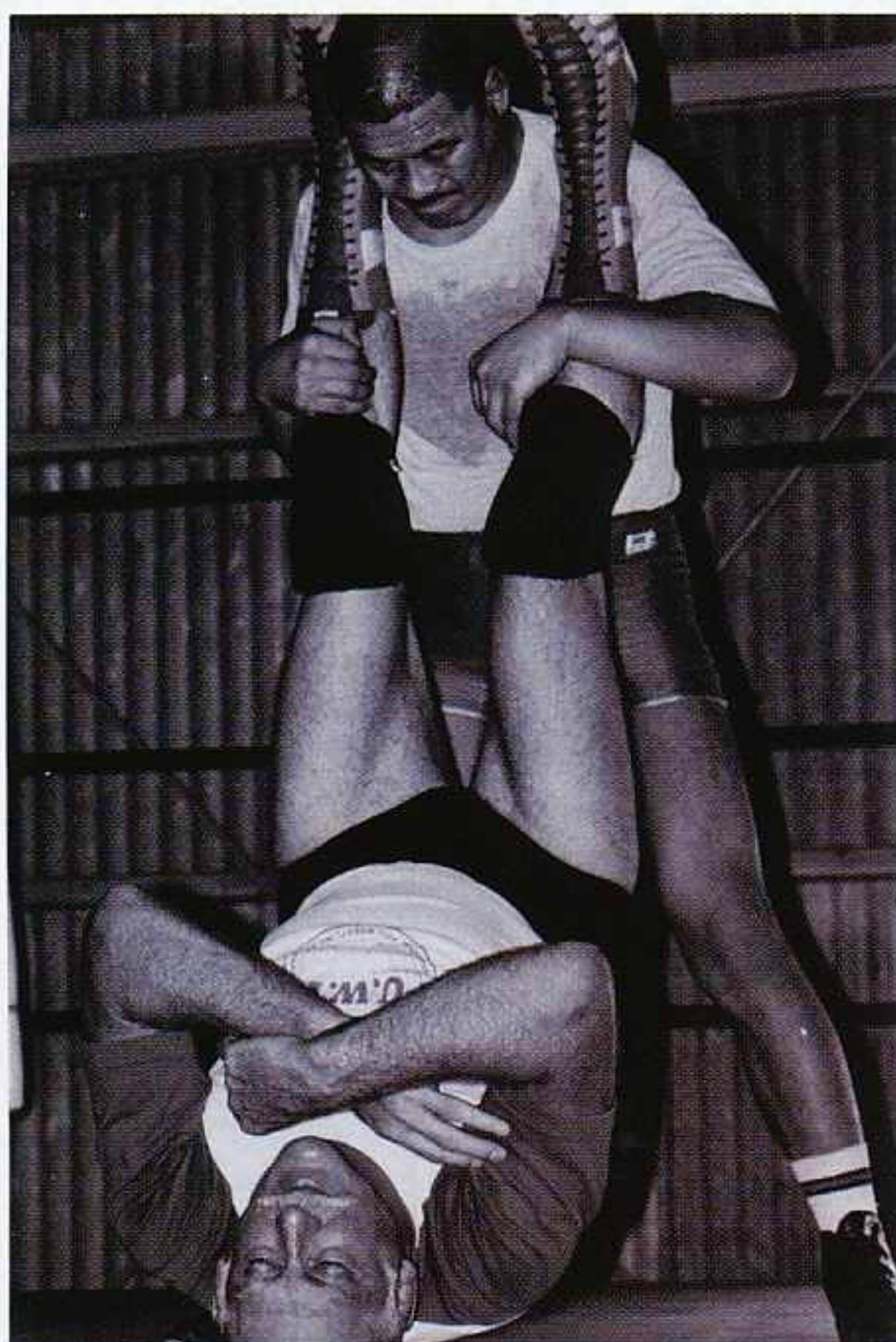
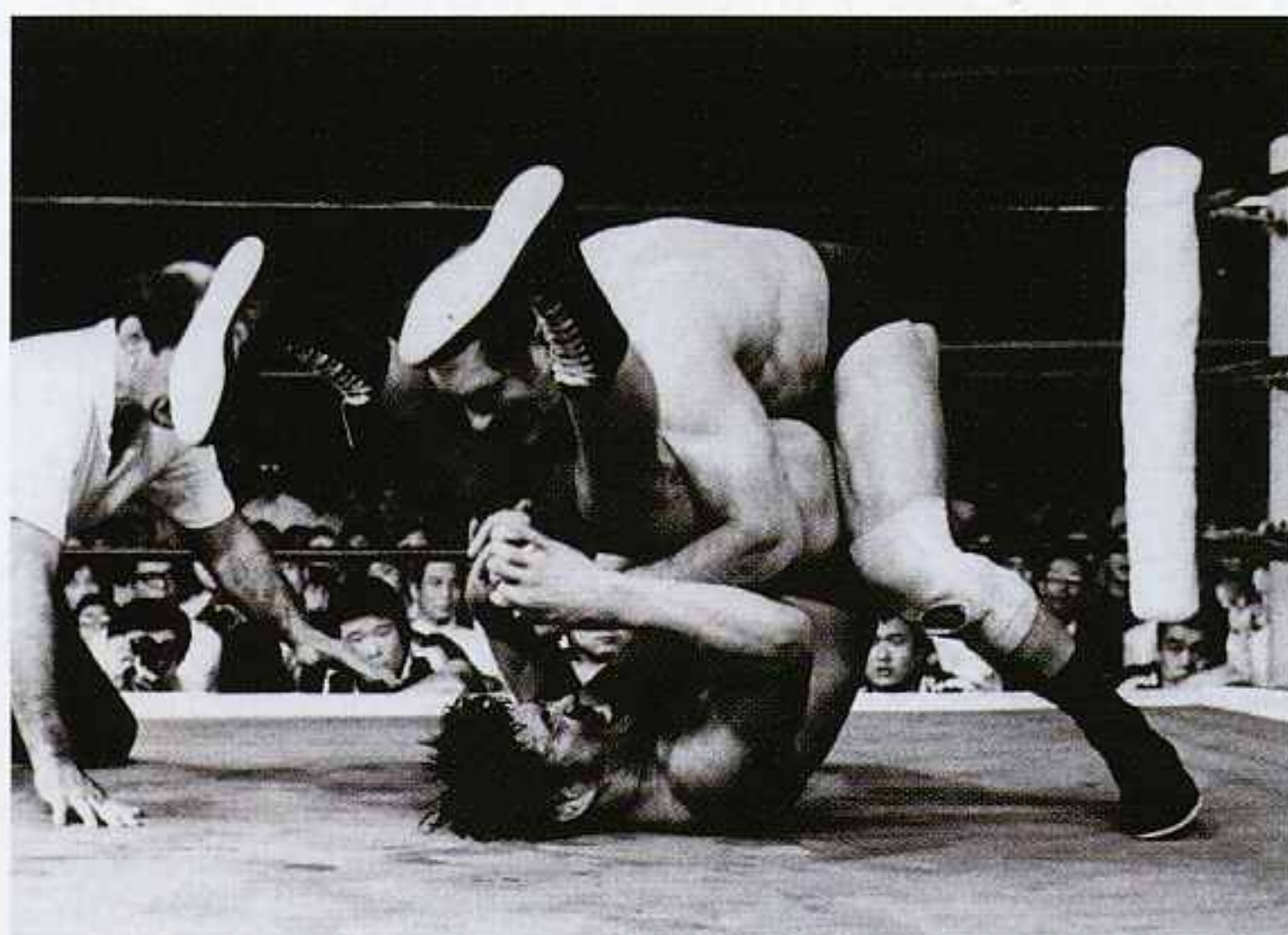
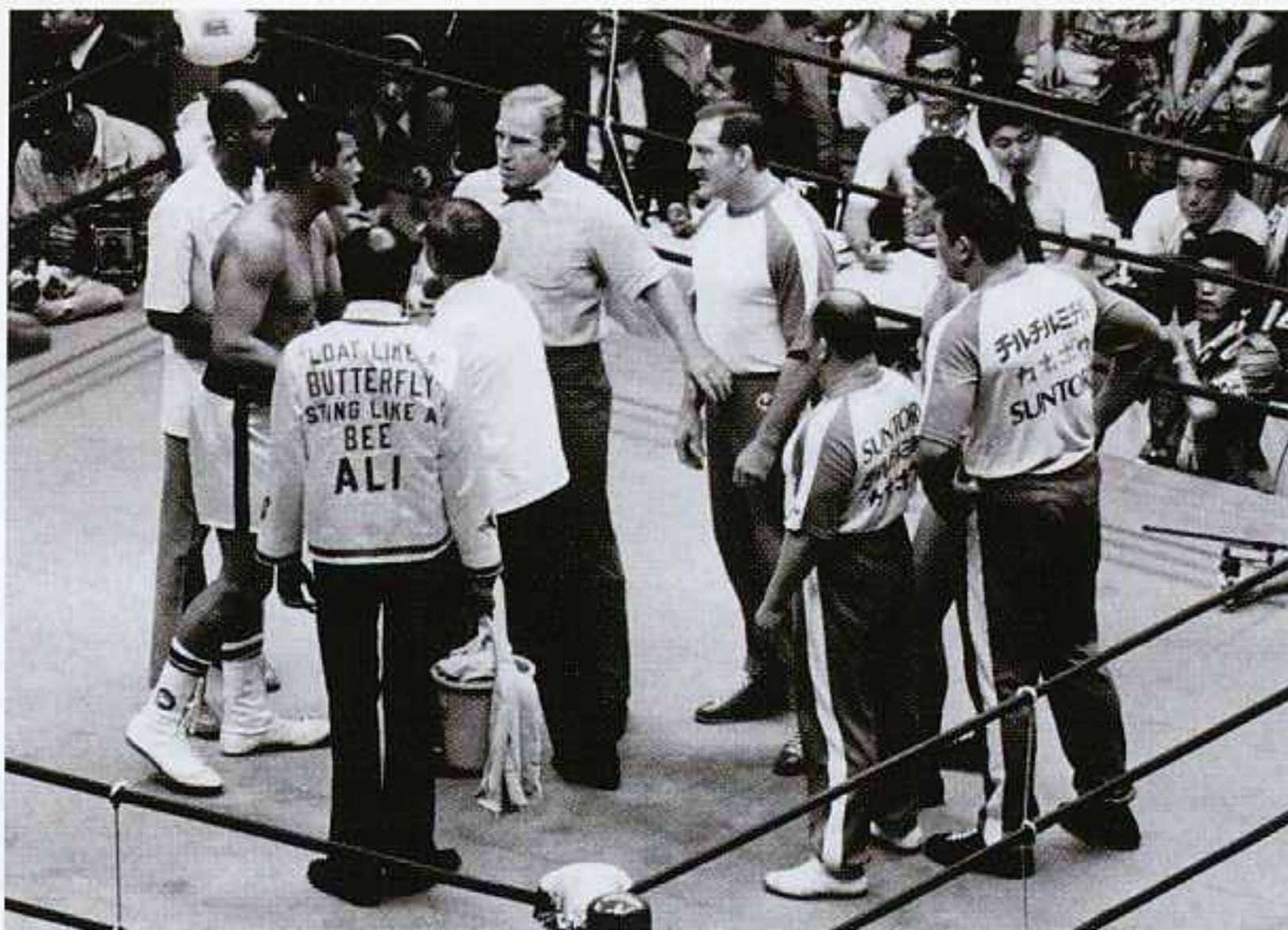
なぜなら、ゴッチさんが考え実践した〝ゴッチイズム〟こそ、アントニオ猪木、UWF、そして現在の『PRIDE』まで続く、日本マット界の礎であり、ゴッチさんなくして、これら日本独自の〝格闘技文化〟は存在し得なかったからだ。

ゴッチさんは61年に初来日。68年からは日本プロレスのコーチに就任、アントニオ猪木をはじめ、多くの若手レスラーを指導する。新日本プロレスには旗揚げ当初から協力。藤波辰巳、木戸修、藤原喜明、佐山サトル、前田日明、高田伸彦らは、みんなフロリダ州オデッサの「ゴッチ教室」に入門した愛弟子たちだ。

ゴッチさんが日本で〝プロレスの神様〟と呼ばれ、多くの若きプロレスラーがゴッチさんに師事したのは、キャッチ・アズ・キャッチ・キャンの技術に心酔したことはもとより、そのプロレスに対する信条、姿勢が〝信仰〟するに値したということだろう。

「若い頃の練習はShould（すべき）だ。しかし年を取ったら、must（しなければならない）だ」

その言葉どおり、ゴッチさんはプロレスラーとして現役時代はもちろん、〝お年寄り〟と呼ばれる年齢になっ

フロリダ州オデッサ
多くの若きプロレスラーが訪れた
"神様"が住む町
そこはまさにプロレスの聖地だった――

UWF道場で藤原とトレーニングをするゴッチ。キャッチの技術はもとより、練習に向かう姿勢など、精神面でも選手たちの手本であり支柱となっていた。

72年10月の新日本プロレス旗揚げ戦のメインをはじめ、幾度となく組まれた猪木vsゴッチの師弟対決。"実力世界一決定戦"と謳われた一連の闘いが、ストロング・スタイル、UWFの礎となった。

76年、猪木vsアリ戦ではアドバイザーとして猪木のセコンドについたゴッチ。彼がセコンドを務めるだけで、異種格闘技戦の説得力は格段に増した。

藤波、木戸、藤原、佐山、前田など、多くのレスラーが修行に訪れたフロリダ州オデッサのゴッチ邸。これは若き日の高田伸彦が訪れたときのスナップだ。

歴史上の人物と言っても過言ではない、伝説のプロレスラー、"絞め殺し"エド・ストラングラー・ルイスにゴッチさんがヘッドロックをかけられる貴重なショット。

71年、国際プロレスのリングで実現した"蛇の穴"出身の同門対決、ゴッチvsビル・ロビンソン戦。"フッカー"同士の高度な闘いは、マニアをおおいに唸らせた。

てからも、トレーニングを欠かさず、死ぬまで"素手で人を殺す方法"を考え続けた人だ。そして、(キャッチ)レスリングこそが最強であるという信条のもと、強さを求め続けた人でもあった。

そんな"神様"の信条、姿勢が弟子のプロレスラーたちはもとより、プロレスファンにもプライドを持たせてくれた。そして、その"神様"の信条と姿勢こそが、ゴッチイズムと呼ばれるものであり、そのイズムが「プロレスこそ最強」、「総合格闘技の源流はプロレスである」という、日本独自の文化を生んでいったのだ。

つまり"神様"という呼び名を嫌っていたとされるゴッチさんが、ここ日本で"神様"でいてくれたからこそ、日本のプロレス・格闘技界は世界でも類を見ない発展の仕方をしたと言ってもいいだろう。ゴッチイズムなくして猪木イズム、UWFはなく、UWFがないということは、修斗も『PRIDE』もなかったということだ。

そのゴッチさんが、7月28日(現地時間)、大動脈瘤破裂により入院先のフロリダ州タンパの病院で亡くなった。享年82。

話し好きとしても知られるゴッチさんの言葉で、次のようなものがある。

「レスリングの話は、どんなワインより私を酔わせてくれる」

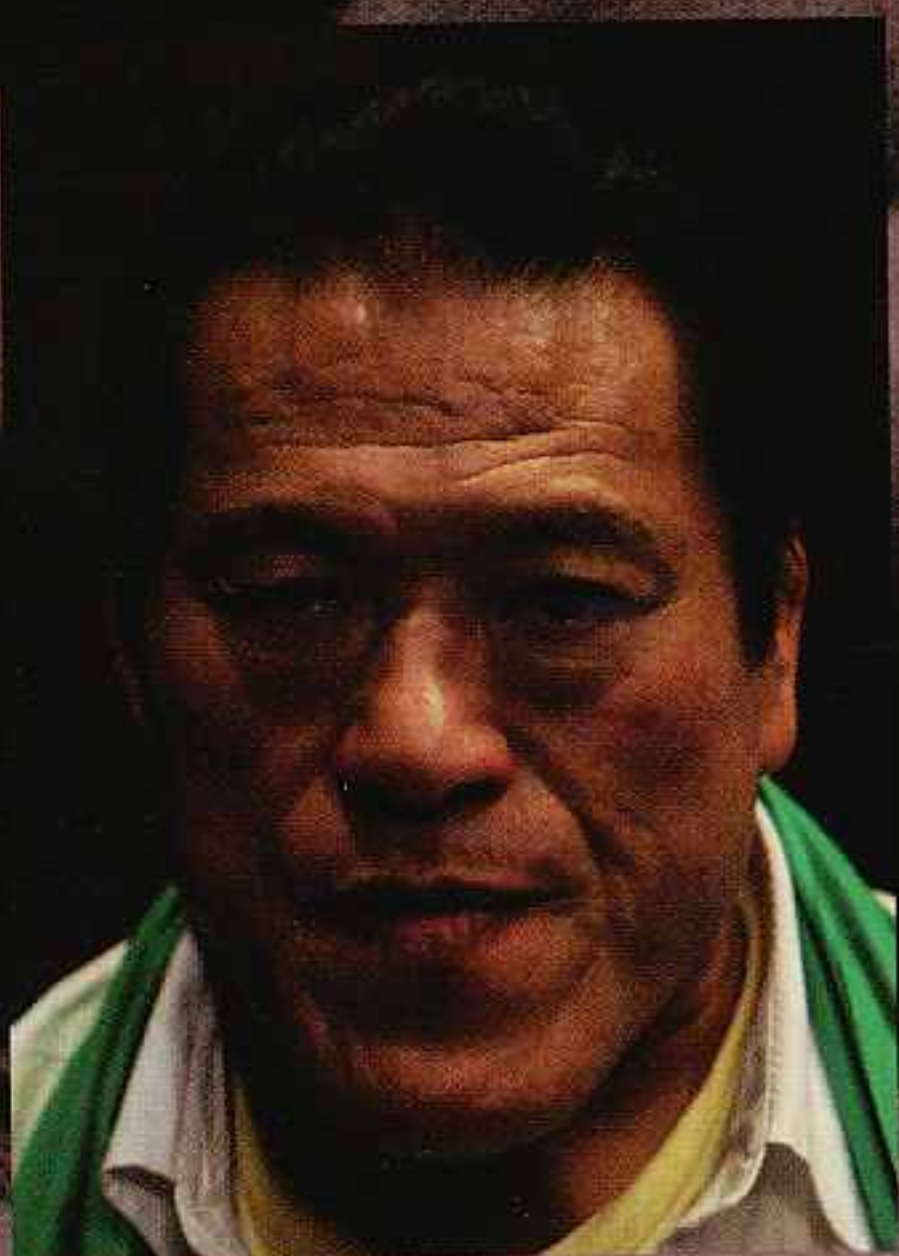
レスリングを愛し、レスリングを語ることを愛したゴッチさん。ボクらもゴッチさんがいたからこそ、今日もレスリングに酔うことができる。ゴッチイズムは日本にプロレス、格闘技があるかぎり生き続けていくのだ。

(堀江ガンツ)

Antonio Inoki

アントニオ猪木、カールゴッチを語る

プロレスと格闘技が地続きだった日本マット界。他国の格闘技文化と比べてレアケースなのは、アントニオ猪木が画期的な"プロレス＝格闘技"革命を起こしたからだが、そもそもはカール・ゴッチの教えによるところが大きいのは周知の事実。そのゴッチの訃報に猪木はいったい何を思ったのだろうか？

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

神様と猪鬼

あるいは格闘技と興行論

カール・ゴッチとアントニオ猪木――。

あらためて言うまでもなく、日本マット界に確かに根を下ろすストロング・スタイルや、『PRIDE』などに代表される格闘技文化が形成されたのは、この二人が発端である。

〝神様〟の厳格で骨太な格闘スタイルに、上昇志向が強くコンプレックスの塊だった〝猪鬼〟が共鳴する。この二人が運命的に出会わなければ、いまのマット界の風景は大きく違っていたはずだが、当事者である〝猪鬼〟本人はいま、師の一人である〝神様〟にどのような思いを抱いているのだろうか？

さて、熱心な猪木信者ならばご存知だと思うが、アントンはいつ何時でも本心を包み欠かさずしゃべってしまうんです。それはたとえば、身近のレスラーが亡くなられようが変わらない!! 追悼ムードに包まれて誰もがその人柄が偲ばれていた時期に「馬場さんの死が美化されている!!」とシャウトし、愛弟子・破壊王の告別式では「あの世でも元気ですかーっ!?」と元気に笑う!! 挙げればキリがないのである。

このインタビュー中でも触れられているが、これらの魔性のアクセル全開の発言は、じつはアントンの死生観によるもの。解釈すれば、おそらく人間の生死の境目などは存在しない――人間の身体は滅びるが精神は滅びない――というアントン流の思考があるのだろう。そうじゃなかったら、ただのロクデナシであります!!

そんなわけで今回のゴッチ追悼インタビューも湿っぽくなるわけがなく、〝神様〟をキーワードに話は無軌道に転がりまくった!!

――猪木さん！　待望のIGF第2回大会の開催が発表されましたが、そのIGFの源流を築いたともいえるカール・ゴッチさんが先日、お亡くなりになりました……。

猪木　うん。ゴッチさんのことを語ればキリがないんですけどね。

――ゴッチさんは猪木さんの師匠ですし。そのうえ猪木さんの弟子である前田（日明）さんや髙田（延彦）さんたちにも大きな影響を与えてましたよね。

猪木　うん。もったいないね！

――は？　もったいない？

猪木　だってさ、前田にしても髙田にしても、天下を取れたわけですよ。そうでしょ!?

――ええと、意外な方向に話が進んでいますが（笑）。IGFを旗揚げするにあたって、猪木さんは前田さんと会談を持たれたそうですね。

猪木　まあ、ちょっとだけね。彼は非常に『PRIDE』に敵愾心を持っていたけど、アドバイスすれば、自分を支えてくれる人や、プロデューサー的な目線が必要でしょう。

――なるほど。ひさしぶりに前田さんとお話しされて、どうでした？

猪木　いや、俺はちゃんと話したことねえんだもん！

――そ、そうなんですか!?（笑）。

猪木　ないですよ。まあ、そもそも俺と前田では立場が違いますからね。だって俺はいまだに夢を追ってますから。

――弟子でいえば、船木誠勝さんがつい最近、復帰表明をしたばかりですが……。

猪木　彼ももったいなかったよね。

――ああ、船木さんも過去形ですか（笑）。

猪木　船木だって天下を取れたんだから。今回復帰をすることにしてもさ、その件でこないだ取材を受けたんですけど。俺が思うのは、カンバックして現役のとき以上に輝いた選手は誰かいますか？　それはプロレスにかぎらず。

――いやあ、ちょっと見当たらないですね。

猪木　いないでしょ、どこにも。だからカンバックというのは、大変な覚悟が必要になるんですよ。で、一番マズイのは、金のために復帰してしまうこと！　じゃあ、船木はどっちなんだい？　まあ、ここまでは言えないよ、テレビの取材だったから。やっぱり、船木をほめてあげたほうがいいわけだから。

――まあ、ほめなかったら間違いなくカットするでしょうし（笑）。

猪木　ただ、誤解しないでほしいのは、これは決して船木への悪口じゃないんですよ！　ズバリ！

――猪木流の叱咤激励というか。

猪木　うん。俺はただ船木の覚悟を問うてるのであって、カンバックして「なんだ、やっぱり凄かったじゃねえか！」という姿をファンに見せてくれればいいです。俺なんかにしてもさ、まだリングに上がれるんだったらやるけどさ、絶対にできない。だったら現役のときとは違った役割を探していけばいいんです。

――ところで、先ほど言われていた前田さんたちが天下を取れなかった理由とは、ズバリなんでしょうか？

猪木　まあ、そこはね、経営者やプロモーターとしての腕やセンスだったりするわけですよ。まず、我々はプロですから、とにかく興行を成功させていかなきゃいけない。そのためには興行とはなんであるか？　そこを考えなきゃならないんだけど……、要するにアントニオ猪木以上の大きな夢を持ちゃあ、よかったんだよ！

――ああ、猪木さんはいつ何時でも、夢いっぽいですよね（笑）。

俺のプロレスは力道山、テーズ、ゴッチの3つでできている

猪木　俺はホントはもっと事業のほうに力を入れたいんですよ。べつにプロレスをやらなくても、世界に明かりを灯したり、サンゴとかにしても、やることはいっぱいあるわけですからね。ンムフフフ!!

――猪木さんのライフワークである永久電機にサンゴの養殖ですね。

猪木　まあ、来年は“サンゴ年”ということで国連が動きますけどね。

――ついに動きますか!!（笑）。ムリヤリ話を戻すと、“興行”の視点では、ゴッチさんとはどういう人物だったんでしょうか？

ホント、ムリヤリだな（笑）。

猪木　ゴッチさんはある意味で興行とは無縁の職人だったと言えますよね。ただし、その職人がどれだけ多くの人に夢をくれたのかといえば、カール・ゴッチという人間がいて初めて、アントニオ猪木が存在したんだと思いますよ。うん。

――やっぱりゴッチさんに出会ったことで、猪木さんのプロレスに対する考え方が大きく変化させられたんですね。そして日本のプロレスも変わっていった。

猪木　なんて言うんでしょうね。力道山とはまた違ったプロレスの光をいただいたというか。さらに言えば、プロレスは3つの要素から成り立っているんです。力道山が持っていた絶対的かつ国民的なヒーロー性、ルー・テーズというプロレス的センスの宝庫、最後の一つがカール・ゴッチ流の格闘プロレス！　俺の場合は、この3つをいい意味で結ぶことができたという。

――その3本の矢は、いまの総合格闘技の世界を見る上でも重要なファクターになりますね。

猪木　でも、残念なことに、力道山やテーズと比べて、ゴッチさんは本当に認められてなかったんですよね。とくにアメリカでの評価は低かった。それはゴッチさんのスタイルが“プロレス内プロレス”だったからなんですけど。つまりそれは“興行師”としてのセンスがなかったわけだよね。

――ゴッチさんの強さへの妥協なき精神が、周囲との調和をブチ壊したところは確実にあったのかもしれないですね。

猪木　うん。そこはゴッチさんの“格闘技のプロ”として譲れない部分だったんでしょう。で、俺は俺で“興行のプロ”として譲れないところはあったんです。

――アントニオ猪木は“興行のプロ”！

猪木　結局、これは冷たい言い方かもしれないけど、ゴッチさんのプロレスはある意味でロマンはあったけど、実際にはロマンがなかったとも言えるんですよ。大衆からすれば、ゴッチさんの試合はつまらなかったのは、れっきとした事実なんだから。

――そこで気になるのは猪木さんにとってロマンとや夢はなんなのか？　ということなんです。たとえば、いま猪木さんがロマンをおおいに感じているものでもいいですけど。

猪木　そんなの、ダイヤモンドの露天掘りですよ！（キッパリ）。

――ダ、ダ、ダイヤモンドォ!?

猪木　ムフ!!

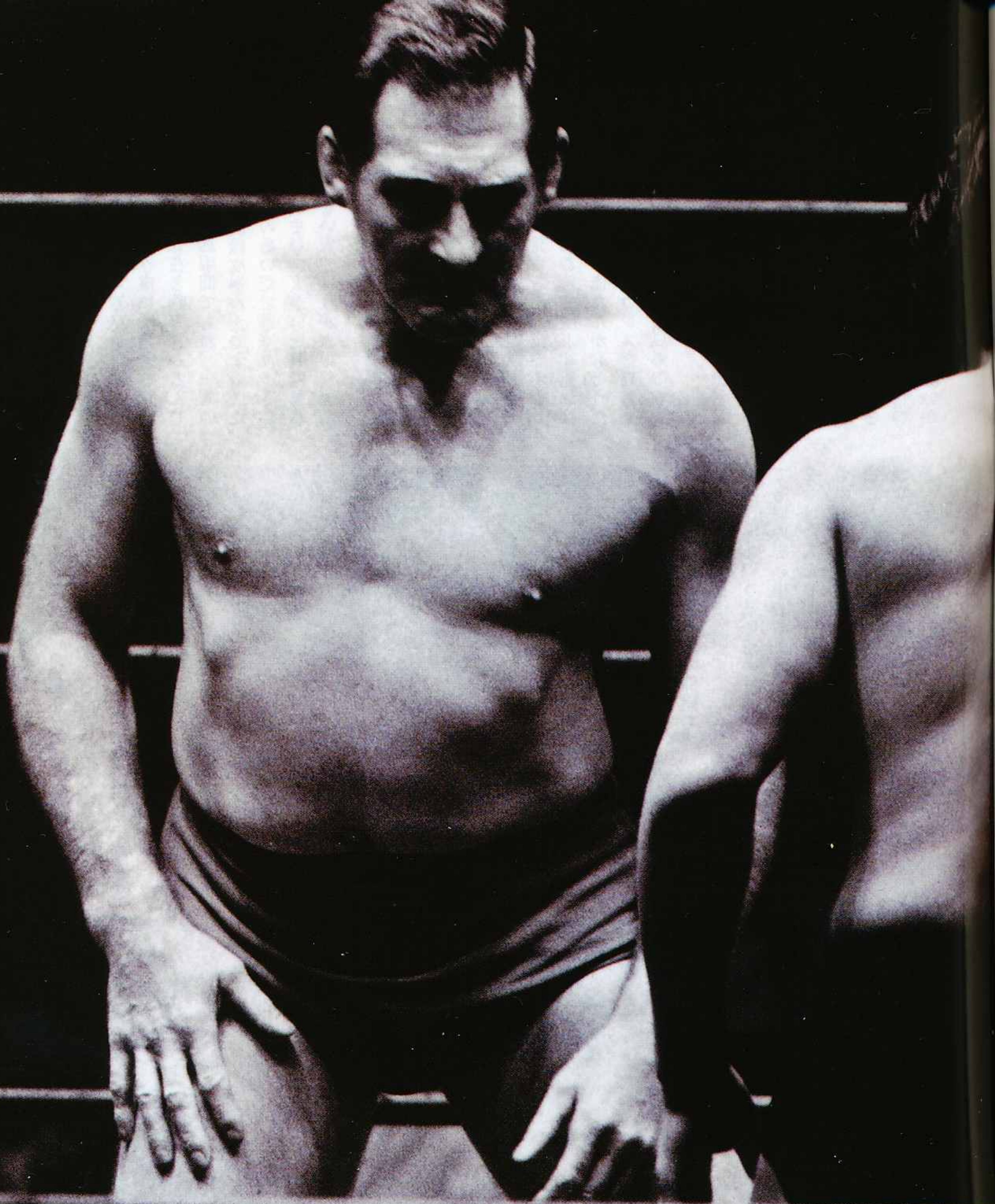
――……いやあ～、ゴッチさんにロマンがないんじゃなくて、猪木さんにありすぎるだけのような（笑）。

猪木　ダイヤモンドの露天掘りは中央アフリカで話題になってるんですけど、俺の知り合いが関わってるんです。だから今度ダイヤモンドを掘りに行こうかと思ってね。

――それはぜひ同行取材したいですねぇ！

猪木　もうザックザック掘れるんですよ、ダイヤモンドが。

――ザックザック掘れますか（笑）。

ゴッチさんは〝格闘技のプロ〟だったけど、〝興行のプロ〟ではなかった

猪木　あと、詳しくは言えませんけど、財宝船の引き上げ計画も進んでいる真っ最中なんですよ。

――今度は財宝船!!　その昔、お兄さんの快守さんがキューバの財宝船引き上げプロジェクトを進めてましたけど（笑）。

猪木　このカバンにその写真が入ってるけどね。早くとも来週ぐらいに金貨が上がってくる。

――いやあ、ザックザック上がってきてほしいですね（笑）。

猪木　その模様を映像にしたらロマンがありますよね。そんな感じでおもしろいことはいっぱいできるんだよ。そこをプロレス界のみんなにも気づいてもらいたいんだよね。気づかなきゃ新しい人間がとって代わるしかないし、もし俺がリングに戻るんなら、もの凄く楽なんだけどさ。俺がやるんだったら、東京ドームぐらい、いつでもいっぱいにしてやるって啖呵を切るけど。

――いまやプロレス団体にとってドーム進出はたいへんな壁ですけど。そういえば、猪木さんは常々「プロレスとは興行である」とおっしゃってますよね。

猪木　そうですね。プロという名前のつくかぎり、すべてにショー的要素が入ってくるんです。で、俺たちの時代はよく「プロレス＝八百長」と騒がれて、世間から一方的な悪のイメージを持たれていたというのかな。

――そういった八百長議論は本当に盛んでしたよね。

猪木　そういった世間の偏見とずっと闘ってきたわけですよ、俺なんかは。いまはね、格闘技やプロレスの文化が世間に届いている反面、逆にそういう迫力がなくなっちゃったんだよね。

――ああ、ジャンルが認知されたことによ

って、世間とせめぎ合う必要はなくなってしまったという。

猪木　それともう一つ！　そういう現状に甘んじている選手たちが結局、発展を止めちゃってるんじゃないのかな。

――かつて猪木さんは世間と闘うために、カール・ゴッチという存在に光を当てたところはなかったんですか？　先ほど言われた"格闘技のプロ"として、ゴッチさんは一つのブランドだったわけじゃないですか。

猪木　まあ、光を当てたというより、「プロレスは八百長！」という声に反発する意味では、ゴッチさんの存在と噛み合ったんじゃないかな。そして選手間でもね、一人の格闘家としての評価は高かったですよ。ただ、プロモーターのあいだでもゴッチさんを望んだ人と、望まない人がいたわけでしょ。まあ、望まない人のほうが大半だったと思う。ンムフフフ！

――各地のプロモーターから干されてしまったゴッチさんは、ハワイで清掃員をやられたときもあって。

猪木　そうそう。あの当時のNWAという団体は、もの凄く巨大で組織の圧力が凄かった。あの団体に反発すると、業界から一斉につまはじきにされるんですよ。それはゴッチさんもそうだし、俺なんかもそうだった。だから俺が新日本プロレスを立ち上げたときは、そんなゴッチさん以外の大物選手はいなかったわけ。

――新日本の旗揚げのメインはゴッチさんと猪木さんのシングルマッチでした。それがいつの日か疎遠になってしまったのはなぜですか？

猪木　それはお金ですよ！

――え？　そうだったんですか⁉

猪木　ゴッチさんはUWFに行ったんだっけ？　誰かに大金を積まれたんじゃないかな。それは、しょうがないことなんじゃないの？　ただし、結局、もらえなかったみたいだけど。ンムフフフ！

――じゃあ、スタイルやイズムの食い違いから疎遠になったわけではないと？　一般的にはそれが定説になってますが。

猪木　そういう理由もあったかもしれないね。コーチとしては最大級の存在だったから。じゃあ、なんでUWFがゴッチさんとまた切れちゃったの？　という。彼らに強固なビジョンがあって、こういう遺伝子を残したいという目標があればお金じゃない部分のこだわりも出てくるんだろうけど、そこは人間だから。誰だってお金が大事なのは間違いないですよ！

――では、猪木さんの弟子たちがゴッチさんの思想に傾倒することによって、新日本から離れてしまったケースも多々ありましたけど、そういった動きはどのように思われていたんですか？

猪木　べつに何も。だって、プロレスラーとしてのゴッチさんは、大衆を振り向かせる力がほぼなかったわけだから。確かにゴッチさんはコーチとしては最高の人物でしたよ。ただ、どうしてもその位置で止まっちゃうじゃないですか。それは（ビル・）ロビンソンもしかりでね。そういえば、ゴッチさん、ロビンソン、俺との3人で、ああだこうだとプロレスの議論したことがあったね……。確かホテルの部屋で。

――それはもの凄く濃いメンツですね（笑）。

猪木　ああいう熱い想いは、いま振り返ってもいい思い出ですよね。そして、その熱を受けた人たちがもっと大きく成長してくれればいいんじゃないのかな。だから極端なことを言えば、人間の死は悲しいものじゃない!!　というか。

――死は悲しくない！

野生のライオンを見たら、"闘いとは何か"がわかる

猪木　こんなこと言ってたら文句を言ってくる人がいるんだろうけど、俺は他人と違う捉え方をしてるんです。だってさ、人が死んでも、誰かがその意志なりを受け継いでいけばいいんじゃん！

――だからなのか、猪木さんは馬場さんや破壊王が亡くなられたときも、寂しさを感じさせないコメントを残してましたね。

猪木　確かに悲しいときは悲しまないといけないんだけど、俺はある意味で達観した部分もあるから。そういう姿勢もあって、あんまり葬式には行かないんだ。それより静かになったときに、お参りしたほうがいいと思うけどね。

"殺し"が足りない現代のレスラーに「ライオンを見てこい!!」と吠えまくったアントン。新日本プロレスのシンボルマークはライオン。いつ何時、プロレス最強の憧憬を持ち続けるのがストロング・スタイルの宿命なのか。ダー!!

――独特ですね。そういう猪木さんの死生観って。

猪木　だって、悲しくないのに、悲しい顔するほうがつらいじゃん!!　実際、葬式で何人の人がホントに悲しいと思ってんの？　イヤだよ、この暑いのに黒いスーツを着てネクタイ締めなきゃなんねえのって。それが本音じゃないの。

――まあ、儀式的なものとして参列している人も確かにいるでしょうね。

猪木　うん。そんなんだったらねえ、俺が死んだら葬式なくたっていいよ！　海に流してもいいし。もしくはどっかに埋めりゃあいいや。それをみんなで探してくれ！　って。

――ダハハハ！　それこそ財宝じゃないんですから（笑）。

猪木　マジメな話、俺は死というものを何回か体験しているんです。命のやり取りもあったし、命を懸けるということはどういうことかということも知っている。だから死んだときに何か未練が残らないように、とことんやってきましたから。

――そういえば、猪木さんは新日本のお金を経理に持ち逃げされたときに、どうせ新日本は潰れるからってことで、ヤケになってディスコで踊り狂ったこともあるくらいですからね（笑）。

猪木　だってさ、余計な迷いがあったら命を懸けることはできないでしょ？　昔はお国のために命を懸けるという一つの大儀があったわけで、そういう意味では俺も何か大儀があれば喜んでやりたいな、と。そういうものに巡り合えれば幸せなんですよ。

――そういった死生観は、若い頃からお持ちだったんですか？

猪木　うん。あれは27歳のときかな。愛娘を亡くしてね。そのときに何もしてあげられなかったというか……。それはじいさん

が死んだときも同じですよ。

——ブラジルへ移民する際のサントス号の船中で。たしかおじいさんは青いバナナを食べたことで食中毒になってしまったんですよね。

猪木　船の上だから、普通の葬儀じゃなかったんだよね。船葬。その二人の死と、そして『ギルガメッシュ』という本の影響もありますね。

——え？　猪木さんの死生観は『ギルガメッシュ』からきてるんですか！　これは大発見ですねえ（笑）。

猪木　まあ、俺は同じ本を2回も3回も読むことはないんだけども。主人公はあまりにも偉大な王様で、天から送られた刺客を倒してしまう。神をも恐れぬ男なんだよ。それで生きたままで三途の川を渡っていくという話なんだけどね。もしできたら、俺も生きたまま三途の川を旅できたらいいなってね。

——さすが猪木さん、とんでもない夢をお持ちですねえ。それはつまり、肉体は滅んでも精神は死なないという思想があるんですか？　もっと噛み砕いて言えば、死のうが死ぬまいが一緒だという。

猪木　まあ、そんなことを言ってると、宗教家呼ばわれされそうでイヤだけど。そういった死の捉え方をしているから、たとえば、イラクで人質の代わりになるなら喜んで行きますし、俺はイスラム教……、まあ、いいかげんなイスラム教だけど。一応、パキスタンではアクラム・ペールワンの件で多少、名前がありますから。もし頼まれたら、やってあげるよ。

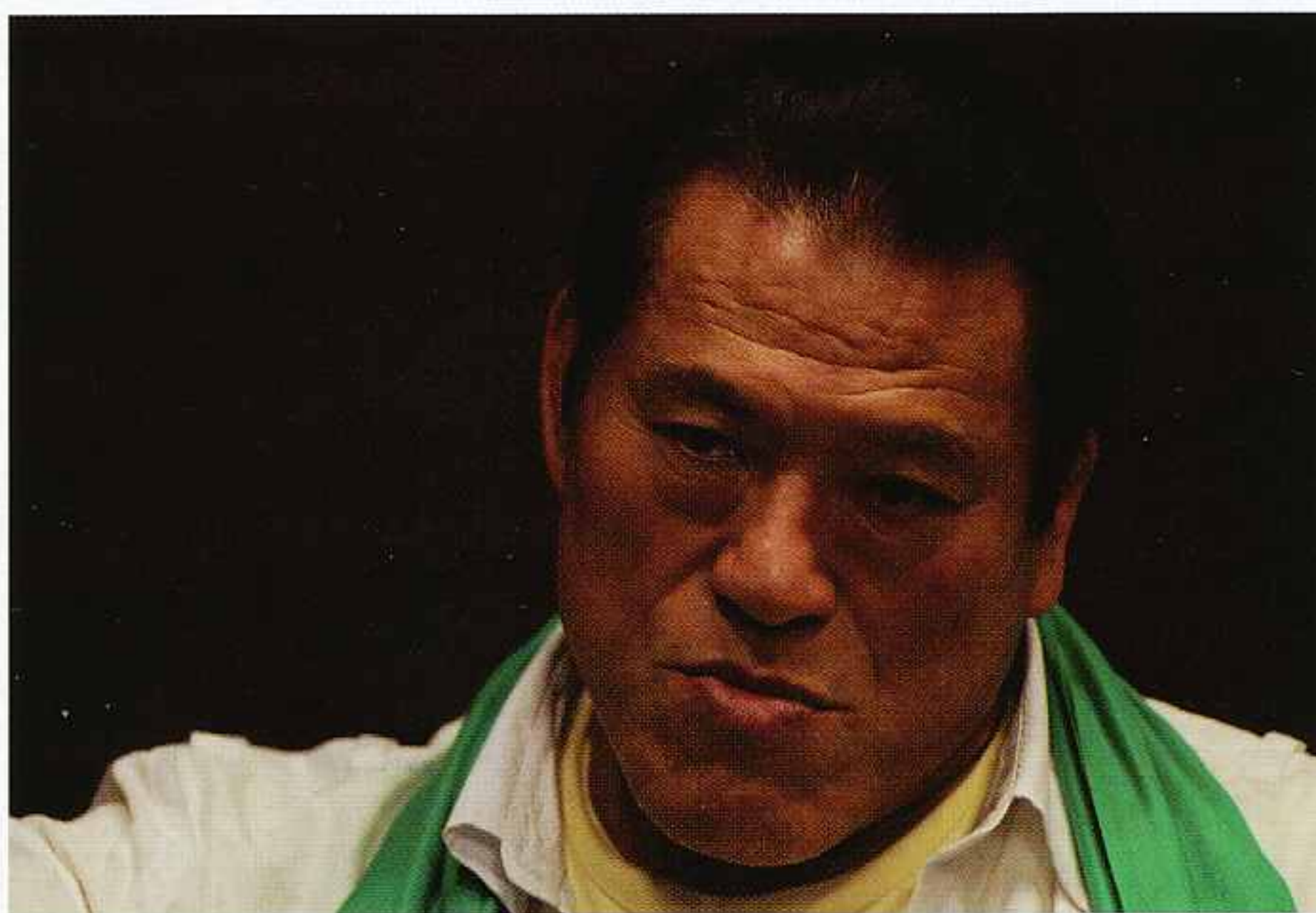
——もう現世でやり残したことはないと？

猪木　それでも、まだやりたいことがありますけどね。サンゴとか電機とかね。だから、もうちょっと生かしてもらいたいんですけど。

——ああ、それはウチとしてもぜひやっていただかないと（笑）。ところでゴッチさんは晩年、仙人のような生活をなさっていたんですけども。猪木さんはそういう生活は……。

猪木　（さえぎって）いや！　俺も、そういう望みはありますよ。

——ありますか！　そういえば、仙人の格好をされたことはありましたけど。

俺には電機とかサンゴとかやりたいことがある
だからもうちょっと生かしてもらいたい

あんとにお・いのき■1943年2月2日神奈川県出身。ブラジル移民時代、力道山に見出され、日本プロレスに入門。その後、新日本プロレスを旗揚げし、異種格闘技戦シリーズではモハメド・アリ、ウイリアム・ルスカ、ウィリー・ウイリアムらと対戦。格闘プロレスのブランドを築き上げた。現在はIGFの代表としてプロレス復興を目論むと同時に、夢の発明・永久電機の開発にも心血を注ぐ。

猪木　ンムフフ！　山に籠ってほこらを建てて、それでみんながお賽銭を入れてくれりゃあいい。ダーッハッハッハッ！

——そういうオチですか（笑）。しかし、ゴッチさんが亡くなられたことで、昭和のプロレスというか、古き良き時代のプロレス象徴は、猪木さんぐらいしかいなくなってしまったんですけども。

猪木　だからって俺は〝プロレスの神様〟にはならないですよ。バカの神様で充分！ンムフフフ！

——バカの神様！（笑）。

猪木　でも、俺よりバカな連中はいっぱいいるからな。「こんな素晴らしいチャンスを、なんでものにしないの⁉」って思うもん。もっと、生きるための貪欲さを身につけてほしいというかさ。小さい金の勘定ばっかしてんじゃねえよ⁉　って。どうせ人間はいつか死ぬんだから、なんでも挑戦すればいいじゃないか。たとえば、ライオンと勝負してみるとかね

——ラ、ライオンですか⁉

猪木　俺はちゃんとアフリカで体験してるからね。野生の迫力を知ってるんですよ。たとえば、野生のライオンはエサを与えても、いきなり食いには行かない。周りを威嚇して、気配を見ながらゆっくり戻って食いだす。プロレスラーが野生のライオンを見たら、〝闘いとは何か〟がよくわかるよ。

——あらためてうかがいますが、最近のプロレスに〝闘い〟は感じますか？

猪木　ズバリ、まったく感じません！　最近はケンカもしたことないヤツがリングに上がってきてるでしょ。要するにプロレスはルールのあるケンカなんですよ。ケンカを知らなきゃ、表現しようがない。強さはともかくプロですから、ケンカの技を知ってないとさ、表現もできないじゃん。だから、クビが絞まってないのにあーだこーだとやってんのが、いまのプロレスなんじゃないの？

——それだと緊張感が生まれないですね。

猪木　観てるほうだって緊張感ねえよな。ふざけんなよ、バッカヤロウ‼　全然、パンチも当たってもねえのによぉ。ね？

——は、はい（笑）。

猪木　そんなことをやってんなら、吉本（興業）にでも行けよ！　っていう。吉本だって使ってくれないよ、そんなヘボレスラー。

——ダハハハ！　そこはもう、力道山的なもの、テーズ的なもの、ゴッチ的なものが三位一体となってないんでしょうね。

猪木　いずれもないヤツが多いでしょうね。力道山なんかちゃんと試合をやったって俺たちはぶん殴られたんだよ。そういう時代を生きてきたんですよ。ゴッチさんはそういう時代の一つの象徴だったと言えるのかな。それがわからないヘボレスラーは、アフリカでライオンを見てこい！　って。

——わかりました。ついでにダイヤモンドの露天掘りもやってもらいましょう（笑）。

【07年8月1日／都内ホテル・オークラにて収録】

“最後の弟子”から“神様”への誓い

ゴッチに捧ぐ

Requiem for God of Pro-Wrestling

「ボクが“カール・ゴッチ”になります」

ジョシュ・バーネット

故カール・ゴッチさんが実践した伝統的キャッチレスリングの技術体系で、MMA荒野を切り開く男、ジョシュ・バーネット。じつは昨年、某格闘技雑誌で“神様”と対談した“最後の弟子”でもある。晩年、ゴッチさんに接したジョシュはその姿から何を感じ、何を学び取ったのか？未来のプロレスリングとキャッチレスリングを背負うゴッチイズム継承者がその覚悟を、神様の思い出とともに語ってくれた。

聞き手／上杉再現V

——今回は、亡くなられたカール・ゴッチさんについてお話をうかがいたいと思います。

ジョシュ オー！ ゴッチさんの死はバッドニュース……。でも、哀しみを乗り越えて話すよ。（日本語で）ドウゾ！

——まず今回の訃報は、どうやって知ったんですか？

ジョシュ 第一報は友だちから聞いたんだ。『サイエンティフィック・レスリング・ドットコム』というキャッチレスリング専門サイトのオーナーから電話をもらってね。

——アメリカではキャッチレスリングの専門サイトがあるんですか？

ジョシュ そう。そのオーナーはシャノン・フーバー（※ジョシュのガールフレンドでありマネージャー。ファイターでもある）やメグミ（藤井恵）のスポンサーでもあるんだけど、ビル・ロビンソンやフジワラさん（藤原嘉明）のセミナーをアメリカで開催したり、そういった縁でゴッチさんとも頻繁に連絡をとっていたんだ。で、ゴッチさんは亡くなる1週間ぐらい前に倒れてそのまま病院に運ばれたんだけど、そのオーナーがボクに「ゴッチさんが意識不明だ」ってすぐに知らせてくれた。まったく信じられなかったよ。ボクが会ったときは、まだまだ長生きしそうだったからね。

——昨年、某格闘技雑誌の企画で対談されたときのことですね。

ジョシュ そのとき、初めてゴッチさんに会った。とても元気だった。誰も永遠には生きられないことはわかっている……。でも、ずっと生きていてほしいし、生きられそうな人だ

った。だから本当にショックだったよ。いまとなってはかなわないけど、じつは、もう一度彼のもとを訪れてトレーニングしようと考えていたところだったんだ。

——そんなプランがあったんですか?

ジョシュ　そう。いまWWEで活躍している、デイビーボーイ・スミスの息子のハリー・スミスとタンパに行こうと計画していたんだ。彼とは、いつも一緒にトレーニングしている仲で、「この夏にでも、一緒にゴッチさんのところに行って練習しよう!」ってね……。そのチャンスを永遠に失なってしまったよ。

——実際にゴッチさんと会ったときの印象はどうでしたか?

ジョシュ　とてもパワフルな人で、身体から発するエネルギーを感じたよ。試合があるわけでもないのに、常にトレーニングをしていたし。

——晩年になっても毎日欠かさず一人でトレーニングされていたとか。

ジョシュ　そう! 彼にとって、プロレスラーは常に強くあるのがあたりまえのことなんだ。そして夜になると葉巻を嗜み、ワインを少しだけ飲んでいた。シンプルだったけど、充実した人生を送っているように見えたなあ……。

——日本やアメリカのマット界に興味を持っているようでしたか?

ジョシュ　ノー。そんなふうには見えなかった。むしろそんなことには関心がないというか、まるで仙人のようだったよ。あのときは、昨年の『PRIDE無差別級GP』のマーク・ハント戦とノゲイラ戦のビデオも観てもらった。ハントへのダブル・リストロックは気にいってもらえたようだったけど、「クルック・ヘッドシザースにいけばもっとよかった」と教えてくれた。

——クルック・ヘッドシザースは、キャッチレスリングの技ですよね。

ジョシュ　そう。柔術にはない技だね。ボクも実際クルック・ヘッドシザースに移行しようと考えていたんだけど、先にハントの手が取れたからアームロックで極めたんだ。

——ノゲイラ戦の映像を観たゴッチさんから「正直に言って、キミはキャッチレスリングの動きをしていない」と言われたようですけど(笑)。

ジョシュ　ハハハ! そうそう(笑)。

ゴッチさんの最大の功績は プロレスがリアルファイティングだと 弟子たちに伝えたことだよ

それは、ガードポジションのことでしょ。ゴッチさんに見せる映像を選んだのはボクじゃないんだけど、見せた時点でそう言われるだろうなって思ってたよ(笑)。ゴッチさんがガードポジションを嫌っているのは知っていたからね。まあ、ゴッチさんが嫌う理由もわかるんだ。昔のキャッチレスリングでは、ピンフォールされるからガードポジションの体勢はとれないから。ただ、現在のMMAのように、打撃ありの闘いになると、どうしてもガードポジションは必要になる。でも彼にそういった説明はしなかったよ。それよりも、彼から学び取ることのほうがもっと大事なだったから。

——なるほど。

ジョシュ　実際にテクニックやコンディショニングについていろいろなことを教えてくれたからね。家のフロアでグラップリング教室が始まったり(笑)。その中には、シンプルだけど、ボクも知らない動きや技があったんだ。ホント驚いた!!

——まさに"神様"!

ジョシュ　そうだね。そして、プロレスリングのあり方や人生についてもいろいろ尋ねたよ。彼はただのレスラーではなかった。彼はギミックのパフォーマンスしかできないレスラーをレスラーとは認めなかった。「プロレスラーはリアルファイターでなければならない」と、本当に強い人間だけがレスラーだと考えていたね。

——それは、ジョシュさんが普段から主張していることに近いですよね。

ジョシュ　そうなんだ! ゴッチさんはその理想を信じていて、確固たる信念を持っていたよ。彼がマット界ではたした役割は大きくて、新日本やほかの団体で教えたテクニックやコンディショニングのコーチング能力は本当に素晴らしかったけど、その最大の功績は、彼が「プロレスリングはゲームじゃないんだ、リアルファイティングなんだ」ってことを弟子たちに伝えたことだね。

——その教えは、脈々と受け継がれているようですが、ジョシュさんは、そもそもゴッチイズムをどうやって学んだんですか?

ジョシュ　AMCパンクレイションでトレーニングを始めたときにマット・ヒュームから聞かされたよ。そのマット・ヒュームはフナキさん(船木誠勝)とスズキさん(鈴木みのる)からゴッチイズムを学んだんだけど、ヒュームから聞かされたゴッチさんの考えには共感させられたし、その理想を目指すべきだと思ったね。でも日本に来たときは、ちょっとガッカリしたんだ。

——それはどういうことですか?

ジョシュ　ニュージャパンの道場で「プロレスリングの技術がただのショーのためのテクニックじゃなくて、実戦での武器だ」ということを確認したかったんだけど……、どうやらニュージャパンのレスラーたちはその武器の正しい使い方をちゃんと知らなかったようだったんだ。

——ゴッチイズムが確認できなかったと?

ジョシュ　そう。ボクとやり合えるレスラーは誰もいなかった。そのあと、大阪にサーキットに行ったときだと思うんだけど、試合前にボクがリングでスパーしていて、みんなを次々と極めて、ナガタさん(永田裕志)をフロントチョークで落としたんだ。その様子をフジナミさん(藤波辰爾)が見て「カール・ゴッチさんを思い出した!」って言ったんだ。

——かつてのゴッチさんは新日本の道場でそうやって、選手に指導していたんでしょうね。

ジョシュ　そうだろうね。だから、そのときボクは「新生カール・ゴッチになる!!」って宣言したんだよ。たぶん、誰も覚えてないと思うけどね(笑)。だから、いまこそ「ボクがカール・ゴッチになる!」ってあらためて宣言したいね。

——俺だけのカール・ゴッチ宣言!

ジョシュ　絶対になるよ。強いレスラーは『PRIDE』にもUFCにも上がることができるんだ。リアルファイトがそもそもプロレスリングのルーツなんだからね。ボクは本当にラッキーな人間なんだ。ビル・ロビンソンという偉大なレスラーとも日本で2年間にわたって練習できたし、ゴッチさんのスタイルも彼の弟子を通じて習得できた。そして、なんといっても実際に本人とも練習する機会に恵まれたわけだからね。だからボクはカール・ゴッチとビル・ロビンソンの弟子として、プロレスを守らないといけない責任がある。これからは、新生カール・ゴッチとして、キャッチレスリングとプロレスリングの名前を背負って生きていくよ!! ゴッチさん、ボクに任せてください!

【07年8月1日/国際電話にて収録】

撮影/黒田史夫

JOSH BARNETT■1977年11月10日、米国ワシントン州出身。『北斗の拳』をはじめとする日本文化をこよなく愛する世界最強のオタク。自他ともに認める熱狂的なUWF信者でもある。第7代UFCヘビー級王者、現キング・オブ・パンクラス無差別級王者。191cm、116.5kg。

“我が友”ゴッチとの思い出

「カールと最初に会ったのは私が15歳のときだ」

“蛇の穴”の同窓生

ビル・ロビンソン

Bill Robinson

“神様”カール・ゴッチとともに海外から日本のプロレス&総合格闘技の発展におおいなる貢献をはたしてきた“人間風車”ビル・ロビンソン。イギリスのランカシャー地方に伝わるキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの伝説的な道場「ビリー・ライレー・ジム」（通称スネークピット＝蛇の穴）で知り合った両者は、いったいどんな関係で、どのようにお互いを認め合ったのか？　本人所蔵の写真とともに、貴重な証言をお届けしよう！

聞き手／坂井ノブ　撮影／タイコウ☆クニヨシ　写真提供／ビル・ロビンソン（P140）

叔父がカールをウィガンに連れてきた
そして蛇の穴で7年間修業したんだ

—今日、お話をうかがいたいのは先日亡くなったカール・ゴッチさんについてです。

ビル 何を知りたいんだい?

—まず、ロビンソンさんとゴッチさんの関係からお願いします。

ビル カールをビリー・ライレー・ジム、いわゆるスネークピットに連れてきたのは私の叔父なんだよ。

—ビリー・ライレー・ジムはゴッチさんの強さを培ったといわれる伝説的な道場ですよね。

ビル イエス。カールは48年にロンドンのオリンピックに出たあと、ベルギーのアントワープでプロレスラーになった。カールはベルギー出身で、本名はカレル・イスタズだからね。私の叔父であるアルフがレスラーで、カールの面倒を見ていたんだ。ある日、私の叔父に連れられてカールはイギリスのウィガンにあるスネークピットに来たんだ。それがきっかけになってカールはイギリスに移住して、ウィガンのスタイルを学ぶことになった。結局、カールは7年間ウィガンで過ごした。

—ずいぶん長く滞在していたんですね。

ビル リアル・レスリングは習得するのに凄く時間がかかるんだ。そこではビリー・ライレー、ビリー・ジョイス、ジョー・ロビンソンたちが練習していた。カールはオリンピックに出たほどだからアマチュアでは強い男であったけど、実際スネークピットでは誰にも勝てなかったよ。

—ゴッチさんが凄く極められていたっていうのは、技術を知らなかったからですか?

ビル ああ、技術をまったくわかってなかった。まず、それまでのカールはサブミッションレスラーじゃなかったということだ。

—そこでゴッチさんの中で「ここで学べば強くなれる」という確信があったということですね。

ビル もちろんカールは凄いファイターだった。とはいえ、スネークピットでは誰にも勝てなかったわけで、そこでキャッチ・アズ・キャッチ・キャンが最強だと気づいたんだよ。

—ビルさんはそこではゴッチさんと手合わせは?

ビル たくさんしたよ。私はそのとき15歳だった。

—当時のゴッチさんは?

ビル 29歳か30歳ぐらいだな。

—だいぶ年齢差がありますね。自伝『高円寺のレスリング・マスター 人間風車ビル・ロビンソン自伝』(エンターブレイン刊)の中に、初めてゴッチさんとスパーリングして圧倒されたときのことを、「言葉にすることもできないほどの"屈辱"だった」と書いてらっしゃいました。

ビル そのときはそう思ったんだよ。もちろん自分はホントに勝ちたかった。ただ、あとになって立場は完全に逆転した。

—その話はあとでたっぷり聞かせていただきます。ゴッチさんとは仲良くなりました?

ビル 非常にいい関係だったよ。叔父とカールが仲よしだったので、私にとってカールは叔父さんのような存在だった。

BILL ROBINSON■1938年9月18日、英国マンチェスター出身。15歳でビリー・ライレー・ジムに入門。アマチュアレスリングで多くのタイトルを獲得して、プロ入り。世界各国で激闘を繰り広げてきた。75年12月にアントニオ猪木と繰り広げた60分ドローのNWFヘビー級選手権は、ジョシュ・バーネットをはじめ多くのファンや選手がベストバウトに挙げる伝説的な名勝負。85年に現役を引退。99年のU.W.F.スネークピットジャパン発足にあたってヘッドコーチに就任。現在は高円寺在住。

—やがてゴッチさんはアメリカ大陸に渡りますね。

ビル カールがウィガンを離れる頃でも、ビリー・ジョイスとジョー・ロビンソンはまだカールに勝っていたんだ。つまり、カール・ゴッチはスネークピットの中では一度もベストになったことがない。

—そ、そうなんですか……。

ビル その後、カールはモントリオールに行き、カール・ゴッチと名前を変えた。カールの本名はさっきも言ったように、カレル・イスタズ。カレルというのは英語圏だと女性の名前になってしまうんだ。

—なるほど(笑)。それはよろしくないですね。

ビル そして、アメリカの初代ヘビー級チャンピオンだったフランク・ゴッチにあやかって、リングネームをカール・ゴッチにしたんだよ。ちなみに、フランク・ゴッチもウィガンからアメリカに渡ったコーチにキャッチ・アズ・キャッチ・キャンを習っていた。それがアメリカでのキャッチ・レスリングの発祥になったんだ。1885年頃の話だよ。

—キャッチが二人のゴッチを結びつけていたわけですか!

ビル その当時、アメリカではレスリングは盛んではなかった。アメリカにはドイツとかハンガリーとかスウェーデンとかインドとかの移民が多かったので、あちこちから強い選手が集まってきた。その当時、みんな自分でお金を賭けて試合をしていたんだよ。そこでキャッチ・アズ・キャッチ・キャンの猛者だったフランクが初代の王者になったんだ。

—なるほど、それがアメリカでのプロレスリングの発祥というわけですね……。カール・ゴッチさんの話に戻りますけど、ロビンソンさんと日本で再会しますよね。

ビル カールとは何度も会ってるんだよ。ハワイでも、アメリカでも、ドイツでも、日本でもね。

—ロビンソンさんとゴッチさんが日本で再会してスパーリングしたときのお話をうかがいたいんですけど。

ビル たぶん、これを理解するのはおまえには難しいだろう。そもそも、日本でいうスパーリングはスネークピットのスパーリングとはまったく別のものなんだ。ウィガンではコーチがストップするまで「まいった」ができないんだ。それは激しいスパーリングだった。ただ、そのときにカールと約束したんだ。プライベートなスパーリングだから、このことは誰にも話さないと。だからここでその話をする気はない(キッパリ)。

—うっ……、なるほど。わかりました。日本のプロレス団体でゴッチさんがコーチを務めていて、多くのレスラーがそこから育っていったということについては、どうお考えですか?

ビル 彼らはカール・ゴッチに学んだんじゃないんだ。彼らが学んだのは、ウィガン・スタイルだ。カールはウィガンで学ぶ方法を学んだんだ。強くなる方法はカールがウィガンで学んだものなんだ。

—ボクらがよく「Uスタイル」と

カールが私の息子の名前が嫌いだと言いだして路上でケンカになりそうになったこともある

Bill Robinson

言っているものの源流はウィガンにあるということですね。

ビル　カール・ゴッチがなぜ日本で有名かというと、アントニオ猪木に教えたからであって、アメリカでもヨーロッパでもカナダでも、べつに有名ではない。彼が強いのはウィガンで学んだからだ。ただ、誤解してほしくないのはべつに彼のことが嫌いで言っているわけではないということだ。ゴッチとは個人的に親しかったからね。イギリスでは一緒に住んでたわけだし、子ども同士も非常に仲がよかった。私がミネアポリスに住んでいたとき、カールはタンパにいたんだけど、彼の奥さんがガンで倒れたときには私が駆けつけて6週間から8週間ぐらいずっと一緒に看病したこともあった。それぐらい付き合いが深かったんだ。日本で一緒にボウリングに行ったこともある。

――そのボウリング対決はぜひ観たかったですね（笑）。さて、ゴッチさんが亡くなったという第一報を聞いて、どんな気持ちでした？

ビル　友だちから、彼の死後1時間のうちに、すぐ知らせが届いた。悲しかった。カールはコーチとしても優秀だったし、レスリング界で非常に重要な人を亡くしたと思う。カールと私はお互い尊敬していたけど、うまくコミュニケートというか、仲よくはできなかった。なぜなら彼は頑固なところがあったね。私が合わせるべきなんだが、私も頑固だから（笑）。カールが私の息子の名前が嫌いだと言いだして、路上でケンカになりそうになったこともあるんだよ。

――え～っ、どんなケンカですか⁉

（笑）。

ビル　スペンサーというのが私の息子の名前なんだが、それは英国首相のチャーチル（※注／本名はサー・ウィンストン・レナード・スペンサー＝チャーチル）にあやかってつけたんだよ。だが、カールは「グレコローマンの選手の息子であるならば、スウェーデンとかの王族の名前をつけるべきだ」と言い張った。

――なぜスウェーデンの王族の名前なんですか？

ビル　スウェーデンはグレコローマンが強いからさ。

――そんな理由で（笑）。

ビル　確か、オーロフとかそういう名前をつけろと言っていた。とにかく不満だったんだよ。

――凄い話ですねえ（笑）。その頑固さイコール、強さというか、そんな感じもしますよね。

ビル　（唐突に）……さっきの話の続きをしようか。

――えっ!?　日本でのスパーリングの話ですか？

ビル　ああ、カールと私は69年にジャパン・プロレス（日本プロレス）のドージョーでスパーリングをした。約20分間、私は上になってコントロールすることができた。それで私は15歳の頃の〝屈辱〟を晴らしたんだ。もちろん、当時のカールは全盛期を過ぎていたし、私は全盛期でコンディションもよかった。だから、私はカールを極めることはしなかった。

――それは、ゴッチさんをリスペクトしていたからですか？

ビル　（うなずきながら）それがウィガン流の先人たちへのリスペクトなのさ。

――シビレるなぁ！

ビル　それ以降、カールとはスパーリングをしていない。

――先ほどからロビンソンさんの話をうかがっているとゴッチさんは、あまりテクニカルなレスラーではなかったというイメージですね。

ビル　どちらかといえばパワーで圧倒するタイプだった。だから、常にコンディショニングを重視して自分にトレーニングを課していたんだと思う。

――晩年までずっとトレーニングをしていたようですね。ゴッチさんはプロレス界でメジャータイトルは獲ってない、日陰の実力者というか無冠の帝王みたいなイメージがあって、それと対照的に語られるのはルー・テーズさんですけど、共通点は感じますか？

ビル　テーズは本当に偉大な選手で、自分の一つ前の世代では本物の最高の実力者だった。ただレスラーとしては、私はカールのほうを尊敬しているよ。テーズのほうが名声を得ていたが、テーズもカールには一目置いていたし、カールが渡米する際には仲介も買って出ていたんだ。とにかく、認め合っていたはずだよ。とにかく、カール・ゴッチが行ってからのアメリカでは、間違いなくカールがトップだった……。

――わかりました。今日は貴重なお話を聞かせていただいて、ありがとうございました。

【07年8月6日／都内、高円寺・UWFスネークピットジャパンにて収録】

現在、ロビンソンはU.W.F.スネークピットジャパンで、自身がウィガンや長いプロ生活の中で得たテクニックをジム生に伝授している。ご覧のとおり、"人間風車"に人間風車（＝ダブルアームスープレックス）を教わることも可能なのだ。キャッチ・アズ・キャッチ・キャンの神髄はここでしか教わることはできない!!

［所在地］東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F　TEL.03-3337-1889

「自分に厳しい心とストイックな生き方が人生に影響を与えた」

一時期ゴッチさんと暮らしていた

宮戸優光

［U.W.F.スネークピットジャパン代表］

私が最初にゴッチさんと一緒に練習したのは旧ＵＷＦですね。私が佐山聡さんの内弟子だった頃に、ゴッチさんと一緒に佐山さんの家に泊まってたんです。だから私が食事の支度とか衣類の面倒とか身の回りの世話を少ししてた時期があります。やっぱりゴッチさんの何が凄いって、自分に厳しい心。ああいうストイックな生き方だからこそ、人生というスタンスの中で、レスリングの枠を超えた部分で若いレスラーたちも影響を受けた。それは間違いなくあの人の人間的な部分だったと思います。

そのへん、ビル・ロビンソンはもう70歳になろうとしてるけども、彼の天性の明るさというか、ゴッチさんにはなかった遊び心がある。お酒もよく飲むしね（笑）。ゴッチさんとロビンソンのどっちが上とか下じゃなくて、私がロビンソンとこうやって長く一緒にジムをできてるっていうのはそういったところ。また逆に言えばそれがゴッチさんの凄さだったなと思いますね。私がいまここでロビンソンとやってることは、ゴッチさんに生で見せることはできなかったけど、いま見てくれてたら、きっと喜んでくれると思う。僕は自信を持ってなんのためらいもなくゴッチさんに見せられる場所ではありますね。最期に一度だけでもゴッチさんとロビンソンを会わせたかったですね。

（もし、ゴッチさんが高円寺に住んでコーチをやったら？）ロビンソンと喧嘩になっちゃうよ、教え方が違うから。虎を2匹同時に扱うなんて私には無理ですよ。　（談）

「もう一度、ゴッチに練習を教えてもらいたかったね」

山本小鉄

数多いゴッチの弟子の中でも、練習コーチとしてゴッチイズムを継承、新日本プロレス道場でストロングスタイルの礎を築いたのが“鬼軍曹”山本小鉄。ゴッチは1968年から、日本プロレスのコーチに就任。この“ゴッチ教室”で鍛えられた小鉄にとって、ゴッチは師匠であり、友人だった。そんな小鉄さんに新日本プロレスの“源流”としてのゴッチイズムを直撃!

聞き手／真下義之

やまもと・こてつ■1941年10月30日、神奈川県出身。アメリカ遠征時に星野勘太郎とヤマハブラザースを結成。72年には新日本プロレス旗揚げに参加。現場監督や若手選手のコーチとして活躍。80年4月に引退後は、テレビ解説やレフェリーとして活躍。170センチ、100キロ。

これが新日本プロレスの源流だ!! 鬼軍曹が語った〝ゴッチイズム〟とは?

本当にビックリしたねぇ。亡くなった日に新聞社や知り合いから、たて続けに電話がかかってきたけど……あまりに驚いて声が出なかったよ。

ゴッチは師であり、友人でもあった。それにあんな強いヤツはいなかった。

俺はね、「プロレスラーで、誰が一番強いか?」って聞かれたら、必ず「ゴッチに勝てるヤツはいない!」と答えていたくらいだから。ゴッチは絶対に負けない!!

以前、あるインタビューで「ヒクソン(・グレイシー)とゴッチが闘ったら?」っていう質問をされたけど、ヒクソンなんて相手にならない!! ふざけるんじゃないよ。ヒクソンなんかとはまずハートが違う。ヒクソンになんて極められるわけがないし、ゴッチはたとえ極められたって絶対にまいったしないよ。

それにゴッチは本当に怖いよ。相手の腕を折るどころじゃない。殺されちゃうよ!! レスリングの練習で〝目をえぐる〟なんて考えらないでしょ? ゴッチにはそういう裏技も教えてもらったからね。

出会いは1968年。日本プロレスの頃に、若手の俺がゴッチと試合することになったんだ。吉村(道明)さんがケガをして、「今日、ゴッチとやれ!」といきなり命令された。それで蹴ったり殴ったりガンガンやったら「ゴッチに、よくあんなことするなぁ」って先輩に驚かれたよ(笑)。

そのあと、練習でいろいろと教えてもらったんだ。ゴッチの練習といえば、規律に厳しく、教え方も〝固い〟人だったね。あと、腹が出ている相撲出身のアンコ型の選手は嫌いだった。彼らは練習についてこられないから、ダンベルを持たせて、スクワットだけを延々とやらせてたね。

ゴッチはベンチプレスみたいに単純に筋肉をつける練習は好きじゃない。でも首を鍛える練習では、ブリッジをしながら130キロくらいのバーベルを挙げちゃう! ブリッジした上に人を乗っけて鍛えたり。そういうものはすべて、新日本プロレスの練習に受け継がれたよね。

ゴッチの代表的な練習といえば、やっぱりトランプ。数字の10が出たら、スクワットを20回、腕立て伏せは10回。絵の柄が出たら数が2倍、3倍になる(笑)。トランプは52枚あるから、1時間かかっちゃうんだ。

俺もコーチ時代に、このトランプ式トレーニングを取り入れたよ。ただし、量を倍にして、104枚にしたけどね。

あと、ゴッチは練習の時間が来ると、道場の鍵を閉めちゃう。そういう厳しさも新日本プロレスはゴッチさんから引き継いだよね。俺は厳しくやりすぎて、一時期は藤原(喜明)に「刺し殺してやる」なんて、恨まれちゃったけど(笑)。

でも、俺はゴッチに怒られたこともないし、尊敬の念しかないよ。友人として自分の家に招いたり、フロリダのゴッチの家にも2回ほど行ったことがあるから。でも、そのときも家に着いた途端に、「ヤマモト、とりあえず練習やるか?」って、庭ですぐに練習だもん(笑)。

ゴッチが日本にいたときはよく一緒に飲みにも行ってたよ。とくに寿司が大好きだったね。量もメチャクチャ食べたし、赤坂の寿司屋に連れていったら、5～6万円くらい食われちゃった(笑)。それにおしゃべりも大好きだから、飲んだら話が止まらない。俺とゴッチで寿司屋で5時間もしゃべりっぱなし、食べっぱなしだよ!

とにかく、ゴッチは日本通だった。いまでいうジョシュ・バーネットだよね(笑)。まあ、ゴッチの場合は、武士道精神に興味を持っていたんだけど。

あと印象に残っているエピソードといえば……、新宿の三越デパートの屋上で公開練習をやったときのことかな。ルー・テーズが若い選手とスパーリングをやっていたら、ゴッチが「おい、ルー! その技はこうしたほうがいい」って口を出し始めた。そうしたら、テーズも素直にアドバイスを聞いているんだよ。俺はテーズのほうが格上だと思ってたから、「あれ?」って驚いたもんだ。レスラー仲間にも一目置かれているのがゴッチなんだよね。

最後に会ったのは、もう20数年前かなぁ。もう一度会いたかったし、まだ練習を教えてもらいたかった。ゴッチのことだから、隠している技もあったと思うんだ……。

それにさ、俺はゴッチは死なないと思ってたの!! いや、本当に。それは〝神様〟だからというわけじゃないよ。本当に丈夫だったから。なにぶん「アイツが死んだら、次は俺が死ぬのかな?」ってくらい丈夫なヤツだったからねえ……。

俺とは16歳、歳が離れているわけだけど、俺も82歳まで練習してやろう! ゴッチイズムで生き抜いてやろうって思ってるよ!

82歳になっても、毎日練習していたら、俺のことも〝神様〟って呼んでほしいね(笑)。

【07年8月1日／東京・渋谷『巨門星』(元プロレスラー、新倉史祐の店)にて収録】

新日本プロレス地獄の練習風景より。ゴッチの基本であるブリッジワークなど“科学的”と言われたゴッチの練習に、「ヒザが痛けりゃ、スクワットしろ!」といった“非科学的”な小鉄イズムが加わったのだから、強靭な男が続々と生まれたのも納得である。

「あっ、はい……いや、伝えておきます(ニッコリ)」

インリン様の親友

インリン・オブ・ジョイトイ

「インリンさん、ムタとの大事な子どもを無事出産してください！」

グレート・ムタ代理人

武藤敬司

インリン様に続きインリン・オブ・ジョイトイも妊娠騒動ボッ発！
お相手は……武藤!?

渦中の二人の“LOVE(プロレス)”トーク

6.17『ハッスル・エイド』でムタの毒霧を浴び2度目のご懐卵となったインリン様。締め切りの関係上、載せられないが、出産予定日の8.18名古屋大会で、きっと何かが産まれているはず（各自調査）。時を同じくして、インリン様の親友のインリンさんにも妊娠騒動がボッ発！　芸能マスコミでは「相手はプロレスラーの武藤敬司」などと報じるところも。いったいどうなってるの？　渦中の二人を直撃!!

聞き手／井上崇宏（THE PEHLWANS）　撮影&試合写真／山口比佐夫　試合写真／平工幸雄

武藤　いや～、どうもどうも！

インリン　よろしくお願いします！

──お二人は初対面になるんですか？

武藤　一度リング上で……、いや、初対面ですよね？　なんか（グレート・）ムタさんが会ったとか言ってたけど。

インリン　たぶんそれは私じゃなくて、インリン様のことだと思います（ニッコリ）。

──なんか非常にめんどくさい対談になりそうな予感がしてきた……（笑）。

武藤　ただ！　俺はいろんな意味で彼女には興味を持ってるよ！

──たとえば、どういう意味でですか？

武藤　いや、我が全日本プロレスの試合映像がさ、ちょっと前から台湾でも放映されてるんだよな。

インリン　あ、台湾にZチャンネルっていう一日中プロレスが流れているチャンネルがありますよね。

武藤　そうそう。俺、友だちに伍佰（ウーバイ）っているんですよ。〝台湾の矢沢永吉〟っていうぐらい向こうで人気がある歌手なんだけど。で、現地ではプロレスが凄い人気なんだけど、台湾はプロレスの興行が打てないんですよ。国が許可をしない。

インリン　そうなんですか？

武藤　ええ。だからいま、「それだったら伍佰のコンサートにうまく乗っかって興行をしようか」というところで話を進めてて。で、それがもし実現となったらさ、インリンさんのような現地のスターがいてくれたら、凄い助かるじゃないですか（ニヤリ）。

──ひそかにそんなよこしまな興味を抱いてたんですね（笑）。

武藤　おう！

インリン　そうだったんですか（笑）。でも、台湾には凄いプロレスが好きな人がたくさんいるので、皆さんが向こうに行ったら凄

い人気で迎えられると思いますよ。

武藤　うん。10年くらい前かな？　nWoをやってたときに蝶野（正洋）と俺とでZチャンネルが企画したイベントに呼ばれて台湾に行ったのよ。で、台湾の空港に着いたら、いまの韓流スターと同レベルの歓迎ぶりなのよ！　もうファンがいっぱい待ち構えてて。しかもホテルに着いたらレッドカーペットがバーッと敷いてあってさあ！

インリン　うわあ、凄いですねえ。

武藤　で、ホテルのオーナーが出てきて花束を直々にもらったりしてね。で、「当ホテルにお越しになられた方には、スケッチブックにサインをしていただくことになってるんです」ってスケッチブックを渡されて、それを蝶野と俺でパラパラっと見てたら、前のページにマイケル・ジャクソンとかさ、マドンナのサインがあるわけ！　そこに俺と蝶野も「いやいや」なんて恐縮しながらサインを書いちゃってさ（笑）。

――台湾には相当にいい印象があると？

武藤　そうそう。だからぜひ、興行の際には助けていただいて。

インリン　はい、何かありましたら……（ニッコリ）。

武藤　俺の夢はもっとワールドワイドにやっていきたいんだよな！　そういう中で、やっぱりチャイニーズ系のシェアってデカイじゃん。かなり可能性があるよね。

――具体的にどんな協力をしてもらいましょうか？

武藤　う～ん……（しばし熟考）。とにかくいっぱい卵を産んでくれたらいいよ!!

――養鶏場のオヤジじゃないんですから（笑）。そういえば、最近インリンさんは〝妊娠騒動〟で大変だったんですよね？

インリン　そうですね（笑）。インリン様のご懐卵が勘違いされて、私が妊娠してると思われちゃったんです。

武藤　あ、ホントに？　確かに……あの日の緑の毒霧には通常より強い生命力を持つ俺の精子がいっぱい入ってたんですよ（ニヤリ）。

インリン　まあ………（笑）。

――急場しのぎとはいえ、設定にちょっと無理がありますよ（笑）。

武藤　いや、俺いまだから言うけどね、あのとき毒霧をする前にインリン様のお股が赤かったんよ!!

インリン　えっ……!?

武藤　おう、赤かったんよ！　で、一瞬「ええっ！　今日あの日!?　ヤバい!!」ってすげえ動揺しちゃったんだよ！

インリン　ど、どういうことでしょう……？

……？？

武藤　で、あとでよくよく考えたら、あの試合で俺がTAJIRIから赤い毒霧を食らって、そこにインリン様にM字をやられたから、返り血みたいに赤くなってただけなんだよな。

インリン　アハハハハハ！

武藤　いや、笑い事じゃないよ!!　あの時の動揺っていったら……、ムタに動揺を与えるなんてさすがインリン様だよな。（大きな声で）いや、一瞬マジですっげえ焦ったもん!!　コンマ1秒ぐらいの一瞬なんだけど、凄いクルクルクルって脳ミソが回転して、「なんなんだ、これは!?」ってさ！　……というコトです（と、なぜか急に冷静になり頭を下げる）。

インリン　アハハハハ！　あ、全然大丈夫ですので（笑）。

武藤　とにかく焦ったんです、という話でした（と、またペコリ）。

えっ……!?　ど、どういうことでしょう……？

出会いから、つわりまで!?　ムタとインリンストーリー

6.17『ハッスル・エイド』で初遭遇となったインリン様とムタ。ゴングが鳴っても姿を見せないムタに、パートナーのRGがヤケクソ気味にインランプを叩きつけると花道の白煙の中からムタが登場！

世界のトップヒールのムタ相手にも一歩も引かず、得意のムチ攻撃をムタに浴びせたインリン様。さらにインリン様はムタの右手をつかむと一気にM十字固め！　美しすぎる!!

得意のフラッシングエルボーをかわしたインリン様に、ムタは、かつて自身の代理人を務める武藤が、高田総統の親友の高田延彦を下した足4の字固めを敢行！　苦悶の表情のインリン様も素敵だ！

毒霧する前、インリン様のお股が赤くて動揺しちゃったんだよ！

――インリンさんはあの試合を振り返ってみていかがでしたか？

インリン じつは最近になって映像を観たんですよ。皆さんから「観たほうがいいよ！」って言われてて。ちょっと観るのが怖かったんですけど……。

武藤 なんでぇ？ 自分の試合でしょ？

インリン 観るとどうしても先入観が入ってきちゃって、「こうしよう、ああしよう」って考えすぎちゃう人なので、最近はあんまり観ないようにしてるんですよ。

武藤 いや、考えたほうがいいじゃんね？

インリン で、ムタさんとの試合は観たんですよ。そうしたら、いつも私はインリン様を応援しているのに、今回はすっかりムタさんのファンになっちゃったんですよ！

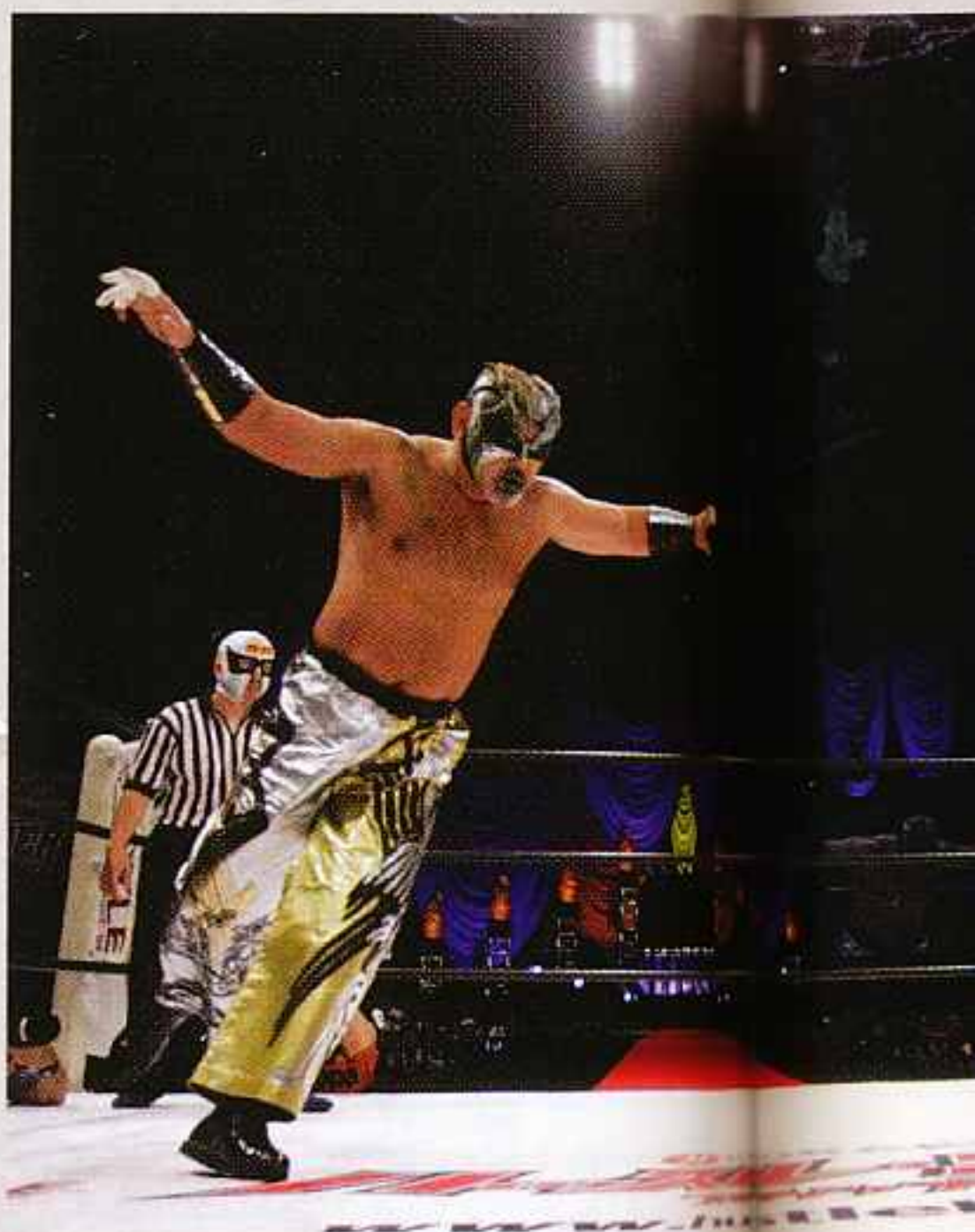
武藤 おぉ、嬉しいねぇ〜。

インリン すっごいカッコよくて。インリン様はいままでもいっぱい素晴らしいレスラーの方と試合をしてますけれども、なんか……、正直なことを言いますけど、インリン様はいつも自信を持ってリングに向かってるんですけど、この試合だけはリングの中でムタさんにかなり負けてたんですよ。インリン様がちょっと引けてるように感じたんですね。それが初めて客観的に観れて、「凄い、ムタさんは……」って。

――とくにどの部分が凄いと感じました？

インリン 間の取り方とかすべてが。一瞬一瞬の表情とかもなんか素晴らしくって凄い興奮しちゃいました。

武藤 嬉しいねえ！ いまの「間の取り方がどうとか〜」っていうコメント自体がもう一流いっちゃってるよな？ 日本にもレスラーって呼ばれるヤツっていっぱいいるけど、その間がどうとかね、そういう見方をできるレスラーっていないもんね！

――い、いないんですか!?

武藤 いないじゃん!!（キッパリ）。いやあ、インリン様は凄いよ。

――そもそも武藤さんは、レスラーとしてのインリン様の評価は高いんですよね。

武藤 だってもう存在自体があるわけだからさ。これは普通のレスラーにしたらキツいことだと思うよ。彼女に負けない存在感を出さなきゃいけないということは。

――その存在感を別の言い方で表現するとなんですか？

武藤 いい意味でなりきってるっていうかさ。逆に照れもないじゃん。たぶん本人が照れたときにはお客さんも照れちゃうからな。そういう意味で、プロとしてのガッツっていうか習性はすでに持ち合わせてるんだよ。ウチの若い衆たちもそういう部分では臆するっていうかさ。そういう意味ではウチの若い衆たちやほかのレスラーもインリン様から勉強したほうがいいんだよ。

インリン そんな、とんでもないです……。私も以前からムタさんの存在は知ってて、「凄い存在感だなあ」って気にはなってたんですよ。だからインリン様がそのムタさんと試合で闘うって聞いたときはすっごい嬉しくて！

武藤 嬉しいなあ〜（笑）。インリンさんってお芝居とかしたことあるんですか？

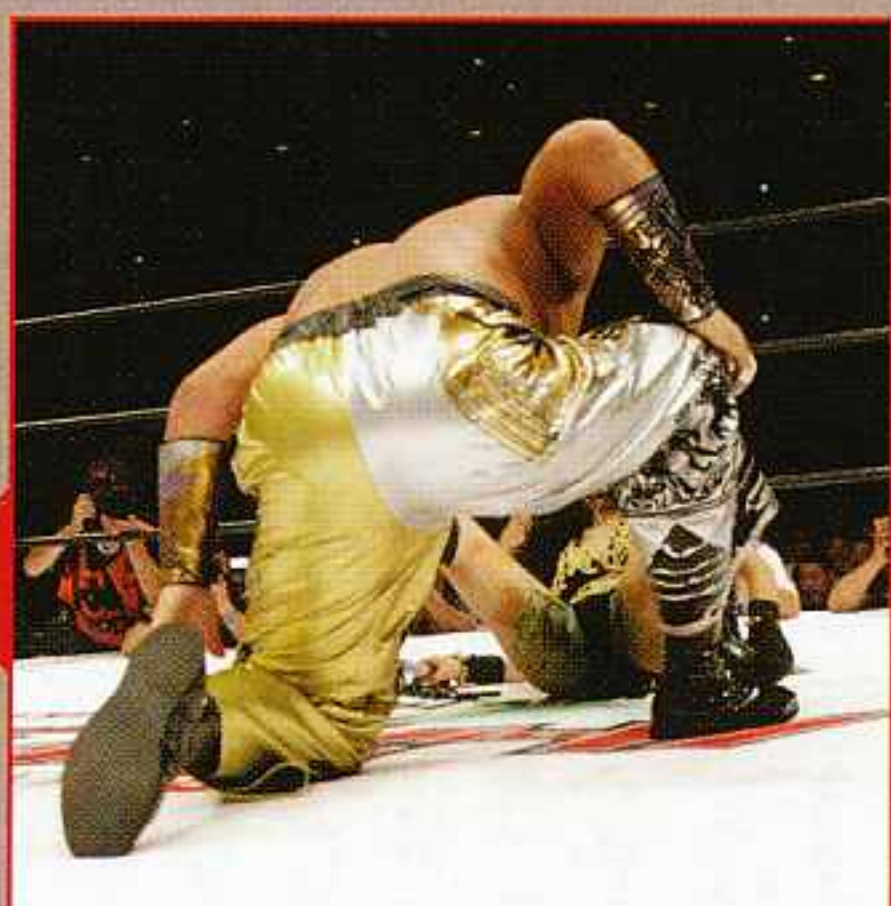
インリン はい。舞台は何度かありますね。

武藤 きっとそのへんの表現力が活きてるんだろうな。

インリン いえ、全然まだまだです。

武藤 そもそもプロレスっていうのは、自分からやりたいと思って入ってきたんですか？ それとも、やらされたの？

"LOVE" TALK

インリン様がM字スタナーを決めると、TAJIRIがバズソーキックで追撃。そのままセクシーかつ強力なM字固めで3カウントを狙ったインリン様だったが、待っていたのは……!?

絶景のM字固めを切り返し、上になったムタはグリーンミストの毒霧をインリン様の股間を目がけ噴射！ 緑色に染まった股間を見てインリン様は絶叫＆失神！ そのまま担架で運ばれていった。

7.11『ハッスル・ハウス』に来場したインリン様はヒマでモテないファンのためにM字ビターンを披露しようとするも、突然吐き気をもよおし、うずくまってしまう。この後、2度目のご懐卵が判明！

7・14『ハッスル』静岡大会のオープニングに登場したインリン様はファンにご懐卵を報告。ご当地名物の浜名湖みかんを食べたインリン様はM字ビターンを披露して喝采を浴びた。

インリン様のおかげで女王様口調がかなり得意分野になりました(笑)

インリン　最初は試合に出るっていうのは思ってもみなかったみたいで。ただ、高田総統みたいなかたちでパフォーマンスをしていきたいって思ってたんですよね。何かセクシーなキャラクターとしてやりたいなってよく言ってたんです。

武藤　WWEでもディーバとかあるからね。そういう部分で言ったら、日本ではインリンさんが先駆者だよね。

インリン　で、そうやって関わっていく中で、ある日勝手にインリン様の試合が決まってて……。

武藤　まあ、よくあることだな（笑）。

インリン　小川（直也）さんとの試合が最初だったんですよ。

武藤　へぇ～、最初が小川だったんだ（笑）。

インリン　それも私は新聞を読んで初めて知ったんですよ。さすがに事務所サイドはちゃんと話をしてたと思うんですけど（笑）。で、「どうやって闘うんだろう?」と思ってたんですけど、インリン様は意外とすんなり入ってたみたいですね。実際試合に出ちゃえば、お客さんの声とか反響の一つ一つで、「あ、こういうふうにすれば皆さん喜ぶんだ!」って。それからどんどんつながっていったって感じですね。

武藤　でもいま大変でしょ、試合やるって。

インリン　楽しいですよ!（ニッコリ）。……ってインリン様は言ってましたけど。

武藤　まあ、舞台だって練習、練習で大変だもんねえ。何事も大変だよねえ……。楽な仕事なんてないよな……（ポツリと）。

――急に自問自答を始めないでください（笑）。

武藤　じゃあ、プロレスって好きですか?

インリン　好きです（キッパリ）。インリン様が最初の試合に出た頃はそんなに技とかなくて、ただムチで叩いたりとか、ちょっと上に乗って首を絞めたりだとかっていうだけで。そこから徐々にいろんな技を教えてもらったり、いろんな受け身の練習とかもしてもっともっと好きになったんですよね。「プロレスは闘うお互いの信頼関係が凄く大事だな」ってインリン様も感じてるみたいで。プロレスって深いんだなって私も思います。「不思議な世界だな」って。

いんりん・おぶ・じょいとい■1978年2月15日、台北出身。10歳より東京で生活、95年よりヒラオカノフスキー・クラタチェンコのマルチメディアユニット「JOYTOY」に参加。現在はグラビア、テレビ、音楽活動など幅広く活躍中。インリン様とは大の親友。公式ホームページ http://www.most-sexy.net/　公式ブログ「愛のエロテロリズム」 http://blog.livedoor.jp/yinlingofjoytoy/

"LOVE" TALK

武藤　俺なんか（インリン様と）試合をやるとき、信頼してなかったよ!

インリン　えっ、そうなんですか!?（笑）。

武藤　だってどこまで信頼していいのかっていうね、なんか怖いものもあるじゃん。でもそれがこっちとしてみたら一番興味がある、おもしろいところなんだよね。

――信頼関係も大事なんでしょうけど、予測不能の中で手探りで試合を作っていくのもプロレスの魅力なんでしょうね。

武藤　ただ、プロレスっていろんな要素があってさ、インリン様は第一印象がいいからさ。その第一印象の良さってのが恋愛じゃねえけど、パッと見た瞬間に良ければ一番いいんだから。そういう部分はクリアしてんだよ。あとはもう正直な話、レスリングの技術や攻防がうまけりゃ一流かっていったら、また違うわけで。そういう意味でいったら、すでに一流のレスラーに匹敵できる部分は持ってますよね。

――技術だけじゃないっていう境地にまで至ると、そこからは「プロレスとはゴールのないマラソン」になっちゃうわけですね。

武藤　そう。ただ、彼女はパイオニアだから。そういう部分で言ったら、第二、第三のインリン様ってのが出てきてもいいのかなあなんて。かといって、なんかへんな女子プロみたいになってほしくはねえよな!

――へんな女子プロっていうのは?（笑）。

武藤　従来の女子プロとは違うっていうか……、やっぱり美しい世界であってほしいよな（笑）。

――全日本のリングでもこんな美しいキャラクターを作ってみたいとは思いませんか?

武藤　まあね、仮にも今年で35年も続いてる日本で一番といっていいぐらいの歴史の古い会社ですから、やっぱり従来のプロレスの伝統というものを守らなきゃならない使命という部分はあるんですよね。ただ、猪木さんの環状線理論じゃねえけど、環8より外のお客さんをつかむには、ダチョウ倶楽部や神奈月もそうだけど、やっぱりインリン様みたいなキャラクターを使って応用したプロレスをやっていかなきゃさ、時代にも遅れるだろうし。ただ、その俺たちが教科書だと思っている従来の伝統的なプロレスにいつでも戻れるようなラインだけは作っておかないと。常にそこに戻れるような技術だけは磨いておかないとさ。

インリン　わかります。

武藤　最近のレスラーはね、戻れないんだよ。従来のオーソドックスなプロレスができないっていうか。もう、リングベル（ゴング）が鳴ったらさ、バーンバーンってぶ

『ハッスル』9月シリーズ&『ハッスル・マニア2007』チケット情報!
インリン・オブ・ジョイトイももちろん観戦!!

KYORAKU presents
ハッスル・ハウスvol.28
9月13日(木)東京・後楽園ホール
開場18:00／開演19:00
[入場料金(全席指定・消費税込)]
ハッスルVIP 10,000円／スタンドS 7,000円／スタンドA 5,000円／スタンドB 3,000円

KYORAKU presents
ハッスル26
9月22日(土)大阪・大阪府立体育会館
開場16:00／開演17:00
[入場料金(全席指定・消費税込)]
ハッスルVIP【特典:ハッスルグッズ付】12,000円／RRS(ロイヤルリングサイド)8,000円／スタンドS 6,000円／スタンドA 4,000円
※スタンドAのみ小学生以下は2,000円。ハッスルエンターテインメントにて受付

KYORAKU presents
ハッスル・マニア2007
11月25日(日)神奈川・横浜アリーナ
開場15:30／開演17:00(予定)
[入場料金(全席指定・消費税込)]
ハッスルVIP【特典:ハッスルグッズ付】20,000円／RRS(ロイヤルリングサイド)10,000円／花道シート10,000円(※1・限定発売)／S 5,000円(※2・子ども料金あり)／A 3,000円
(※1)花道シートは、ハッスルエンターテインメントとハッスルオフィシャルサイト、ハッスル携帯端末オフィシャルサイトでの限定販売
(※2)Sのみ小学生以下は2,500円。ハッスルエンターテインメントにて受付

[お問い合わせ]
ハッスルエンターテインメント
TEL.03-5464-1731
http://www.hustlehustle.com/

もう一段階上のプロレスを学ぶなら、ぜひ全日本を観に来てください！

つかり合って、お客に媚を売る。寝かす時間がないっていうかさ。客席が静かになるとレスラーが怖がっちゃうんだよね。そういうことさえ計算しながらプロレスできるヤツってのがいなくなってるもん。ま、インリン様にはそこまでは求めないけどね。

――インリン様がめちゃくちゃクラシカルな動きをしたら、怖いですもんね（笑）。

武藤　だけど俺たちがやってるこのプロレスというエンターテインメントビジネスっていうのは、おもしろけりゃいいんだよ！　このおもしろいは、コメディもあれば泣かせることだってあるし、喜怒哀楽すべてを見せるからおもしろいっていう意味だけどね。そうじゃなきゃいけないし、それが俺たちの使命だと思ってるからね。

――逆にインリンさんはプロレスで学んだものがほかの仕事で活かされることって多々あるんですか？

インリン　かなりありますよ。たとえばアクション系のお仕事をもらったときに、カラダもどんどん動けるようになってるし、あと女王様口調というのもかなり得意分野になってしまいましたね（笑）。

武藤　なるほど（笑）。

インリン　自分で言うのもなんですけど、私、凄いうまいんですよ（笑）。この前、ゲームのお仕事をさせていただいて、そのゲームはいろんなキャラになりきらなきゃいけなくて、美少女キャラ、女王様キャラ、花魁のキャラがあったんですよ。で、女王様キャラだけがズバ抜けてうますぎて、周りのみんなが鳥肌立っちゃって（笑）。

――鳥肌立った！（笑）。

インリン　自分でも「なんでこんなにうまいの⁉」って。インリン様のおかげですね。

武藤　まあ、とにかく、これからもいまのまま頑張っていただきたいね。

――インリンさんは今日武藤さんとお会いしてみてどうでした？

インリン　やっぱり武藤さんは凄くプロレスを愛してらっしゃる方ですよね。

武藤　俺はプロレスLOVEだから！（と、LOVEポーズをキメる）。

インリン　ウフフ。そういう気持ちがご自身を前へ前へと向かわせるんでしょうね。そういう部分は凄い勉強になりました。

武藤　いや、もう、ほかのレスラーよりでき上がってるんだから、適当でいいんだって！　だけど、あえてもう一段階上のプロレスを学ぶんだったら、ぜひ全日本プロレスの普段の興行を観に来てほしいね。『ハッスル』とはまた違った空間ですから。

インリン　はい！　ぜひ観に行きたいと思います。ちなみにムタさんは次はいつ出られるんですか？

武藤　8月26日の両国！　あのね、俺、明日（8月3日）から20年ぶりぐらいにプエルトリコに行くんですよ。プエルトリコっていうのは近くに〝バミューダトライアングル〟っていう海域があってさ、そこは過去に船や飛行機が消えちゃったっていう魔の三角地帯なの。そことインランプが魔界でつながってんだ、これまた！

インリン　へえ～、おもしろそう（笑）。

武藤　あそこで沈没した海賊たちの亡霊がムタを呼んでくれてんの。そこでパイレーツのスピリッツを吸収したムタが両国で登場するからぜひライブで観てほしいよ。まっ、とにかくインリンさん、ムタとの大事な子どもを無事出産してください！

インリン　あっ、はい……いや、伝えておきます（ニッコリ）。

武藤　それで今度ね、機会があったら夫婦コンビというか、どんな子どもが産まれるのか知んないけど、健介ファミリーみたいな感じでやりてえよな！

――勝手にそんなイメージを膨らませてましたか！（笑）。

武藤　おう！（と、またもLOVEポーズ）。

インリン　おっかしい！（笑）。

【07年8月2日／都内・全日本プロレス社長室にて収録】

むとう・けいじ■1962年12月23日、山梨県富士吉田市出身。84年に新日本プロレスへ入門、同年10月の蝶野正洋戦でデビュー。海外遠征から帰国後は、橋本真也、蝶野らとともに闘魂三銃士として新日本で一大ムーブメントを起こす。02年2月に全日本プロレスに移籍し、社長に就任。現在はレスラー＆社長業のほかにグレート・ムタの代理人も務める。キャッチフレーズは“プロレスLOVE”。188cm、110kg。

教えて蝶野さん!!
プロレスとファッションは融合できるんですか!?

GK隊長

かなざわ・かつひこ■元『週刊ゴング』編集長。テレビ朝日『ワールドプロレスリング』の解説も務める。プロレスマスコミの重鎮として幅広い取材活動を行なうが、このたび探検隊を結成。体当たりで取材に挑む!

小松隊員

こまつ・しんたろう■元『SRS・DX』編集部。以前からGKと親交があり、『週刊ゴング』で座談会も担当していた。元相撲部でもあり非常にグッドルッキンなボディを持つ。"受け"の美学は今回も全開だ!! 通称「モグラ」。

GK探検ファイル
No.005

GKスペシャル プロレス探検隊

これは事件だ！

プロレス界で最もオシャレでクレバーな男

“黒のカリスマ”蝶野正洋がGK隊長をコーディネート!?と小松隊員

“夏男”蝶野正洋がひさびさに本誌に登場だ、オラ、エーッ！　なんとNo.6（1997年）以来となる10年ぶりの登場ですよ。それだけでも大事件？　いやいや、なんと今回は東京で最もオシャレな街・下北沢にある蝶野正洋のブランド、アリストトリストのショップにGK隊長と小松隊員が潜入するというから穏やかではない。クールでクレバーな蝶野も、さすがにGK隊長のツナギを見たらブチ切れるんじゃないかという不安もあったのだが……、プロレス界に残された“謎”を解き明かすという使命に燃えるプロレス探険隊が、「プロレスとファッションの融合」そして「イベントの証券化」に取り組む蝶野の野望に鋭くメスを入れる!!

本文構成／小松伸太郎　撮影／平工幸雄

使用前

GK隊長の場合

ナメてんのか、オラ！

下北沢のオシャレな街並みをこの格好で歩いてきたプロレス探険隊。その度胸は賞賛に値するが入店早々、蝶野の黒いお出迎え!? 不穏な空気が流れるが隊長はあくまでマイペース。

インリン様にムチで打たれ、GBHに襲われ、武富士ダンサーズのダンス特訓とハードな探検でボロボロになったツナギを見かねた蝶野がアリストトリストの衣装をコーディネート!!

アリストトリスト使用前のGK隊長。川口浩探険隊をリスペクトする者の証である真っ赤なツナギが、最近すっかり似合いすぎている。もはや、あまり違和感がないのが凄い。

プロレス探険隊に大ピンチ到来！

小松隊員はアリストトリストを着こなせるのか？

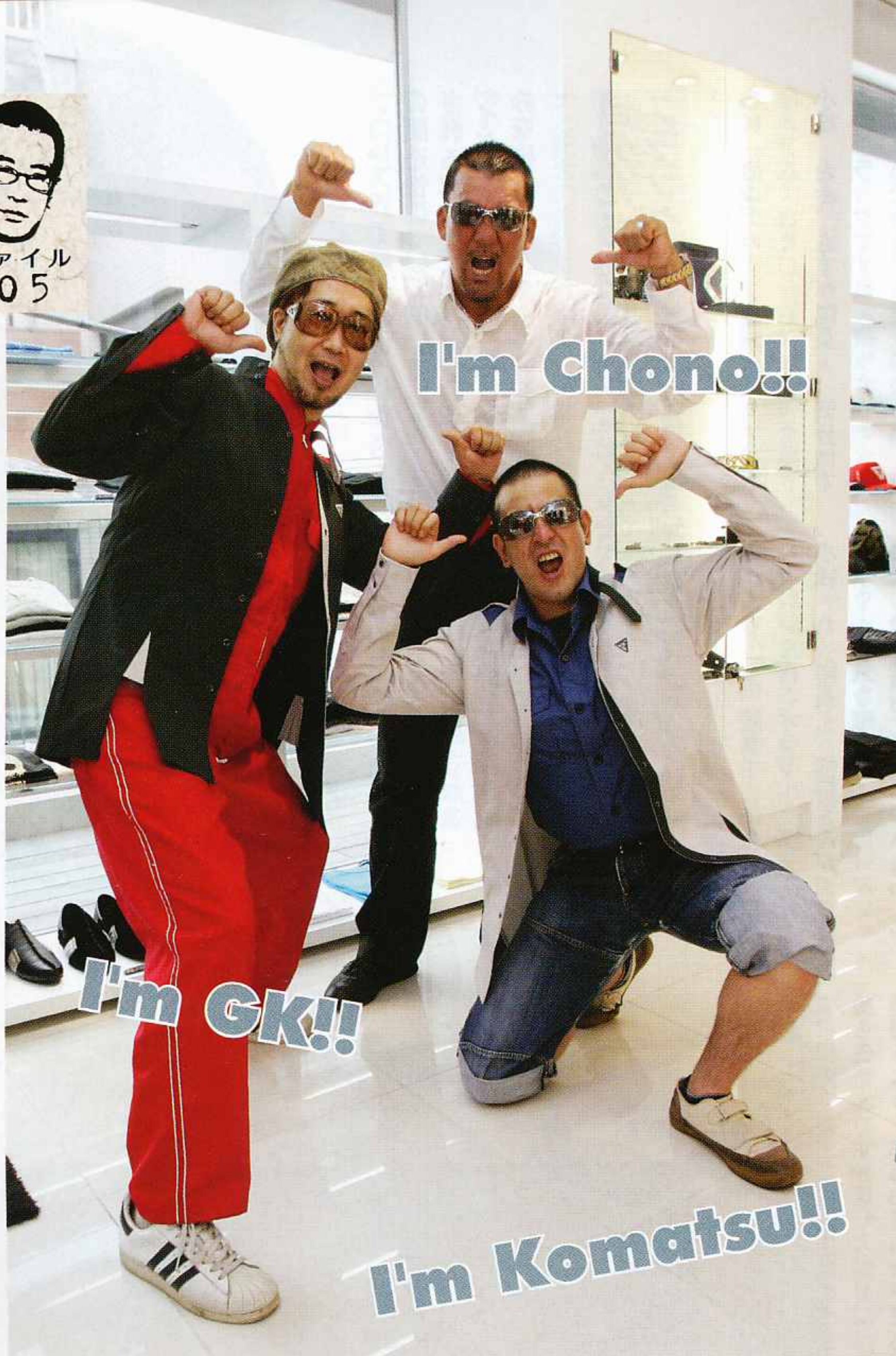
マジで嬉しそうな笑顔を浮かべてる小松隊員。対照的に蝶野はまるでリング上で対戦相手を見るときのような険しい表情。コーディネートが難しそうな理由は、なんとなくわかる。

小松隊員の場合

どんだけ～!? 嬉しさのあまり絶叫!!

およそ週末の下北沢では探すのが難しいタイプのビジュアルではあるものの、そんな小松隊員にもわずかな枚数だが最近は励ましの読者ハガキも届くようになっている。

GK探検ファイル
No.005

似合うじゃねえか、オラ! エーッ!

I'm Chono!!
I'm GK!!
I'm Komatsu!!

“黒のカリスマ”蝶野正洋と、蝶野コーディネートによるプロレス探険隊の奇跡的な3ショットが実現!! 写真をご覧いただければわかるようにファッションは着る人の潜在意識を引き出すのだ。それはプロレスと共通する部分でもある。やはりプロレスとファッションは融合する運命にあったのか!? 次ページからのインタビューで明らかになる!?

すっかり意気投合(?)した
プロレス探険隊が
次ページから蝶野正洋に
インタビュー敢行だ!

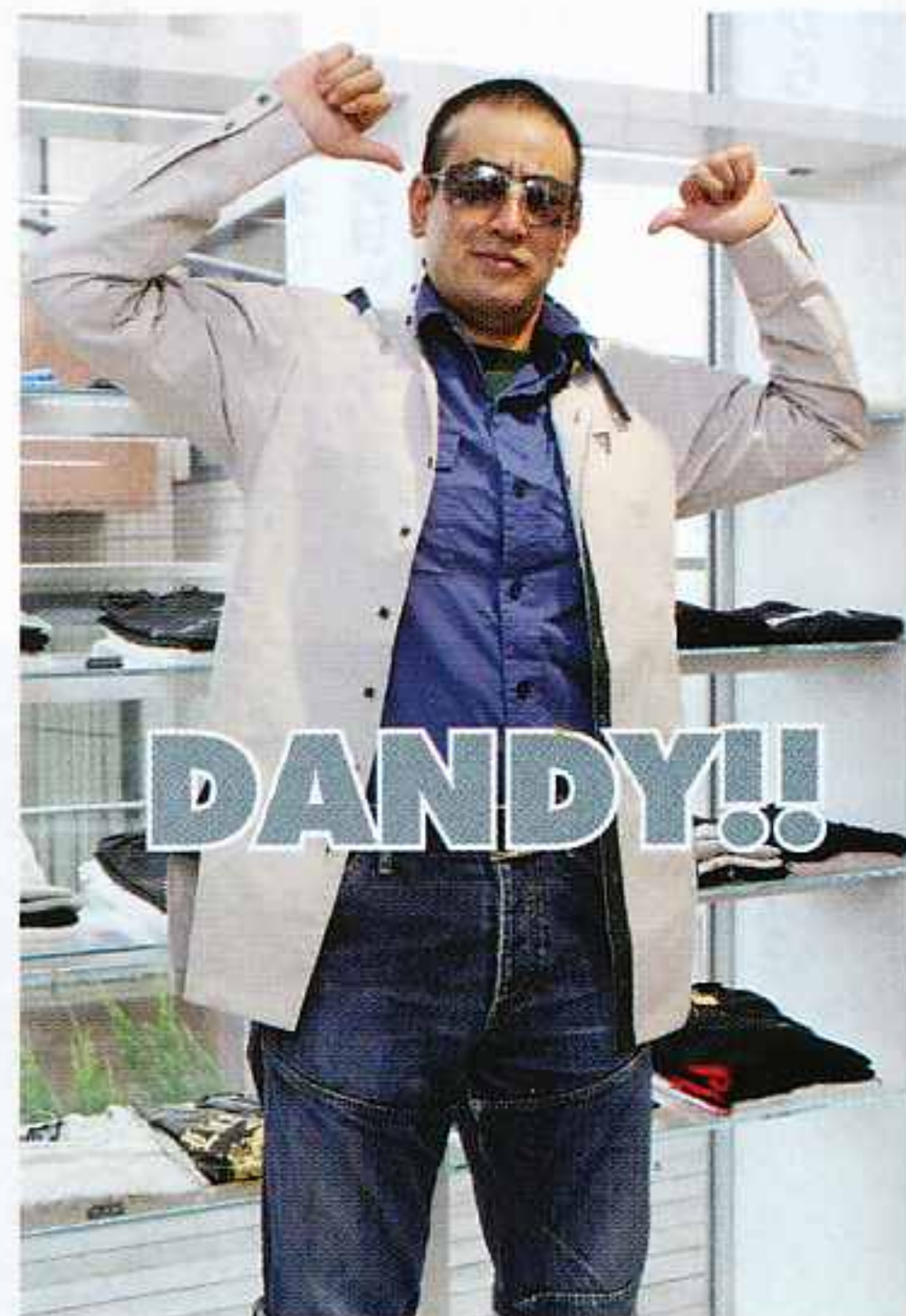
使用後

<<<

COOL!!

メガネをオシャレなサングラスに替え、ツナギの上からアウターを羽織るという力技のコーディネート。胸にはクールに輝くアリストトリストのロゴ。チョイ不良(ワル)GK、誕生の瞬間だ。

ガッデム!!

GK隊長と

DANDY!!

光り輝くサングラスと小松隊員の坊主頭がクールにマッチアップ。白いアウターとデニムの相性もバッチリだ。これなら週末の下北沢でも何の違和感もない。

プロレス界で最もオシャレな男・蝶野にファッションとプロレスの関連性について聞いてみた。さらに、9月1日&2日に開催されるアリストトリスト主催興行『蝶野王国』で実施される「イベントの証券化」についても直撃!! なぜ蝶野は新たな試みを続けるのか？ それが今回の探検で解き明かす〝謎〟だ!!

"黒のカリスマ"直撃インタビュー

蝶野正洋

自分たちの世代だと下北沢といえば ブラックエンペラーの本拠地ってイメージ

GK ガッデム！（蝶野ポーズで）アイ・アム・GK！

小松 おお、さすが隊長！ 気分はすでにブラックですね！

GK 小松隊員、おまえの心も黒く塗りつぶしてやろうか？

小松 はい。ジュッテ〜〜〜ムです、隊長!!

GK さて、今回の探検のテーマは「プロレスとファッションの融合は可能なのか？」。この難問に挑めるのは、プロレスマスコミ界のファッションリーダーである、私をおいてほかにはいないんだ、エーッ！

蝶野 おい、人の店で大声出すな！

GK （蝶野に気づかずに）いいか、『kamipro』読者！ 俺だけ、見てりゃいいんだ、オラッ！

小松 た、隊長！ 蝶野さんがお見えです！ お気を確かに！

GK （振り向いて）おお、いらっしゃいましたね、黒のカリスマ！ さっそくですが、どうですか、僕らの今日のファッションは？

蝶野 ……まあ、似合っているんじゃないの？（笑）。二人ともキャラ持っているから。キャラ持ってない人は着てるものによってカラーが変わるからね。

GK （目をつぶりながら）フフフ、さすが日本プロレス界一のオシャレ男、見る目が違う。さあ、小松隊員、蝶野さんに聞きたいことをなんでも聞きたまえ！

小松 ラジャーです！ ということで、蝶野さん、このお店はいつから始められたんですか？

蝶野 もう7年目になるね。まあ、下北沢に移ってからは、ちょうど1年だけど。

小松 クレバーな蝶野さんのことですから、若者の流行の発信地・下北沢を選んだのにも何かプロレスと関係があるわけですね？

蝶野 いや、家から近いってだけ（笑）。俺らの世代では下北沢といえば、ブラックエンペラーの本拠地っていうイメージしかなかったからね（笑）。

GK さすがは三鷹の暴走族出身！ ところで、こういうファッション関係のお店を始めた理由はなんですか？（身を乗り出しながら）やはり、プロレスとファッションを融合させようと？

小松 （小声で）隊長、あいかわらず単刀直入に切り込みますねぇ！ さすがです。

蝶野 （クールに受け流しながら）理由は二つ。まずは、家内（マルティーナ夫人）が俺のコスチュームを自分で作っているうちに、ファッションに興味が出てきた、と。もう一つは、IWGPのベルトを巻いたときに首をケガして、復帰できないだろうという時期があったんだけど、そのときに「このままリングに上がれなくなったらどうすればいいのか？」ってことを考えてだね。

GK 首のケガで長期欠場していたのは98年頃ですよね。あのときは第二の人生を考えなきゃぐらいの状態だったんですか？

蝶野 もう3ヵ月間、日本やドイツの医者を回ったんだけど、らちが明かない。とにかく、みんな口を揃えて「手術して引退しろ」と。だから、もし俺に何かあったときは違う方法で、家族を食わしていかなきゃいけないじゃない。ちょうどマルティーナがファッションとかのデザインに興味があったんで、だったらやってみようかと。

GK そういう意味では奥さんのファッションの才能が、蝶野さんのプロレス人生に役立っているわけだ。フム、これもある種のファッションとプロレスの融合だな。

小松 隊長、あいかわらず強引ですねえ。

GK さすがに、「何年かしたらアメリカで生活するから」って嘘をついて、奥さんを日本に引き留めただけはありますね（ニヤリ）。

蝶野 （サングラスの奥からGKを冷たく睨みつつ）いや、あのときは2年半も海外に出てたんだけど、そのあいだに3〜4回日本に呼ばれてたんだ。普通は帰国命令が出されたら、「これで日本に定着か」って思うじゃない？ そしたら、1試合だけでまた海外修行に逆戻りっていうのが3回も続いたから、日本に定着させてもらえないのかと思ったんだよね。だから、当時の俺は本気でアメリカで食っていこうと考えてたんだよ。嘘をついていたわけじゃねえよ。

GK 騙したわけではない、と。

小松 クレバーでインサイドワークに長けてる蝶野さんなら嘘も得意だと思ったんですが……。

GK 黙るんだ、小松隊員。確かにリング上ではそうだが、家庭ではそうとも限らないのがプロレスラーだ。ここは蝶野さんと奥さんの関係を調べる必要がありそうだな。（蝶野のほうを向き）まあ、その首のケガからの復帰戦

オシャレな蝶野の試合コスチュームはすべてアリストトリストだ！ 黒のカリスマはどの角度から見てもカッコいいのだ。

が札幌2連戦だったわけですけど、その復帰戦で初めて、マルティーナさんデザインのオーバーオールふうのコスチュームを着ましたよね。しかし、なぜか初日は前後逆に着ていた（ニヤリ）。

小松 それも蝶野流のブラックな着こなし術ですよ！

蝶野 ガッデム！ んなわけねえだろう！ あのときは復帰するなんて全然早すぎて、受け身を取って痺れがあったら、そこで引退しようとまで思ってたんだよ。だから、俺にはコスチュームのことまで考える余裕がなかった……。

GK あのときは会場に来ていた奥さんに「逆よ！」って言われたんでしたっけ。

蝶野 ただ、自分の中で試合が終わったあとに一番ホッとしたのは、あの札幌2連戦だな。あのあとはマルティーナと記念の旅行に行って、時計を買ったりしたからね。まあ、それぐらい自分の中では追い込まれたときだったよ。

小松 いい話ですね、隊長！

GK （小声で）蝶野さんも苦労してるんだよ……（しみじみ）。さて、9月1日に&2日は幕張で話題のプロレスイベント『蝶野王国』の開催を控えていますけど、これもやはりファッションに関係しているわけですか？

小松 隊長、いくらなんでもファッションと無理やり結びつけすぎですよ。

GK 黙るんだ、小松隊員！

蝶野 まあ、説明すると、まず、新日本が興行面で苦戦している。これは選手の立場でやることじゃないんだけど、さすがに俺も見るに見かねた状態になったんで、ここは自分が一発見本を見せようということ。

GK これは頼もしい！ で、どういう趣旨なんでしょうか？ やっぱりファッションも関係していたり？

アリストトリスト主催興行では興行の前フリ的なことをやっていこうと思ってる

蝶野 もともとの趣旨は、プロレスの宣伝。テレビ、紙媒体、ネットって宣伝媒体がある中で、何が一番伝わるのかって考えたんだよね。で、前回（3月10日に開催した蝶野プロモートの大会）は俺も営業をやったんだけど、ダイレクトに人と会うと、プロレスファンじゃなかったような人も、「プロレスに興味がある」っていう声をくれるんだよ。「プロレスはおもしろいよ」って伝えるには、生の説得力が一番。だから、今回、俺は興行というよりは、興行の前フリ的なことをやっていこうと思っているんだよね。

小松 興行自体を次の興行の前フリとして考える！ 隊長、やはり蝶野さんはオシャレ度だけでなく、クレバーさでも群を抜いてますね！

GK 黙れ！ この金沢はクレバーさでもひけをとらん！ で、今回の一番話題になっている証券会社とのコラボレーションですけど、これはどういう発想なんですか？

蝶野 いや、ファンドっていうのは、業界でも昔からみんなやっているんだよ。

小松 ええ!? 聞いたことがありませんよぉ！

GK 小松隊員、黙って蝶野さんの説明を聞くんだ！ さあ、蝶野さん、お願いします。

蝶野 証券会社をあいだに入れると、公的なかたちで契約書の中に弁護士も入れなきゃいけないし、収支では公認会計士を入れないといけない。金の流れがガラス張りになるんだ。

小松 いままでは違うんですか？

蝶野 いままでは出資者やスポンサーに対して、ガラス張りになってなかった。どうしても、ガラス張りじゃないほうが、興行が儲かったときに団体や出資者にとっておいしいからね。でも、儲かるからって、ガラス張りにしていないと、出資者の範囲が狭くなってきてしまう。

GK 限られた人だけが儲けられる世界になっちゃいますよね。

蝶野 それじゃあ、長続きしないんだよ。俺としては、ちゃんとした間口を作って、出資者を広く募りたい。実際に大手の出資者も出てきているから。そうすることによって、興行もいいかたちで継続できるし、選手たちにもプロとして最低限の保証をしてやれるからね。

GK 長年続いてきた慣習を壊してしまおうと！

蝶野 まあ、この興行で一番大切なのはプロレスを観たことのなかった人たちに観てもらって、「おもしろい」って喜んでもらうことなんだけど、資金的な図式をオープンにすることによって、それがもっと活性化すればと思ってね。

GK なるほどね。う〜む、証券会社との合体に、そのような意図が隠されていたんだな。で、やはり、ここにも蝶野さんのファッション性を盛り込んで……。

蝶野 （さえぎって）おい、さっきからファッション、ファッションってうるせえぞ！ だいたいファッションを語るツラじゃねえだろう！ 早く出て行かねえとボコボコにするぞ！ ガ〜ッデムッ！

小松 ジュッテ〜〜〜ム！ た、隊長！ 蝶野さんが怒ってます！ 早く退散しましょう！

GK （店内で服を探しながら）待て、その前にもう一着、試着を……。

蝶野 出ていけ、オラッ！

【07年7月28日／東京・下北沢 アリストトリストにて収録】

GK探検ファイル No.005

ちょうの・まさひろ■1963年9月17日、米国ワシントン州シアトル出身。84年10月5日、武藤敬司戦でデビュー。91年のG1クライマックス優勝を皮切りにずっと新日本プロレスのトップを走り続けてきた"黒のカリスマ"。最近ではプロモーターとしても手腕を発揮している。186cm、108kg。

金沢"GK"克彦隊長の探検レポート

20年以上の付き合いなのに、知らないことっていっぱいあるものなんだなあ、というのが今回、一番実感したことだ。まさかアリストトリストが引退（廃業）を意識したところからスタートした事業だったなんて。それに「そのうちアメリカに戻ってレスラー活動をするから」という新婚当初の蝶野の言葉にしても、決してマルティーナ夫人への慰めのセリフではなく、本気でそう考えていたなんて……、蝶野さん、アナタも苦労人なんだねえ（尊敬！）。

小松伸太郎隊員の探検レポート

「プロレスとファッションの融合は可能か？」。この答えを、我々はあと一歩のところで取り逃がしてしまった感がある。しかし、落胆する必要はない。蝶野正洋は言っていた、「二人ともキャラ持っているから。キャラ持ってない人は着てるものによってカラーが変わるからね」、と。この言葉は、我々の色がアリストトリストの色に勝ったことを意味しているのではないか？ そう、我々は勝ったのだ！ 隊長、勝利宣言してもいいですね？

LOCK UP、無我ワールド・プロレスリング、新日本プロレスが一堂に会する"プロレス博覧会"をアリストトリストが主催！
『蝶野王国2007 in 幕張』

LOCK UP
9月1日(土)千葉・幕張メッセ国際展示場11ホール(12:00)
お問い合わせ／新日本プロレスリング株式会社　TEL.03-6407-3111

無我ワールド・プロレスリング
9月1日(土)千葉・幕張メッセ国際展示場11ホール(17:00)
お問い合わせ／無我ワールド・プロレスリング　TEL.03-3402-2474

新日本プロレス
9月2日(日)千葉・幕張メッセ国際展示場11ホール(15:00)
お問い合わせ／新日本プロレスリング株式会社　TEL.03-6407-3111

[チケット料金]
ロイヤルシート　¥15,000円／2daysチケット(9月1日と9月2日の通し券)¥8,000円／リングサイド　¥5,000円／指定席　¥4,000／自由席　¥2,000※小中学生は無料(当日に要学生証提示)

あの渦中の二人(!?)が読プレで"合体"!!

夏の終わりにリアル・"プロレスLOVE"!?

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①〜⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(賞品は7月22日以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦『kamipro Hand』に加入してますか?(その理由)⑧Tシャツにしてほしいプロレスラー&格闘家

【宛先】〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部「ある日練習を覗いたら」係まで
※締切は2007年9月20日(火)当日消印有効

kamipro 114 応募券
いつ何時もエアガイツ!

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

MUTO & YINLING

2名様

武藤敬司&インリン・オブ・ジョイトイサイン色紙

今号にて、グレート・ムタの"代理人"である武藤敬司、インリン様の"親友"インリン・オブ・ジョイトイの初対談が実現! これを祝して、渦中の二人(!?)の記念すべき"合体"サインをプロレスLOVEを込めて、2名様に!

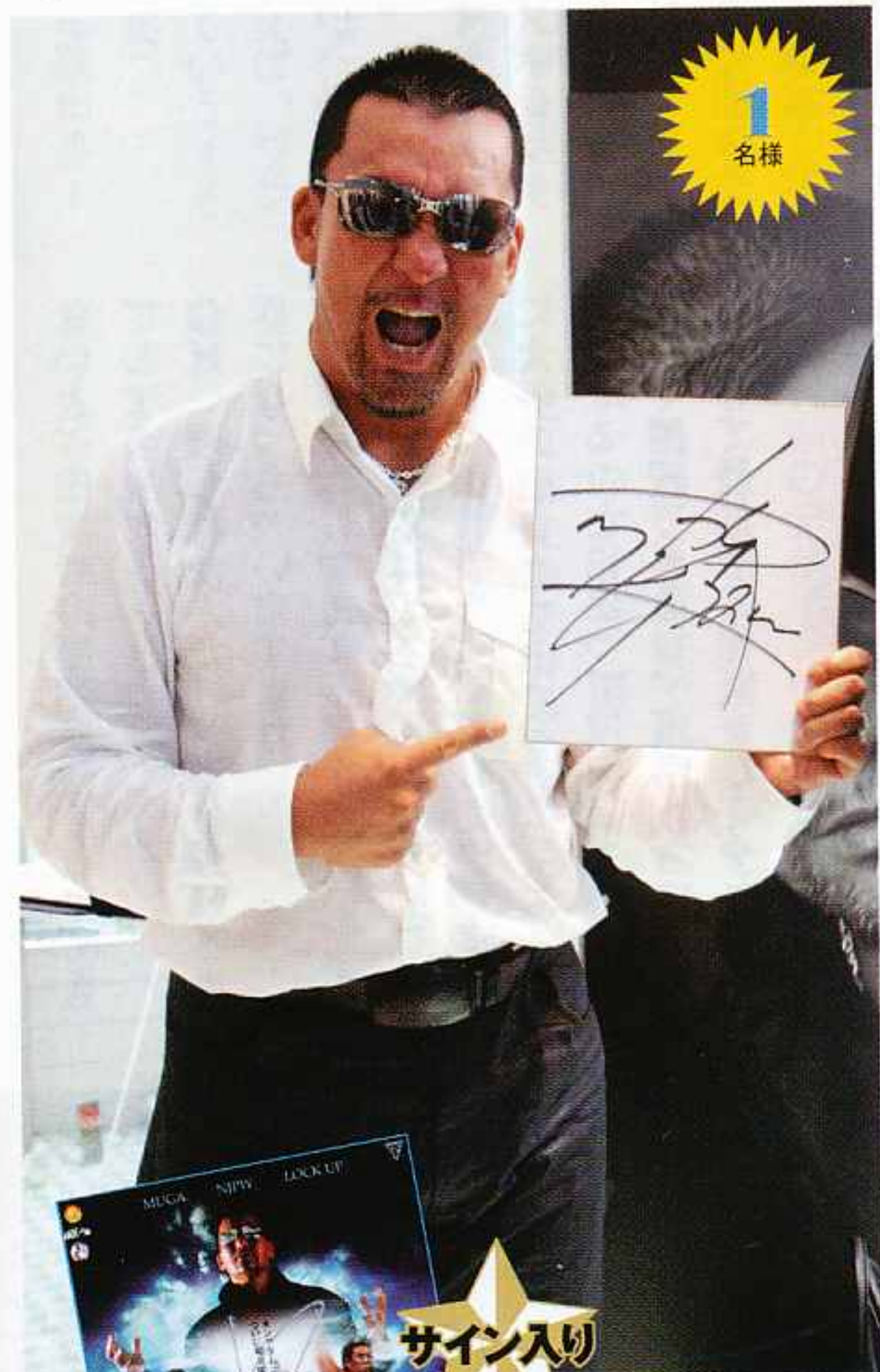
2名様

インリン様New Tシャツ

チャコールグレー/¥3,990(税込)

M字のMはマザーのM! ムタの毒霧によるご懐卵から約2ヵ月、8月18日の『ハッスル25』名古屋大会では、2回目の出産をはたしているハズのインリン様の最新シャツがコレだ!

HUSTLE■http://www.hustlehustle.com/

CHONO

1名様

蝶野正洋サイン色紙

アイム、チョーノ! 『GKスペシャル プロレス探検隊』のゲストとして、なんと本誌に約10年ぶりの登場となった"黒の総帥"蝶野正洋の直筆サインをプレゼントだ! エー、オラ!

AT WATCH ME キャップ

ブラック/¥ 2,625(税込)

AT WATCH ME Tシャツ

ブラック/¥ 3,990(税込)

蝶野のキメゼリフ「オレだけ見てりゃいいんだ、オラ!」(親指を自分に向けながら)が、英文デザインされたアリストトリストの新作Tシャツ&キャップ! このセットで身も心も黒く塗りつぶせ!

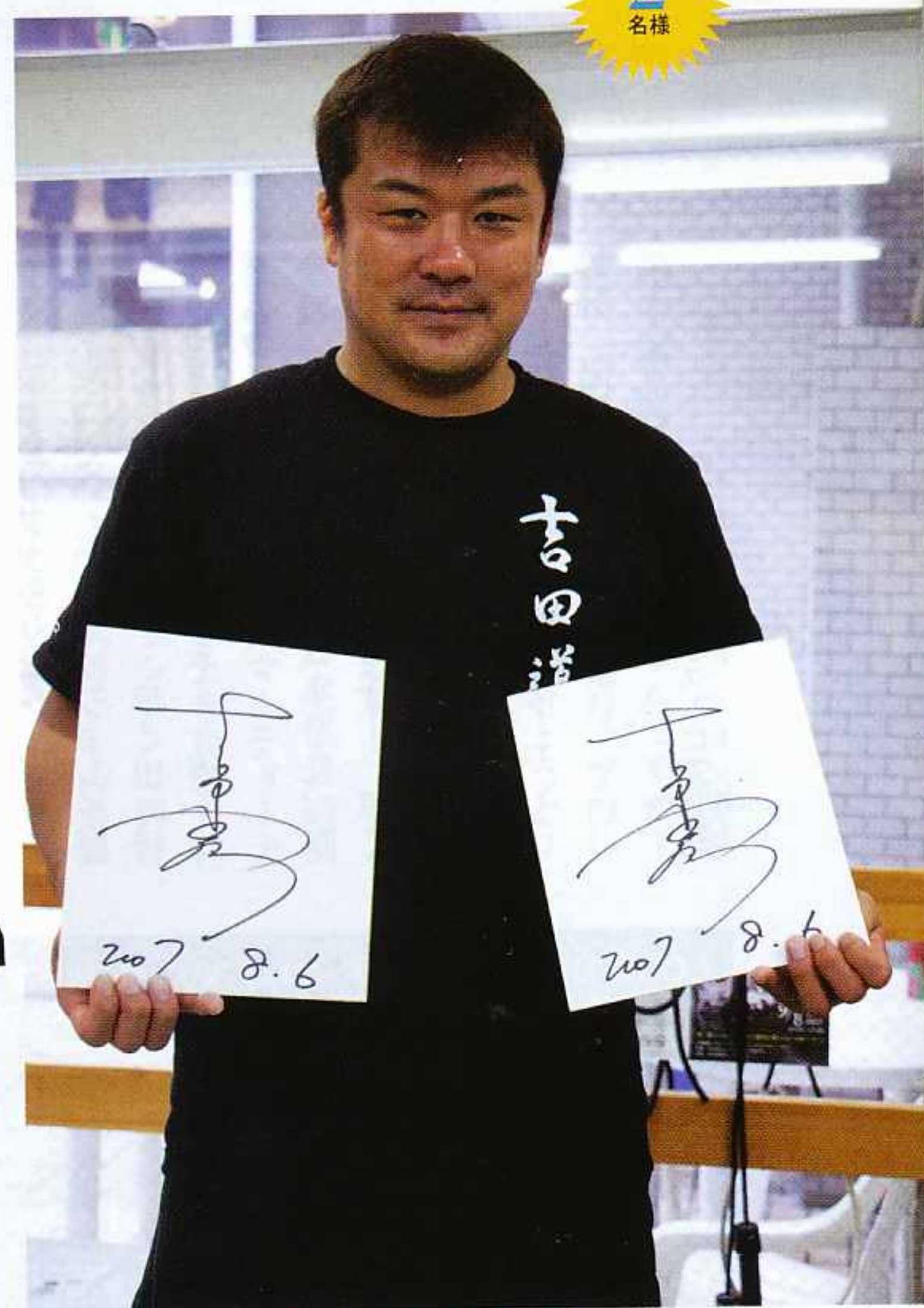
セットで1名様

3名様 サイン入り

『蝶野王国2007 in 幕張』大会ポスター

プロレスの証券化だ、オラ! 幕張メッセにて、9月1日には『LOCK UP』と『無我』、2日には新日本プロレスを蝶野自身がプロモートする『蝶野王国2007 in 幕張』のポスターをサイン入りで3名様に!

ARISTRIST■http://www.aristrist.com/

YOSHIDA

2名様

吉田秀彦サイン入り色紙

VIVA JUDO! "日本一、野外のカレーライスが似合う男"と言われる吉田秀彦もじつにひさびさの本誌登場! そこで吉田直筆のサイン色紙を2名様に。はたして君は、このサインをゲッツ! できるかな?

吉田道場■http://www.hidehiko.jp/

AKA & NEW JAPAN

各1名様

新日本プロレス&AKA ダブルネームTシャツ

続々とUFCファイターを排出するアメリカン・キックボクシング・アカデミー(AKA)と新日本の総合格闘技部門『NEW JAPAN FACTORY』の提携記念! 貴重なダブルネームTシャツを放出!

新日本プロレス■http://www.njpw.co.jp/

ジョン・フィッチTシャツ

強豪ひしめく、UFCウェルター級の中で問答無用の6連勝中! 7月には永田克彦のスパーリングパートナーとしても緊急来日していた、AKAの"無冠の帝王"ジョン・フィッチのTシャツがコレだ!

AKA■http://www.akakickbox.com/

TAMURA

1名様

田村潔司リアルフィギュア (U-FILE ミニチュアTシャツ付き)

¥8,000(税込)

7月28日に結婚式を挙げたばかり、まさしく新婚ホヤホヤ状態の田村潔司。その結婚式の引き出物でもあったのが、この田村のリアルフィギュア! U-FILEのミニTシャツ付きで1名様に!

U-FILE CAMP■http://www.u-filecamp.com/

THE PEHLWANS

1名様

ペールワンズのお中元Tシャツ(2007年夏)

本誌座談会などにも頻繁に登場していただいている井上崇宏氏や『GKスペシャル プロレス探検隊』の小松隊員らを擁するペールワンズから、『kamipro』読者へのお中元として2007年夏の限定新作シャツが到着!

ART JUNKIE

1名様

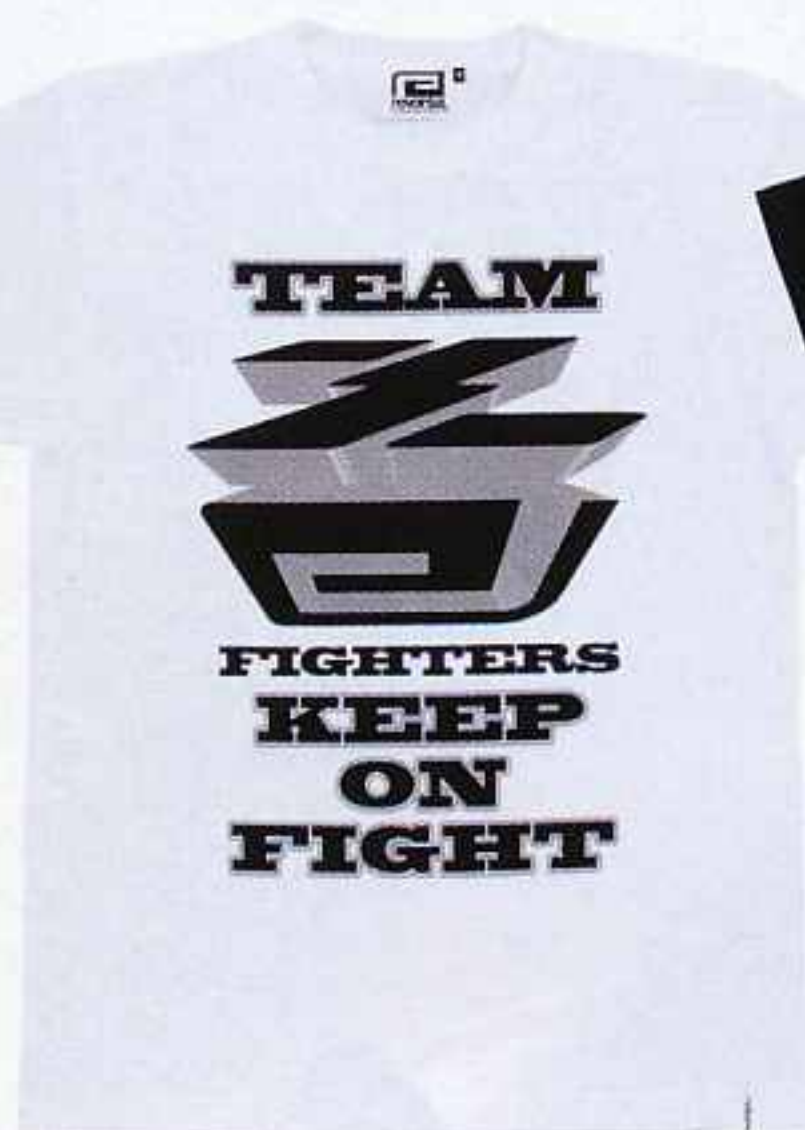
火祭り王子見参! Tシャツ

ライトベージュ/¥3,990(税込)

今年も田中将斗の2連覇で幕を下ろしたZERO1・MAX版"真夏の祭典"『火祭り』の大会公認Tシャツを、あのアートジャンキーが制作! 炎上する火祭り刀を持ったオリジナルキャラ"火祭り王子"がここに見参!

ART JUNKIE■http://www.artjunkie.jp/

REVERSAL

各1名様

TEAM ZST Tシャツ

ホワイト/¥4,200(税込)

"世界の所さん"こと所英男や、"リアルタイガーマスク"こと勝村周一郎らのZST関係者らも絶賛愛用中! reversalとZSTのコラボレーションTシャツ。残暑にさわやかなホワイト地を着れば、君も今日からZSTの一員だ!

タイガーマスクTシャツ

ブラック/¥4,200(税込)

おまえも虎になれ! 6月に東京ISAMIで開催された初代タイガーマスクこと、佐山サトル総監のサイン会を記念してreversalが特別に制作した、レトロテイストあふれる希少なコラボTシャツをプレゼント!

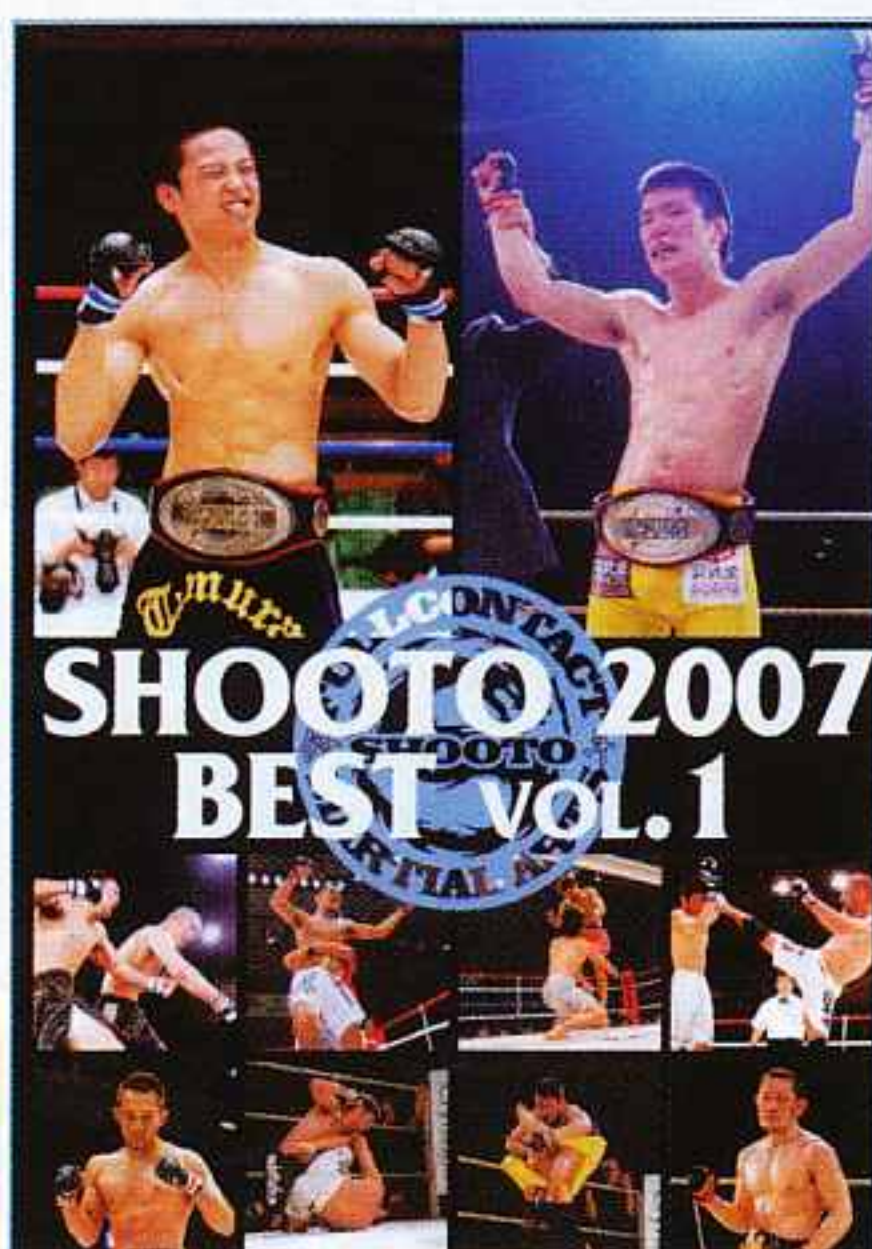
REVERSAL■http://www.rvddw.com/

DVD

各1名様

『水口修孝 至高の柔道』 75分/¥5,880(税込)

『鈴木秀明 キックボクシング・アドバンス vs パンチャー篇』 94分/¥5,880(税込)

『武神館秘巻伝照シリーズ 初見良昭 口伝 その六』 97分/¥5,040(税込)

『修斗 2007 BEST vol.1』

235分/¥5,880(税込)

今年2月、パシフィコ横浜で行なわれた世界ミドル級チャンピオン戦、青木真也 vs 菊地昭戦をはじめ、群雄割拠状態の修斗マットの07年度前半戦をまとめ一気に振り返るベストDVDがいよいよ発売!

QUEST■http://www.queststation.com/

BOOK

1名様

『グレイシーを創った男 vol.1 アメリカ死闘編 ―実録・前田光世決闘伝』

みのもけんじ(絵)、はらやすし(著)(集英社)/600円(税込)

『プロレス・スターウォーズ』のみのもけんじ先生による"グレイシーを創った男"前田光世の実録伝! 原作にはらやすし氏を迎え、知られざる闘いを完全マンガ化だよ〜!

集英社■http://www.shueisha.co.jp/

CD

1名様

『道』

TRIPLE-P vs アントニオ猪木
(Climax Entertainment inc)/¥1,050(税込)

「イノキ、イノキ、歩く神様♪」とIGF旗揚げ戦を震撼させたあの曲がCDに! 有名な『道』の歌詞をアントンとTRIPLE-Pがノリノリでカバー! 君もこのCDを聴いて、笑いながら歩こうぜ!

TRIPLE-P■http://www.triple-p.jp/

kamipro 紙のプロレス
No.114
2007年9月4日 発行

発行人
浜村弘一

編集人
斉藤慎一

編集統括本部長
ジャン斉藤

編集スタッフ
堀江ガンツ
松下ミワ
真下義之
八木賢太郎（恒例夏合宿のため非番）

電気部
松澤チョロ

監督&脚本&主演
上杉再現V

企画制作部
坂井ノブ

終身名誉バイザー
吉田 豪

助っ人
ジャイ子
能登くん

編集次長（叱り屋稼業）
松林 貴

デザイン大将
出田さん（TwoThree）

デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）

デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木しらき（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）

カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
黒田史夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
梅木麗子
大甲邦喜

お勘定&衣料部
ニュー林様

ロックンロール!!
入江無道（TwoThree）

雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠

助っ人営業
上野宏樹

業務部
割石“夏を独占”芳司

編集庶務
原 正典
山内ユリコ

終身名誉編集庶務
高木由美子

編集チアガール
金川奈津子

広告営業
株式会社ビューポイント
（広告掲載のお問い合わせは☎03-5776-0717まで）

発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）

印刷
図書印刷株式会社

協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

[カスタマーサポート]
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く12:00～17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL:http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

ヒマでモテない kamipro読者の諸君 『ハッスル』のテレビ放送がついに正式決定だ! おおいに楽しんでくれたまえ!

なんと!
『ハッスル・エイド2007』特番放送決定!
9月8日（土）16:00～17:15

さらに!
『ハッスル』レギュラー番組放送決定!
毎週土曜日深夜30分（番組タイトル未定）
第一回放送 10月6日（土）26:50～27:20

『PRIDE』？ 私に聞くな!!

どちらもテレビ東京（関東圏ローカル）にて放送!

NEXT ISSUE

テレビじゃ観られないUFCもガッチリお届けします!
9.8『UFC75』クイントン・“ランペイジ”・ジャクソンvsダン・ヘンダーソン、ほか
もちろん9.8 IGFも今回は、かなりの高確率でしっかりレポート予定!!

次号No.115は
9月20日（木）発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます

ka
No.11
2007年9
発行人
浜村弘
編集人
斉藤

kamipro 2007 114

日本の格闘暗黒時代を切り裂く

稲妻よ、走れ!!

2007年9月7日

発行人／浜村弘一　編集人／斉藤慎一　発行・発売所／株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 ☎0570-060-555（代表）
印刷・製本／図書印刷株式会社

9784757737488

定価:本体838円+税

雑誌61955-32 Ⓗ2007.12

Printed in Japan 図書印刷

ISBN978-4-7577-3748-8
C9476 ¥838E

1929476008381

enterbrain